

一般国道9号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道9号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第6遺跡

1 9 9 9

財団法人 鳥取県教育文化財団

建設省 倉吉工事事務所

一般国道9号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道9号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第6遺跡

正誤表

頁 行	誤	正
図版目次，図版75	園第6遺跡重機表土ぎ作業	園第6遺跡重機表土剥ぎ作業
P. 15，1行目	竪穴住居跡17基	竪穴住居跡18基
P. 49，6行目	SX101	SX100
P. 81，10行目	破片接合	破片が接合
P. 92，10～11行目	Po851	Po850
P. 134，6行目	0.3cm	0.3m
P. 161，12行目	布堀	布掘り
P. 159， 挿表18土井編年覧	上神猫山方形周溝墓	上神方形周溝墓

一般国道9号（北条道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡羽合町

長瀬高浜遺跡Ⅷ

一般国道9号（青谷羽合道路）関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡泊村

園第6遺跡

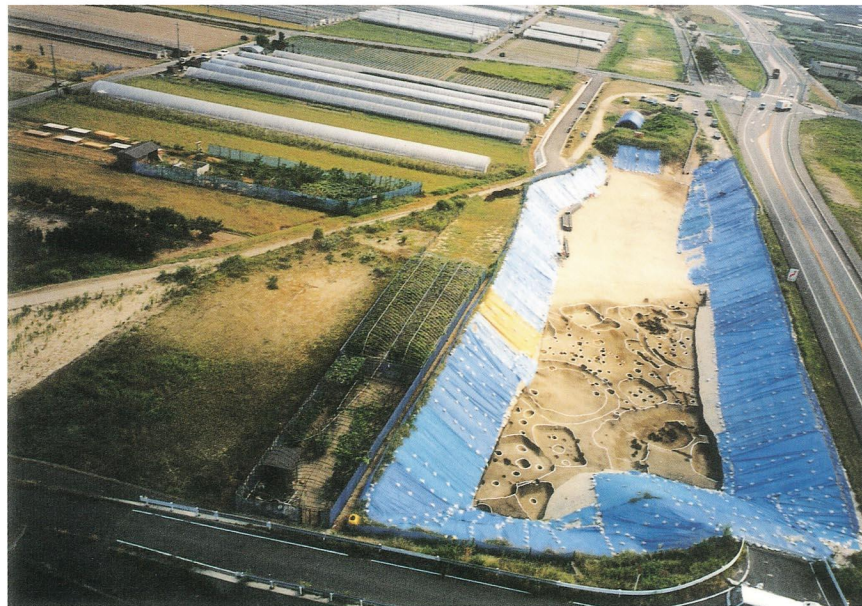
1999

財団法人 鳥取県教育文化財団

建設省 倉吉工事事務所



長瀬高浜遺跡中世畠跡検出状況（西から）



長瀬高浜遺跡古墳時代前期集落完掘状況（西上空から）



長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物集合写真

序

羽合町は、北に日本海を望み白砂青松の美しい海岸線をもち、東郷池、緑豊かな馬ノ山など自然環境に恵まれた町であります。そして、天神川下流域・東郷池周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての大規模集落である南谷遺跡群、国史跡の北山古墳、四隅突出型墳丘墓のある宮内遺跡など多くの埋蔵文化財が存在しています。なかでも、県内最大級の馬ノ山4号墳がある橋津古墳群は国史跡に指定されているほか、東郷池西岸に広がる羽合平野は条里遺構が明確に残り、古代条里復元の手がかりとして重要な地域となっています。

泊村は、山地が海岸付近まで延びており広い平野部はみられません。その丘陵上には古代交通関係の遺構が確認された石脇第3遺跡、朝鮮半島との交流が窺える石脇第1遺跡など多くの埋蔵文化財が存在します。なかでも池ノ谷第2遺跡では昭和初期に古式の銅鐸が出土しており、当時の歴史を考えるうえでも大変貴重な資料があります。

当財団では建設省の委託をうけ、一般国道9号北条道路建設に伴い、羽合町地内で長瀬高浜遺跡、青谷羽合道路建設に伴い、泊村地内で園第6遺跡の発掘調査を行いました。

長瀬高浜遺跡は、これまでに天神川流域下水処理場建設、北条バイパス建設、北条道路建設（久留改良工事）に伴い発掘調査が実施されました。その結果、古墳時代の大集落、おびただしい数の埴輪からなる埴輪群、大規模な古代の畠跡をはじめとして、弥生時代から中世にいたるまでの様々な遺構・遺物が確認されています。また、弥生前期の玉作工房跡から出土した玉作関係資料は一括して県の保護文化財に、埴輪群は国の重要文化財に指定されています。

今回の調査でも、中世の畠跡、古墳、古墳時代前期の集落が調査されました。また、古墳時代の河川跡が確認されるなど、当時の自然環境や砂丘の形成を考えるうえでも重要な資料が提示できました。

今回、これらの調査結果を報告書にまとめることができましたが、本報告書が教育および学术研究のため広く活用され、郷土の歴史を解き明かしていく一助になればと期待するとともに、文化財に対する理解や認識がより深まり、その成果が長く後世に伝えられれば幸いです。

最後に、建設省倉吉工事事務所ならびに調査に参加して下さった地元の方々をはじめ、ご協力いただいた方々に対し心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団
理事長 田 淵 康 允

序 文

建設省が直轄管理する一般国道9号は、京都市を起点として福知山・豊岡を經由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、中国山地を越えて、下関に至る延長約671kmの幹線道路であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根県境）まで76.6kmを管理しており、広域交流を進める道づくり、暮らしを豊かにする道づくり等各種の道路整備事業を実施しています。その一つに環日本海交流の基幹軸の一環を担う高規格幹線道路（自動車専用道路）の一部である青谷羽合道路および北条道路の整備を進めています。

青谷羽合道路は、東伯郡泊村及び羽合町地内における多種多様な交通による混雑、峠部の冬季交通障害の解消等、安全・円滑交通の確保のほか、機能分担として災害時の緊急輸送路の代替路線確保を目的として計画され、昭和61年度から事業に着手し、今年度は改良工事及び橋梁下部工事を促進しています。

また、北条道路は、東伯郡北条町及び大栄町地内において国道9号の交通混雑を緩和するバイパス道路として計画され、昭和48年度から事業に着手し現在までに一般部については全線暫定供用しています。今年度は高規格部について不足分の用地買収を促進しています。

これらルートには、多数の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い、記録保存を行うこととなりました。

このうち今年度は、「長瀬高浜遺跡」「園第6遺跡」の2箇所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査が行われました。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることを理解いただけることと期待するものであります。

おわりに、事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力いただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し心から感謝申し上げます。

平成11年3月

建設省 倉吉工事事務所長
鈴木秀章

例 言

1. 本書は、建設省国道9号北条道路並びに青谷羽合道路関係埋蔵文化財発掘調査事業に伴う、長瀬高浜遺跡、園第6遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書に記載した遺跡の所在地は、長瀬高浜遺跡は鳥取県東伯郡羽合町長瀬字高浜1544他18筆、園第6遺跡は鳥取県東伯郡泊村園字西茄子807他3筆である。
3. 本調査は、建設省中国地方建設局の委託により、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター中部埋蔵文化財羽合調査事務所が平成10年度に行った。
4. 本報告書で示す標高は、長瀬高浜遺跡では基準点基-1のH=13.731m、基-2のH=10.349m、基-3のH=9.731mを起点とする標高値を使用し、園第6遺跡では基準点基②-1のH=38.200mを起点とする標高値を使用した。方位は、いずれの遺跡も磁北を示す。X：、Y：の数値は国土座標第V系の座標値である。
5. 本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の1/50000地形図「青谷・倉吉」、羽合町1/2500地形図「都市計画図5地区」、中国地方建設局倉吉工事事務所1/1000地形図「泊地区平面図5」を使用した。
6. 長瀬高浜遺跡の人骨および獣骨の取り上げ・鑑定を鳥取大学医学部井上貴央教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。
7. 長瀬高浜遺跡の鳥跡の軟X線分析を立命館大学高橋学教授にお願いし、ご寄稿いただいた。
8. 長瀬高浜遺跡の炭化材の樹種同定を、鳥取大学農学部古川郁夫教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。
9. 長瀬高浜遺跡の土師器の胎土分析を奈良教育大学三辻利一教授にお願いしたところ、多忙にも関わらず御寄稿頂いた。
10. 長瀬高浜遺跡における珪藻分析について、富桑小学校米澤伯典教諭に御寄稿頂いた。
11. 長瀬高浜遺跡の地質構造について鳥取大学赤木三郎名誉教授、西田良平教授に御教示を得た。
12. 竪穴住居内出土炭化材および粘質土の¹⁴C年代測定、畠土壌中の自然科学分析、鉄滓成分分析を業者委託した。
13. 出土遺物、図面、写真等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
14. 現地調査および報告書の作成に当たって、下記の方々に御指導・御協力して頂いた。

赤澤秀則 安藤重敏 内田律雄 亀田修一 河瀬正利 坂本敬司 佐藤雄史 真田廣幸 瀬戸浩二
田中義昭 都出比呂志 中野知照 中山勝博 中村唯史 西尾克己 錦織 勤 根鈴智津子
根鈴輝雄 橋本久和 古瀬清秀 松本岩雄 松山智弘 村上恭通

(敬称略)

凡 例

1. 発掘調査時における遺構番号と報告書記載の遺構番号は、基本的に一致するが、以下のものは変更したものである。

調 査 時	報 告 書	調 査 時	報 告 書	調 査 時	報 告 書
2 OSK 8	SI262	2 OSK 5	SX100	2 OSK 7	2 OSK 5
2 PSK 1・2	SX101	整地遺構 A	整地遺構 1	整地遺構 B	整地遺構 2
土手状遺構	整地遺構 3				

なお、竪穴住居跡、掘立柱建物跡及び柵列のピット番号は、調査時のものから変更したものがある。

2. 本報告書における遺構記号は次のように表す。

SI：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SK：土坑・土壇 SD：溝状遺構 SA：柵列

SX：古墳、埋葬施設 P：柱穴・ピット

3. 本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

- (1) 遺構図—竪穴住居跡：1/80、掘立柱建物跡・柵列：1/80、土坑・土壇：1/40、溝状遺構：1/40・1/80
 整地遺構：1/150、柵列・ピット群：1/80、床面・ピット遺物出土状況：1/20・1/40
 土器溜：1/40・1/50・1/100、粘土硬化面：1/40、粘土層：1/80
 埋葬施設：1/40、古墳：1/150、主体部：1/40

- (2) 遺物実測図—土器：1/4・1/8、金属製品：1/2、石製品：1/4、玉製品：1/1

4. 遺構の測定値のうち、ピットの規模は（長軸×短軸—深さ）cmで表した。竪穴住居跡の規模は、壁溝を除いた床面の規模である。古墳墳丘の規模は、墳端（裾部）までの計測値である。

5. 遺構図における表示は以下のとおりである。

：焼土面、：粘土面、：貝層

●：土製品、△：鉄製品、■：銅製品、□：石製品、☆：玉製品、*：炭化材、★：骨・貝




6. 本報告書における遺物記号は次のように表す。

Po：土器・土製品 S：石器 F：鉄製品 J：玉製品 B：銅製品

7. 土器実測図のうち、弥生土器、土師器、陶磁器は断面白抜き、須恵器は断面黒塗りで表現した。

遺物実測図中における記号は以下のとおりにする。

→：ケズリの方向（砂粒の動きで判断した）、……：擦り範囲、——：敲打範囲、

：赤色塗彩、：敲打面、：擦り面・砥面

床面・ピット内出土遺物には、遺物番号の前に●印をつけた。また、墨書土器のうち、赤色塗彩が施されている遺物には、遺物番号の前に★印をつけた。

8. 遺跡名には略号を用いた、長瀬高浜遺跡はNT、園第6遺跡はSN6とした。

遺物には、遺跡名略号、地区名、遺構名もしくはグリッド名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に明記した。実測した遺物については、実測者番号をシールに記し、それを個体ごとに貼り付け、実測原図にもその番号を記した。

9. 遺物観察表については以下のとおりとする。

- (1) 法量は、土器については基本的に口径、器高、胴部最大径、底部径を記載した。石器、鉄器及び玉製品については基本的に最大長、最大幅、最大厚、重さを記載した。その他の計測値については、その都度計測位置を記載した。また、実測の際に復元した計測値には数値の前に※印、残存値は同様に△印を付した。

- (2) 手法の欄に記載されている成形、調整及び施文の方向は、実測図で表された方向である。

- (3) Pは、SITEⅢで取り上げた遺物番号である。

10. 文章中で触れる土器型式名及び年代（年代観）は、古墳時代前期から後期の土師器については新たな編年案、古墳時代中期から奈良及び平安時代の須恵器については陶邑・田辺編年、古代の土師器編年については伯耆国庁編年を参考にした。

目 次

序
序 文
例 言
凡 例
目 次

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	牧本	1
第2節 調査の経過と方法	牧本	1
第3節 調査体制	牧本	3
第4節 長瀬高浜遺跡の調査経過	牧本	4
第5節 青谷羽合道路関係調査経過	牧本	4

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境	井上	5
第2節 歴史的環境	岡野	6

第3章 長瀬高浜遺跡の基本層序

第4章 長瀬高浜遺跡古墳時代前期から中期の調査

第1節 古墳時代集落の概要	岡野	15
第2節 竪穴住居跡	井上 岩崎 岡野 牧本	16
第3節 掘立柱建物跡	岩崎	72
第4節 土坑	井上 牧本	75
第5節 柵列・ピット群	井上 岩崎 牧本	77
第6節 土器溜	岩崎 牧本	80
第7節 自然河川	井上	93
第8節 古墳時代包含層遺物	牧本	94

第5章 長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半の調査

第1節 古墳群の概要	岡野	95
第2節 古墳	岩崎 岡野	96
第3節 土壙墓	牧本	101
第4節 溝状遺構	牧本	104

第6章 長瀬高浜遺跡古代の調査

第1節 古代検出面の概要	井上	105
第2節 掘立柱建物跡・柵列	井上 岡野	106
第3節 整地遺構	岩崎 牧本	109
第4節 溝状遺構	岩崎 岡野	114
第5節 ピット群	井上	116
第6節 古代包含層遺物	牧本	119

第7章 長瀬高浜遺跡中世の調査

第1節 中世検出面の概要	岩崎	120
第2節 島跡	井上 岩崎 牧本	121
第3節 溝状遺構	岩崎 岡野 牧本	127

第4節	中世墓・土坑	岡野 牧本	132
第5節	ピット群	牧本	137
第6節	粘土硬化面	井上	137
第7節	粘土層	岡野	138
第8節	中世包含層出土遺物	岩崎	140
第8章 園第6遺跡の調査			
第1節	園第6遺跡の概要	岩崎	145
第2節	土坑	岩崎	146
第3節	溝状遺構	岩崎 牧本	147
第4節	柵列・ピット群	牧本	149
第5節	遺構外遺物	牧本	149
第9章 遺構、遺物の検討			
第1節	古墳時代の土器について	牧本	151
第2節	古墳時代集落について	岡野	161
第3節	長瀬高浜古墳群の検討	牧本	167
第4節	古代の遺構について	井上	170
第5節	畠跡の検討	岩崎	174
第6節	長瀬高浜遺跡出土の古墳時代前期の鉄器	岩崎	179
第7節	長瀬高浜遺跡の古環境の変化	牧本	182
遺物観察表			184~221
特論1	長瀬高浜遺跡の畝状遺構のソフトX線分析	立命館大学 高橋 学	222
特論2	長瀬高浜遺跡から検出された人骨と獣骨について	鳥取大学医学部解剖学第二講座 井上貴央	225
特論3	長瀬高浜遺跡内から出土した炭化材の鑑定	鳥取大学農学部環境樹林学研究室 古川郁夫	227
特論4	長瀬高浜遺跡出土土師器の蛍光X線分析	奈良教育大学 三辻利一	229
特論5	長瀬高浜遺跡における粘土層について	米澤伯典	236
特論6	長瀬高浜遺跡における放射性炭素年代測定	株式会社古環境研究所	245
特論7	鳥取県、長瀬高浜遺跡の自然科学分析	株式会社古環境研究所	247
特論8	長瀬高浜遺跡自然科学分析	ジオサイエンス株式会社	257
図 版1~72 長瀬高浜遺跡			
73~75 園第6遺跡			
特論図版1—1~1—5 長瀬高浜遺跡の畝状遺構のソフトX線分析			
特論図版3—1~3—3 長瀬高浜遺跡から出土した炭化材の鑑定			
特論図版7—1~7—4 鳥取県、長瀬高浜遺跡の自然科学分析			
特論図版8—1~8—8 長瀬高浜遺跡、自然科学分析			

挿 図 目 次

挿図1	長瀬高浜遺跡調査区位置図	2	挿図40	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(15)	45
挿図2	園第6遺跡調査区位置図	2	挿図41	長瀬高浜遺跡2 OSK 6 出土遺物実測図	46
挿図3	羽合町・泊村位置図	5	挿図42	長瀬高浜遺跡SI251出土遺物実測図	47
挿図4	周辺遺跡分布図	8	挿図43	長瀬高浜遺跡SI252出土遺物実測図(1)	47
挿図5	長瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(1)	10	挿図44	長瀬高浜遺跡SI252出土遺物実測図(2)	48
挿図6	長瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(2)	11	挿図45	長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(1)	49
挿図7	長瀬高浜遺跡シロスナ除去後地形測量図	13・14	挿図46	長瀬高浜遺跡SI250遺構図	50
挿図8	長瀬高浜遺跡調査後地形測量図	13・14	挿図47	長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(2)	50
挿図9	長瀬高浜遺跡古墳時代前期～中期遺構配置図	15	挿図48	長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(3)	51
挿図10	長瀬高浜遺跡SI245甑出土状況図	16	挿図49	長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(4)	52
挿図11	長瀬高浜遺跡SI245遺構図	16	挿図50	長瀬高浜遺跡SI250出土遺物実測図(5)	53
挿図12	長瀬高浜遺跡SI245出土遺物実測図(1)	17	挿図51	長瀬高浜遺跡SI253～256・261遺構図	54
挿図13	長瀬高浜遺跡SI245出土遺物実測図(2)	18	挿図52	長瀬高浜遺跡SI253～256・261土層断面図	55
挿図14	長瀬高浜遺跡SI246・247遺構図	19	挿図53	長瀬高浜遺跡SI253出土遺物実測図(1)	58
挿図15	長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(1)	20	挿図54	長瀬高浜遺跡SI253出土遺物実測図(2)	59
挿図16	長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(2)	21	挿図55	長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(1)	60
挿図17	長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(3)	22	挿図56	長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(2)	61
挿図18	長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(4)	23	挿図57	長瀬高浜遺跡SI254出土遺物実測図(3)	62
挿図19	長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(5)	24	挿図58	長瀬高浜遺跡SI255出土遺物実測図(1)	62
挿図20	長瀬高浜遺跡SI246床面遺物出土状況図	25	挿図59	長瀬高浜遺跡SI255出土遺物実測図(2)	63
挿図21	長瀬高浜遺跡SI247出土遺物実測図	26	挿図60	長瀬高浜遺跡SI256出土遺物実測図	64
挿図22	長瀬高浜遺跡SI248遺構図	27	挿図61	長瀬高浜遺跡SI261出土遺物実測図	64
挿図23	長瀬高浜遺跡SI248出土遺物実測図	27	挿図62	長瀬高浜遺跡SI257出土遺物実測図	65
挿図24	長瀬高浜遺跡SI249・251・252・20SK6遺構図	29	挿図63	長瀬高浜遺跡SI257遺構図	65
挿図25	長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況図	30	挿図64	長瀬高浜遺跡SI257甑出土状況図	66
挿図26	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(1)	31	挿図65	長瀬高浜遺跡SI258遺構図	66
挿図27	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(2)	32	挿図66	長瀬高浜遺跡SI258出土遺物実測図	67
挿図28	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(3)	33	挿図67	長瀬高浜遺跡SI259遺構図	68
挿図29	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(4)	34	挿図68	長瀬高浜遺跡SI259出土遺物実測図	68
挿図30	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(5)	35	挿図69	長瀬高浜遺跡SI260遺構図	69
挿図31	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(6)	36	挿図70	長瀬高浜遺跡SI260出土遺物実測図	70
挿図32	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(7)	37	挿図71	長瀬高浜遺跡SI262遺構図	71
挿図33	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(8)	38	挿図72	長瀬高浜遺跡SI262出土遺物実測図	71
挿図34	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(9)	39	挿図73	長瀬高浜遺跡SB61遺構図	72
挿図35	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(10)	40	挿図74	長瀬高浜遺跡SB62遺構図	73
挿図36	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(11)	41	挿図75	長瀬高浜遺跡SB63遺構図	73
挿図37	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(12)	42	挿図76	長瀬高浜遺跡SB63出土遺物実測図	74
挿図38	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(13)	43	挿図77	長瀬高浜遺跡SB64遺構図	74
挿図39	長瀬高浜遺跡SI249出土遺物実測図(14)	44	挿図78	長瀬高浜遺跡2 OSK 5 出土遺物実測図	75

挿図79	長瀬高浜遺跡 2 OSK 5 遺構図	75	挿図121	長瀬高浜遺跡SD22出土遺物実測図	104
挿図80	長瀬高浜遺跡 3 PSK 1 遺構図	76	挿図122	長瀬高浜遺跡古代遺構配置図	105
挿図81	長瀬高浜遺跡 3 PSK 2 遺構図	76	挿図123	長瀬高浜遺跡SB58出土遺物実測図	106
挿図82	長瀬高浜遺跡 4 PSK 1 遺構図	76	挿図124	長瀬高浜遺跡SB58遺構図	106
挿図83	長瀬高浜遺跡ピット群 3 P21内炭化物出土状況図	77	挿図125	長瀬高浜遺跡SB59、SA 6 遺構図	107
挿図84	長瀬高浜遺跡SA 8・9、ピット群 3 遺構図	78	挿図126	長瀬高浜遺跡SB60、SA 5・7 遺構図	108
挿図85	長瀬高浜遺跡SA10、ピット群 4 遺構図	79	挿図127	長瀬高浜遺跡SB60出土遺物実測図	110
挿図86	長瀬高浜遺跡ピット群 5 遺構図	80	挿図128	長瀬高浜遺跡整地遺構 1・2 遺構図	110
挿図87	長瀬高浜遺跡土器溜 1 遺物出土状況図(1)	81	挿図129	長瀬高浜遺跡整地遺構 1・2 粘土除去後遺構図	110
挿図88	長瀬高浜遺跡土器溜 1 遺物出土状況図(2)	81	挿図130	長瀬高浜遺跡整地遺構 1 出土遺物実測図	111
挿図89	長瀬高浜遺跡土器溜 1 出土遺物実測図(1)	82	挿図131	長瀬高浜遺跡整地遺構 2 出土遺物実測図	112
挿図90	長瀬高浜遺跡土器溜 1 出土遺物実測図(2)	83	挿図132	長瀬高浜遺跡整地遺構 3 遺構図	113
挿図91	長瀬高浜遺跡土器溜 1 出土遺物実測図(3)	84	挿図133	長瀬高浜遺跡整地遺構 3 出土遺物実測図	114
挿図92	長瀬高浜遺跡土器溜 1 出土遺物実測図(4)	85	挿図134	長瀬高浜遺跡SD18出土遺物実測図	114
挿図93	長瀬高浜遺跡土器溜 2 遺物出土状況図(1)	86	挿図135	長瀬高浜遺跡SD18~20遺構図	114
挿図94	長瀬高浜遺跡土器溜 2 遺物出土状況図(2)	86	挿図136	長瀬高浜遺跡SD24遺構図	115
挿図95	長瀬高浜遺跡土器溜 2 出土遺物実測図(1)	87	挿図137	長瀬高浜遺跡ピット群 1 出土遺物実測図	116
挿図96	長瀬高浜遺跡土器溜 2 出土遺物実測図(2)	88	挿図138	長瀬高浜遺跡ピット群 1 遺構図	116
挿図97	長瀬高浜遺跡土器溜 3 出土遺物実測図	89	挿図139	長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(1)	118
挿図98	長瀬高浜遺跡土器溜 3 遺物出土状況図	89	挿図140	長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(2)	119
挿図99	長瀬高浜遺跡土器溜 4 遺物出土状況図	90	挿図141	長瀬高浜遺跡中世遺構配置図	120
挿図100	長瀬高浜遺跡土器溜 4 出土遺物実測図	90	挿図142	長瀬高浜遺跡 9 号畠出土遺物実測図	121
挿図101	長瀬高浜遺跡土器溜 5 遺物出土状況図	91	挿図143	長瀬高浜遺跡畠跡遺構図	122
挿図102	長瀬高浜遺跡土器溜 5 出土遺物実測図	91	挿図144	長瀬高浜遺跡畠跡土層断面図	123
挿図103	長瀬高浜遺跡土器溜 6 遺物出土状況図	92	挿図145	長瀬高浜遺跡15号畠遺構図	126
挿図104	長瀬高浜遺跡土器溜 6 出土遺物実測図	92	挿図146	長瀬高浜遺跡SD 9 西側遺構図	127
挿図105	長瀬高浜遺跡古墳時代包含層出土遺物実測図	94	挿図147	長瀬高浜遺跡SD11遺構図	128
挿図106	長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半遺構配置図	95	挿図148	長瀬高浜遺跡SD12遺構図	128
挿図107	長瀬高浜遺跡SX97周溝内遺物出土状況図	96	挿図149	長瀬高浜遺跡SD13遺構図	129
挿図108	長瀬高浜遺跡SX97出土遺物実測図	96	挿図150	長瀬高浜遺跡SD13出土遺物実測図	129
挿図109	長瀬高浜遺跡SX97遺構図	97	挿図151	長瀬高浜遺跡SD14遺構図	129
挿図110	長瀬高浜遺跡SX97主体部人骨出土状況図	97	挿図152	長瀬高浜遺跡SD15遺構図	130
挿図111	長瀬高浜遺跡SX98遺構図	98	挿図153	長瀬高浜遺跡SD16・17遺構図	130
挿図112	長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況図	98	挿図154	長瀬高浜遺跡SD15出土遺物実測図	130
挿図113	長瀬高浜遺跡SX98出土遺物実測図	99	挿図155	長瀬高浜遺跡SD21出土遺物実測図	131
挿図114	長瀬高浜遺跡SX99遺構図	100	挿図156	長瀬高浜遺跡SD21遺構図	131
挿図115	長瀬高浜遺跡SX99出土遺物実測図	100	挿図157	長瀬高浜遺跡SD23遺構図	132
挿図116	長瀬高浜遺跡SX100遺構図	101	挿図158	長瀬高浜遺跡SD23出土遺物実測図	132
挿図117	長瀬高浜遺跡SX100出土遺物実測図	102	挿図159	長瀬高浜遺跡 2 OSK 1 遺構図	132
挿図118	長瀬高浜遺跡SX101遺構図	103	挿図160	長瀬高浜遺跡 2 OSK 2 遺構図	132
挿図119	長瀬高浜遺跡SX101出土遺物実測図	103	挿図161	長瀬高浜遺跡 2 OSK 3 遺構図	133
挿図120	長瀬高浜遺跡SD22遺構図	104	挿図162	長瀬高浜遺跡 2 OSK 4 遺構図	133

挿図163	長瀬高浜遺跡3 OSK 1 遺構図	133	挿図183	園第6遺跡SK 2 遺構図	146
挿図164	長瀬高浜遺跡3 OSK 2 遺構図	134	挿図184	園第6遺跡SK 3 遺構図	146
挿図165	長瀬高浜遺跡3 OSK 2 出土遺物実測図	134	挿図185	園第6遺跡SK 4 遺構図	147
挿図166	長瀬高浜遺跡3 OSK 3 遺構図	135	挿図186	園第6遺跡SD 1 遺構図	147
挿図167	長瀬高浜遺跡3 OSK 4 遺構図	135	挿図187	園第6遺跡SD 2 遺構図	147
挿図168	長瀬高浜遺跡3 OSK 5 遺構図	135	挿図188	園第6遺跡SA 1、ピット群遺構図	148
挿図169	長瀬高浜遺跡3 OSK 6 遺構図	136	挿図189	園第6遺跡ピット群1 出土遺物実測図	149
挿図170	長瀬高浜遺跡3 OSK 6 出土遺物実測図	136	挿図190	園第6遺跡P26内遺物出土状況図	149
挿図171	長瀬高浜遺跡3 OSK 7 出土遺物実測図	136	挿図191	園第6遺跡遺構外出土遺物実測図	150
挿図172	長瀬高浜遺跡3 OSK 7 遺構図	136	挿図192	長瀬高浜遺跡土師器型式分類図	151
挿図173	長瀬高浜遺跡ピット群2 遺構図	137	挿図193	天神川下流域土器編年案(1)	153
挿図174	長瀬高浜遺跡粘土硬化面遺構図	137	挿図194	天神川下流域土器編年案(2)	155
挿図175	長瀬高浜遺跡粘土層足跡実測図	139	挿図195	天神川下流域土器編年案(3)	157
挿図176	長瀬高浜遺跡中世遺物出土状況図	141	挿図196	長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代 前期 (I ~ IV期)	162
挿図177	長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(1)	142	挿図197	長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代 中期 (V・VI期)	163
挿図178	長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(2)	143	挿図198	長瀬高浜古墳群変遷図	168
挿図179	長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(3)	144	挿図199	長瀬高浜遺跡の円筒埴輪	168
挿図180	園第6遺跡調査前地形測量図	145	挿図200	長瀬高浜遺跡クロスナ分布図	182
挿図181	園第6遺跡調査後地形測量図	145			
挿図182	園第6遺跡SK 1 遺構図	146			

挿 表 目 次

挿表1	長瀬高浜遺跡高浜遺跡調査経過一覧表	4	挿表16	園第6遺跡ピット群1ピット一覧表	148
挿表2	羽合道路関係調査経過一覧表	4	挿表17	天神川下流編年案土師器対照表	159
挿表3	青谷羽合道路関係調査経過一覧表	4	挿表18	古墳時代土師器編年案対照表	159
挿表4	長瀬高浜遺跡ピット群3、SA 8・9 ピット一覧表	77	挿表19	長瀬高浜古墳群一覧(古墳に限る)	167
挿表5	長瀬高浜遺跡ピット群4ピット一覧表	79	挿表20	長瀬高浜遺跡出土・古代の遺構一覧表	171
挿表6	長瀬高浜遺跡ピット群5ピット一覧表	80	挿表21	鳥取県内出土帯金具・石帯一覧表	172
挿表7	SB58ピット一覧表	107	挿表22	鳥取県内の古代・掘立柱建物跡で 構成される集落遺跡一覧表	173
挿表8	長瀬高浜遺跡ピット群1ピット一覧表	117	挿表23	長瀬高浜遺跡古墳時代前期出土雛形鉄器一覧表	181
挿表9	長瀬高浜遺跡9号畠規模一覧表	121	挿表24~55	長瀬高浜遺跡出土土器観察表	184~215
挿表10	長瀬高浜遺跡10号畠規模一覧表	121	挿表56・57	長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表	216・217
挿表11	長瀬高浜遺跡11号畠規模一覧表	124	挿表58・59	長瀬高浜遺跡出土石製品観察表	218・219
挿表12	長瀬高浜遺跡12号畠規模一覧表	124	挿表60	長瀬高浜遺跡出土玉製品観察表	219
挿表13	長瀬高浜遺跡13号畠規模一覧表	125	挿表61・62	園第6遺跡出土土器観察表	220・221
挿表14	長瀬高浜遺跡14号畠規模一覧表	126	挿表63	園第6遺跡出土石製品観察表	221
挿表15	長瀬高浜遺跡粘土硬化面内溝一覧表	138			

図版目次

- 図版 1 長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況(北上空から)
長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況(北上空から)
長瀬高浜遺跡古墳時代集落完掘状況(西から)
- 図版 2 長瀬高浜遺跡SI245~248完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI245完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SI245Po27出土状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI246完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI246遺物出土状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI246Po43、59、97出土状況(東から)
- 図版 3 長瀬高浜遺跡SI247完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI248完掘状況(南東から)
長瀬高浜遺跡SI249完掘状況(南西から)
長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況(南西から)
長瀬高浜遺跡SI249遺物出土状況(南から)
長瀬高浜遺跡SI251・252完掘状況(南西から)
- 図版 4 長瀬高浜遺跡SI250完掘状況(南西から)
長瀬高浜遺跡SI250遺物出土状況(南西から)
長瀬高浜遺跡SI253完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI253遺物出土状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI254完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SI254遺物出土状況(北東から)
- 図版 5 長瀬高浜遺跡SI255完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI255遺物出土状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI256完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI261完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI257遺物出土状況(北から)
長瀬高浜遺跡SI258完掘状況(北東から)
- 図版 6 長瀬高浜遺跡SI258遺物出土状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SI259完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SI260完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SB61完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SB62完掘状況(東から)
長瀬高浜遺跡SB63完掘状況(東から)
- 図版 7 長瀬高浜遺跡2 OSK 5 完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡3 PSK 1 完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡3 PSK 2 完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡4 PSK 1 完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡ピット群3完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SB64、SA10、ピット群4完掘状況(北から)
- 図版 8 長瀬高浜遺跡ピット群5完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡土器溜1検出状況(東から)
長瀬高浜遺跡土器溜2検出状況(北から)
長瀬高浜遺跡土器溜3検出状況(南西から)
長瀬高浜遺跡土器溜4検出状況(南から)
長瀬高浜遺跡土器溜6検出状況(南から)
- 図版 9 長瀬高浜遺跡自然河川埋砂その1状況(北から)
長瀬高浜遺跡自然河川埋砂その2状況(北から)
長瀬高浜遺跡SX97~99完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡SX97完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡SX97周溝内遺物出土状況(北西から)
長瀬高浜遺跡SX97主体部人骨出土状況(南西から)
- 図版10 長瀬高浜遺跡SX98完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況(北から)
長瀬高浜遺跡SX98周溝内遺物出土状況(南から)
長瀬高浜遺跡SX99完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡SX99完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡SX100完掘状況(南西から)
- 図版11 長瀬高浜遺跡SX101人骨出土状況(南東から)
長瀬高浜遺跡SD22遺物出土状況(南から)
長瀬高浜遺跡SB58・59完掘状況(北東から)
長瀬高浜遺跡整地遺構1検出状況(北東から)
長瀬高浜遺跡整地遺構1粘土除去後状況(北東から)
長瀬高浜遺跡整地遺構1、SX99土層断面(北から)
- 図版12 長瀬高浜遺跡整地遺構3検出状況(北から)
長瀬高浜遺跡整地遺構3粘土除去後状況(北西から)
長瀬高浜遺跡整地遺構3、SX98土層断面(北から)
長瀬高浜遺跡SD18完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡SD19・20完掘状況(北から)
長瀬高浜遺跡SD24完掘状況(西から)
- 図版13 長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況(南上空から)
長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡畠跡完掘状況(西から)
- 図版14 長瀬高浜遺跡9号畠完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡10・11・12号畠完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡11号畠上面偶蹄目足跡検出状況(南西から)
長瀬高浜遺跡13号畠完掘状況(西から)
長瀬高浜遺跡畠跡上面足跡検出状況(西から)
長瀬高浜遺跡15号畠完掘状況(西から)

- 図版15 長瀬高浜遺跡SD 9 完掘状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡SD21遺物出土状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡SD23完掘状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡SD16・17完掘状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡SD15遺物出土状況 (北から)
 長瀬高浜遺跡SD15、ピット群 2 完掘状況 (北から)
- 図版16 長瀬高浜遺跡 2 OSK 1 完掘状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡 2 OSK 2 完掘状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡 2 OSK 3 完掘状況 (東から)
 長瀬高浜遺跡 2 OSK 4 完掘状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 1 完掘状況 (北西から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 2 遺物出土状況 (南東から)
- 図版17 長瀬高浜遺跡 3 OSK 3 完掘状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 4 完掘状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 4 シジミ貝出土状況 (北から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 5 完掘状況 (東から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 6 遺物出土状況 (南から)
 長瀬高浜遺跡 3 OSK 7 遺物出土状況 (北から)
- 図版18 長瀬高浜遺跡粘土硬化面検出状況 (東から)
 長瀬高浜遺跡粘土層上層足跡検出状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡粘土層下層足跡検出状況 (東から)
 長瀬高浜遺跡粘土層人足跡検出状況 (西から)
 長瀬高浜遺跡粘土層人足跡検出状況 (東から)
 長瀬高浜遺跡粘土層偶蹄目足跡検出状況
- 図版19 長瀬高浜遺跡SI245 Po1・2・4・7・8・10・
 12・16・23・25
- 図版20 長瀬高浜遺跡SI245 Po17・20・21・22・24・27・
 28・29
- 図版21 長瀬高浜遺跡SI246 Po30~32・39・43・46・47・
 59・69・100・111
- 図版22 長瀬高浜遺跡SI246 Po48・51~54・56・58
- 図版23 長瀬高浜遺跡SI246 Po57・58・63・67・70・72・
 73・74
- 図版24 長瀬高浜遺跡SI246 Po75・76・78・79・80・97・
 99・102
- 図版25 長瀬高浜遺跡SI246 Po103~106・108・109・112・
 115
- 図版26 長瀬高浜遺跡SI247 Po113・116・117・119~121・
 127・128・129・130・131
- 図版27 長瀬高浜遺跡SI249 Po134・135・136・137・138・
 140・143
- 図版28 長瀬高浜遺跡SI249 Po144~147・149・152・154・
 155
- 図版29 長瀬高浜遺跡SI249 Po159~166
- 図版30 長瀬高浜遺跡SI249 Po167~171・173・174・176
- 図版31 長瀬高浜遺跡SI249 Po177・182・198・219・229・
 230・232・233
- 図版32 長瀬高浜遺跡SI249 Po234~240・244
- 図版33 長瀬高浜遺跡SI249 Po241・245~250
- 図版34 長瀬高浜遺跡SI249 Po251・256・261・265・268・
 269・279・Po279 (底部)
- 図版35 長瀬高浜遺跡SI249 Po280・282・283・285・286・
 288・289・290
- 図版36 長瀬高浜遺跡SI249 Po291・292・294~299
- 図版37 長瀬高浜遺跡SI249 Po300~302・305~307・330・
 337・344・355・365・367・368・370・375
- 図版38 長瀬高浜遺跡SI249 Po331・332・334~336・338~
 340
- 図版39 長瀬高浜遺跡SI249 Po341~343・345・348・349・
 351・354
- 図版40 長瀬高浜遺跡SI249 Po353・357・358・361~364・
 366
- 図版41 長瀬高浜遺跡SI249 Po369・372~374・376~378・
 381・Po372 (内面)
- 図版42 長瀬高浜遺跡SI249 Po172・193・205・213・SI249
 出土土器
- 図版43 長瀬高浜遺跡 2 OSK 6 Po382・388・391・392・
 397・398・399・400
- 図版44 長瀬高浜遺跡SI251 Po401~403・408~411・415・
 419~421・423・425・426・S4
- 図版45 長瀬高浜遺跡SI252 Po418・427・429・430・432・
 436・438・442
- 図版46 長瀬高浜遺跡SI252 Po443・444・446・447 SI250
 Po450~453・455・456・460・465~467・470・473
- 図版47 長瀬高浜遺跡SI250 Po461・468・469・472・488・
 494・495・497~502・519・524・535
- 図版48 長瀬高浜遺跡SI250 Po503・505・510・511・513・
 517・518・520
- 図版49 長瀬高浜遺跡SI250 Po525・526・528・529・536
 SI253 Po537~539・549・557・558・566・575・
 576
- 図版50 長瀬高浜遺跡SI253 Po540・542・553・559・560・
 564・572・573
- 図版51 長瀬高浜遺跡SI253 Po574 SI254 Po578~580・

582~585
図版52 長瀬高浜遺跡SI254 Po586~592・598・601・606・
607・622
図版53 長瀬高浜遺跡SI254Po604・605・608・612・618~
620・623
図版54 長瀬高浜遺跡SI254Po629~636・638~640・642・
643
図版55 長瀬高浜遺跡SI255Po641・644~646・650・652・
654~656・664・665
図版56 長瀬高浜遺跡SI256Po657・659・660・666~673
図版57 長瀬高浜遺跡SI258Po674・679・680・683・684
SI259Po686・688・689
図版58 長瀬高浜遺跡SI260Po693~695・697
SI262Po700~703、2 OSK 5 Po705・706
土器溜 1 Po709・710
図版59 長瀬高浜遺跡土器溜 1 Po711・716・717・719・
726・728・732・734・735・740・751・752・754・
772・776・778・780
図版60 長瀬高浜遺跡土器溜 1 Po712・714・718・724・
730・756・790
図版61 長瀬高浜遺跡土器溜 1 Po731・733・739・757・
759・766・768・779
図版62 長瀬高浜遺跡土器溜 1 Po785・788・789・791・
792・795・796
図版63 長瀬高浜遺跡土器溜 2 Po793・794・799・800・
803・805~807・819・820・822・823
図版64 長瀬高浜遺跡土器溜 2 Po808・818・824~826・
828・830・831
図版65 長瀬高浜遺跡土器溜 3 Po832、土器溜 4 Po833・
836・837・838・839、土器溜 5 Po841・844・847
図版66 長瀬高浜遺跡土器溜 5 Po842・843・848・849、土器
溜 6 Po850、古墳時代包含層Po854・857・858
図版67 長瀬高浜遺跡古墳時代包含層Po855、SX97Po861・
862、SX98 Po863・865~867・869
図版68 長瀬高浜遺跡SX98Po864・868、SX100 Po870・
871~873・877・878、SD22Po881、整地遺構 1 Po
897・900・902~906・908・912
図版69 長瀬高浜遺跡整地遺構 3 Po913・914・915・916
古代包含層Po940・941・946、3 OSK 2 Po979・980
図版70 長瀬高浜遺跡 3 OSK 2 Po973~976、3 OSK 6 Po
833・981・982
中世包含層Po983・988・989・993~995・999・1000
~1010

図版71 長瀬高浜遺跡中世包含層Po1011~1013・1032・1038、
SD18B 3・B 4、SI249B 1 (鏡面、背面)、SI253S 8、
SI254S 9、SI255S10・11、土器溜 2 S15・16、整地
遺構 3 S25、古代包含層S29、中世包含層S30・36
図版72 長瀬高浜遺跡SX99S19
古代中世包含層F26・37~40・44・45・47・49・
50・52・53、土器溜 1 J 2・F21・22、土器溜 2 F
23・24・25
古墳時代包含層J 3、整地遺構 1 F31・33・35、整地
遺構 2 J 4、SD21J 5、中世包含層J 6・7・8、SI
246F 1、SI248F 2、SI249F 3・4、SI250F11、SI
252F 8・J 1、SI255F18、SI256F19、SX97F28、
SX99F29、3 OSK 7 F42、中世包含層F43、遺跡内
鉄滓・黼
図版73 園第 6 遺跡調査前状況 (南上空から)
園第 6 遺跡調査前状況 (東から)
園第 6 遺跡調査後状況 (上空から)
園第 6 遺跡調査後状況 (北東から)
園第 6 遺跡SD 2・SK 2 完掘状況 (南西から)
園第 6 遺跡SD 1 完掘状況 (東から)
図版74 園第 6 遺跡ピット26内Po 1 出土状況 (北から)
園第 6 遺跡SA 1 完掘状況 (北東から)
園第 6 遺跡ピット群完掘状況 (東から)
園第 6 遺跡SK 1 完掘状況 (東から)
園第 6 遺跡SK 3 完掘状況 (北西から)
園第 6 遺跡SK 4 完掘状況 (西から)
図版75 園第 6 遺跡P26Po 1、遺構外Po 5・8・16・35・
37・38・40・43、S 1
園第 6 遺跡重機表土剥ぎ作業
園第 6 遺跡作業風景その 1
園第 6 遺跡作業風景その 2
作業員一同
特論図版 1—1 ~—5
特論図版 3—1 ~—3
特論図版 7—1 ~—4
特論図版 8—1 ~—12
(文中図版)
文中写真① 長瀬高浜遺跡現地説明会風景その 1
文中写真② 長瀬高浜遺跡重機表土剥ぎ作業風景
文中写真③ 長瀬高浜遺跡現地説明会風景その 2
文中写真④ 長瀬高浜遺跡畠跡検出作業風景
文中写真⑤ 長瀬高浜遺跡浄化センター調査区畠跡検出状況

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県中部地域では、北条道路、青谷羽合道路が自動車専用の高規格道路として施工されている。

北条道路の計画地内には羽合町長瀬地区には長瀬高浜遺跡が、青谷羽合道路の計画地内には、泊村園地区において園第6遺跡などの多数の遺跡があり、建設に先立ち、計画地内の遺跡及び遺構の広がりを確認する必要性が生じた。このため、羽合町教育委員会は平成6年に、泊村教育委員会は平成6年度から、国庫補助事業として試掘調査を行った。

この結果を受け、建設省中国地方建設局（倉吉工事事務所）は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を行った上、文化庁長官の指示により財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、当財団が文化財保護法第57条に基づく発掘調査届を提出し、文化庁長官から発掘調査実施の指示を受け、平成10年度は中部埋蔵文化財羽合調査事務所が、発掘調査を担当することとなった。なお、北条道路関係発掘調査のうち、平成7、8年度は中部埋蔵文化財北条道路調査事務所が長瀬高浜遺跡の発掘調査を担当し、『長瀬高浜遺跡Ⅶ』として報告を行っている。また、青谷羽合道路関係発掘調査についても、平成2～5年度に5冊、平成9年度に2冊の報告書を刊行している。

長瀬高浜遺跡の平成10年度調査区は、平成7、8年度調査区東側の高浜跨道橋を挟んで東側部分が調査対象区となり、発掘調査面積は、一部2面調査の10,283㎡となった。

園第6遺跡の発掘調査面積は、747㎡であった。

（牧本）

第2節 調査の経過と方法

長瀬高浜遺跡の調査区には、厚さ約2.5～6mのシロスナが厚く堆積しており、壁が崩落しないように安全勾配をつけて重機によってシロスナ除去を行い、その後シートによって法面を保護した。また、周囲は耕作地および国道9号があり、調査区内からの飛砂を防ぐために調査区周囲に防砂ネットを貼った後調査を開始した。排砂は、ベルトコンベヤーと重機によって調査区外へ搬出し、ダンプで場外搬出した。

平成10年調査区では、まずクロスナ面を検出しながら調査前地形測量を行い、調査区をこれまでの調査にならぬグリッドの延長線上に20mおきに基準杭を設定した。その結果、南北軸は東から-1～4、東西軸はOとなった。グリッド名は、東西南北軸の交点の北東側の杭の名称をとって呼称することとし、座標は-1O杭（X：-56162.336m、Y：-42479.391m）、4O杭（X：-56171.206m、Y：-42578.997m）となった。

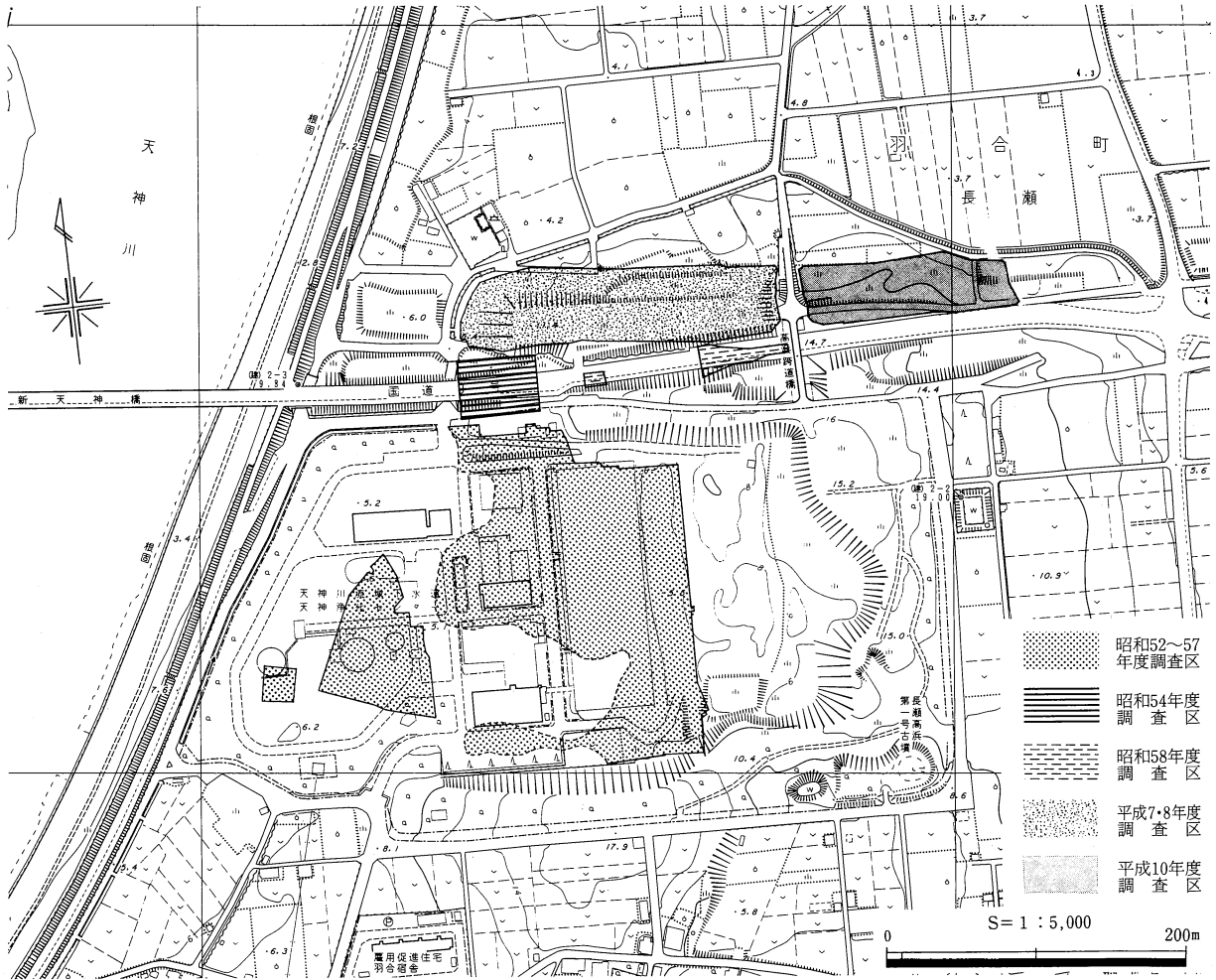
調査は、重機によるシロスナ除去と並行して検出作業を4月16日から11月16日にかけて行った。遺構の密集するクロスナ部分は全面掘り下げを行ったが、シロスナ部分に関しては、標高約2.5mで湧水が激しくなり、調査区南側部分のみにウエルポイントを設置し、部分的な掘り下げのみを行って遺構の検出にあたった。

その結果、クロスナ層中で中世の畠跡7区画、中世墓を含む土坑9基、溝状遺構10基、粘土硬化面1か所、ピット群1か所、粘土面1か所、クロスナ中で奈良から平安時代の掘立柱建物跡3基、柵列3基、整地遺構3か所、ピット群1か所、古墳時代中期の古墳3基、土坑墓2基、溝状遺構1基、さらに、古墳時代前期から中期の竪穴住居跡18基、掘立柱建物跡4基、土坑5基、ピット群3か所、自然河川を検出した。

発掘作業は11月13日に終了し、その後ウエルポイントを撤収し11月18日にすべての作業を終了した。

園第6遺跡は丘陵先端部に位置し、その下には農業用水路が走っているために、排土が流失しないように伐採木を利用してシガラミを作り、調査に取りかかった。

立木伐採後、調査区を国土座標に載るように10mグリッドに区画し、基準杭を設定した。その結果、南北軸は東から1～4、東西軸は北からA～Dとなった。グリッド名は東西南北軸の交点の北東側の杭名の名称をとって



挿図1 長瀬高浜遺跡調査区位置図



挿図2 園第6遺跡調査区位置図

呼称することとし、座標はA 1 杭 (X : -55080m、Y : -35670m)、D 4 杭 (X : -55110m、Y : -35700m) となった。

調査は、10月15日から調査前地形測量を行い、空中写真撮影終了後重機による表土剥ぎと平行して、10月20日から検出作業を開始し、11月13日に終了した。その後、調査後地形測量を行い11月17日にすべての作業を終了した。その結果、古墳時代後期と考えられる柵列 1 基、ピット群 1 か所、時期不明の溝状遺構 2 基、土坑 4 基を検出した。(牧本)

第3節 調査体制

調査は、下記の体制で実施された。

○調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 田淵 康允 (鳥取県教育委員会教育長)
常務理事 大和谷 朝 (鳥取県教育委員会事務局次長)
事務局長 岡山 宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 古井 喜紀 (県埋蔵文化財センター所長)
次 長 八木谷 昇

調整係

係 長 松田 潔
調 査 員 小谷 修一 (平成10年6月末で退職)

庶務係

主任事務職員 矢部 美恵、橋崎 康春

○調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター中部埋蔵文化財羽合調査事務所

所 長 更田 怜治
主任調査員 牧本 哲雄
調 査 員 井上 達也、岩崎 康子、岡野 雅則
整 理 員 小椋 美佳

○調査指導 赤木三郎鳥取大学名誉教授、竹内芳親鳥取大学名誉教授、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力 羽合町、羽合町教育委員会、泊村教育委員会、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所

○発掘調査・整理作業従事者

秋久勝義	新 豊	荒井啓一	生田敏江	井坂幸枝	市橋貴志子	大嶋昌子
大場 茂	尾川美佐子	尾坂 忠	尾坂富美子	尾高千代子	加嶋福枝	加嶋三枝子
加嶋義則	勝田美登里	河口智津子	河口優子	河原義雄	蔵常 正	蔵常芳子
桑田範子	坂本俊和	桜井敏夫	嶋崎アツ子	嶋崎久子	進木和美	陶山富恵
厨子彰子	谷本 登	谷本美智恵	津島時三	角田磨智子	津村重男	戸崎 巖
中田 都	中村まきゑ	西村 巖	西本てる子	西山 裕	野崎悦子	羽田政夫
浜口みち子	福田弥千代	福永一明	藤田広子	藤田恭人	真壁 均	牧田理恵
松井久雄	松尾冊子	松下清敏	松田アイコ	松田澄子	松田正己	松田八重子
光井芳子	村口いつ子	森 信季	山崎 巖	山下清範	山下節子	山本清子
山本博子	安田成行	山田暉美	米山麻紀			(五十音順、敬称略)

第4節 長瀬高浜遺跡の調査経過

事業	年度	調査主体	調査面積	報告書名
天神川下流域下水道事業天神浄化センターの建設	昭和52 (1977)	鳥取県教育文化財団	約 4,500㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書1
	昭和53 (1978)	鳥取県教育文化財団	約18,000㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書5
	昭和54 (1979)	鳥取県教育文化財団	約10,000㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書7
	昭和55 (1980)	鳥取県教育文化財団	約 8,500㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書8
	昭和56 (1981)	鳥取県教育文化財団	約 6,400㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書11
	昭和57 (1982)	鳥取県教育文化財団	約 4,450㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書14
北条バイパス建設	昭和54 (1979)	鳥取県教育文化財団	約 2,000㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書3
	昭和58 (1983)	羽合町教育委員会	約 800㎡	
北条道路建設	平成7・8 (1995・96)	鳥取県教育文化財団	15,079㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書49
	平成10 (1998)	鳥取県教育文化財団	10,283㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書61

挿表1 長瀬高浜遺跡調査経過一覧表

第5節 青谷羽合道路関係調査経過

(1) 羽合道路建設による調査

年度	調査主体	遺跡名	調査面積	報告書名
平成2 (1990)	鳥取県教育文化財団	南谷ヒジリ遺跡	1,250㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書26
		南谷夫婦塚遺跡・南谷19～23号墳	3,018㎡	〃
		乳母ヶ谷第2遺跡・宇野3～9号墳	5,564㎡	〃
平成3 (1991)	鳥取県教育文化財団	宇谷第1遺跡	4,642㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書28
		南谷大ナル遺跡	342㎡	〃
		南谷大山遺跡・南谷24～26号墳	9,932㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書32
平成4 (1992)	鳥取県教育文化財団	園西川遺跡・園7号墳	1,383㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書33
		原第2遺跡	1,907㎡	〃
		南谷大山遺跡・南谷28号墳	8,632㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書32
		南谷古墳群	104㎡	〃
		南谷ヒジリ遺跡・南谷27号墳	371㎡	〃
平成5 (1993)	鳥取県教育文化財団	南谷大山遺跡・南谷29号墳	8,794㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書36

挿表2 羽合道路関係調査経過一覧表

(2) 青谷羽合道路建設による発掘調査

年度	調査主体	遺跡名	調査面積	報告書名
平成8 (1996)	鳥取県教育文化財団	石脇第3遺跡森末地区	5,244㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書54
		石脇第3遺跡操り地区・石脇8号墳	4,590㎡	〃
		寺戸第1遺跡	1,590㎡	〃
		寺戸第2遺跡	4,540㎡	〃
平成9 (1997)	鳥取県教育文化財団	石脇第1遺跡	3,929㎡	〃
		石脇第3遺跡操り地区	4,623㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書55
		小浜ワラ畑遺跡	2,699㎡	
		小浜小谷遺跡	602㎡	〃
		池ノ谷第2遺跡	4,473㎡	〃
平成10 (1998)	鳥取県教育文化財団	園第6遺跡	747㎡	鳥取県教育文化財団調査報告書61

挿表3 青谷羽合道路関係調査経過一覧表

参考文献

羽合町教育委員会『長瀬高浜遺跡緊急発掘調査報告書—一般国道9号(北条道路)改築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査—』羽合町文化財調査報告書第11集 1995. 3

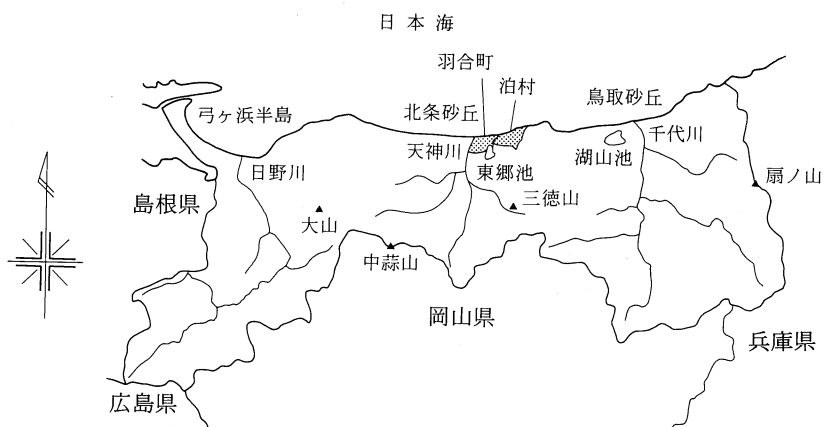
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥取県は本州南西部の北東部に位置する。北は日本海、東は兵庫県、南は中国山地を県境として岡山県・広島県、西は島根県と接する。県域は東西126km、南北61.85km、面積約3,498km²で日本全体の約1%を占める。鳥取県は大別すると、東部、中部、西部からなる。各地域とも地勢は山がちで、山地が県総面積の85%以上を占める。それぞれの地域には、千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）の各一級河川が流れ、その下流域には鳥取（東部）、倉吉・北条・羽合（中部）、米子（西部）の各平野が形成される。

長瀬高浜遺跡は、県中部の羽合町長瀬字高浜に所在し、海岸線から約1km上流の小高い砂丘地に立地する。羽合町は鳥取県中部にあり、東は泊村、東郷町、西は北条町、南は東郷町、倉吉市に接する。北は日本海に面する。町域は東西約5.5km、南北約3.9kmに及び、総面積12.22km²、人口7675人（平成10年末）である。羽合町の主な基幹産業は第一次産業で、規模の縮少が進むものの、水稻を筆頭にナシ、ブドウ、スイカ、メロンなどが栽培される。羽合町の地形は、海岸線までせまる馬ノ山丘陵性山地、湖中及び周辺から温泉がわき湖畔に羽合温泉が存在する東郷池、県中部の穀倉の水田地帯を形成する羽合平野、海岸砂丘地などからなり、現在西端には、天神川が北条町との境を流れ、東端には、橋津川が東郷池を源として日本海に注ぐ。現在天神川は、北条砂丘を南北に横切って本遺跡の西側を北流している。これは江戸時代1657年（明暦3年）に始まり、1660年（寛文年間）に完成した直流工事によるもので、以前は何度も流路を変え、東郷池西岸に流れ込んだり、「東郷荘下地中分絵図」に見られるように、本遺跡南東側の長瀬集落付近を流れて、橋津川と合流したりしたとされる。本遺跡の立地する北条砂丘は、天神川の流層堆積物や陸地の沈降隆起、海進・海退、潮流、強風などの複雑な現象によって形成されたものとされ、その昔、海岸部に内湾が発達し、天神川からの土砂堆積により湾口部に沿岸州が発達し、内湾が小さくなり、海と切り離されて砂丘が発達した。弥生時代以前から奈良時代にかけて砂丘形成が一時停滞し、草原化して腐植土層が徐々に形成されたものがクロスナであるとされている。中世以降砂丘活動が再び活発化し、クロスナ上面に新たな砂丘が形成され、現在に至る。

また、園第6遺跡は、鳥取県中部の東伯郡泊村園字西茄子・蛇川に所在し、国道9号線から南東側に約200m、JR山陰線泊駅から南南東側約400mの標高約30mの丘陵上に立地する。泊村は先述の羽合町の東隣にあたり、さらに東には古代因幡国最西の気高郡青谷町が接し、古代伯耆国の最東部に位置する。総面積は、14.53km²で、人口約3200人の小規模な村である。泊村の主な産業は、平地が少ないため、漁業と梨の栽培である。丘陵地は畑地・果樹園、谷部は水田にと、効率よく土地利用が行なわれている。泊村の地形は中国山地から北方に伸びた100~300mの比較的低い山地が海岸線まで突き出し、平野部は総面積の約30%、4.36km²と非常に平地が少ない。尾根間に小河川がみられ、周りに水田がみられる。海岸線にはいくつかの漁港もあり、基幹産業の漁業を支える拠点となっている。泊村周辺の地質は、平地の大半が沖積層と砂丘である。丘陵地帯は火山灰層に覆われ、溶岩台地地形を残しており、その間を小河川が流れ、平地を造り出す。海岸には北からの強い季節風で形成された砂丘が発達している。 (井上)



挿図3 羽合町・泊村位置図

第2節 歴史的環境

1. 弥生時代以前の主要な遺跡

東郷池周辺における最古の遺物として、東郷池東岸の南谷19号墳盛土下から出土した安山岩製のスクレイパーがある。縄文時代の居住地は、低地が主であったと考えられ、天神川西側の北条町島遺跡では、貝塚とともに、前期から晩期の土器、石器、丸木舟、人骨などが出土している。天神川下流の天神川下流遺跡(3)、東郷池東方の北福第3遺跡(30)でも、後期から晩期にかけての遺跡の存在が想定される。

鳥取県中部地域では、前期の水田は確認されておらず、集落も低地の長瀬高浜遺跡以外では確認されていない。長瀬高浜遺跡(1)では、玉作り工房跡のほか、土壙墓、刻目突帯文土器などが出土し、拠点的な集落の存在が窺われる。今後、長瀬高浜遺跡から東郷池にかけての低地で、前期の水田が確認される可能性は高い。中期には、長瀬高浜遺跡でわずかな土壙墓・土器片が出土するが、様相は解明されていない。

後期の集落跡は、東郷池東側および西側の丘陵上で確認されている。東岸丘陵上の南谷ヒジリ(12)、南谷大ナル(13)、南谷夫婦塚(14)、南谷大山(17)、乳母ヶ谷第2(19)、宇谷第1(20)の各遺跡では、後期中葉以降、古墳時代中期に至る竪穴住居跡、掘立柱建物などが調査されている。中でも南谷大山遺跡では、一時的な停滞を除くとほぼ継続的に集落が営まれている。南谷の北側に位置する宮内第1・4・5遺跡(22)では、後期前葉から後葉の四隅突出型墳丘墓(23)を含む墳丘墓4基とともに、多数の土壙墓や住居跡が検出されている。東郷池南東丘陵上にも、藤和墳丘墓(52)が存在するなど、周辺地域と同様、集団墓との差別化を指向する墳丘墓が築造される。低地では、長瀬高浜遺跡の北東約0.7kmに位置する和助北遺跡(5)が唯一である。赤彩された脚付注口土器が出土している。長瀬高浜遺跡では、当該期の土器片がわずかに出土している。銅鐸も、泊村池ノ谷第2遺跡(外縁付紐I式)、長瀬高浜遺跡(小銅鐸)、北福第3遺跡(小銅鐸)などで出土している。

2. 古墳時代の様相

天神川下流域は、山陰地方では最も早く前期古墳の築造が開始された地域である。主に、倉吉市上神、大谷から向山丘陵、および東郷池北方の馬ノ山に分布する。中でも倉吉市国分寺古墳は、前期でも早い段階の築造とされる。長瀬高浜遺跡の北東約1kmの馬ノ山には、山陰では最古の前方後円墳とされる橋津(馬ノ山)4号墳(8)がある。竪穴式石室内に、三角縁神獸鏡を含む舶載鏡3面、仿製鏡4面、碧玉製車輪石などの副葬品を持ち、前期後半の所産とされる。この西側に前方後円墳の2号墳がある。立地やバチ形に開く前部部の形態など、4号墳より遡る属性も指摘される。泊村には、小規模な前方後円墳である石脇2号墳(尾尻古墳)があり、仿製斜縁神獸鏡をもつ。天神川下流域の前期古墳は、三角縁神獸鏡の保有量、古墳の規模や量から鑑みても、山陰地方の他の地域を凌駕しており、当地域の集団がいち早く畿内との繋がりを有していたことが推察される。

前期から中期にかけての集落は、低地の長瀬高浜遺跡が核をなし、東郷池北岸の宮内第1遺跡(22)、東岸の南谷大山遺跡(17)、南谷ヒジリ遺跡(12)など、丘陵上でも小規模な集落が確認できる。ただ、いずれも長瀬高浜遺跡の最盛期には、集落の形成が一時停滞する。長瀬高浜遺跡では、前期初頭に突如、大規模な集落が形成される。とくに、前期前半には、柵で囲繞される大型掘立柱建物など、集落内における中核的施設が存在し、拠点集落の様相を呈する。長瀬高浜遺跡と橋津4号墳との直接的な関係を示唆する資料はないが、橋津4号墳の築造と時を同じくして長瀬高浜遺跡が最盛期を迎えること、遺跡から橋津4号墳を間近に望めるという地理的な関係からみて、直接的な関係を有したと考えるのが自然であろう。

泊村では、石脇第1・3遺跡、寺戸第2遺跡などにおいて、前期から中期後葉の集落が確認された。石脇第1遺跡は、丘陵中程の平坦面に位置する。中期中葉に盛行し、大型の住居跡から陶質土器が出土した。その流通経路を考える上で重要な地である。須恵器窯滓も出土し、周辺で初期須恵器が生産された可能性もある。

中期においても、東郷池東岸・南岸の丘陵上に山陰有数の大型前方後円墳が築造される。北岸の橋津4号墳(8)、東岸の宮内狐塚古墳(24)、南岸の北山1号墳(45)と、前期から中期に至る首長墓が、北岸から東岸、さらに南岸へと移動した様子が窺われる。長瀬高浜遺跡では、集落の廃絶後、中期後半から後期にかけては墓域となり、古墳群

が築造される。小型の円墳が主体をなすが、中には1号墳、前方後方墳の26号墳の如き盟主的な様相を呈するものもある。また、多数の器財形埴輪が集中して出土している。

中期後半以降の集落の動向は明らかではない。東郷池東岸丘陵上の集落が再び活性化するが、長瀬高浜の集落廃絶後に大規模な古墳群が築造されることからみて、周辺の低地に集落が移動した可能性が高い。また、大型古墳の存在から、東郷池近くにも中期後半以降の大規模な集落の存在が予測される。一方、東郷湖南西岸の津波遺跡(48)では、中期の土師器、須恵器とともに、刀状木製品、火錐臼、手捏ね土器など、祭祀関係と考えられる遺物が出土している。

横穴式石室の導入以降、大型前方後円墳は築造されないが、東郷池周囲の丘陵上に中小規模の前方後円墳を含む群集墳が累々と築かれる。東郷池南西側の尾根上にある片平4号墳(55)は、基底を箱式石棺状に組み、板石を持ち送りつつ小口積みにする導入期の横穴式石室をもつ。この後、藤津古墳群(27)、中興寺古墳群(37)、大平山古墳群(4)など、周辺で産出する板状摂理の安山岩を使用した横穴式石室をもつ群集墳が爆発的に増加する。泊村内でも、園古墳群(62)、宇谷古墳群(58)、石脇古墳群などがある。東郷池南西側、埴見川左岸には埴見古窯跡(47)がある。6世紀前葉から操業されたと考えられる。こうした、後期の群集墳を築造した集団の居住地は、現在のところ調査されていない。

3. 古代の河村郡

東郷池を含む天神川流域は、山陰地方でも最初にいわゆる初期寺院の建立が開始された地域であり、国衙、国分寺が設置されるなど、伯耆国の中心的地域であったことが窺える。東郷池東方には野方・弥陀平廃寺(34)がある。7世紀後半の早い段階の瓦が出土しており、倉吉市の大御堂廃寺とともに、伯耆における最古の仏教寺院の一つと考えられる。久見(39)でも、7世紀後半頃の瓦が出土しており、寺院、官衙跡の可能性はある。

長瀬高浜を含む東郷池周辺は、律令体制下においては伯耆国河村郡に属し、河村郡は笏賀、舎人、多駄、埴見、日下、河村、竹田、三朝の八郷から成る。郡衙の所在地は不明であるが、河村郷、舎人郷、多駄郷が候補とされている。主要な駅路であった山陰道は、笏賀駅（現在の泊村付近）から東郷湖の南岸を通り、松原駅（倉吉市付近）へ至っていたと考えられる。山陰道からは外れるが、長瀬高浜遺跡においても、奈良から平安期の掘立柱建物確認された。墨書土器、帯金具などが出土しており、官衙に関連する施設の可能性がある。

4. 中世の東郷荘と近世以降の歴史的環境

律令体制が動揺し始めると、公地公民制の崩壊とともに自墾地系荘園が増加し、土地の所有を基礎とする封建制社会が形成されてゆく。こうした中で、国司、郡司、社寺が力を得てくる。東郷池東方に、伯耆一宮である倭文神社がある。広大な社領を経済基盤として在地領主層の信仰を集め、伯耆一宮の地位を獲得したとされる。倭文神社に隣接する山林では経塚(21)が発見され、金銅製経筒、金銅製観音菩薩立像などが出土した。

中世の集落が調査された例はないが、長瀬高浜遺跡では、12～13世紀頃と考えられる畠跡のほか、中世の水田跡、土葬墓、火葬墓、五輪塔などが出土した。また、橋津川右岸の南谷貝塚からは、中世の土器、漆器などが出土している。10世紀以降、在地領主が中央の寺社・貴族に領地を寄進する寄進地系荘園が増加する中で、東郷荘が京都・松尾神社領として成立する。当該期の東郷池周辺を知る史料に、正嘉2（1258）年銘の「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」がある。この絵図は、荘園侵略を図る地頭と、これを阻止しようとする荘園領主である京都・松尾社との間で行われた、下地中分（領地の分配）を示す代表的な史料である。絵図によれば、東郷荘の荘域は、東郷、埴見、河村の三郷とみられる。このうち、長瀬高浜遺跡周辺は東郷に属するものと考えられ、地頭分として配分されることが分かる。14世紀中頃には、山名時氏をはじめとする伯耆守護による荘園侵略が開始され、15世紀後半には、応仁の乱の地方への波及に伴い、各地の荘園同様、東郷荘も消滅したとされる。

中世の山城として、東郷池南方に、南条氏が14世紀に築城した羽衣石城がある。応仁の乱後の騷擾戦乱の中、伯耆でも守護山名氏の一国統制は衰退する。羽衣石南条氏は、当初毛利氏に、後には中国進攻を進める羽柴秀吉の配下となり、関ヶ原の戦いで敗れるまで存続した。天正9（1581）年には、羽柴秀吉と毛利方の吉川元春が、御冠山と馬ノ山において対陣した。馬ノ山、乳母ヶ谷第2遺跡(19)では、このとき築かれたとされる土塁状遺構が

確認されている。

東郷池南方の山間部には、近世の所産と考え得るタタラ跡が数か所確認されている。幕末の文久3（1863）年には、海岸防備を目的に台場が築かれた。県内では7か所に建設され、橋津川の河口西側にもその台場跡(6)がある。また、橋津には、鳥取藩の藩倉(9)が現存する。（岡野）



四隅突出型墳丘墓 古墳 古墳群 遺跡 寺院跡







1. 長瀬高浜遺跡 2. 園第6遺跡 3. 天神川下流遺跡 4. 大平山古墳群 5. 和助北遺跡 6. 橋津台場跡 7. 橋津（馬ノ山）古墳群 8. 橋津（馬ノ山）4号墳 9. 橋津藩倉 10. 南谷貝塚 11. 南谷遺跡 12. 南谷ヒジリ遺跡 13. 南谷大ナル遺跡 14. 南谷19～23号墳・南谷夫婦塚遺跡 15. 宇野第五遺跡 16. 宇野第四遺跡 17. 南谷大山遺跡 18. 乳母ヶ谷遺跡 19. 乳母ヶ谷第2遺跡 20. 宇野第一遺跡 21. 伯耆一宮経塚 22. 宮内遺跡群 23. 宮内一号墳丘墓 24. 宮内狐塚古墳 25. 船隠遺跡 26. 大鼻遺跡 27. 藤津古墳群 28. 福永第三遺跡 29. 北福第一遺跡 30. 北福第三遺跡 31. 北福古墳群 32. 漆原古墳群 33. 野方第三遺跡 34. 野方・阿弥陀平廃寺 35. 野方古墳群 36. 白石第一遺跡 37. 中興寺古墳群 38. 久見古墳群 39. 久見古瓦出土地 40. 川上古墳群 41. 高辻古墳群 42. 別所古墳群 43. 小鹿谷古墳群 44. 引地古墳群 45. 野花北山一号墳 46. 長和田古墳群 47. 埴見古墳群 48. 津浪遺跡 49. 埴見中ノ谷古窯跡 50. 佐美古墳群 51. 山根古墳群 52. 藤和墳丘墓 53. 伊木古墳群 54. 佐美遺跡 55. 片平4号墳 56. 門田遺跡 57. 隈ヶ坪遺跡 58. 宇谷古墳群 59. 宇谷第一遺跡 60. 原第二遺跡 61. 浜山第二遺跡 62. 園古墳群 63. 原第一遺跡

挿図4 周辺遺跡分布図

第3章 長瀬高浜遺跡の基本層序

長瀬高浜遺跡は、現地表標高約6～10m前後の砂丘地上に立地する、弥生時代前期から近世初頭にかけて展開する総面積9ha以上の複合遺跡である。

平成10年度調査区の主要な遺構は、厚さ2.5～6mのシロスナ層(⑳層)の下層に形成された、厚さ0.8～1.3mのいわゆるクロスナ層中(①～⑬層)〔第1クロスナ層〕に営まれている。この層は、上層に行くにつれて黒く、下層に行くにつれて茶褐色系になり、確認された時期ごとに層位が異なっている。

クロスナ層は、調査区西側部分に限られており、今回の調査区が当遺跡の北東端付近に当たるものといえる。シロスナとの境(以下分断部)は、およそN-34°-Wである。クロスナ部分は多少の起伏が認められ、分断部が標高5.0～5.4mと高く、中央部分から南側にかけて標高4.0～4.2mと低くなっている。クロスナ層は、植物腐植層と捉えられており、弥生時代前期から中世にかけてのおよそ1800年間は、砂地であるにも関わらず、比較的安定した立地環境であったことを物語っている。

さて、遺構形成以前の層を観察すると、標高約2.5m付近で暗灰茶褐色砂(㉔層)(以下「第2クロスナ層」)が検出された。この層は、平成7・8年度調査区においても確認されており、西側にほぼ水平に形成されていることになる。この層は、東に向かって薄くなっているのが確認できる。「第2クロスナ層」から「第1クロスナ層」までは、厚さ0.5～2.0mのよく締まったシロスナが堆積している。部分的に鉄分を含んだ層となっているが、その差は明瞭ではなく、堆積後に地下水位等の関係で部分的な変化があったものと考えられる。さらに、標高1.7m前後でも走向N-2°-W、W17°に傾斜する「第3クロスナ層」(㉑層)が確認され、今回の確認されたクロスナ層は計3層となった。

従来、クロスナは3層確認されているが、これは斜面部で観察されたものでブロック状またはレンズ状の堆積状況を示しており、イレギュラー状態であったものと考えられる。今回調査した限りではクロスナ層は上中下3層であるが、従来のものとは対応せず、弥生時代前期から近世初頭までの「第1クロスナ層」と、弥生時代以前の「第2クロスナ層」、「第3クロスナ層」と考えたい。

確認できた遺構面は、中世(12世紀末～15世紀)2面、奈良・平安時代(8世紀～10世紀)1面、古墳時代中期後半(5世紀後半)1面、古墳時代前期初頭から中期初頭(3世紀後半～5世紀初頭)1面で、従来の調査で検出されている弥生時代前期から中期の遺構は検出されなかった。

中世遺構面は、シロスナ(⑳層)直下の黒灰褐色砂層(①層)上面において畝跡、溝状遺構が検出され、さらに、①層を除去した黒褐色砂層(②層)中でも畝跡、中世墓、粘土硬化面などが検出された。当時の地表面は、標高約4.0～5.4m付近である。この時期もクロスナ分断部が高くなり、緩やかに東側に向かってシロスナが傾斜している。また、調査区南東側の標高3.0m付近で、厚さ約5cmの粘土層(㉒層)を検出した。この粘土層は、当時遺跡の東側を北流していたと考えられる旧天神川の後背湿地部分または氾濫原にあたる部分に形成されたものと考えられ、ヒト・偶蹄目(ウシ)の足跡が多数検出された。この粘土層の¹⁴C年代測定では、530±50 B.P.(AD 1420年)の値を得ることができたが、この層が層位的に①層のやや上層にあたることから、畝跡の年代が15世紀まで下る可能性も考え得る結果となった。

奈良・平安時代の遺構面は、およそ黒茶褐色砂層(③層)が基盤となっている。このうち、整地遺構は、当時窪地となっていた古墳周溝部分および竪穴住居跡部分を、褐色粘土によって充填し平坦にしたものである。掘立柱建物跡は粘土面を掘り込んでいた。この時期の地表面は、標高約3.8～5.0m前後であるが、前時期同様クロスナ分断部付近が高くなり、東側に向かってシロスナが緩やかに傾斜している。シロスナ層中には、極めて薄い(1～2mm程度)粘土層が形成されており、その上面で非常に摩滅した古墳時代前期の土師器が多数検出されており、クロスナ部分から風によって吹き飛ばされていたものと考えられる。10グリッドで溝状遺構(SD24)を検出できたが、この部分の標高は約3.1mとなっている。

古墳時代中期後半の遺構面も、ほぼ③層が基盤となっているものと考えられる。⑥⑧⑬⑲⑳層は、古墳周溝埋

- ① 黒灰褐色砂 (灰褐色砂わずかに含む)
- ② 黒茶褐色砂 (灰含む)
- ③ 黒茶褐色砂 (茶褐色砂含む)
- ④ 黒茶褐色砂 (茶褐色砂含む)
- ⑤ 黒茶褐色砂 (茶褐色砂含む)
- ⑥ 暗茶褐色砂 (灰含む)
- ⑦ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)
- ⑧ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)
- ⑨ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)
- ⑩ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)
- ⑪ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)
- ⑫ 暗茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む)

- ⑬ 暗褐色砂 (灰含む)
- ⑭ 暗褐色砂 (暗褐色砂含む)
- ⑮ 暗褐色砂 (暗褐色砂含む)
- ⑯ 暗褐色砂 (暗褐色砂含む)
- ⑰ やや暗い褐色砂 (地山)
- ⑱ やや暗い褐色砂 (灰含む)
- ⑲ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ⑳ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ㉑ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ㉒ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ㉓ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ㉔ 暗灰褐色砂 (灰含む)
- ㉕ 暗灰褐色砂 (灰含む)

- ㉖ 茶褐色砂 (褐色砂多く含む)
- ㉗ 灰白褐色砂 (砂鉄層含む)
- ㉘ 暗灰茶褐色砂 (第2クロスナ層)
- ㉙ 暗灰茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む、かたくしまる)
- ㉚ 暗灰茶褐色砂 (暗茶褐色砂含む、第3クロスナ層)
- ㉛ 淡黒褐色砂 (茶褐色砂多く含む)
- ㉜ 灰白褐色砂 (砂鉄ラミナ層多量を含む)
- ㉝ 灰白褐色砂 (砂鉄ラミナ層多量を含む)
- ㉞ 褐色粘質砂 (調査区東側粘土層)



插图5 如瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(1)



插图6 長瀬高浜遺跡調査区南壁土層断面図(2)

砂である。

古墳時代前期から中期の遺構面は、およそ暗茶褐色砂層(⑥層)が基盤となっている。当時の地表面は、標高約3.4~5.0mで、やはりクロスナ分断部が高く、東側に向かって緩やかに傾斜するように見える。この時期、調査区東側には調査区を横断する幅40m以上の大規模な自然河川があり、その初期の埋砂(⑩層)にほとんど摩滅していない古墳時代前期の土器を含んでおり、分断部よりさらに東側にクロスナ層が延び、高くなっていたものと推定され、分断部付近が自然堤防状となっていたものと考えられる。この河川は、「第2クロスナ層」を切って形成されているが、いつの段階で形成されたものか不明である。河川埋砂には、須恵器も含まれており、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。埋砂上面は不整合面をなしており、完全に埋没した後にシロスナが堆積するまでかなりの時間差があったものと推定される。また、河川西側断面において、河川浸食に伴うと考えられる開口割れ目が検出され、落差約16cmの断層となっていた。

なお、クロスナ上に厚く堆積したシロスナは、15世紀以降に堆積したものと考えられる。このシロスナは、東に向かってラミナが発達しており、砂の供給源が西側にあったものと考えられる。(牧本)

参考文献 赤木三郎「長瀬高浜と周辺の第四系」『長瀬高浜遺跡Ⅶ』鳥取県教育文化財団 1997

豊島吉則「A. 長瀬遺跡の自然環境」『長瀬高浜遺跡Ⅱ 天神川下流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(1)』鳥取県教育文化財団 1979

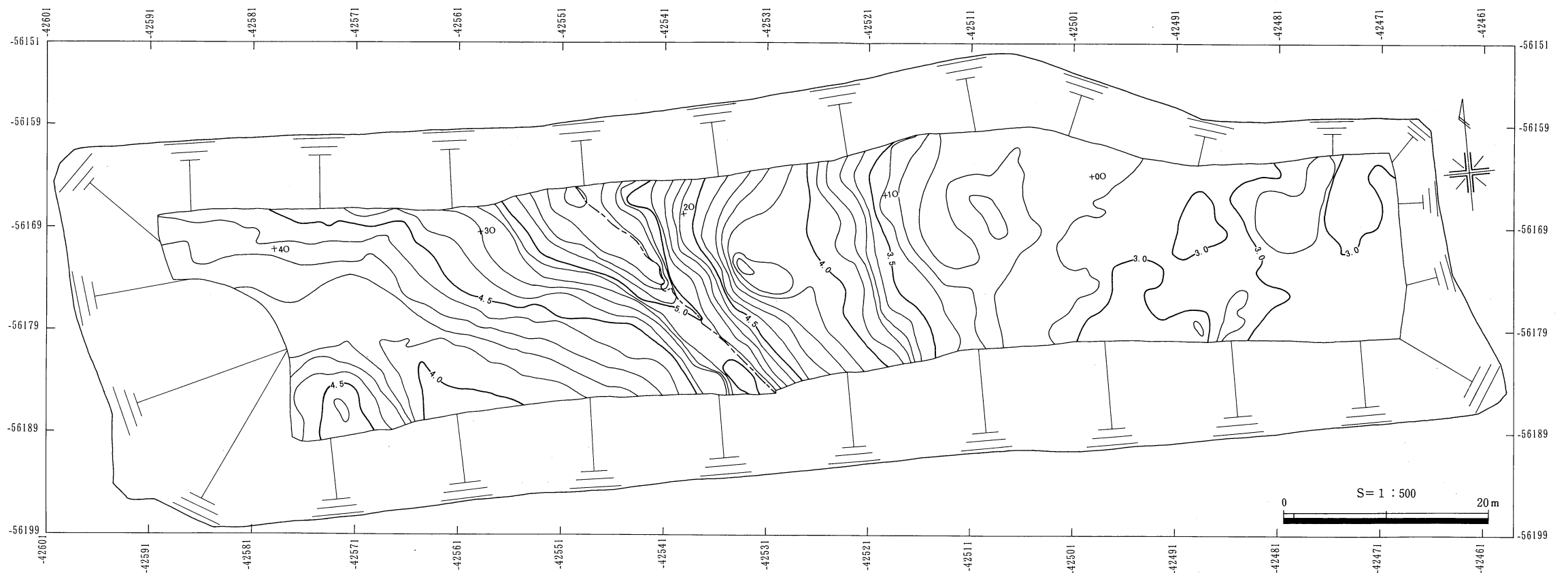
鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1981

調査日誌抄

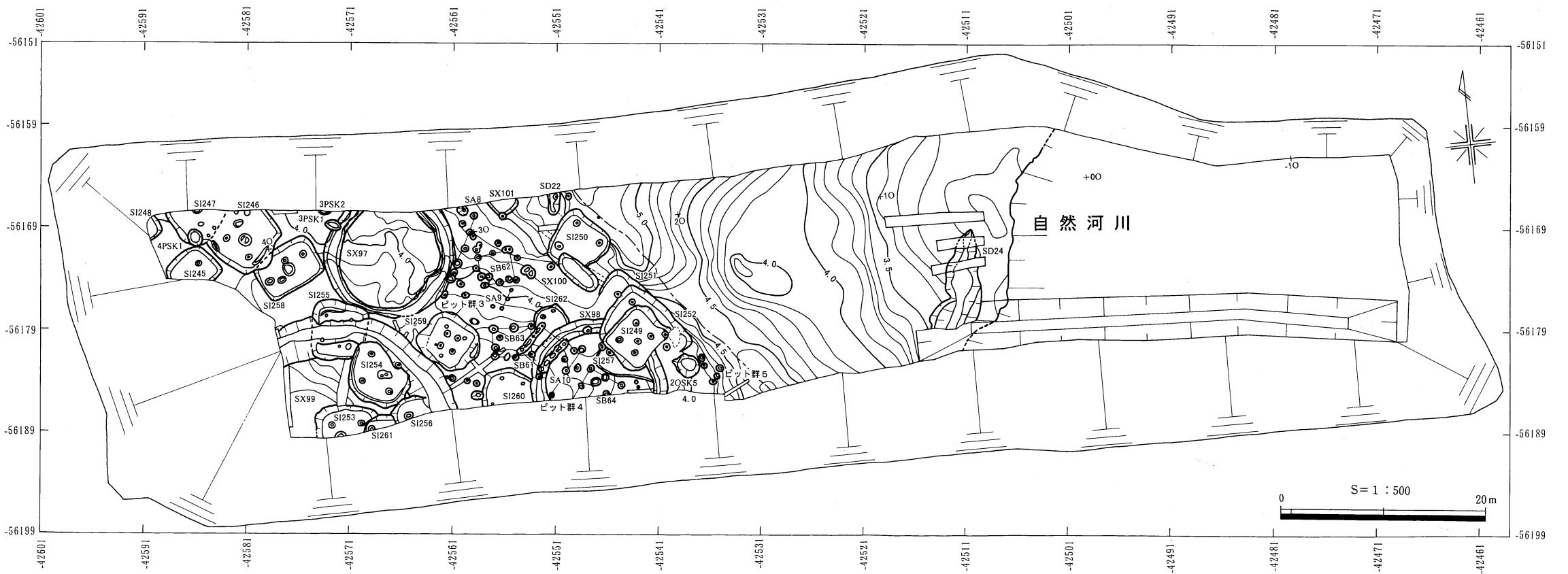
長瀬高浜遺跡

園第6遺跡

4月14日	赤木三郎氏、現場を視察	10月15日	調査前地形測量開始(～16日)
4月16日	重機による白砂除去作業終了	10月19日	ラジコンヘリコプターによる調査前調査区写真撮影
4月17日	長瀬高浜遺跡調査開始	10月20日	調査区検出作業開始
4月20日	畠跡検出作業、畝間・足跡等検出(～26日)	10月30日	SA1・SD1検出
4月24日	竹内芳親氏、現場を指導	11月5日	ピット群P26内より土師器壺出土、SS1検出SD2完掘
4月27日	畠跡検出面ラジコンヘリコプターによる空撮	11月9日	P35内より土器出土、取り上げ・完掘
5月1日	季節外れの台風接近、作業中止	11月11日	ラジコンヘリコプターによる調査後調査区写真撮影(～12日)
5月16日	畠跡検出面の現地説明会を開催(39名参加)	11月16日	調査後地形測量開始
5月24日	立命館大学 高橋学氏、現場を指導(～25日)	11月17日	現地調査終了
5月25日	軟X線分析資料サンプリング採取		
5月27日	-10グリッド褐色粘土層完掘		
6月4日	古代～古墳時代にかけての遺構面検出作業開始白磁片、墨書土器等多数出土		
6月8日	SD18掘り下げ、銅製帯金具2点出土		
6月15日	土器溜1よりミニチュア土器を含む土師器多数出土、2PSK2より人骨出土		
6月29日	赤木三郎氏、現場を指導		
7月8日	SX97周溝・主体部掘り下げ、整地遺構2完掘		
7月14日	井上貴央氏による人骨・獣骨の取り上げ指導、SD23完掘		
7月21日	SX98検出・掘り下げ、SI246・247完掘		
7月27日	SX97～99完掘		
7月30日	SI249から遺物が多数出土、厳しい猛暑の毎日が続く		
8月6日	SI259検出、掘り下げ		
8月26日	SI253～257掘り下げ		
9月1日	SI260完掘、3PSK1・2検出		
9月4日	ピット群3～5完掘、SD24完掘		
9月8日	ラジコンヘリコプターによる空撮		
9月12日	現地説明会開催(66名参加)、厳しい残暑続く		
9月16日	調査後地形測量終了(調査区西側)		
9月25日	県立米子東高等学校・鳥取県生涯学習通信公開講座(社会科)見学		
10月5日	SI249完掘、SI253・256床面検出		
10月6日	SB63完掘、調査区東側白砂部分断ち割りトレンチ掘り下げ開始		
10月12日	断ち割りトレンチ南壁分層、自然流路、及び自然河川を検出		
11月12日	断ち割りトレンチ掘り下げ終了、赤木三郎氏、現場指導		
11月18日	現地調査終了		



挿図7 長瀬高浜遺跡シロスナ除去後地形測量図



挿図8 長瀬高浜遺跡調査後地形測量図

第4章 長瀬高浜遺跡古墳時代前期から中期の調査

第1節 古墳時代集落の概要

平成10年度調査では、当時期の遺構は、竪穴住居跡17基、掘立柱建物跡4基、土坑5基、柵列3基、ピット群3か所、土器溜6か所である。また、クロスナ分断部から約35m東には、自然河川がある。自然河川を除いて検出された遺構は、いずれもクロスナ面にあり、検出面での標高は、30グリッド南側が約3.6mと最も低く、東に向かうにつれて若干高くなり、分断部では約5.0m程度となっている。現在20グリッド付近でクロスナ層は途切れているが、本来のクロスナ面は、自然河川付近まで延びていたものと考えられる。

竪穴住居跡は、調査区西側の3・40グリッドにS I 245～248・253～256・258～261、調査区中央の20グリッドにS I 249～252・257・262がそれぞれ密集し、一部は重複して建てられている。

時期は、天神川I期～V期、古墳時代前期前半から中期初頭と考えられる。

平面形は、方形ないしは長方形が主流で、隅丸方形のものはS I 253・254・260・262の4基である。床面積30㎡以上の大型のものはS I 252で、推定36㎡である。10㎡以下の小型のものはS I 262の6.9㎡で、その他のものは、15～20㎡程度の中規模のものである。

また、住居内では、S I 249・250・252・253では、剣先形鉄製品などの雛形鉄製品も出土している。

大量の土器が廃棄された状態で出土している。このうち、S I 249からは、280個体以上の非常に大量の土器が出土している他、小型仿製鏡、焼成後穿孔された甕などがあり、廃棄に伴う何等かの祭祀が行われた可能性がある。

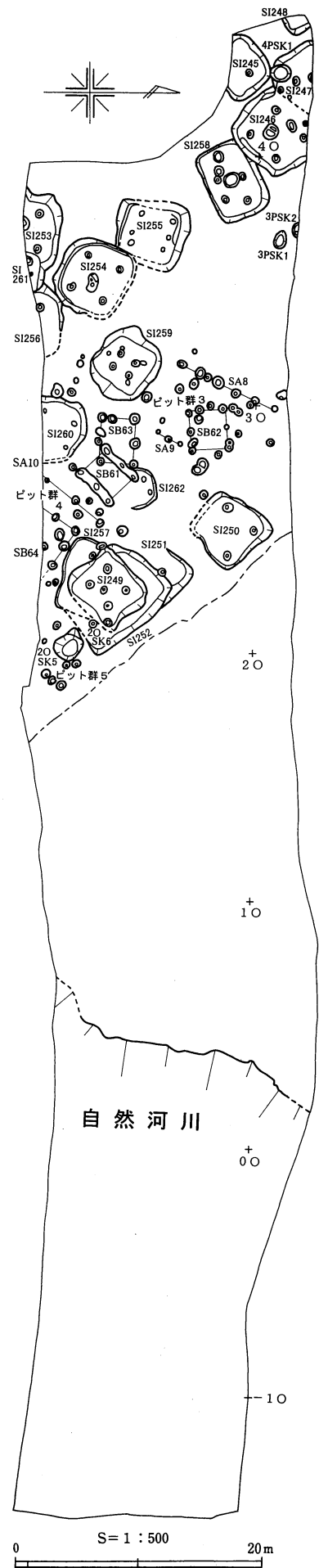
掘立柱建物跡は、4基検出された。掘立柱建物の周囲には、S A 8～10があり、住居とは隔絶した存在であったものと考えられる。特に、S B 61は布掘りの掘立柱建物で、堅牢な上屋構造があったものと推定され、単なる倉庫的な性格ではないと思われる。

その他、集落にともなう遺構として、土坑があるが、いずれも性格は不明である。

また、確実な時期は不明であるが、遺構内から椀形滓（精練滓）、土器片が付着した鉄滓も出土しており、遺跡内で鉄器生産が行われた可能性もある。

この時期、調査区東側に幅40m以上の自然河川がほぼ北流していたものと推定されるが、この河川は、出土遺物から、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったと考えられる。

(岡野)



挿図9 長瀬高浜遺跡古墳時代前期～中期遺構配置図

第2節 竪穴住居跡

S I 245 (挿図10~13、図版2、19、20)

調査区西側の40グリッドにあり、標高約3.23~3.35mの緩やかに西から東側に傾斜する斜面に立地する。北側は4P SK 1によって切られ、S I 246、247も北側に隣接している。

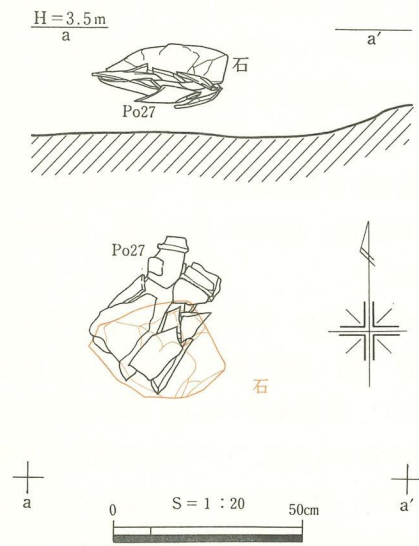
遺存状態はよい。現存するものから判断して、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は、北東から南西長軸4.4m以上、北西から南東短軸4.0m、床面積は9.3㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態のよい北壁で最大76cmを測る。壁溝等は全く検出されなかった。

主柱穴はP 1で、規模は(54×51-20) cmを測る。このP 1に対応するピットが調査区外の南西側にあると考えられ、この住居は2本柱の建物であったと考える。

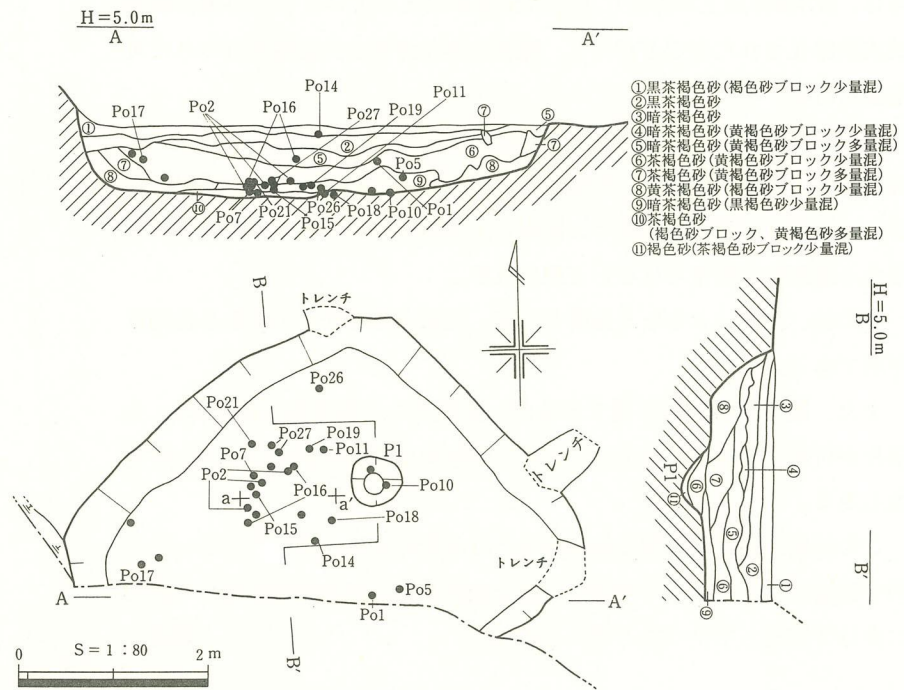
埋砂は自然堆積を窺わせるもので、11層に分層できた。調査区南側壁の土層で、僅かではあるが、床面近く(⑨層底部)の真ん中付近で、炭化物を含む層(厚さ数ミリ・幅2.15m)がみられた。当初は中央ピットが存在し、この埋砂にあたるものではないかとも考えたが、層の厚さが薄く、ピットと考えられる落ち込みを検出できなかった。このため、当遺構に中央ピットは存在しないものとする。なお、検出できたピットの埋砂は2層に分層でき、どちらも茶褐色砂と褐色砂の混じりを基本とする層であった。

出土遺物は、図化できたものに土師器壺Po 1~3、直口壺Po 4、甕Po 5~15、高杯Po 16~19、鼓形器台Po 20、低脚杯Po 21・22、小型丸底壺Po 23、小型器台Po 24、小型丸底鉢Po 25、甌Po 26・27などがある。このうち床面からPo 2、Po 7、Po 11、Po 15、Po 16、Po 18、Po 27が出土している。また、Po 27の甌は横倒しの状態で、その上には大きな石が置かれ、その重さで潰れた状態で出土していた。なお、石自体には使用された痕跡等は一切なかった。

S I 245の時期は、出土遺物等から天神川IV期、古墳時代前期後葉ごろのものと考えられる。(井上)



挿図10 長瀬高浜遺跡 S I 245甌出土状況図



挿図11 長瀬高浜遺跡 S I 245遺構図

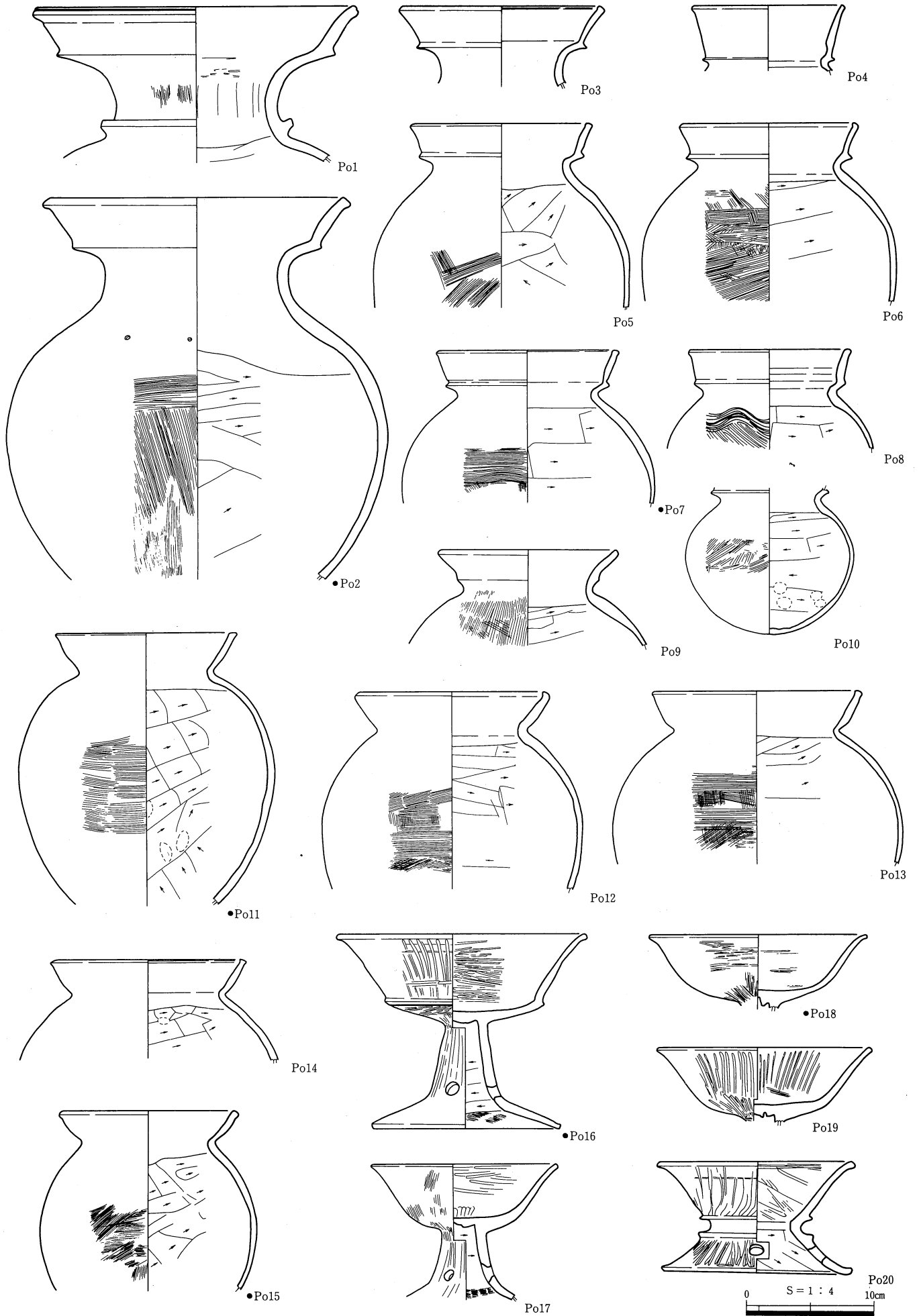
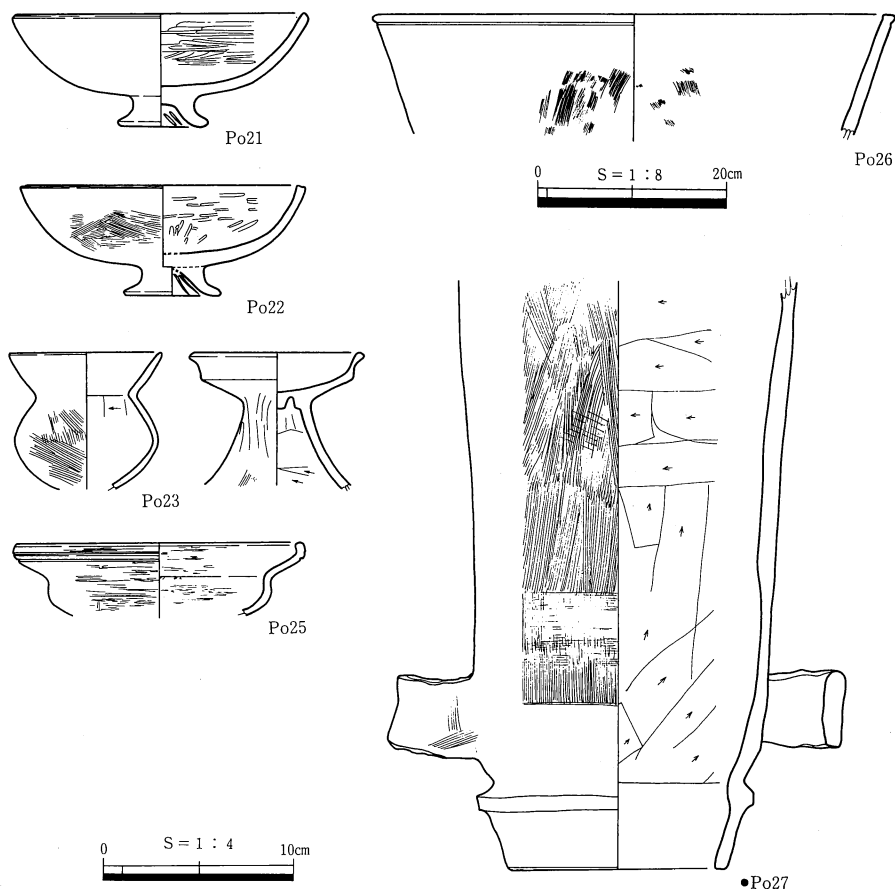


插图12 长瀬高浜遺跡 S1245出土遺物実測図(1)



挿図13 長瀬高浜遺跡 S I 245出土遺物実測図(2)

S I 246 (挿図14~20、図版2、21~25、72)

調査区西側の30・3P、40・4Pグリッドにあり、標高約4m前後のほぼ平坦面に立地する。西側はS I 247と切り合い、南西側にもS I 245が隣接している。また、約5m東側にはS X 97が、2m南側にはS D 13がそれぞれある。

遺存状態はよいが、北側が調査区外に続いており、S I 247との切り合い部分が不明確であったが、残存する壁から、平面は隅丸方形か隅丸長方形を呈すものであったと思われる。規模は北西から南東5.23m以上、北東から南西5.98m、床面積は約25㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい東壁で57cmを測る。壁溝は、南東側と南西側の2か所で検出された。幅約13~40cm、深さ11~13cmを測り、断面U字状を呈すものである。

主柱穴はP 1~P 4で、規模はP 1 (67×58—35) cm、P 2 (53×42—39) cm、P 3 (60×52—64) cm、P 4 (62×59—76) cmを測る。主柱穴間距離はP 1~P 2間から順に2.4m、2.26m、2.56m、2.12mである。

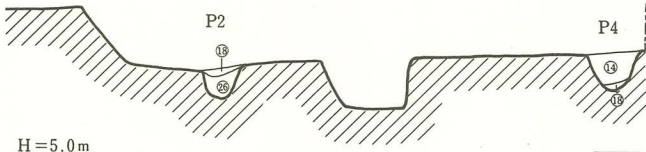
P 5は中央ピットと考えられ、二段掘りされている。規模は(129×97—61) cmを測り、最深部との差は約35 cm程度である。最底部付近の埋土には僅かながら炭化物が混入していた。

なお、その他に検出された2個のピットについての用途は不明であるが、P 6は位置的に考えて、補助柱的な役割を担っていたものと考えられる。

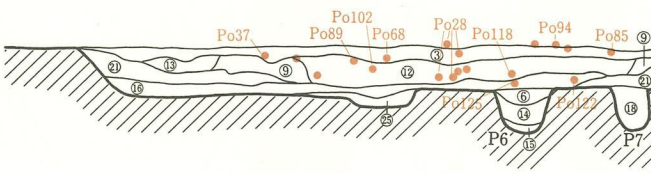
また、P 5に近くの床面からは、炭化材 (No1577) が少量出土している。樹種同定の結果すぎであることが判明した。焼失住居の可能性もあるが、出土した炭化材が少なく、埋砂からも炭化材が含まれている層は検出できなかったため、焼失住居ではないと考える。

埋砂は、自然堆積したものと考えられ、9層に分層できた。埋砂④層は、黒褐色砂ではないが粘質で、土器片を多数含む。なお、埋砂中の炭化物はわずかにP 5の最底部付近の埋砂に含まれているのみであった。

H=5.0m
E

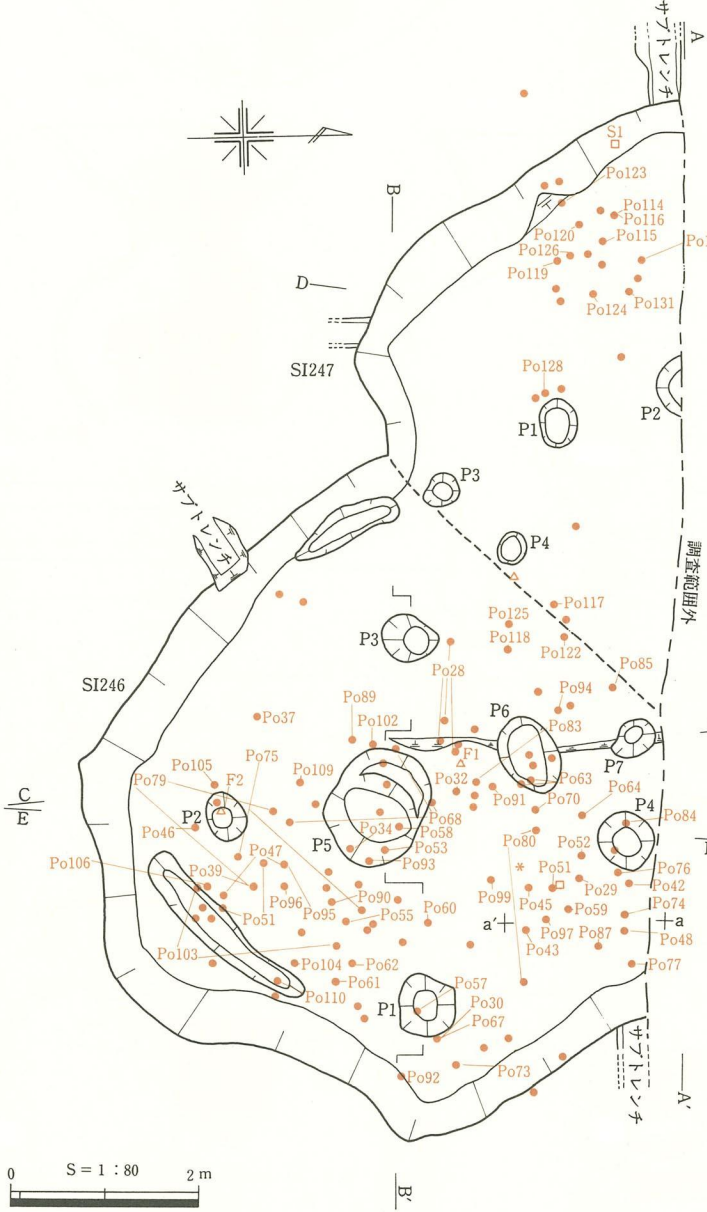
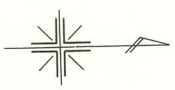
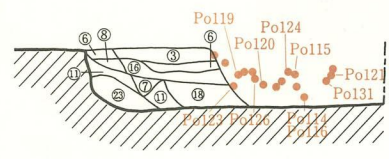


H=5.0m
C

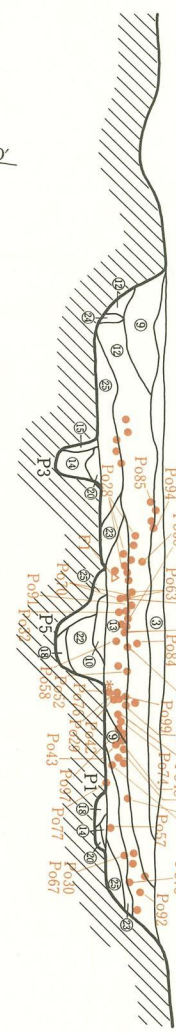


- ① 黒褐色砂 (褐色砂少量含む)
- ② 黒褐色砂
- ③ 黒褐色砂 (暗褐色砂少量含む)
- ④ 黒褐色砂 (暗褐色砂、褐色砂ブロック少量含む)
- ⑤ 黒褐色砂 (黄褐色砂少量含む)
- ⑥ 黒褐色砂 (茶褐色砂ブロック少量含む)
- ⑦ 黒褐色砂 (茶褐色砂ブロック微量含む)
- ⑧ 黒褐色砂 (黄褐色砂多量と褐色砂粒少量含む)
- ⑨ 暗茶褐色砂 (茶褐色砂少量含む)
- ⑩ 暗茶褐色砂 (黄褐色砂ブロック少量含む)
- ⑪ 暗茶褐色砂 (茶褐色砂多量含む)
- ⑫ 暗茶褐色砂 (黒褐色砂少量含む)
- ⑬ 暗茶褐色砂 (黒褐色砂混、少し粘質っぽい)
- ⑭ 暗茶褐色砂
- ⑮ 暗茶褐色砂 (褐色砂少量含む)
- ⑯ 茶褐色砂 (黄褐色砂ブロック少量含む)
- ⑰ 茶褐色砂 (黄褐色砂、褐色砂ブロック共に少量含む)
- ⑱ 茶褐色砂 (褐色砂ブロック少量含む)
- ⑲ 茶褐色砂 (黄褐色砂ブロック多量含む)
- ⑳ 茶褐色砂 (黄褐色砂)
- ㉑ 茶褐色砂
- ㉒ 黄褐色砂 (褐色砂ブロック少量含む)
- ㉓ 黄褐色砂 (茶褐色砂ブロック多量含む)
- ㉔ 黄褐色砂 (褐色砂ブロック多量含む)
- ㉕ 黄褐色砂

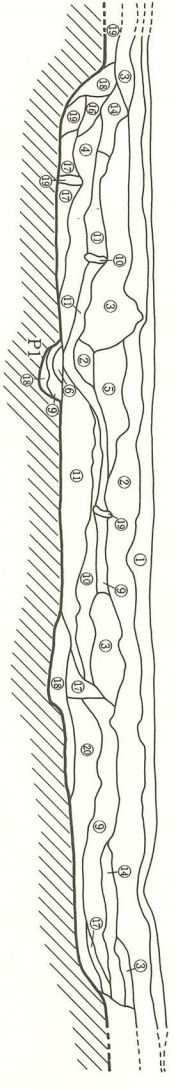
H=5.0m
D



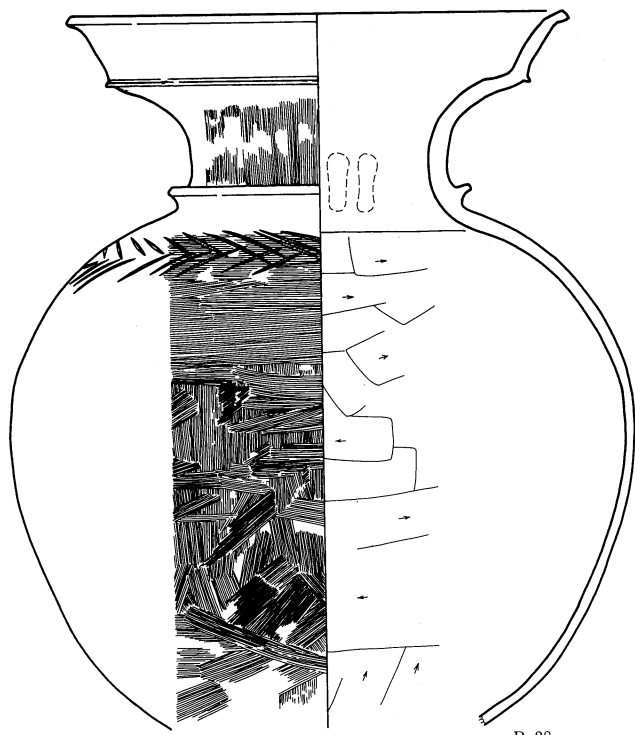
H=5.0m
B



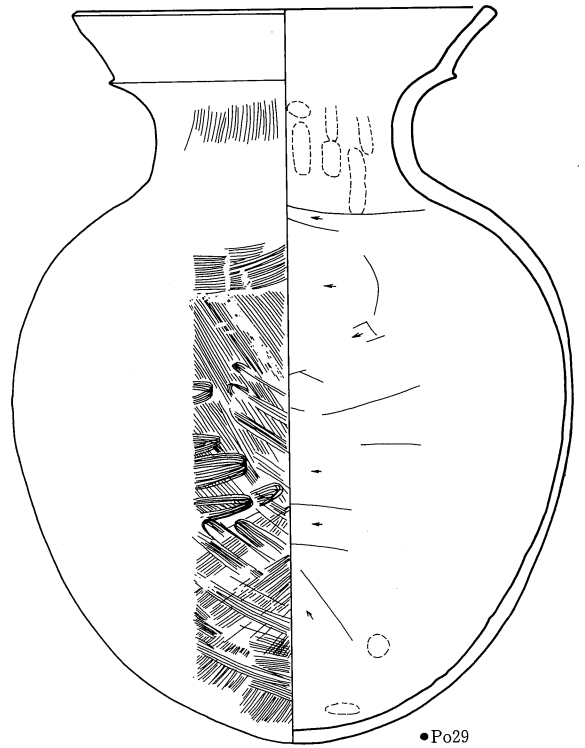
H=5.0m
A



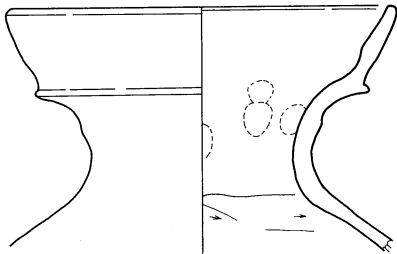
挿図14 長瀬高浜遺跡 S I 246・247遺構図



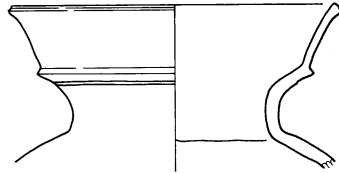
Po28



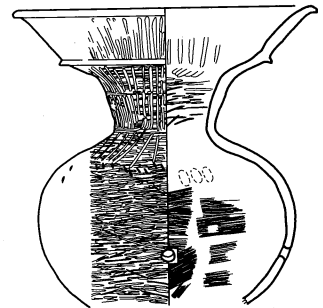
●Po29



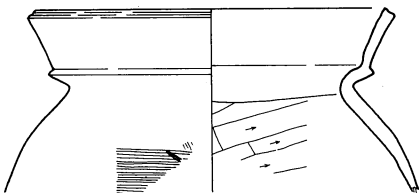
Po30



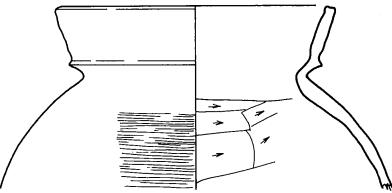
Po31



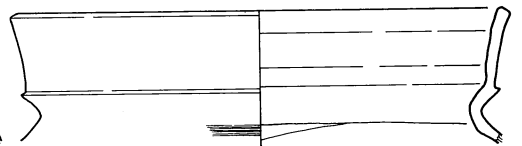
●Po32



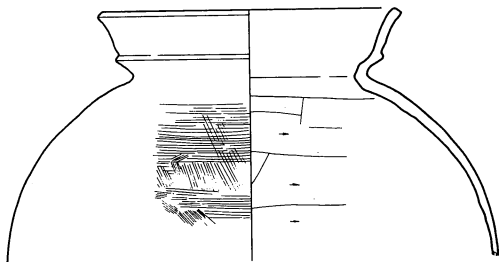
Po33



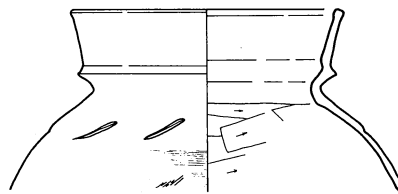
●Po34



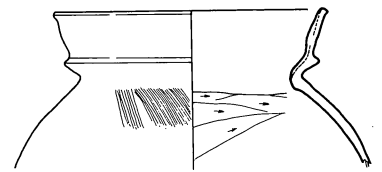
Po35



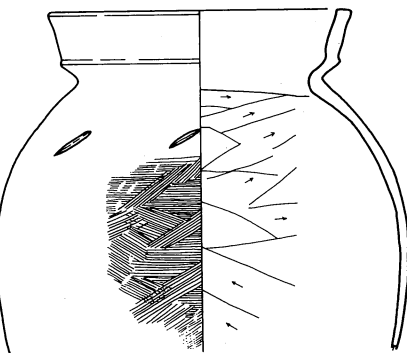
Po36



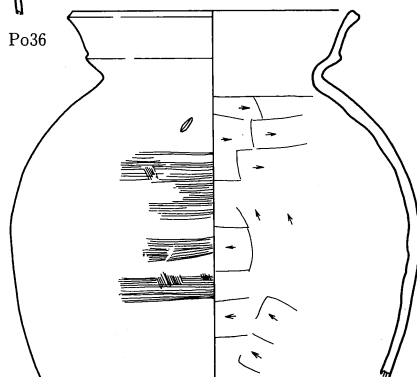
Po37



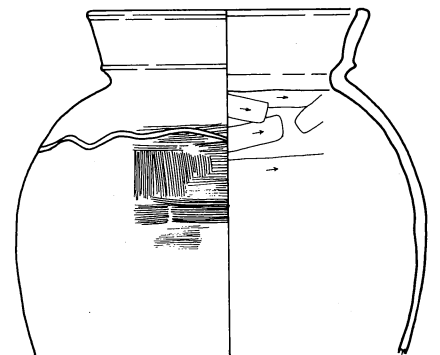
Po38



●Po39



Po40



●Po41

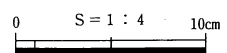
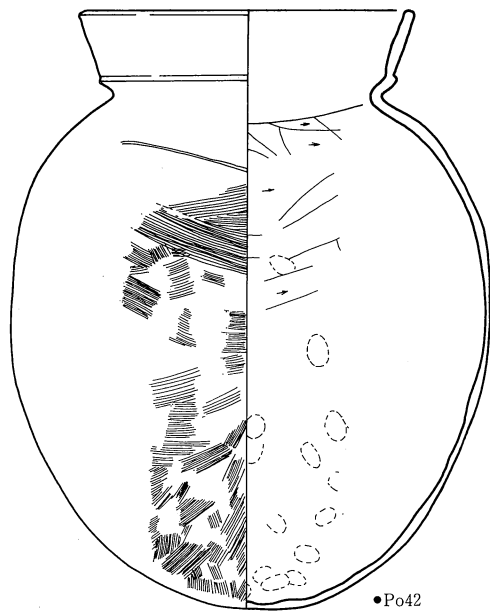
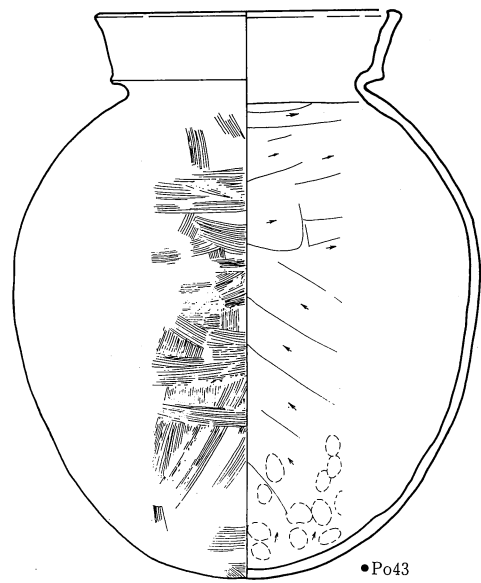


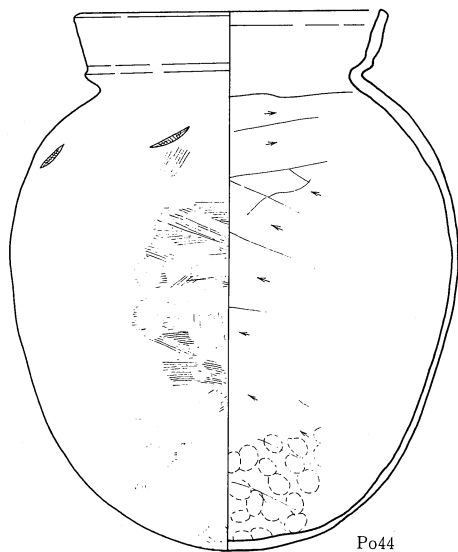
插图15 長瀬高浜遺跡S I 246出土遺物実測図(1)



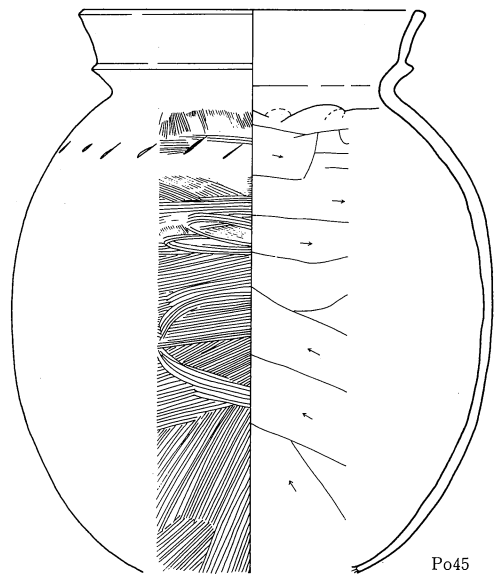
●Po42



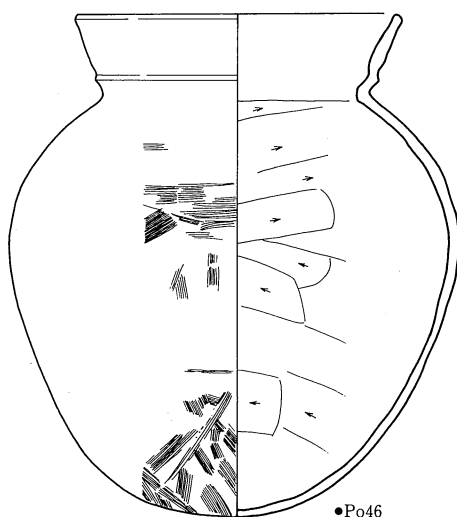
●Po43



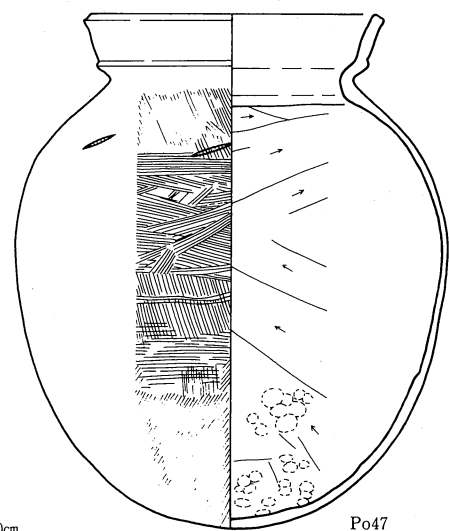
Po44



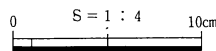
Po45



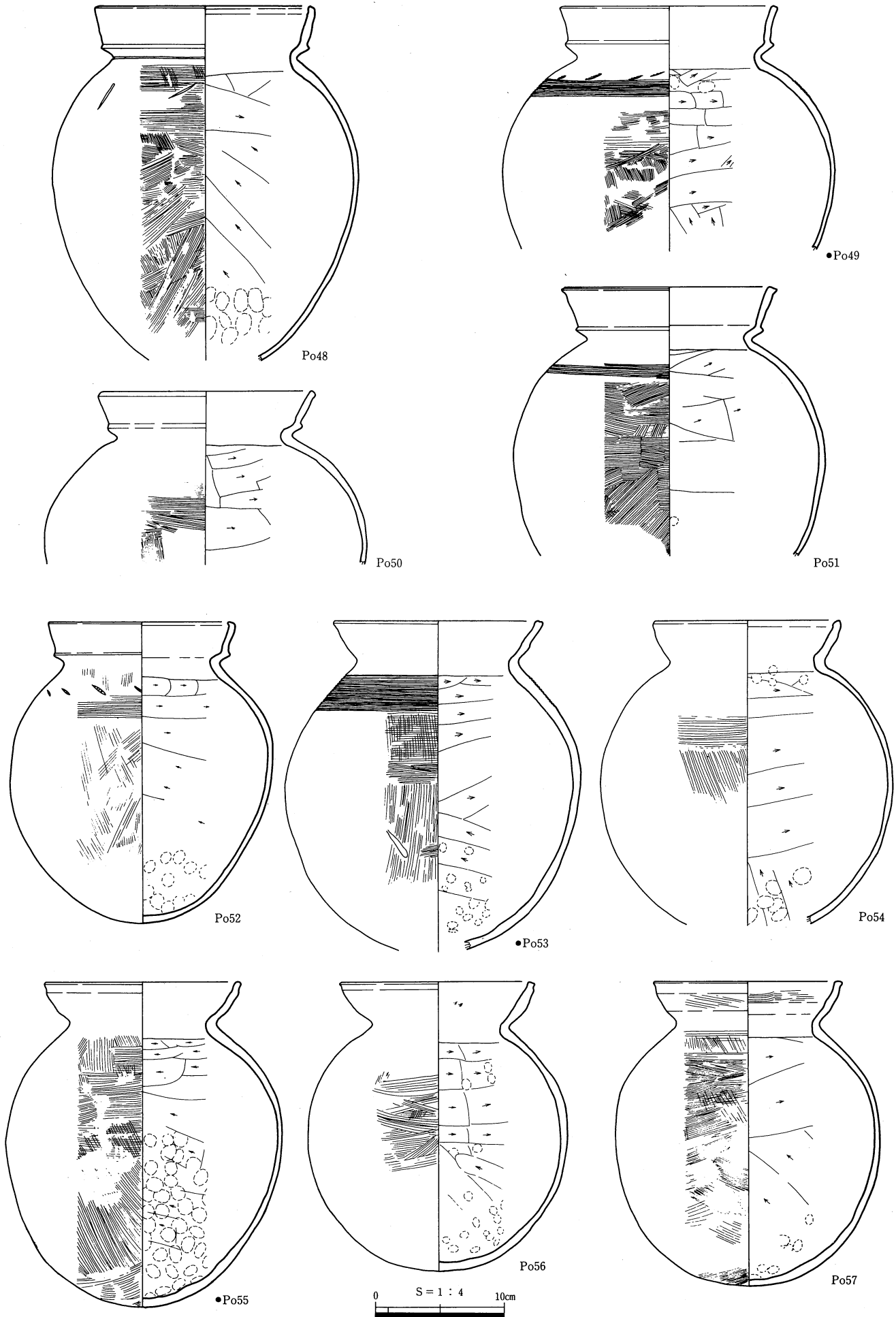
●Po46



Po47



挿図16 長瀬高浜遺跡 S I 246出土遺物実測図(2)



挿図17 長瀬高浜遺跡 S I 246出土遺物実測図(3)

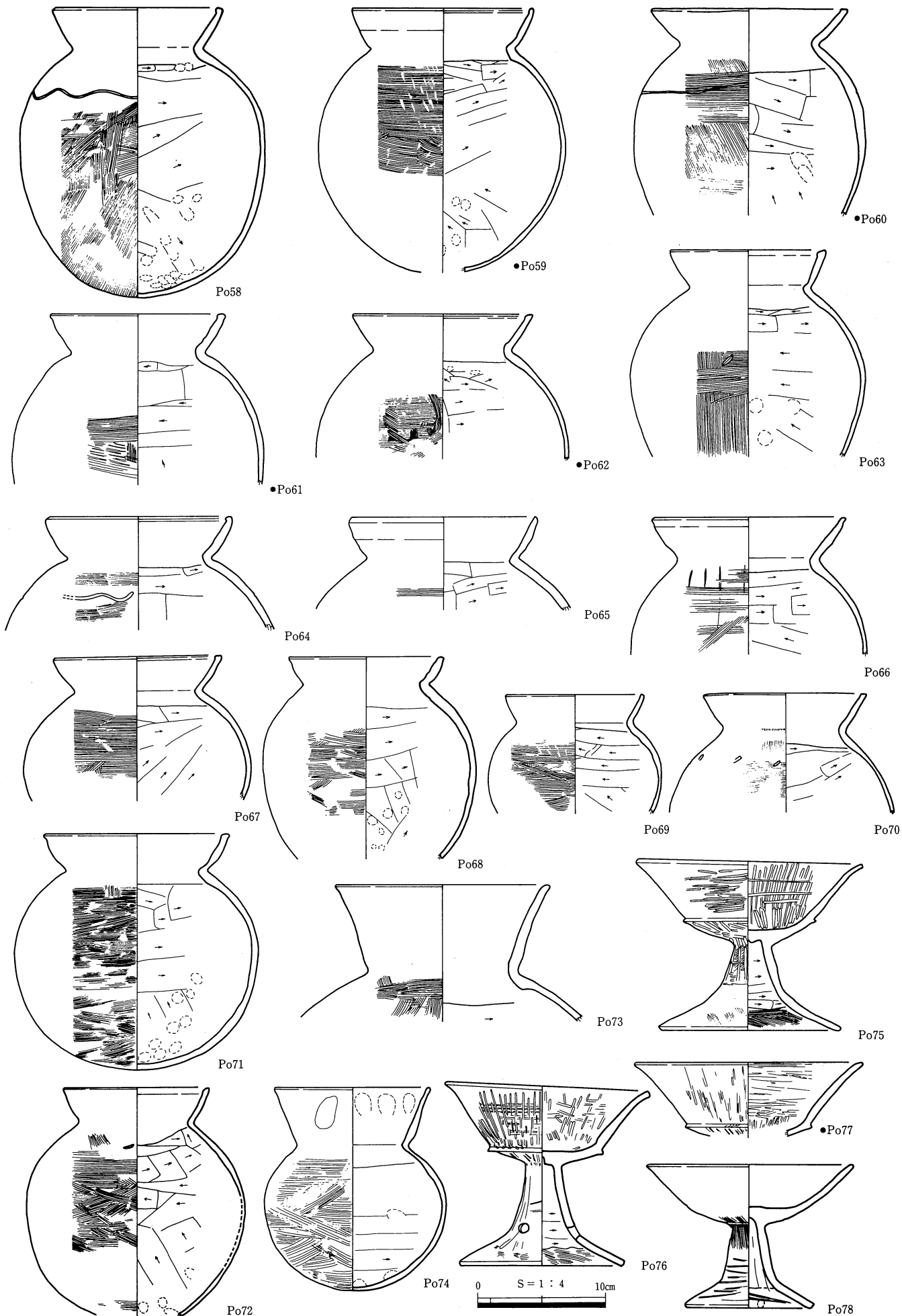


插图18 長瀬高浜遺跡 S1246出土遺物実測図(4)

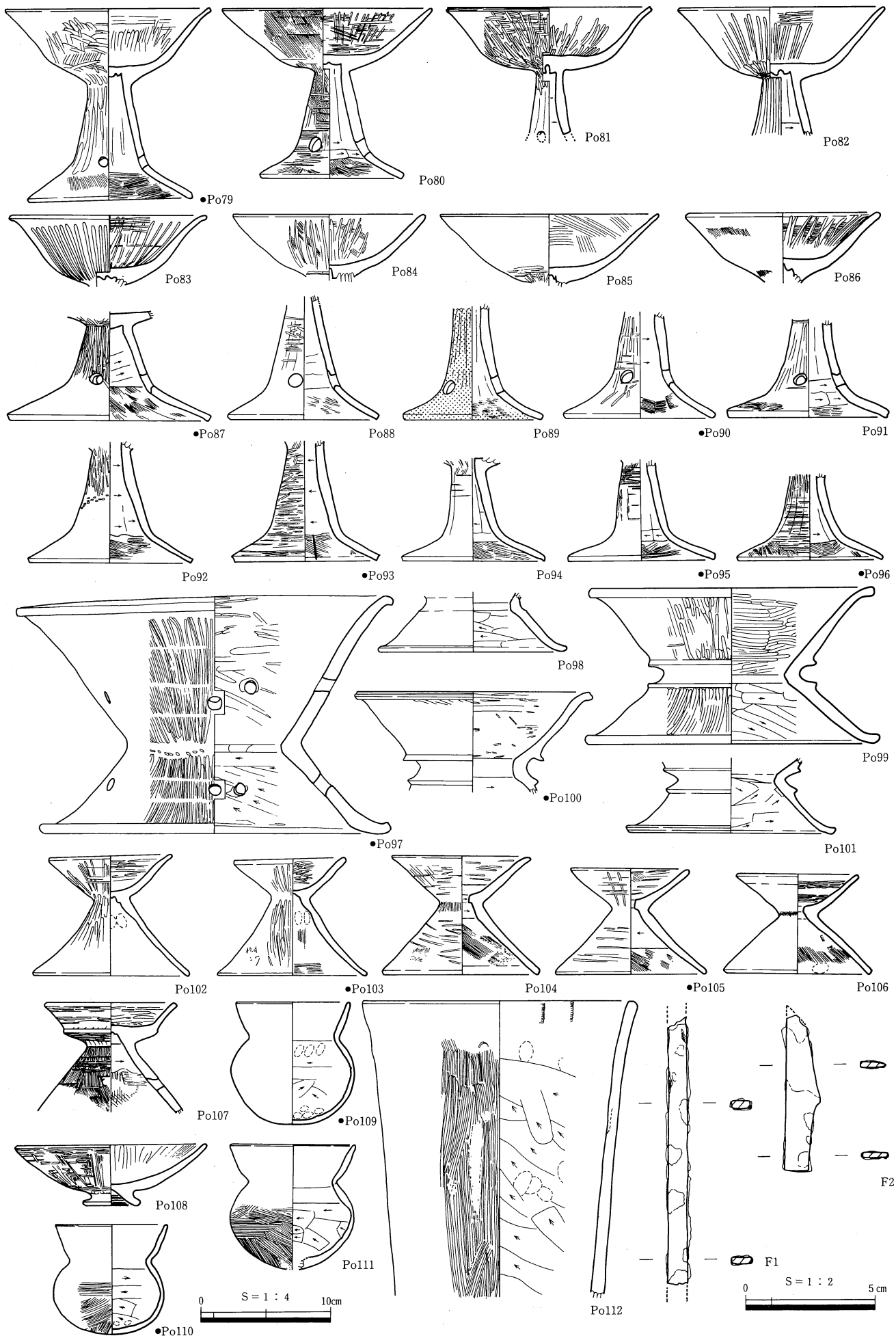


插图19 長瀬高浜遺跡SI246出土遺物実測図(5)

ほとんどの遺物は埋砂④層から下層においての出土であったが、床面近くの遺物では特に北東側において密集するように多数出土した。図化できたものに土師器壺Po28~32、甕Po33~72、直口壺Po73・74、高杯Po75~96、鼓形器台Po97~101、小型器台Po102~107、低脚杯Po108、小型丸底壺Po109~111、甌Po112、不明鉄製品F1、雛形鉄製品(刀子形)F2などがある。このうち、Po29、Po32、Po34、Po39~Po43、Po46、Po49、Po53、Po55、Po59、Po60~Po63、Po77、Po79、Po87、Po90、Po93、Po95~Po97、Po100、Po103、Po105、Po109、Po110、F1は床面から、Po63はP6内からの出土遺物である。

また、埋砂中より出土した椀形滓(No1123)を分析した結果、精練滓を砂質部に放出したものと推定され、遺跡内で製鉄をおこなった施設が存在した可能性がある。

S I 246の時期は、床面出土遺物等から判断して、天神川III期、古墳時代前期中葉ごろと考えられる。また、住居内床面から出土していた炭化材(No1577、Beta-123123)について年代測定をおこなったところ、1700±50 B.P.(A.D.350年)という結果が得られた。(井上)

S I 247 (挿図14・21、図版3、26)

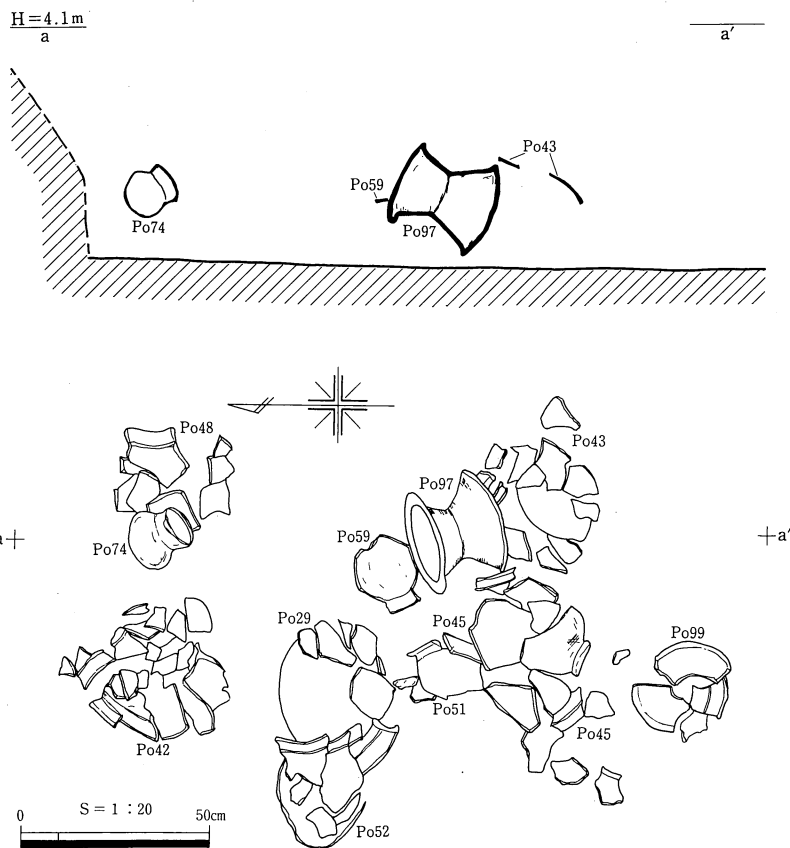
調査区北西側の4Pグリッドにあり、標高約4mのほぼ平坦面に立地する。東側ではS I 246と切り合い、南側は4P S K 1に切られている。土層の切り合い、出土遺物から、S I 247がS I 246よりも新しいと考える。また、西側1mにS I 248、南側にS I 245が隣接している。さらに、この遺構上層で土器溜4を検出している。

遺存状態は比較的よい。平面形は北側が調査区外へ続いているため全体は不明瞭であるが、隅丸方形か、隅丸長方形を呈すと考えられる。規模は北西から南東4.54m以上、北東から南西4.4m、床面積は11㎡以上を測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい西側壁で60cmを測る。

支柱穴はP1で、規模は(54×40—18)cmを測り、埋砂中から小さな土師器片が出土している。その他の支柱穴は調査区外にある。また、中央ピットはP2と思われる。比較的しっかり掘り込まれ、埋砂からもわずかな土師器片が出土している。埋砂には炭化材等は一切含まれていなかった。その他、この遺構からは用途不明のピット2個を検出している。これらのピットは、S I 246とS I 247の切り合い部分にあるため、S I 246に伴う可能性も捨て切れないが、推定される遺構範囲から判断してS I 247に伴うものとする。

埋砂は17層に分層できた。これらは、調査区北壁土層などの観察から、住居中央部に向かって流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積したものとする。

出土遺物は、図化できたものに土師器壺Po113、甕Po114~120、高杯Po121~125、鼓形器台Po126、低脚杯



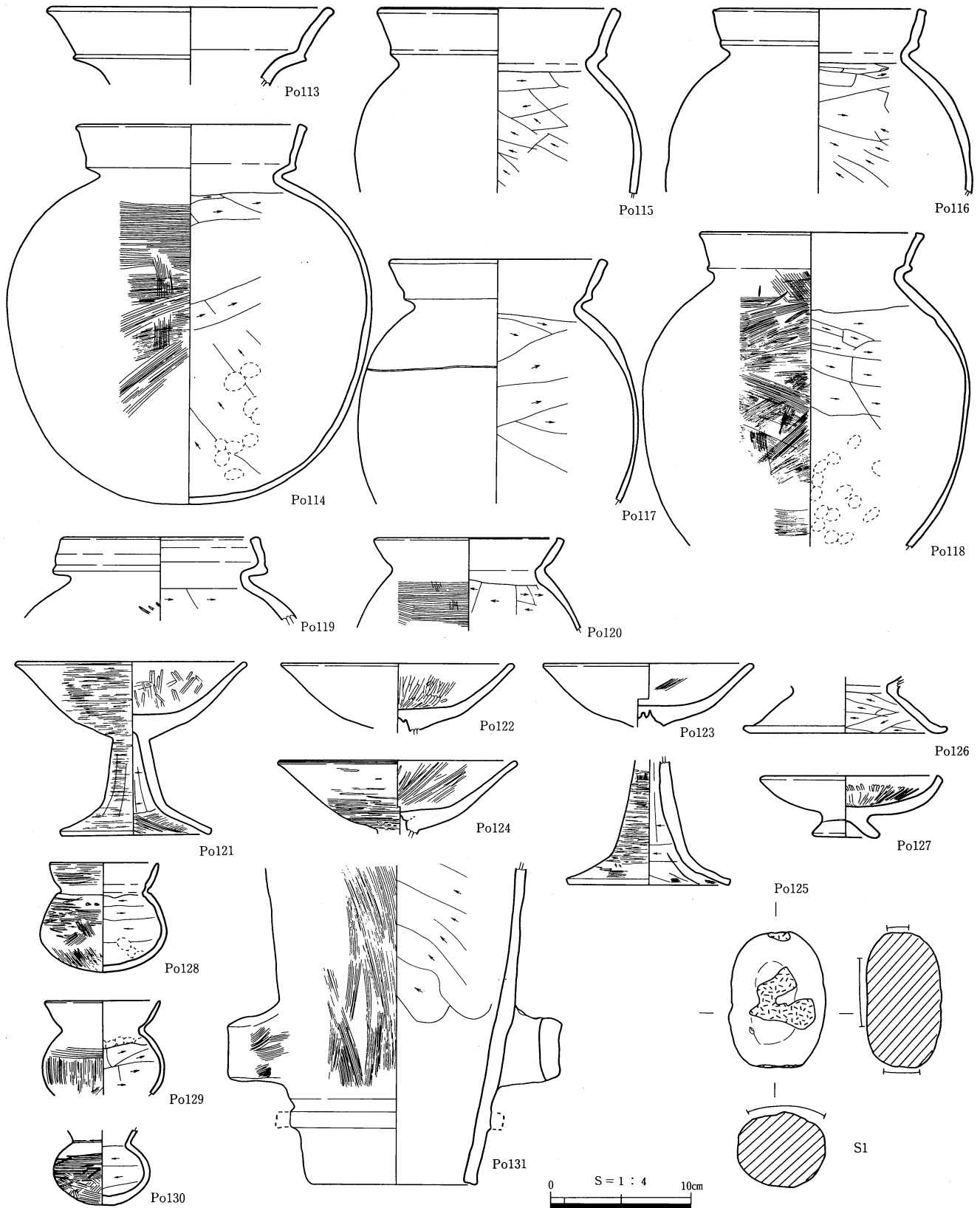
挿図20 長瀬高浜遺跡 S I 246床面遺物出土状況図

Po127、小型丸底壺Po128~130、甑Po131、敲石S1がある。床面出土の遺物はないが、埋砂下層からPo114~117・Po119~128・Po130・Po131が出土している。

また、埋砂中から出土した鉄滓（No1993）は、精練の反応がやや進行した精練滓であることが判明した。

埋砂下層の遺物から判断して、天神川IV期、古墳時代前期後葉ごろのものと考えられる。

(井上)



挿図21 長瀬高浜遺跡S1247出土遺物実測図

S I 248 (挿図22・23、図版3)

調査区的最も西側際の4Pグリッドにあり、標高約4.0mのほぼ平坦面に立地する。東側1mにはS I 247が、約3m南東側にはS I 245がそれぞれ位置している。

調査区際からの検出であるため、全体の約4分の1程度しか検出することができず、全体の明確な形態はわからないが、隅丸方形か隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は、北西から南東1.50m以上、北東から南西1.35m以上、床面積は1.5㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態のよい東壁で最大28cmを測る。壁溝等は全く検出されなかった。

支柱穴、ピット等も全く検出できなかったが、調査区外にあると思われる。

埋砂は6層に分層できた。これらはいずれも壁際から住居中央部に向かい、流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積した状況が窺われる。

出土遺物は少なく、わずかな土師器片が埋砂中から出土したのみである。図化できたものは、土師器高杯脚部Po132・Po133等である。このうち、Po133は埋砂下層からの出土遺物である。その他の出土遺物は周辺から出土したものである。

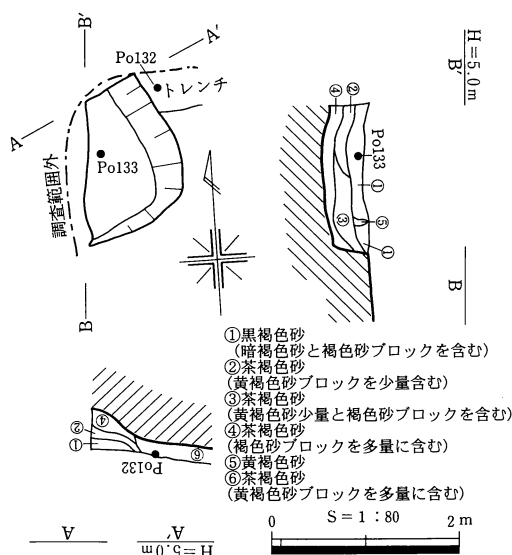
時期判断できる遺物はわずかであるが、周辺の竪穴住居跡とほぼ同時期のものと考えられ、古墳時代前期ごろのものと考えられる。(井上)

S I 249・251・252、2 O S K 6 (挿図24~44、図版3、27~46、71、72)

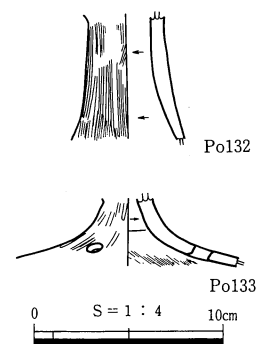
調査区西側の1・2Oグリッドにあり、標高4.5~5.1mの南西側へ緩やかに傾斜する斜面上に立地する。S I 249・251・252・257の4棟の住居が重複して作られており、切り合い関係からS I 251→S I 252→S I 249の順で作られたものと考えられる。S I 257については、後述する。2 O S K 6は、S I 249の東コーナーに作られている。

S I 249は、この3棟中では最も遺存状態がよく、S X 98周溝によって一部切られているが平面いびつな方形を呈す。規模は、北西~南東4.18m、北東~南西4.32m、床面積19㎡を測る。壁高は、最も遺存状態のよい東壁で最大68cmを測る。

支柱穴はP 1~P 4の4個で、P 1 (58×48—33) cm、P 2 (62×54—57) cm、P 3 (61×58—58) cm、P 4 (67×47—58) cmを測る。支柱穴間距離は、P 1~P 2間から順に、2.0m、2.2m、1.9m、2.0mである。P 1



挿図22 長瀬高浜遺跡 S I 248遺構図



挿図23 長瀬高浜遺跡 S I 248出土遺物実測図

内から甕P o243・280、低脚杯P o353、P 2内から甕P o182が出土している。

また、住居中央やや南寄りに中央ピットP 5がある。(58×49—30) cmを測り、二段掘りとなっている。埋砂は、3層に分層できた。

S I 249の南東コーナーに**2 O S K 6**が作られている。切り合いが認められないことから、住居に伴うものと考えられる。長軸1.44m、短軸復元1.3m前後、深さ0.52mを測り、底面は二段掘りになっている。

出土遺物には、土師器甕P o382～391、高杯P o392～396、小型丸底壺P o397・398、鼓形器台P o399・400がある。このうち、底面からはP o397が出土している。

埋砂は、14層に分層できた。このうち、⑧～⑩層は炭化物を含み、埋砂下層中から炭化材も検出されていることから、焼失したのと考えられる。

出土遺物には、図化できたものに壺9個体、甕146個体、直口壺5個体、小型壺3個体、高杯33個体、鼓形器台10個体、小型器台10個体、低脚杯5個体、小型丸底壺18個体、椀8個体、土玉1個、甑1個体、その他、図化できなかったが、高杯杯部24個体、脚部15個体など計280個体を越える非常に大量の土師器がある。

また、土器以外にも、埋砂上層から下層で鉄鎌F 3、鉄鏃F 4、雛形鉄製品(剣先形)F 5、不明鉄製品F 6・7、砥石S 2、敲石S 3、仿製小型重圏文鏡B 1が出土している。

このうち床面出土の土器は、ほとんど完形かそれに近く復元できるものが多く、また、埋砂下層中のものでも高杯など、火にかけられないものにもススが附着するものがあり、焼失以前に置かれたものも含まれているものと考えられる。

埋砂下層出土の炭化材No3644はマツと同定された。また鉄滓No2531は、分析の結果砂鉄原料の精錬滓と同定された。

S I 251は、大半をS I 252によって切られており遺存状態が悪いが、遺存する壁から平面隅丸方形を呈すものと考えられる。規模は、北西～南東1.7m、北東～南西2.8m、床面積3㎡以上を測る。壁高は最も遺存状態のよい東壁で最大59cmを測る。

主柱穴は(55×50—15) cmを測るP 1のみ検出できた。本来は、2ないし4本柱であったと考えられる。

埋砂は、3層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

出土遺物には、土師器甕P o401～413、高杯P o414、直口壺P o415、低脚杯P o416・417がある。

このうち、埋砂下層からはP o401・410が出土し、その他のものは埋砂中および上層からの出土である。

S I 252は、中央部分をS I 249、S X 98周溝によって切られているが、遺存する壁から平面長方形を呈すものと考えられる。規模は、北西～南東7.4m、北東～南西5.3mを測るものと推定される。床面積は南西側を復元して36㎡と推定される。壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で77cmを測る。

主柱穴は、P 1、P 2の2個検出できたが、本来は4本柱であったものと考えられる。規模はP 1(57×46—25) cm、P 2(51×49—24) cmを測る。

埋砂は、5層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

出土遺物には、土師器壺P o418、甕P o419～436、高杯P o439～441、鼓形器台P o442・443、小型器台P o444、低脚杯P o445、小型丸底壺P o446～449、砥石S 4、ガラス小玉J 1、雛形鉄製品(剣先形)F 8がある。

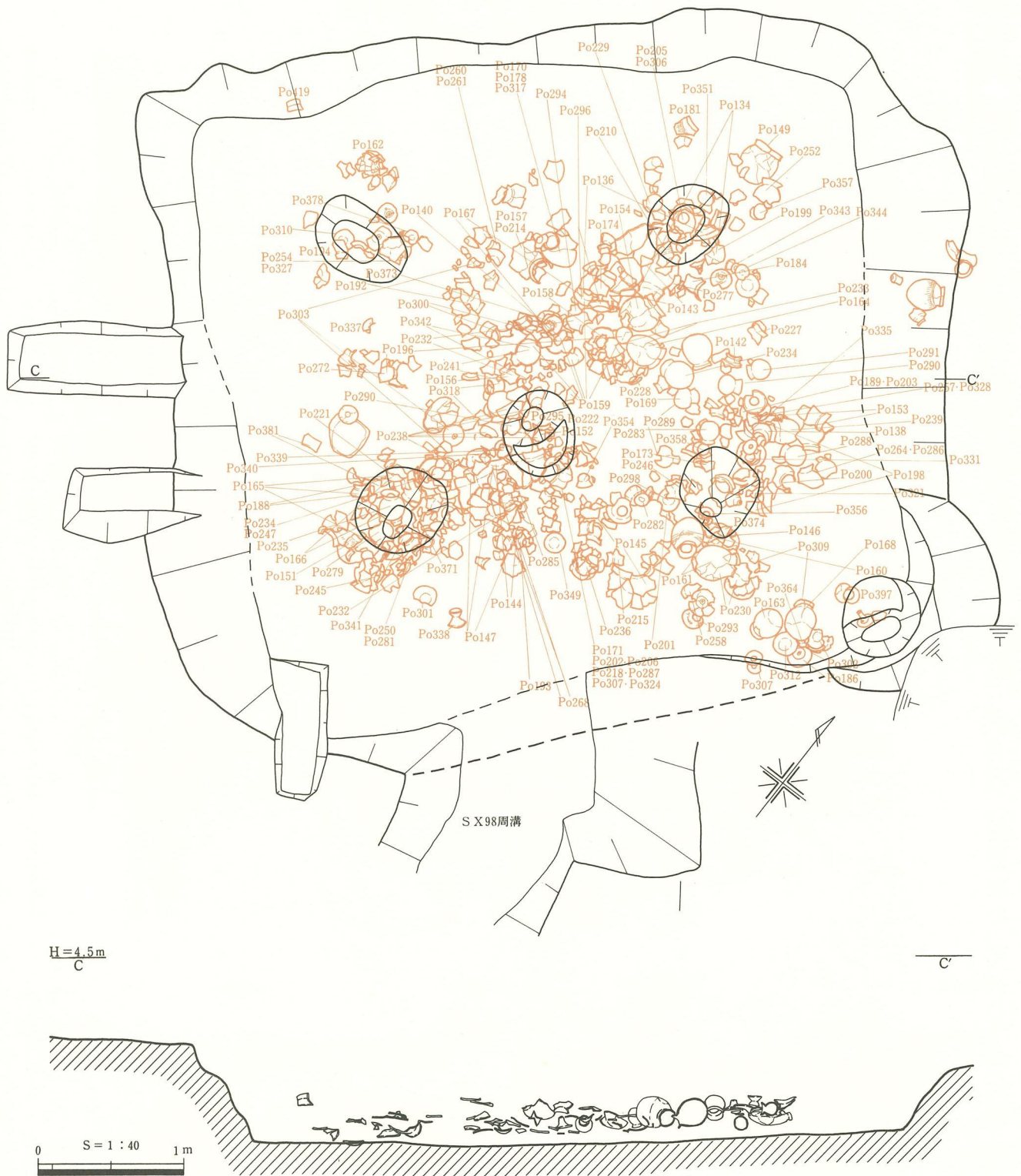
このうち、南東床面からP o425・426が潰れた状態で、埋砂下層からP o422～424・427・431・436・437・439・440・445が出土した。その他のものは、埋砂中および上層からの出土である。

S I 249・251・252、**2 O S K 6**の時期は、出土遺物からS I 249・**2 O S K 6**は、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉ごろ、S I 251・252は、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと考えられる。

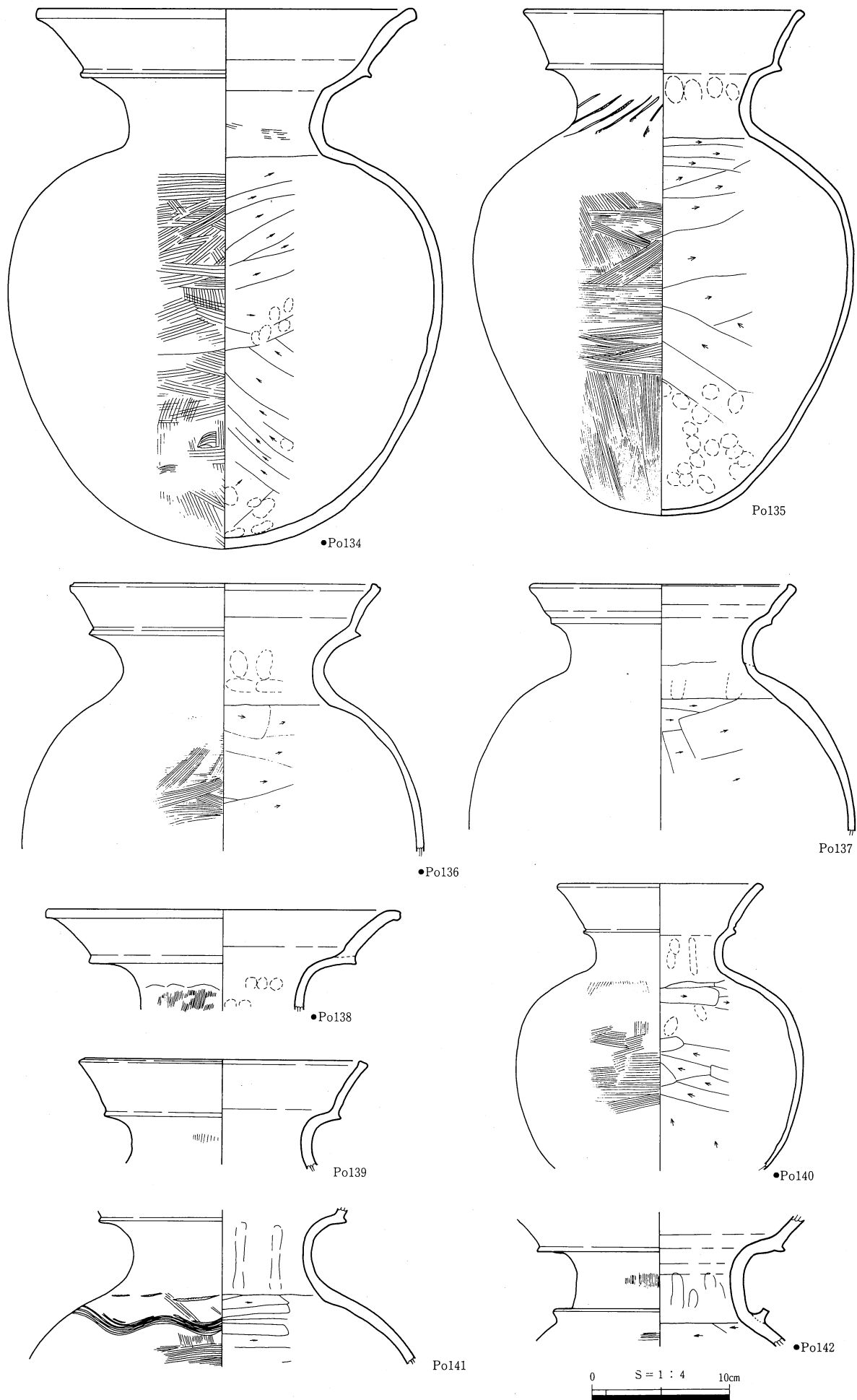
S I 249は、非常に大量の土器が出土しているが、埋砂上層出土のものと床面出土のものが接合する個体があり、焼失に際し、他所から集められ廃棄されたものもあると考えられる。また、焼成後穿孔された甕、雛形鉄製品、小型青銅鏡など、住居内での祭祀または、土器廃棄に伴う祭祀があったものと推定される。(牧本)



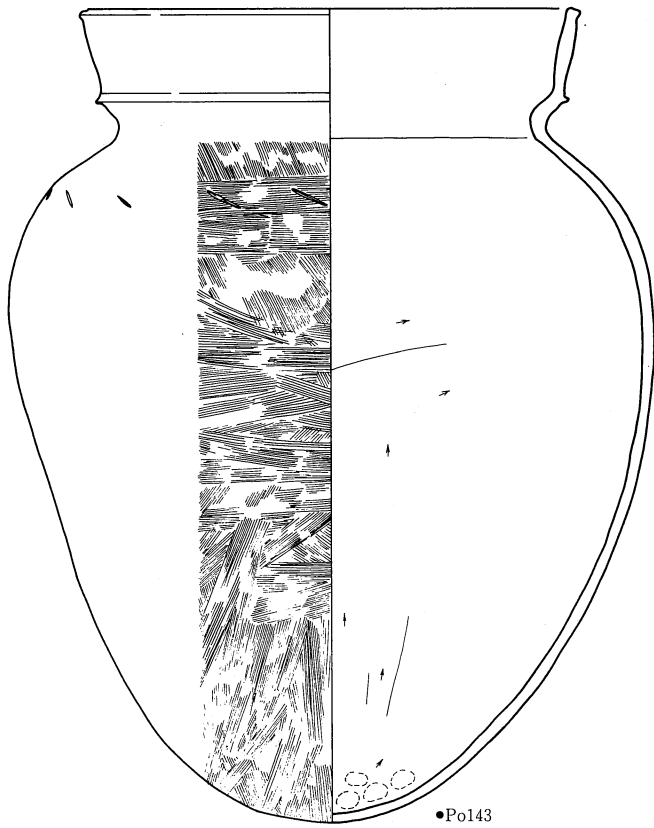
挿図24 長瀬高浜遺跡S I 249・251・252・2 O SK 6遺構図



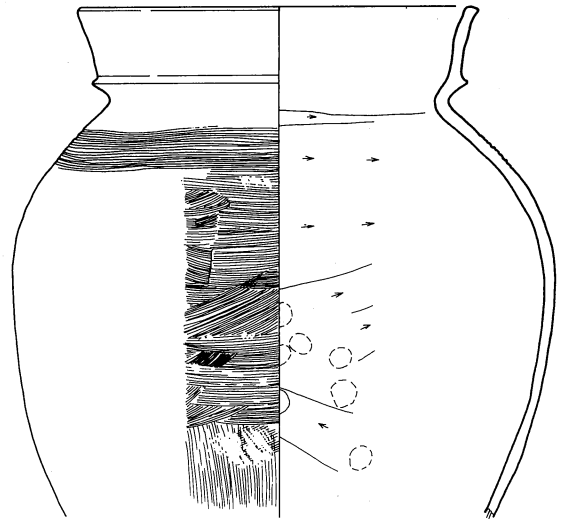
挿図25 長瀬高浜遺跡 S I 249遺物出土状況図



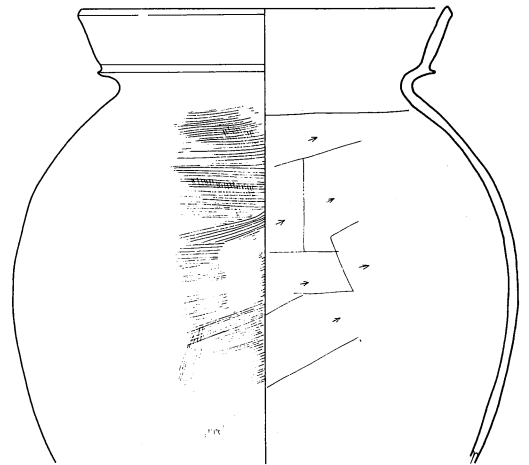
挿図26 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(1)



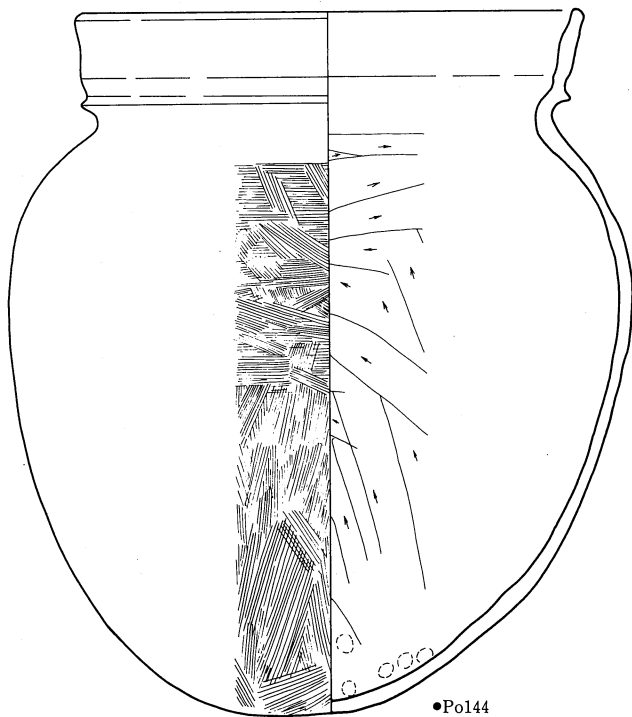
●Po143



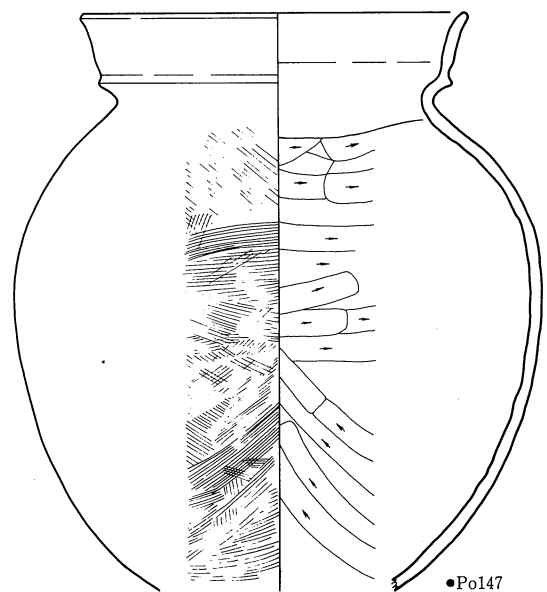
●Po145



●Po146



●Po144



●Po147

0 S = 1 : 4 10cm

插图27 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(2)

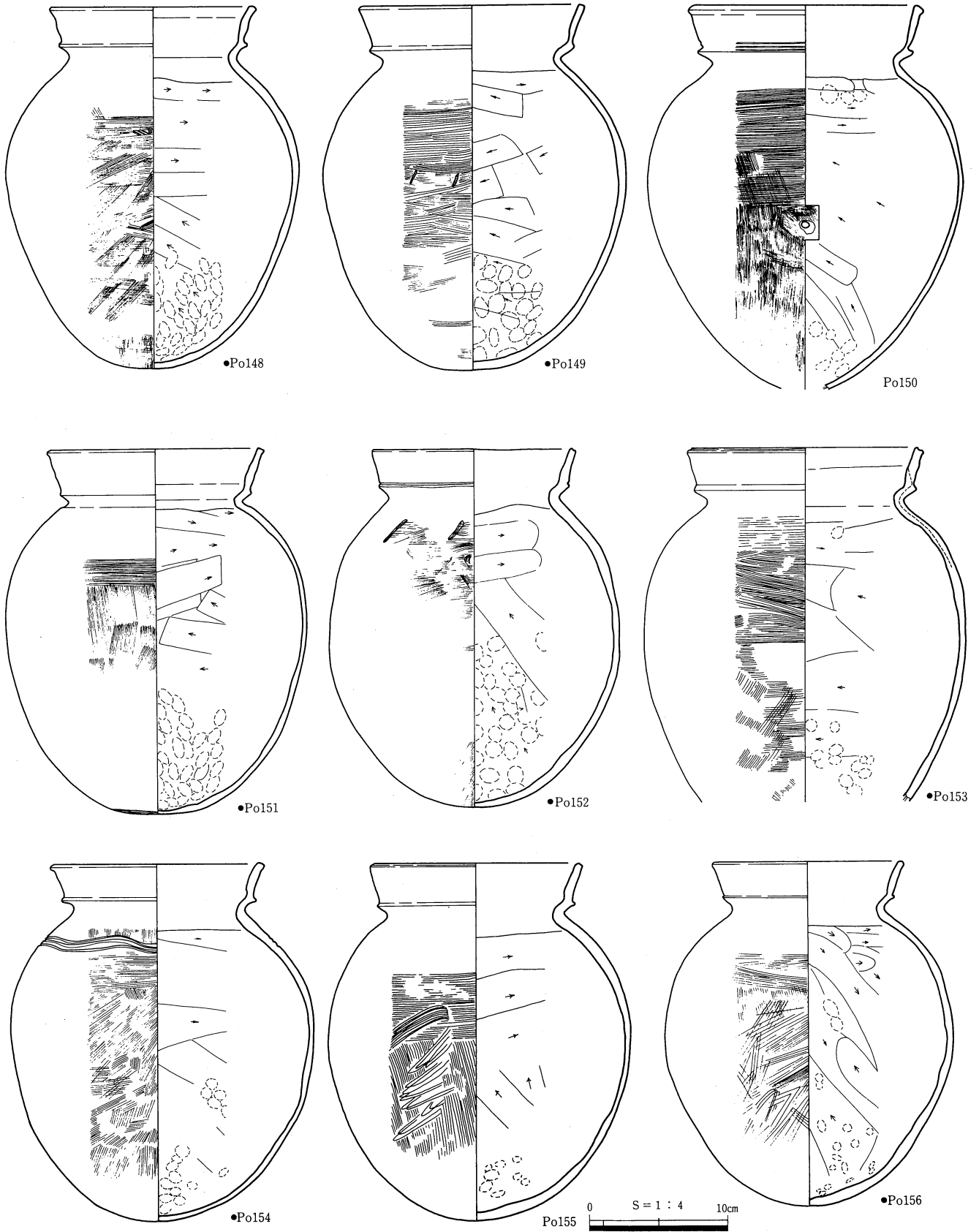
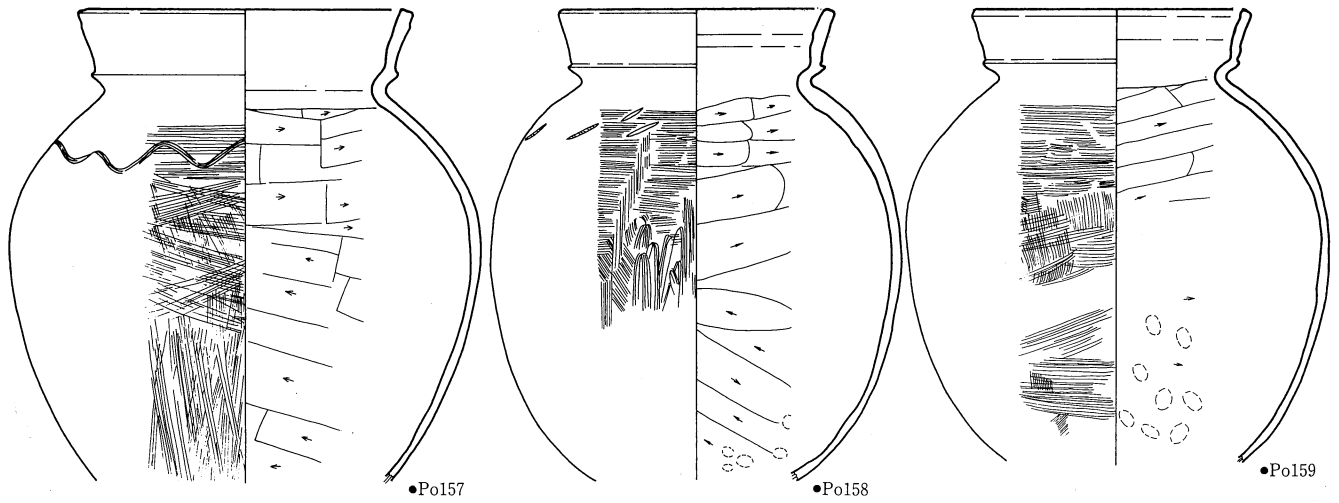


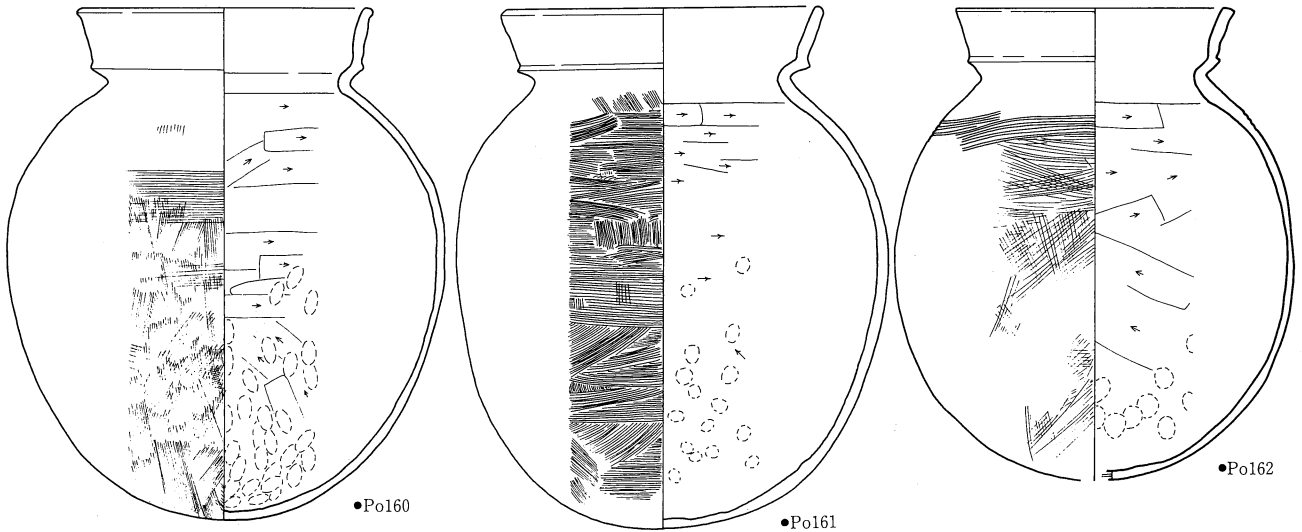
插图28 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(3)



●Po157

●Po158

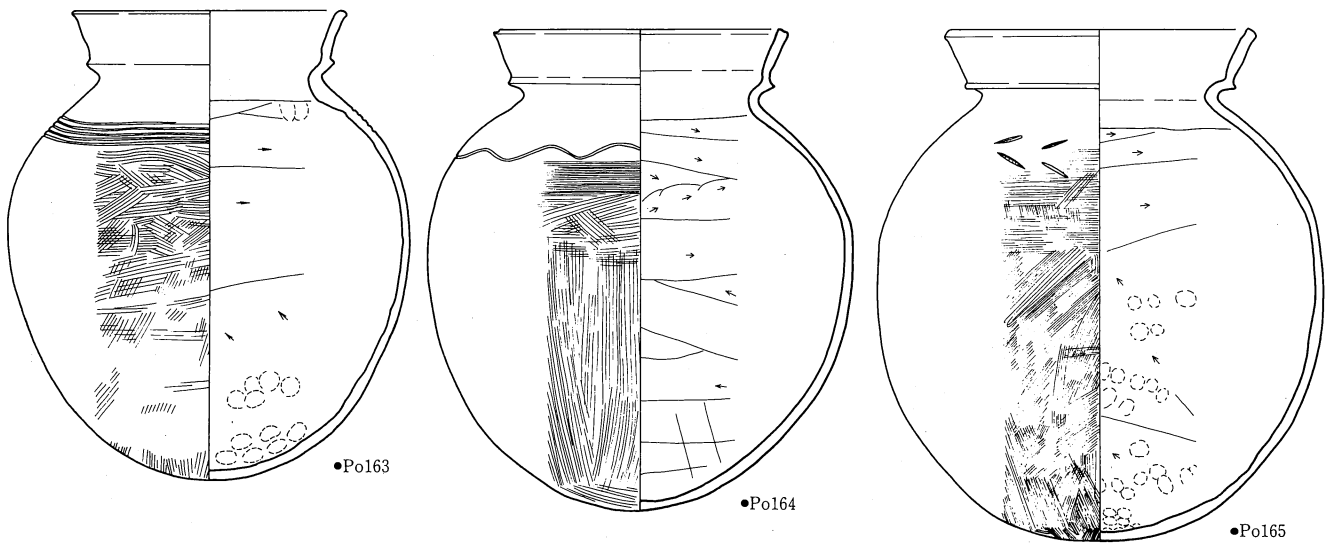
●Po159



●Po160

●Po161

●Po162



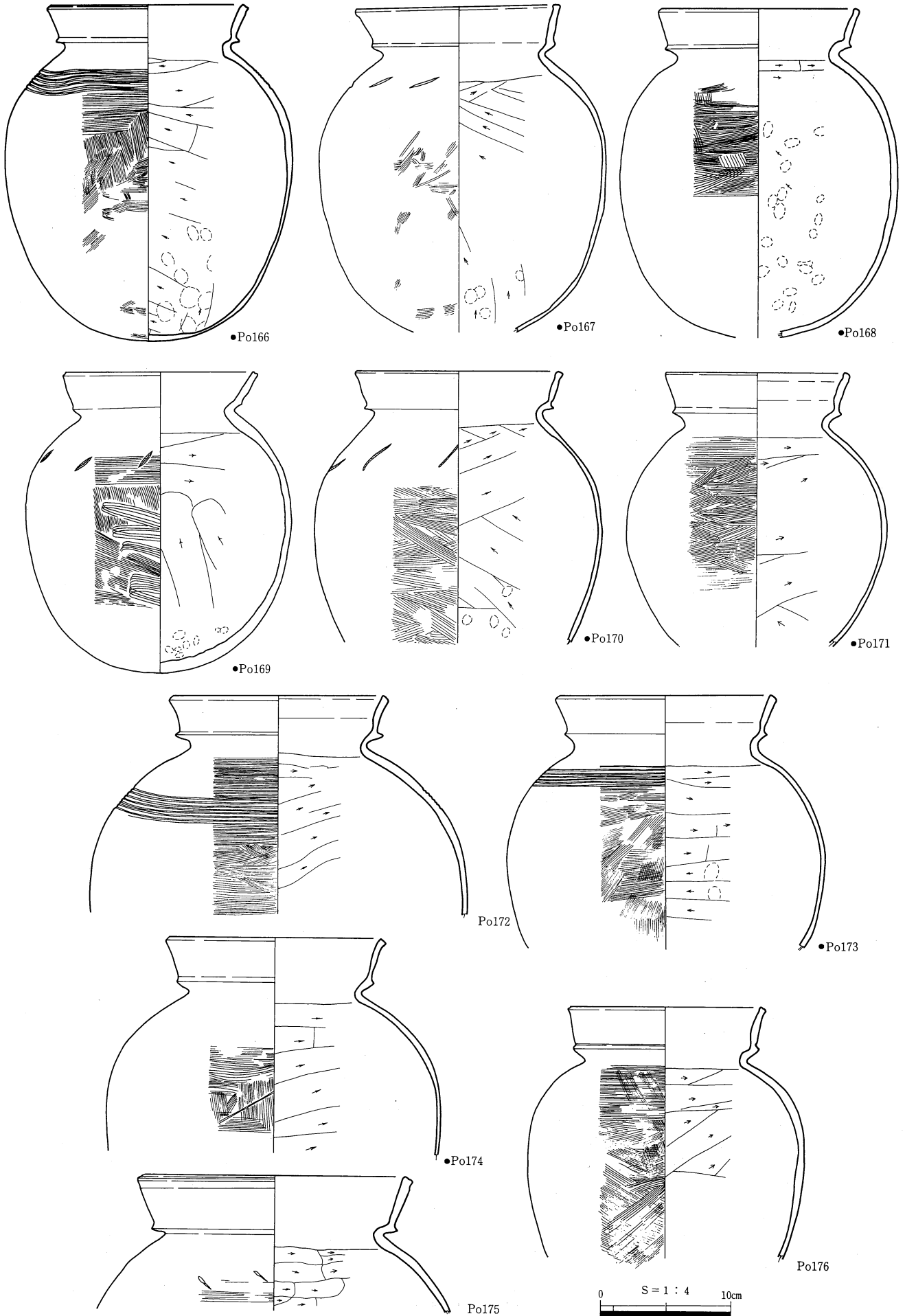
●Po163

●Po164

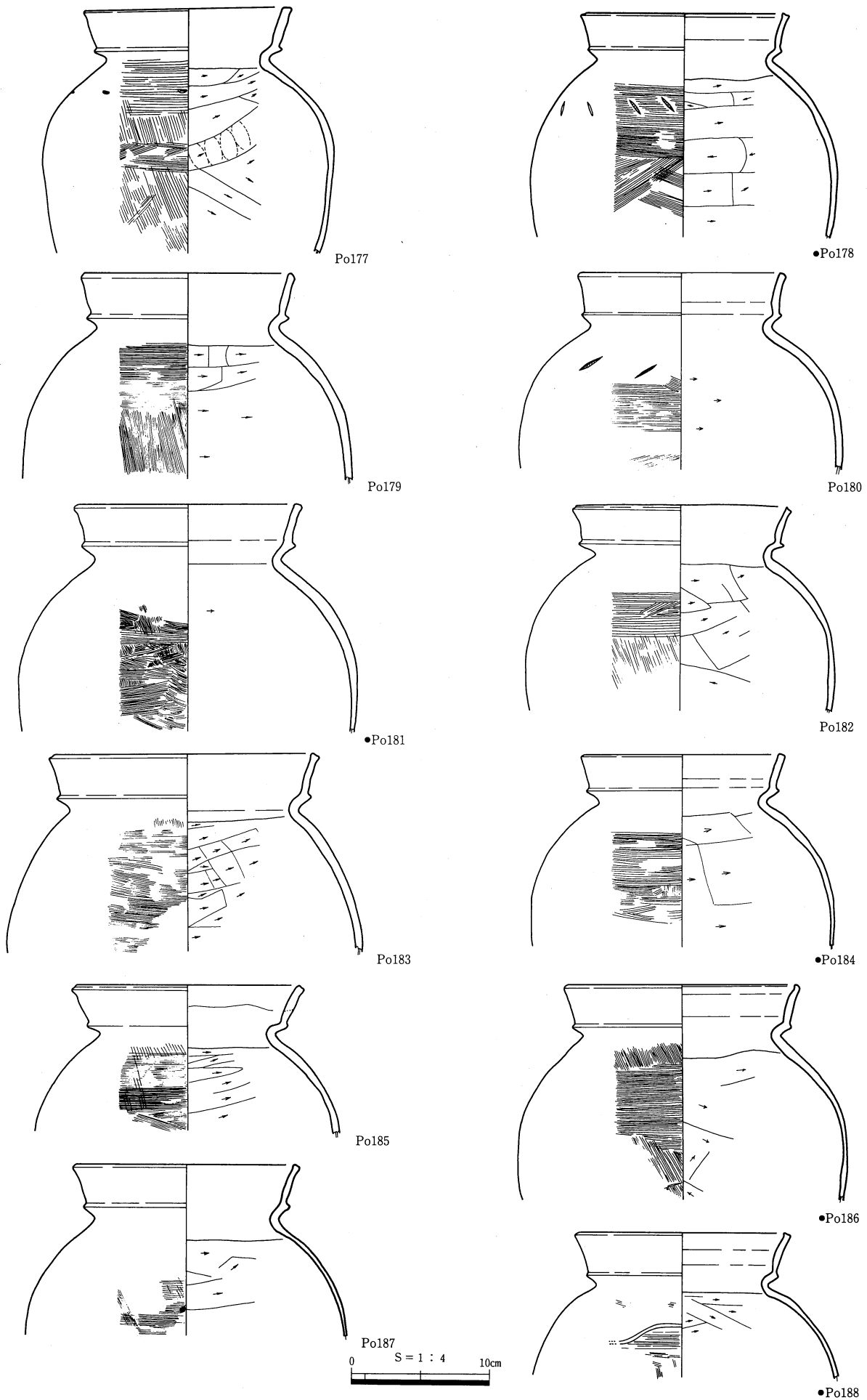
●Po165

0 S = 1 : 4 10cm

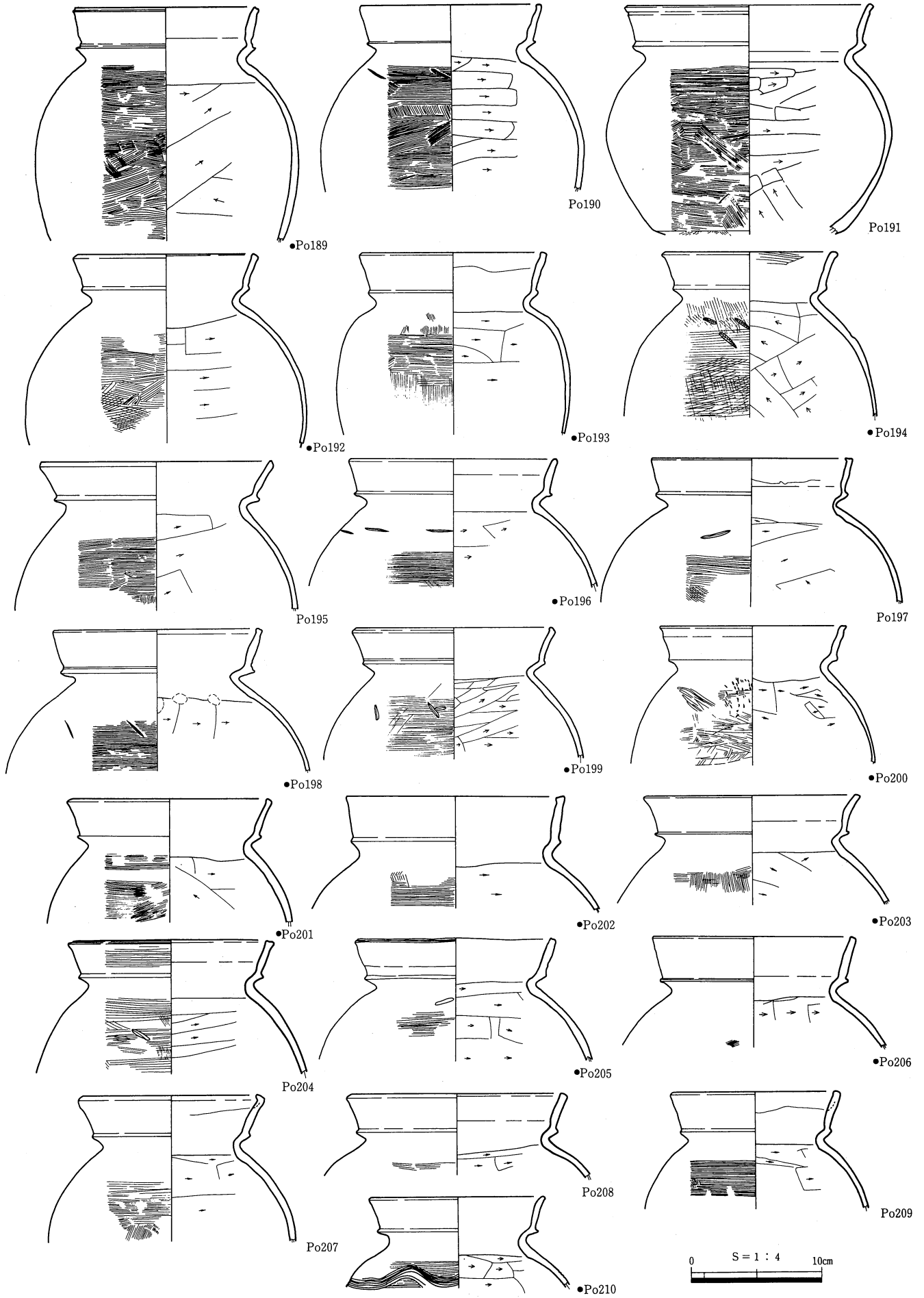
挿図29 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(4)



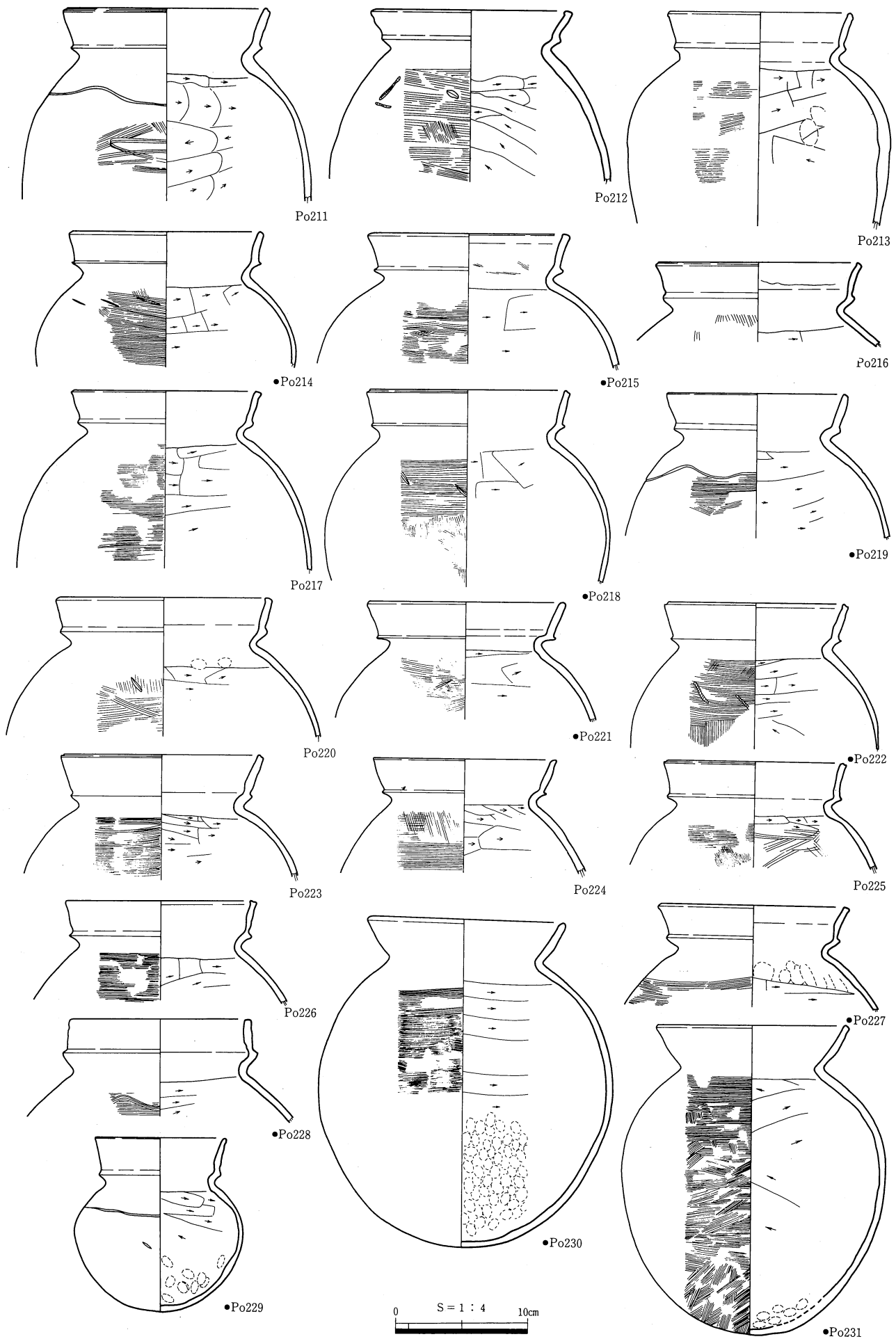
挿図30 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(5)



挿図31 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(6)



挿図32 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(7)



挿図33 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(8)

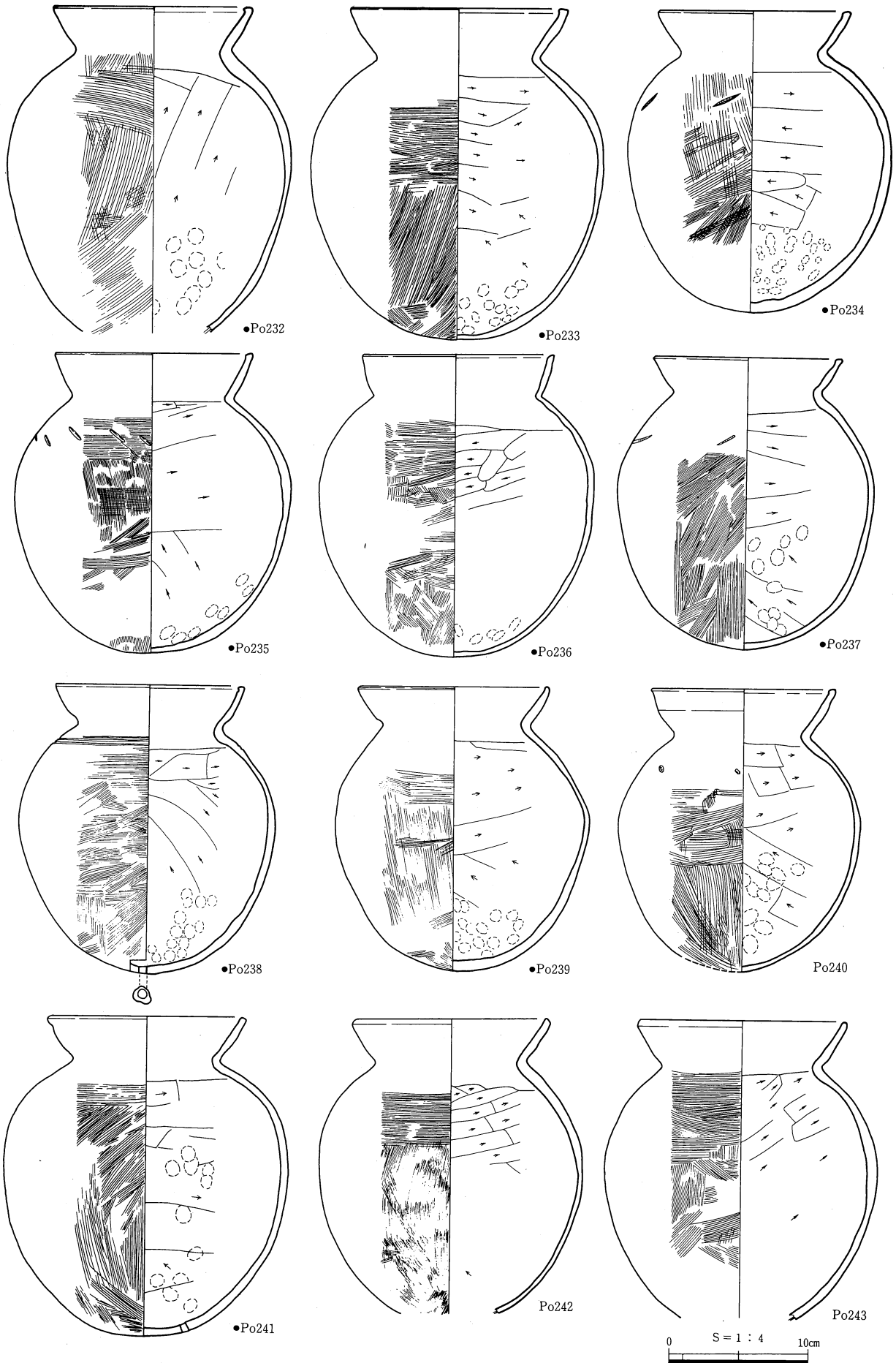


插图34 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(9)

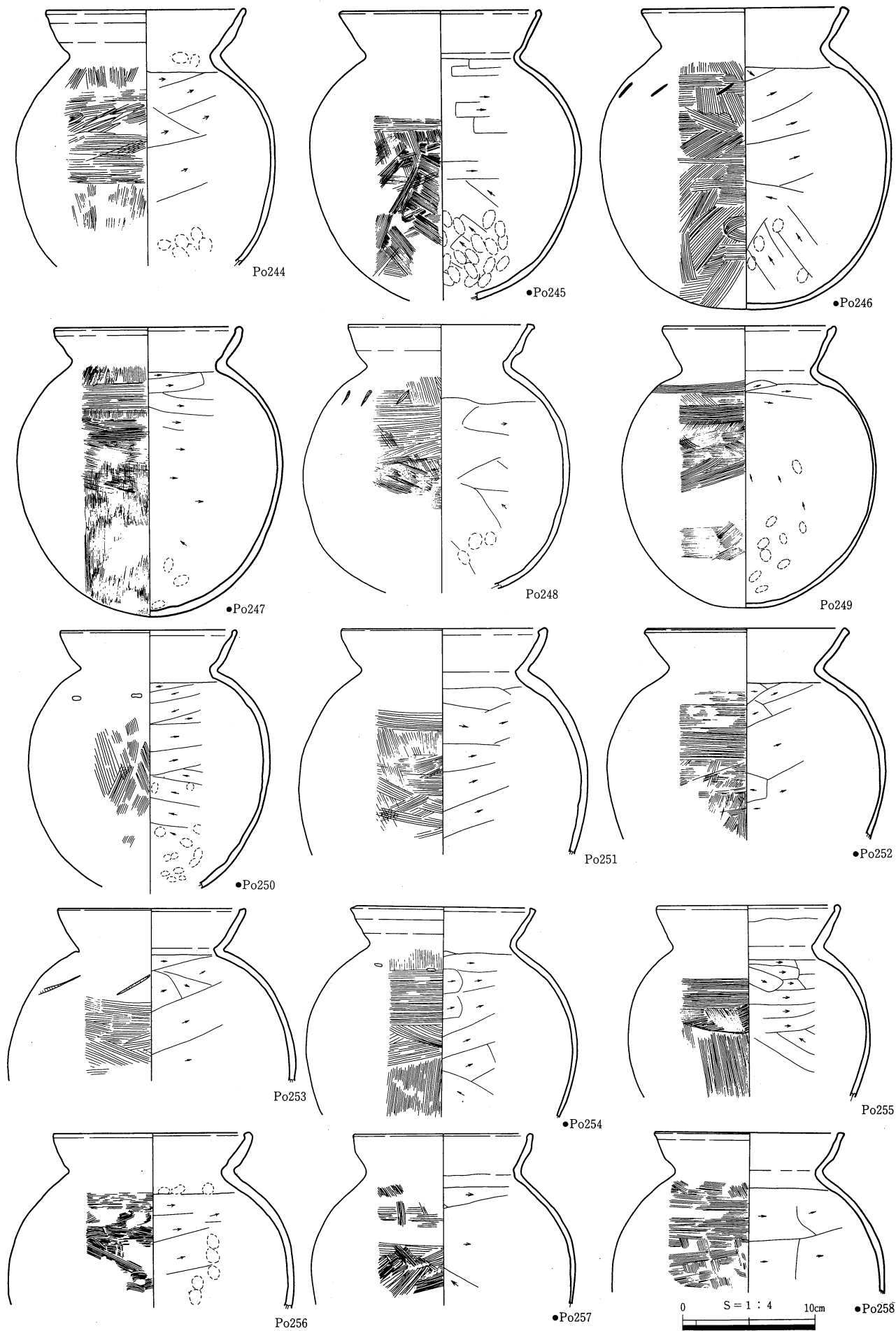


插图35 長瀬高浜遺跡S I 249出土遺物実測図(10)

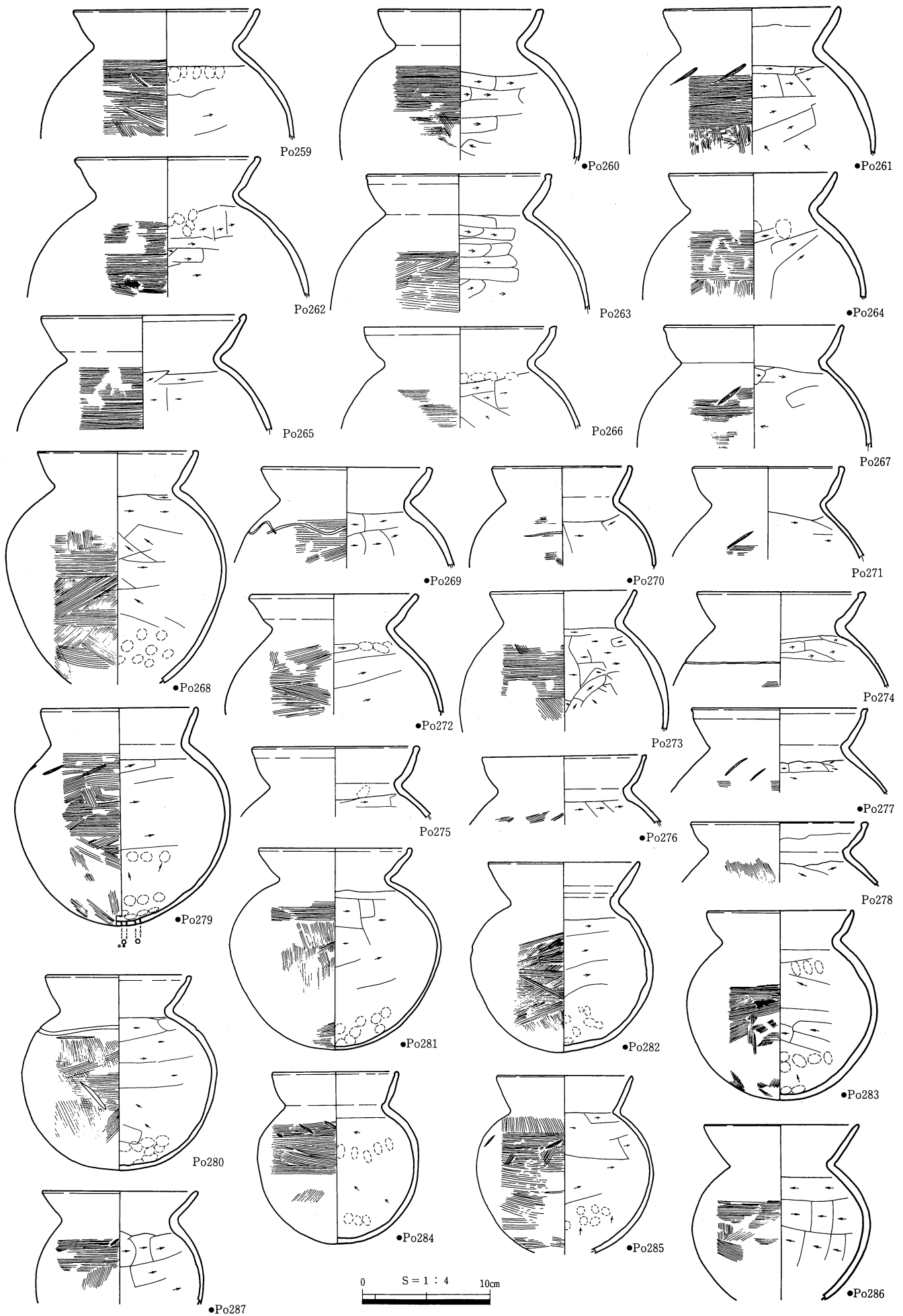


插图36 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(11)

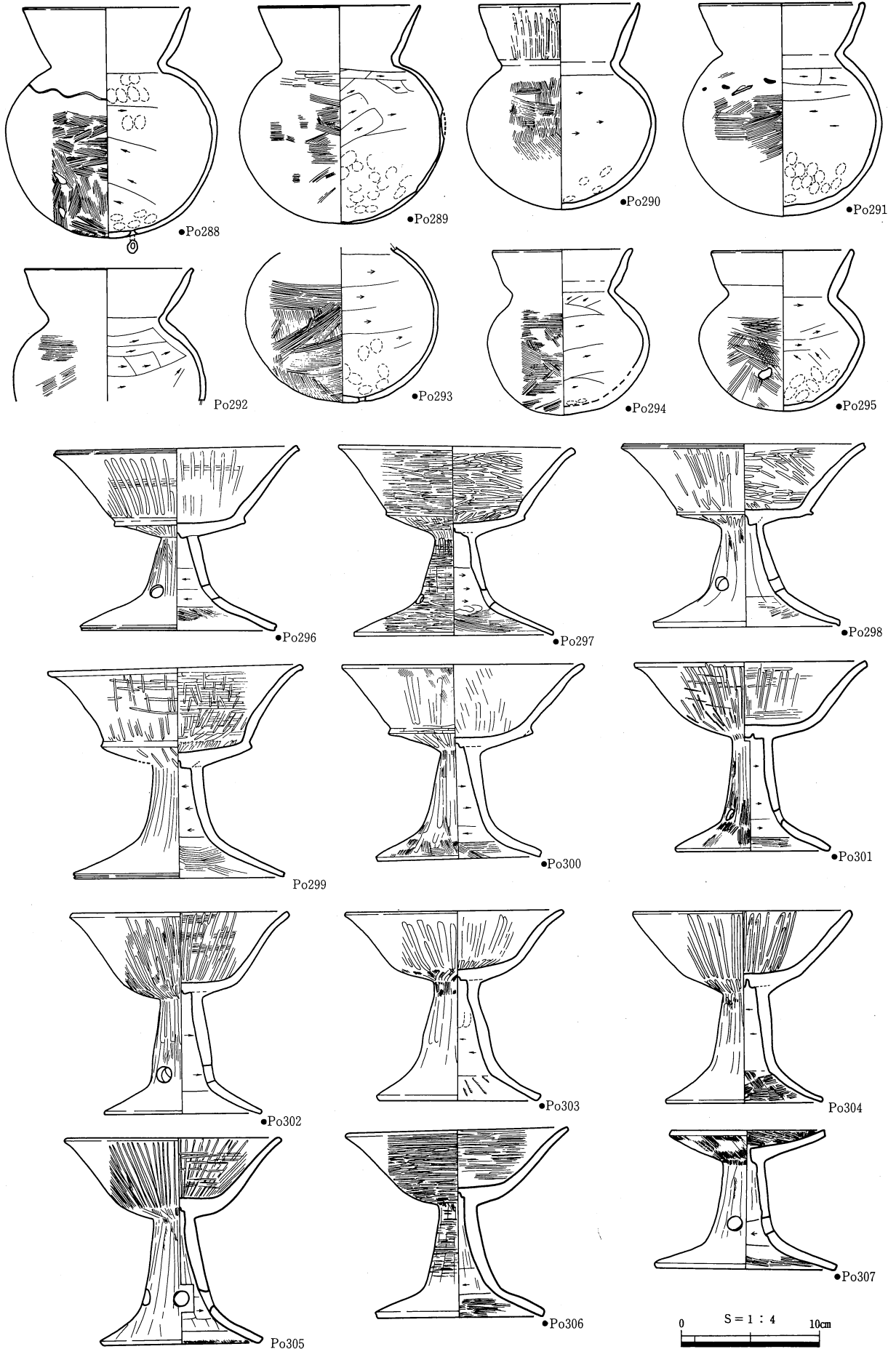
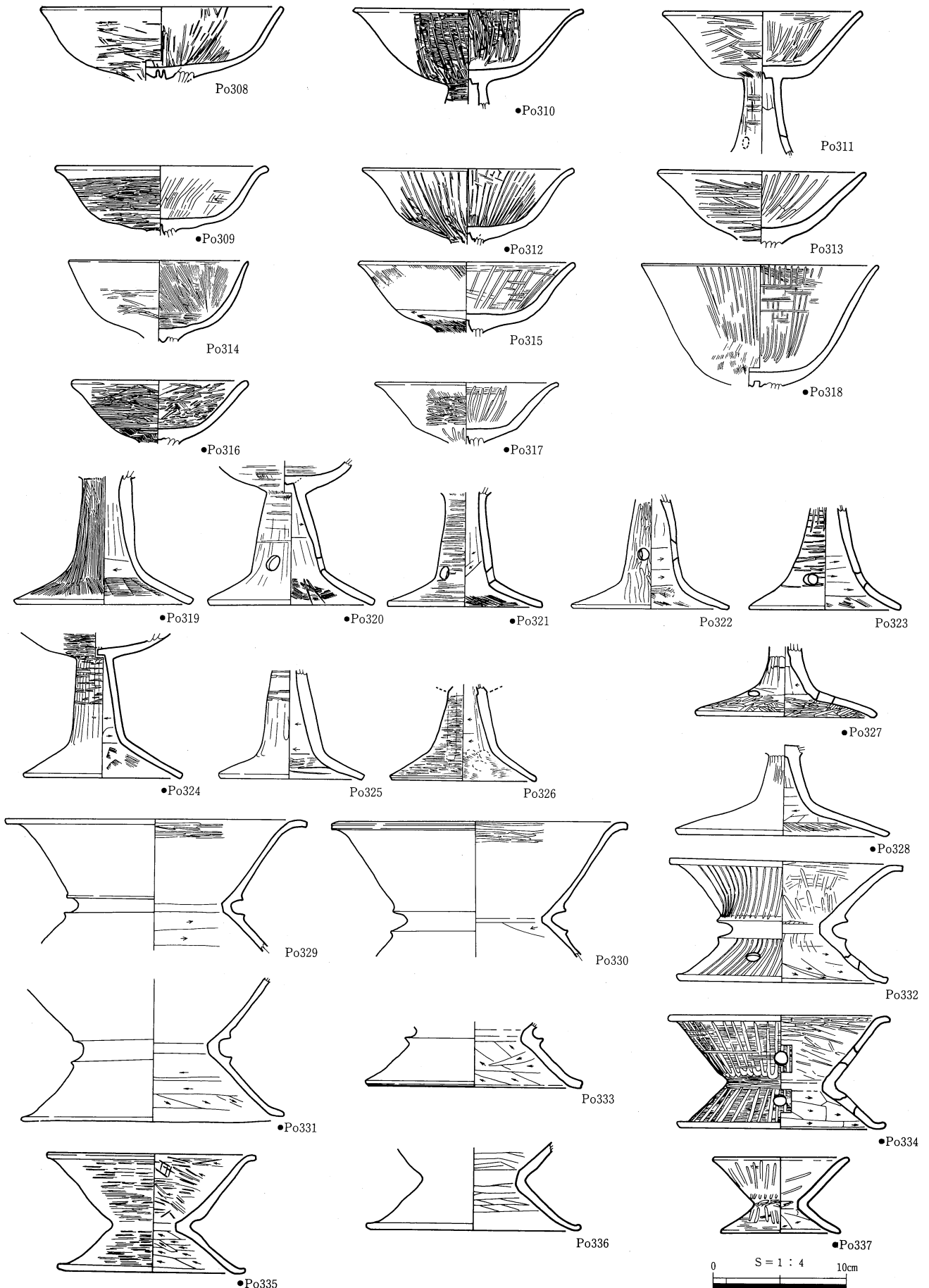
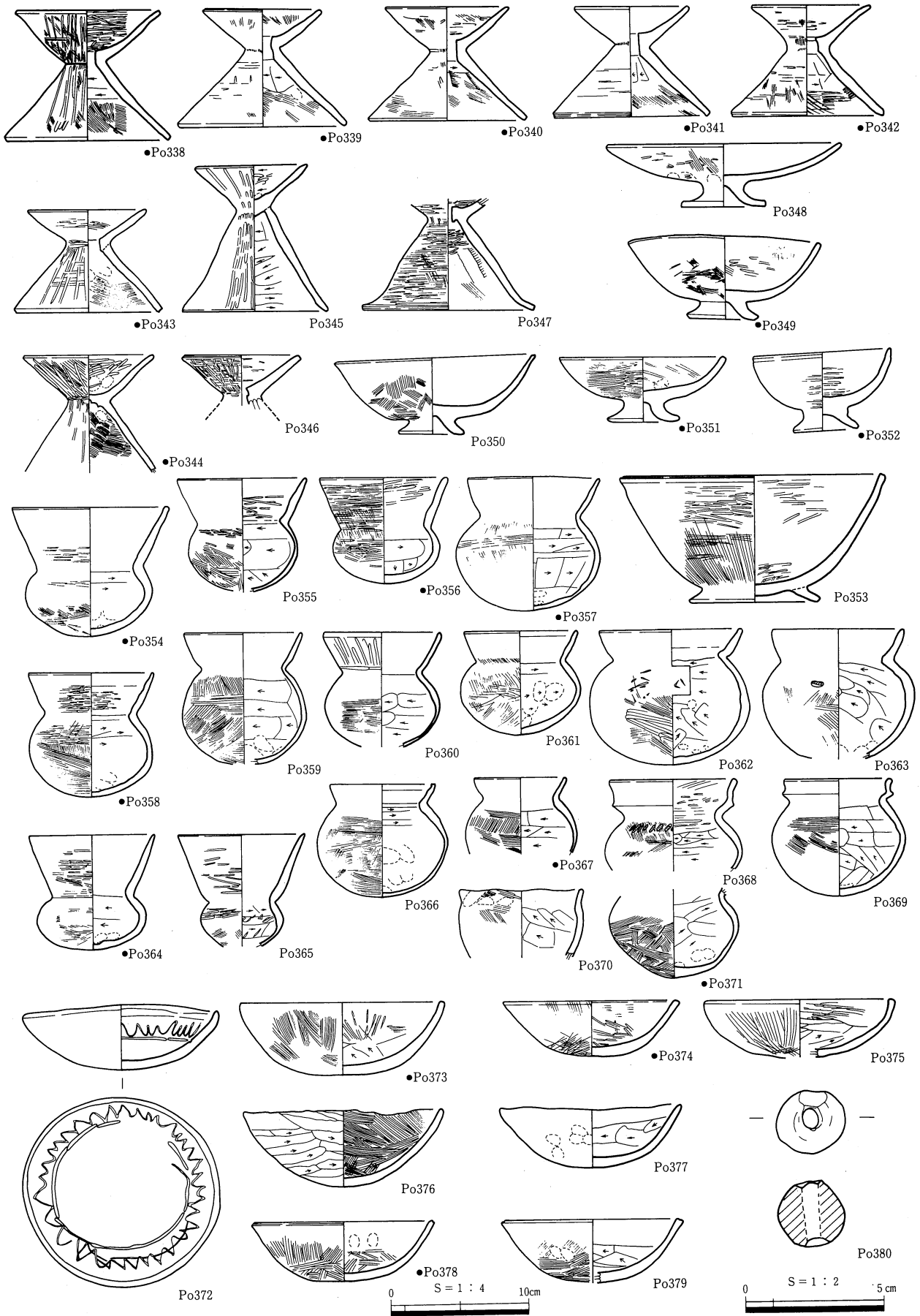


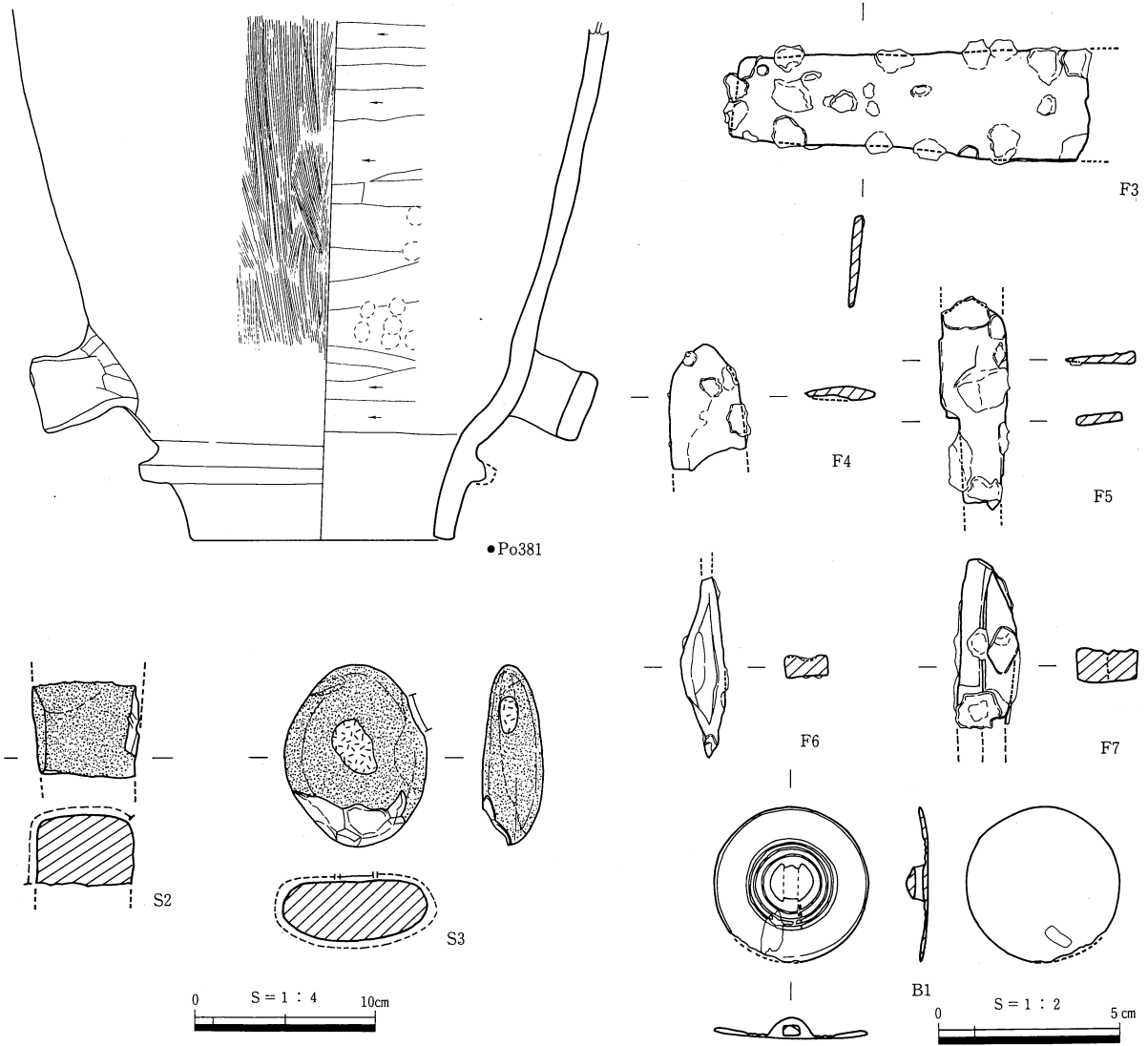
插图37 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(12)



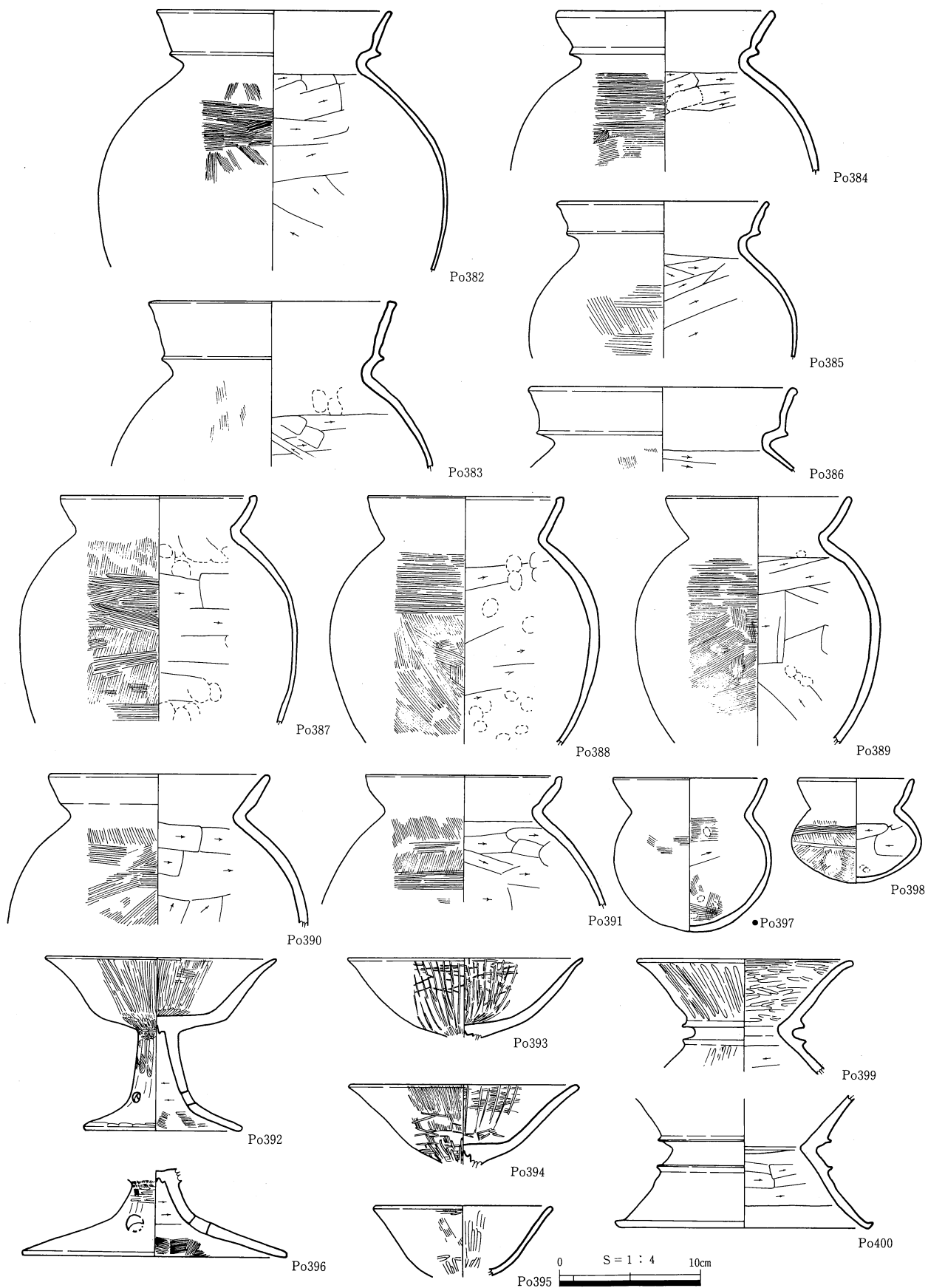
挿図38 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(13)



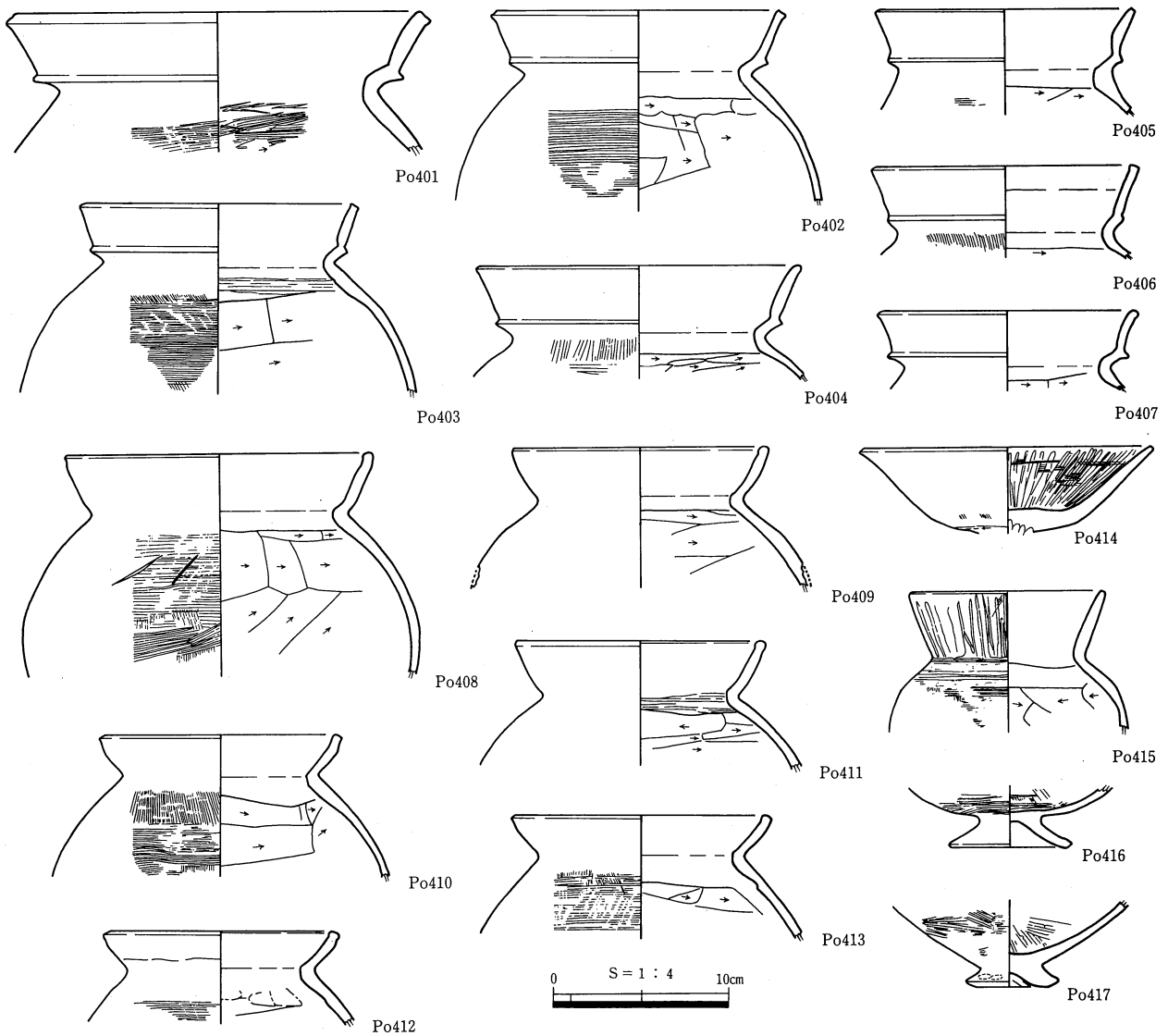
挿図39 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(14)



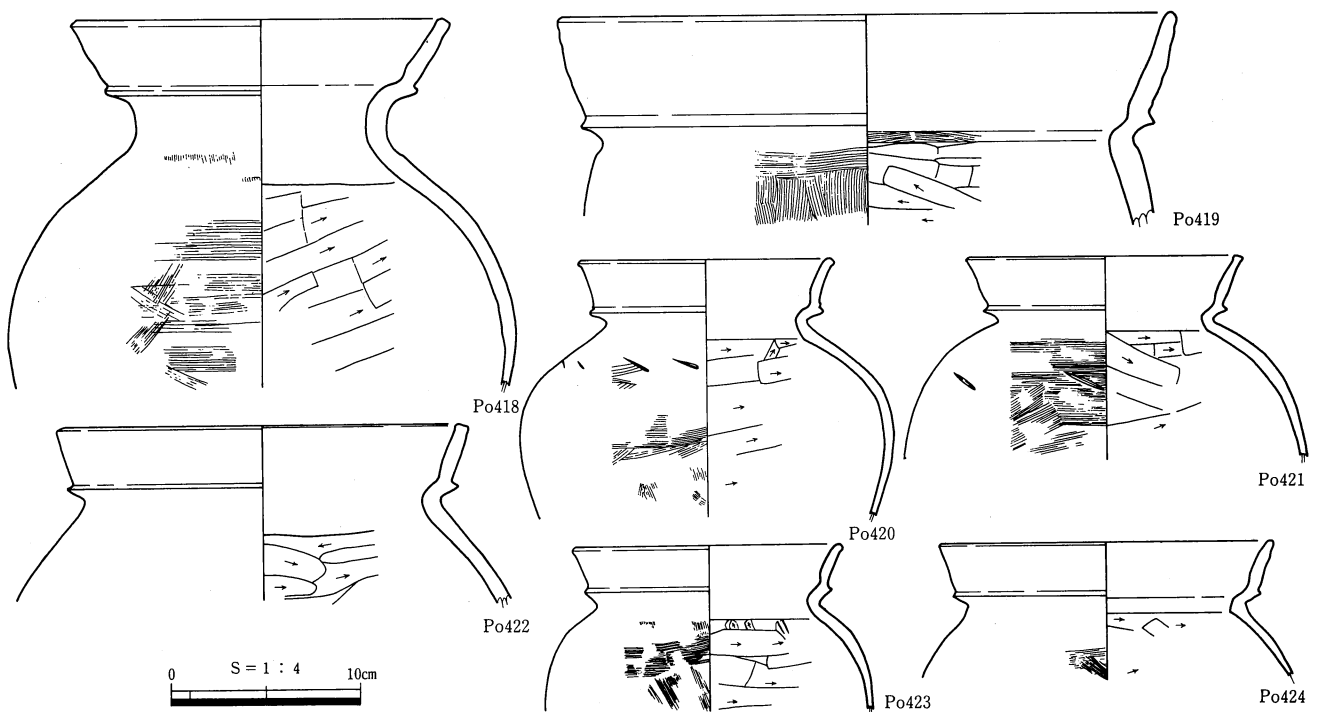
挿図40 長瀬高浜遺跡 S I 249出土遺物実測図(15)



挿図41 長瀬高浜遺跡 2 OSK 6 出土遺物実測図



挿図42 長瀬高浜遺跡 S I 251出土遺物実測図



挿図43 長瀬高浜遺跡 S I 252出土遺物実測図(1)

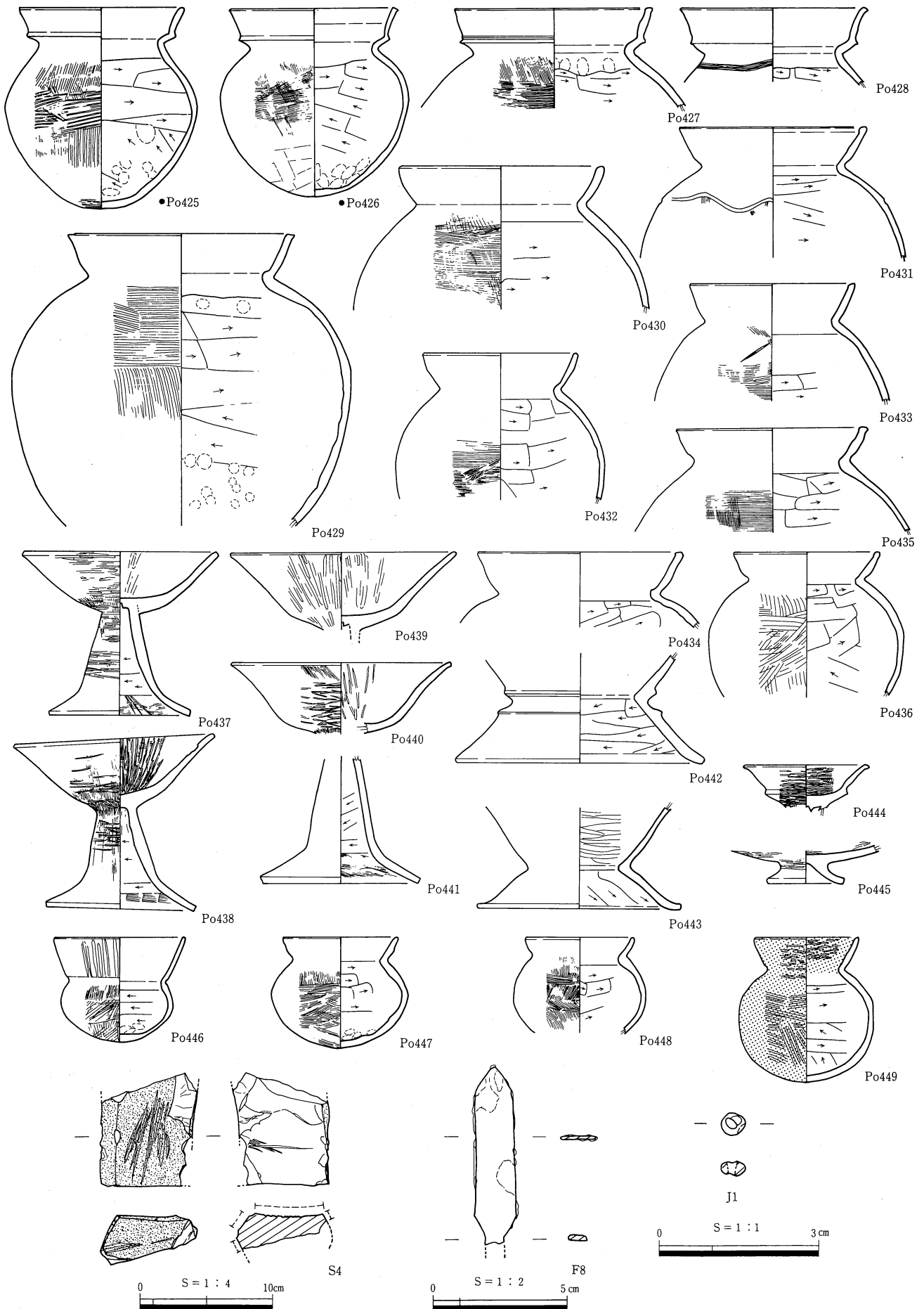


插图44 长瀬高浜遺跡 S I 252出土遺物実測図(2)

S I 250 (挿図45~50、図版4、47~49、72)

調査区西側の1・20グリッドにあり、標高4.5~5.1mの南西側へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。住居南側はS X100によって切られている。南東側約5mにはS I 251がある。

S X100に切られているものの遺存状態はよく、平面は方形を呈すと考えられる。北東~南西約4.5m、北西~南東約4.4mを測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で最大0.8mである。床面積は、18㎡以上(復元約20.6㎡)を測る。

支柱穴は4本と考えられるが、南側のものはS X101に切られており、検出できたものはP 1~P 3の3個である。それぞれの規模は、P 1 (58×49—38) cm、P 2 (63×61—28) cm、P 3 (79×73—41) cmで、支柱穴間距離は、P 1~P 2間から順に、2.9m、2.8mである。P 1では柱痕を確認できた。復元される柱の径は約10cmである。壁溝、中央ピットはない。

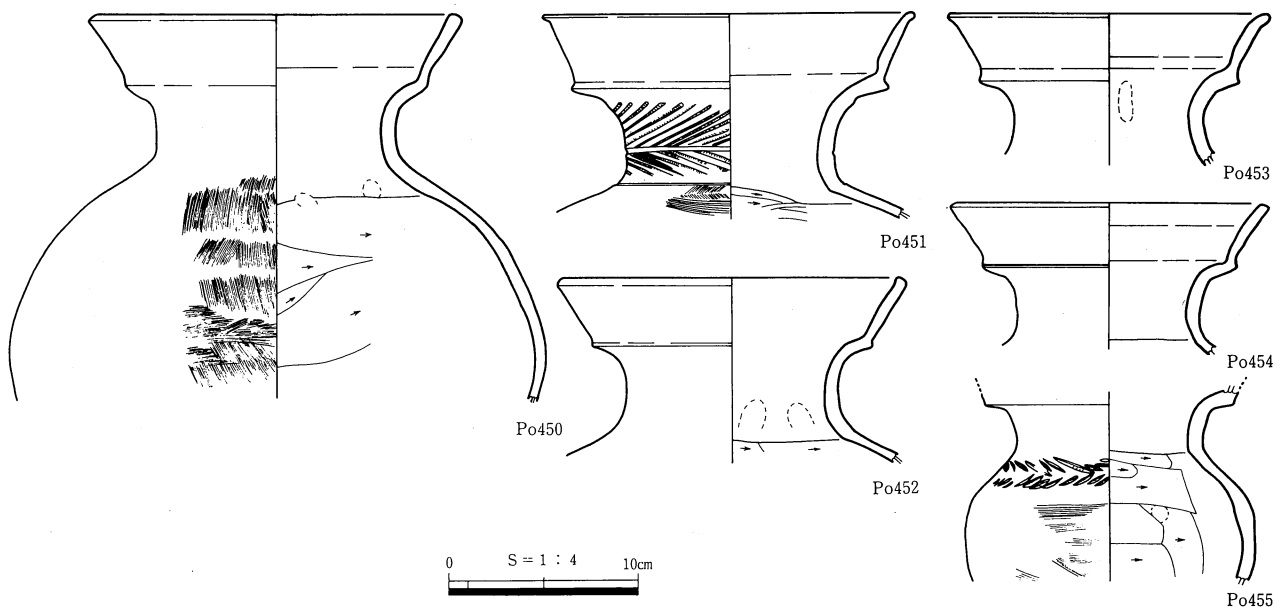
埋砂は、10層に分層できた。このうち、①層は中世島検出面、⑨⑩層は中世頃のピットないし土坑埋砂と考えられ、S I 250の純粋な埋砂は③層以下と思われる。⑦⑧層は、壁板が腐朽したものと考えられる。

出土遺物は、埋砂中から多量の土師器片、鉄製品、炭化材、鉄滓が出土しているが、これらは、住居が埋没する段階で廃棄されたものと考えられる。このうち、埋砂下層から壺Po450・452・454・455・458、甕Po459~461・464・466~469・471・472・474・475・477・480・482・483・488・489・498、直口壺Po500、高杯Po505・509・510~512・514、鼓形器台Po517~519、低脚杯Po525・528、刀子F 9、鉄製雛形品(剣先形)F 11・12、不明鉄製品F 13、炭化材が出土している。また、P 1内から壺Po453、小型器台Po529が出土している。その他は、埋砂上層中からの出土である。

埋砂下層中の炭化材(No2124・2125)は、樹種同定の結果、いずれもケヤキと判断された。また、鉄滓(No1630、No1691)が出土しているが、No1691は砂鉄原料の精錬滓、No1630は土器片に付着した鉄滓で、精錬滓と異なる可能性が指摘され、土器片は、炉底の一部であった可能性がある。

埋砂下層出土遺物から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろのものと考えられる。炭化材(Beta-123126)の¹⁴C年代測定で1930±60B.P.の値が得られた。測定結果ではA.D.85年であるが、土器型式と比較するとかなり古い値と考えられる。また、雛形鉄製品2点も出土しており、集落内または住居内において、何らかの祭祀が行われたものと考えられる。

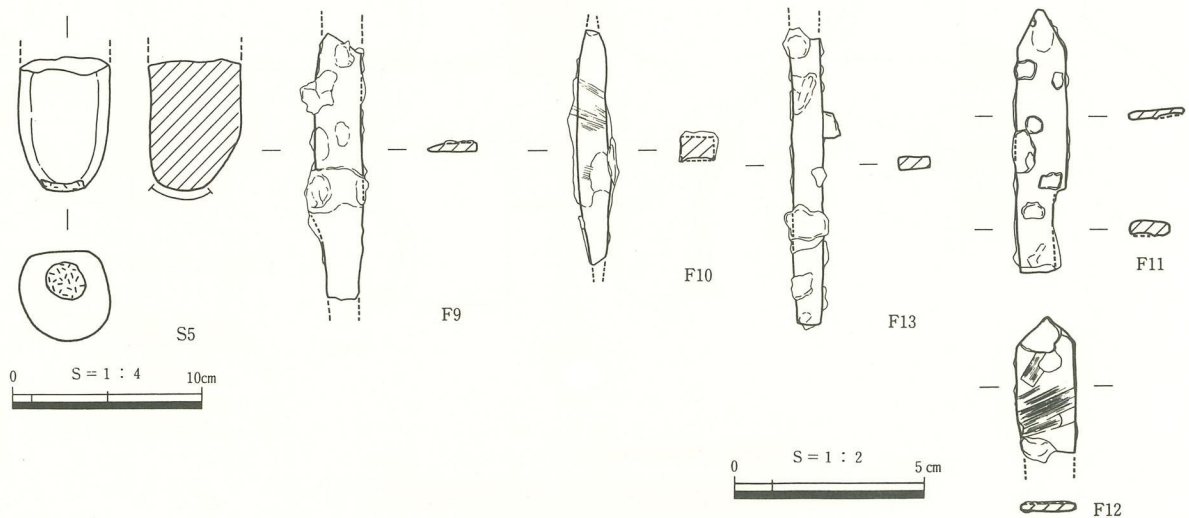
(牧本)



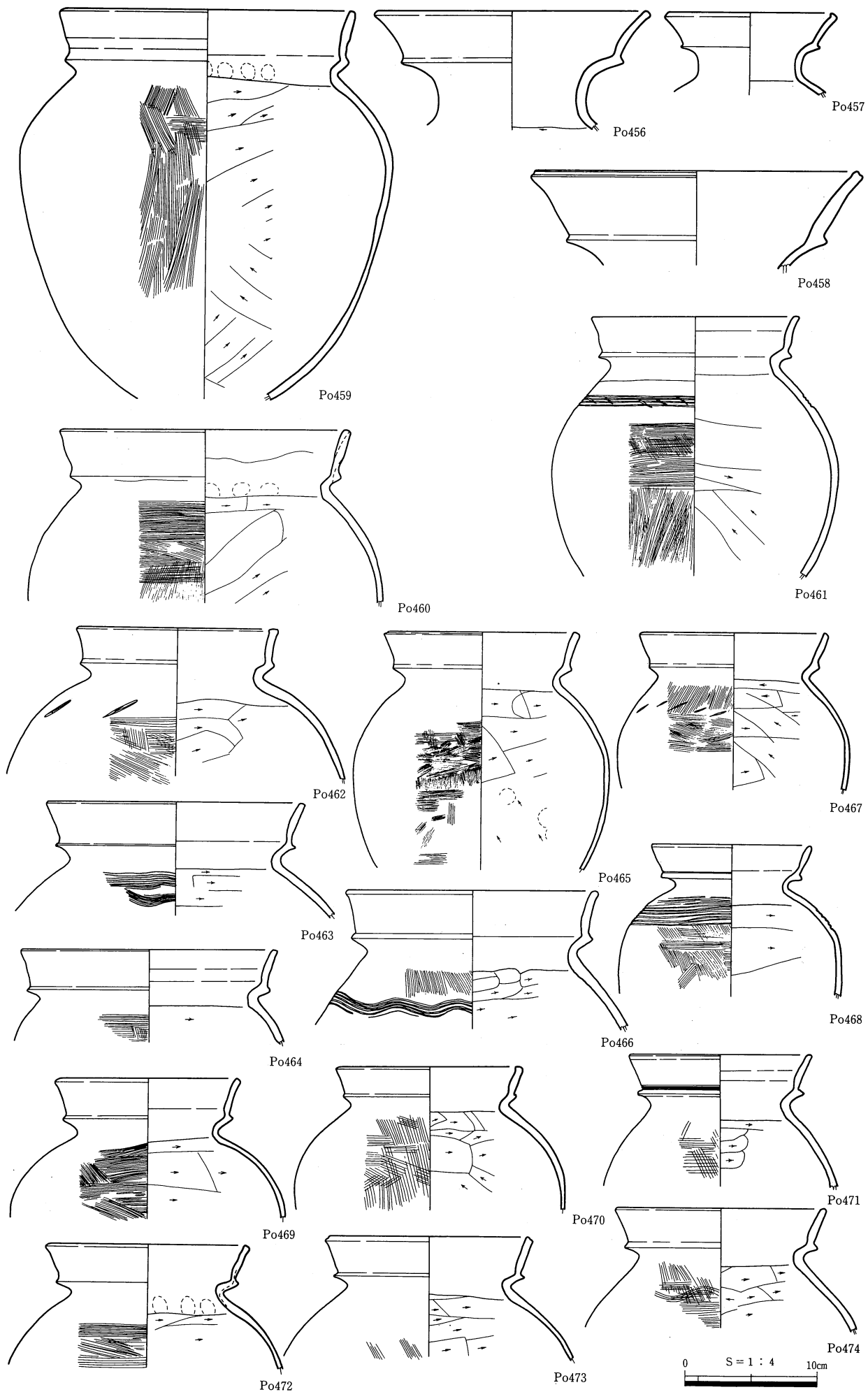
挿図45 長瀬高浜遺跡S I 250出土遺物実測図(1)



挿図46 長瀬高浜遺跡 S I 250遺構図



挿図47 長瀬高浜遺跡 S I 250出土遺物実測図(2)



挿図48 長瀬高浜遺跡 S I 250出土遺物実測図(3)

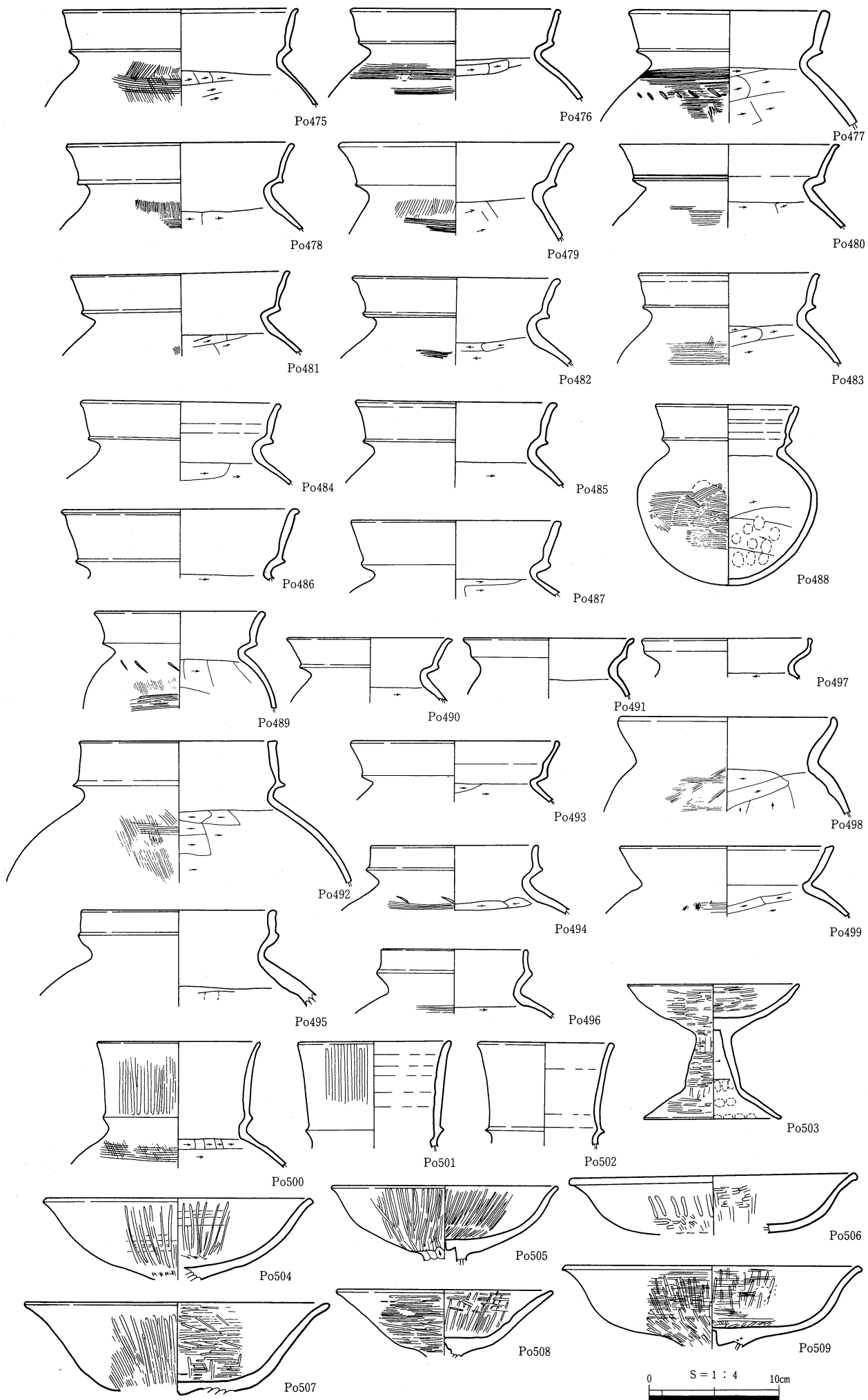
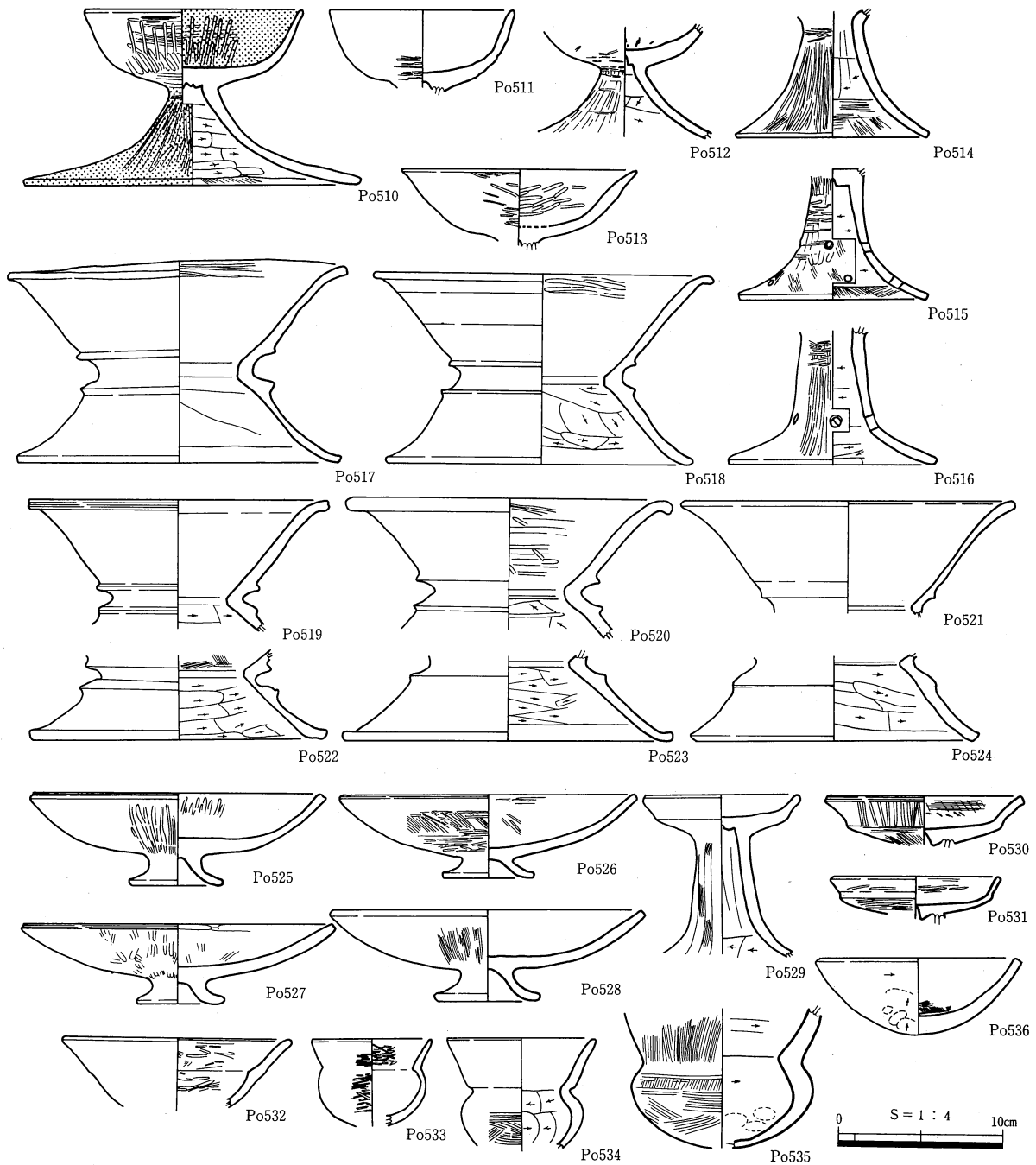


插图49 長瀬高浜遺跡 S I 250出土遺物実測図(4)

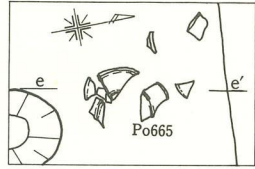
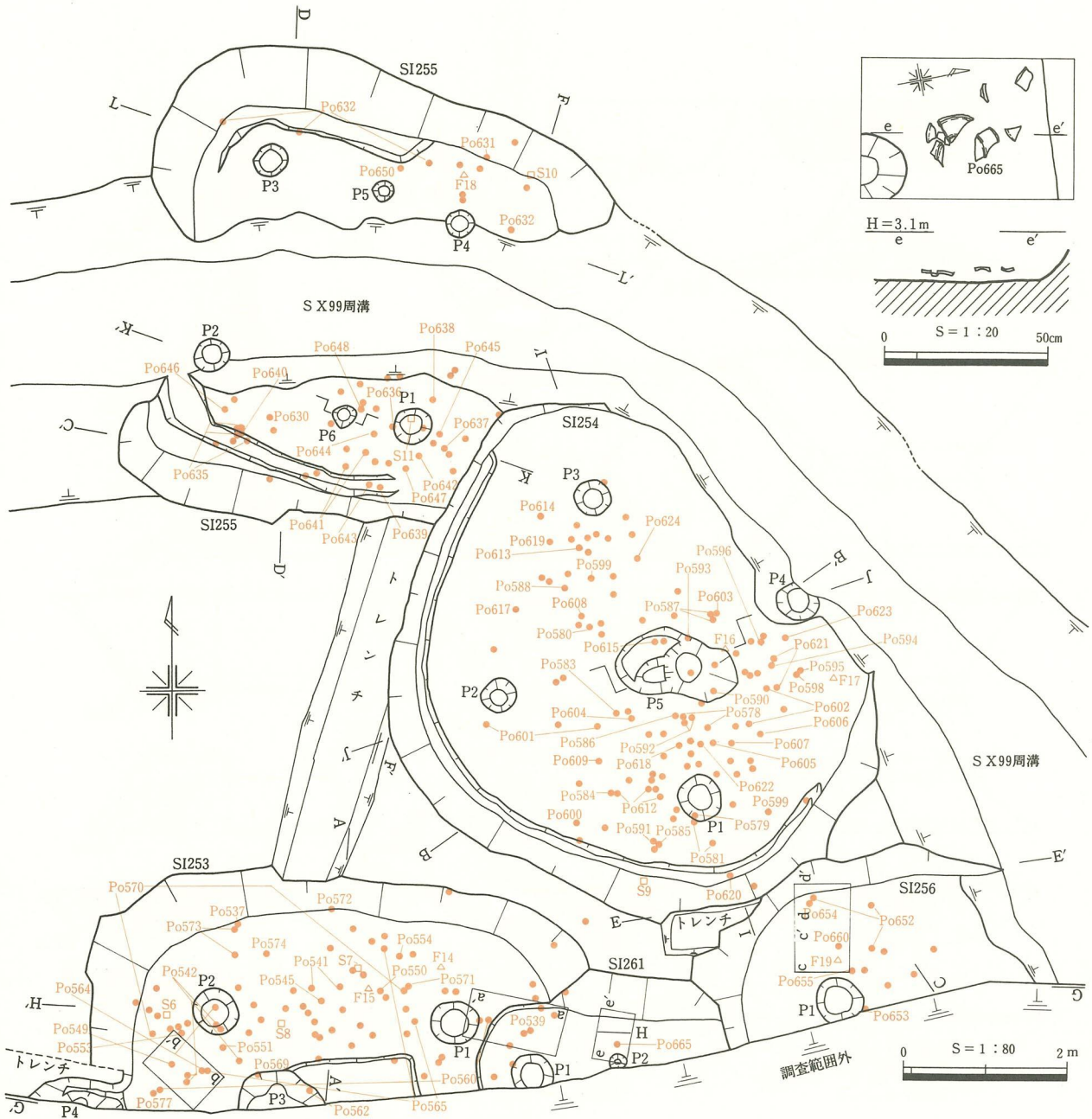


挿図50 長瀬高浜遺跡 S I 250出土遺物実測図(5)

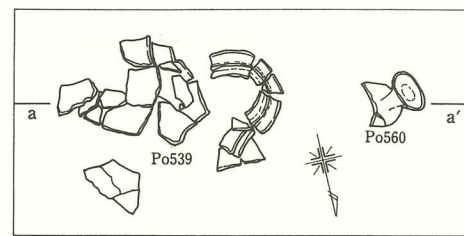
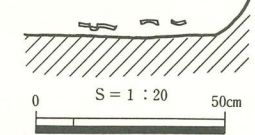
S I 253 (挿図51~54、図版4、49~51、71)

調査区西側の30グリッド南西調査区際にあり、標高3.5~3.7mのほぼ平坦面に立地し、S I 253~256・261の5基の竪穴住居跡が、一部重複しながらある。検出基盤面は黒茶褐色砂である。

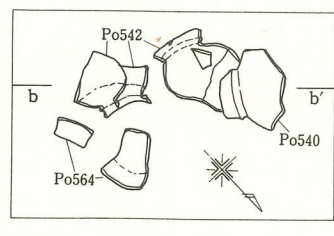
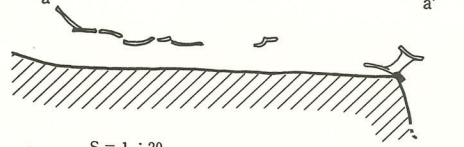
S I 253は、大半が調査区外にあり、全体の約1/3を調査した。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は、東西5.2mを測り、残存壁高は、最も遺存のよい西側壁において約0.95mである。床面積は10㎡以上である。床面の標高は約2.95mであり、ほぼ水平である。



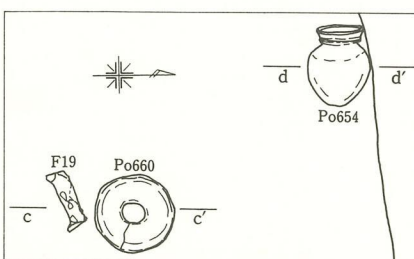
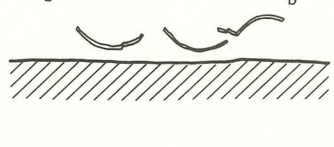
H = 3.1 m



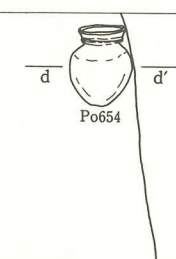
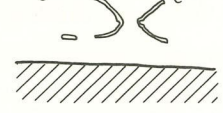
H = 3.2 m



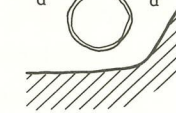
H = 3.2 m



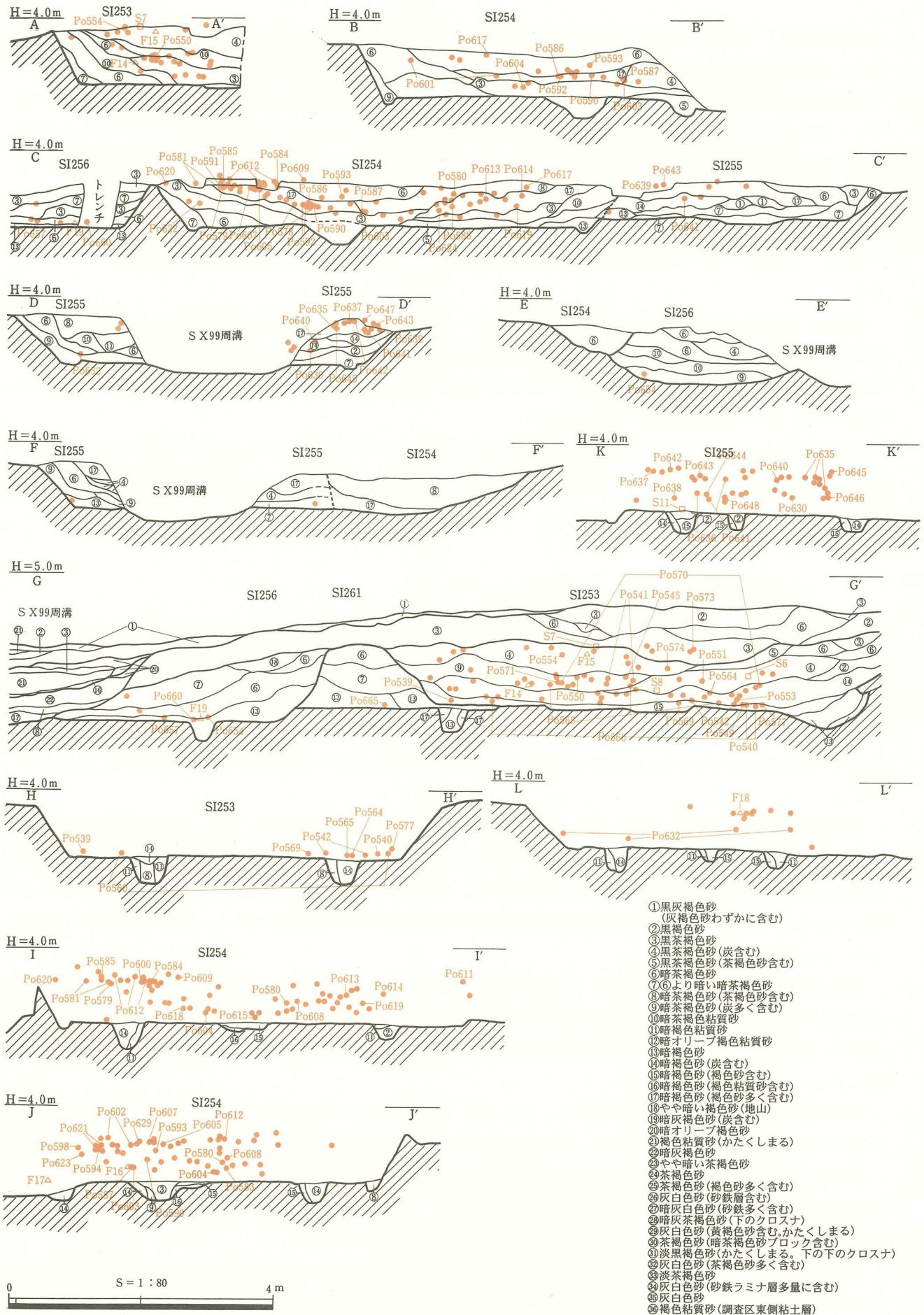
H = 3.0 m



H = 3.0 m



挿図51 長瀬高浜遺跡 S I 253~256・261遺構図



挿図52 長瀬高浜遺跡 S1253~256・261土層断面図

主柱穴はP 1 (60×52—42)cm、P 2 (58×52—36)cmが検出されたが、未調査部分を含めて全体で4本の主柱穴をもつと推定される。主柱間距離は、2.9mである。柱穴の埋砂中には多くの炭化物を含有していた。

中央付近にP 3、西側壁付近にP 4がある。P 3は、東西約2.2m、南北0.5m以上の平面方形のいわゆる中央ピットである。深さは、東側で2～3cm、西側で最大約8cmである。埋砂は、茶褐色砂が主体であり、とくに炭化物等は含まない。P 4は、貯蔵穴であると考え。規模は、東西約1.2m、南北0.3m以上、床面からの深さは最大16cmである。埋砂は茶褐色砂を主体とし、炭化物等はみられない。

遺構埋砂は茶褐色砂を主体とし、自然堆積の様相を呈すが、④、⑨層など、特に下層において、黒褐色系砂を主体とし、炭化物の小片を比較的多量に含む層が認められることから、火災により焼失し、廃棄された可能性がある。

遺物は、床面から甕P o542・543・549、高杯P o560・564・565・569、低脚杯P o567が出土している。床面の西側において比較的多数出土した。埋砂中からも、壺、甕、高杯、鼓形器台、低脚杯、小型丸底鉢など30個体以上が出土している。住居廃絶後に投棄されたものであろう。特徴的な遺物として、埋砂中から出土した小型丸底鉢P o575・576、布留式甕口縁P o555がある。

住居の時期は、床面の遺物から天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと判断できる。なお、床面から出土した炭化物の鑑定の結果、アシ(ヨシ)・ススキ(カヤ)など単子葉植物の茎部であることが判明した。屋根材の可能性はある。(岡野)

S I 254 (挿図51・52・55～57、図版4、52～54、71)

調査区西側30グリッドにあり、S I 253の北東側約1mに立地する。S I 253同様、基盤面、遺構埋砂ともに黒茶褐色砂である。北東側の一部は、S X 99の周溝により切られており遺存しない。また、北西側の一部はS I 255を切る。

平面は隅丸方形を呈す。規模は、北西～南東5.6m、北東～南西5.5m前後が想定される。残存壁高は、最も遺存のよい南側壁において0.8mである。床面積は、21.1㎡である。床面での標高は、約2.85mであり、ほぼ水平である。

主柱穴は、P 1 (57×52—42)cm、P 2 (44×41—30)cm、P 3 (47×44—22)cm、P 4 (55×46—20)cmの4本が確認された。主柱間距離は、P 1～P 2間から順に、2.75m、2.7m、2.8m、2.7mである。柱穴埋砂中には炭化物を含む。東および北西隅の一部を除く各側壁には、周壁溝が確認された。幅は15～18cm、床面からの深さは、おおむね3～5cmであるが、南側では約10cmを測る。周壁溝の埋砂は、暗褐色を主とし、少量の土師器片を包含していた。

住居中央部において不整楕円形のP 5を検出した。いわゆる中央ピットである。西側では浅く皿状を呈すが、東側ではピット状をなし、深くなる。規模は、東西方向で約1.5m、南北方向で最大0.86mである。床面からの深さは、西側では5～10cm、東側では最大30cmである。埋砂は、暗褐色、暗灰褐色を主とし、炭化物を比較的多量に含む。

住居の埋砂は、自然堆積の様相を呈する。ただ、③、⑰層にみられる如く、下層において炭化物の小片を多量に包含する黒褐色系の層が顕著である。本住居もS I 253と同様、火災のち廃棄された可能性が高い。

床面出土の遺物は、高杯脚部P o615、鉄製品F 17のみである。埋砂中からは、甕、高杯、低脚杯、鼓形器台、小型器台、小型丸底壺など50個体以上が出土した。⑧、⑰層には、とくに多量の土器が含まれる。その大部分が破損し、乱雑な出土状況から、住居廃絶後に投棄された結果と考えられる。

住居の時期は、床面出土の土器では判断できないため、最も床面に近い位置で出土したほぼ完形の土師器甕P o604などにより、天神川Ⅲ期でも新しい段階、古墳時代前期中葉の所産と判断した。(岡野)

S I 255 (挿図51・52・58・59、図版5、55、71、72)

調査区西側の30グリッドにある。検出基盤面は、南側は暗茶褐色砂、北側は茶褐色砂である。中央部をSX99の周溝により、東西方向に大きく切られている。また、南東側の一部はS I 254に切られる。

平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、南北約4.4m、東西4.3m程度が想定される。残存壁高は、最も遺存のよい北西側壁において約0.7mを測る。床面積は、9.3㎡以上である。床面での標高は、約3.0mであり、ほぼ水平である。

柱穴は、P 1 (48×45—35)cm、P 2 (46×39—20)cm、P 3 (42×38—38)cm、P 4 (34×32—28)cm、P 5 (26×25—20)cm、P 6 (29×27—26)cmの6本が検出され、うちP 1～4が主柱穴と考えられる。主柱間距離は、P 1～P 2間から順に2.6m、2.45m、2.44m、2.5mである。P 5、P 6は補助柱穴と考えられる。柱穴埋砂中には炭化物小片を含む層が認められる。南西側および北西側において周壁溝を検出した。幅は25～55cm、床面からの深さは2～6cmであるが、最も深い南西側では約15cmを測る。周壁溝の埋砂は、暗褐色を主体とし、炭化物は含まない。屋内の施設は検出できなかった。

住居の埋砂は、自然堆積の様相を呈する。また、②、⑦、⑭層にみられるように、黒褐色を主体とし、炭化物の小片を多数包含する層が、とくに南側の埋砂において顕著に認められる。S I 253、254同様に、火災を受けた可能性が考えられる。

床面出土の遺物は、土師器甕P o632、敲石S 10、石皿S 11である。石皿は、P 1の埋砂上で出土した。埋砂中からは、甕、高杯、鼓形器台、小型器台、甌など20個体以上が出土した。全て破損しており、乱雑な出土状況から、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

時期は、床面出土の甕P o632などにより、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉の所産と考えられる。(岡野)

S I 256 (挿図51・52・60、図版5、56、72)

調査区西側の30グリッドにあり、S I 254の南東側約1.5mに立地する。検出基盤面は黒茶褐色砂である。東側はSX99の周溝により切られており、南側の大半が調査区外にあたる。西側はS I 261を切る。

平面形は、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は、東西3.5m以上、南北1.06m以上である。残存壁高は、西側側壁において最大0.97mを測る。床面積は4.6㎡以上である。床面の標高は、2.75mでほぼ水平である。

柱穴はP 1 (60×57—30)cmのみを検出した。柱穴の埋砂は、暗褐色であり、炭化物は含まない。

住居の埋砂は、上層が少量の炭化物を含む黒茶褐色砂、暗茶褐色砂、下層が暗褐色砂を主とし、自然堆積の様相を呈する。

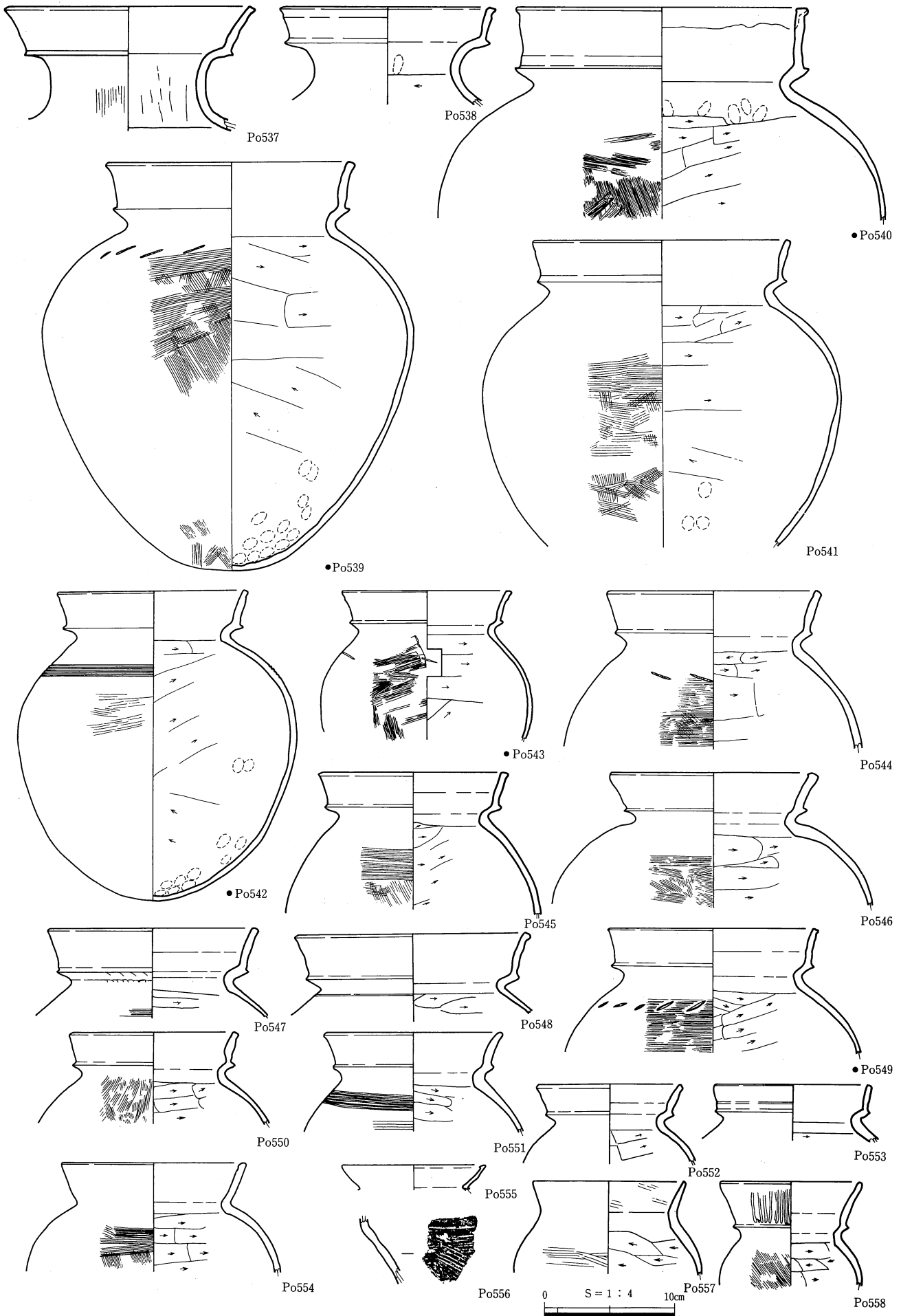
床面出土の遺物は、土師器甕P o654、鼓形器台P o660、高杯P o657、鉄製鎌F 19である。このうち、土器はほぼ完形で、鼓形器台P o660は正位の状態出土した。その他、埋砂中からは、土師器壺、甕、高杯、鼓形器台など7個体以上が出土した。住居廃絶後に投棄されたものであろう。

時期は、床面出土の土師器より判断して、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉と判断される。(岡野)

S I 261 (挿図51・52・61、図版6)

調査区西側の30グリッド南西調査区際であり、S I 253とS I 256の間に立地する。検出基盤面は黒茶褐色砂である。南側は調査区外に延び、東西両側もS I 253、S I 256に切られている。

西側側壁は、S I 253とS I 261の床面のレベル差により確認した。平面形は、隅丸方形を呈するものと想定される。床面での標高は2.9mであり、ほぼ水平である。規模は、東西3.1m以上、南北1.0m以上を測る。残存壁高は、北側側壁において最大0.77mである。床面積は、2.1㎡以上である。



挿図53 長瀬高浜遺跡 S I 253出土遺物実測図(1)

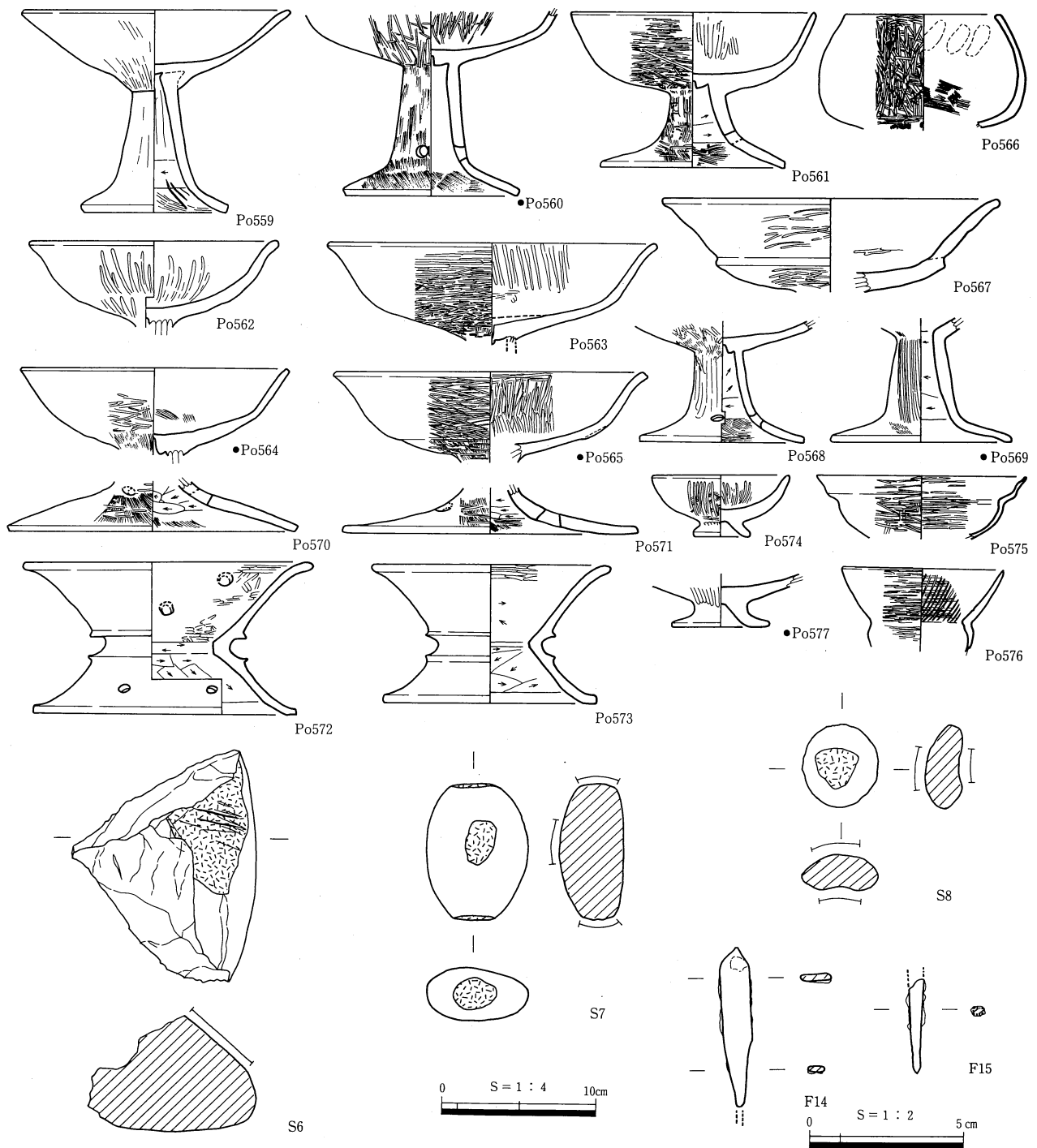
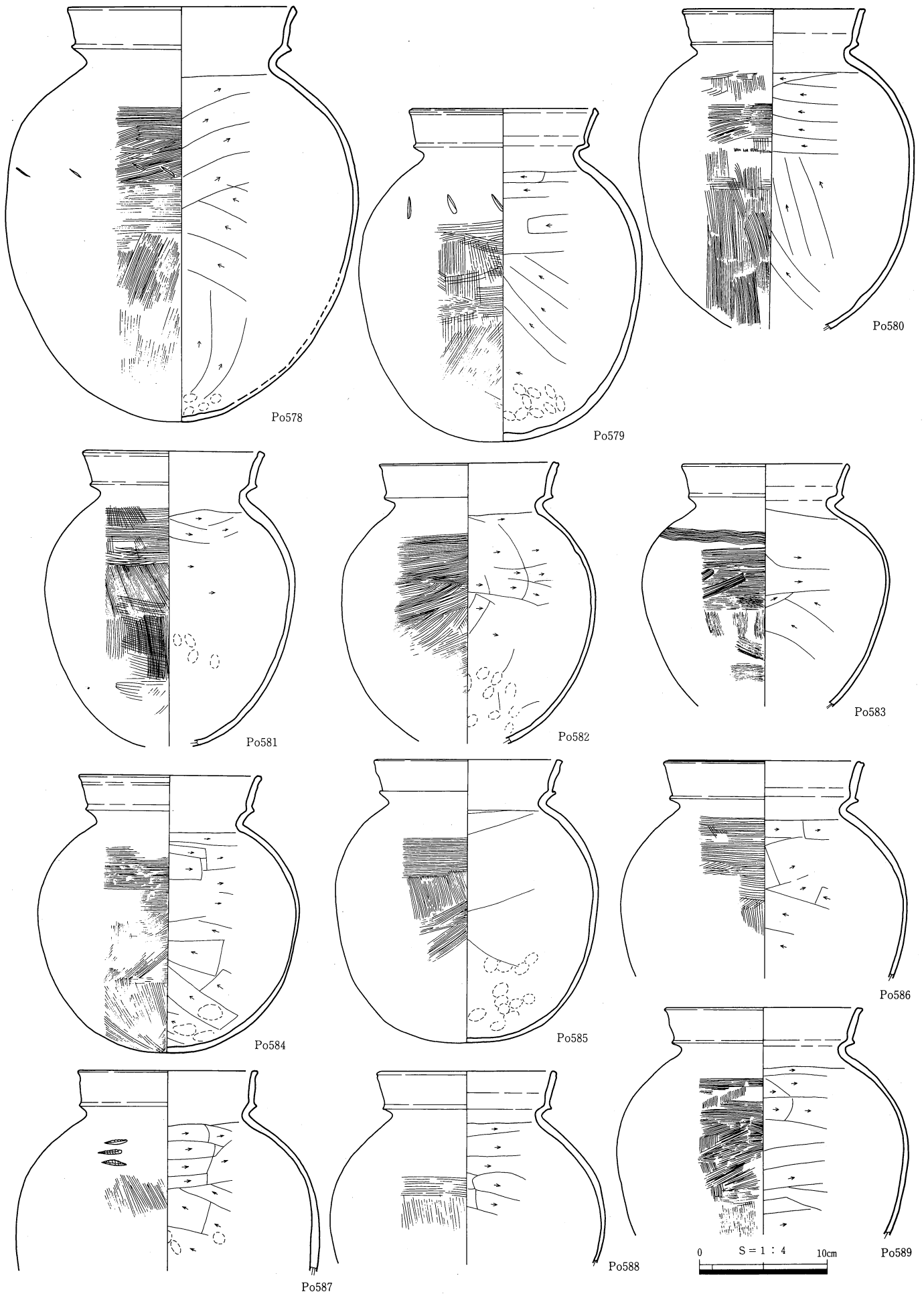


插图54 長瀬高浜遺跡 S 1253出土遺物実測図(2)



挿図55 長瀬高浜遺跡 S I 254出土遺物実測図(1)

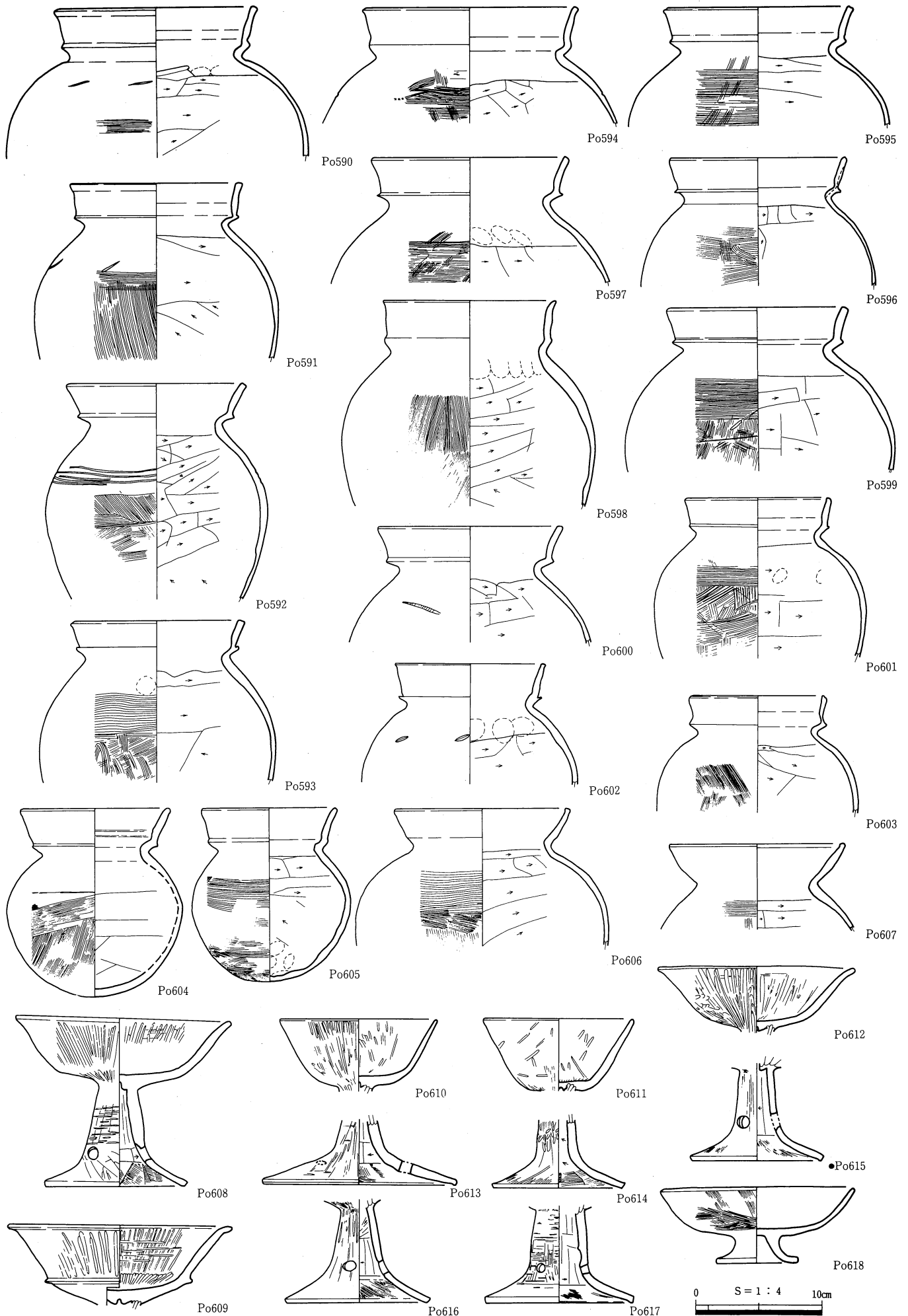
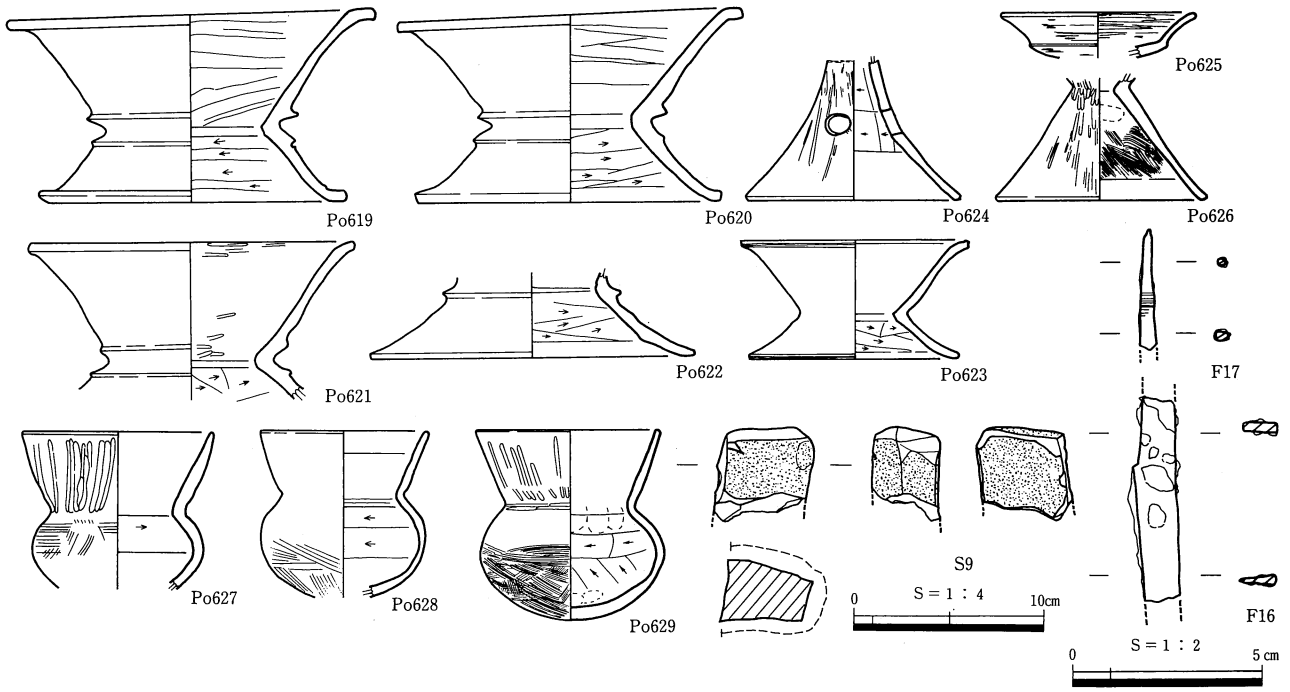
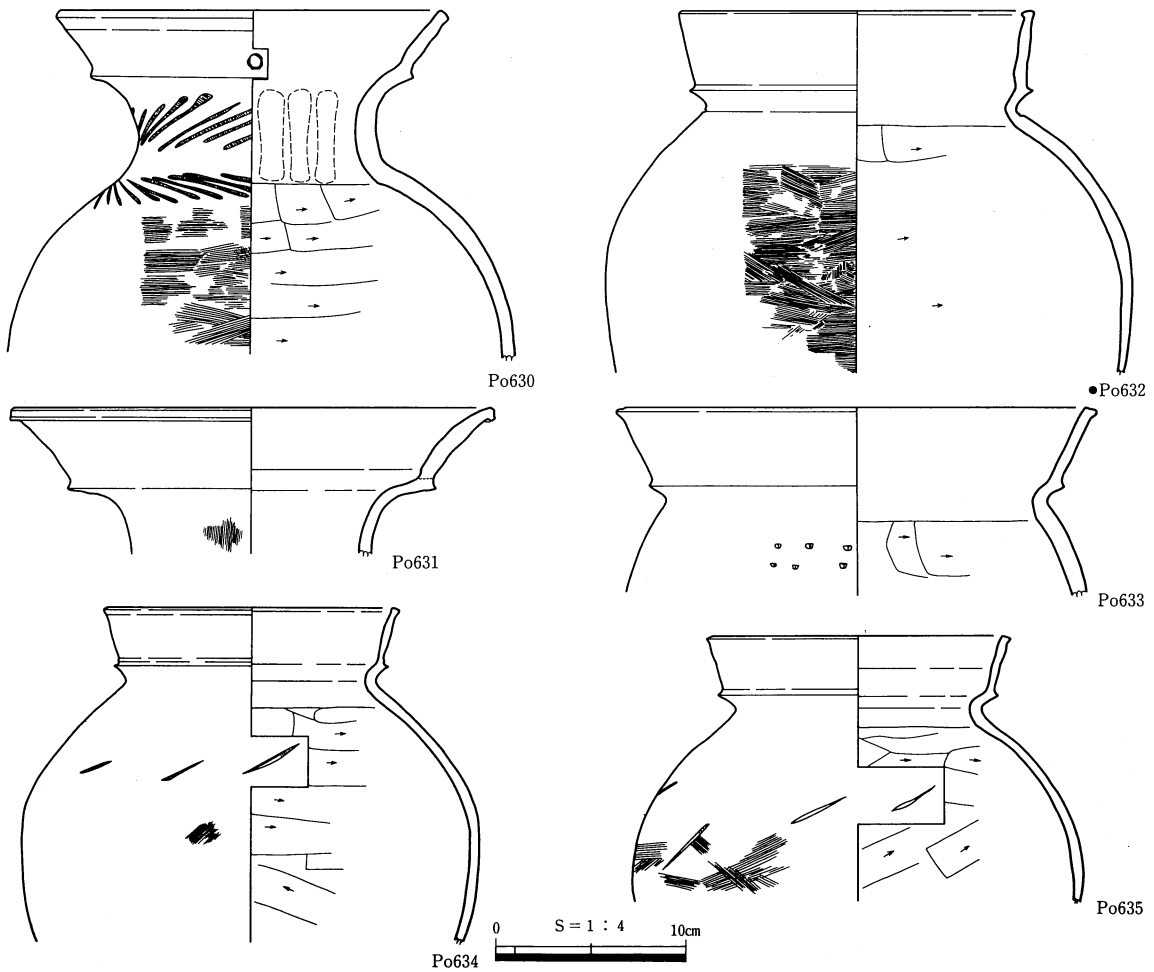


插图56 長瀬高浜遺跡S I 254出土遺物実測図(2)



挿図57 長瀬高浜遺跡 S I 254出土遺物実測図(3)



挿図58 長瀬高浜遺跡 S I 255出土遺物実測図(1)

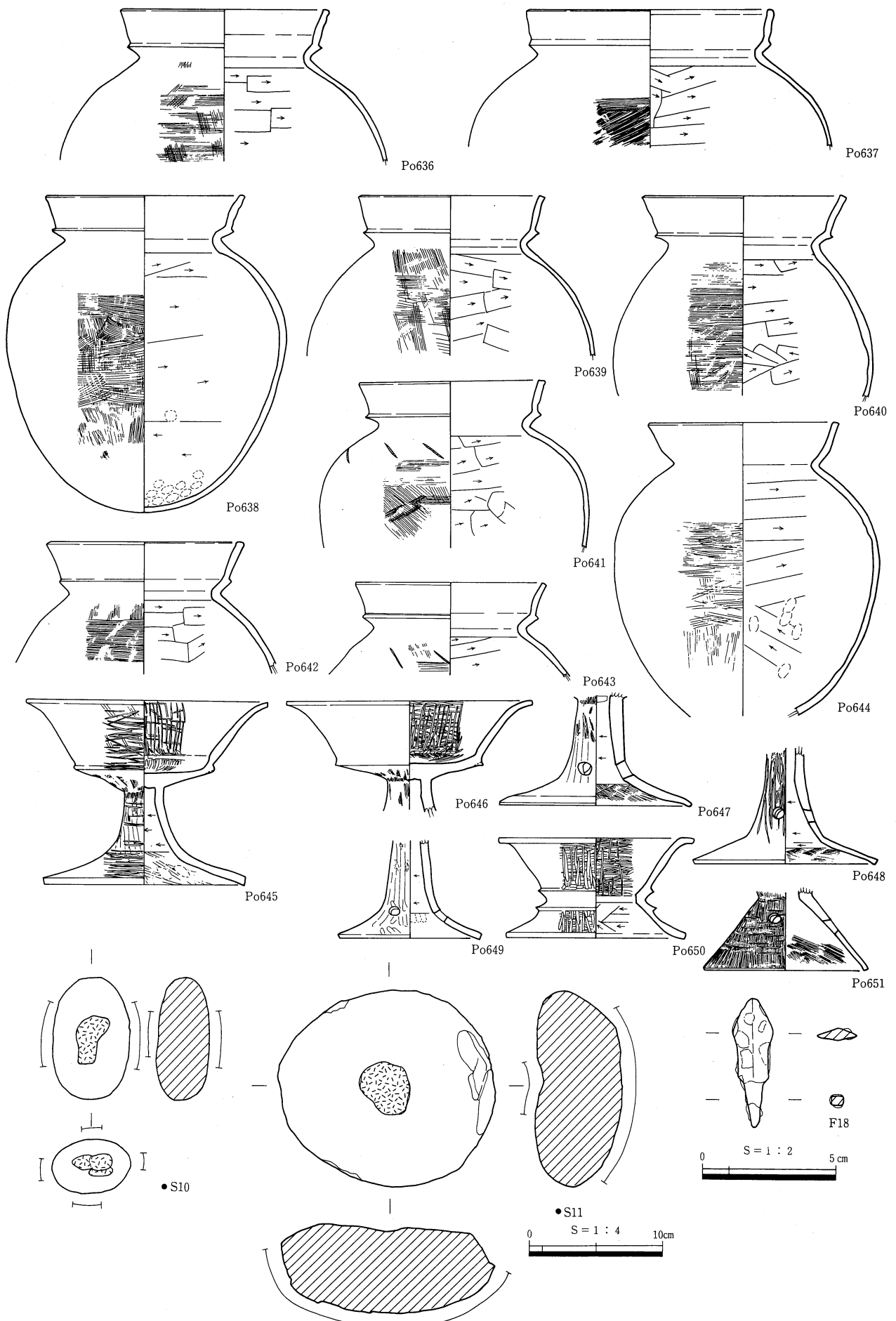
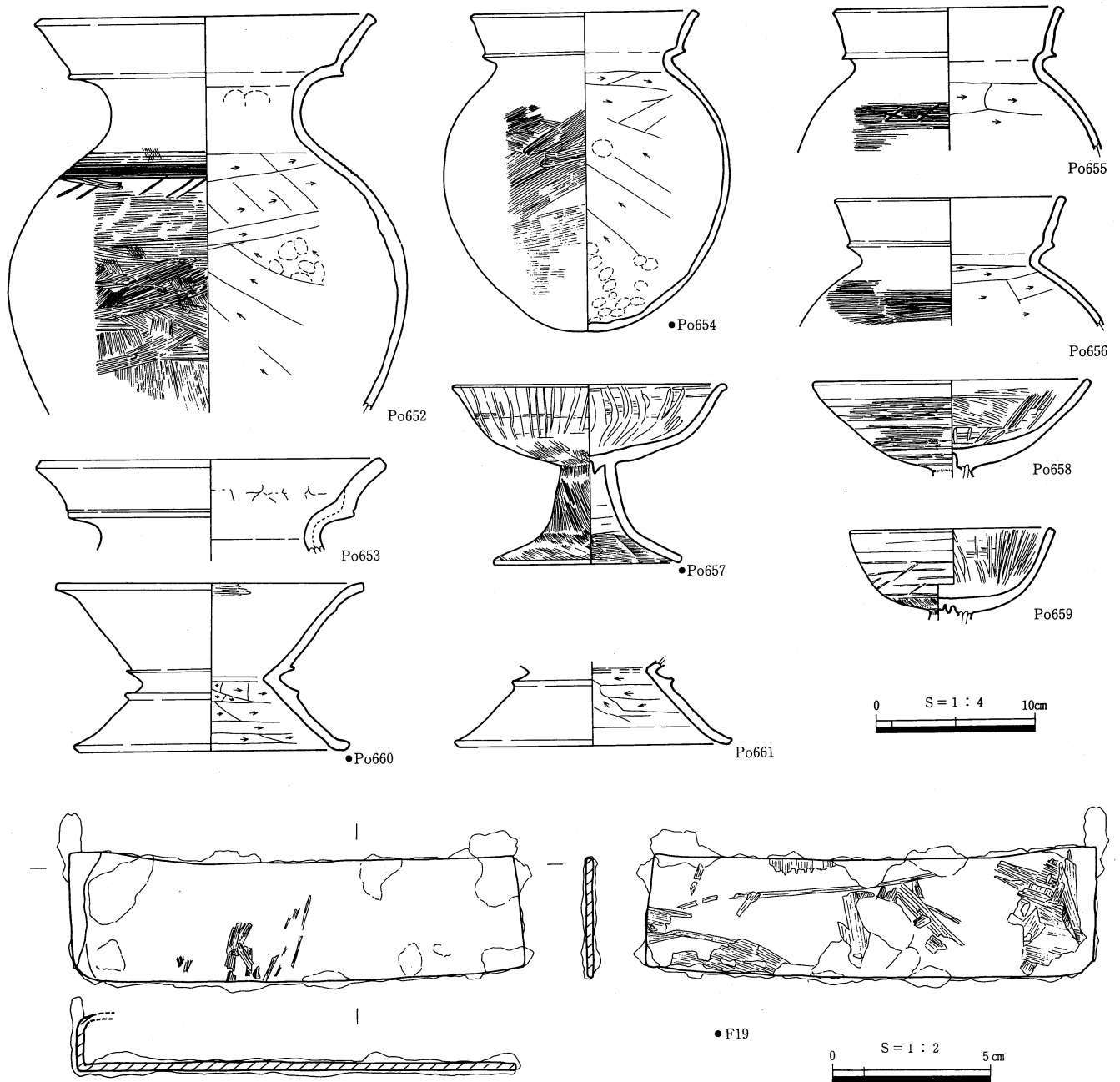


插图59 長瀬高浜遺跡 S 1255出土遺物実測図(2)



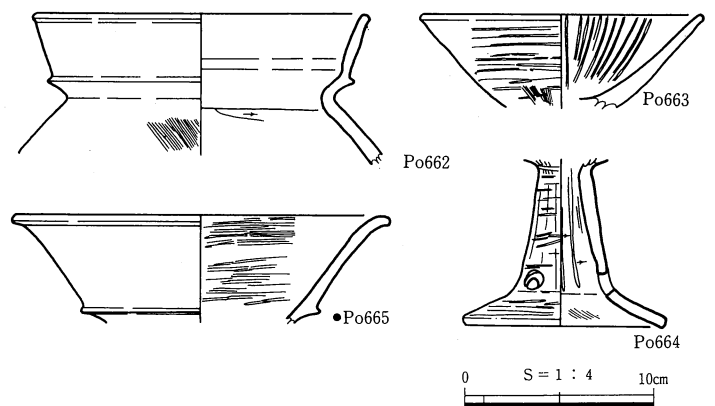
挿図60 長瀬高浜遺跡 S I 256出土遺物実測図

柱穴は、主柱穴と考えられる P 1 (54×48—40) cmのほか、P 2 (22×17—27) cmを検出した。柱穴の埋砂は暗褐色を主とする。

住居の埋砂は、暗茶褐色砂、暗褐色砂を主体とし、炭化物は含まない。埋砂の堆積状況は、東西両側が切られているため明確ではないが、自然堆積と考えて矛盾はない。

床面出土の遺物は、鼓形器台受部 P o665である。埋砂中の遺物は、土師器の小片のみであった。

床面出土の P o665から、天神川 I 期、古墳時代前期前葉ごろと判断される。(岡野)



挿図61 長瀬高浜遺跡 S I 261出土遺物実測図

S I 257 (挿図62~64、図版 5、56)

調査区西側の20グリッドにあり、標高約3.9mのほぼ平坦面に立地する。大半をS I 249によって掘り込まれている。

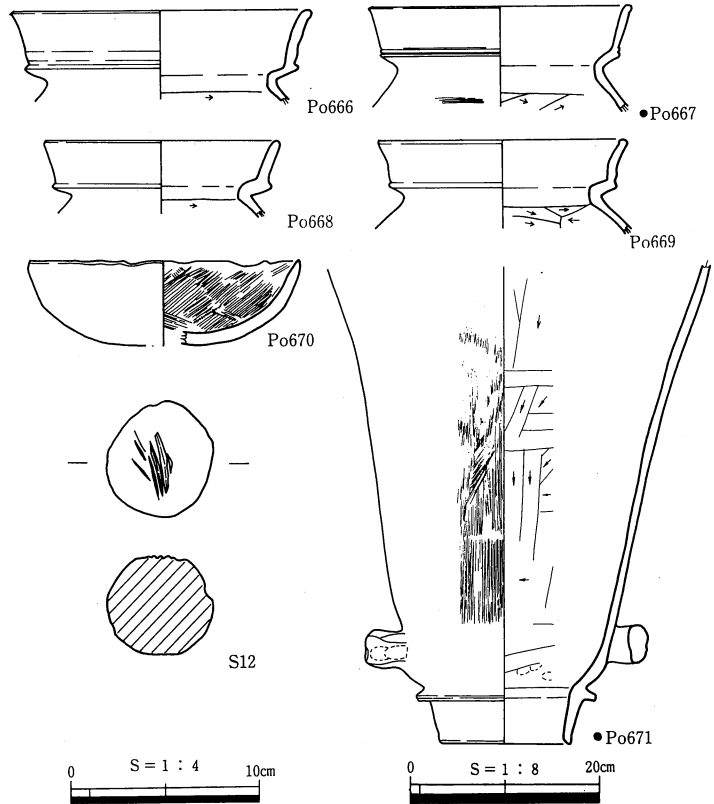
遺存状態は非常に悪く、遺存する壁から平面は方形ないしは長方形を呈すものと考えられる。規模は、北東~南西5.7m、北西~南東1.9m以上を測る。床面積7.3㎡以上を測る。壁高は、最も遺存状態のよい西壁で、10cmを測る。

支柱穴は、P 1のみ検出できた。規模は、(54×51—11) cmである。

埋砂は、2層に分層できた。

出土遺物には、土師器甕Po666~669、椀Po670、甑Po671、工具痕が認められるS12がある。床面からやや浮いた状態でPo667、Po671が出土している。Po671は、広口部を欠くが、潰れた状態で出土している。

床面出土遺物から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろと考えられる。(牧本)

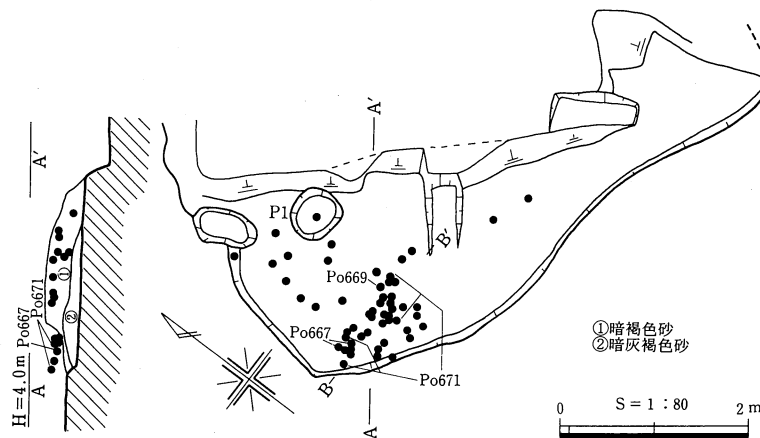


挿図62 長瀬高浜遺跡S I 257出土遺物実測図

S I 258 (挿図65・66、図版 5、6、56、57)

調査区西側の30グリッド西側付近、標高約3.5~4.0mのほぼ平坦面に立地する。北西側にはS I 246が隣接し、南側約2.5mにはS I 255が位置している。また、北東側約1.5mには3 P S K 1が、2.5mに3 P S K 2がそれぞれ位置している。

遺存状態は比較的よい。形態は、東側肩部分をS X 97周溝部分が切っている。また、西側をわずかながらS I 246により掘り込まれているが、隅丸長方形を呈すると考える。規模は、北東から南東6.12m、北西から南東4.48m床面積は18.6㎡を測る。残存壁高は、最も遺存状態のよい北東壁で最大58cmを測る。なお、壁溝等は全く



挿図63 長瀬高浜遺跡S I 257遺構図

検出されていない。

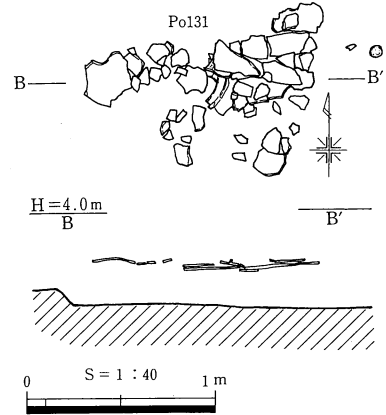
主柱穴はP 1・P 2で、それぞれの規模はP 1 (54×48—26) cm、P 2 (80×67—10) cmを測る。主柱穴間距離は、3.26mである。その他5個のピットを検出しているが、用途は不明である。これらピットの規模は、それぞれP 4 (56×53—14) cm、P 5 (56×52—9) cm、P 6 (66×64—12) cm、P 7 (52×48—9) cm、P 8 (53×45—14) cmを測る。また、これ以外の5か所の掘り込みは、この遺構に伴わない奈良から平安時代になって、掘り込まれたピットのものである。

中央ピットは、P 3であると考える。深さが非常に浅いが、ピット埋土の底面近くで僅かながら炭片がみられた。このピットの規模は (132×104—8) cmを測る。

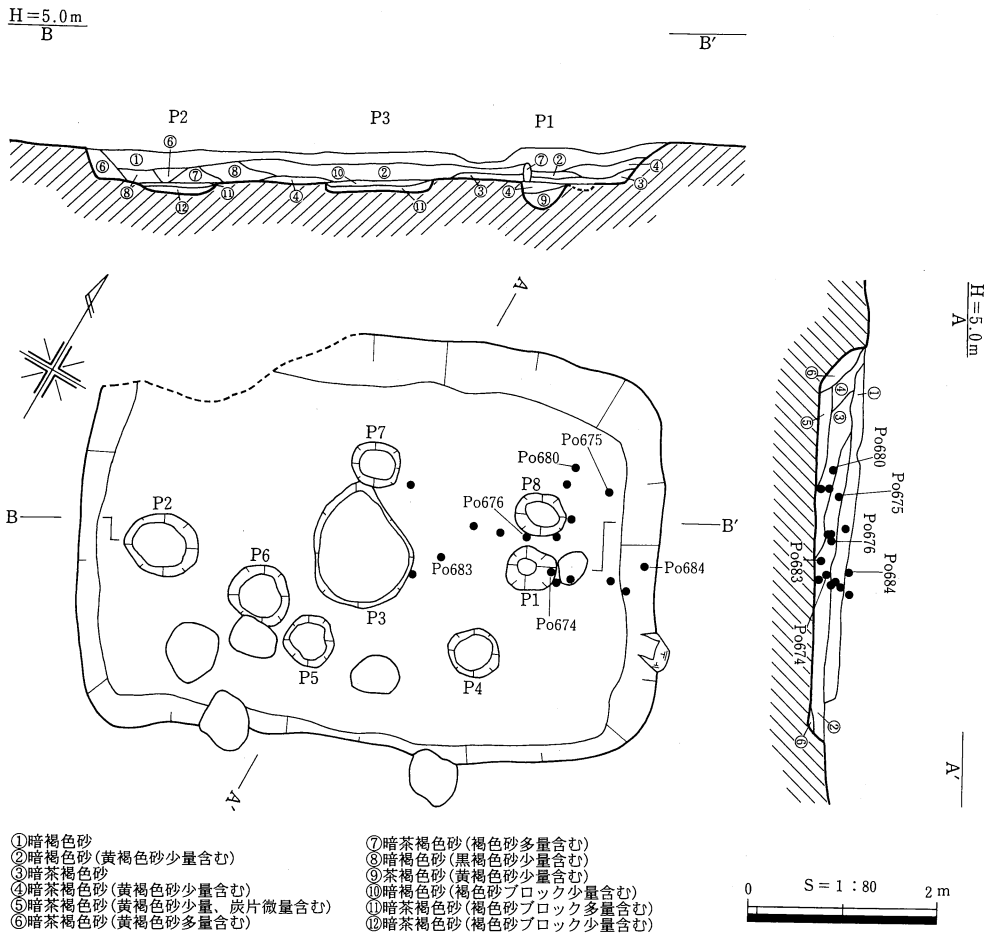
埋砂は12層に分層できた。これらは、壁際から住居中央部に向かって流れ込んだような堆積状況を示し、自然堆積したものとする。

出土遺物は、図化できたものに土師器壺Po672、甕Po673~680、高杯脚部Po681・Po682、鼓形器台Po683・Po684、小型丸底壺Po685がある。このうちPo674~Po676、Po680、Po683が埋砂下層、Po681がP 4内から出土している。

埋砂下層、及びP 4内より出土した遺物等から、天神川Ⅲ期、古墳時代前期中葉ごろのものと考えられる。
(井上)

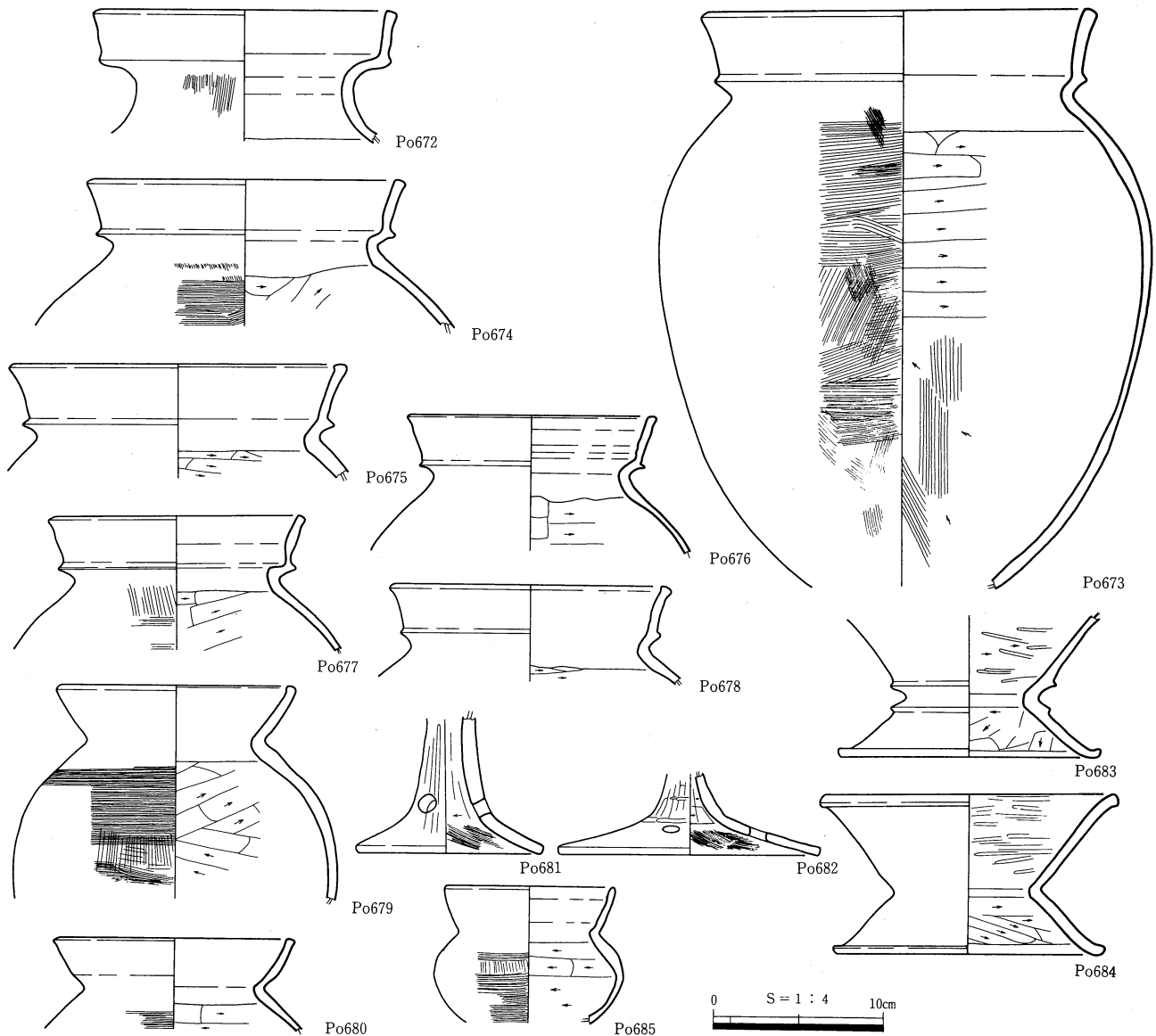


挿図64 長瀬高浜遺跡SI257甑出土状況図



- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ①暗褐色砂 | ⑦暗茶褐色砂(褐色砂多量含む) |
| ②暗褐色砂(黄褐色砂少量含む) | ⑧暗褐色砂(黒褐色砂少量含む) |
| ③暗茶褐色砂 | ⑨茶褐色砂(黄褐色砂少量含む) |
| ④暗茶褐色砂(黄褐色砂少量含む) | ⑩暗褐色砂(褐色砂ブロック少量含む) |
| ⑤暗茶褐色砂(黄褐色砂少量、炭片微量含む) | ⑪暗茶褐色砂(褐色砂ブロック多量含む) |
| ⑥暗茶褐色砂(黄褐色砂多量含む) | ⑫暗茶褐色砂(褐色砂ブロック少量含む) |

挿図65 長瀬高浜遺跡SI 258遺構図



挿図66 長瀬高浜遺跡 S I 258出土遺物実測図

S I 259 (挿図67・68、図版6・57)

調査区西側の30グリッドにあり、標高3.5~3.8mのほぼ平坦面に立地する。南東側約1.5mにS B61があり、西側にはS X99が近接する。

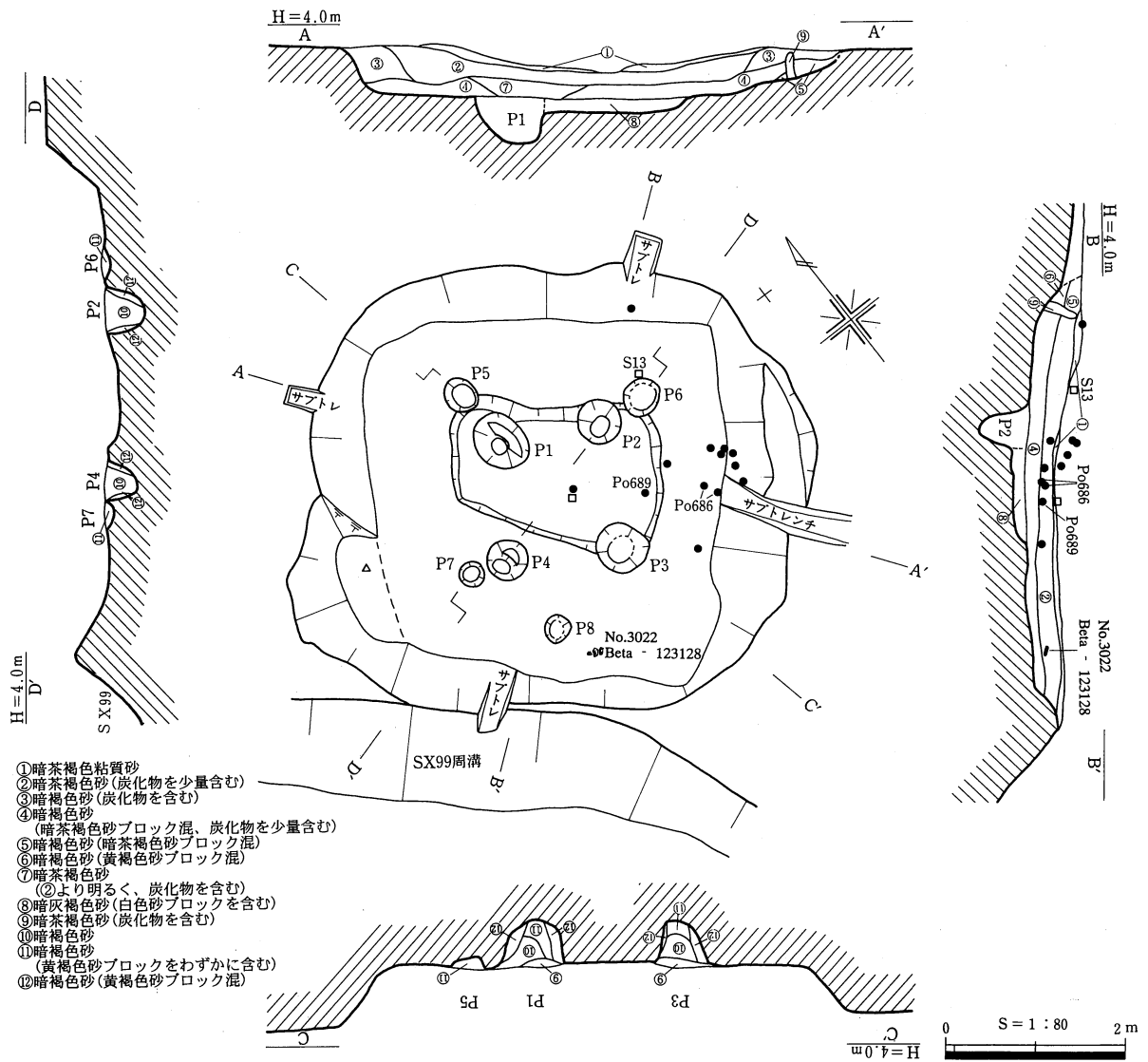
遺存状態は非常によく、平面形は北東側の広がった、いびつな方形を呈す。規模は北東~南西3.98m、北西~南東3.90m、床面積15.2㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい南東壁で最大0.58mである。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はP1~4で、それぞれの規模はP1(69×56~49)cm、P2(50×48~54)cm、P3(57×54~48)cm、P4(49×45~58)cmを測る。主柱穴間距離は、P1~P2間から順に1.2m、1.4m、1.3m、1.3mである。P5~7は深さ12~19cmと浅く、補助柱的なものであったと考えられる。

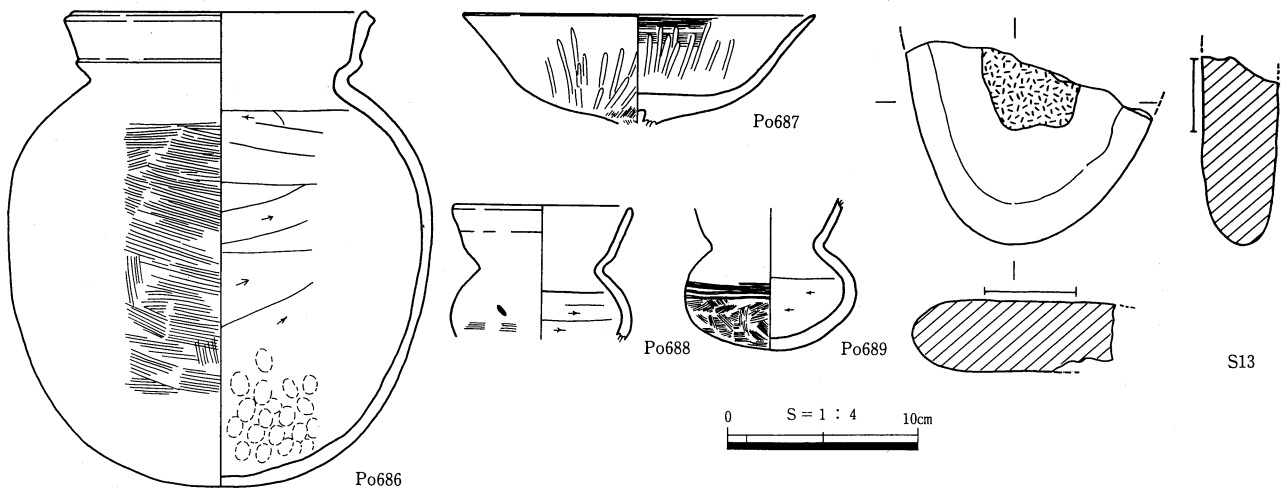
P8は壁際特殊ピットで、規模は(30×27~8)cmである。

床面は、主柱穴より内側が10~15cm程度の深さで、不整な方形にくぼむ。

埋砂は9層に分層できた。このうち①層は古代の整地層である。埋砂中からは炭化物片が多く出土しており、焼失したものと考えられる。構造物と思われる炭化材も出土しており、樹種鑑定の結果No3022はネジキと判定された。また、No3009はシキミと鑑定されたが、断定できないという結果であった。



挿図67 長瀬高浜遺跡 S1259遺構図



挿図68 長瀬高浜遺跡 S1259出土遺物実測図

ほとんどの遺物は住居の南東側で出土した。甕P o686、高杯P o687、小型丸底壺P o688・689、石皿S 13を図化した。このうち下層の遺物はP o686・689で、P o686は壁際で出土している。

時期は、下層出土遺物から天神川V期、古墳時代中期前葉ごろと考える。また、¹⁴C年代測定ではBeta-123128 (No3022)は1670±50B.P.で、3世紀中から4世紀前半ごろという年代が得られたが、土器型式より古い値と考える。

なお、住居埋砂上に整地遺構2の粘土層が検出されており、奈良から平安時代には、完全に埋まり切ってはならず、窪みとなっていたものと考えられる。(岩崎)

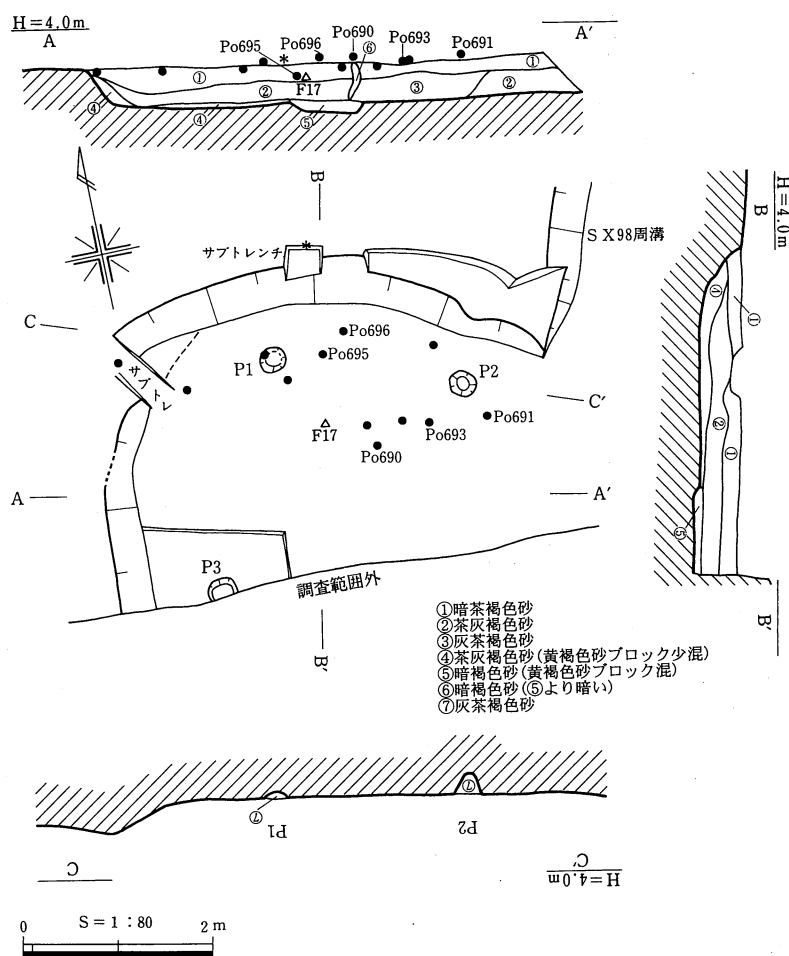
S I 260 (挿図69・70、図版6・58)

調査区西側の30グリッドにあり、標高3.4~3.5mの平坦地に立地する。北西側約2mにはS I 259、北東側約1mにはS B 61がある。東側はS X 98周溝に切られる。

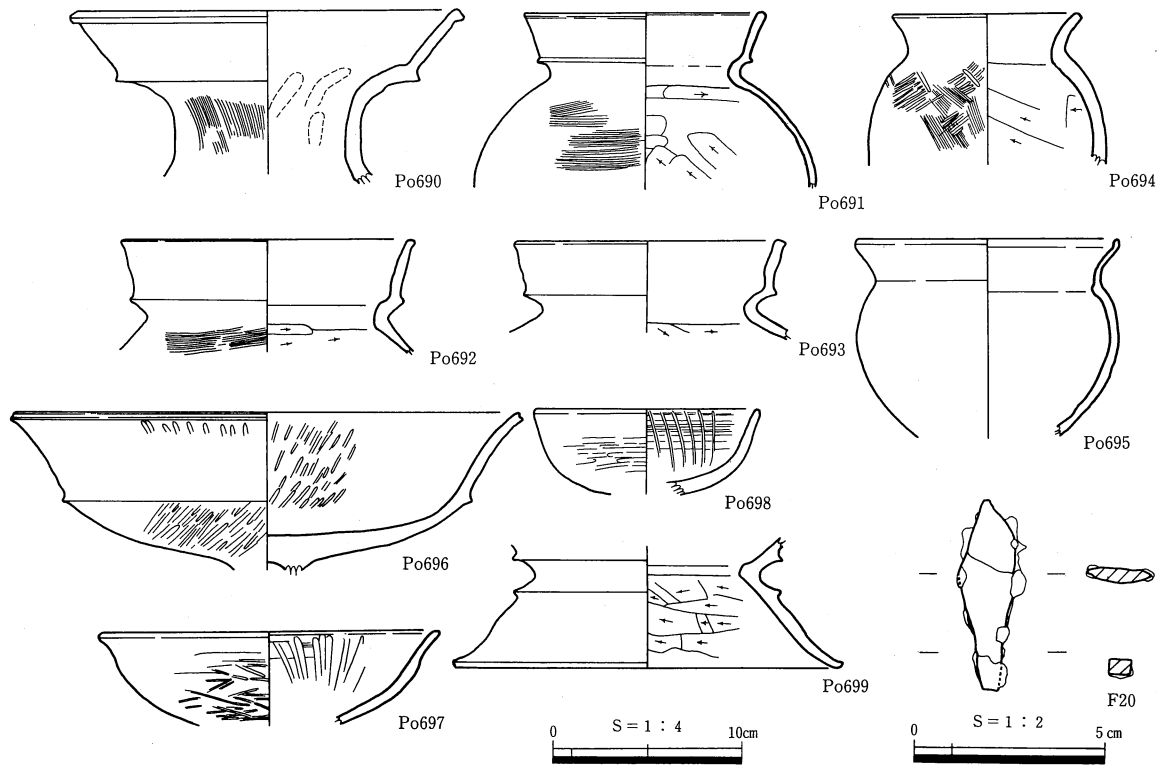
遺存状態は悪く、南半は調査範囲外にある。平面形は、残存する壁から、ややいびつな方形を呈するものと思われる。規模は北東~南西3.1m以上、北西~南東4.3m以上、床面積は残存部分で10.8㎡である。残存壁高は、最も遺存状態のよい南東壁で最大0.33mである。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はP 1~3が検出できた。それぞれの規模はP 1 (28×26—5) cm、P 2 (28×27—28) cm、P 3 (30×21以上—8) cmである。主柱穴間距離は、P 1~P 2間が2.1m、P 3~P 1間が2.5mである。

埋砂は5層に分層できた。比較的良好にしまっている。



挿図69 長瀬高浜遺跡 S I 260遺構図



挿図70 長瀬高浜遺跡 S I 260出土遺物実測図

ほとんどの遺物は遺構の検出面である暗茶褐色砂中で出土しており、床面遺物はない。壺 Po690、甕 Po691～695、高杯 Po696～698、鼓形器台 Po699、鉄鏃 F20を図化した。

Po694は胴部に叩きがみられ、その形態から畿内第V様式の影響を引き継ぐ甕と思われる。Po695も在地の土器にはみられない器形である。F20は、茎部が欠損したものと思われる。また、椀形滓が出土しており、分析の結果鍛冶滓である可能性が指摘された。

時期は、出土遺物から天神川Ⅱ～Ⅲ期、古墳時代前期前半ごろと考える。

(岩崎)

S I 262 (挿図71・72、図版58)

調査区西側の20グリッドにあり、標高3.7～4.1mのほぼ平坦面に立地する。南側をS X98周溝にきられ、西側はS B61と切り合っている。

遺存状態は悪く、平面形はややいびつな隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は東西2.8m、南北2.5m以上、床面積は残存部分で6.9㎡である。残存壁高は最も遺存状態のよい東壁で最大0.29mである。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はP 1 (41×39—23) cm、P 2 (40×35—25) cmの2個が検出できた。主柱穴間距離は2.2mである。

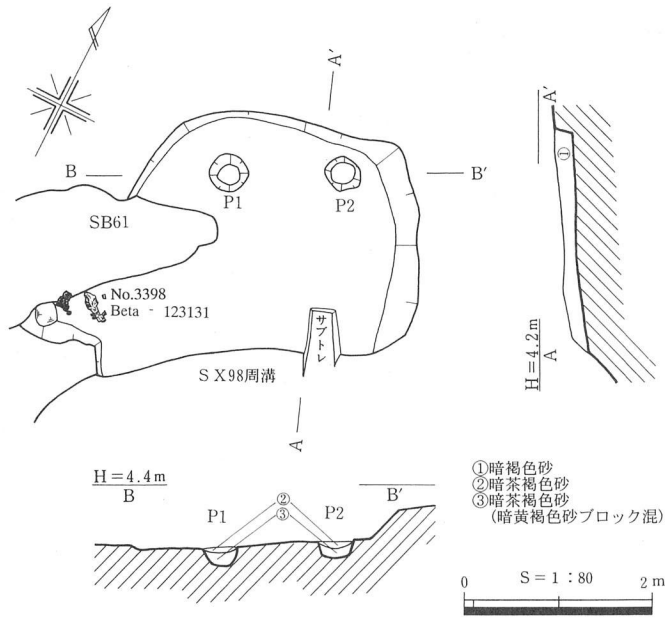
住居の南西側に接して、炭化材と、発泡したタールのような固い炭化物が検出された。No3398 (Beta-123131) について樹種鑑定、¹⁴C年代測定をおこなった。樹種鑑定の結果、マツに樹脂状の物質が附着していることがわかったが、附着物質が何であるのか不明であった。年代値は2740±60B.P.、縄文時代晩期前半ごろの値が得られたが、出土している遺物の年代と合致しない。

埋砂は暗褐色砂単層である。

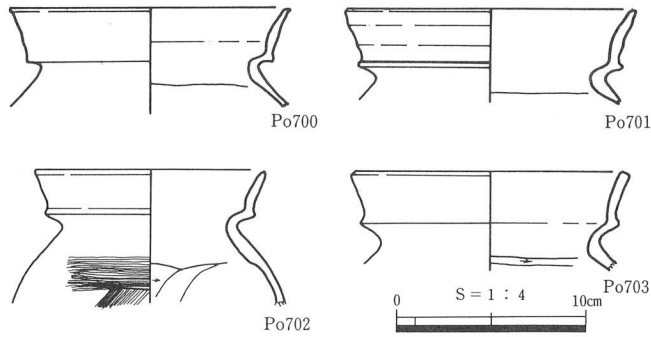
遺物は埋砂中から破片のみ数点出土しており、甕 Po700～703を図化した。

時期は、出土遺物から天神川Ⅰ期、古墳時代前期前葉ごろと考える。

(岩崎)



挿図71 長瀬高浜遺跡 S I 262遺構図



挿図72 長瀬高浜遺跡 S I 262出土遺物実測図



文中写真① 現地説明会風景その1

第3節 掘立柱建物跡

S B 61 (挿図73、図版6)

調査区西側の20グリッドにあり、標高3.4~3.7mのほぼ平坦面に立地する。北西側でS I 262、南西側でS B 63と重複する。東側はS X 98に切られる。西側約3.5mにS I 259、北・西側にピット群3がある。

形態はいわゆる布掘り形式で、桁行部は溝状に連続している。規模は、梁行1間(2.7m)×桁行2間(3.2m)を測る。主軸方向はN-45°-Eである。

柱穴の規模は、P 1 (54×40—76) cm、P 2 (43×24—81) cm、P 3 (33×20—108) cm、P 4 (44×38—100) cm、P 5 (68×45—67) cm、P 6 (46×33—65) cmを測る。かなり深いピットで、上部構造は大型のものであったと思われる。

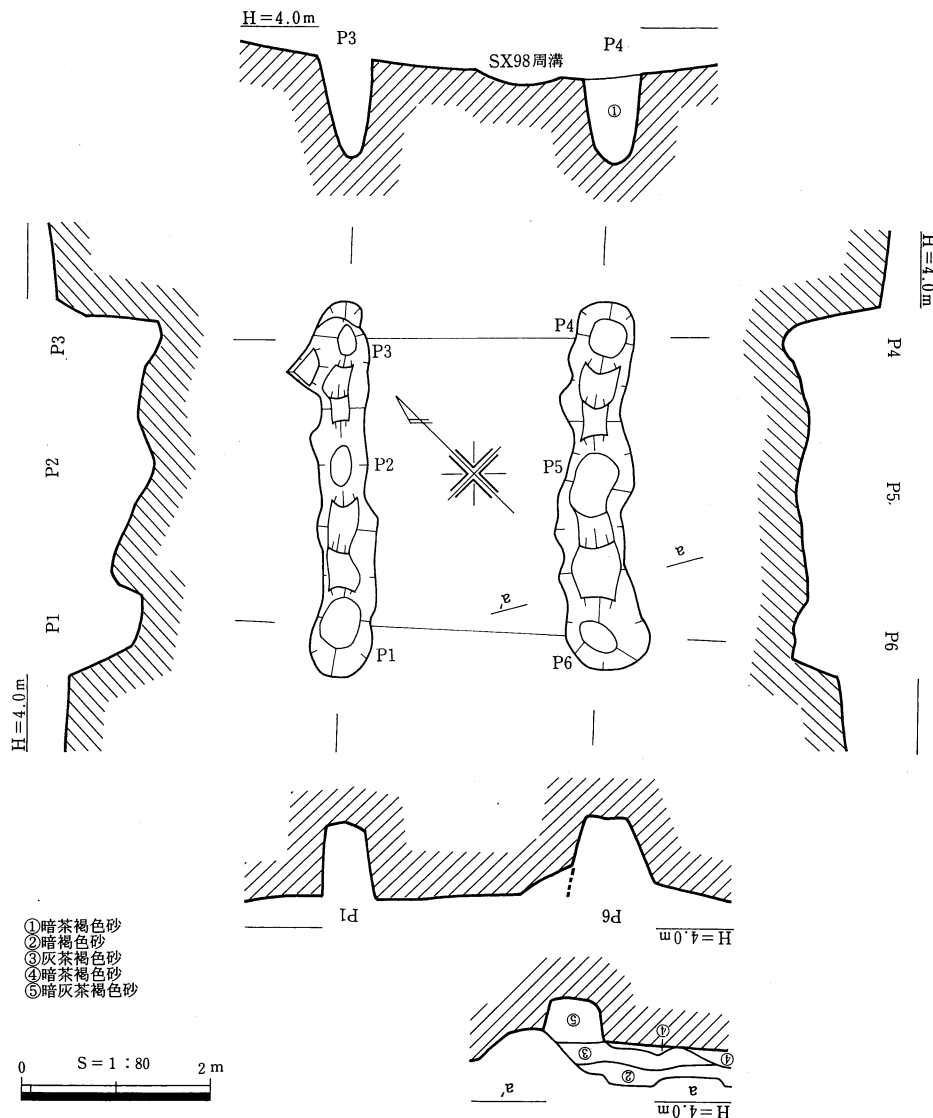
柱穴間距離は、P 1~P 2間から順に1.7m、1.4m、2.7m、1.5m、1.8m、2.7mを測り、梁行き2.7mとやや広い。棟持ち柱は検出されなかった。柱穴を結ぶ溝と柱穴底面とのレベル差は、12~31cmある。

柱穴の埋砂は、淡茶褐色砂から暗灰茶褐色砂がほぼ単層で入り、柱痕等は観察できなかった。

遺物は、埋砂中から土師器片が数点出土しているが、図化できなかった。

時期は、層的にみて古墳時代前期前半ごろのものと考えられる。

(岩崎)



挿図73 長瀬高浜遺跡S B 61遺構図

S B62 (挿図74、図版6)

調査区西側の20グリッドにあり、標高4.0~4.3mのほぼ平坦面に立地する。ピット群3のなかにあり、南側約4mにはS B63がある。

規模は、梁行1間(2.9m)×桁行2間(3.1m)を測る。主軸方向はN-83°-Eである。

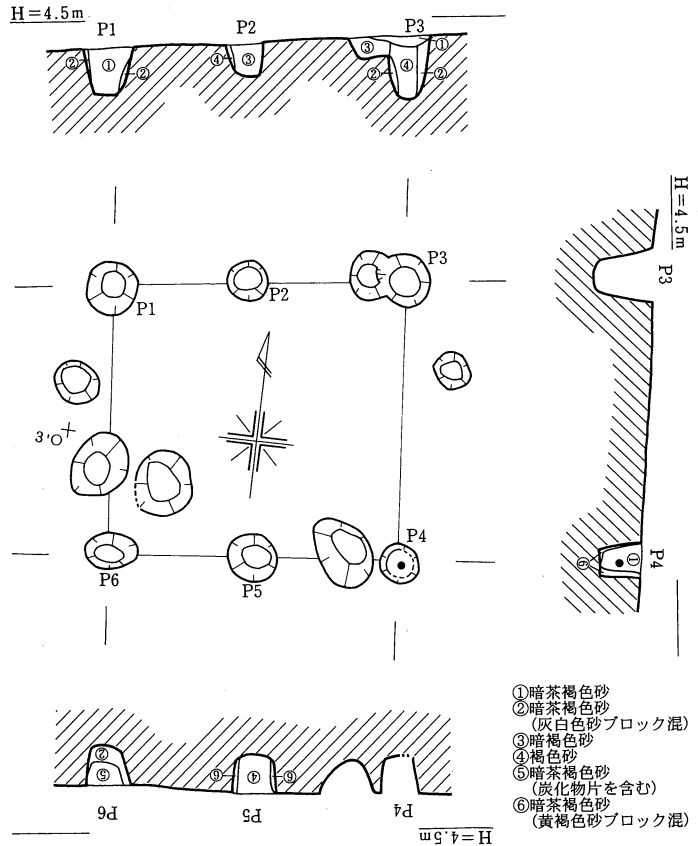
柱穴の規模は、P1(56×53-53)cm、P2(42×41-40)cm、P3(56×52-67)cm、P4(42×38-42)cm、P5(51×49-44)cm、P6(56×41-41)cm、P7(41×34-15)cmを測る。

柱穴間距離は、P1~P2間から順に1.4m、1.7m、3.0m、1.5m、1.6m、2.9mである。梁行きが3mと広いが、棟持ち柱は検出できなかった。

柱穴の埋砂は、褐色から暗茶褐色砂である。P6は、埋砂中にわずかに炭化物片を含んでいた。

遺物は、埋砂中から土師器片が数点出土しているが、図化できなかった。

時期は、層的にみて古墳時代前期ごろのものとする。(岩崎)



挿図74 長瀬高浜遺跡S B62遺構図

S B63 (挿図75・76、図版6)

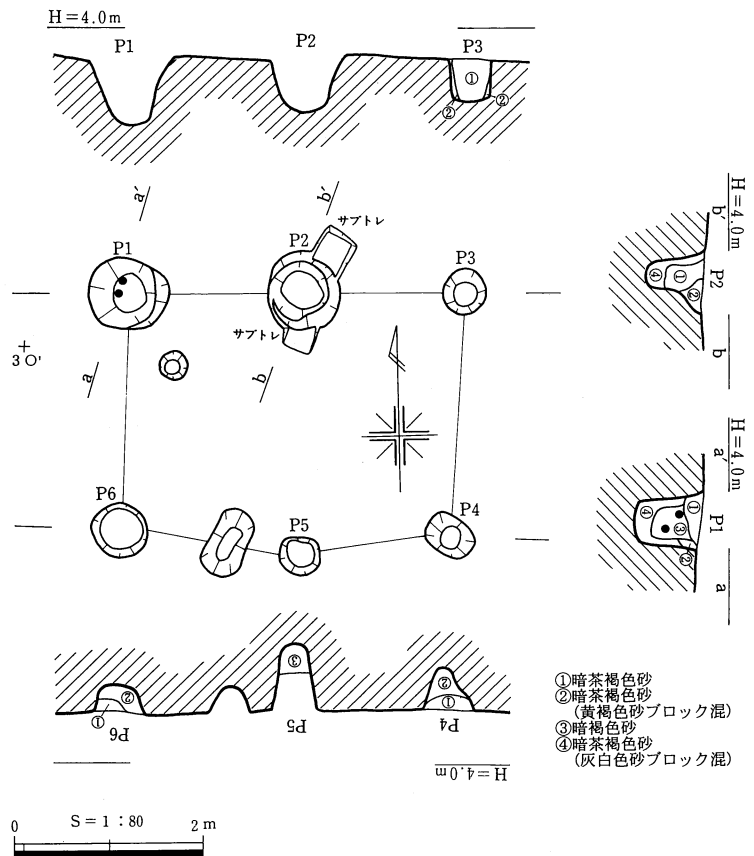
調査区西側の20グリッドにあり、標高3.4~3.7mのほぼ平坦面に立地する。ピット群3のなかにあり、北側約4mにはS B62がある。南東側ではS B61と重なりあう。また、上面には土器溜1が広がっている。

規模は、梁行1間(2.5m)×桁行2間(3.5m)を測る。主軸方向はN-91°-Eである。

柱穴の規模は、P1(83×73-72)cm、P2(79×77-57)cm、P3(48×46-50)cm、P4(56×40-22)cm、P5(44×41-80)cm、P6(64×49-42)cmを測る。

柱穴間距離は、P1~P2間から順に1.8m、1.7m、2.6m、1.6m、1.9m、2.5mである。

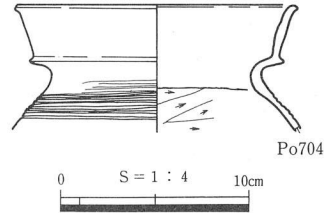
柱穴の埋砂は、暗褐色から暗茶褐色砂であった。



挿図75 長瀬高浜遺跡S B63遺構図

遺物は、P 4 を除く柱穴の埋砂中から土師器片が出土している。このうちP 1 内出土の土師器甕Po704を図化した。

時期は、出土遺物より天神川 I 期、古墳時代前期前葉ごろと考える。(岩崎)



挿図76 長瀬高浜遺跡S B63出土遺物実測図

S B64 (挿図77、図版7)

調査区西側の20グリッド南側調査区際であり、標高3.5~3.6mのほぼ平坦面に立地する。北西側2mにはSA10、北東側0.5mにはSI257がある。

南側は調査区外に延びており、正確な形態、規模は不明であるが、梁行2間(3.0m以上)×桁行3間(4.5m以上)と推定される。主軸方向は、N-34°-Eである。

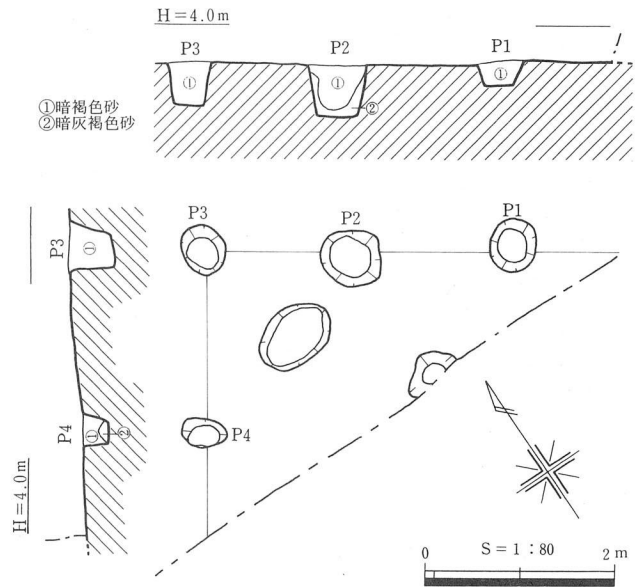
柱穴はP 1 ~ P 4 を検出できた。それぞれの規模は、P 1 (59×48-24)cm、P 2 (63×58-67)cm、P 3 (52×44-44)cm、P 4 (48×29-30)cmを測る。

柱穴間距離は、P 1 ~ P 2 間から順に、1.7m、1.6m、1.9mである。

埋砂は、暗褐色砂単層ないし2層に分層できたが、柱痕を思わせるものは検出されなかった。

出土遺物には、それぞれのピット埋砂から土師器片が出土しているが、図化できなかった。

出土遺物および検出層序から、古墳時代前期のものと考えられる。(牧本)



挿図77 長瀬高浜遺跡S B64遺構図



文中写真② 重機表土剥ぎ作業風景

第4節 土 坑

2 O S K 5 (挿図78・79、図版7、58)

調査区西側の2 O グリッド南側調査区際にあり、標高3.3~3.5mの緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。北西側はS I 252と接している。

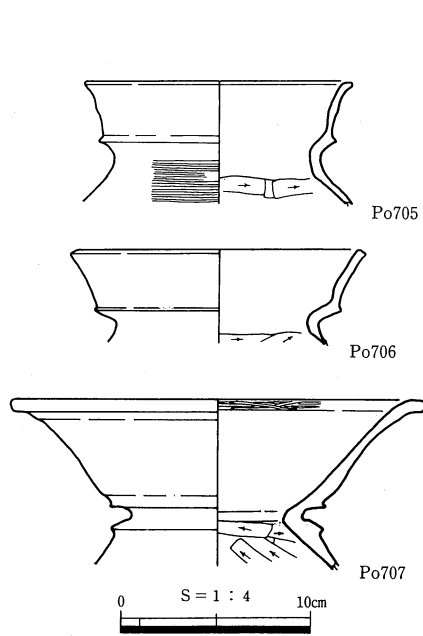
平面不整楕円形を呈し、長軸2.53m、短軸2.04m、深さ0.29mを測る。断面不整形な台形状を呈す。

埋砂は、暗褐色砂が単層ではいる。

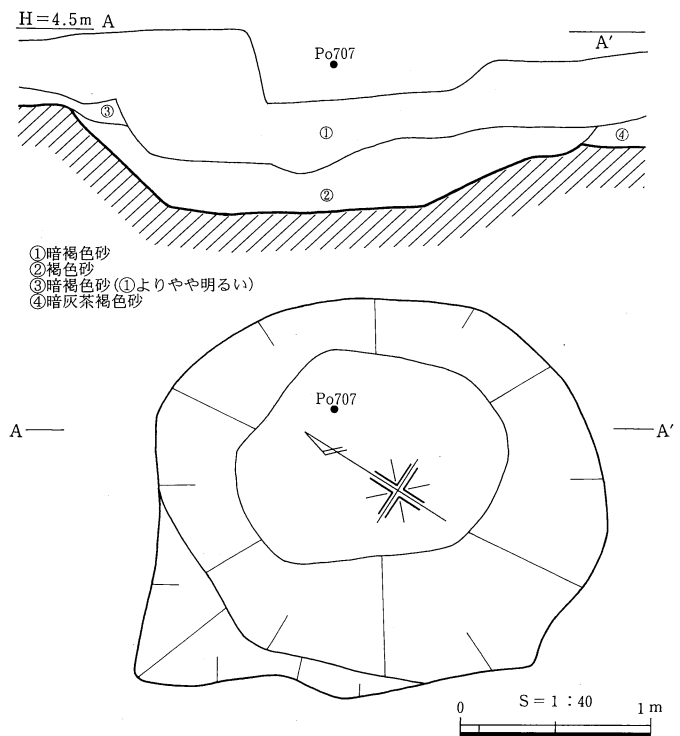
出土遺物は、図化できたものに埋砂中からの甕Po705・706、鼓形器台Po707がある。

出土遺物及び検出層序から、天神川Ⅱ期、古墳時代前期前葉ごろのものと考えられるが、性格は不明である。

(牧本)



挿図78 長瀬高浜遺跡2 O S K 5 出土遺物実測図



挿図79 長瀬高浜遺跡2 O S K 5 遺構図

3 P S K 1 (挿図80、図版7)

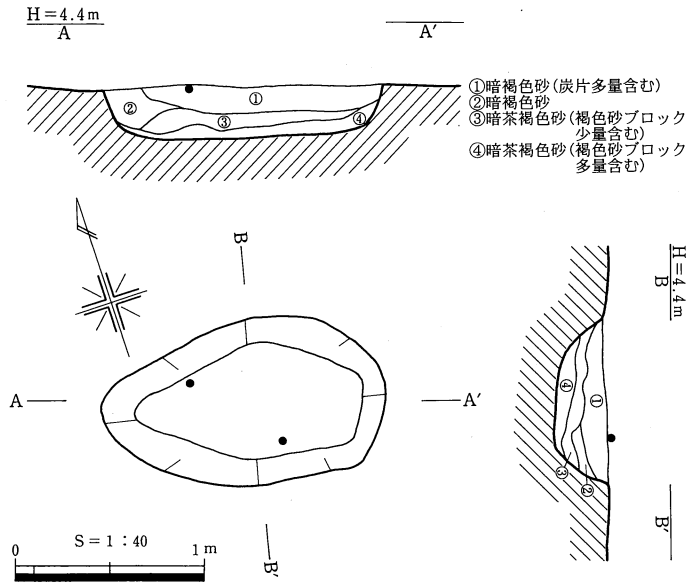
調査区西側の3 P グリッド調査区際にあり、標高約4mのほぼ平坦面に立地する。北側約0.5mに3 P S K 2が、北西側約2mにS I 258が、西側約3.5mにS I 246がそれぞれ位置している。

遺存状態は比較的良好で、形態は上縁部・底面部ともにやや不整な楕円形状を呈するものと考えられる。規模は、上縁部で長軸1.5m×短軸0.88m、底面で長軸1.2m×短軸0.6mを測る。深さは、最も遺存状態のよい南側で上縁部から27cmを測る。

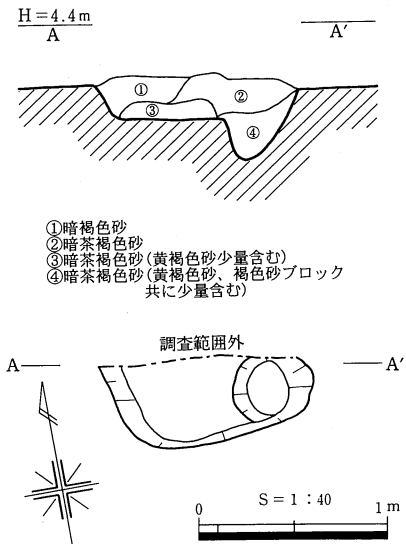
埋砂は4層に分層でき、自然堆積の様相が窺えるものであった。なお、埋砂①層の暗褐色砂は炭化物片を多量に含んでいた。

出土遺物は図化できなかったものの、埋砂中からわずかな土師器片と、いずれも埋砂上面からではあるが、炭化材(No3299・3300)が2点出土している。このうち、No3300の炭化材については年代測定をおこなった。

時期判断できる遺物が出土していないためはっきりしないが、検出面が周辺の堅穴住居跡検出面とほぼ同じであることから、層位的に古墳時代前期から中期にかけてのものであるとする。また、炭化材の年代測定では、



挿図80 長瀬高浜遺跡 3 P S K 1 遺構図



挿図81 長瀬高浜遺跡 3 P S K 2 遺構図

Beta-123129が 3290 ± 70 B.P.(B.C. 1525) という結果が得られたが、層位的な時期とかなりずれた結果である。

(井上)

3 P S K 2 (挿図81、図版7)

調査区西側の3 P グリッド調査区際であり、標高約4 mのほぼ平坦面に立地する。北側半分が北側調査区外へ続く。約0.5m南側に3 P S K 1が、西側約5 mにS I 246が位置している。

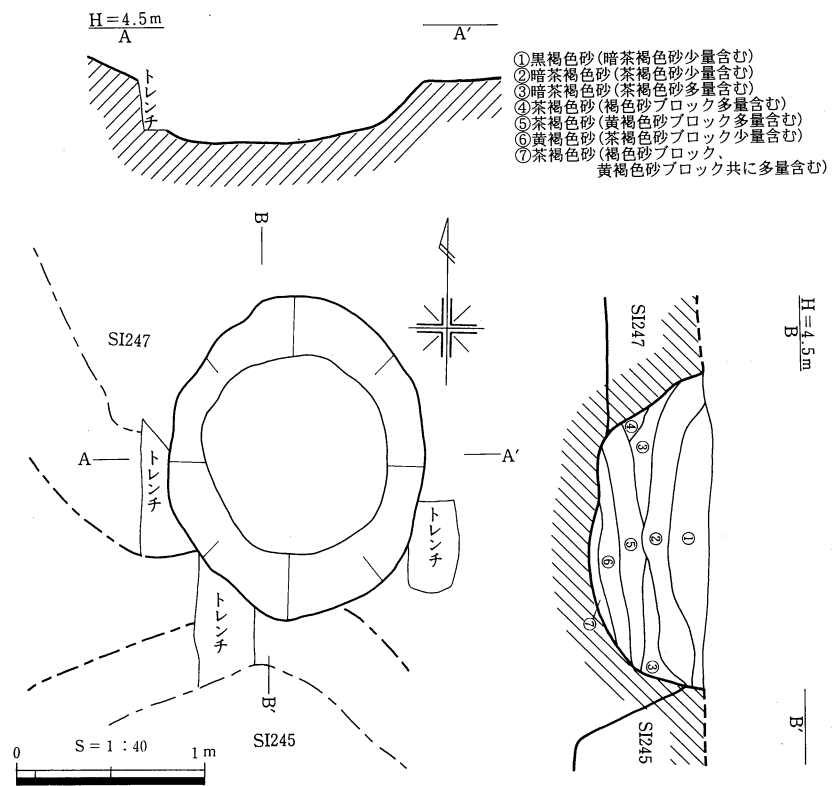
遺存状況は悪くないものの北側半分が調査区外へと続いているため、はっきりとした全体の形態は不明である。しかしながら残存するものから判断すると、平面形は上縁部・底面部ともにやや不整な楕円形状を呈するものと

考えられる。底部東側でピット状の落ち込みがみられ、さらに深くなる。規模は上縁部で長軸1.10m×短軸0.47m、底面で長軸0.84m×短軸0.44mを測る。深さは最も残りのよい南東側で上縁部から約40cmを測る。

埋砂は4層に分層でき、自然堆積の様相が窺えるものであった。なお、埋砂①層の暗褐色砂は炭片を多量に含んでいた。

遺物は図化できなかったが、埋砂中からわずかな土師器片が出土している。

時期判断できる遺物が出土していないため、はっきりしないが、検出面が周辺の竪穴住居跡検出面とほぼ同じであり、古墳時代前期から中期ごろのものと考えられる。(井上)



挿図82 長瀬高浜遺跡 4 P S K 1 遺構図

4 P S K 1 (挿図82、図版7)

調査区西寄りの4 P グリッドにあり、標高約4 m前後のほぼ平坦面に立地する。S I 245の北側、S I 247の南側に位置し、それぞれの竪穴住居跡を切る。

遺存状況は、元来よかったものと思われるが、検出時に遺構の輪郭が捉えにくく、検出面を掘り過ぎてしまった。残存するものから判断すると、形態は上縁部が楕円形状、底面がほぼ正円形状を呈するものとする。規模は上縁部で長軸1.69m×短軸1.35m、底面で長軸1.04m×短軸0.98mを測る。深さは最も遺存状態のよい南側で、上縁部から53cmを測る。床面では、ピット等の掘り込みは認められなかった。

埋砂は7層に分層でき、自然堆積の様相が窺える。

遺物は、図化できなかったが埋砂中からわずかな土師器片が出土している。

時期判断できる遺物が出土していないが、検出状況、S I 245・247との切り合い関係から判断すると、少なくとも天神川IV期ごろか、それよりもわずかに新しい時期のものと考えられる。(井上)

第5節 柵列・ピット群

SA 8・9、ピット群3 (挿図83・84、挿表4、図版7)

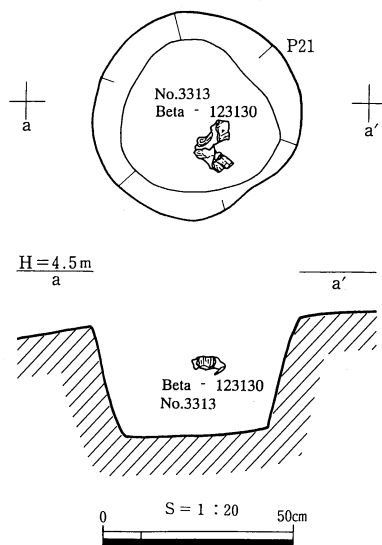
調査区西側の2 O、3 Oグリッドにまたがっており、標高3.2~4.3mの、緩やかに南側に向かって傾斜する斜面に立地する。この区域にはピット群3、SB 61~63、SA 8・9などがあり、竪穴住居跡は密集していない。

SA 8・SA 9の主軸方向はそれぞれN-25°-E、N-29°-Eとなり、ほぼ平行に並ぶ。両者の間は約5.5m離れている。

SA 8は計7個のピットからなり、ピット間距離はほぼ1.6mと統一されている。埋砂はおもに褐色砂が入る。遺物は、P 3・5から土師器片が、P 7から炭化物が出土している。

SA 9は計3個のピットからなり、ピット間距離はP 1~P 2間から順に0.9m、1.1mである。埋砂はおもに暗茶褐色砂が入る。遺物は、P 2から土師器片が出土している。

SA 8・9の周辺には竪穴住居はなく、掘立柱建物跡が集中していることから、居住区とを区画する施設であったものとも考えうる。



挿図83 長瀬高浜遺跡ピット群3 P21内炭化物出土状況図

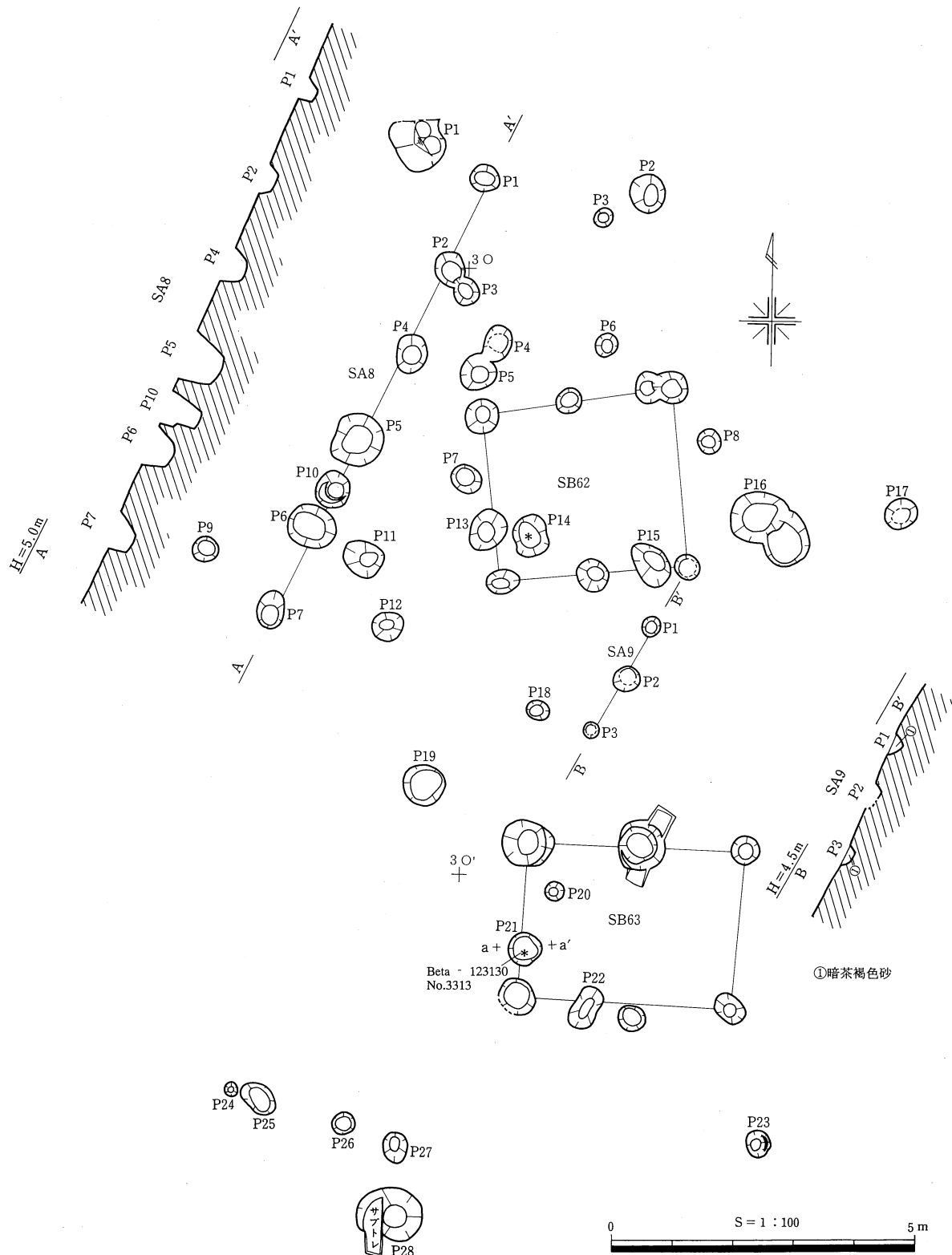
ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考
P1 (P113)	(77)×78-27		P15 (P105)	78×53-38	土師器片	SA8-P1(P112)	48×44-27	
P2 (P110)	62×61-64		P16 (P122)	90×85-17		SA8-P2(P127)	(60)×47-18	
P3 (P111)	31×28-29		P17 (P121)	54×49-16	土師器片	SA8-P3(P126)	48×42-56	
P4 (P117)	60×44-10		P18 (P 93)	37×31-49		SA8-P4(P123)	63×53-38	土師器片
P5 (P118)	60×58-43		P19 (P 90)	70×66-28	土師器片	SA8-P5(P99)	85×81-65	
P6 (P116)	38×37-21		P20 (P133)	41×32-26	土師器片	SA8-P6(P97)	80×70-48	土師器片
P7 (P102)	49×42-47		P21 (P 92)	55×53-27		SA8-P7(P96)	62×44-40	
P8 (P125)	39×35-30	土師器片	P22 (P132)	75×39-30	Beta-123130	SA9-P1(P107)	30×26-17	
P9 (P101)	46×42-55	土師器片	P23 (P128)	41×38-56	土師器片	SA9-P2(P108)	45×41-12	
P10 (P 98)	62×57-61	土師器片	P24 (P137)	25×21-19		SA9-P3(P109)	27×26-11	土師器片
P11 (P100)	67×56-53		P25 (P136)	60×42-58	土師器片			
P12 (P 95)	53×47-50		P26 (P135)	38×34-58	土師器片			
P13 (P120)	75×58-21		P27 (P134)	37×40-33	土師器片			
P14 (P119)	68×57-32	炭化材	P28 (P138)	108×85-28	土師器片			

挿表4 長瀬高浜遺跡ピット群3、SA 8・9ピット一覧表

ピット群3は、計28個のピットを検出した。それぞれの規模は、挿表4を参照されたい。いずれのピットも規則性はない。埋砂は単層～3層で、暗茶褐色砂または暗褐色・褐色砂が入る。

遺物は、12個のピットから土師器片が、P14・21から柱根と思われる炭化物が出土した。このうち、P21のNo.3313 (Beta-123130) について樹種鑑定、¹⁴C年代測定をおこなった。その結果、樹種はカシ類の一種(シラカシかウラジロガシ)、年代は1660±60B.P.、3世紀中から4世紀中ごろであった。

ピット群3、SA8・9は同一面で検出されており、時期は、層位的にみて古墳時代前期ごろと考えられ、¹⁴C



挿図84 長瀬高浜遺跡SA8・9、ピット群3遺構図

年代測定値とも合致する。

(岩崎)

SA10・ピット群4 (挿図85、図版7)

クロスナ部分南東側の20グリッド調査区際であり、標高3.5~3.7mの緩やかに南側に傾斜する斜面に立地する。計14個からなるピット群4内には、SB64、SA10がある。

SA10は、南西側は調査区外に延びており、正確な規模は不明であるが、直線状に並ぶ柱穴P5~P7を検出できた。それぞれの規模は、P5 (55×47-30) cm、P6 (58×53-40) cm、P7 (31×30-20) cmを測る。

埋砂は、暗茶褐色砂単層ないし2層に分層できた。

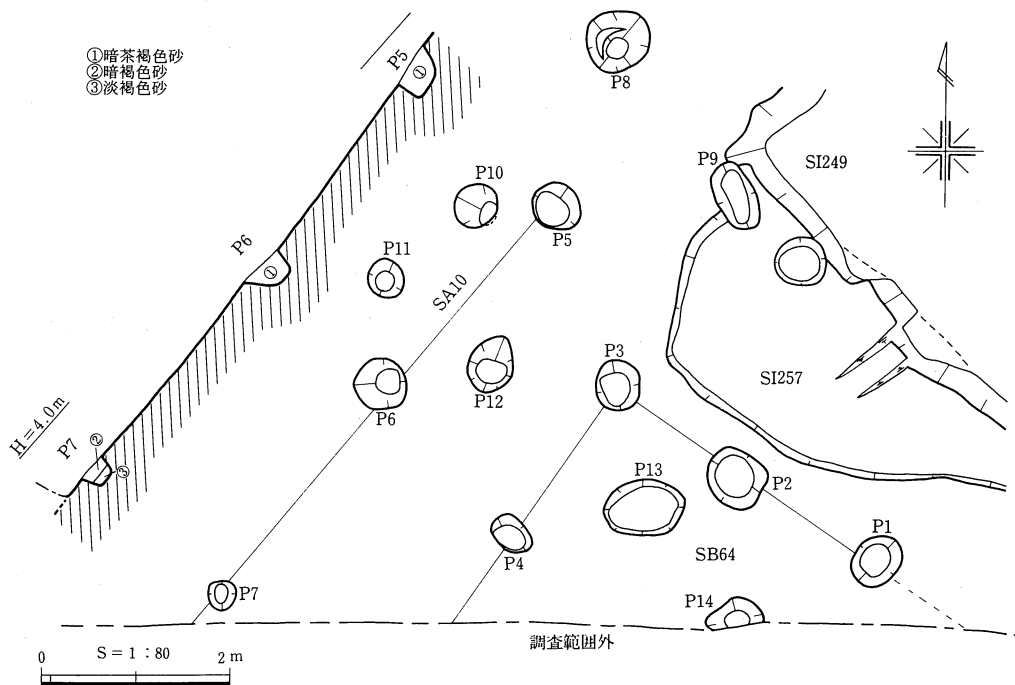
ピット群4は、SB64の4個、SA10の3個を除く7個からなる。それぞれの規模は、挿表5を参照されたい。いずれのピットも配列に規則性はない。

SA10に関わる出土遺物はなく、正確な時期は不明であるが、検出層序から古墳時代前期のものと考えられる。ピット群4に関わる出土遺物はP8・P14内から、古墳時代前期の土師器片が出土しており、この時期のものと考えられる。

(牧本)

ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考
P8	71×65-98	土師器	P11	40×36-22		P13	85×59-12	
P9	73×41-48		P12	61×48-39		P14	58×28↑-26	土師器
P10	49×48-50							

挿表5 長瀬高浜遺跡ピット群4ピット一覧表 (注 ↑は計測値以上)



挿図85 長瀬高浜遺跡SA10、ピット群4遺構図

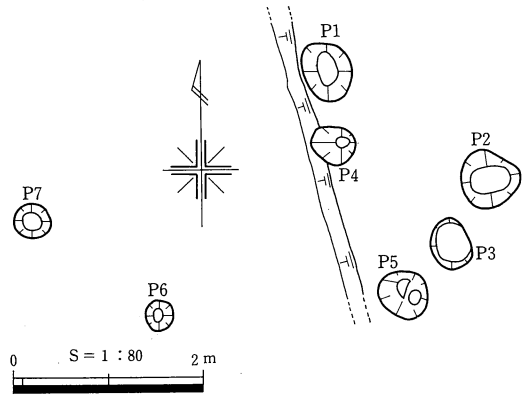
ピット群5 (挿図86、図版8)

調査区西側の10、20グリッドにあり、クロスナが途切れる際あたりで標高約3.4~4.4mの東側から西側に向け、緩やかに傾斜する斜面に立地する。20SK5を取り囲むように隣接し、約5m北西にはSI249・252がそれぞれ位置している。

総数7個のピットを検出した。いずれもやや不整な円形を呈する、しっかりと掘り込まれたピットであるが、配列に規則性は認められない。規模等の詳細は、挿表6を参照されたい。

埋砂は5層に分層できた。これらは、主に暗褐色砂と暗茶褐色砂を基本に褐色砂ブロック・黄褐色砂ブロックを含むものである。

出土遺物は、P1、P2、P3、P5から数点の土師器片が出土しており、古墳時代前期ごろのものであると考える。性格ははっきりとせず、不明である。(井上)



挿図86 長瀬高浜遺跡ピット群5遺構図

ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考	ピット番号	規模(cm)	備考
P1	61×51—71	土師器	P4	46×38—61		P6	32×29—17	
P2	61×61—84	土師器	P5	54×46—64	土師器	P7	40×35—19	
P3	56×43—76	土師器						

挿表6 長瀬高浜遺跡ピット群5ピット一覧表

第6節 土器溜

土器溜1 (挿図87~92、図版8、58~62)

調査区西側の20、30グリッドにまたがって広がる。標高3.8~4.2m付近で検出され、南に向かって緩やかに低くなる。下面にはSB61・63がある。SX98の周溝をはさんで東側には土器溜2がある。

遺物は南北約18m、東西約15mの範囲で、平面的に広がる。ほとんどの遺物が破片の状態出土している。暗茶褐色砂内で検出され、東端はSX98の周溝に切られる。土器溜の上面は、古代の整地層である褐色粘土上面とほぼ同レベルにある。

特に遺物が集中している部分は3か所ほどある。南東端のPo720付近は、比較的原形をとどめ、かなり復元できる個体がかたまっていた。壺・甕類が多いようである。北よりのPo761付近、Po721付近でも同様に、大きな破片がやや集中している。範囲内の中央付近には土器が集中しない。北側では、破片で出土するものが特に多く、原形のわかるものは少なかった。

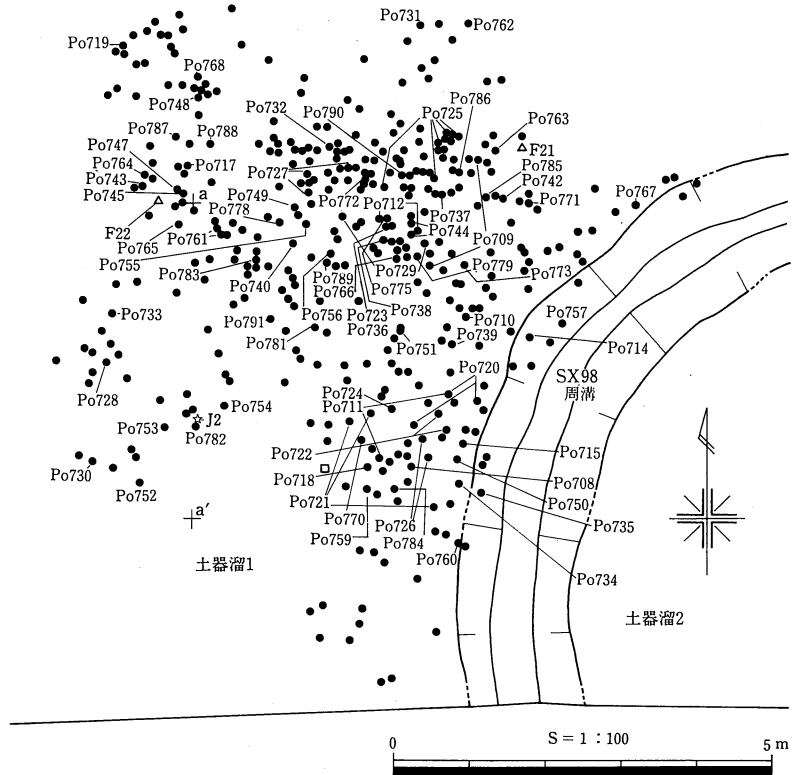
遺物は大半が土師器である。壺Po708~717・719、甕Po718・720~758、高杯Po759~768、鼓形器台Po769~782、小型器台Po783、低脚杯Po784~788、小型丸底壺Po789・790、ミニチュア土器Po791を図化した。甕は、ほとんどが複合口縁の在地系のもので、なかには大型のものもある。Po720にはススは付着しておらず、煮炊に使用したものではなく、貯蔵用であったと思われる。Po757・758は、その形態から考えて、搬入品の可能性がある。

その他に、管玉J2、鉄製品では鉄鏃F21、不明鉄製品F22などがある。F22は上層から出土しており、古代に属する遺物であると思われる。鍛冶などの鉄器製作に関連する遺物の可能性がある。

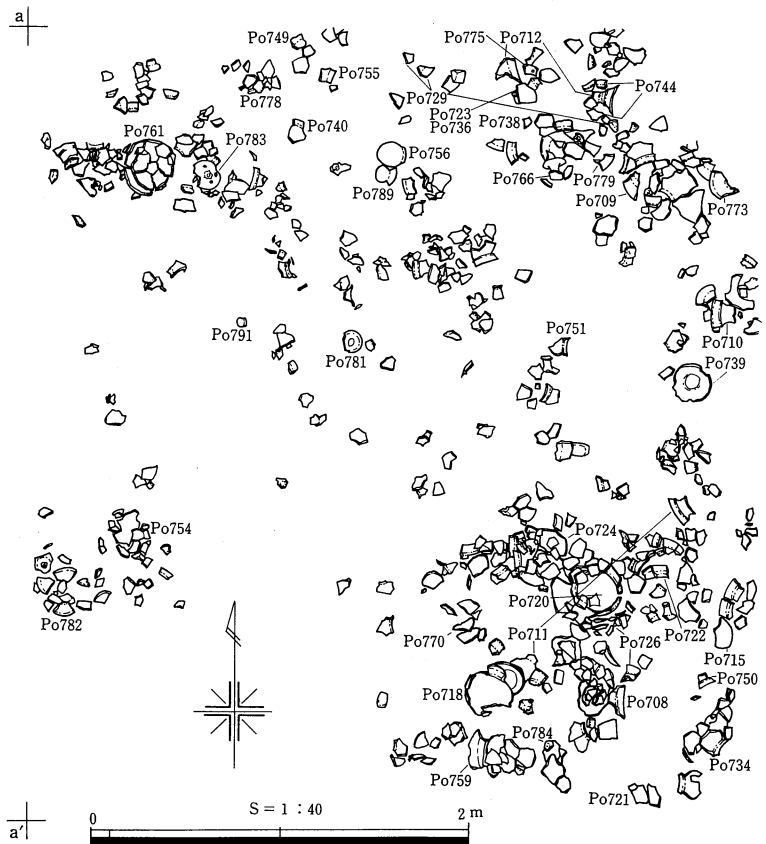
出土した遺物の時期には幅がみられるが、概ね天神川Ⅰ～Ⅲ期のあいだでおさまる。このうち主体となるのはⅢ期で、土器溜2よりやや新相を示す。

ほとんどの遺物が地形に沿って平面的に出土しており、土器溜の上層では、奈良から平安時代ごろの遺物を含む。また、1m以上離れている破片接合した個体もあり、古代の整地作業により、旧地表面が平坦になられた影響によるものと思われる。また、土器溜の底面はほとんどフラットであり、窪地になっていた場所に不要な土器を廃棄していったという過程を考えることはできない。

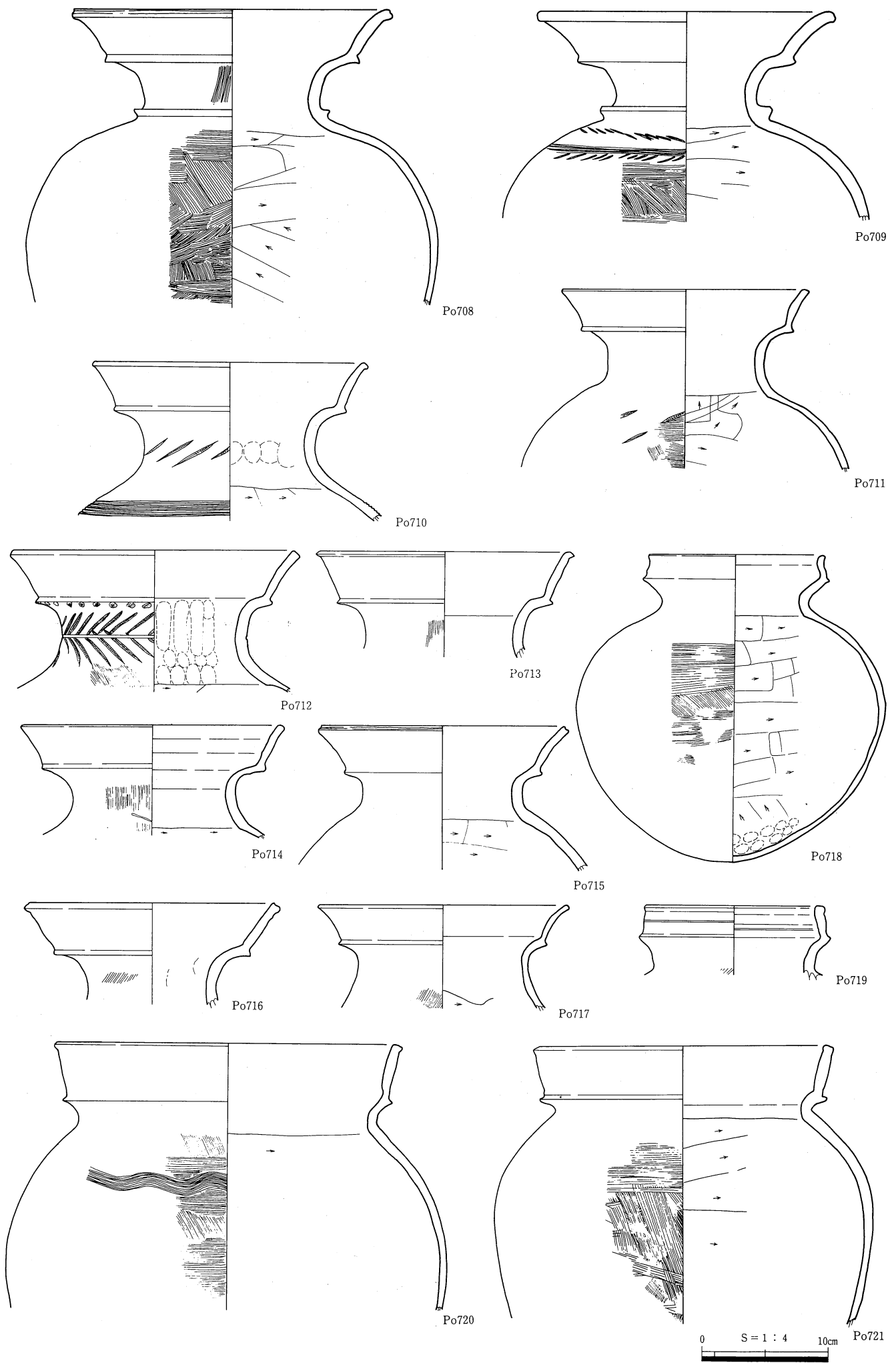
以上のことから、土器溜1の性格は一括廃棄とは考え難い。また、明確な祭祀遺物は出土しておらず、何らかの祭祀行為に伴うものとも考えることも難しい。この土器溜1に関する遺構は、SB61・63などであると思われる。しかし、一部柱穴にかかるものもあり、これらの遺物は原位置を保っているものとは思われない。(岩崎)



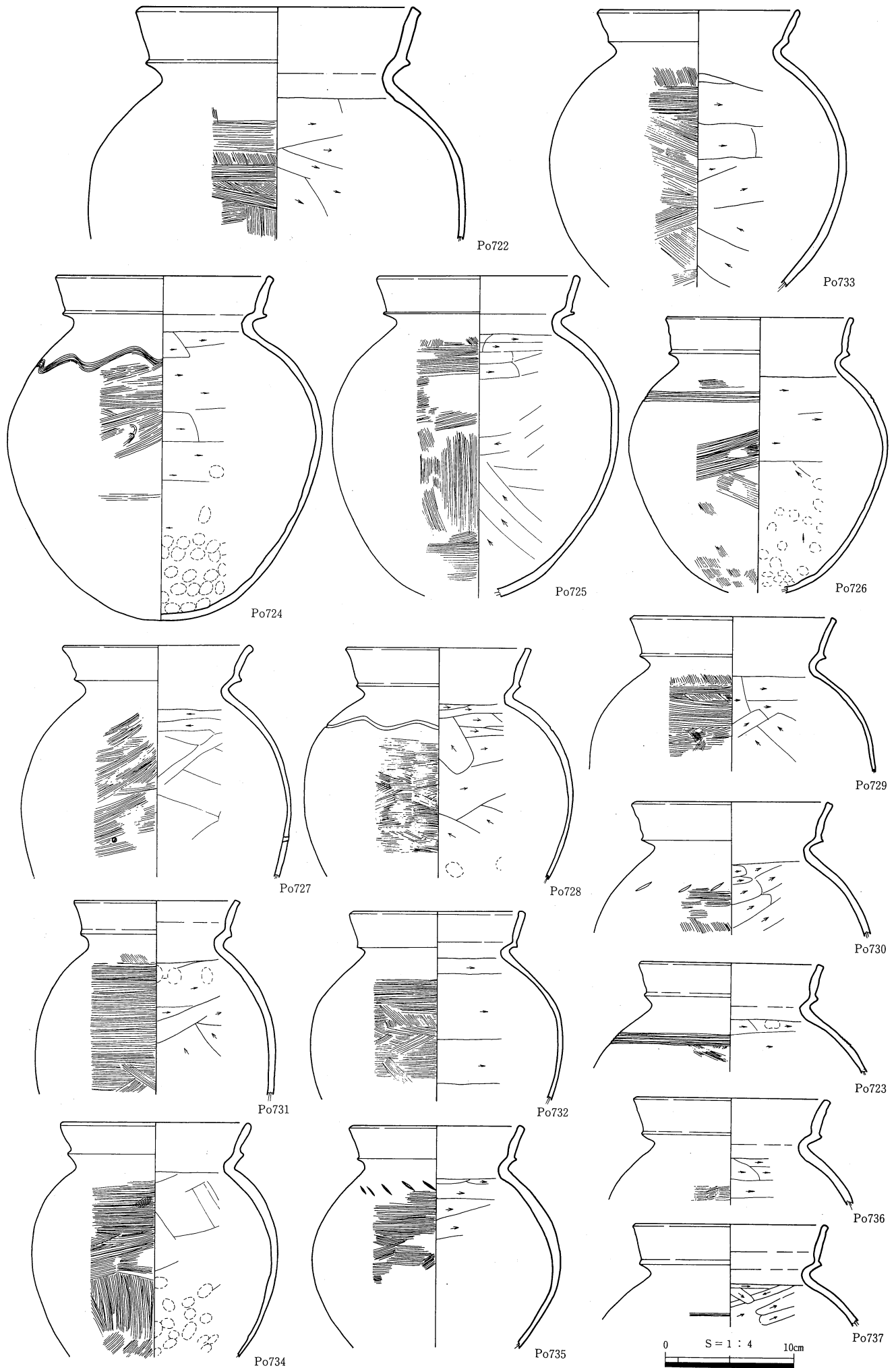
挿図87 長瀬高浜遺跡土器溜1 遺物出土状況図(1)



挿図88 長瀬高浜遺跡土器溜1 遺物出土状況図(2)



挿図89 長瀬高浜遺跡土器溜1 出土遺物実測図(1)



挿図90 長瀬高浜遺跡土器溜1出土遺物実測図(2)

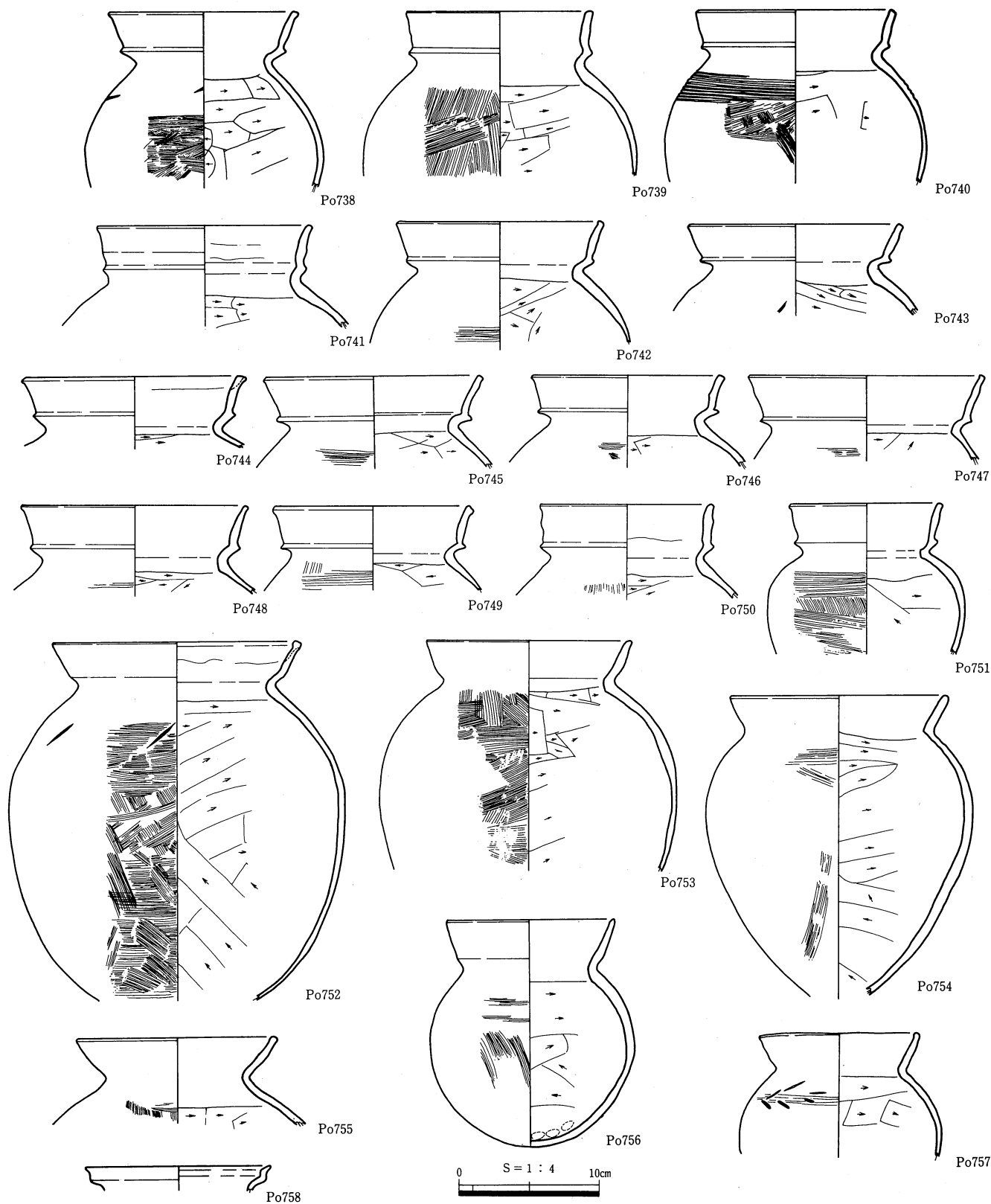
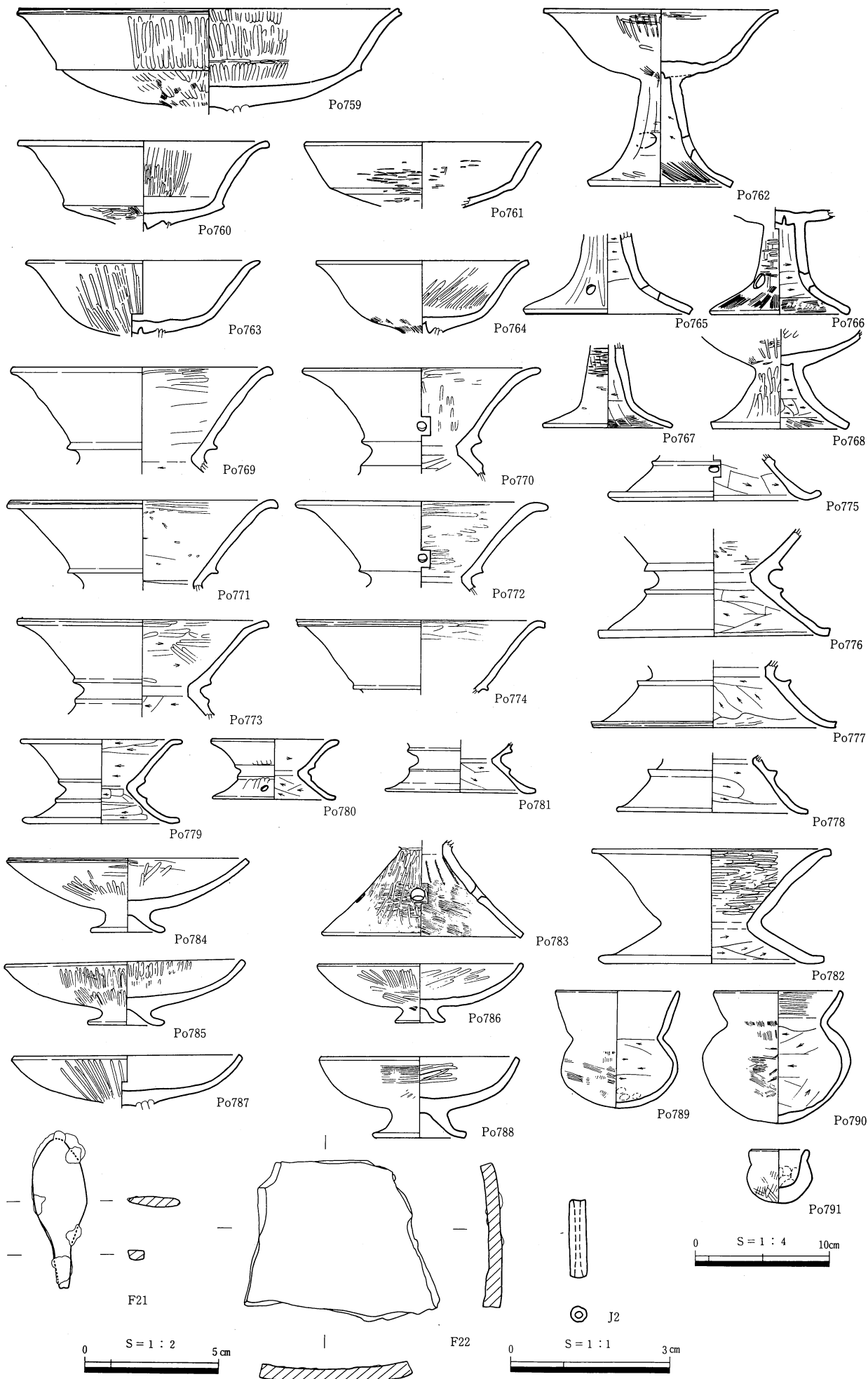


插图91 長瀬高浜遺跡土器溜1 出土遺物実測図(3)

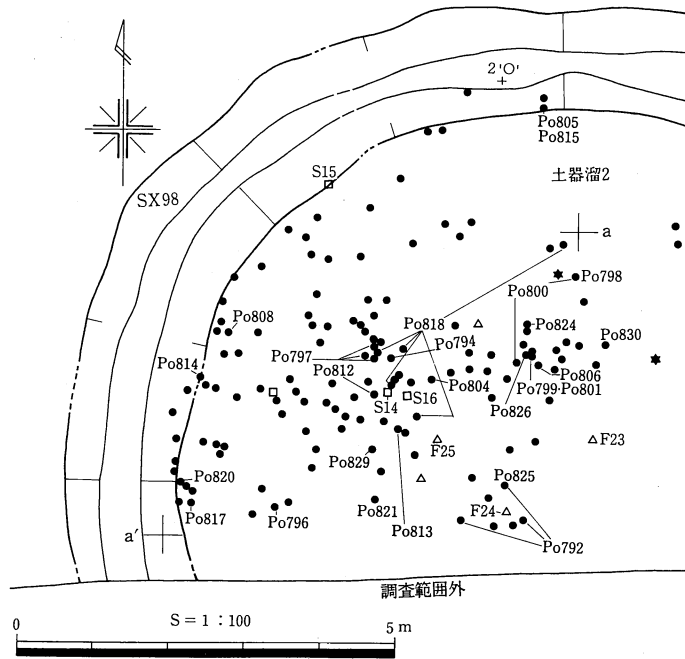


挿図92 長瀬高浜遺跡土器溜1出土遺物実測図(4)

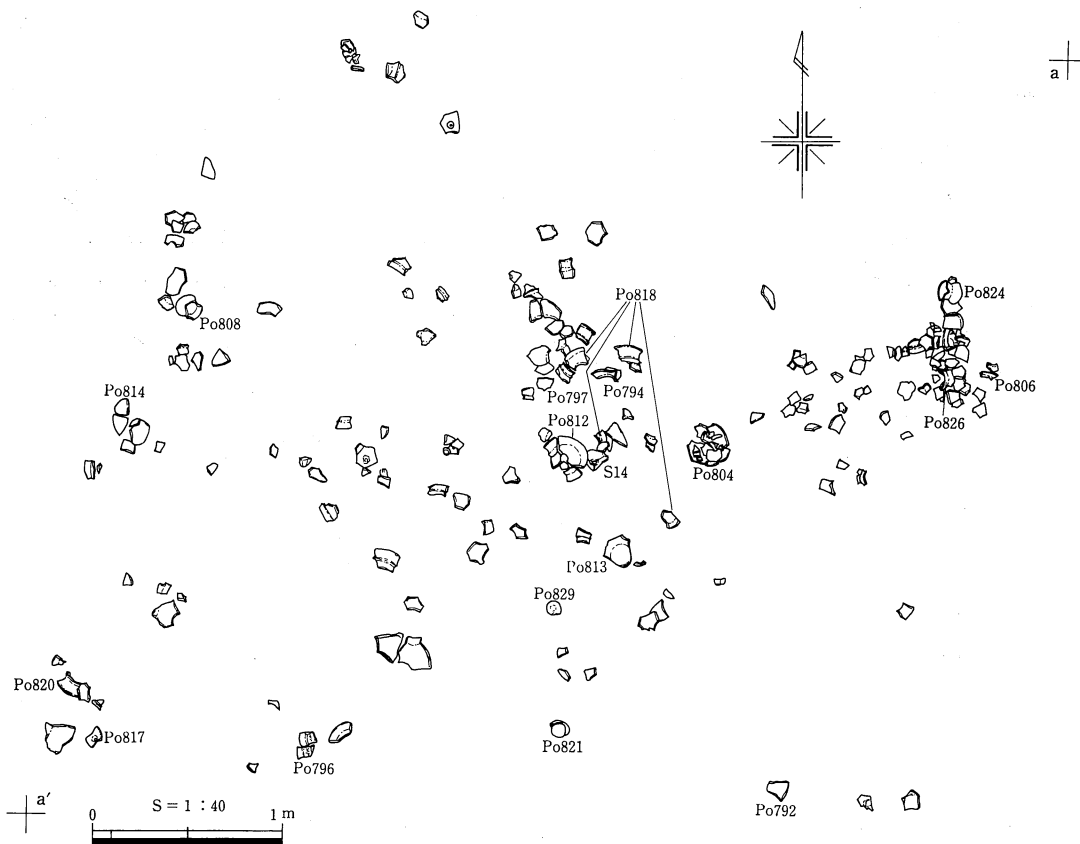
土器溜 2 (挿図93~96、図版 8、63、71)

調査区西側の20グリッドにあり、標高3.8m前後で検出された。SX98周溝の内側に位置し、周溝をはさんで西側には、ほぼ同レベルで土器溜1が広がる。下面にはS I 257、S B 64、S A 10などがある。

ほとんどの遺物が破片で出土しており、完全な形で出土したものはほとんどない。南北約5.5m、東西約6.5m



挿図93 長瀬高浜遺跡土器溜2 遺物出土状況図(1)



挿図94 長瀬高浜遺跡土器溜2 遺物出土状況図(2)

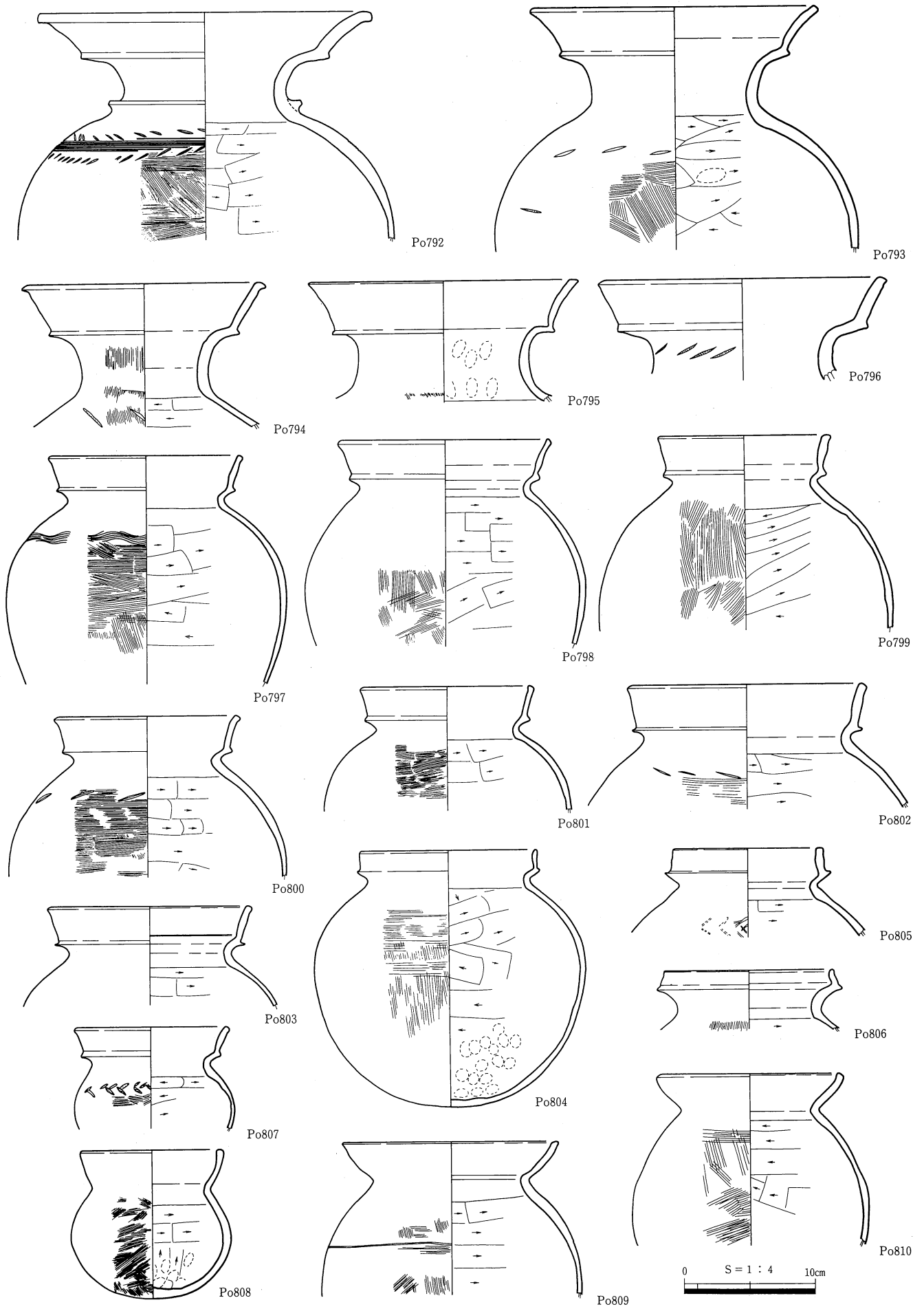


插图95 長瀬高浜遺跡土器溜2 出土遺物実測図(1)

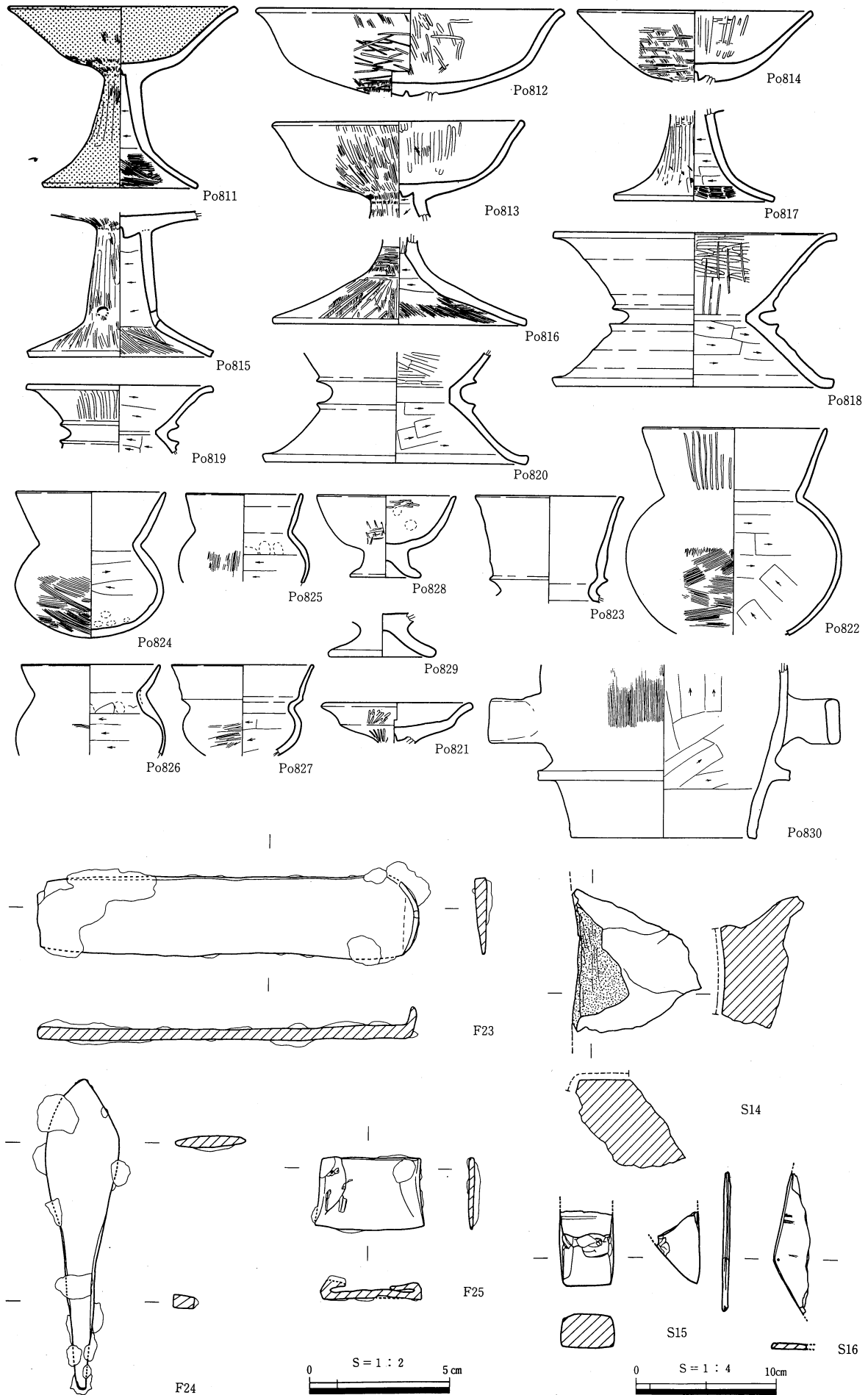


插图96 長瀬高浜遺跡土器溜2出土遺物実測図(2)

の範囲で、平面的に広がる。土器溜 1 と同様に、暗茶褐色砂内で検出され、大半のものが土師器である。

西端部分では土師器甕 Po799・801、小型丸底壺 Po824・826 が重なるように出土しており、ほぼ元位置を保っているものと思われる。小型丸底壺を南北両側に据え、その間には数枚の甕の口縁部から胴部の破片を、ずらしながら重ねるようにして並べる。甕はほぼ 2 個体分あるが、故意に割られた痕跡は観察できなかった。

中央付近のものは、密度が粗であるが、2m 以上離れて出土した破片どうしが接合しており、土器溜 1 と同様に、古代整地作業の影響を受けているものと思われる。

遺物は、土師器壺 Po792~796、甕 Po797~810、高杯 Po811~817、鼓形器台 Po818~820、小型器台 Po821、直口壺 Po822・823、小型丸底壺 Po824~827、低脚杯 Po828・829、甗 Po830 を図化した。甕は、ほとんどが在地系のものである。小型丸底壺のなかには、Po827 のように口縁部が複合口縁のものも出土している。

土師器以外では砥石 S14、柱状片刃石斧 S15、不明石製品 S16、鉄鎌 F23、鉄鎌 F24、雛形鉄製品（鋏先形）F25 を図化した。このうち S16 は扁平なもので側面には稜線が、屈曲部には非常に鈍い円形のくぼみが表現されており、その窪んだ部分などに赤色塗彩痕がみられる。また、欠損部と思われる部分はシャープではなく、これが本来の形状なのか判断しがたい。S15 は、おもに弥生時代に使用されるものである。刃部はよく研磨されているが、基部は欠損している。

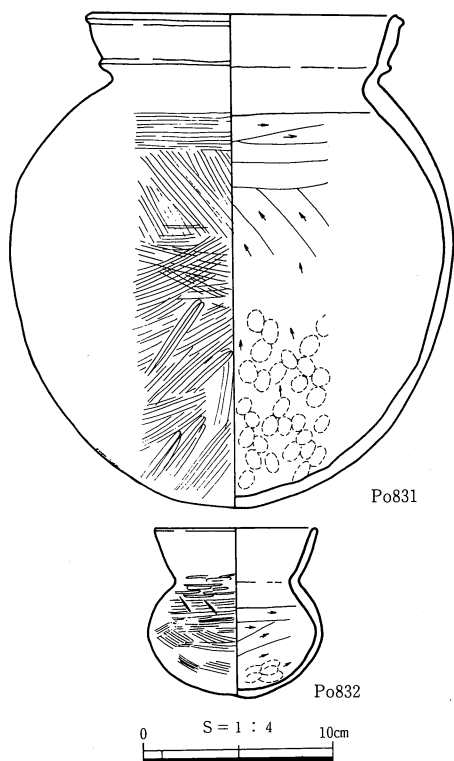
鉄製品のうち鋏先形鉄製品 F25 は、刃部の幅約 4cm、長さ 2.6cm で実用品としては小さく、厚さも薄いため雛形品と考える。一方、木質が付着していることから着柄されていた可能性もあり、当遺跡で出土している他の雛形品と比較して、実物に忠実で丁寧なつくりをしている印象を受ける。

出土した遺物は、概ね天神川 II~III 期の範囲内におさまるが、主体は II 期で、土器溜 1 よりやや古相を示す。

出土状況から、一括廃棄であるとは考え難い。また、土器を除去した後に SB64 などの遺構が検出されており、これらに関係する遺物であると考えたい。Po824・826 周辺はなんらかの祭祀的な意味をもつものと思われる。

(岩崎)

土器溜 3 (挿図 97・98、図版 8、65)



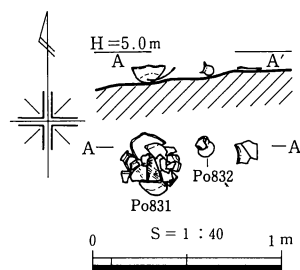
挿図97 長瀬高浜遺跡土器溜 3 出土遺物実測図

調査区西側の 2P グリッド調査区際 にあり、標高 4.5~4.7m の緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。北側には SX101 が近接している。

2 個体の土師器が出土している。土師器甕 Po831 は、潰れた状態で出土し、ほぼ完形に復元できた。小型丸底壺 Po832 は、甕の隣で転倒した形で出土している。

これらは、天神川 V 期、古墳時代中期前葉ごろと考えられ、SX101 と関連があったものと考えられる。

(牧本)



挿図98 長瀬高浜遺跡土器溜 3 遺物出土状況図

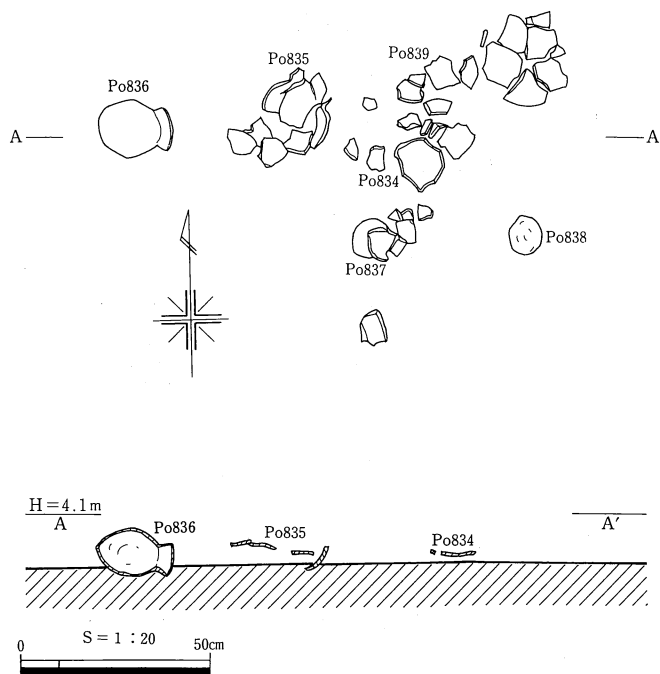
土器溜 4 (挿図99・100、図版8、65)

調査区西側の北寄りの4Pグリッドにあり、標高約4.3m前後のほぼ平坦面に立地する。西側約3mにS I 248が、南側には4P S K 1が隣接し、東側約3mにはS I 246が位置している。

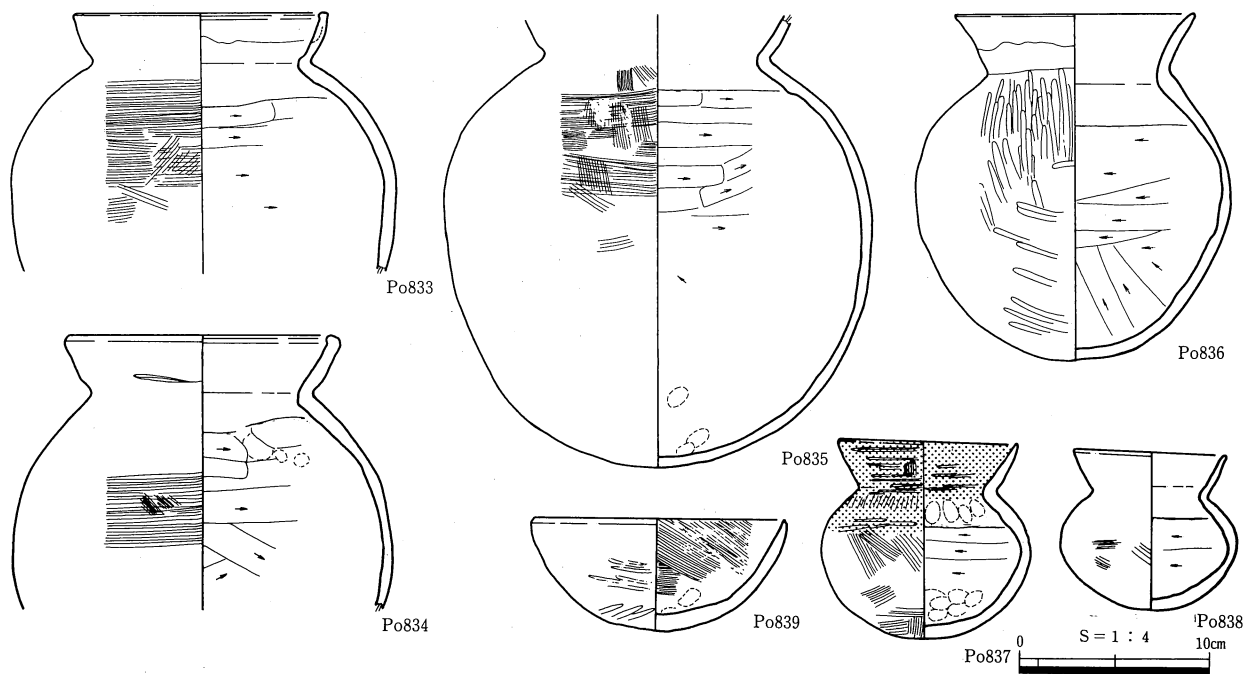
ほぼ平坦の検出面に土師器甕、小型丸底壺等がほとんど破片になった状態で出土した。

出土遺物は、図化できたものに土師器甕Po 833~Po 836、小型丸底壺Po 837・Po 838、椀Po 839等がある。これらの遺物は、一括に廃棄されたものと考えられる。

これらは、天神川Ⅲ~Ⅳ期、古墳時代前期後半ごろと考える。ところで、この遺構の下層から、土器溜4の遺物より新しい様相の天神川Ⅳ期ごろのS I 247が検出されていることから、S I 247が埋没した後に、その上面に二次的に動かされたものといえる。(井上)



挿図99 長瀬高浜遺跡土器溜4 遺物出土状況図



挿図100 長瀬高浜遺跡土器溜4 出土遺物実測図

土器溜 5 (挿図101・102、図版65・66)

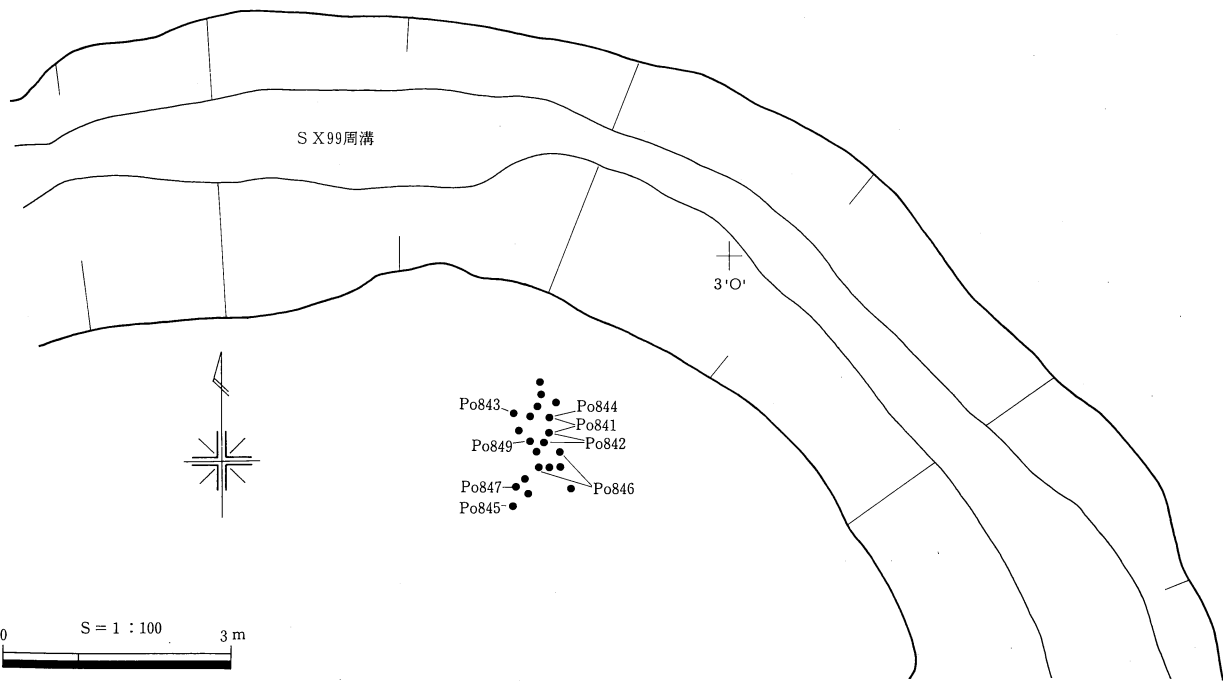
調査区西側の3Oグリッドのほぼ中央に位置し、調査区南西隅の高まり部分に向かって傾斜する斜面にある。S X 99周溝の内側に位置する。古墳時代の包含層である黒茶褐色砂中で検出された。下層にはS I 254・255などがあり、これらに伴う遺物が古墳築造時などに移動したものと思われる。

遺物の出土範囲は、南北約1.8m、東西約1m程度で、標高4m前後でまとまっている。

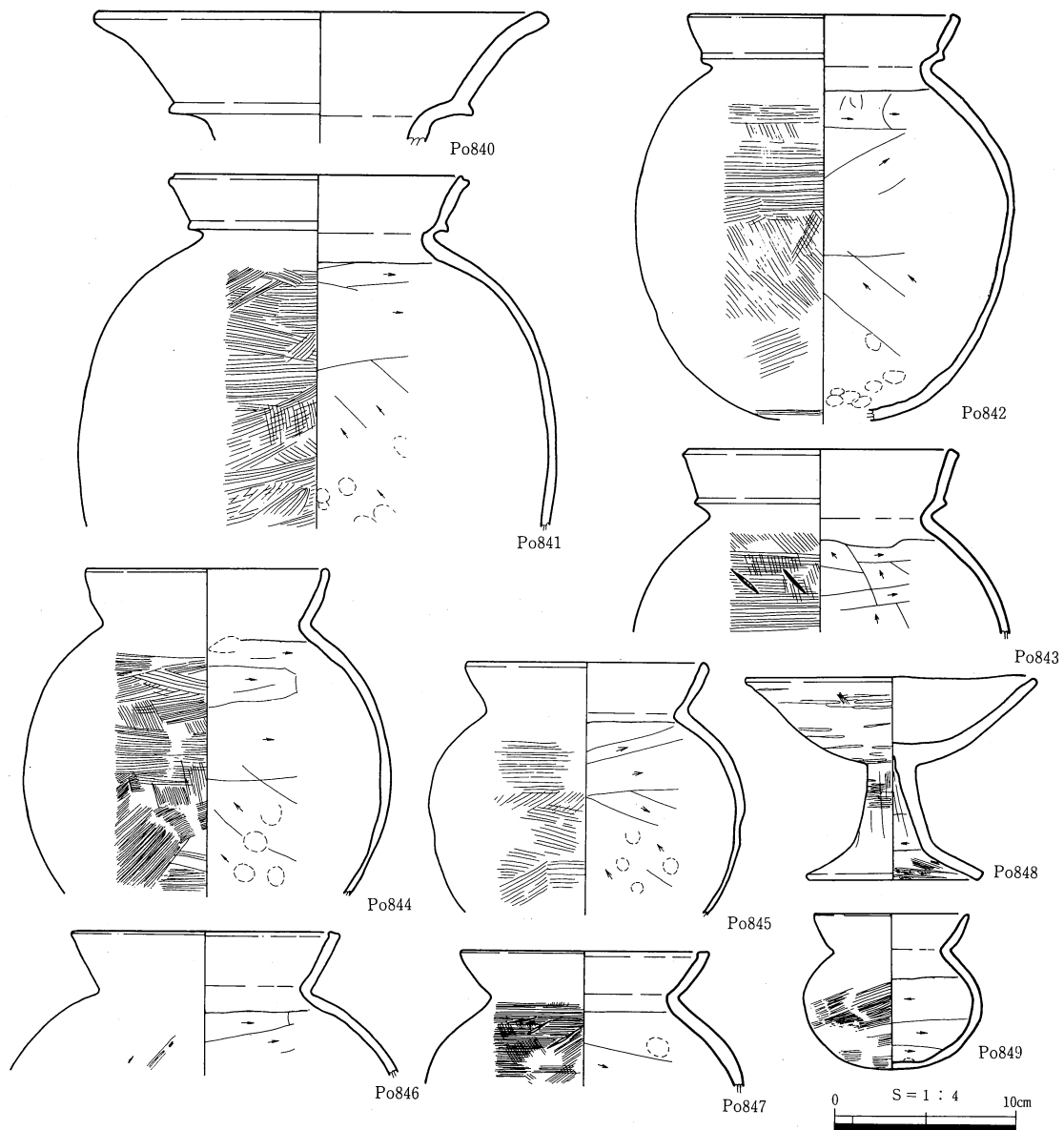
すべての遺物が土師器である。壺Po 840、甕Po 841~847、高杯Po 848、小型丸底壺Po 849を図化した。

時期は、天神川Ⅳ期、古墳時代前期後半ごろと考える。

(岩崎)



挿図101 長瀬高浜遺跡土器溜5遺物出土状況図



挿図102 長瀬高浜遺跡土器溜5出土遺物実測図

土器溜 6 (挿図103・104、
図版 8、66)

調査区西側のクロスナが途切れる2
0グリッドにあり、標高5.2mの最も
高くなった部分の南西側に緩やかに傾
斜する斜面に立地する。

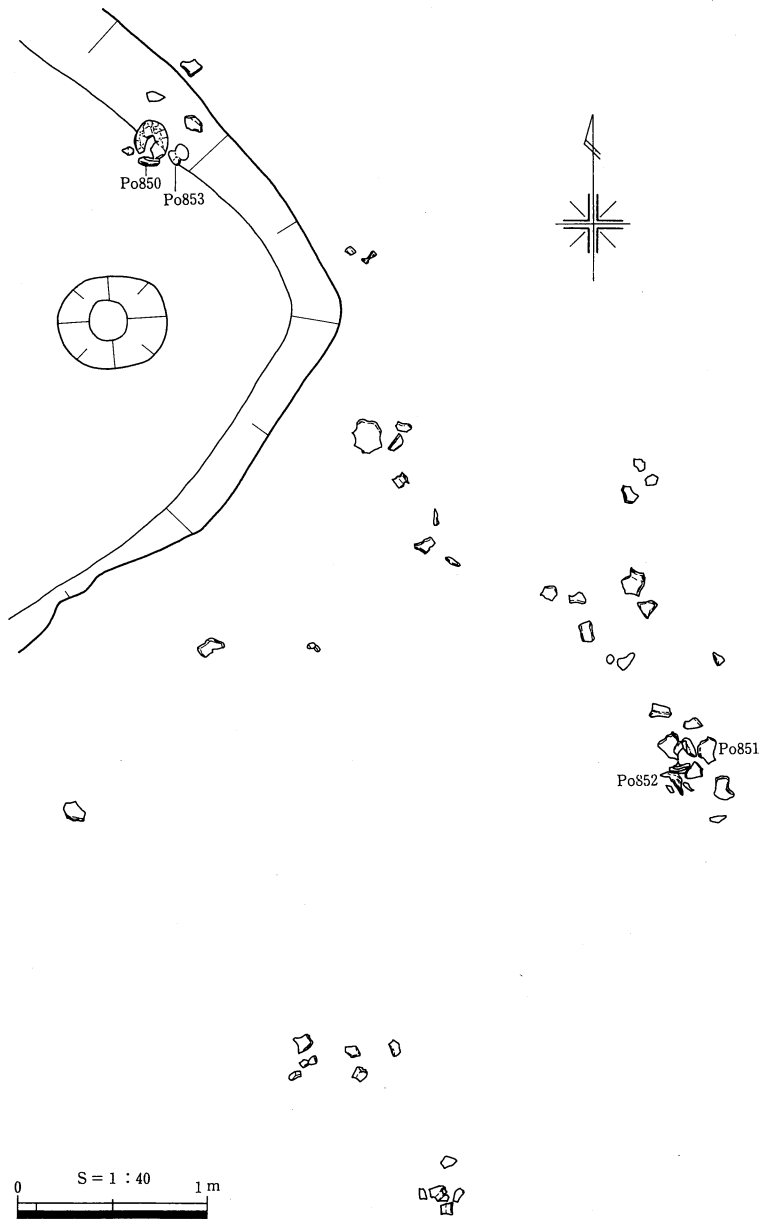
土器溜6は、S I 250の東側コー
ナー付近からS I 251北側コーナー付
近にかけて、各遺構検出前にかなり広
い範囲に土師器片が散在していた箇所
で、層位的にS I 250・251より上層で
出土している。

図化できたものに、甕Po851、高杯
Po852、小型丸底壺Po853がある。P
o851、Po853は完形に復元できるもの
で、近接して転倒した状態で出土して
いる。

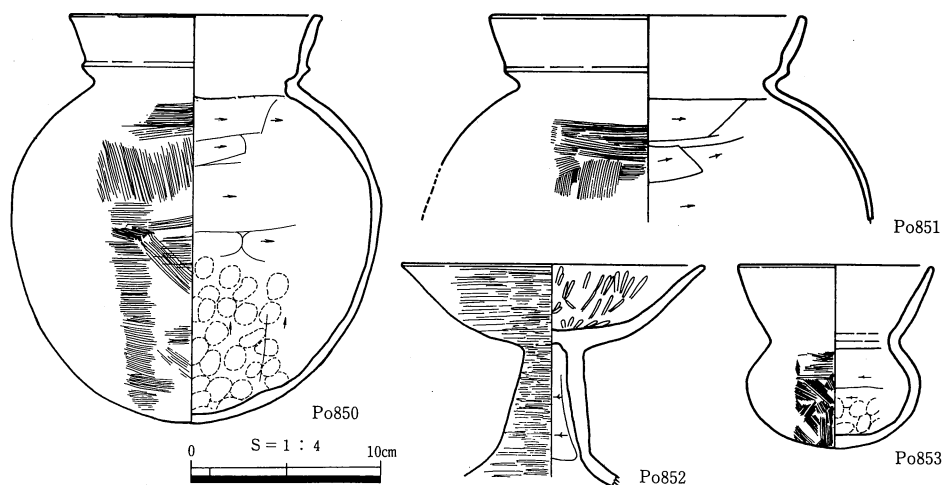
図化した遺物は、天神川IV期、古墳
時代前期後葉ごろのもので、その他の
時期のものはほとんど含まない。

これらは、S I 250・251より層位的
にも、型式学的にも新しい遺物であり、
掘り込み等も検出されなかったことか
ら、古墳時代前期後葉ごろの他の遺構
で使用したものを廃棄したものと考え
られる。

(牧本)



挿図103 長瀬高浜遺跡土器溜6 遺物出土状況図



挿図104 長瀬高浜遺跡土器溜6 出土遺物実測図

第7節 自然河川

自然河川（挿図6・8、図版9）

調査区全体の中央からやや東よりシロスナ面が広がる00から-10グリッドにかけての標高約3mの平坦面に立地する。クロスナ検出面との境から、約18m程度東にあり、SD24と重複している。土層観察から、SD24の方が新しい時期のものと判明した。

遺構検出にあたっては、調査区南側壁際に、深さ・幅ともに1m程度のトレンチを設定し、これを調査区東端までの長さ約40mを掘り下げた。この時点で、上面においてクロスナブロックを含む層の落ち込みを検出していたが、地下水位が上昇し、トレンチ底部から大量の湧水があり、作業を一旦中止せざるをえなくなった。そこで、トレンチの両壁外側にウエルポイントを平行に2列設定し、地下水を強制的に排出した。その結果、地下水位は以前と比べ、下がったので、トレンチの幅をさらにひろげ、深さも、さらに2m程度掘り下げた。そして、その両壁の土層断面の観察をおこなった。

その結果、トレンチ内において自然河川1か所を検出することができ、上面で検出していた落ち込みもこの遺構の影響によるものであったことが判明した。

この自然河川はおよそN-26°-Eの方向に流れ、調査区東端でも肩が検出できなかったことからみて、幅も東西方向に40m以上、深さ3m以上の河川であったことが想定される。こうしてトレンチを約3m、海拔約0.4~0.5mのところまで掘り下げたのだが、ここで強制排水していた地下水が再び湧き出てきたため、これ以上の掘り下げは困難となり、そこで作業を打ち切った。よって、今回の調査で検出できた自然河川の正確な規模等はつかめていない。

埋砂は、自然堆積の様相を示している。西側では埋砂が東方向に約40°の傾斜で下がり続けているが、東側ほど緩やかになっている。また、埋砂上面とシロスナとの境は不整合面をなしており、河川埋没後シロスナ堆積までかなりの時間差があったものと考えられる。

さらに、この自然河川の落ち込み部分のすぐ西側で、部分的に崩落（地滑り）を起こしている断層面（幅約50cm）を検出した。この断層は「第2クロスナ層」堆積後に起こっており、走向はN-10°-Eで、約16cmの段差をもつ。これは、河川の浸食作用によって形成されたものと考えられ、河川形成以前のものと考えられる小さなクラック（N-45°-E・SE85°）も検出できている。

また、自然河川堆積層の西寄りでは、ほとんど摩滅していない古墳時代前期ごろの土師器片を含むクロスナブロックがみられたことから、このクロスナは現在の検出範囲から飛ばされてきたものと考えられるよりも、むしろ当時この付近まで広がっていたクロスナ範囲が河川の浸食作用の影響を受け、その結果崩落するような形で堆積したと考えることができる。当時のクロスナ範囲は、今回検出できたクロスナの範囲よりもさらに東側まで広がっていた可能性が考えられる。

さらに、埋砂中の最も新しい遺物には、古墳時代後期ごろの須恵器片があり、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。

以上のことをまとめると、今回の調査では、完全には自然河川を検出することはできなかったが、少なくとも、古墳時代前期の集落が営まれていた段階から、中期にかけての古墳群が形成される段階までは、集落・古墳群の東側を大きな河川がほぼ南北方向に走って流れていたと考えられる。そして、この自然河川も浸食・堆積を繰り返し、古墳時代前期から後期にかけて埋没していったものと考えられる。

最後になったが、今回自然河川の調査結果をまとめるにあたっては、鳥取大学名誉教授・赤木三郎氏、ならびに鳥取大学教授・西田良平氏より多大なご指導を頂いた。ここに記して感謝の意を表する。（井上）

第8節 古墳時代包含層遺物 (挿図105、図版66・67)

ここでは、茶褐色砂層～暗茶褐色砂層で出土した、古墳時代前期から中期の、遺構に伴わない遺物について触れることとする。

図化したものには、10グリッドからは、小型甕Po855、鼓形器台Po857、直刃鎌F26、敲石S17、浮子S18、20グリッドからは、甕Po854、底部Po859、ミニチュア土器Po860、釣針F27、管玉J3、2Pグリッドからは、高杯Po856、30グリッドからは、小型器台Po858がある。

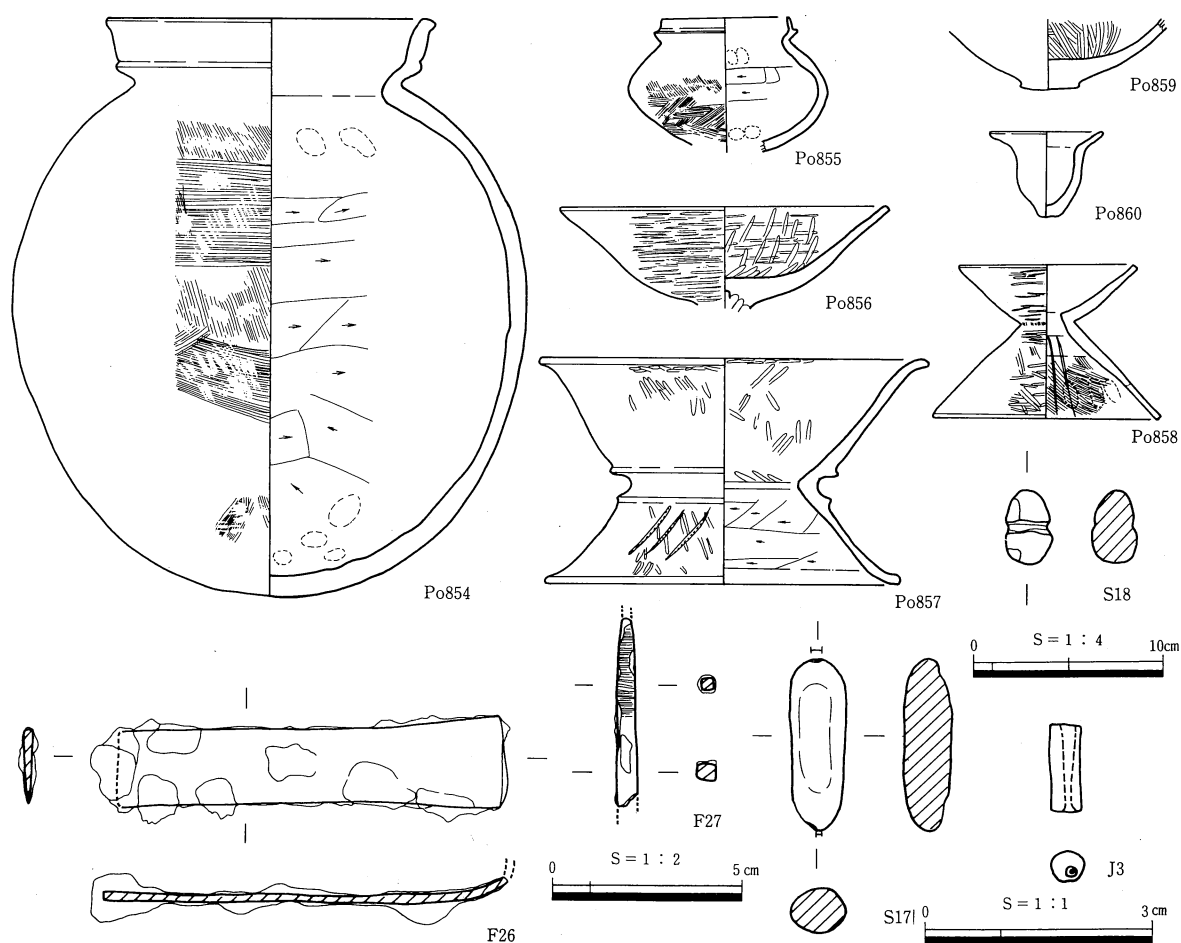
Po857は、口径が大きい器高が低くなりつつあることから、天神川Ⅱ～Ⅲ期、古墳時代前期中ごろと考えられる。Po855・858も同様の時期と考えられる。

Po854は、胴部が球形で器壁が厚く、内面肩部の指頭圧痕が明瞭であることから、天神川Ⅴ期、古墳時代中期ごろ、Po856もほぼ同時期と考えられる。

F26は、層位的にPo857と同様であり、古墳時代前期と考えられる。また、F27の時期は確実ではないが、古墳時代前期から中期のものとしてよいであろう。

S18は、軽石製で水に浮くことから、浮子と判断した。

これらの遺物は、古墳時代前期から中期にかけてのもので、集落に伴う時期のものである。 (牧本)



挿図105 長瀬高浜遺跡古墳時代包含層出土遺物実測図

第5章 長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半の調査

第1節 古墳群の概要

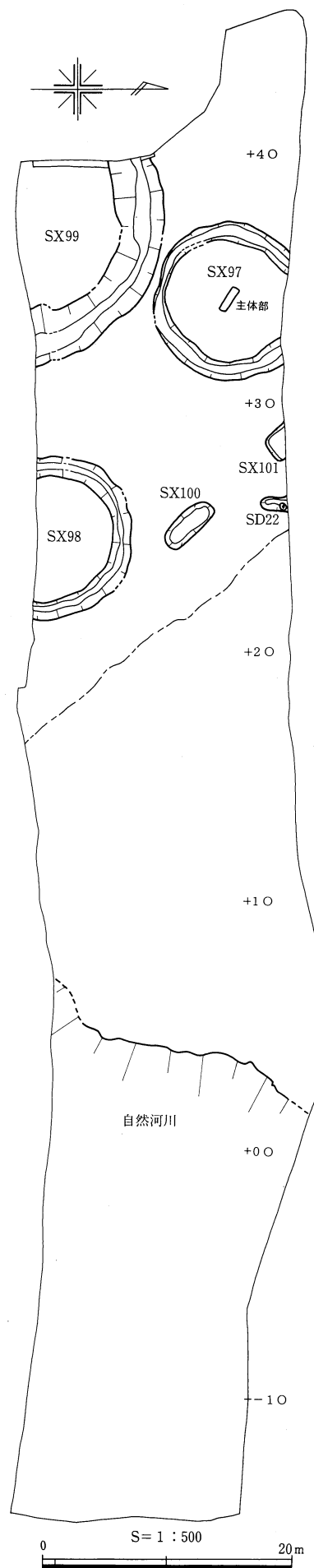
この時期の遺構は、古墳3基、土壙墓2基、溝状遺構1基である。調査区西側の黒茶褐色砂で検出した。検出面はやや南に傾斜し、標高は3.4~5.2mである。検出した周溝は、いずれも一部が調査区外に及ぶ。調査区南西隅には、大型の円墳SX99、その北側に接して円墳SX97があり、さらに両墳ともやや離れた東側に円墳SX98がある。また、古墳が分布しないSX97の東側で土壙墓SX101、およびSX98の北側には土壙墓SX100が存在する。後世の削平により古墳盛砂は遺存せず、葺石、埴輪などの外表施設も確認されない。いずれも古墳時代中期後半ごろに属するものと考えられる。長瀬高浜遺跡の過去の調査では、今回の調査区の南西、および西側において、古墳を含めた古墳時代の埋葬施設が合計96基確認されている。今回の調査区は、この古墳群の北東端にあると想定される。

調査区内における嚙矢は、陶邑編年のTK208併行段階（5世紀後半）に比定されるSX97である。墳丘の直径が10.5mの円墳である。北西側周溝内から、原位置を保った須恵器杯身、土師器直口壺、刀子が出土した。主体部は、墳丘のほぼ中心に位置する木棺墓もしくは土壙墓である。人骨が遺存し、成人の男性と鑑定された。主軸はS-60°-E、頭位は南東方向である。

つづいて、TK23・47併行段階（5世紀末から6世紀前半）には、SX98が築造される。直径10mの円墳である。調査区内では、埋葬施設を検出しなかったが、北西側から北側にかけての周溝内から、須恵器蓋杯、土師器甕が出土した。周溝埋砂上層を、奈良から平安時代に整地を目的として、粘土で充填している。

築造時期は不明であるが、調査区南西隅付近には、墳丘の直径が約19mの円墳と想定されるSX99がある。長瀬高浜遺跡で確認された円墳は、直径が8~12m程度のもので主体を成し、15mを越えるものは稀である。SX99は、外表施設は確認できないものの、1号墳（直径24m）、3号墳（直径20m）に次ぐ大型の墳丘をもつ。埋葬施設は検出しなかったが、墳丘中央部付近に箱式石棺を有していたと考えられる。古墳時代中期から後期の所産であろう。SX98と同様、奈良から平安時代に周溝埋砂上層を粘土で充填する。

土壙墓SX100は、長さ4.6mの長大な墓壙をもつ。主軸はS-49°-Eである。南東端から歯が出土し、頭位は南東と推察される。これらの土壙墓は、各古墳から一定の距離を有して掘削されており、古墳に付随する埋葬施設とは考え難い。木棺墓SX101からも、人骨が出土し、成人男性と鑑定された。主軸はS-57°-E、南東方向に頭位をもつ。これら土壙墓は、出土遺物、検出層序から古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、



挿図106 長瀬高浜遺跡古墳時代中期後半遺構配置図

古墳より遡るものと考えられる。

検出したSX97主体部、SX100、SX101は、いずれも南東方向を頭位としている。長瀬高浜遺跡では、頭位を南東方向に向けて埋葬される例が顕著に窺われる。
(岡野)

第2節 古墳

S X97 (挿図107~110、図版9・67・72)

調査区西側の3O、3Pグリッドに立地する。木棺墓もしくは土壙墓を埋葬施設に持つ古墳である。黒褐色砂検出段階ではマウンド状の高まりは確認できなかった。検出面は、周溝付近において、黒茶褐色砂である。墳丘上面で、一部に褐色砂が露出する。周溝の一部は北側の調査区外へ及ぶ。

SX97は、径10.5mの円墳で、周溝幅は、1.4~1.6mであるが、南側では狭い場所で約0.5mである。周溝の上端から周溝底までは、最も遺存のよい北東側ないし北西側において約40cm、南側では10~15cmである。周溝底部での標高は、南側が3.8mである他は、約3.9mである。盛砂は削平により遺存していない。

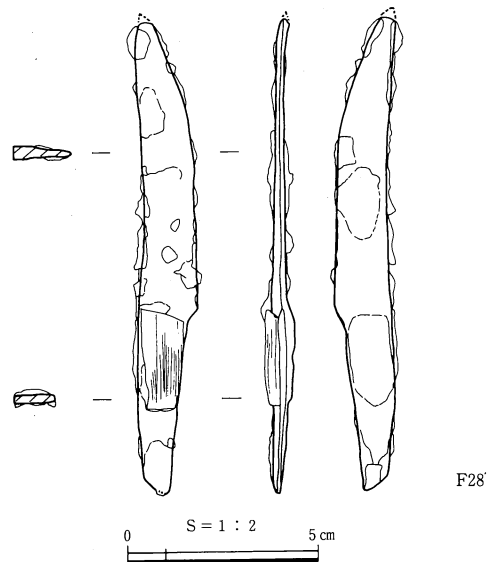
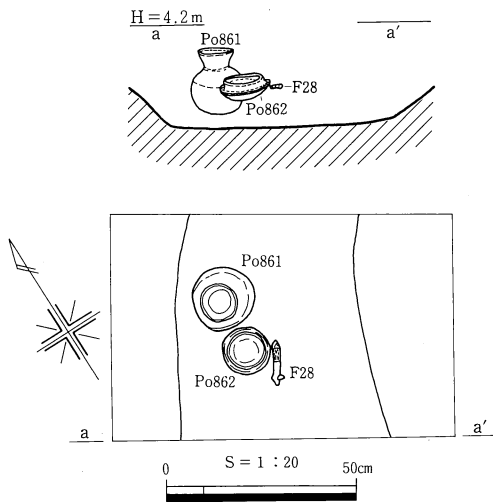
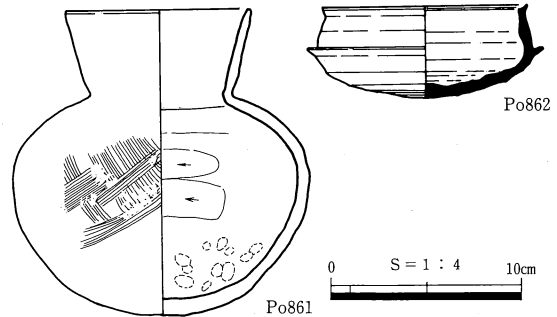
周溝の埋砂は、自然堆積の様相を呈し、上層は黒茶褐色砂、下層は暗茶褐色砂を主体とする。

主体部ははっきりとしないが、墳丘中央付近において人骨一体を検出し、この部分が主体部にあたるものと考えられる。主体部の規模は、推定長1.6m、幅0.5m程度のものと考えられ、主軸はS-60°-Eである。木棺痕跡は認められないことから、土壙墓の可能性がある。

出土した人骨は、頭位を南東方向にもつ伸展仰臥葬である。人骨は、かなり風化が進んでいたが、頭部の遺存状況が比較的良好であった。鑑定の結果、小柄の成人男性と判断された。

人骨左足首付近から長さ2cm程度の鉄製品が出土したが、図化できなかった。

遺物には、北西側周溝内下層より、須恵器杯身Po862、土師器直口壺Po861、鉄製刀子F28が完形で出土した。周溝底部からそれぞれ3~10cm浮いた状態である。須恵器杯身、土師器直口壺は正位の状態、鉄製の刀子は切先を北東方向へ向けて、いずれも隣接して置かれていた。こうした状況から、これらの遺物は原位置を保持しており、古墳の築造から間もなくして周溝内に置かれたもの



挿図107 長瀬高浜遺跡 S X97周溝内遺物出土状況図

挿図108 長瀬高浜遺跡 S X97出土遺物実測図

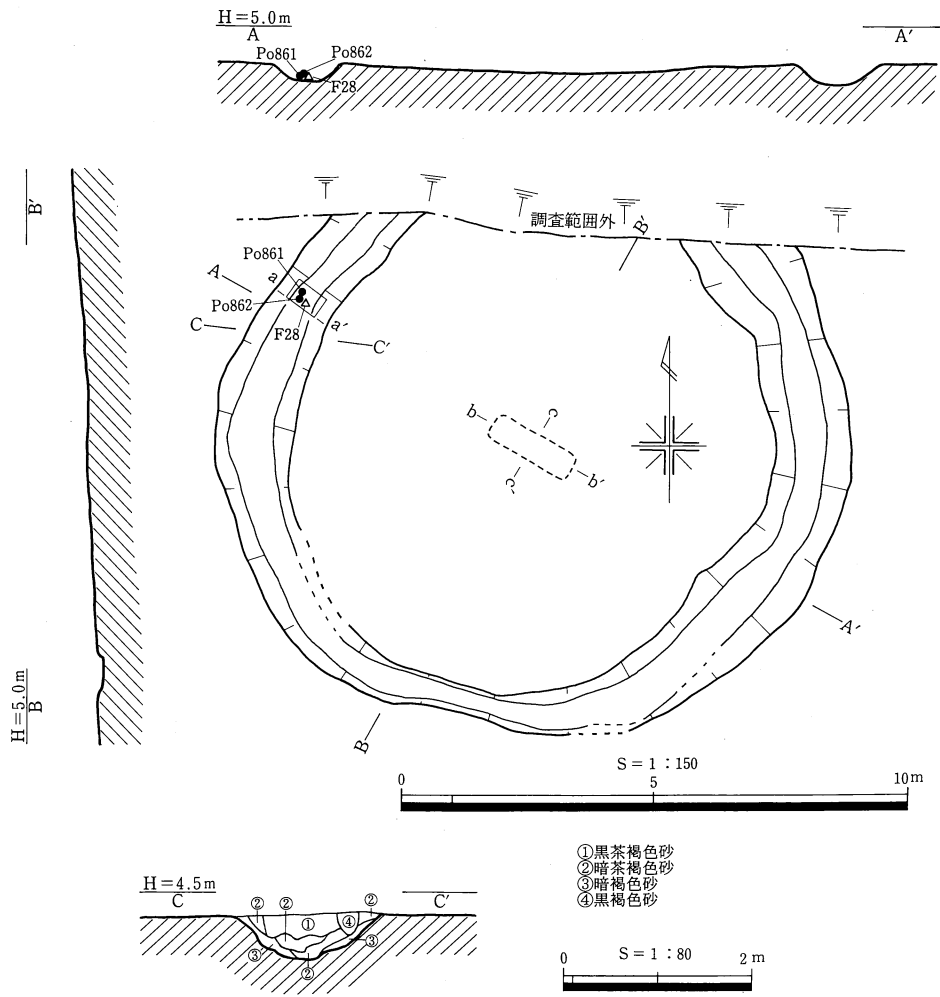


插图109 長瀬高浜遺跡 S X 97遺構図

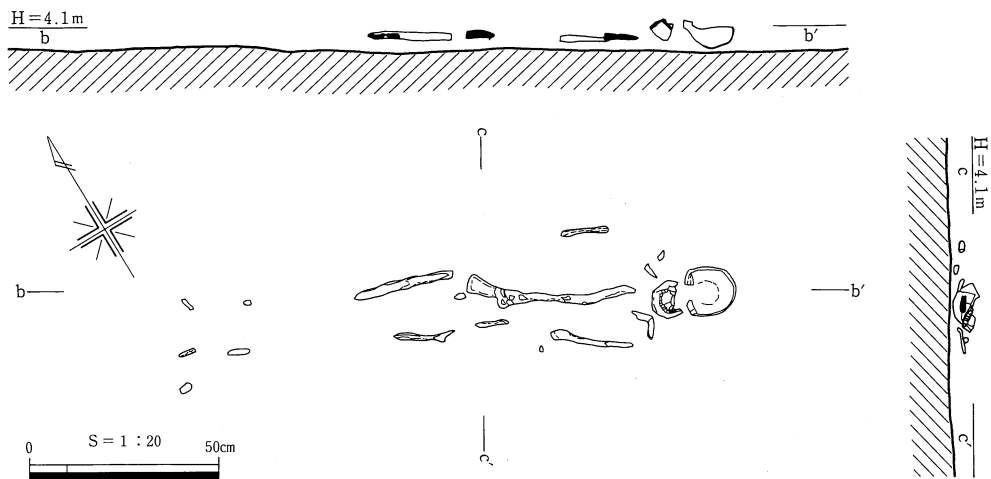


插图110 長瀬高浜遺跡 S X 97主体部人骨出土状況図

と判断した。

古墳の築造時期は、北西側周溝内の須恵器杯身から、TK208併行期に比定され、主体部がほぼ旧表土面に掘り込まれていることから、低墳丘の円墳であったものと考えられる。(岡野)

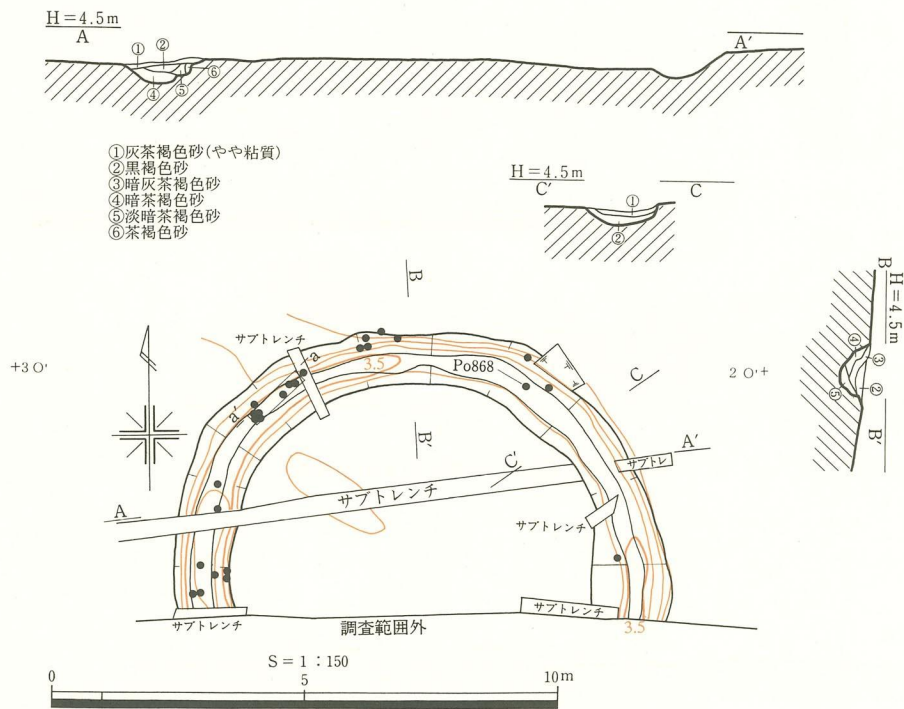
S X 98 (挿図111~113、図版10・12・67・68)

調査区西側の20グリッドにあり、標高3.7~4.2mの北東から南西側に向かって傾斜する緩斜面に立地する。北西側約11mにはSX97、西側約8mにはSX99がある。また、土壌墓SX100が北側約3mにある。

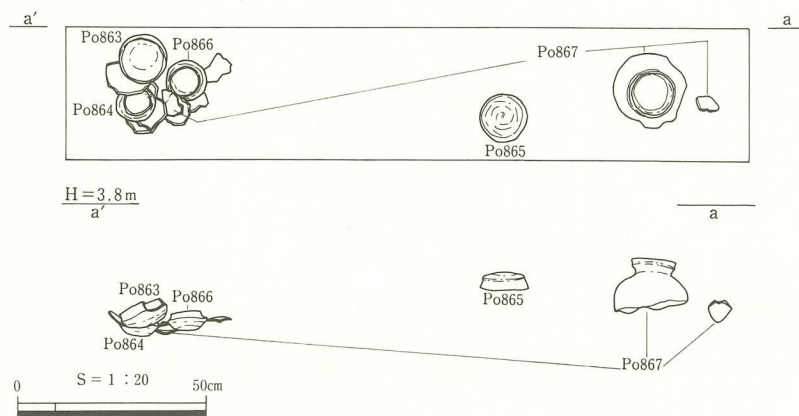
南半分は調査範囲外にあるが、径約11.2mの円墳と思われる。墳丘は削平され、盛土は遺存していない。中世包含層を除去した段階で円弧状の整地遺構3を検出し、その粘土層除去後に黒褐色砂の帯として、SX98周溝を確認できた。盛土、主体部は古代の整地作業により削平されたものと思われる。

周溝の遺存状態は比較的よい。幅は1.4~1.7m、深さは西側がやや浅く0.5m程度、北側が深く0.6~0.7m程度ある。埋砂は上層に黒褐色砂が皿状に入り、自然堆積したものと思われる。黒褐色砂上には整地遺構3の粘土層がある。

主体部、周溝内埋葬施設などは検出できなかった。



挿図111 長瀬高浜遺跡 S X 98遺構図

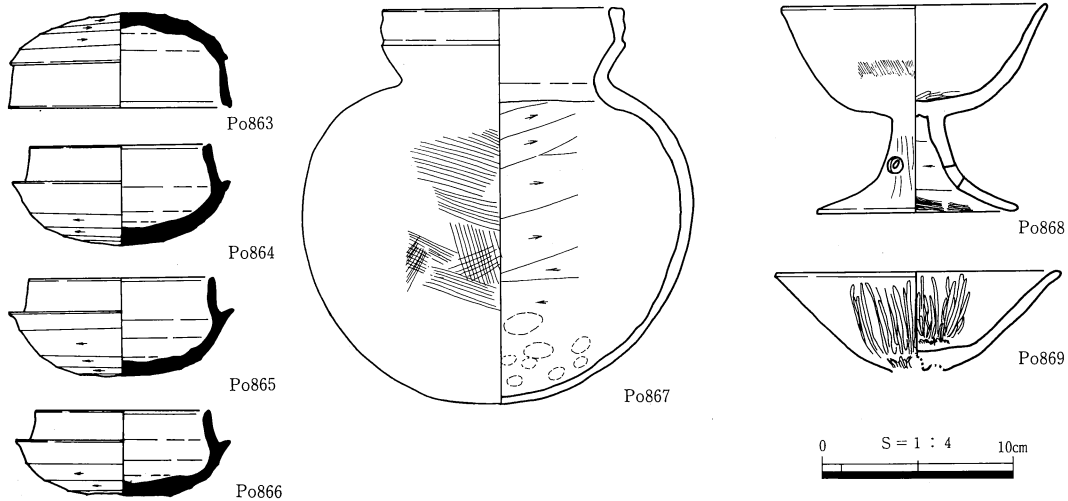


挿図112 長瀬高浜遺跡 S X 98周溝内遺物出土状況図

すべての遺物は周溝内から出土している。このうちPo863～867は、ほぼ周溝底面でまとまって検出された。このうちPo863・864・866とPo867の胴部破片は組合わせるようにして置かれていた。土師器高杯Po869は混入したものであると思われる。

築造時期は、出土遺物から天神川区期、TK23～47併行期、古墳時代中期末から後期初頭ごろと考えられる。

なお、周溝部には褐色粘土層による古代の整地遺構3があることから、当時は、周溝部分は完全に埋まりきってはおらず、窪地状を呈していたものと考えられる。(岩崎)



挿図113 長瀬高浜遺跡 S X 98出土遺物実測図

S X 99 (挿図114・115、図版10・11・72)

調査区南西側、30、40グリッドに立地する。大半が調査区外に位置するため、全体の約1/4を調査した。上層の島の検出面においてもマウンド状の高まりが確認できた。

SX99は、円墳として復元すると、径約19mとなる。盛砂は遺存しない。土層断面の観察から、下層の古墳時代前期の住居跡の埋砂を基盤として盛土がなされたことが推察される。

周溝幅は3.2～4.4m、周溝底部の幅は最も狭い北東側、および北北西側が0.5mであるほかは、0.8～1.2mである。

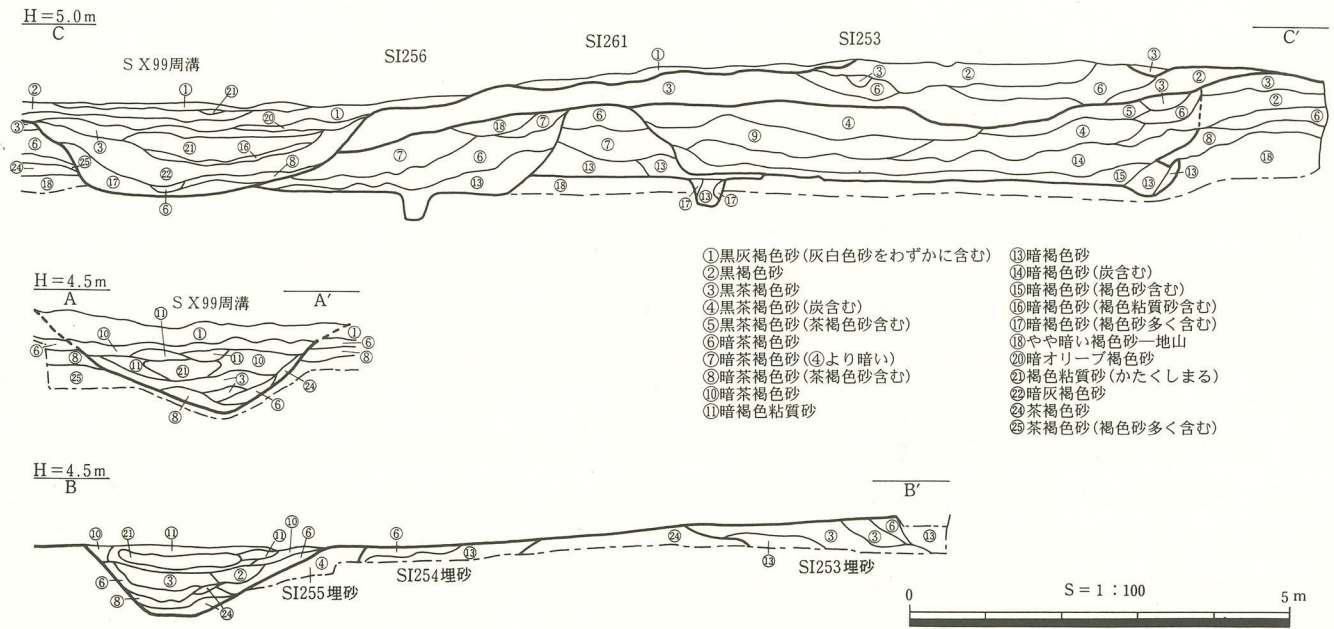
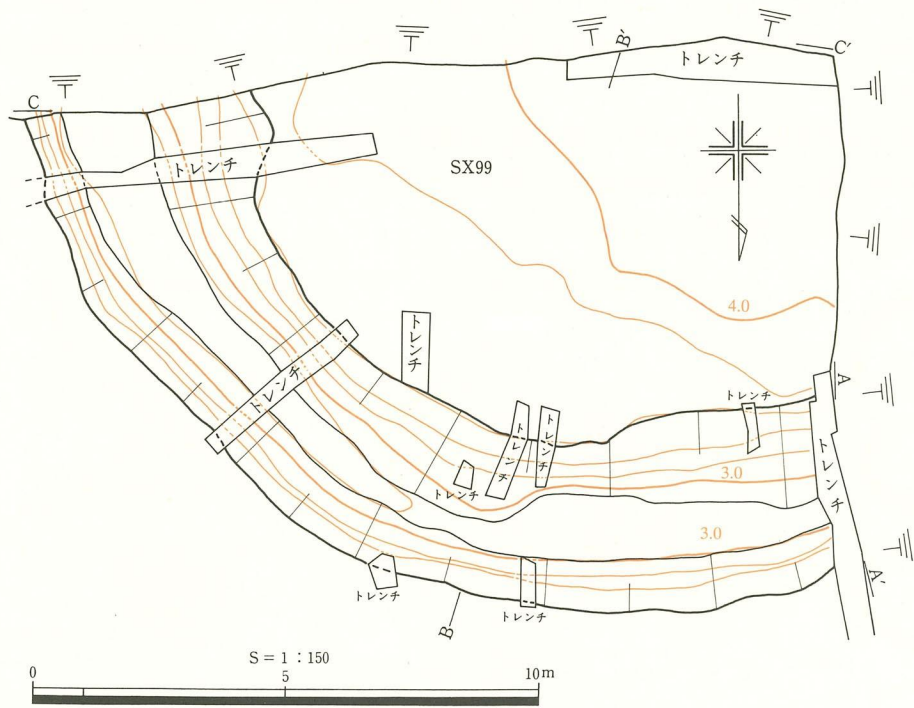
周溝上端から周溝底部までの高さは、概ね0.7～0.9mであり、最も遺存状態のよい南東側において1.1mである。周溝底部における標高は、2.6～2.9mで、墳頂部で標高約4mであることから、墳丘の高さは、本来1.5m以上あったものと考えられる。

埋葬施設は明らかでないが、墳頂部付近には板石が数枚散乱する状況から、箱式石棺を有していたと考えられる。

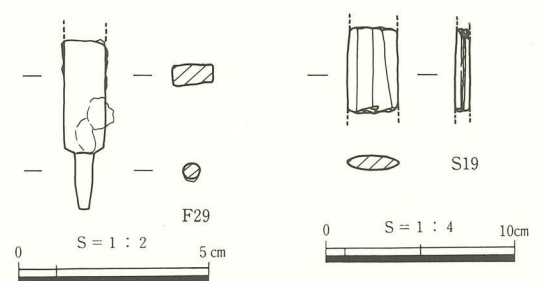
出土遺物には、墳丘上および周溝内から鉄鏃F29、磨製石剣S18の他、多数の古墳時代前期の土師器が出土しているが、古墳に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

築造時期は、古墳時代前期に属する下層の住居跡が埋没後に築造されていること、その他の古墳が古墳時代中期後半ごろの築造であること、30グリッドで中世島跡検出中および古代包含層から埴輪片が出土していることから、当古墳も古墳時代中期ごろに築造されたと考えられる。

SX99は、長瀬高浜古墳群のなかでは1号墳(直径24m)、3号墳(直径20m)に次ぐ規模を測り、大型の部類にあたる。また、周溝埋砂の上層には、奈良から平安期に褐色粘土層が充填されていることから、当時は、周溝部分は完全に埋まりきってはおらず、窪地状を呈していたものと考えられる。(岡野)



挿図114 長瀬高浜遺跡 SX99遺構図

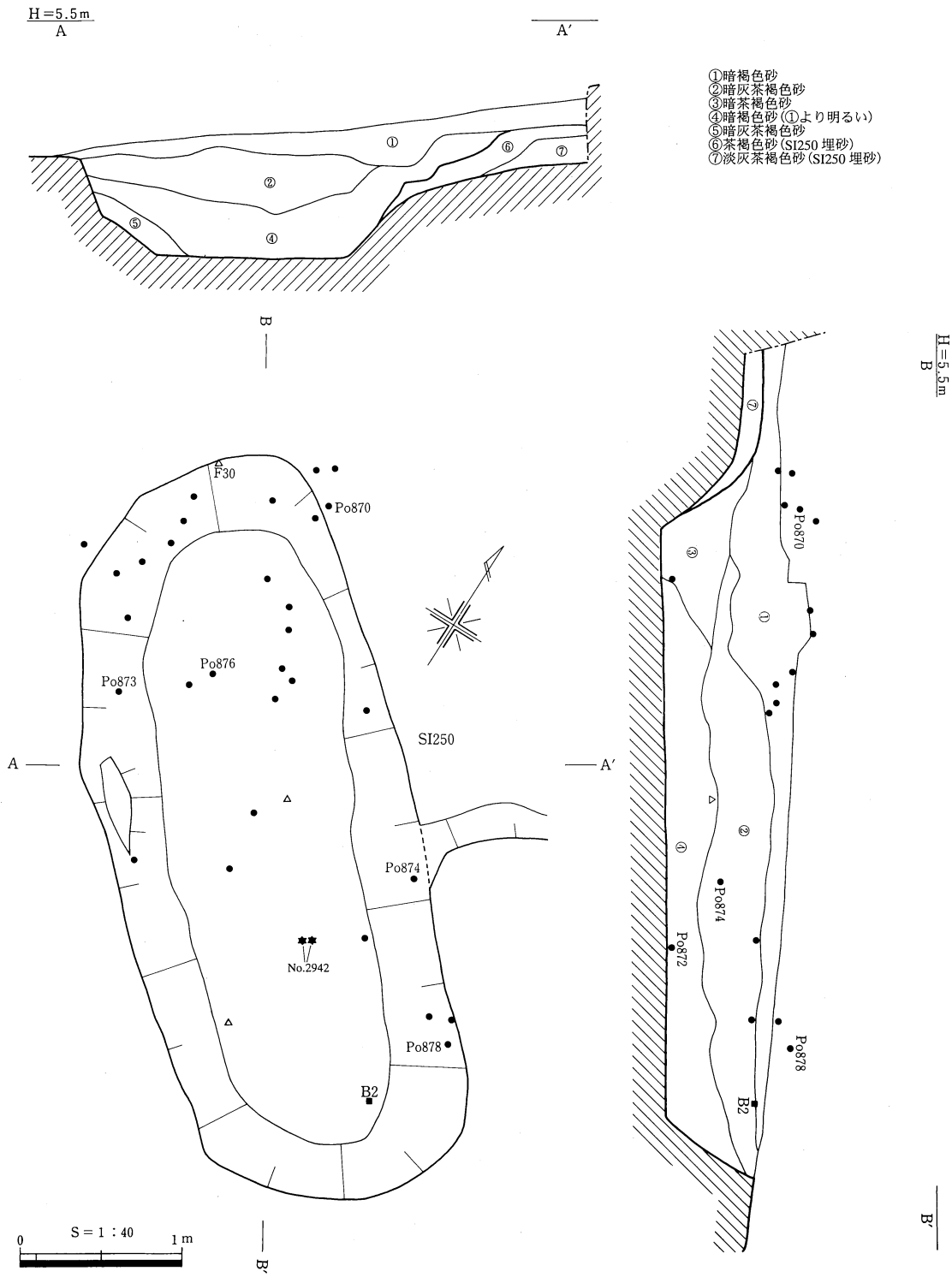


挿図115 長瀬高浜遺跡 SX99出土遺物実測図

第3節 土 墳 墓

S X 100 (挿図116・117、図版10・68)

クロスナ部分南東側の20グリッドにあり、標高約4.4mのほぼ平坦面に立地する。北西側約6mにはSX101が、また、遺構北西側でSI250を切っている。



挿図116 長瀬高浜遺跡 S X 100遺構図

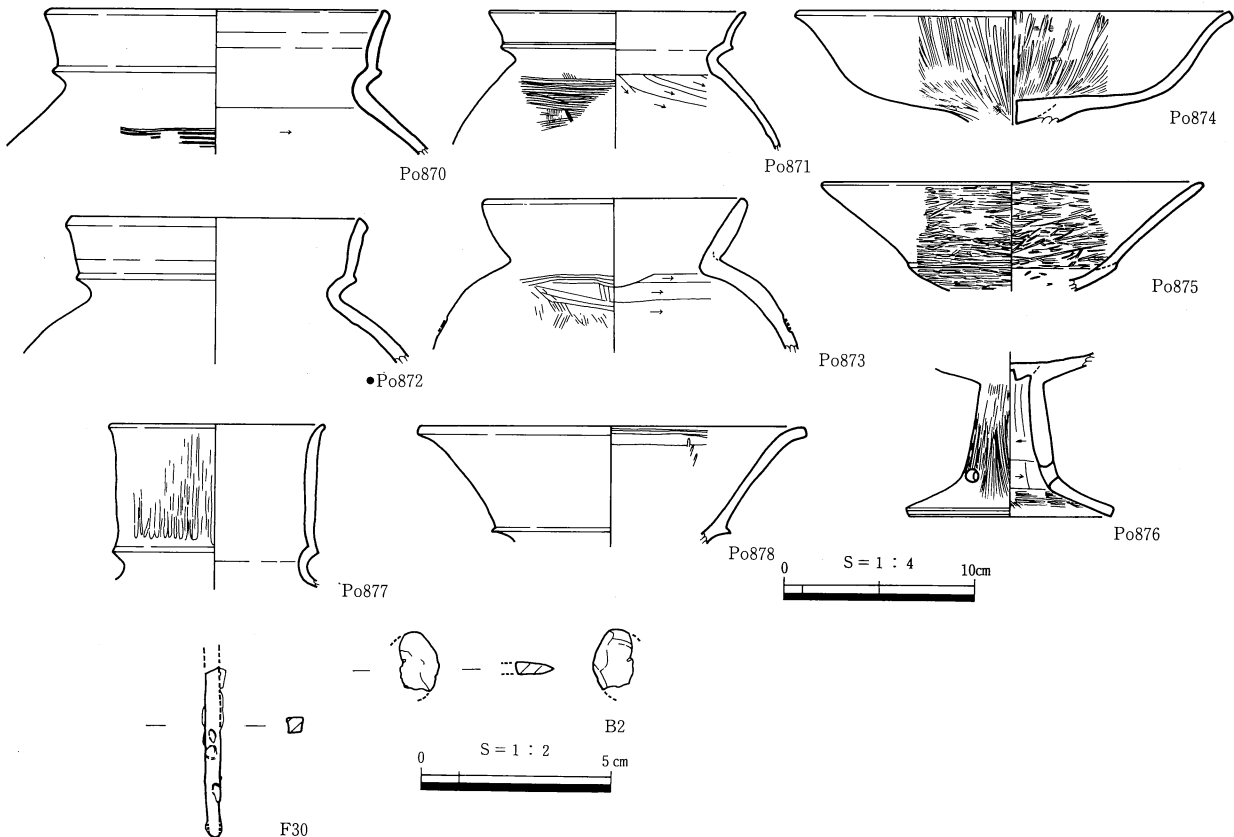
平面長楕円形を呈し、規模は上面で長さ4.60m、幅1.90m、底面の長さ3.85m、幅1.14mを測る。深さ最大0.49mを測る。断面不整形な台形状を呈す。主軸方向は、N-41°-Wである。

底面中央やや南東側で歯牙が出土している。

埋砂は3層に分層できたが、木棺痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、図化できたものに甕Po870~873、高杯Po874~876、直口壺Po877、鼓形器台Po878、不明鉄製品F30、不明銅製品B2がある。このうち、底面からPo872、埋砂下層からPo873・874が出土している。その他のものは、埋砂上層からの出土で、砂鉄原料の精錬滓No2068も、埋砂上層から出土している。埋砂上層のものは、SI250からの転落遺物と考えられる。

底面、埋砂下層出土遺物および検出層序から、天神川VI期、古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、木棺等の痕跡は確認できなかったことから、土壙墓であったものと考えられる。(牧本)



挿図117 長瀬高浜遺跡 S X100出土遺物実測図

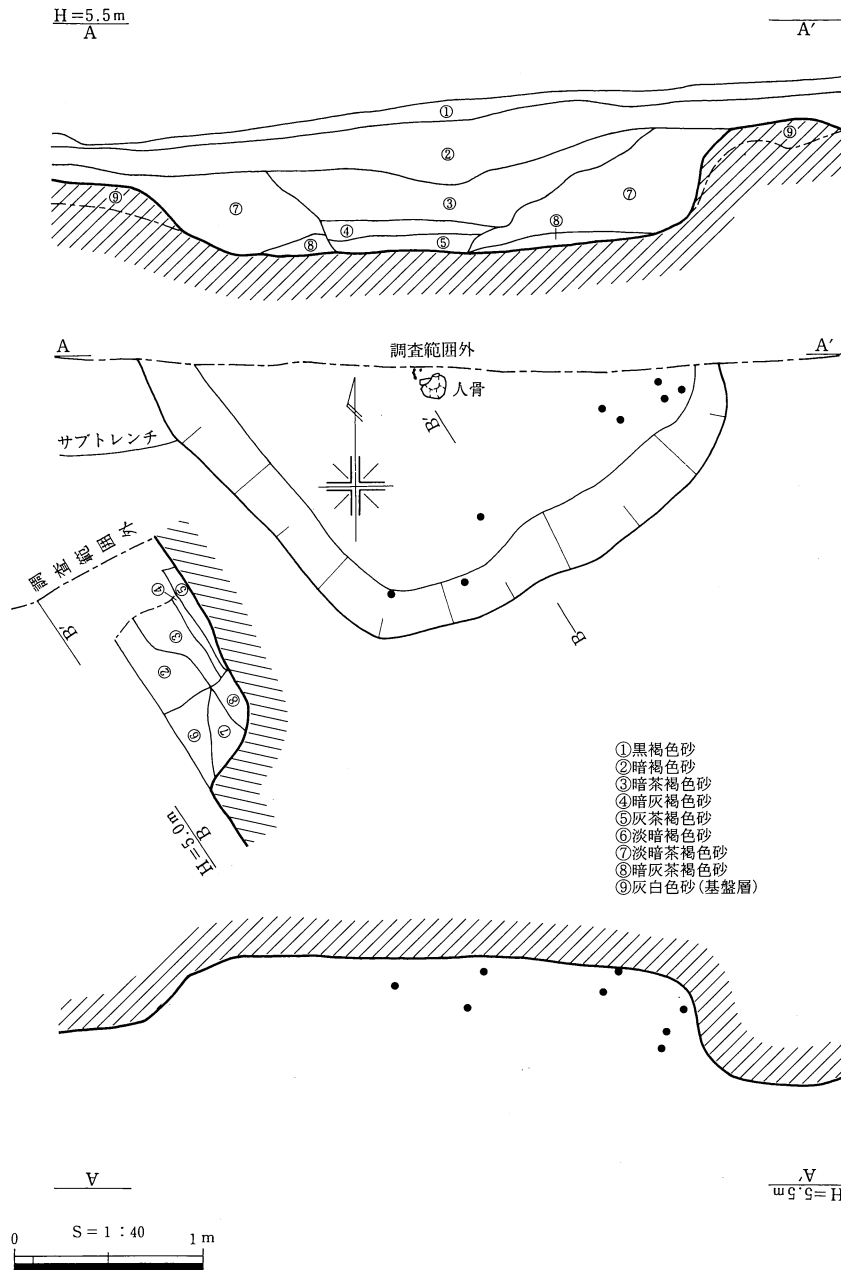
S X101 (挿図118・119、図版11)

クロスナ部分北東側の2Pグリッド調査区際であり、標高約4.8mのほぼ平坦面に立地する。南東側約6mにはSX100がある。

北西側は、大半が調査区外にあり、正確な形態、規模は不明であるが、平面長方形を呈すものと考えられる。規模は、上面で長さ2.0m以上、幅2.36m、底面の長さ1.6m以上、幅1.95mを測る。深さ最大0.57mを測り、断面逆台形状を呈す。主軸方向は、N-33°-Wである。

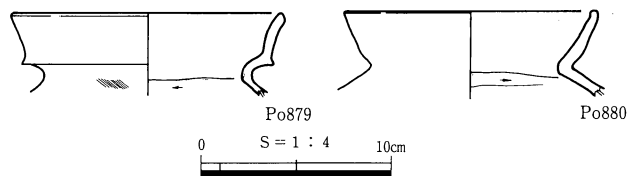
底面中央南東よりで、頭骨が出土している。鑑定では、成人男性の可能性が指摘された。

埋砂は6層に分層できた。このうち、⑤層は木棺底部が腐朽したものと考えられる。③層は棺内堆積層、④層は棺底に敷かれたものと考えられる。また、⑥~⑧層は木棺裏込め砂と考えられる。木棺側板、小口板の痕跡は確認できなかった。



挿図118 長瀬高浜遺跡 S X 101遺構図

出土遺物には、埋砂上層からのPo879・880がある。
 遺物はいずれも古墳時代前期のものであるが、遺構に伴うものではなく、検出層序および周辺の遺構から、古墳時代中期中葉ごろのものと考えられ、無墳丘の木棺墓と考えられる。(牧本)



挿図119 長瀬高浜遺跡 S X 101出土遺物実測図

第4節 溝状遺構

S D 22 (挿図120・121、図版11・68)

調査区西側の2Pグリッドの北東側の調査区際であり、標高約5.0~5.3mの緩やかに南東側に傾斜する斜面に立地する。西側約3mにはSX101がある。

北側は、大半が調査区外にあり、正確な形態、規模は不明であるが、長さ2.0m以上、幅1.19mを測る。深さ最大0.27mを測り、断面U状を呈す。ほぼ直線的に走り、主軸方向は、N-33°-Wである。

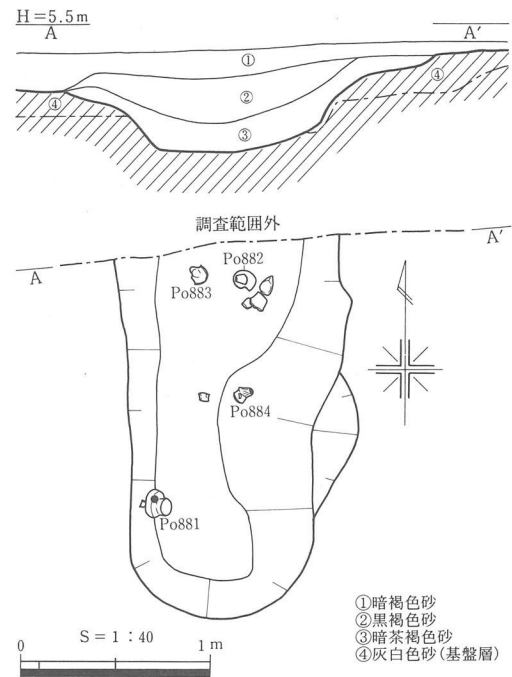
埋砂は2層に分層できた。自然堆積したものと考えられる。

出土遺物には、図化できたものに直口壺Po881、高杯Po882~884がある。いずれも底面付近で出土している。

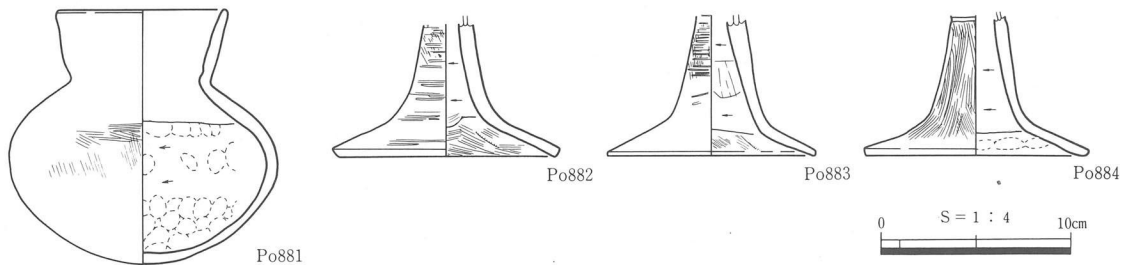
出土遺物および検出層序から、天神川区期、古墳時代中期後半から後期初頭ごろのものと考えられる。

この時期の古墳周溝とも考えられるが、全形が不明なため、性格は不明である。

(牧本)



挿図120 長瀬高浜遺跡 S D 22遺構図



挿図121 長瀬高浜遺跡 S D 22出土遺物実測図



文中写真③ 長瀬高浜遺跡現地説明会風景その2

第6章 長瀬高浜遺跡古代の調査

第1節 古代検出面の概要

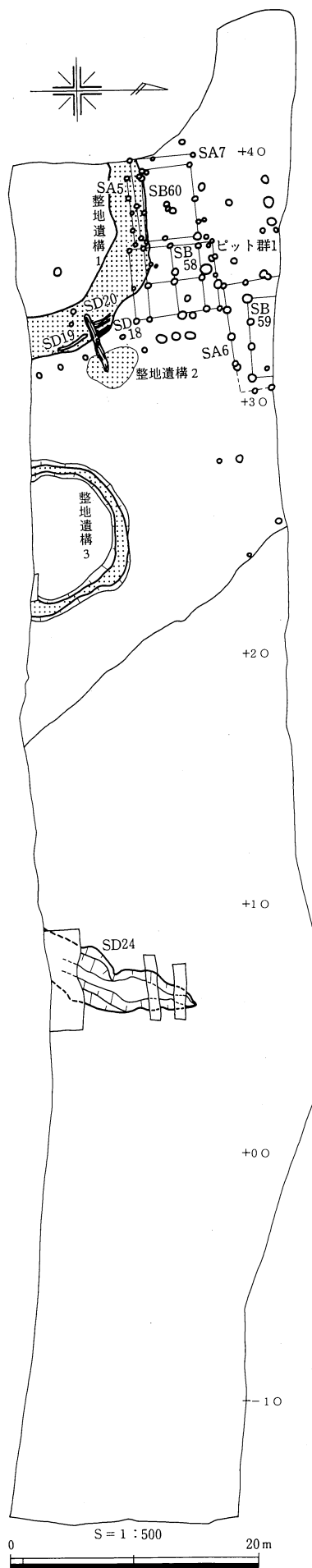
今回の調査でも古代の遺構、遺物が検出された。この古代検出面は、白砂除去後に現れた黒褐色砂を基本とした中世の畠跡検出面を約30cm程度掘り下げ現れた暗茶褐色砂を基本とした面にあたる。

今回の調査で確認された古代検出面の遺構には、庇付の総柱建物跡(SB58)を含む、計3基の掘立柱建物跡(SB58・59・60)、柵列3基(SA5・6・7)、整地遺構3基(整地遺構1・2・3)、溝状遺構4基(SD18~20・24)、総計87個のピットからなるピット群1などがある。掘立柱建物跡、柵列は、ピット群1の一角にあり、主軸はそれぞれN-9°-W(SB58)、N-87°-E(SB59)、N-84°-E(SB60)とほぼ揃い、SB58を中心に比較的密集して建てられている。またSB59には東西から南側にかけてSA6が、SB60には西から南側にかけてSA5・7の柵列が、それぞれ伴うように検出されている。ピットの深さ、規模など掘立柱建物跡、柵列間に大きな違いがみられないこと、これら遺構を含む周辺グリッドから、奈良から平安時代にかけてのものと考えられる赤色塗彩土師器片・土師器甕片・墨書土器片等が多数出土していること、SA6とSA7の一部の主軸が全く同じことなどからみて、掘立柱建物跡、柵列が時期的なことも含めて、何か関連性をもって建てられた遺構である可能性が考えられる。

整地遺構は3か所検出できた。整地遺構1・3は、古墳時代中期ごろの古墳(SX98・99)の周溝部分を、また、整地遺構2は、古墳時代中期初頭ごろの竪穴住居跡の窪地部分に粘土を敷き詰め、整地したものである。さらに整地遺構1・2の上面では、溝状遺構が3基(SD18・19・20)検出できた。この遺構の性格は、不明である。

この時期の主な出土遺物には墨書土器8点(うち、2点は「長」と書かれている)、SD18から出土した銅製帯金具(丸軋裏金具)2点の他、奈良から平安時代ごろのものと考えられる赤色塗彩土師器片、土師器甕片、須恵器片など多数出土している。これらは、掘立柱建物跡を構成するピット群1、整地遺構、SD18~20の位置するグリッドから出土しており、このことはこの時期の遺構の性格を考える上で大変興味深い。

また、この時期の遺構検出面から出土した炭化材(Na2058)の年代測定の結果では、 $1110 \pm 50 \text{ B.P. (A.D.990)}$ という結果が得られており、絶対年代を考える上でも興味深い結果と考える。(井上)



挿図122 長瀬高浜遺跡古代遺構配置図

第2節 掘立柱建物跡・柵列

S B 58 (挿図123・124、図版11)

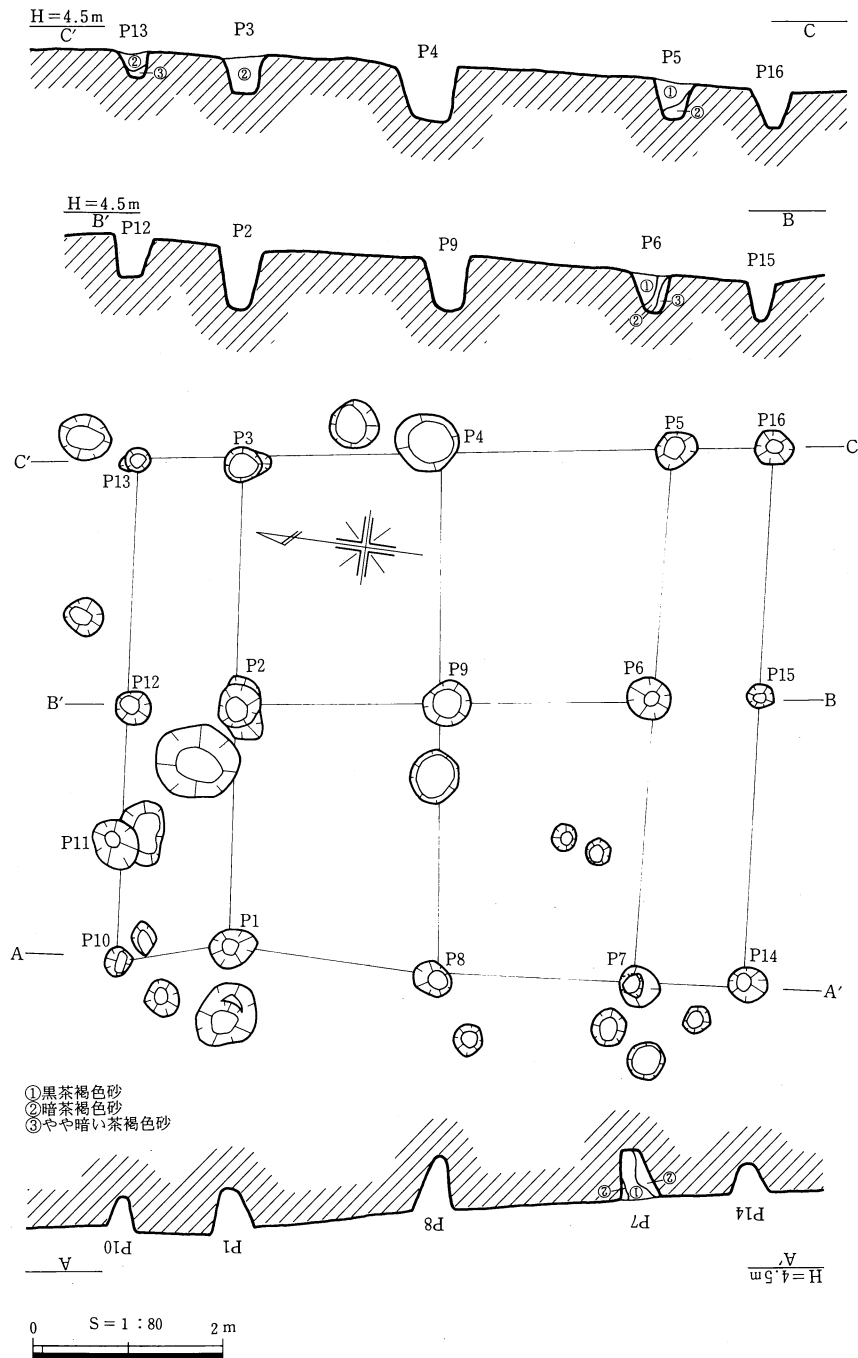
・ 調査区西側の30グリッドに位置する。北側では暗茶褐色砂面、南側では整地遺構上面で検出した。母屋に南北両面の庇が取り付く総柱の建物と推察される。やや南へ傾斜した斜面上に立地し、検出面での標高は、北側で4.5m、南側で約3.9mである。

母屋は、梁行2間(4.6m)×桁行2間(5.6m)で、庇が南北両面につく。庇部分を含めると、南北6.6mの規模をもつ。軸はN-9°-Wである。北東方向に約5mには、ほぼ同時期の所産と考えられるSB59がある。

主柱穴間距離は、母屋において、P1~P2の順に、2.5m、2.6m、2.0m、2.6m、2.65m、3.0m、2.1m、P8~P1間が2.2m、P8~P9間が2.9m、P4~P9間が2.75m、P2~P9間が2.2m、P9~P6間が2.15mである。各ピットの詳細は挿表7を参照していただきたい。

P7の埋砂中から、土師器皿Po885が出土した。

時期は、P7内出土のPo885より、伯耆国序第2様式(SD37形式)、平安時代(9世紀代)の所産と考えられる。(岡野)



挿図123 長瀬高浜遺跡S B 58出土遺物実測図

挿図124 長瀬高浜遺跡S B 58遺構図

ピット 番号	規模 (cm)	備 考	ピット 番号	規模 (cm)	備 考	ピット 番号	規模 (cm)	備 考
P 1	50×40-32		P 7	46×42-56	土師器皿	P12	36×35-26	
P 2	68×44-28		P 8	44×32-60		P13	33×26-41	
P 3	50×38-41		P 9	50×46-60		P14	40×38-54	土師器皿
P 4	66×60-64		P10	34×27-24		P15	30×26-40	
P 5	46×38-44		P11	56×44-58		P16	40×38-44	
P 6	46×44-42							

挿表7 SB58ピット一覧表

SB59、SA6 (挿図125、図版11)

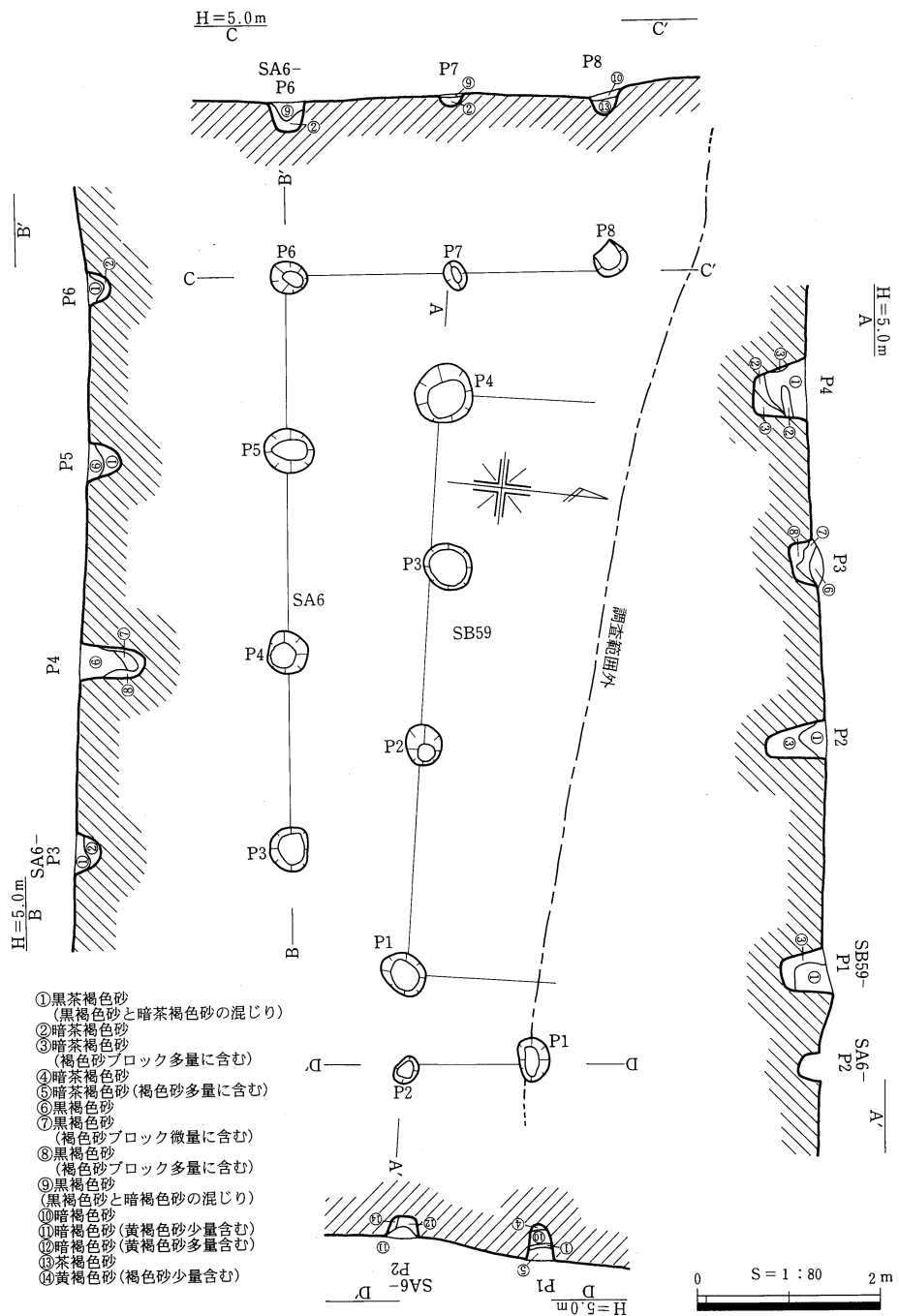
調査区西側、クロスナ検出部分のほぼ中央北壁際にあり、標高約4.2~4.6mの平坦面から緩やかに南西へ傾斜する斜面に立地する。

約2m南側にSB58が隣接し、南西方向約7mにはSB60、SA5・7が位置する。

全形ははっきりしないが、SB59は、梁行1間以上(2.2m以上)×桁行3間(6.4m)を測る掘立柱建物跡である。主軸方向はN-87°-Eとほぼ東西方向を向く。

柱穴はP1~P4を確認することができ、それぞれの規模は、P1(52×42-53)cm、P2(44×40-66)cm、P3(56×50-27)cm、P4(67×63-55)cmを測る。主柱穴間距離は、P1~P2間から順に2.5m、2.1m、1.8mである。

SA6は、鉤状にP1~P8が並ぶ。SB59に対し主軸が若干ずれる。柱穴の径は、25~54cm、深さ14~85cmを測る。柱穴間距離は、P1~P2が1.4m、P3~P4が2.1m、P4~P5が2.3m、P5~P6が



挿図125 長瀬高浜遺跡SB59、SA6遺構図

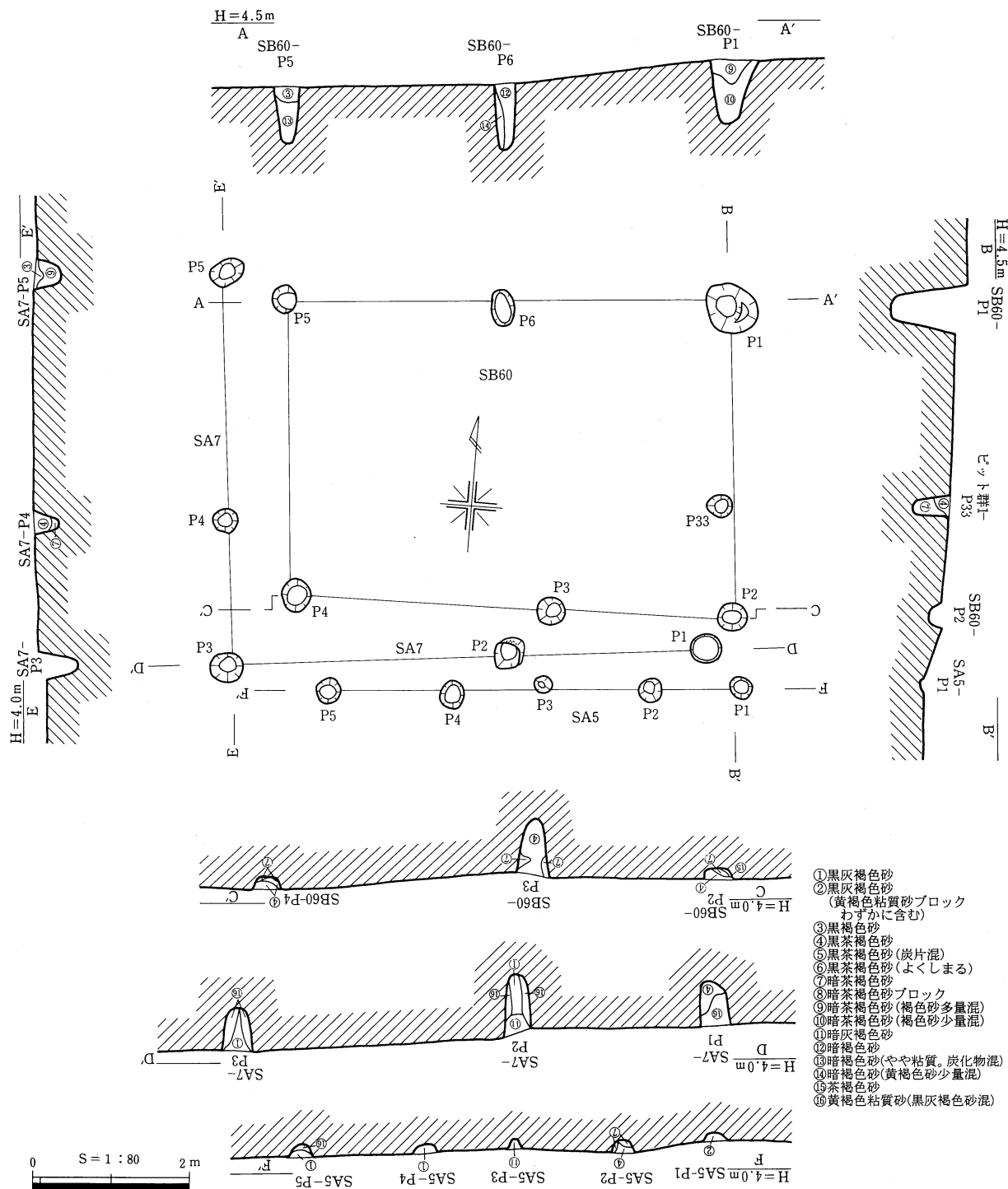
1.9m、P6～P7が1.9m、P7～P8が1.7mを測る。

SB59の埋砂は6層、SA6のそれは14層にそれぞれ分層できた。これらは基本的に黒褐色・黒茶褐色系の埋砂であった。

出土遺物は、柱穴と考えるピット12個のうち、8個の埋砂内から土師器片が出土しているが、いずれも小片のために図化できなかった。

SB59、SA6の時期は良好な遺物が出土していないためはっきりとしないが、検出面周辺から、伯耆国庁第2様式SD37～SD35形式併行の赤色塗彩土器片が多数出土しており、平安時代ごろ（9世紀代）のものとする。

(井上)



挿図126 長瀬高浜遺跡SB60、SA5・7遺構図

SB60、SA5・7（挿図126・127）

調査区の西側、クロスナ検出部分の西端近くの、標高約3.8m～4.0mの平坦面から南側へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。東側にはSB58が隣接する。また北東方向約7mには、SB59、SA6が位置する。

SB60の形態は、梁行1間（3.9m）×桁行2間（5.7m）を測る掘立柱建物跡である。主軸方向はN—84°—Eである。

柱穴はP1～P6を確認することができ、それぞれの規模はP1（73×61—95）cm、P2（38×35—18）cm、P3（37×37—77）cm、P4（44×41—23）cm、P5（36×32—76）cm、P6（46×30—88）cmを測る。柱穴は、北側のものが深いのにに対し、南側のものは比較的浅い。主柱穴間距離は、P1～P2間から順に4.1m、2.3m、3.4m、3.7m、2.8m、2.9mである。

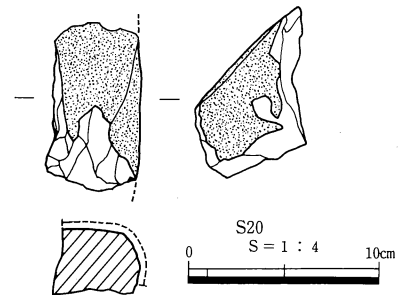
SA5は、東西方向に直線状にP1～5が並び、SB60に対しほぼ平行する。柱穴は、径27～36cm、深さは8～18cmを測る。柱穴間距離はP1～P2間から順に1.2m、1.4m、1.2m、1.1mである。

SA7は、南北方向にP1～P5が直線状に延びる。SB60、SA5等と主軸を異にしている。柱穴は、径27～54cm、深さは18～86cmを測る。主柱穴間距離はP1～P2間から順に2.6m、3.5m、1.8m、3.2mである。

埋砂は、SB60が9層、SA5・7がともに6層ずつに分層できた。これらは、基本的に黒茶褐色、暗茶褐色系のものであった。

出土遺物は、図化できた遺物に、SB60のP6埋砂中から出土した砥石S20があるのみで、あとはSB60、SA5・7合わせて16個検出できたピットのうち、5個のピット埋砂中から土師器片が出土したのみで、いずれも図化できなかった。

SB60、SA5・7の時期は、時期判断できる遺物が出土していないためはっきりとしないが、検出面周辺の赤色塗彩土師器から、伯耆国庁第2様式・SD37形式からSD35形式併行、平安時代ごろ（9世紀代）のものと考えられる。（井上）



挿図127 長瀬高浜遺跡SB60出土遺物実測図

第3節 整地遺構

整地遺構1・2（挿図128～131、図版11・68・72）

調査区西側の30グリッドにあり、標高3.6～3.9mのほぼ平坦面に位置する。東側8mには整地遺構3が、北側には掘立柱建物群がある。

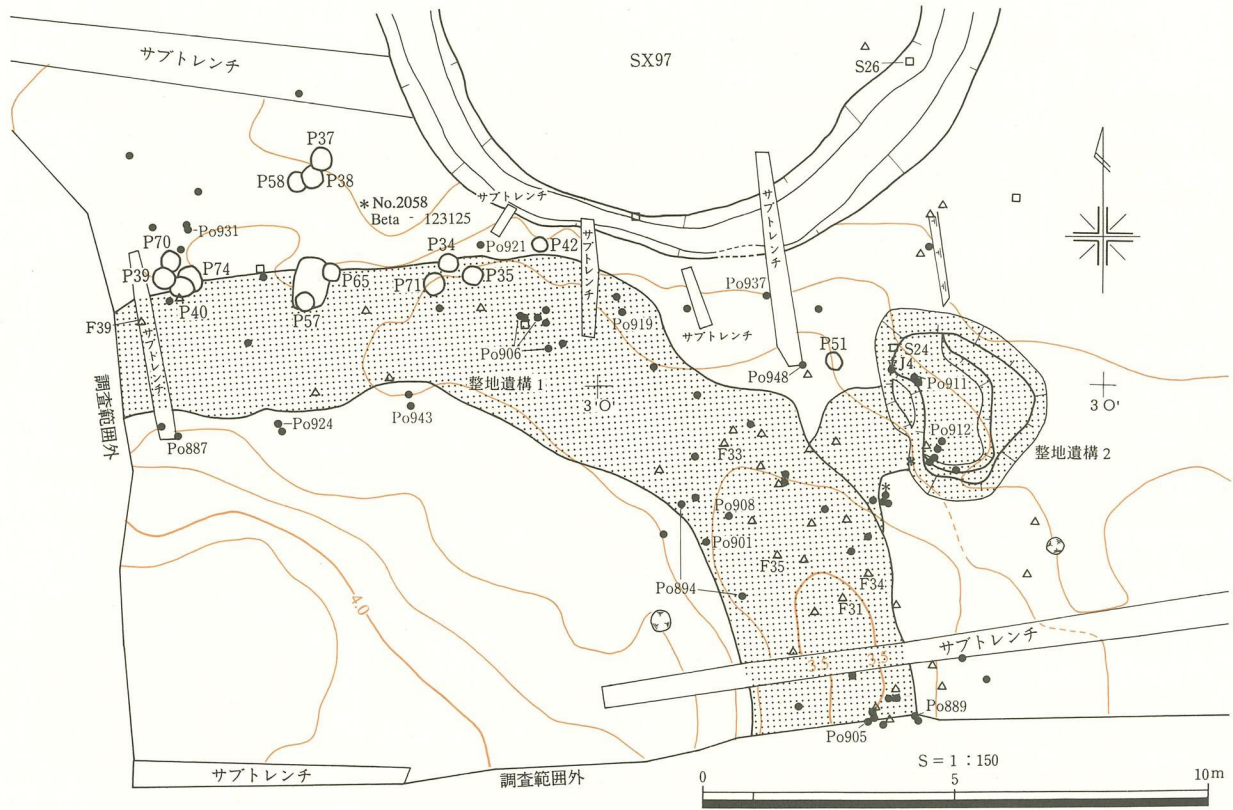
整地遺構1は幅2.5～3.5mの弧状、整地遺構2は長軸4m×短軸3mの隅丸三角形の褐色粘土面として検出された。整地遺構1はSX99周溝、整地遺構2はSI259の埋砂上面に位置しており、それぞれ窪地に粘土を入れ、整地作業を行っている。

褐色粘土はレンズ状に充填されており、厚さは最大で15～25cm程度ある。粘土の周りは暗茶褐色・褐色粘質砂になる。さらに上層の標高3.9m付近では、黒褐色粘質砂が西側に10m程度の幅で広がり、この層でSD18～20が検出され、銅製帯金具などが出土している。

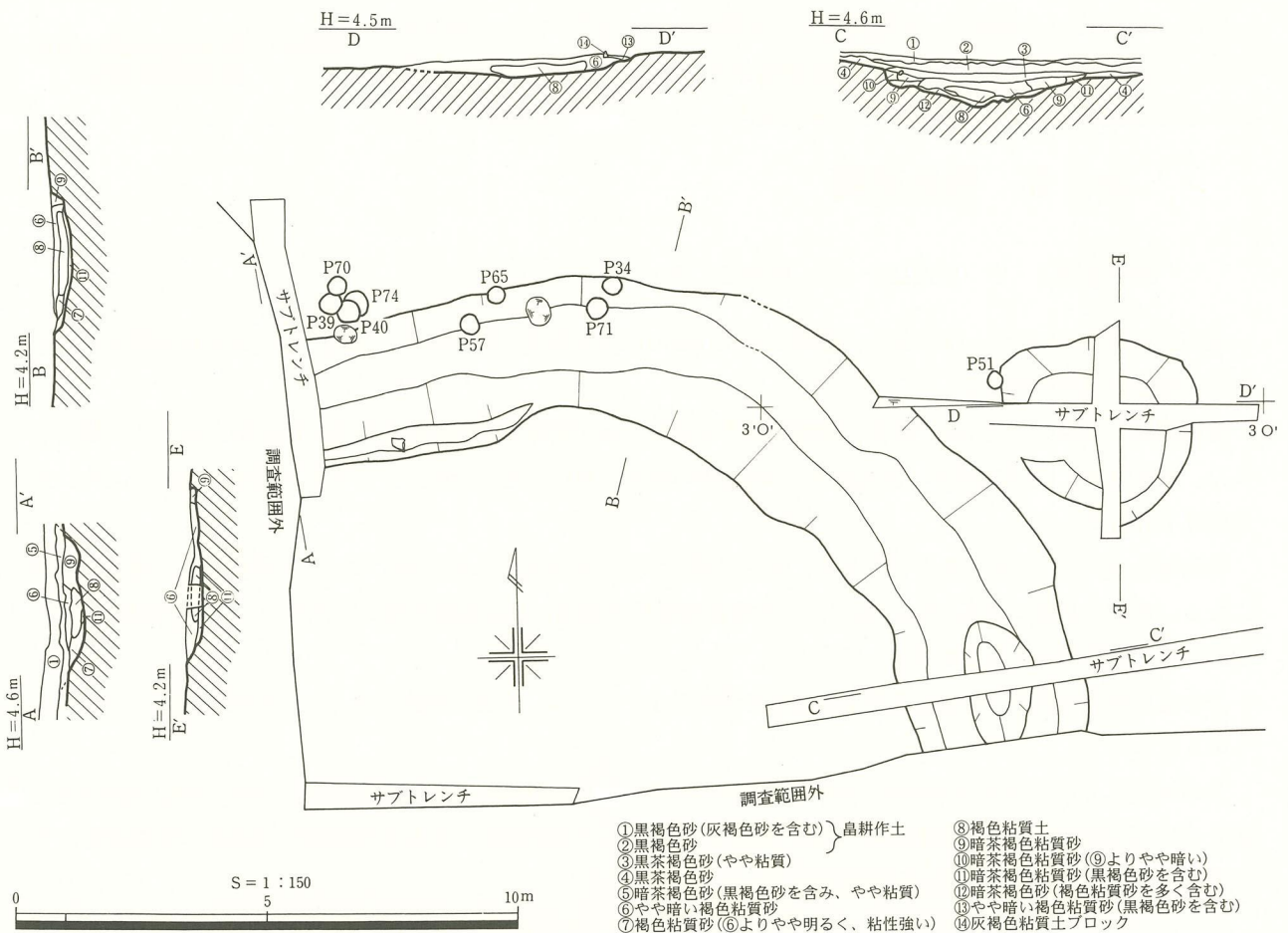
遺物は黒褐色粘質砂～褐色粘土層上面の間で多数出土している。土器は細片が多く、二次的に火をうけているものもある。

整地遺構1では土師器杯Po886～889、皿Po891～893、高台皿Po894、高台部分Po890・895・896、甕Po900～903、須恵器杯Po904、高台杯Po905・906、製塩土器Po907、土錘Po908、墨書土器Po897～899を、整地遺構2では土師器甕Po911、墨書土器Po912を図化した。

大半の土師器杯・皿は伯耆国庁第2様式SD37～35形式のものであるが、Po892はミガキがみられ、伯耆国庁第1様式のものと思われる。Po888は、小型化し口クロ目状の凸凹がみられるが赤色塗彩されており、第2様式最



挿図128 長瀬高浜遺跡整地遺構1・2遺構図



挿図129 長瀬高浜遺跡整地遺構1・2粘土除去後遺構図

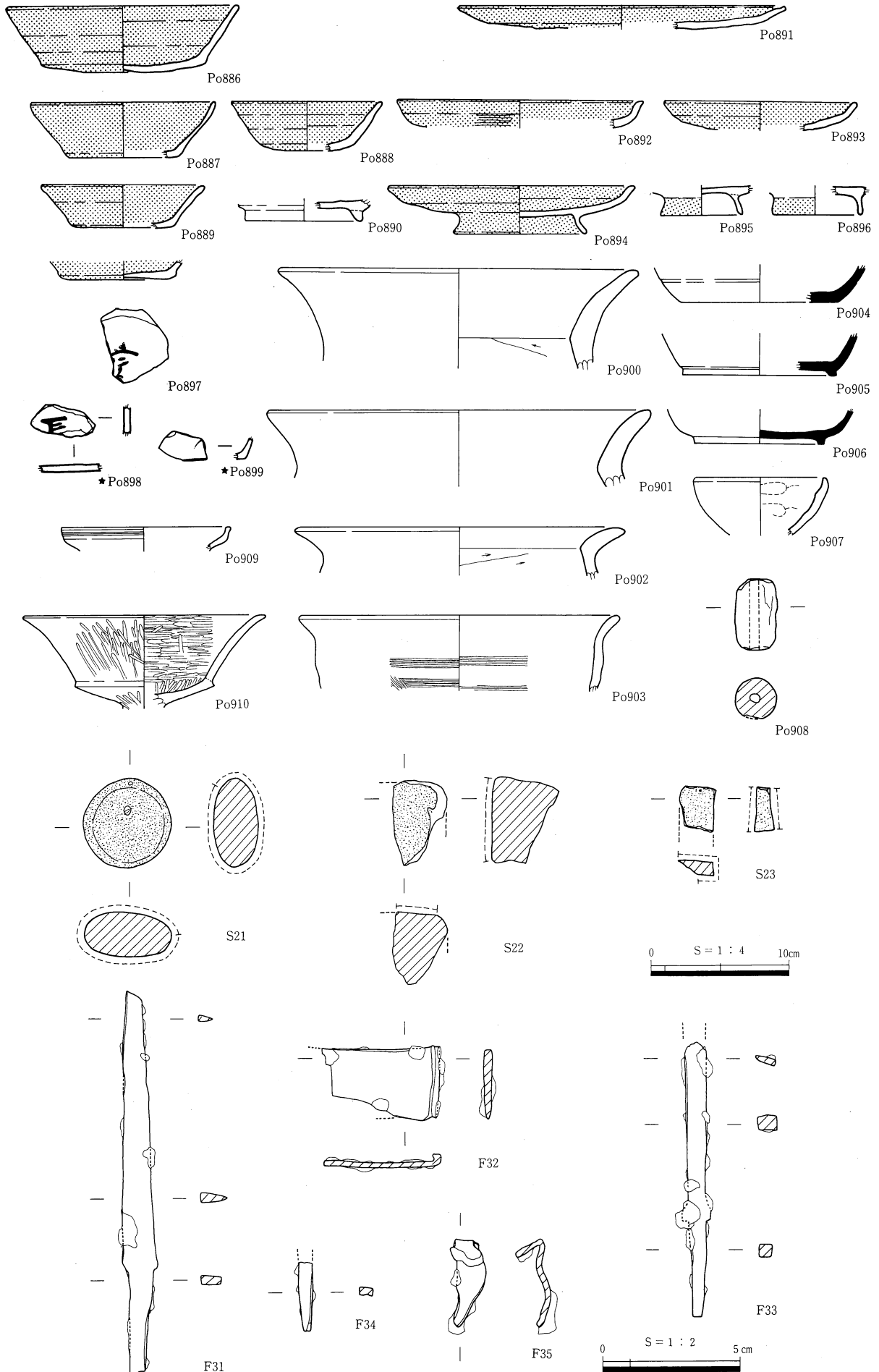
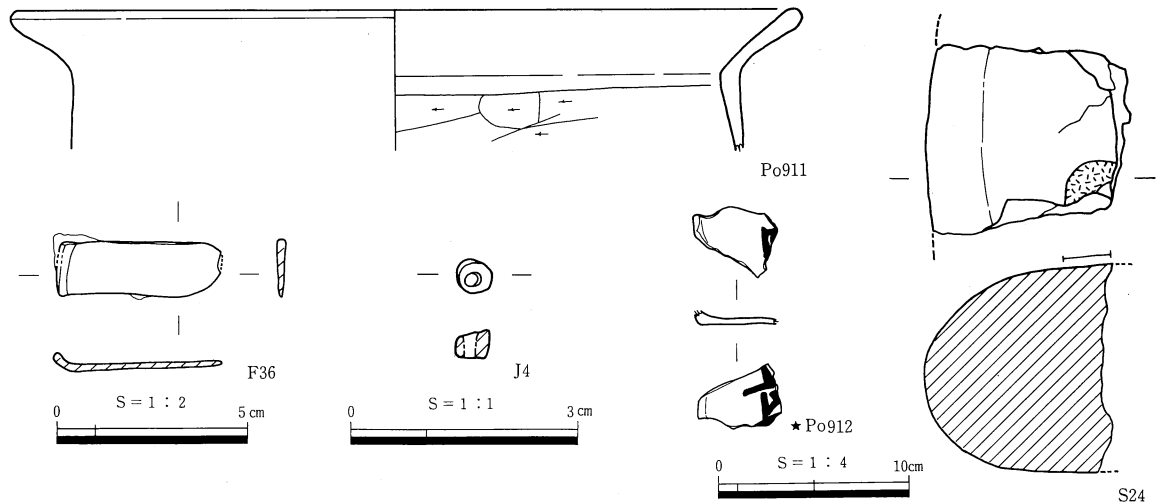


插图130 長瀬高浜遺跡整地遺構1出土遺物実測図



挿図131 長瀬高浜遺跡整地遺構2出土遺物実測図

終段階のものとする。また、Po890は断面三角形の高台を底部外縁近くに貼り付けており、第2様式SK05形式のものであろう。製塩土器は鹿蔵山式の焼塩土器である。須恵器は9世紀代のものと思われる。墨書土器も出土しており、Po897は杯底部に墨書している。判読はできないが、他の墨書土器とは筆跡が異なるものである。Po898は底部外面に「長」を墨書する。Po899は杯の口縁部外面に墨書するものである。Po912は杯底部の内外面に墨書する。外面は「長」、内面は不明である。

また、整地遺構1では古墳時代前期の土師器も出土しており、土師器甕Po909、高杯Po910を図化した。Po909は吉備系甕の口縁部である。Po910は二次的に火をうけており、外面に多量の煤が付着している。

鉄片・鉄滓なども多く出土しており、整地遺構1では刀子F31、鉄鎌F32、鉄釘F33・34、不明鉄器F35、整地遺構2では錐形（鎌形）鉄製品F36を図化した。F35は何らかの錐形品の可能性がある。

石器は磨石S20、砥石S21・22、石皿S23がある。その他ガラス小玉J4も出土している。

出土遺物から、整地遺構1・2ともに、平安時代（9世紀代）ごろのものと考えられる。

（岩崎）

整地遺構3（挿図132・133、図版12・69）

調査区西側の20グリッド南東側調査区際であり、標高約3.8～4.3mの緩やかに南西側に傾斜する斜面に立地する。西側約8mには整地遺構1がある。

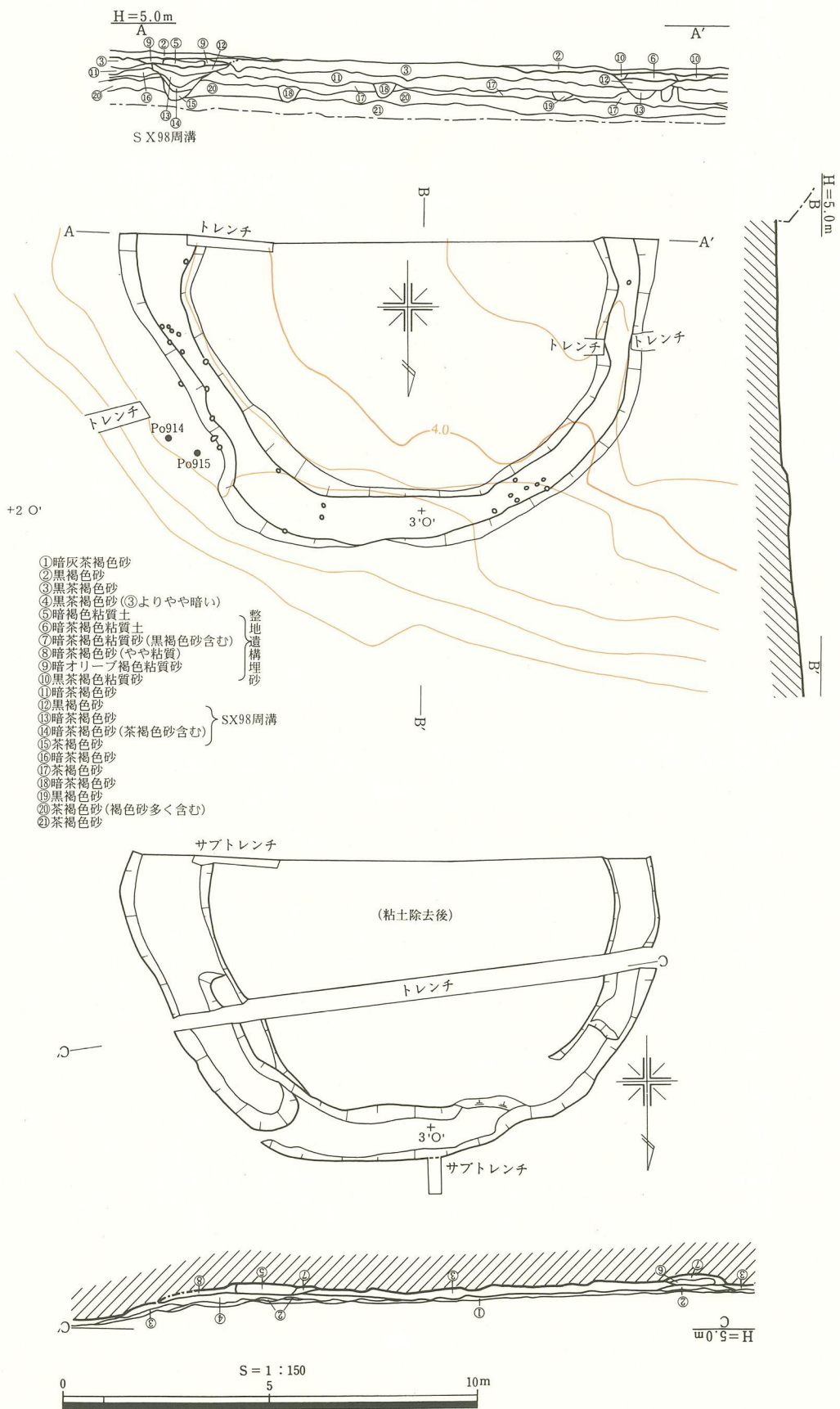
南側半分は調査区外にあり、正確な範囲は不明であるが、当時窪地になっていたSX98周溝部分を、幅1.1～2.2m、厚さ25cm前後にわたって、暗褐色粘質土をやや盛り上げるように充填している。

上面には、径5cm前後のピットが東側、北西側に不規則に掘り込まれていた。

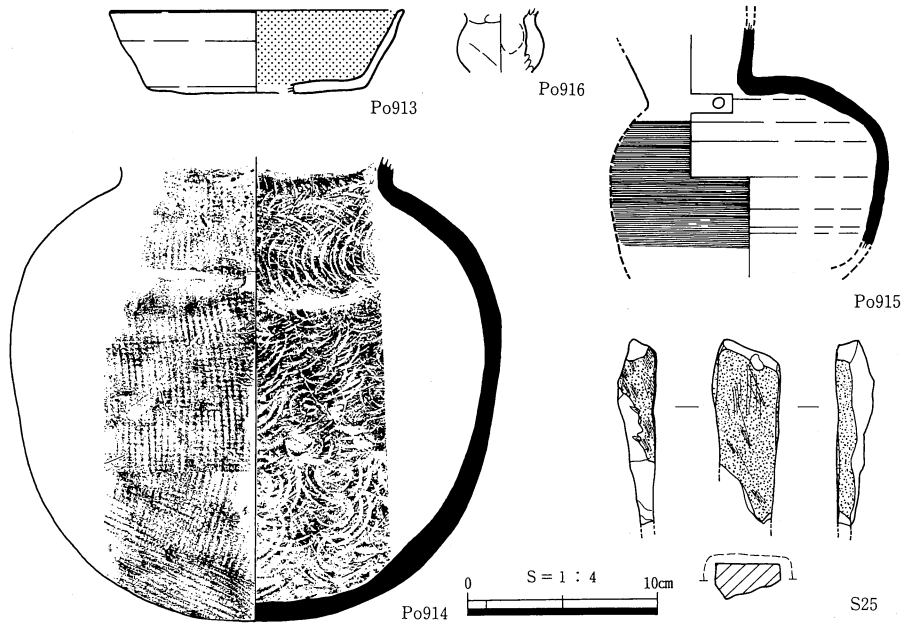
出土遺物には、上面で土師器杯Po913、須恵器平瓶Po915、ミニチュア土器Po916、砥石S25が出土している。また、周辺で須恵器壺Po914も出土している。

出土遺物および検出層序から、伯耆国庁第2様式期、平安時代のものと考えられる。

（牧本）



挿図132 長瀬高浜遺跡整地遺構3遺構図



挿図133 長瀬高浜遺跡整地遺構3出土遺物実測図

第4節 溝状遺構

SD18~20 (挿図134・135、図版12・71)

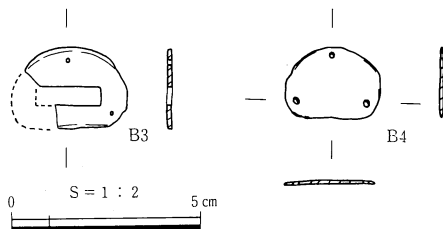
調査区西側の30グリッドにあり、標高3.9m前後の平坦面に立地する。整地遺構1・2のやや上層で検出することができた。

SD18はほぼ東西方向にのびるSD18-1と、それに直交するSD18-2にわかれる。SD19、SD20はSD18-1の直角方向にのびる。いずれの溝も、黒褐色粘質砂を掘り込んで作られている。

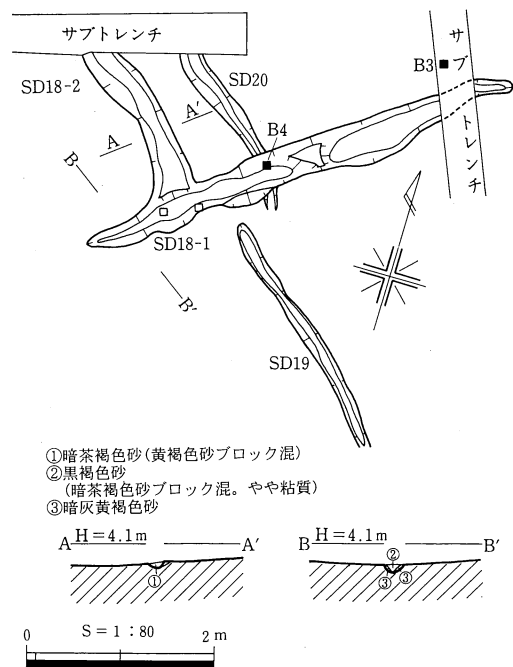
SD18-1は直線状を呈し、主軸方向はN-70°-Eである。規模は、長さ4.9m、幅0.2~0.45m、深さ約4~12cmを測る。断面は浅い逆台形状を呈する。埋砂は暗茶褐色砂・暗灰黄褐色砂を基本とする。SD18-2は緩やかな弧状を呈し、主軸方向はN-44~25°-Wである。北端は検出できなかった。規模は、長さ1.7m以上、幅0.28~0.3m、深さ約5~9cmを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋砂は単層で、暗茶褐色砂に黄褐色砂を含む。

SD19はSD18の南側に位置する。直線状を呈し、主軸方向はN-31°-Wである。規模は、長さ2.7m、幅0.1~0.2m、深さ約2~5cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は単層で、暗茶褐色砂を基本にする。

SD20はSD18と交差する。北端は調査できなかった。



挿図134 長瀬高浜遺跡SD18出土遺物実測図



挿図135 長瀬高浜遺跡SD18~20遺構図

緩やかな弧状を呈し、主軸方向はN—35°—Wである。規模は、長さ1.9 m以上、幅0.15~0.25m、深さ4 cm前後を測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は単層で、暗茶褐色砂を基本にする。

遺物はSD18から出土しており、銅製丸軛裏金具B4を図化した。B3はSD18の20cmほど北側の包含層中で出土した。また図化していないが、埋砂中から古代ごろの甕が出土している。

時期は、出土した遺物および検出層序から、平安時代ごろと考えられる。(岩崎)

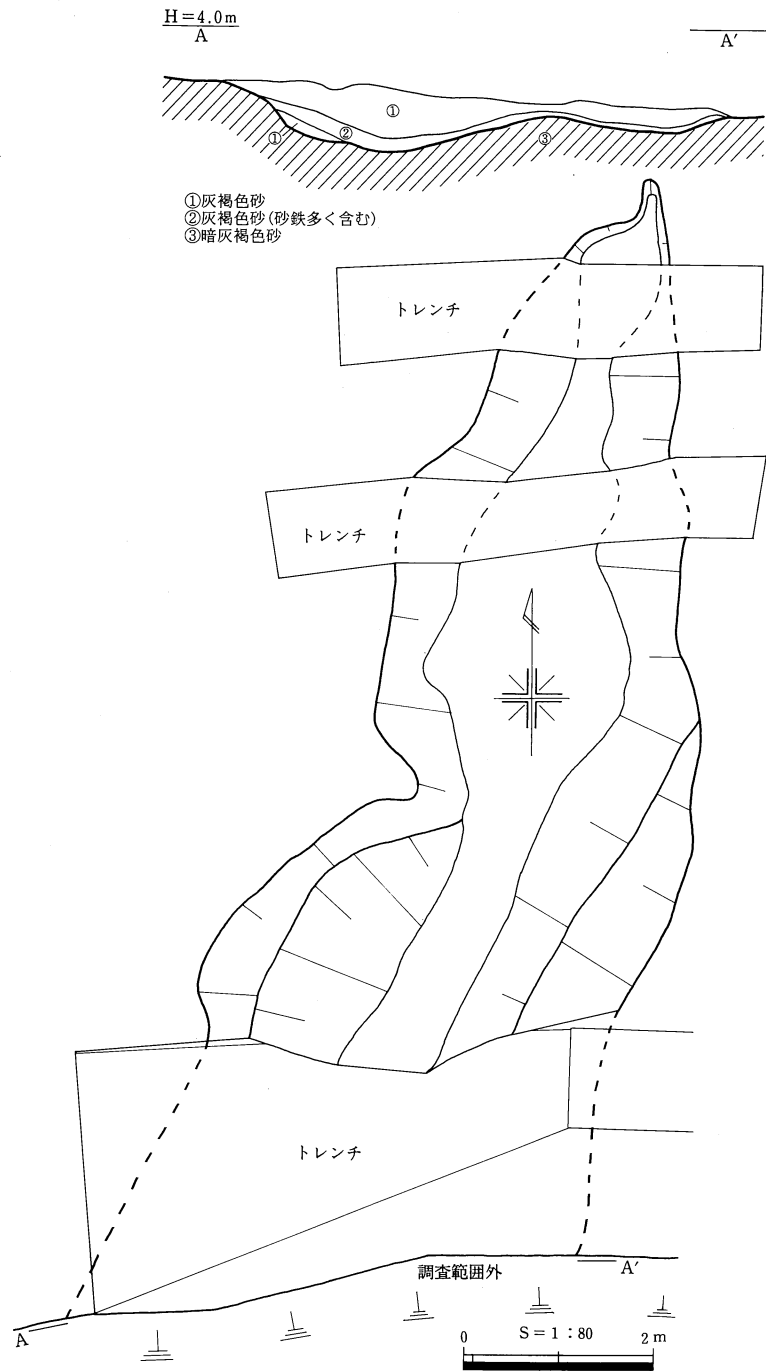
SD24 (挿図136、図版12)

調査区東側の00グリッドにあり、標高約3 mの平坦面に立地する。周囲は、シロスナである。

ほぼ南北に延び、長さ10m以上、幅は最も広い南側で4.1mである。上端から溝底までの深さは、北端では約5 cmであるが、南へ向かい深くなり、南端では約48cmである。溝底での標高は、ほぼ水平であり2.9~3.0mである。基盤面、溝埋砂ともに灰褐色砂であるが、溝埋砂には砂鉄を比較的多量に含み、ラミナ状をなす。

埋砂中から古墳時代の土師器片が出土しているが、図化できなかった。これらは表面がやや摩耗している。

埋砂中の土器は遺構に伴うものではなく、層位的に、古代の所産と考えられる。(岡野)



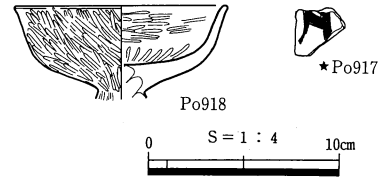
挿図136 長瀬高浜遺跡SD24遺構図

第5節 ピット群

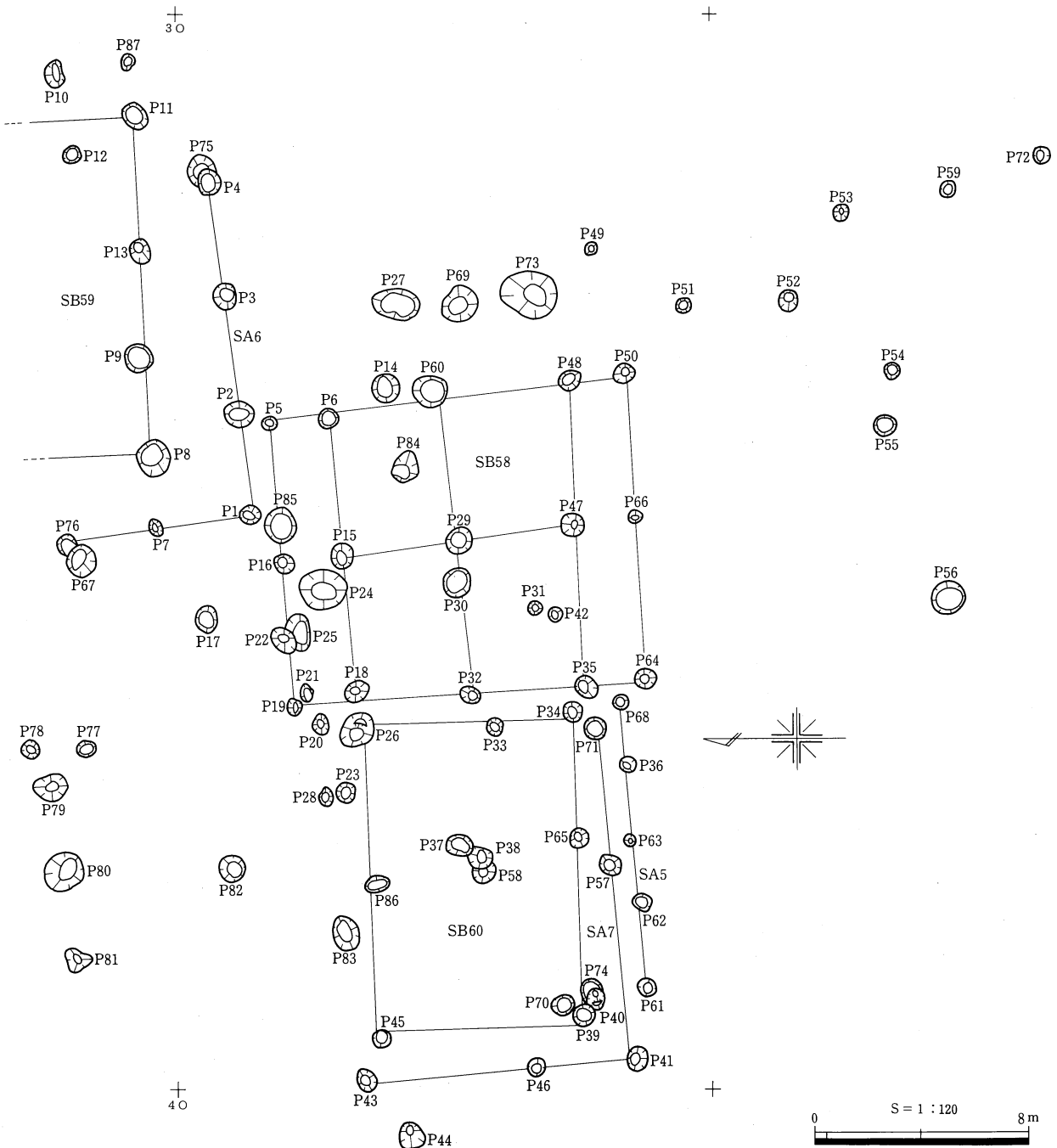
ピット群1 (挿図137・138)

調査区西側の3O、3P、4Oグリッドにあり、クロスナ検出範囲のほぼ中央付近から西側にかけての、標高約4.2m~4.6mのほぼ平坦面から標高約3.5m~4.2mの北から南方向へ緩やかに傾斜する斜面に立地する。当遺構の南側には整地遺構1・2が隣接する。さらに、その2つの整地遺構に挟まれるようにSD 18・19・20が密集しながら位置している。

ここでは総数87個のピットを検出した。円形・楕円形を呈するものがほとんど



挿図137 長瀬高浜遺跡ピット群1 出土遺物実測図



挿図138 長瀬高浜遺跡ピット群1 遺構図

で、規模はさほど大きくないが、比較的深く、しっかりと掘り込まれたようなピットがいくつもあり、後に配列等を検討した結果、ピット群1を構成する総計87個のピットのうち、平安時代ごろ（9世紀代）のものと考えられる掘立柱建物跡の柱穴になるものがあった。これらは、調査区北壁際付近のSB59、SA6、その南西側のSB58・60、SA5・7等を構成するピットである。なお、それぞれのピットの詳しい規模等は、挿表8を参照されたい。

埋砂は、基本的に上層から黒褐色系・暗茶褐色系・暗褐色系に分けられる。

出土遺物は、計87個のピットのうち、35個の埋砂中から土師器片等が出土している。これらの土師器片はほとんどが小片で、時期判断できるものが非常に少なかった。しかし、図化できたものもわずかではあるが出土しており、P35（SB58—P7）からの土師器皿、P54からの墨書土器、P83からの土師器・高杯杯部、P86（SB60—P6）からの砥石S20などがそれらにあたる。

ピット群1の時期は、埋砂中出土遺物及び、検出面周辺グリッドから多数出土した赤色塗彩土師器等から判断して、伯耆国庁第2様式（SD37形式）、平安時代ごろ（ほぼ9世紀代）のものと考えられる。（井上）

ピット番号	規模cm	備 考	ピット番号	規模cm	備 考	ピット番号	規模cm	備 考
P1 (SA6—6)	40×35—42		P30	55×53—26		P59	33×30—51	
P2 (SA6—5)	54×48—42	土師器	P31	26×24—25		P60 (SB58—4)	65×61—59	
P3 (SA6—4)	49×45—72	土師器	P32 (SB58—8)	40×32—64	土師器・炭	P61 (SA5—5)	35×32—19	
P4 (SA6—3)	47×41—85		P33	30×28—47	土師器	P62 (SA5—4)	36×30—14	
P5 (SB58—13)	26×25—26		P34 (SB60—2)	38×35—18	土師器	P63 (SA5—3)	23×23—16	
P6 (SB58—3)	40×36—39		P35 (SB58—7)	42×41—51	皿	P64 (SB58—14)	40×34—26	
P7 (SA6—7)	33×25—14		P36 (SA5—2)	29×27—18	土師器	P65 (SB60—3)	37×37—77	
P8 (SB59—4)	67×63—55	土師器	P37	53×39—21		P66 (SB58—15)	27×24—43	土師器
P9 (SB59—3)	56×50—27	土師器	P38	45×40—40	土師器	P67	58×58—49	
P10 (SA6—1)	49×34—40	土師器	P39 (SB60—4)	44×41—23	土師器	P68 (SA5—1)	30×26—8	
P11 (SB59—1)	52×42—53	土師器	P40	39×35—37	土師器	P69	68×61—40	
P12	34×28—24		P41 (SA7—3)	42×39—53		P70	39×37—71	
P13 (SB59—2)	44×40—66	土師器	P42	26×25—28		P71 (SA7—1)	40×38—62	
P14	51×50—53	土師器	P43 (SA7—5)	46×34—34		P72	34×31—67	土師器
P15 (SB58—2)	45×42—59	土師器	P44	49×48—63		P73	87×71—63	
P16 (SB58—12)	37×37—47		P45 (SB60—5)	36×32—76		P74	45×(38)—74	
P17	48×46—11	土師器	P46 (SA7—4)	33×33—34		P75	56×(28)—64	
P18 (SB58—1)	49×38—48		P47 (SB58—6)	44×40—44		P76 (SA6—8)	37×33—24	
P19 (SB58—10)	29×27—37		P48 (SB58—5)	39×37—41		P77	34×29—34	
P20	40×34—42	土師器	P49	25×22—29		P78	35×32—24	
P21	37×25—25		P50 (SB58—16)	38×38—45	土師器	P79	65×53—24	
P22 (SB58—11)	55×44—56	土師器	P51	28×27—33	土師器	P80	77×71—34	土師器
P23	36×35—46		P52	39×35—50	土師器	P81	47×38—19	
P24	90×76—54	高杯	P53	33×29—68		P82	47×46—51	土師器
P25	68×46—19		P54	33×30—51	墨書「月」	P83	65×50—40	高杯杯部
P26 (SB60—1)	73×61—95		P55	39×36—12		P84	59×48—43	
P27	90×56—46		P56	60×60—60	土師器	P85	64×59—61	土師器
P28	33×28—34		P57 (SA7—2)	41×36—81	土師器	P86 (SB60—6)	46×30—88	土師器・砥石
P29 (SB58—9)	48×47—57		P58	40×35—64	土師器	P87 (SA6—2)	30×24—23	土師器

挿表8 長瀬高浜遺跡ピット群1ピット一覧表

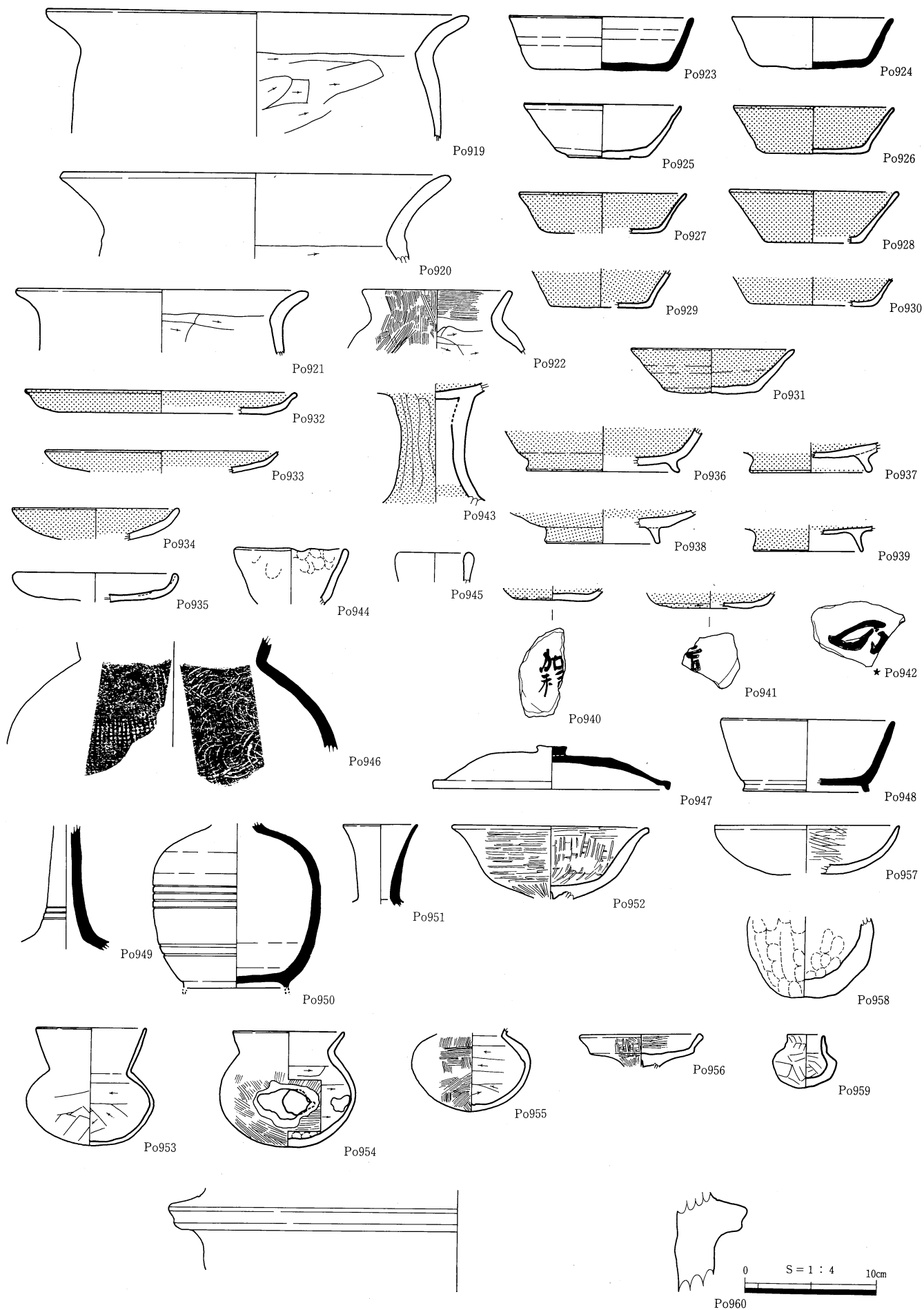


插图139 長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(1)

第6節 古代包含層遺物 (挿図139・140、図版69・72)

ここでは、暗茶褐色砂層から黒茶褐色砂層で出土した、奈良時代から平安時代の、遺構に伴わない遺物について触れることとする。

図化したものには、20グリッドからは、土師器杯Po929、皿Po932・933・935、製塩土器Po945、須恵器長頸壺Po951、砥石S27など、30グリッドからは、土師器杯Po925・927・928・930・、高台杯Po936~939、墨書土器Po941・942、土師器甕Po919~921、須恵器杯Po924、須恵器高台杯Po948、須恵器蓋Po947、製塩土器Po944、鉄鎌F37、釣針F39、砥石S26、敲石S28、3Pグリッドでは敲石S29、20グリッドと3Pグリッドにまたがって接合した土師器杯Po926、40グリッドからは鉈F38、不明鉄製品F40などがある。

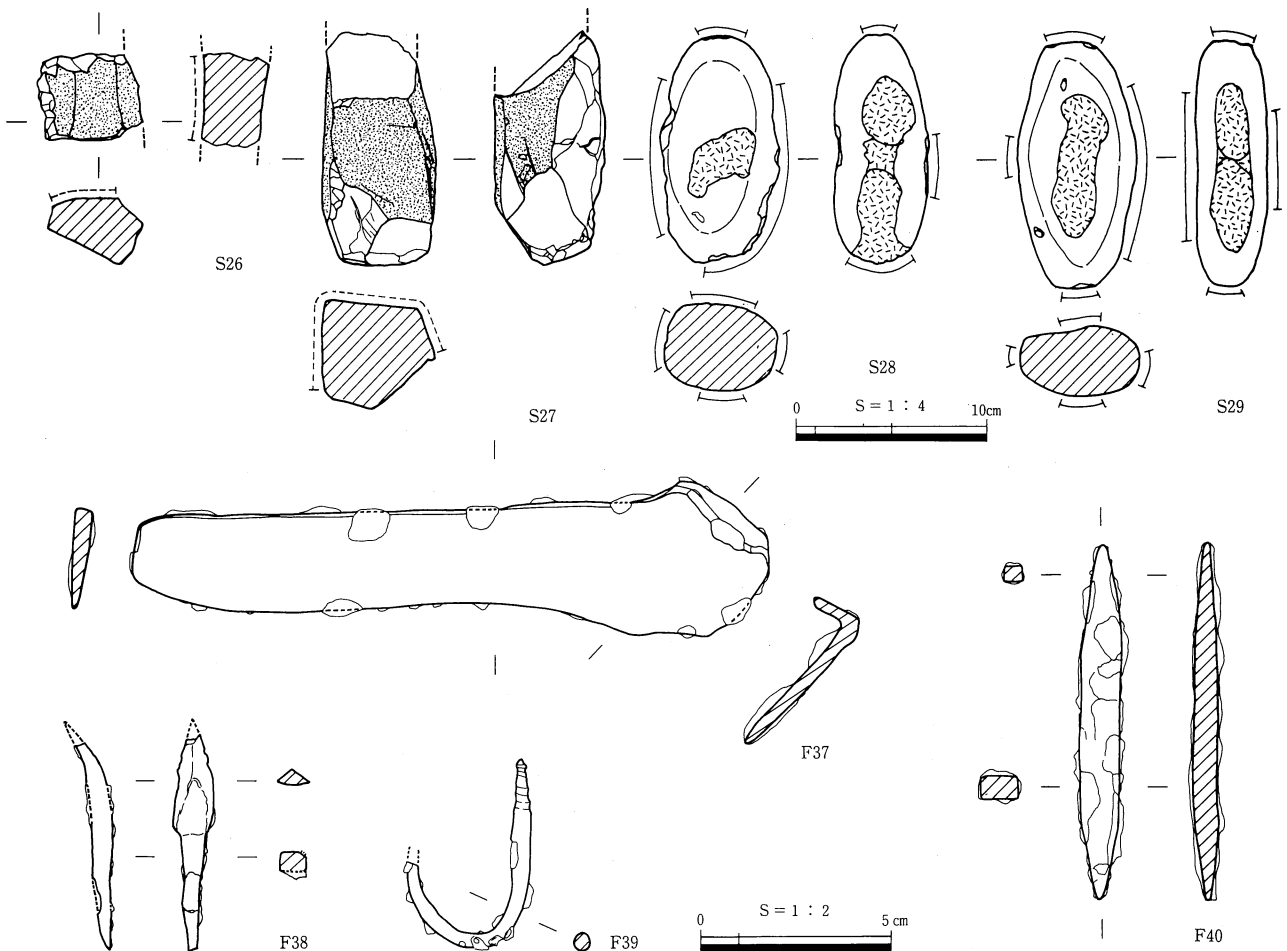
特に、30グリッドで多くの遺物が出土しており、整地遺構1などに関わるものと考えられる。

このうち、土師器杯・高台杯・皿は伯耆国庁第2様式(SD37形式)、須恵器類は、陶邑TK53~TK7併行期、おおむね8世紀後半から9世紀にかけてのものと考えられる。

製塩土器(焼塩土器)も出土しており、Po944は逆円錐形を呈す鹿蔵山式、Po945は円筒状の六連鳥式の可能性がある。

墨書土器のうちPo940は「加舂」、Po941は不明、絵の可能性があるPo942がある。

古墳時代遺物も含まれており、高杯Po947、小型丸底壺Po953~955、椀Po957、手捏ね土器Po958、ミニチュア土器Po959、埴輪Po960などを図化した。これらは、古墳時代の遺構に伴うものである。(牧本)



挿図140 長瀬高浜遺跡古代包含層出土遺物実測図(2)

第7章 長瀬高浜遺跡中世の調査

第1節 中世検出面の概要

今回の調査では、中世の遺構検出面は2面確認された。シロスナ除去後の調査区内は、20グリッドの尾根状の高まりを境に、西側ではクロスナが検出された。このクロスナ上面を中世第1遺構面＝畠検出面、耕作土除去後の黒褐色砂層を中世第2遺構面とした。一方東側ではクロスナは検出されず、調査区東際に粘質土が確認された。この粘質土層は東端で最も厚く、5 cm程度あり、西に向かって標高が上がるにつれ徐々に薄くなる。

第1遺構面では、畠跡約722㎡（9号畠～15号畠）、溝状遺構5基（SD8～12）、土坑4基（2OSK1～4）が検出された。本年度調査区西側に隣接する地区でも、およそ2,400㎡の畠跡が確認されている。時期は古代とされたが、今回の調査で下方修正されるべきものと思われる。

畠跡は、標高約4.0～5.0mの緩やかに南西～南方向に傾斜する緩斜面および平坦面に立地する。9号畠から14号畠まで6枚の畠があり、9号畠・11号畠はそれぞれSD8・SD10により明確に区画されている。11号畠をさらに掘り下げていく段階で、15号畠が検出された。各畠の埋没状況やプラント・オパール分析の結果などから、畠の作り替え、休耕地などの存在が推定される。一方、偶蹄目の足跡も大量に検出されたことから、牛馬の存在も窺える。10号畠の脇には、径2 m、高さ0.1 m程度の高まりが検出された。平成7年度には、同様の地形が根の痕跡であったとされており、木が植えられていたものと考えられる。

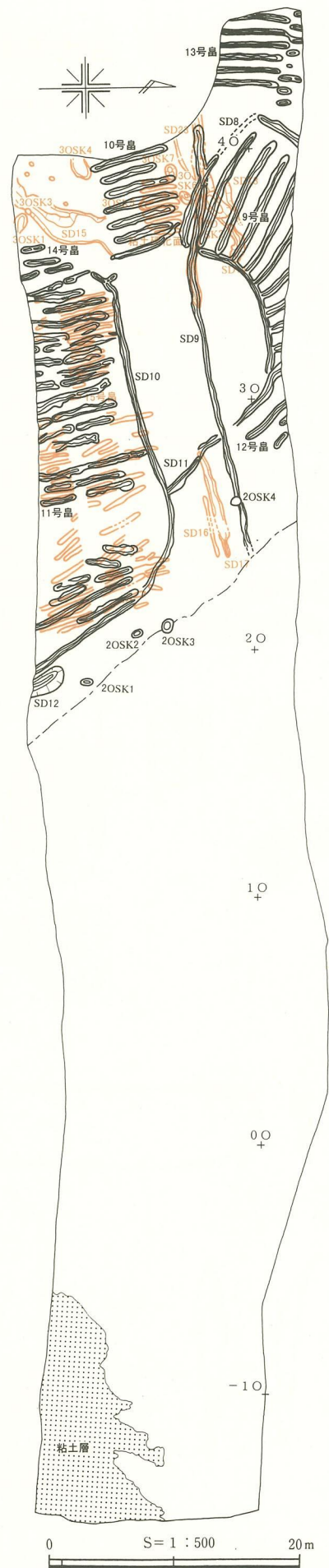
溝状遺構5基のうち、SD8・10は畠を区画するものである。SD11もなんらかの区画溝と考えられる。

クロスナ上面で検出された土坑4基は、形態および埋砂から、土葬墓と思われる。畠の区画溝外で検出されているが、埋砂がシロスナ主体であることから、畠跡より若干下るものとする。

第2遺構面では、溝状遺構7基（SD13～17・21・23）、土坑7基（3OSK1～7）、粘土硬化面が検出された。包含層および遺構内からは古墳時代前期土師器から白磁・土師質土器まで広い時期幅の遺物が出土しているが、耕作など後世の攪乱により混入したものと思われる。時期決定のできる遺構は、3OSK6・7、SD15のみである。3OSK1・6・7は中世墓、その他の土坑、溝状遺構の性格は不明である。

畠跡→粘土硬化面→3OSK5の順に検出され、3OSK5と同一検出面の3OSK6から太宰府編年白磁Ⅳ類椀（山本Ⅳ—1a類）が、3OSK7からは同Ⅷ類椀が出土している。また、包含層中からは土師器小皿も出土していることから、第2遺構面の時期は12世紀後半ごろ、第1遺構面はそれ以降と考える。

調査区東側の粘質土では、淡水性の珪藻が検出されていることから、河川など水の働きにより生成されたもので、旧天神川の氾濫原の可能性がある。



挿図141 長瀬高浜遺跡中世遺構配置図

調査区南東端の平坦面では、この層から多量の人、偶蹄目の足跡が検出された。また、この層の¹⁴C年代測定の結果は530±50B.P. (1420年)前後で、当遺跡が飛砂により埋没した時期、理由などを考えるうえで興味深い資料である。(岩崎)

第2節 畝 跡

9号畝 (挿図142~144、図版13・14)

調査区西側の3O、3Pグリッドにあり、標高4.2~4.7mの北から南にむかって傾斜する緩斜面に立地する。西側に13号畝、南側に10号畝がある。北東はSD11に切られる。面積は85㎡以上である。

SD8により区画され、平面形は緩やかな弓状を呈す。遺存状態はよい。10本の畝と9本の畝間が検出できた。畝の方向は、畝1がN-64°-W、畝9がN-3°-Wで、等高線にはほぼ平行する。畝幅は約108cm、畝間幅は約61cm、長さ最大11.7m、畝高約7.8cmである。他の畝跡と異なり、畝幅が大変広がっていることが特徴である。

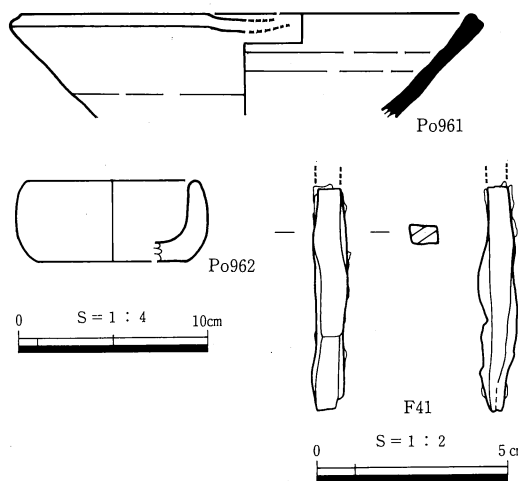
ほとんどの畝でクロスナ層にはさまれた薄いシロスナ層がみられたことから、耕作時に、飛砂の影響を受けたものとする。畝間にはシロスナが入る。

遺物は、須恵器片口鉢Po961、手捏ね土器Po962、鉄釘F41を図化した。いずれも畝跡を検出した段階で、旧地表面に表出していたものである。Po961は、いわゆる東播系須恵器で12~13世紀ごろのものと考えられるが、畝跡に伴うものではない。

遺存状態が最もよく、最も新しい畝跡と考えられる。また、プラント・オパール分析では、稲作が行われた可能性が指摘されたが、形態が異なり、他の区画の畝と異なる作物が栽培された可能性がある。(岩崎)

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	7.4	115	11.3	畝間1	10.1	69
畝2	10.4	123	6.6	畝間2	10.0	62
畝3	9.7	116	5.2	畝間3	9.4	63
畝4	8.8↑	107	9.2	畝間4	8.8↑	56
畝5	6.5↑	102	3.6	畝間5	5.7↑	55
畝6	4.1↑	97	8.0	畝間6	3.1↑	55
畝7	2.2↑	98	6.3	畝間7	1.6↑	58
畝8	1.3↑	92	5.2	畝間8	1.1↑	67
畝9	0.9↑	111	11.0	畝間9	0.7↑	60
畝10	0.7↑	115	11.7			
平均	5.2↑	107.6	7.8	平均	5.6↑	60

挿表9 長瀬高浜遺跡9号畝規模一覧表 (注↑は数値以上)



挿図142 長瀬高浜遺跡9号畝出土遺物実測図

10号畝 (挿図143・144、図版13・14)

調査区の最も南西の3Oグリッドにあり、標高4.2~4.3mのわずかに北側へ傾斜する部分に立地する。北側約2mには9号畝、南側約4mには14号畝がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畝の存在が判明した。畝は6本確認できたが高まりほとんどがなく、長さ約4.71m、幅64.7cm、畝高約6.2cmを測る。畝間は7本を確認し、長さ約5.25m、幅約61.3cmを測る。畝方向は、N-15°-Wでほぼ南北を向き、等高線に対して直交方向に延びる。面積は、46㎡以上である。

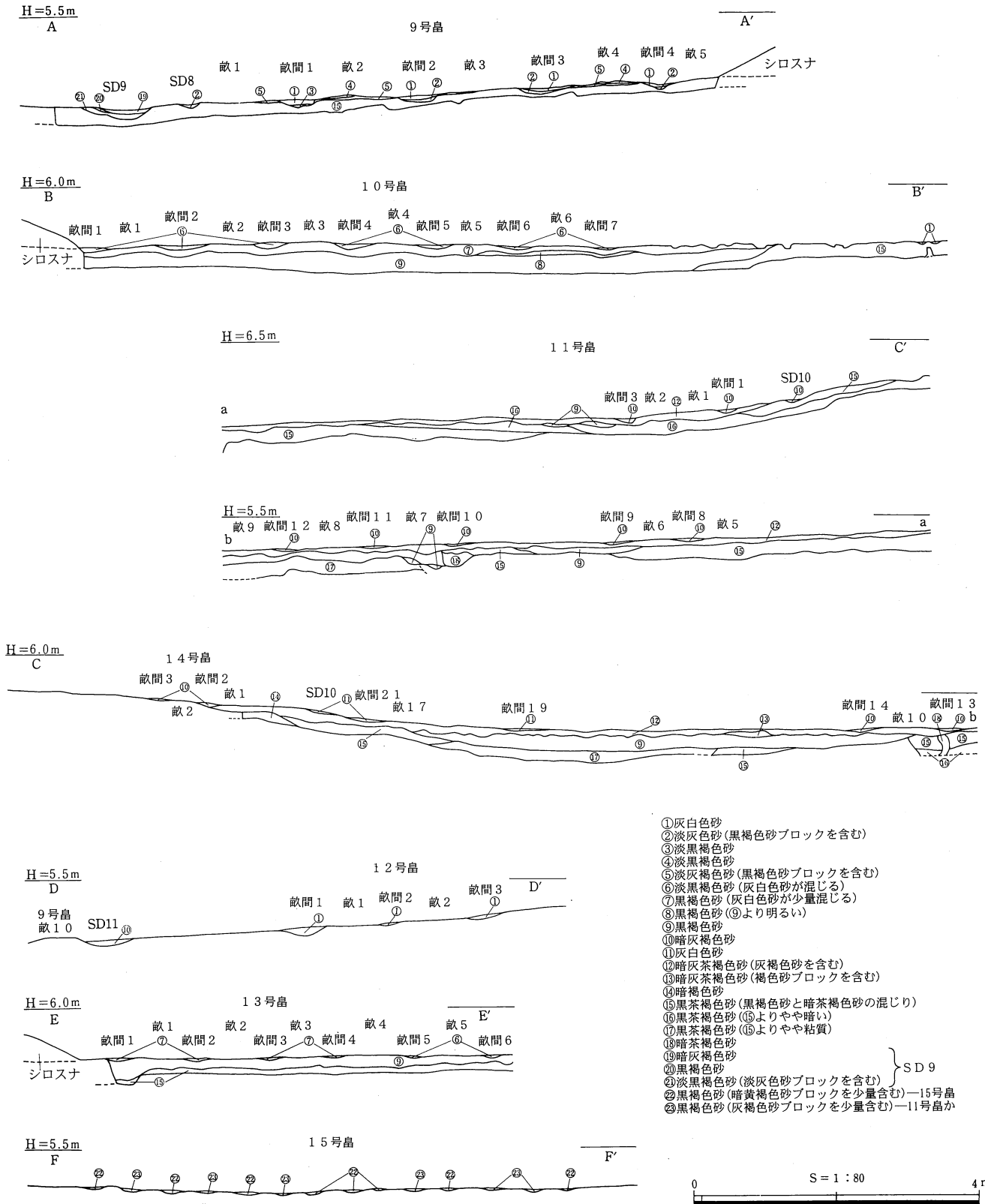
畝間の埋砂は、淡黒褐色砂が単層で入る。

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	4.5	60	9	畝間1	6.3	58
畝2	4.5	70	5	畝間2	4.52	67
畝3	5.6	68	6	畝間3	5.54	66
畝4	5.5	55	8	畝間4	5.94	70
畝5	4.8	60	5	畝間5	5.63	61
畝6	3.4	75	4	畝間6	4.81	55
				畝間7	4.0	52
平均	4.71	64.7	6.2	平均	5.25	61.3

挿表10 長瀬高浜遺跡10号畝規模一覧表 (注↑は数値以上)



挿図143 長瀬高浜遺跡畝跡遺構図



挿図144 長瀬高浜遺跡畝跡土層断面図

出土遺物には、古墳時代の土師器片等があるが伴うものではなく、正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する9号畝より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバが繁茂していたものと考えられる。(牧本)

11号畝 (挿図143・144、図版13・14)

調査区西側の2O、3Oグリッド南側にある。畝1～4は標高4.4～4.8mの北東から南西にむかって傾斜する緩斜面に立地する。

畝5～17は標高4.3～4.2mのほぼ平坦面に位置する。浅い皿状にくぼみ、畝15付近が標高4.0m程度と最も低くなる。西側に14号畝がある。面積は225㎡以上ある。

SD10により区画され、平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。偶蹄目(ウシ)の足跡により攪乱をうけており、遺存状態は非常に悪い。17本の畝と21本の畝間が検出できた。畝の方向は概ねN-15°-Wで、等高線に斜行する。ただし、畝4および畝11～17の南半分は14号畝とほぼ同じ軸方向になり、畝の作り替えがあった可能性がある。畝幅は約59cm、畝間幅は約52cm、長さ最大7.1m以上、畝高約4.8cmである。畝1～10は比較的遺存状態がよく、畝高も6cm程度あるが、畝11～17は4cm以下と残りが悪い。

畝間の埋砂にはシロソナが混じる。足跡にもシロソナが入っており、耕作土であるクロソナは、粘性の水分を含む腐植砂であったものと考えられる。

プラント・オパール分析では、イネ科の他、シバのプラント・オパールが多量に検出されており、稲作後休耕し、草原状態に戻っていたものと考えられ、偶蹄目(ウシ)が放たれていた可能性がある。(岩崎)

12号畝 (挿図143・144、図版13・14)

調査区西側、ほぼ中央北側の2O、2Pグリッド付近にあり、標高約5m前後の北東から南西に向かう緩やかに傾斜する約3°の斜面に立地し、面積は11㎡以上である。

畝の遺存状態は非常に悪い。全部で2本の畝、3本の畝間を検出しており、畝の向きはN-41°-Wで等高線に対し平行する。畝の幅は、約60cm、畝間は50cm、長さは4m以上、高さは最大で4cmである。なお、周囲に道や畦になるような部分は全く認められなかった。

外周はSD11によって区画されたと考えられ、SD11は、9号畝を区画するSD8を切るように位置する。

本来は区画された範囲内に畝が存在していたと考えられるが、この付近は調査区の中でも最も標高が高い場所にあたるところから、今回調査した遺跡範囲の中でも季節風等の強風による浸食の影響が一番受けやすかった場所であったと考えられ、そのため、今回検出できた畝・畝

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	5.5	75	10.3	畝間1	5.5	45
畝2	7.1↑	68	6.3	畝間2	8.5↑	51
畝3	6.2↑	37	3.1	畝間3	7.2	50
畝4	1.6↑	75	2.0	畝間4	2.8	50
畝5	6.4	67	6.4	畝間5	2.7	65
畝6	6.3	78	5.7	畝間6	2.6	65
畝7	4.7↑	60	9.0	畝間7	7.9	48
畝8	6.2↑	65	6.2	畝間8	6.3	50
畝9	6.1↑	68	7.0	畝間9	8.7↑	42
畝10	5.9↑	66	6.4	畝間10	3.6↑	57
畝11	5.5↑	35	3.1	畝間11	6.3↑	50
畝12	5.4↑	57	2.9	畝間12	6.3↑	58
畝13	5.4↑	43	4.0	畝間13	6.2↑	58
畝14	5.3↑	47	3.5	畝間14	5.7↑	55
畝15	4.7↑	53	2.8	畝間15	4.6↑	44
畝16	5.1	68	1.8	畝間16	5.4↑	67
畝17	3.5↑	50	1.1	畝間17	6.7↑	58
				畝間18	5.3↑	60
				畝間19	6.0↑	50
				畝間20	5.1	68
				畝間21	4.4↑	49
平均	5.3↑	59	4.8	平均	5.6↑	54.2

挿表11 長瀬高浜遺跡11号畝規模一覧表(注↑は数値以上)

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	9.0↑	62	4.0	畝間1	4.34↑	54
畝2	5.2↑	64	2.4	畝間2	0.88↑	56
				畝間3	1.46↑	38
平均	7.1↑	63	3.2	平均	2.22↑	49.3

挿表12 長瀬高浜遺跡12号畝規模一覧表(注↑は数値以上)

間の数がわずかであった。

畝は淡黒褐色砂（シロソナ少量を含む）層で、褐色砂の生痕が確認できた。また、畝間は淡灰色砂（黒褐色砂ブロック少量含む）層が単層で入る。

出土遺物は、土師器片、白磁片、鉄滓が出土しているが伴うものではない。

時期ははっきりとしないが、周辺遺構との関連等から判断して、SD8を伴う9号畝よりも新しい時期のものと考えられる。

なお、プラント・オパール分析の結果、稲作が行なわれていた可能性が指摘された。（井上）

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	5.0↑	92	4	畝間1	4.5↑	32
畝2	5.0↑	73	4	畝間2	5.1↑	30
畝3	4.9↑	69	3	畝間3	5.4↑	39
畝4	4.8↑	70	4	畝間4	4.8↑	44
畝5	4.8↑	75	4	畝間5	4.9↑	38
				畝間6	5.0↑	35
平均	4.9↑	75.8	3.8	平均	4.71	43.6
畝6	0.8↑	76	3	畝間7	0.5↑	30
畝7	1.0↑	68	3	畝間8	1.0↑	36
畝8	1.0↑	60	3	畝間9	1.0↑	36
畝9	1.2↑	55	6	畝間10	0.94	50
畝10	1.5↑	52	5	畝間11	0.7	41
畝11	1.9↑	63	6	畝間12	1.67	39
畝12	2.0↑	52	4	畝間13	1.0	48
				畝間14	1.0	34
平均	1.34↑	60.9	4.3	平均	1.11	44.9

挿表13 長瀬高浜遺跡13号畝規模一覧表（注↑は数値以上）

13号畝（挿図143・144、図版13・14）

調査区北西際の40・4Pグリッドにあり、標高4.2～4.4mのわずかに南側へ傾斜する部分に立地する。東側約2mには9号畝がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畝の存在が判明した。畝・畝間は北側調査区際のもの、南側のもの互いに違いに検出されたが、高まりはほとんどない。南側の畝は1～5の5本で、長さ約4.9m以上、幅約75.8cm、高さ約3.8cmを測る。北側の畝は6～12の7本確認でき、長さ約1.34m、幅60.9cm、畝高約4.3cmを測る。

南側の畝間は1～6の6本確認し、長さ約4.71m以上、幅約43cmを測る。北側の畝間は7～14の8本確認でき、長さ約1.11m以上、幅約44cmを測る。畝方向は、N—5°—Eではほぼ南北を向き、等高線に対して直交方向に延びる。面積は38㎡以上である。

畝間の埋砂は、淡黒褐色砂、黒褐色砂のいずれかが単層で入る。

出土遺物には、土師器小皿片、鉄釘片などがあるが図化できなかった。正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する9号畝より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバが繁茂していたものと考えられる。（牧本）

14号畝（挿図143・144、図版13）

調査区の最も南西の30グリッドにあり、標高4.0～4.3mのわずかに東側へ傾斜する部分に立地する。北側約4mには9号畝がある。

遺存状態は悪く、畝間を確認することで畝の存在が判明した。畝は2本確認できたが高まりはなく、長さ約2.6m以上、幅約65.0cm、畝高約3.0cmを測る。畝間は3本を確認し、長さ約2.91m以上、幅約38cmを測る。畝間1は他のものとは平行にならない。畝方向は、おおむねN—5°—Wではほぼ南北を向き、等高線に対して平行方向に延びる。

畝間の埋砂は、淡黒褐色砂が単層で入る。

出土遺物には、古墳時代の土師器片等があるが伴うものではなく、正確な時期は不明であるが、畝の遺存状態が悪いことから、近接する9号畝より古い時期のものと考えられる。

畝間埋砂のプラント・オパール分析では、シバのプラント・オパールが大量に検出され、作物収穫後にはシバ

が繁茂していたものと考えられる。(牧本)

畝番号	長さm	幅cm	高さcm	畝間番号	長さm	幅cm
畝1	3.2↑	60	2	畝間1	4.1↑	30
畝2	2.0↑	70	4	畝間2	2.84	36
				畝間3	1.80	48
平均	2.6↑	65.0	3.0	平均	2.91↑	38

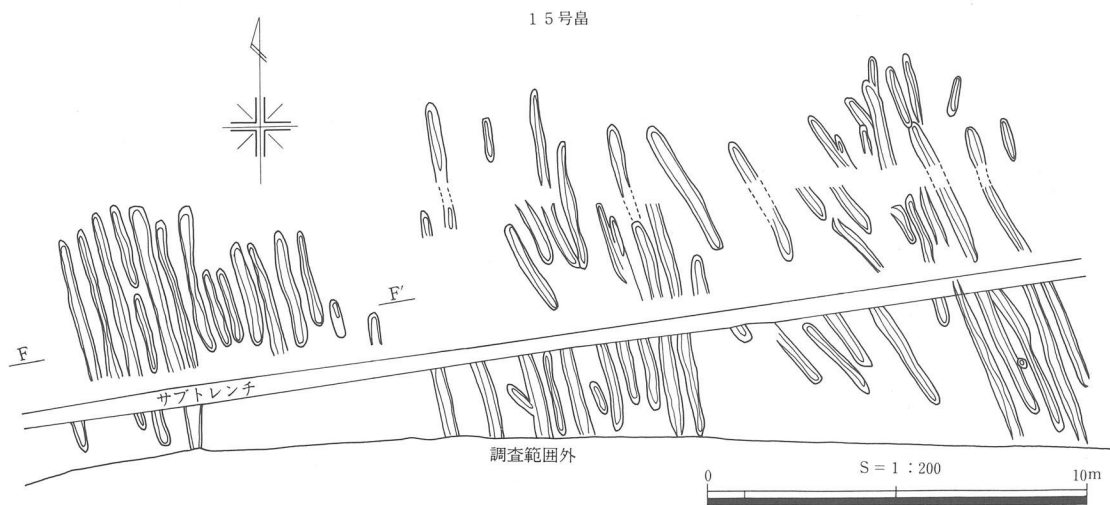
挿表14 長瀬高浜遺跡14号畝規模一覧表(注↑は数値以上)

15号畝(挿図145、図版14)

調査区西側の20、30グリッドの南側にあり、11号畝の耕作土掘り下げ中に検出された。

11号畝の畝間と重なるものも多いが、主軸方向が全く異なるものもあり、何度も畝の作りかえが行われていたと思われる。また11号畝の区画溝であるSD10の外にまで延びるものもあり、畝の区画も恒常的なものではなかったと思われる。遺存状態が非常に悪く、短く途切れている部分がある。畝間は非常に浅く、ほとんどのものが2cm程度である。

畝間の埋砂は、黒褐色砂と、シロスナに相当する暗黄褐色砂または灰褐色砂が混じっており、常に飛砂の影響を受けていたようである。(岩崎)



挿図145 長瀬高浜遺跡15号畝遺構図



文中写真④ 畝跡検出作業風景

第3節 溝状遺構

SD 8 (挿図143・144、図版14)

調査区西側の3O、4O、3P、4Pグリッドにあり、9号畠を区画する。南側ではSD9を切り、東はSD11に切られる。9号畠を全周せず、南西隅が途切れる。

西辺・南辺はほぼ直線状であるが、東辺は緩やかな弧を描く。西辺は、断面一部二段掘りになり、幅45~62cm、深さ9.1~14.5cmを測る。南辺は、断面浅い皿状で、幅69~40cm、深さ7.2~11.5cmを測る。東辺は、断面浅い皿状で、幅23~30cm、深さ4.7~1.7cmを測り、他辺と比べ浅く狭い。

埋砂はシロスナが入り、黒褐色砂ブロックが混じる。

(岩崎)

SD 9 (挿図143・144・146、図版15)

調査区西側の2Oから4Oグリッド中央やや北寄りにあり、調査区西側の標高4.1mからクロスナが途切れる境付近の標高5.3mにかけて、ほぼ直線状に延びる。

長さ33m以上、幅0.26~0.88m、深さ7~12cmを測り、断面U字状を呈す。9号畠に伴うと考えられるSD8および中世墓と考えられる2OSK4に切られ、12号畠に伴うと考えられるSD11にも切られている。

埋砂は、西側は3層に分層できたが、東側は①層が単層ではいる。

出土遺物は、埋砂層中から古墳時代前期の土師器が出土しているが、伴うものではなく、検出層序から中世後半頃のもので、9号畠以前の畠跡に関わる区画溝と考えられる。

(牧本)

SD 10 (挿図143・144、図版13・14)

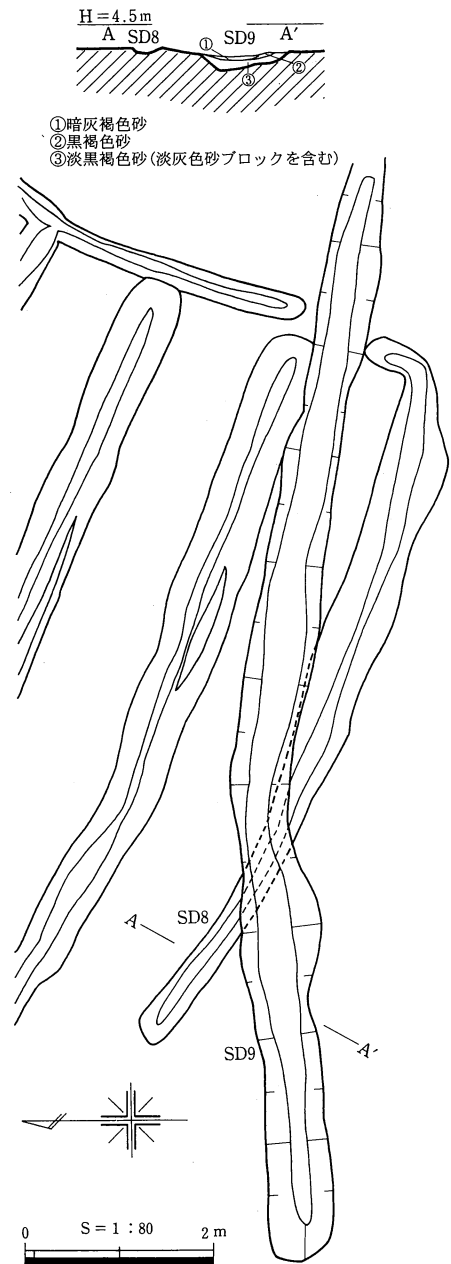
調査区西側の2O、3Oグリッドにあり、11号畠を区画する。東にはSD12が近接し、西には14号畠がある。北東コーナー付近にはSD11が接続する。

西辺は北半では溝状を呈するが、南側は畠を区画するための傾斜の変換点になる。規模は、幅15~40cm、深さ4.4~10cm程度で、断面は浅い皿状から逆台形を呈す。幅は狭いが、しっかり掘り込まれている。

埋砂は暗灰褐色砂が単層で入る。

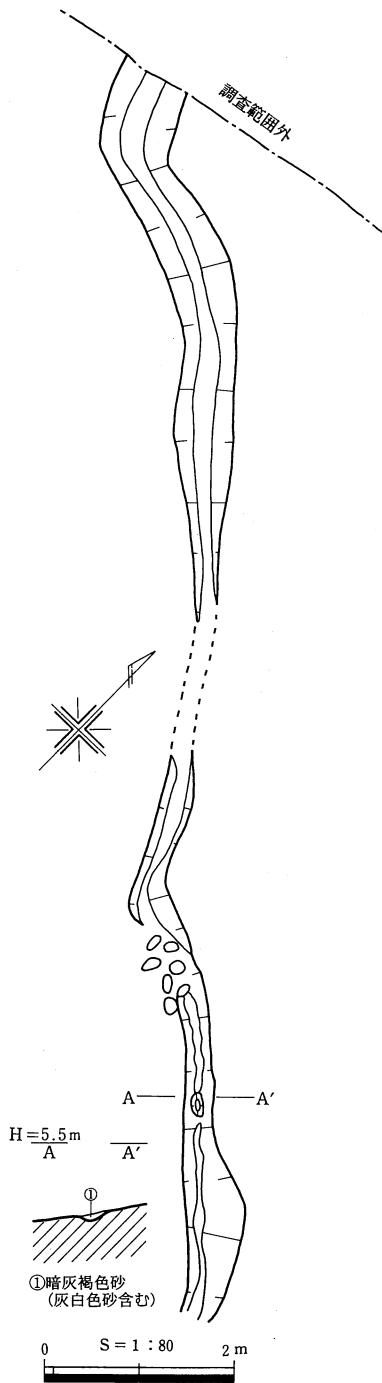
11号畠に伴うことから、中世後半期のものであるが、9号畠より古いものとする。

(岩崎)



挿図146 長瀬高浜遺跡SD9西側遺構図

SD11 (挿図143・147、図版14)



挿図147 長瀬高浜遺跡SD11遺構図

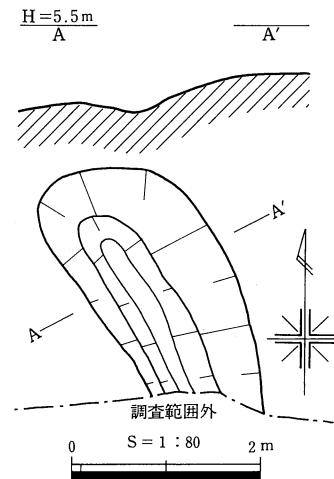
調査区西側の3Pから2Oグリッドにあり、標高4.7mの南西側に緩やかに傾斜する斜面に沿うように、一部途切れながら走る。北東側は調査区外に延び、南東側はSD10と接している。

長さ13.4m以上、幅0.25~0.6m、深さ3~11cmを測り、断面U字状を呈す。中央部は遺存状態が悪いが、SD9を切っていると考ええる。また、この部分は、偶蹄目(ウシ)の足跡が多数認められ、踏み荒らされたものと考えられる。

埋砂は、暗灰褐色砂が単層で入る。

出土遺物には、白磁片、古墳時代前期の土師器片、鉄滓があるが伴うものではない。

検出層序から中世後半ごろのもので、12号畠に伴うものと考えられ、最も新しい遺構の一つである。(牧本)



挿図148 長瀬高浜遺跡SD12遺構図

SD12 (挿図148、図版13・14)

調査区西側の2Oグリッドにあり、標高4.7~4.9mの南西に向かって傾斜する緩斜面に立地する。尾根状の高まり部分の頂部近くにある。東側には11号畠の区画溝であるSD10が近接する。南側は調査範囲外にあり、完掘できていない。

形態は丸みを帯びた直線状を呈し、主軸方向はN-28°-Wである。規模は、残存部分で長さ2.8m、幅1.5m、深さ0.35mを測る。断面は上部は緩やかで、下部は傾斜をつけた二段掘りである。

埋砂はシロスナが単層で入る。

時期決定のできる遺物は出土していないが、クロスナ上面で検出できたことから、中世後半ごろのものと考え
る。(岩崎)

SD13 (挿図149・150)

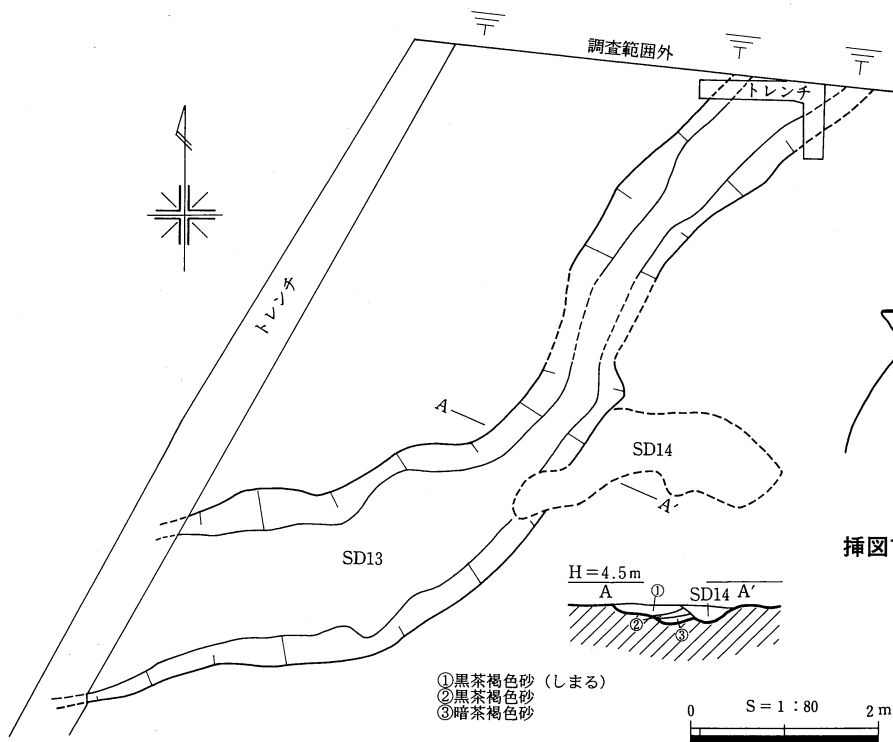
調査区西側の3O、3Pグリッドに立地する。黒茶褐色砂面で検出した。

北東から南西へ蛇行する。南西方向へはさらに延びるものと考えられるが、掘り下げのため確認できなかった。中程でSD14に、南西側において3OSK2に切られている。幅は、北東側では0.7~1.0m、最も広い南西側で最大1.9mを測る。溝の上端から溝底までは、10~15cmである。溝底の標高は、北東側端で約4.2m、南西方向へ向かい低くなり、南西側端では約4.0mである。

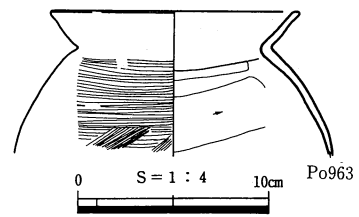
埋砂は黒褐色砂、黒茶褐色砂を主体とする。

埋砂中から土師器甕Po963が出土しているが伴うものではない。

埋砂中の土器は、古墳時代前期のもので、混入したものと考えられる。検出層序が、隣接する粘土硬化面と同一であること、埋砂が黒褐色系のみであることから、中世に下る可能性がある。(岡野)



挿図149 長瀬高浜遺跡SD13遺構図



挿図150 長瀬高浜遺跡SD13出土遺物実測図

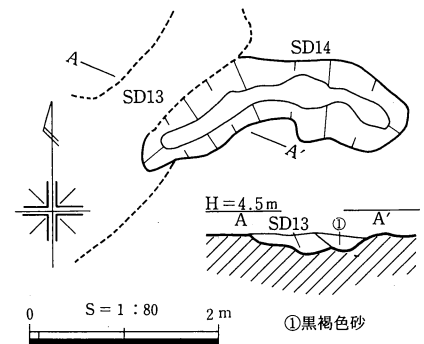
SD14 (挿図151)

調査区西側の3Oグリッドに立地し、SD13を切る。黒茶褐色砂面で検出した。

東西方向へ弧状にのびる。幅は最大0.8m、溝の上端から溝底までは、最も深い南西側で約15cmのほかは、7~10cmである。埋砂は黒茶褐色砂を主とする。

南西側の溝底から、火葬骨片が僅かに出土した。

SD13との切り合い関係から、中世前半期の可能性がある。(岡野)



挿図151 長瀬高浜遺跡SD14遺構図

SD15 (挿図152・154、図版15)

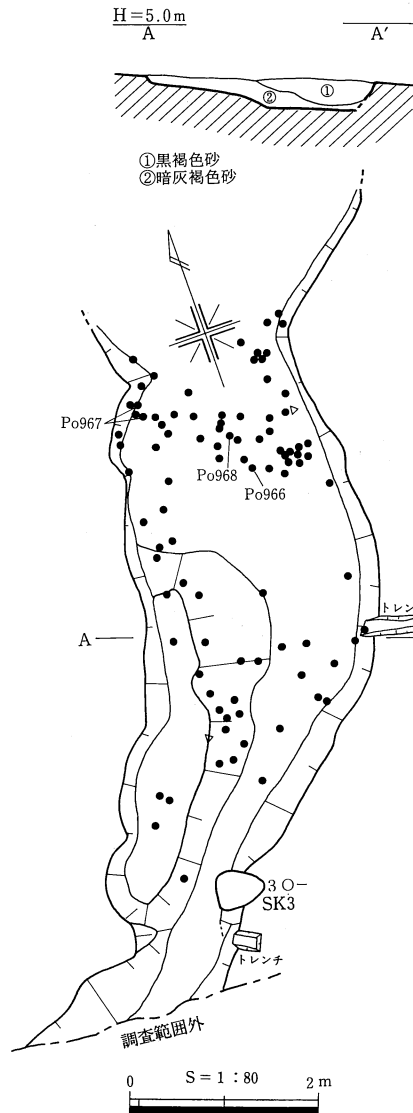
調査区西側の30グリッド南西調査区際にあり、標高4.0～4.4mの緩やかに北側に傾斜する斜面に立地する。南側で、3OSK3が掘り込まれている。

南側は調査区外に延び、北側は十分検出できなかったため、正確な規模は不明であるが、長さ9.4m以上、幅1.01～2.50m、深さ19～26cmを測る。一部二段掘りになっているが、おおむね断面U字状を呈す。

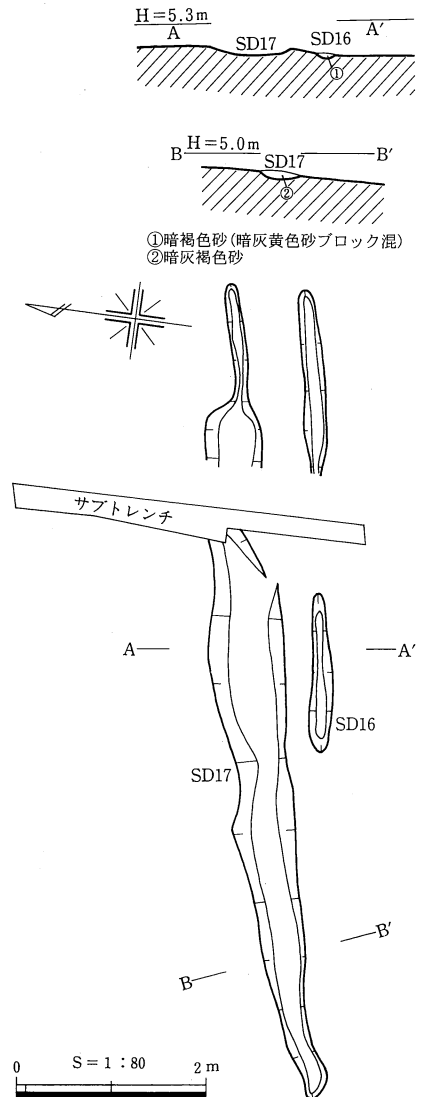
埋砂は、2層に分層できた。

出土遺物は、埋砂中から多量の古墳時代前期の土師器片が出土しているが、伴うものではない。上層から、底部糸切り底の小皿Po964が出土している。その他に、鉄滓も出土している。

出土遺物および検出層序から、中世前半ごろのものと考えられる。性格は不明である。(牧本)



挿図152 長瀬高浜遺跡SD15遺構図

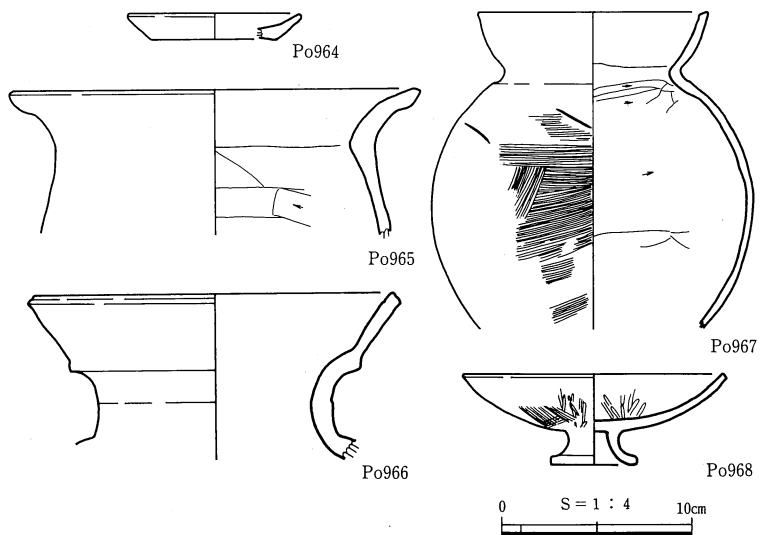


挿図153 長瀬高浜遺跡SD16・17遺構図

SD16・17 (挿図153、図版15)

調査区西側の20グリッドにあり、標高4.7～5.3mの南西に向かって傾斜する緩斜面に立地する。SD16とSD17は、30～50cm程度離れてほぼ平行してあり、それぞれの主軸方向はN-80°-E、N-72°-Eである。また、第1遺構面で検出されたSD9と平行しているが、その性格は不明である。

SD16は直線状で、一部途切れるが長さ4.8m、幅0.15～0.25m、深さ約1～7cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は暗褐色砂にシロスナを含む。



挿図154 長瀬高浜遺跡SD15出土遺物実測図

SD17は直線状を呈し、東側は急に狭くなる。規模は、長さ8.6m、幅0.3~0.8m、深さ約1~7cmを測る。断面は浅い皿状を呈す。埋砂は暗灰褐色砂単層である。

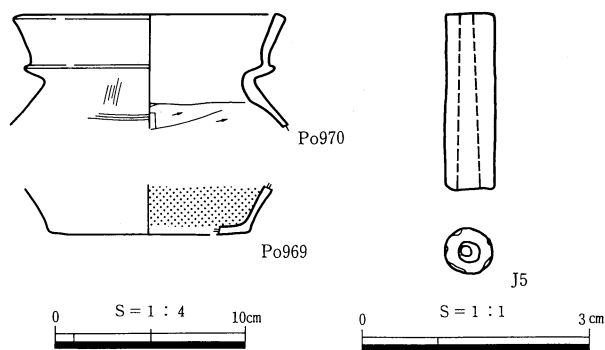
いずれも時期決定のできる遺物は出土していないが、層位的にみて中世前半のものと考ええる。(岩崎)

SD21 (挿図155・156、図版15)

調査区西側の30、40グリッドに立地する。黒茶褐色砂面で検出した。

東西方向の長さ15.3m以上、幅は0.6~0.9mである。上端から溝底までは、12~21cmである。溝底における標高は、東端では3.9m、西へ向けてやや低くなり、西端では3.8mである。埋砂は、黒褐色砂、黒茶褐色砂を主とする。

遺物は、埋砂中から古墳時代前期の土師器片が出土したが、隣接する粘土硬化面と同一層位内で検出したこと、埋砂が黒褐色系を主とすることから、SD13、14、3OSK2同様、中世に下る可能性がある。(岡野)



挿図155 長瀬高浜遺跡SD21出土遺物実測図

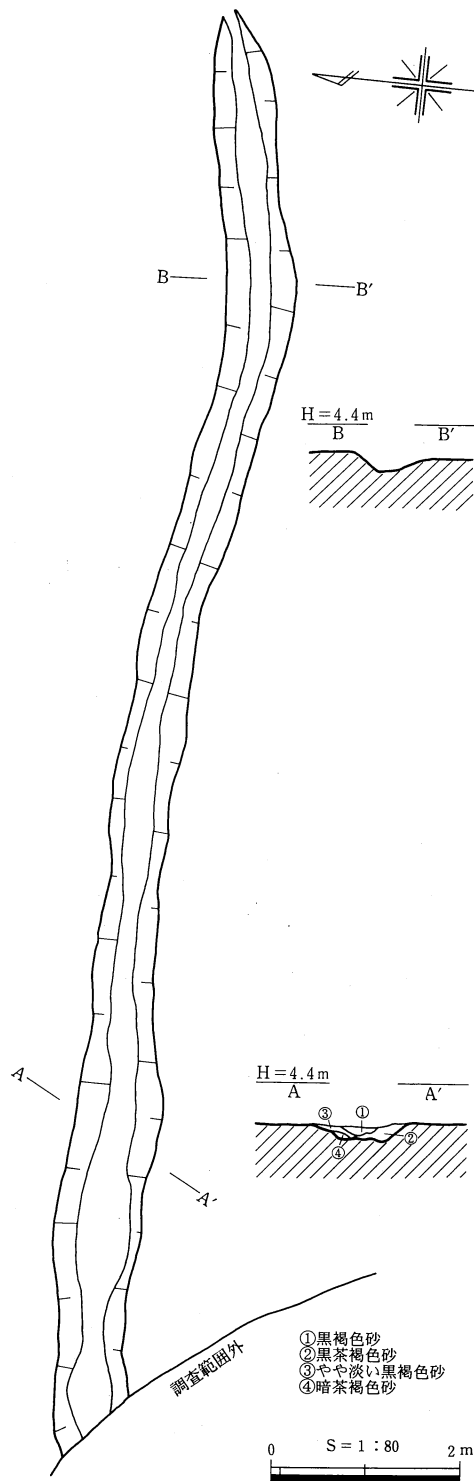
SD23 (挿図157・158、図版15)

調査区西側の30、40グリッドに立地する。南西から北東方向へのびる。SD13、SD21、3OSK3に切られる。

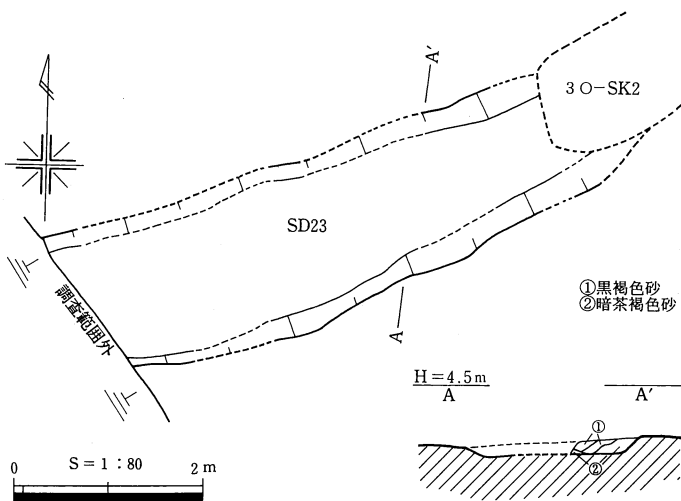
長さ5.1m以上、幅約1.4~1.6mである。上端から溝底までは4~12cmである。溝底での標高は、北東側で約4.3m、南西側で約4.35mである。埋砂は、黒褐色砂、暗茶褐色砂を主とする。

埋砂中から、土師器小片が出土した。

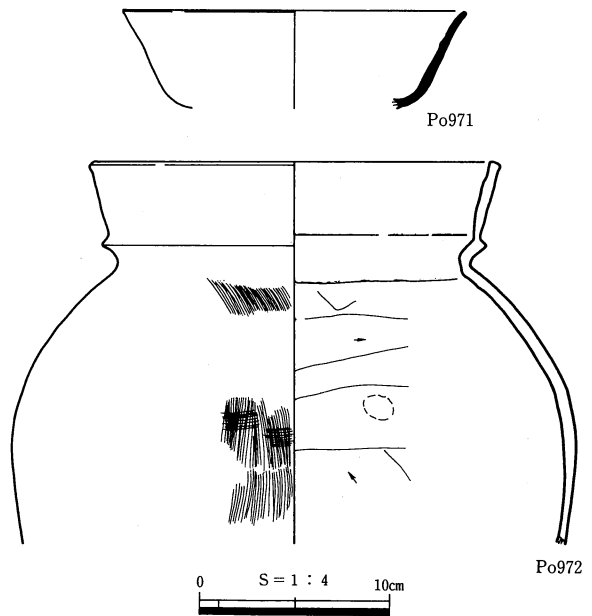
埋砂中からの出土遺物、切り合い関係から、中世ごろの所産と考え得る。(岡野)



挿図156 長瀬高浜遺跡SD21遺構図



挿図157 長瀬高浜遺跡SD23遺構図



挿図158 長瀬高浜遺跡SD23出土遺物実測図

第4節 中世墓・土坑

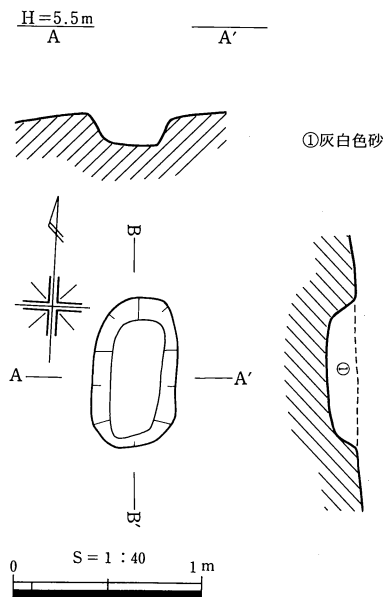
2 OSK 1 (挿図159、図版16)

調査区西側の10グリッド南西側にあり、標高5.0mのクロスナが途切れる境付近に立地する。北西側約5mには2 OSK 2がある。

平面長楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.44mを測る。深さ0.15mで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、灰白色砂が単層で入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物はなく、時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナであることから、中世墓の可能性はある。(牧本)



挿図159長瀬高浜遺跡 2 OSK 1 遺構図

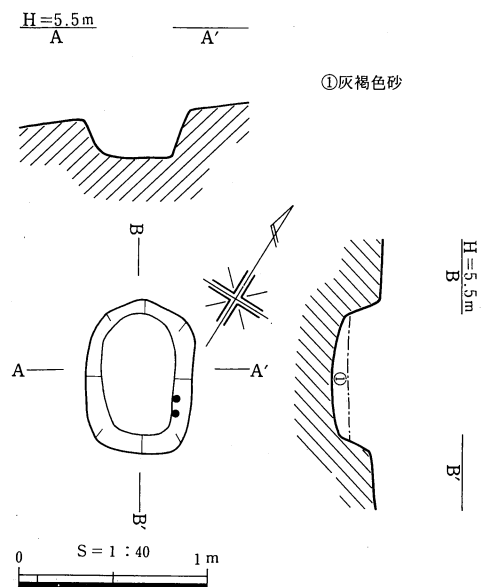
2 OSK 2 (挿図160、図版16)

調査区西側の20グリッド南東側にあり、標高5.0mのクロスナが途切れる境付近に立地する。北側約1.5mには2 OSK 3、南東側約5mには2 OSK 1がある。

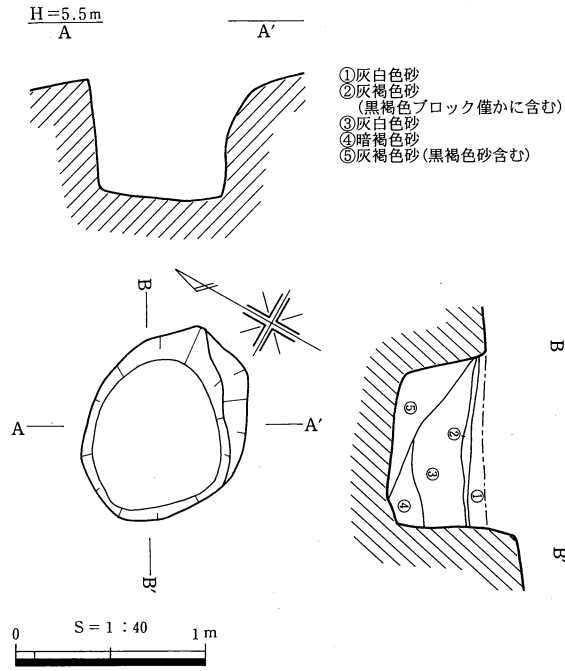
平面隅丸長方形を呈し、長軸0.82m、短軸0.56mを測る。深さ0.19cmで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、下層は灰褐色砂が入るが、上層は灰白色砂である。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

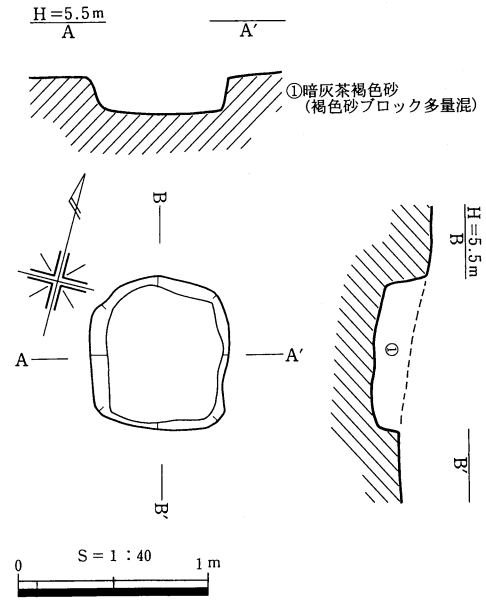
出土遺物はなく、時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナ主体であることから、中世墓の可能性はある。(牧本)



挿図160 長瀬高浜遺跡 2 OSK 2 遺構図



挿図161 長瀬高浜遺跡 2 OSK 3 遺構図



挿図162 長瀬高浜遺跡 2 OSK 4 遺構図

2 OSK 3 (挿図161、図版16)

調査区西側の20グリッドにあり、標高5.3mのクロスナが途切れる部分の最も高い位置に立地する。南側約1.5mには2 OSK 2がある。

平面不整形円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.86mを測る。深さ0.64cmで、断面逆台形状から一部袋状を呈す。

埋砂は、5層に分層できた。上層は灰白色砂主体であるが、下層は灰褐色砂が入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物には、古墳時代前期の土師器片が出土しているが伴うものではなく、正確な時期・性格は不明であるが、埋砂がシロスナ主体であることから、中世墓の可能性はある。(牧本)

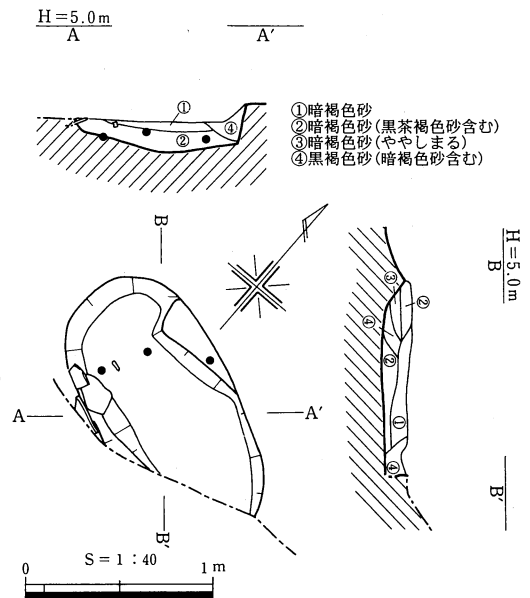
2 OSK 4 (挿図162、図版16)

調査区西側の20グリッドにあり、クロスナが途切れる部分から約6m西側の、標高4.7~4.8mのわずかに南西側に傾斜する斜面に立地する。南東側約10mには2 OSK 3がある。

平面不整形方形を呈し、長軸0.82m、短軸0.75mを測る。深さ最大0.22cmで、断面逆台形状を呈す。

埋砂は、下層は暗灰茶褐色砂が入るが、上層は灰白色砂が入る。検出面はクロスナ上面であったが、本来はシロスナから掘り込まれたものと考えられる。

出土遺物はなく、正確な時期・性格は不明であるが、中世墓の可能性はある。(牧本)



挿図163 長瀬高浜遺跡 3 OSK 1 遺構図

3 OSK 1 (挿図163、図版16)

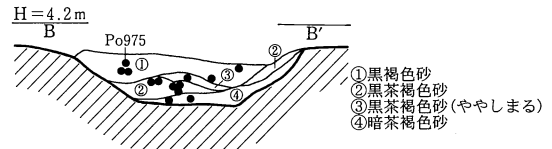
調査区西側の30グリッド南側調査区際にあり、標高4.5mのほぼ平坦面に立地する。西側約2mにはSD15、3 OSK 3がある。

南側は調査区外に延びており、正確な規模、形態は不明であるが、平面長楕円形を呈すものと考えられる。長さ1.15m以上、幅0.76mを測る。深さ最大0.18mを測り、断面不整台形を呈す。

埋砂は4層に分層でき、埋砂中から多数の安山岩板石が出土している。

出土遺物には、埋砂中から土師器片、須恵器片、人骨片の他、古墳時代前期の土師器片が多数出土している。

出土遺物および検出層序から中世墓と考えられ、本来石棺状の埋葬施設であったものと考えられる。(牧本)



3 OSK 2 (挿図164・165、図版16・70)

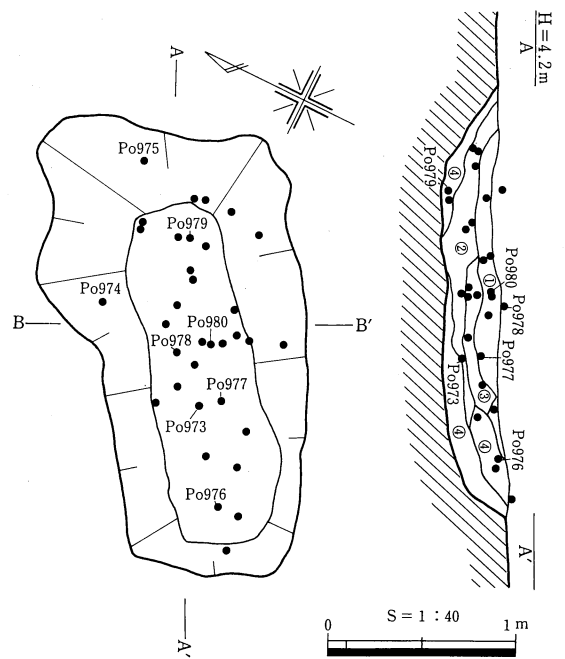
調査区西側の30グリッドに立地する土坑である。SD13の掘り下げ中に検出した。SD13を切り、掘り込まれている。

規模は、土坑上面において2.4m×1.1m、底面では1.8m×0.57mの不整な長方形を呈する。上端から土坑底面までの深さは、最大0.3mを測る。

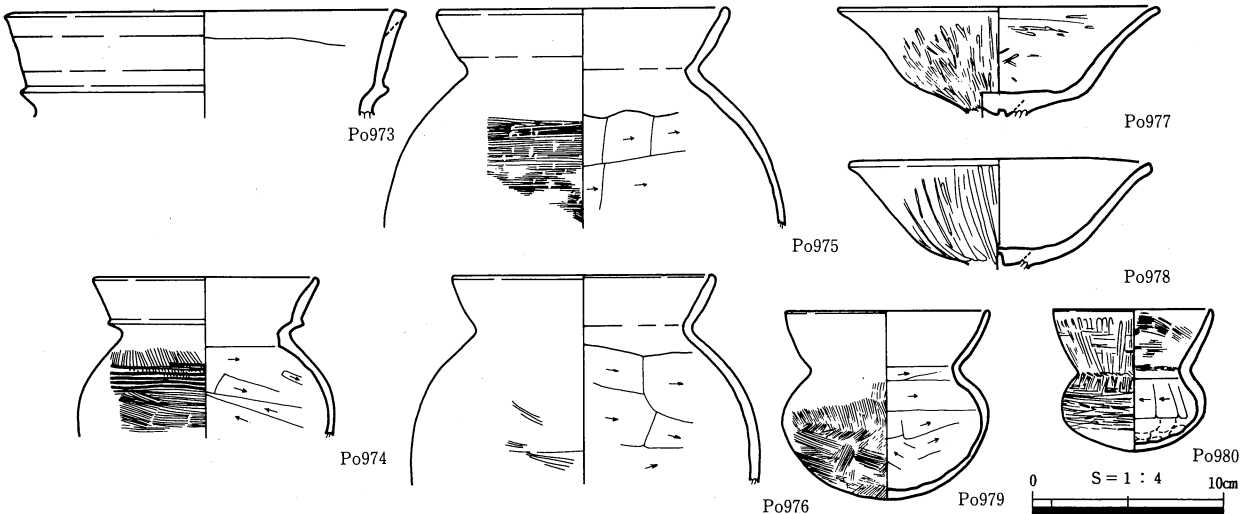
埋砂は黒褐色砂、黒茶褐色砂、暗茶褐色砂を主とする。堆積状況は、順層であり自然堆積の様相を呈する。

土坑内から土師器甕、高杯、小型丸底壺など8個体以上が出土した。底面から浮いた状態のものが大部分であり、一次堆積層内の土器は僅かである。ほとんどの個体は破損しており、土坑内での接合関係は認められない。

土坑内から出土した土器は、古墳時代前期の土師器に限定されるが、SD13が中世に下る可能性が高いことから、3 OSK 2も、中世以降に比定し得る。(岡野)



挿図164 長瀬高浜遺跡 3 OSK 2 遺構図



挿図165 長瀬高浜遺跡 3 OSK 2 出土遺物実測図

3 OSK 3 (挿図166、図版17)

調査区西側の30グリッドにあり、標高4.2mのほぼ平坦面に立地する。西側はSD15と接し、東側約2mには3 OSK 1がある。

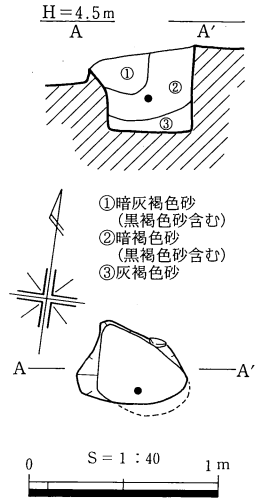
平面不整三角形を呈し、長軸0.54m、短軸0.47m、深さ0.26mを測り、断面一部袋状を呈す長方形である。

埋砂は3層に分層でき、いずれも暗褐色系の砂である。

出土遺物には、埋砂中から土師器片がわずかに出土している。

検出層序から中世墓の可能性が考えられる。

(牧本)



挿図166 長瀬高浜遺跡 3 OSK 3 遺構図

3 OSK 4 (挿図167、図版17)

調査区西側の30グリッド西側調査区際にあり、標高4.8~4.9mのわずかに北側に傾斜する斜面に立地する。東側約3mにはSD15がある。

西側は調査区外に延びており、正確な形態、規模は不明であるが、平面不整楕円形を呈すものと考えられる。

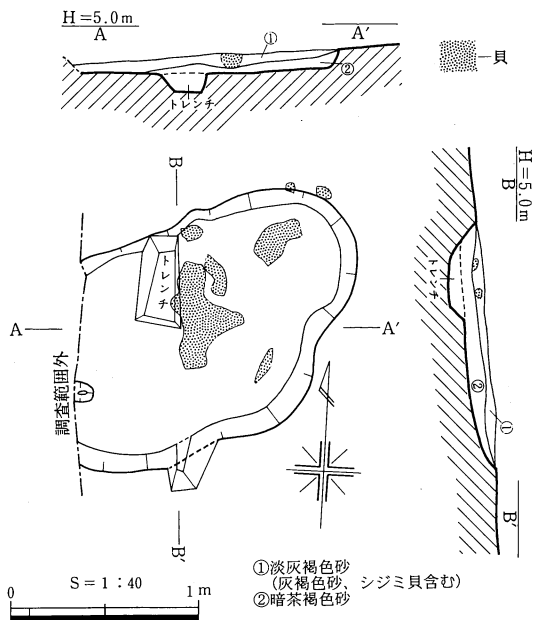
長軸1.5m以上、短軸1.15m、深さ6~12cmを測る。

埋砂は、2層に分層でき、①層中からシジミ貝総計2.25kgが出土している。

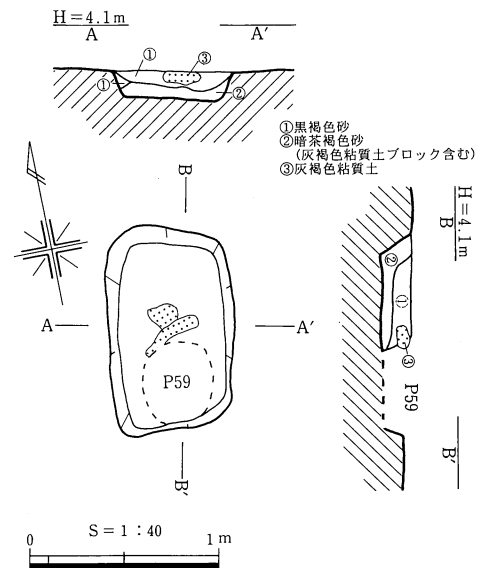
出土遺物には、古墳時代前期の土師器片が混入していたが、遺構に伴う遺物は検出されなかった。

検出層序から、中世前半期のものと考えられ、シジミ貝といった残滓が出土していることから、ゴミ捨て穴であったものと考えられる。

(牧本)



挿図167 長瀬高浜遺跡 3 OSK 4 遺構図



挿図168 長瀬高浜遺跡 3 OSK 5 遺構図

土のブロックが数個体含まれる。遺物は出土しなかった。

検出層序から、中世前半ごろの遺構と判断できるが、性格は不明である。

(岡野)

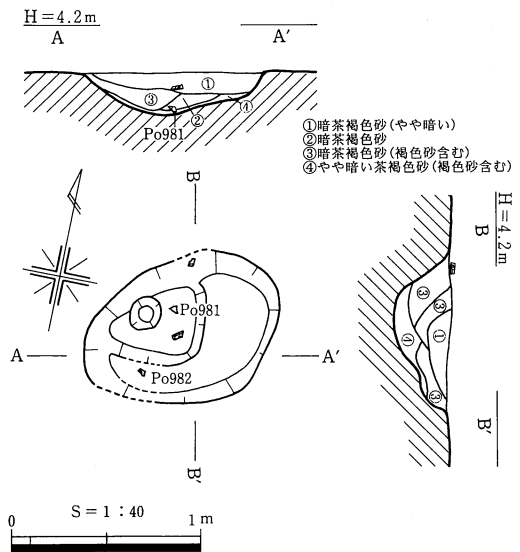
3 OSK 6 (挿図169・170、図版17・70)

調査区西側の30グリッドにあり、3 OSK 5の北約2.5mに立地する。

規模は、上面が1.1m×0.77m、底面が0.9m×0.55mの楕円形を呈し、深さは最大0.3mを測る。埋砂は暗茶褐色砂、茶褐色砂を主体とし、これに土壌底面付近の基盤である褐色砂がブロック状に含まれる。

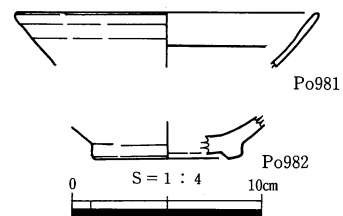
遺物は、埋砂中から白磁碗Po981、982、炭化物が出土した。白磁碗は、底面から10cm程度浮いた状態で出土した。このうちPo981は、遺構外出土の破片と接合したことから、本来はさらに深い土壌が攪乱された結果と推察される。

土壌内から白磁と炭化物が出土する状況から判断して、本遺構は中世墓と考え得る。遺物の時期は、Po981が白磁Ⅶ類、Po982が白磁Ⅳ類であることから、12世紀後半から13世紀ごろに比定される。



挿図169 長瀬高浜遺跡 3 OSK 6 遺構図

(岡野)



挿図170 長瀬高浜遺跡 3 OSK 6 出土遺物実測図

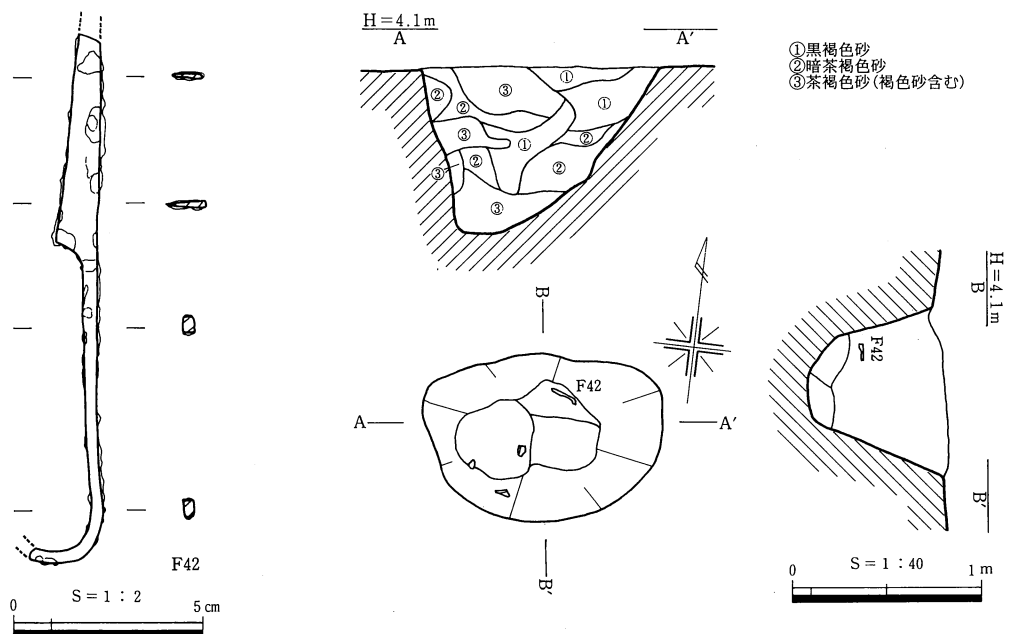
3 OSK 7 (挿図171・172、図版17・72)

調査区西側の30グリッドにあり、SK 5の北西約2.5m、SK 6の南西約1mに立地する。

規模は上面が1.28m×0.9m、底面が0.76m×0.45mの楕円形を呈し、深さは最大0.9mを測る。埋砂は黒茶褐色砂、暗茶褐色砂、茶褐色砂がブロック状に堆積する。

遺物は、鉄製鋏F42が出土している。底面から約15cm浮いた状態で出土した。鋏の刃部は、一方が欠如している。遺物、遺構の形状から中世墓と考えられる。

(岡野)



挿図171 長瀬高浜遺跡 3OSK7出土遺物実測図

挿図172 長瀬高浜遺跡 3 OSK 7 遺構図

第5節 ピット群

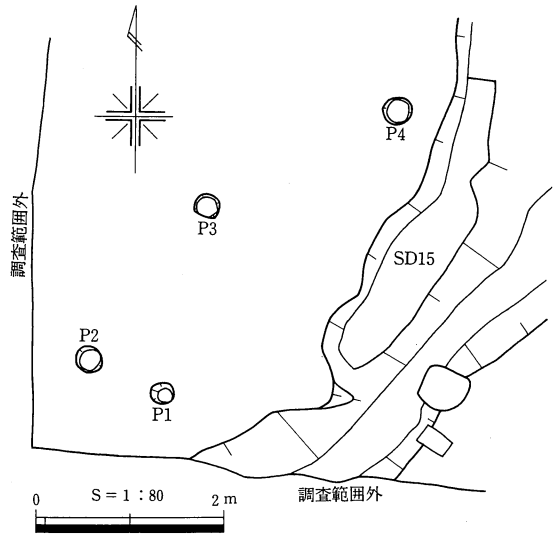
ピット群2 (挿図173、図版15)

調査区西側の30グリッド南西調査区際にあり、標高約4.4mのほぼ平坦面に立地する。東側には、SD15がある。

4個のピットを検出した。それぞれの規模は、P1 (24×23-15) cm、P2 (29×26-23) cm、P3 (26×25-18) cm、P4 (30×28-14) cmを測る。いずれも小型で浅いピットで、不規則に並んでいる。

埋砂は、淡黒褐色砂を基本とし、1~2層に分層できた。

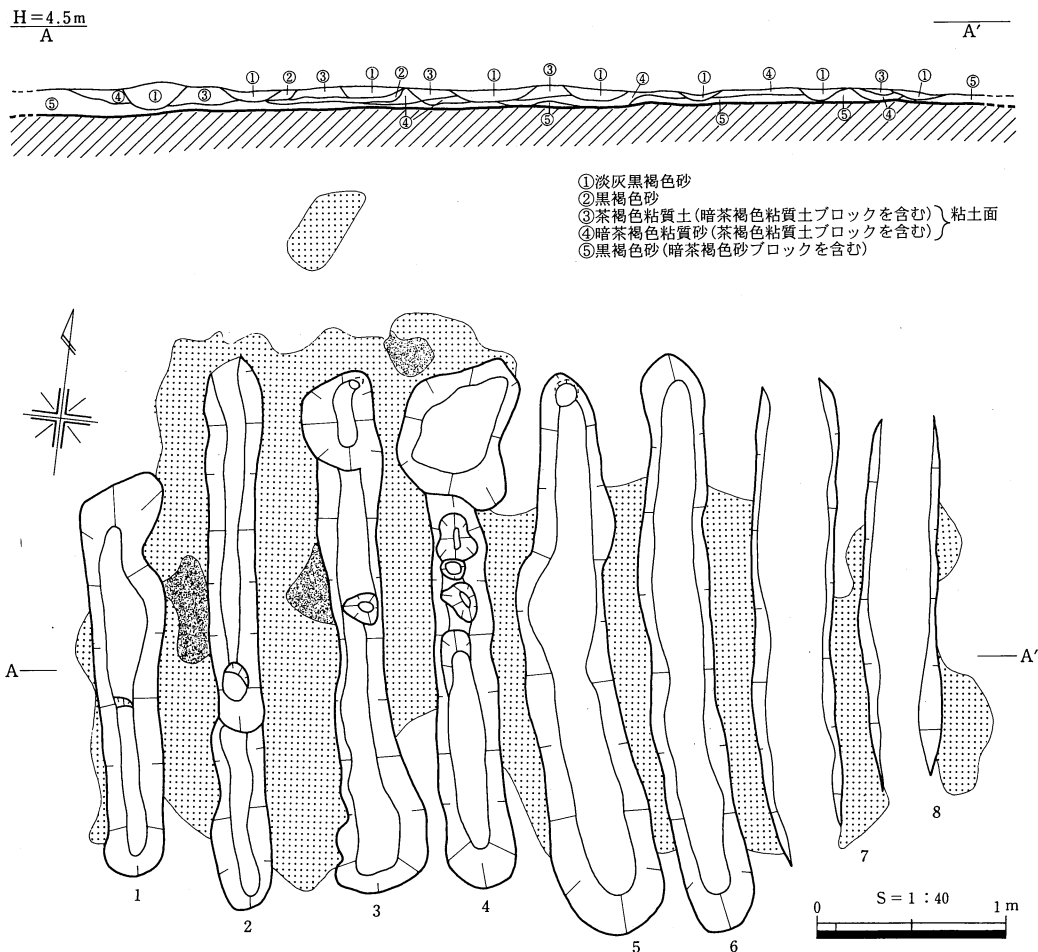
出土遺物はなく、正確な時期は不明であるが、検出層序から中世前期と考えられる。性格は不明である。(牧本)



挿図173 長瀬高浜遺跡ピット群2遺構図

第6節 粘土硬化面 (挿図174、図版18)

調査区西側際近く、30グリッドの西側中央で標高約4.1m前後のほぼ平坦面に立地している。北側約0.5mにSD21が、同じく南側約1.9mにSD15がある。この粘土硬化面の上面には、検出できた中世畠跡の一つである10号畠が位置し、この黒褐色砂を基本とした畠跡検出面を約10cm弱掘り下げた時点で、しっかりと締め固められたよ



挿図174 長瀬高浜遺跡粘土硬化面遺構図

うな粘土面が検出された。

粘土面は、長軸約4.5m、短軸約3.0mの範囲で、厚さ約10～18cm程度に貼られ、そこから幅約25～57cm程度、長さ約1.7～3.0m程度の南北方向にのびる8本の溝が掘り込まれていた。それぞれの溝の規模等は、挿表15を参照されたい。また、粘土面の西側で溝と溝の間の比較的残りがよい部分、3か所でそれぞれ範囲は小さいながらも焼土面が検出された。この焼土面は、いずれも埋砂の③・④層にあたる部分で、厚さは5cm程度のものであった。

埋砂4層からなる。奈良から平安時代ごろの遺構検出面であると思われる⑤層の上層に、10～18cm程度の厚さで敷き詰められた③・④層があり、この粘土面を掘り込んで、8本の溝が作られている。なお、掘り込まれた溝の埋砂は①・②層にあたり、畝耕作面の埋砂よりやや淡い淡灰黒褐色砂を基本とするものであった。

粘土硬化面の時期は、下層から中世の白磁片1点が出土した中世墓3 OSK 7が検出されており、少なくとも3 OSK 7が掘り込まれた時期よりも新しい時期（中世頃）のものであると考える。粘土硬化面の性格は、遺構に伴う遺物が出土していないため不明である。（井上）

溝番号	規 模cm	溝番号	規 模cm	溝番号	規 模cm	溝番号	規 模cm
1	210×40-12	3	277×48-6	5	299×57-7	7	255×44-7
2	292×33-5	4	280×55-8	6	307×36-5	8	195×40-5

挿表15 長瀬高浜遺跡粘土硬化面内溝一覧表

第7節 粘 土 層 (挿図175、図版18)

調査区東側の-10、-20グリッドにおいて粘土層を検出した。褐色もしくは灰褐色の粘土を主体に形成される。覆砂は灰白色砂である。

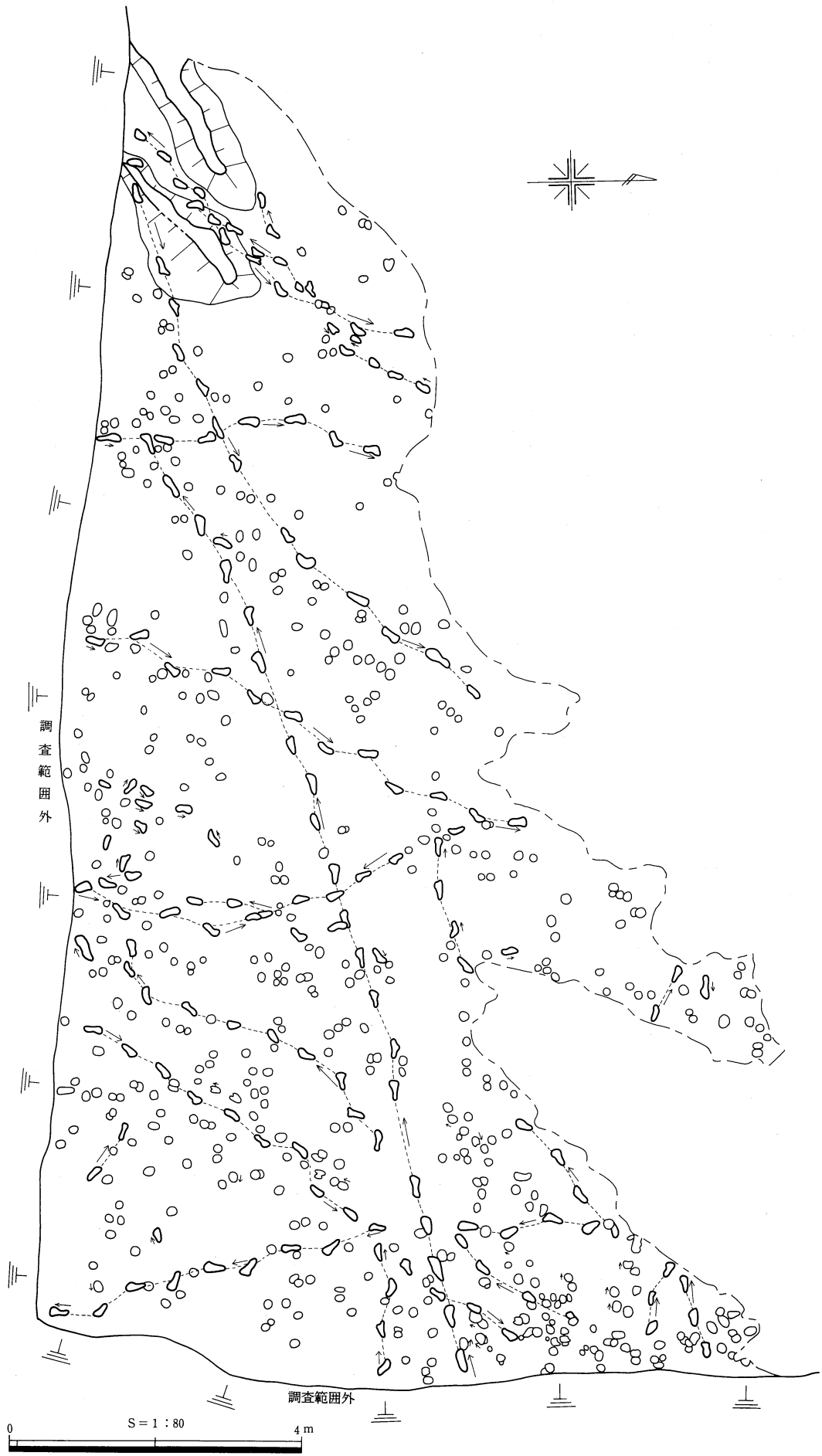
範囲は、東西約18m、南北は最大10.1mである。標高は、西端で約3.1m、東に向かい僅かに低くなり、東端では約2.9mである。厚さは、粘土面の南側の中央付近から東端にかけてが最も厚く6～7cmに達し、ここから各方向へむかい薄くなる。西端および中央部北端付近では2～5cmである。東、西方向は調査区外へ至り、さらに続くものと想定される。西端付近に粘土層が一部盛り上がる部分がみられた。北東-南西方向に細長い帯状の高まりが二本、ほぼ平行して走る。長さはそれぞれ2.6m、2.8m、幅は最大1.3mである。下端と上端との比高差は、3～8cm程度で、最大15cmである。後述のように、高まりの方向に沿うように人の足跡がみられることから、人為的に盛られたことも考え得る。

粘土層は、ほぼ水平に堆積していること、厚さに極端な差がないこと、土壤中から淡水性の珪藻が検出されていることなどから、河川後背湿地または氾濫原に形成された自然堆積層と推察される。

粘土層表面において、多数の人および牛と思われる偶蹄目の足跡を検出した。足跡は特に粘土層の厚い南、東側において遺存状態が良く、中には、足の指や蹄が鮮明に確認できたものも存在した。人の足跡は、主に東西および南北方向を指向するが、厳密ではない。足跡の埋砂は、灰褐色砂である。粘土層上面から、遺物は全く出土していない。

時期は、層位的所見が根拠となる。調査区南側の土層断面(挿図5・6)では、粘土層上面は、調査区西側の畝跡の上面と層位的にはほぼ一致する。また、畝上面からも、牛の足跡が多数検出されている。

土壌の年代測定の結果、AD1420年、15世紀初頭の値が得られ、中世の所産であると考えられ、畝跡の年代決定についても示唆的である。（岡野）



挿図175 長瀬高浜遺跡粘土層足跡実測図

第8節 中世包含層出土遺物 (挿図176~179、図版70・71・72)

包含層中からは、弥生時代後期から中世まで広い時期幅の遺物が出土している。畠の上面、2ライン付近の尾根状高まり上、調査区南西隅の高まり部分などの、旧地表面に表出しているものは、風化したものが多い。

また火葬骨片も散在しており、特にSD10・11以東の畠区画外に集中している。畠に隣接して小規模な墓地があったものと思われる。10世紀から13世紀にかけて、特に畿内では、住居の屋敷地内の墳墓の調査例が多くみられる。畿内を中心に農民層が個々に垣内(家)を構え、その周辺を開発していった時期であり、こうした垣内に住人の墓をつくっていたものと考えられている。現在でも屋敷地内や耕作地内に墓をつくることはあり、民俗例もいくつか報告されている。例えば、岡山県苫田郡の山村では、一番の先祖をその家の最もよい田畑に埋めたといわれている。死者を田畑に埋葬する例は各地にみられ、その埋葬場所は田畑の中央という場合が多いようである。また出雲地方などでは、屋敷墓といわれる墓がみられ、屋敷地内に墓をつくることが行われてきた。今回検出された畠跡と火葬骨片が、必ずしもこの耕作地内の墓や屋敷墓にあてはまるというわけではない。しかし、当時の人々の死に対する観念を知るうえで、非常に興味深い資料である。

調査区南西端の小高い高まり部分では、シジミ貝と思われる貝殻が数か所で検出された。生活残滓を捨てたものであろう。そのほか、クジラ骨、牛馬骨なども出土している。

次に、個々の出土遺物についてみていく。ほとんどの遺物が、畠の耕作土中およびそれ以下の黒褐色砂中から出土しているものである。

土師器小皿Po983~992はすべて回転ナデ調整で、底部は回転糸切り痕が顕著である。口径7.2~9.6cm、器高1.5~1.9cmで、口径と底部径の差は2~4cmある。いままでに調査された中世墓から出土しているものと比較すると、やや古い形態を残している一群があるようである。杯Po993~995も底部回転糸切りである。柱状高台皿Po996は底部回転糸切り。柱状高台杯Po997は風化が著しいが、内面底部ロクロ目が顕著で、底部には静止糸切り痕がみられる。いずれも12世紀後半から13世紀ごろのものとする。

白磁は、椀V類Po1000~1002、Ⅷ類Po999・1003、皿Ⅳ類Po1008、Ⅵ類Po1006・Ⅶ類と思われるPo1004・1005を図化した。釉は薄く灰色がかり、胎土はやや粗く黒い細粒を含み、全体に粗悪なものが多い。Po1006は、薄く黄色味の強い釉で、広東省潮州筆架山産のものと思われる。今回の調査では、陶磁器は白磁しか出土しておらず、青磁が入ってくる以前、12世紀ごろのものと思われる。

その他、中世に属する土器・土製品としては、土錘Po1018・1019を図化した。

古代に属する遺物のうち、土師器杯・皿のほとんどが伯耆国第2様式のものである。墨書土器は4点出土している。皿Po1009は外面底部中央に「長」一字を墨書したものである。皿Po1010も外面底部中央に縦書きで墨書したもので、上は「長」、下は「二」であると思われる。底部Po1011・1012はいずれも「長」であるが、Po1012は1010と同じ2文字が書かれていたものと思われる。杯Po1013は口縁部に墨書しており、左側は「井」、右側は判読できない。その他、甕Po1020を図化した。須恵器は概ね9世紀代のものと思われる。

古墳時代に属する遺物としては、甕Po1030~1033、小型の甕Po1036、底部Po1035、手捏ね土器Po1037、須恵器杯蓋Po1039、埴輪片Po1040を図化した。このうちPo1035は、外面に叩き調整がみられる。Po1034ともに外来系の土器と考えられる。

弥生時代の遺物は、高杯脚部Po1038を図化した。弥生時代後期前半ごろのものである。

鉄製品は、紡錘車F43・44、刀子F45、鉄釘F46~51、不明鉄製品F52~55を図化した。F43の糸を巻き付ける芯棒には、糸の痕跡が一部残っている。円盤部は、断面でみると中心部がわずかに盛りあがった、扁平な円錐形をしている。鉄釘は、断面方形のものから扁平なものまである。F52・53は、断面方形の軸部に、円形もしくは隅丸方形の留め具のようなものがつく。ろうそく立てのような形であるが、その種類・用途ともに不明である。

石製品は、砥石S30~33、敲石S34~36、有溝石錘S37を図化した。

その他、土製勾玉J6、管玉J7、ガラス小玉J8がある。

(岩崎)



- 白磁 ○
- 土器・土製品 ●
- 鉄製品 △
- 石製品 □
- 玉製品 ☆
- 骨片 ★

挿図176 長瀬高浜遺跡中世遺物出土状況図

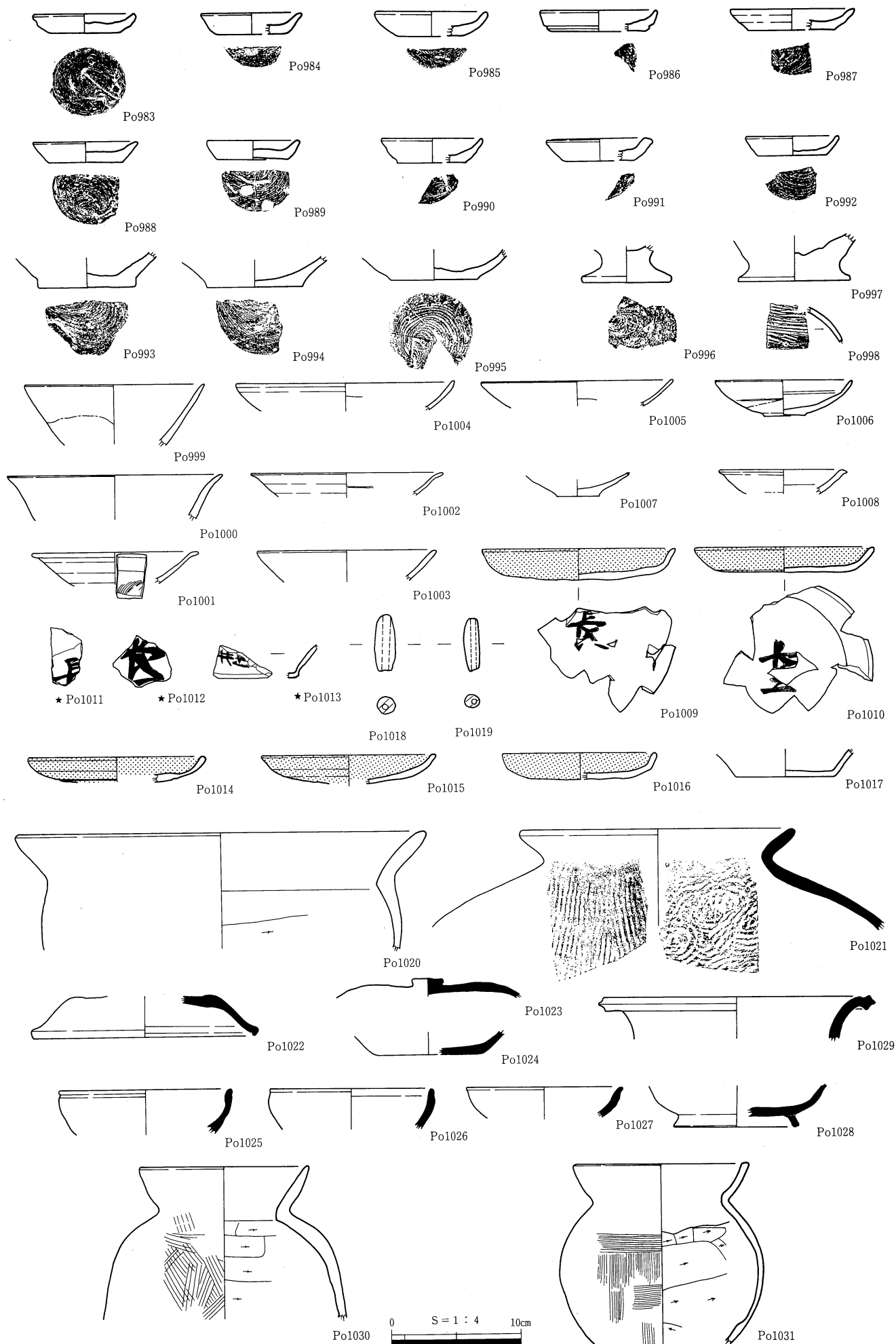


插图177 长瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(1)

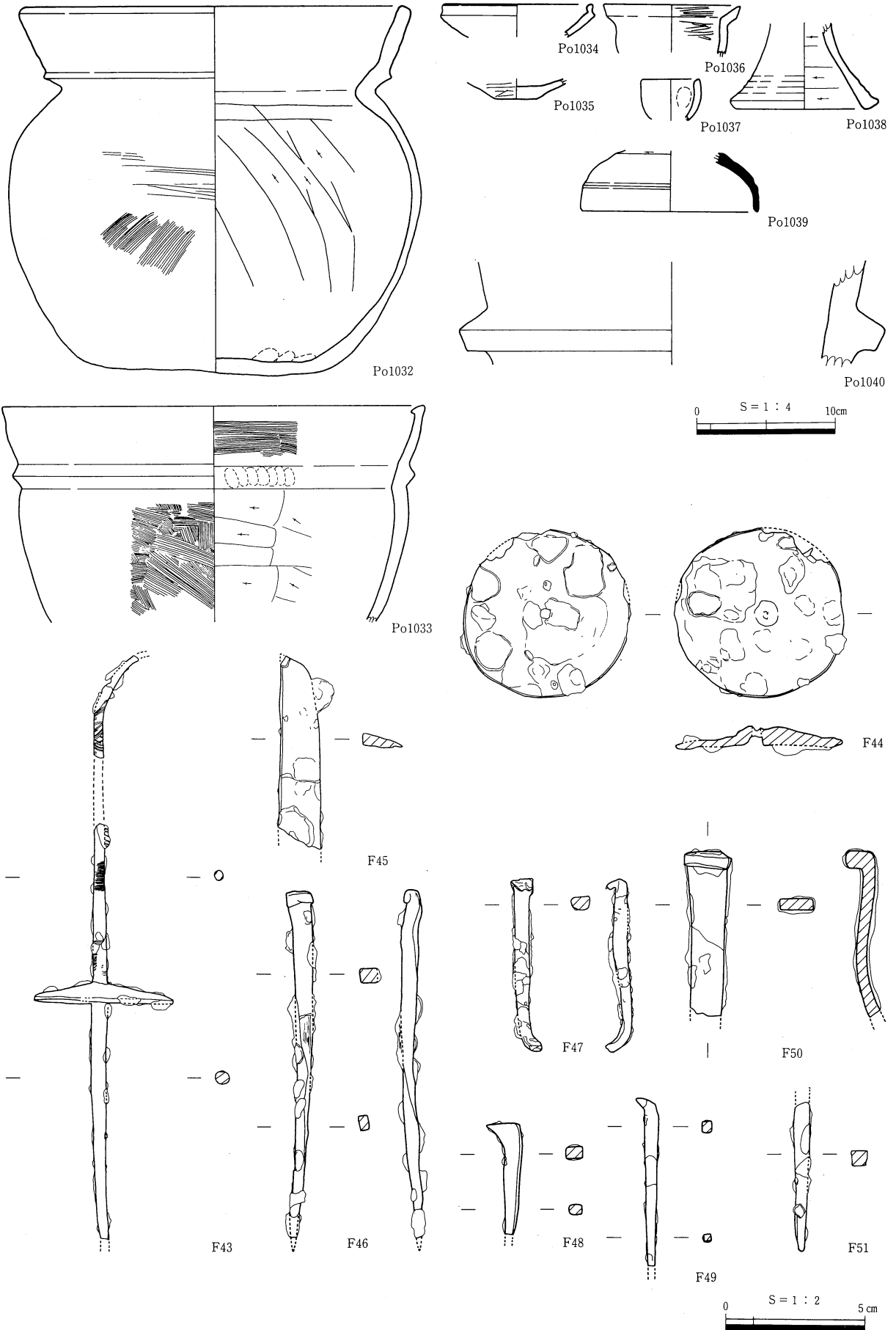
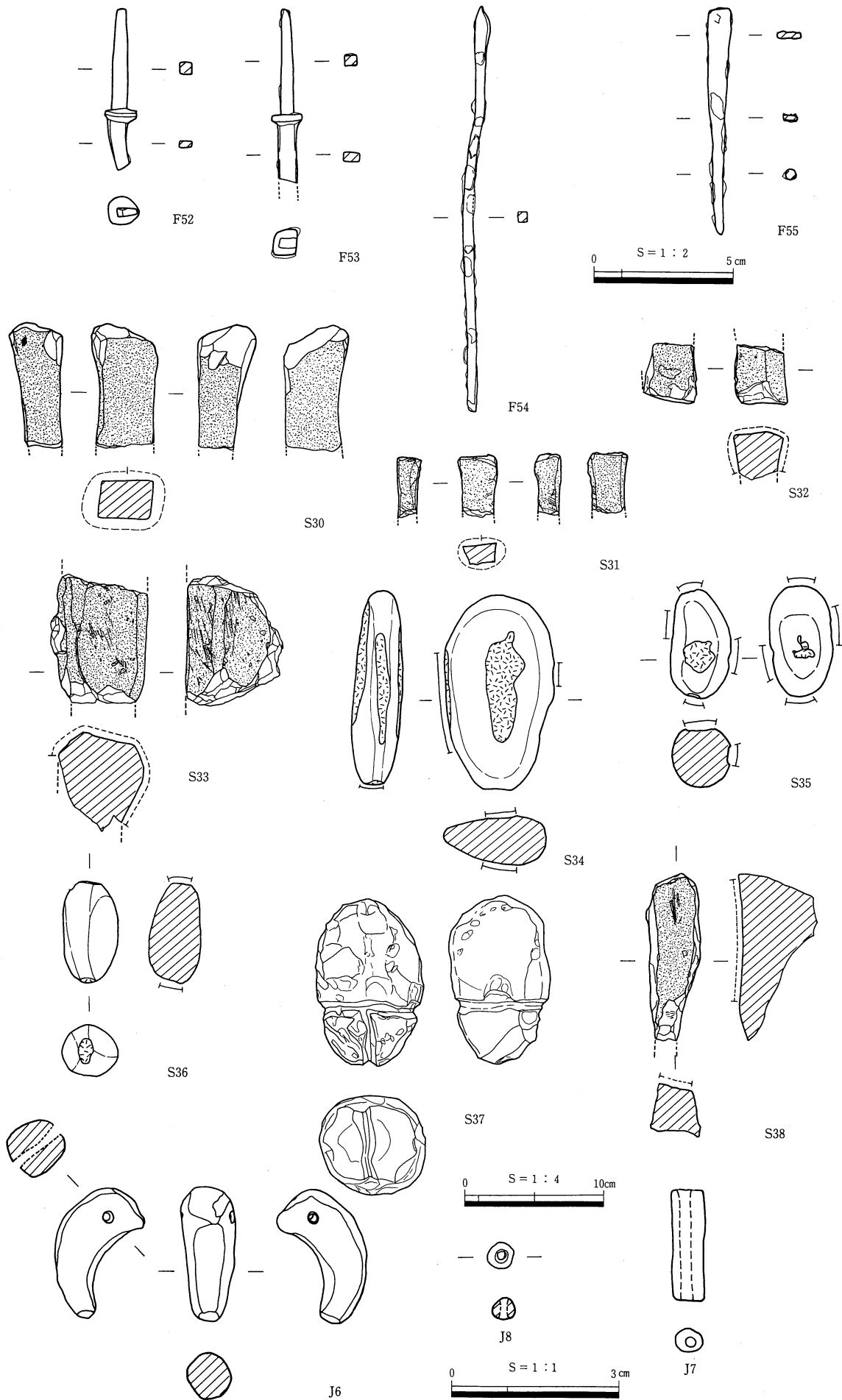


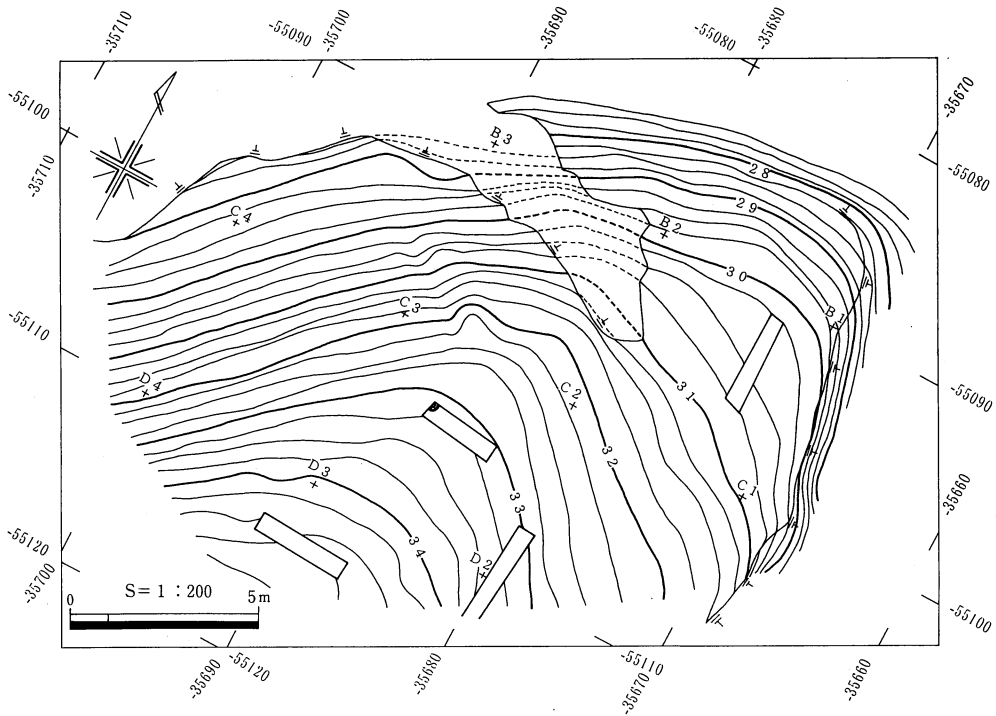
插图178 長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(2)



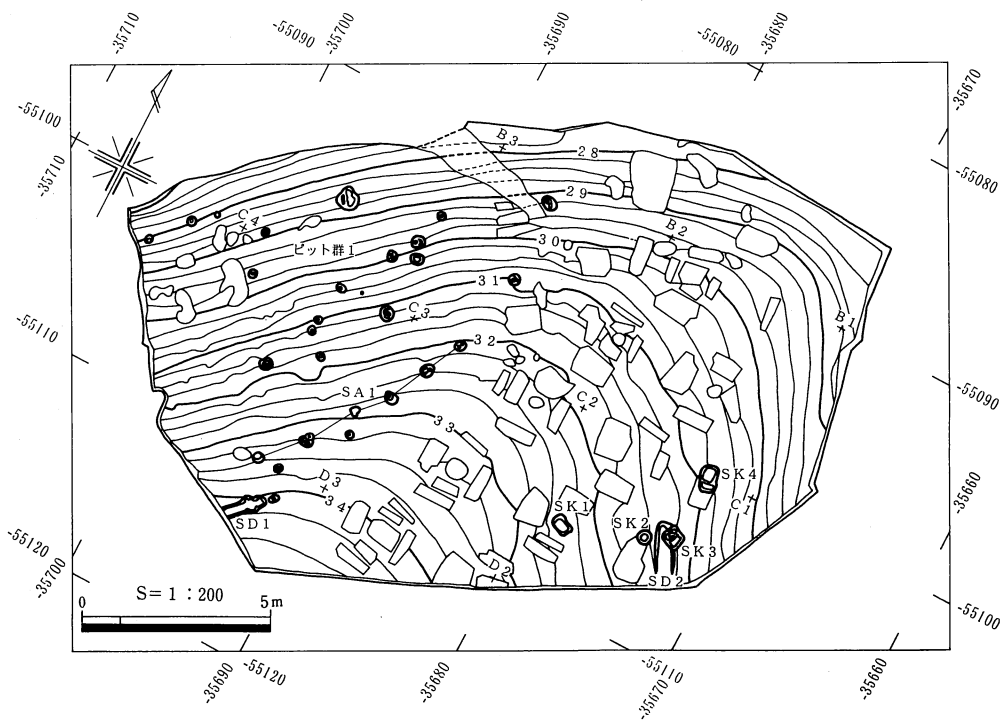
挿図179 長瀬高浜遺跡中世包含層出土遺物実測図(3)

第8章 園第6遺跡の調査

第1節 園第6遺跡の概要



挿図180 園第6遺跡調査前地形測量図



挿図181 園第6遺跡調査後地形測量図

園第6遺跡は、泊村園字蛇川・西茄子に所在し、南北方向にのびる丘陵上にある。

調査区は、尾根先端部の標高27~35m付近に立地する。現況は山林・竹林となっていたが、尾根の東半は以前は梨畑として使用され、肥料穴により遺構検出面は攪乱をうけていた。土坑4基、溝状遺構2基、柵列1基、ピット群1か所を検出した。

土坑はすべて尾根の東側斜面で検出された。平面形は方形・長方形を呈し、主軸方向はSK1・3は東西、SK2・4は南北方向である。埋土中から遺物は出土していないが、その形態から中世の墓塚の可能性はある。

柵列、ピット群は西側斜面で検出された。柵列は尾根のラインに沿って立地する。ピット内からは移動式竈が出土し、朝鮮半島との交流が考えられる。

調査地裾部に沿って黒褐色腐植土層が確認された。この層からは埴輪を含め多量の遺物が出土している。遺物の時期はおもに古墳時代中期末ごろで、丘陵頂部から流出したものと思われ、現況では確認されていないが、調査区の南側には古墳が存在するものと考えられる。(岩崎)

第2節 土 坑

SK1 (挿図182、図版74)

調査区南東側のC1グリッドにあり、南北方向に延びる標高32.2~32.5mの東側に傾斜する斜面に立地する。

遺存状態は比較的良く、上縁部、底部ともにほぼ長方形を呈す。規模は、上縁部長軸1.05m×短軸0.7m、底部長軸0.75m×短軸0.45mを測る。断面ほぼ長方形を呈し、深さは最大0.61mである。

埋土は淡灰褐色土単層である。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。(岩崎)

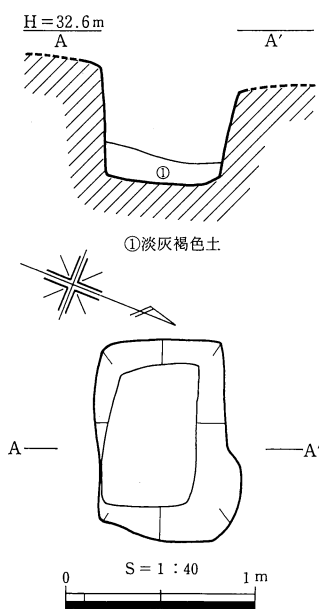
SK2 (挿図183、図版73)

調査区南東側のC1グリッドにあり、南北方向に延びる標高31.5~31.6mの東側に傾斜する斜面に立地する。

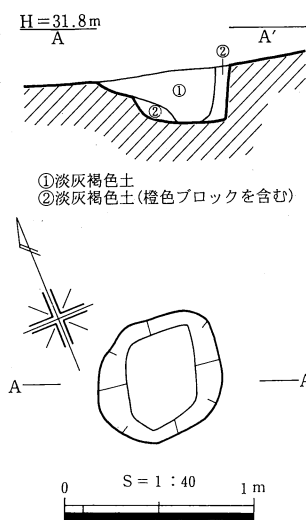
遺存状態は悪く、根により攪乱をうけていた。上縁部・底部ともにいびつな方形を呈す。規模は、上縁部長軸0.65m×短軸0.6m、底部長軸0.44m×短軸0.38mを測る。断面は逆台形状で、深さは最大0.2mである。

埋土は2層に分層できた。

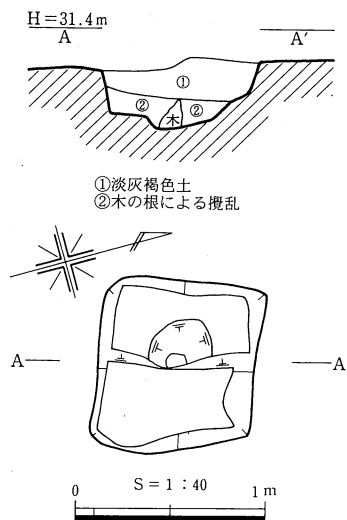
遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。(岩崎)



挿図182 園第6遺跡SK1遺構図



挿図183 園第6遺跡SK2遺構図



挿図184 園第6遺跡SK3遺構図

SK 3 (挿図184、図版74)

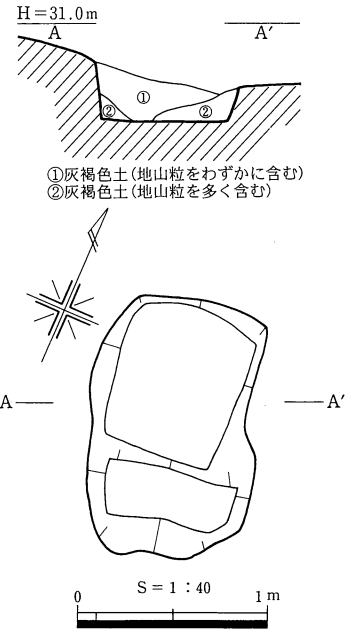
調査区南東側のC1グリッドにあり、南北方向に延びる標高31.2~31.3mの東側に傾斜する斜面に立地する。一部SD2と切りあう。

遺存状態は比較的悪く、木の根により攪乱をうけている。上縁部・底部ともにほぼ長方形を呈す。規模は、上縁部長軸0.9m×短軸0.83m、底部長軸0.8m×短軸0.65mを測る。断面は浅い逆台形を呈し、深さは最大0.18mである。

埋土は淡灰褐色土単層である。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。

(岩崎)



挿図185 図第6遺跡SK4遺構図

SK 4 (挿図185、図版74)

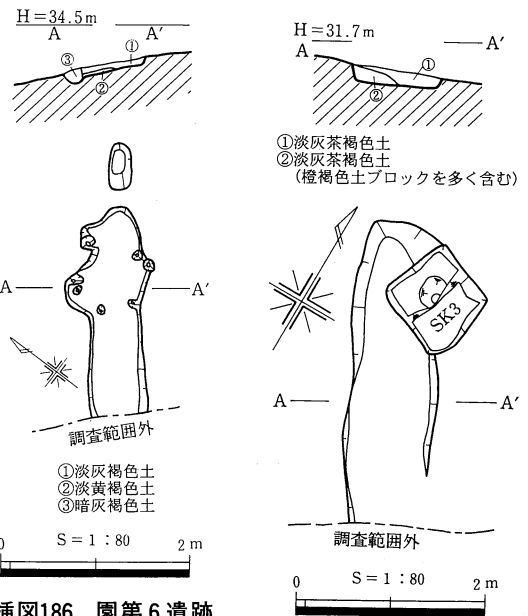
調査区南東側のC1グリッドにあり、南北方向に延びる標高30.7~30.8mの東側に傾斜する斜面に立地する。

遺存状態は比較的よいが、南辺上縁部は梨の肥料穴により攪乱をうけている。上縁部、底部ともにほぼ長方形を呈す。規模は、上縁部長軸0.88m×短軸0.85m、底部長軸0.8m×短軸0.67mを測る。断面は逆台形を呈し、深さは最大0.19mである。

埋土は2層に分層できた。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。

(岩崎)



挿図186 図第6遺跡SD1遺構図

挿図187 図第6遺跡SD2遺構図

第3節 溝状遺構

SD 1 (挿図186、図版73)

調査区の最も南西側のD3グリッドにあり、標高約34.0~34.3mの緩やかに北側に傾斜する斜面に立地する。南西側は、調査区外へ延びている。

南西側が調査区外にあり、また後世の耕作等によって遺存状態は非常に悪い。一部途切れながらほぼ直線状に走り、長さ2.9m以上、幅0.23~0.55mを測る。深さ最大6cmを測り、断面逆台形状を呈す。主軸方向は、N-52°-Eである。

埋土は3層に分層できた。

埋土中から土師器片が出土しているが、図化できなかった。

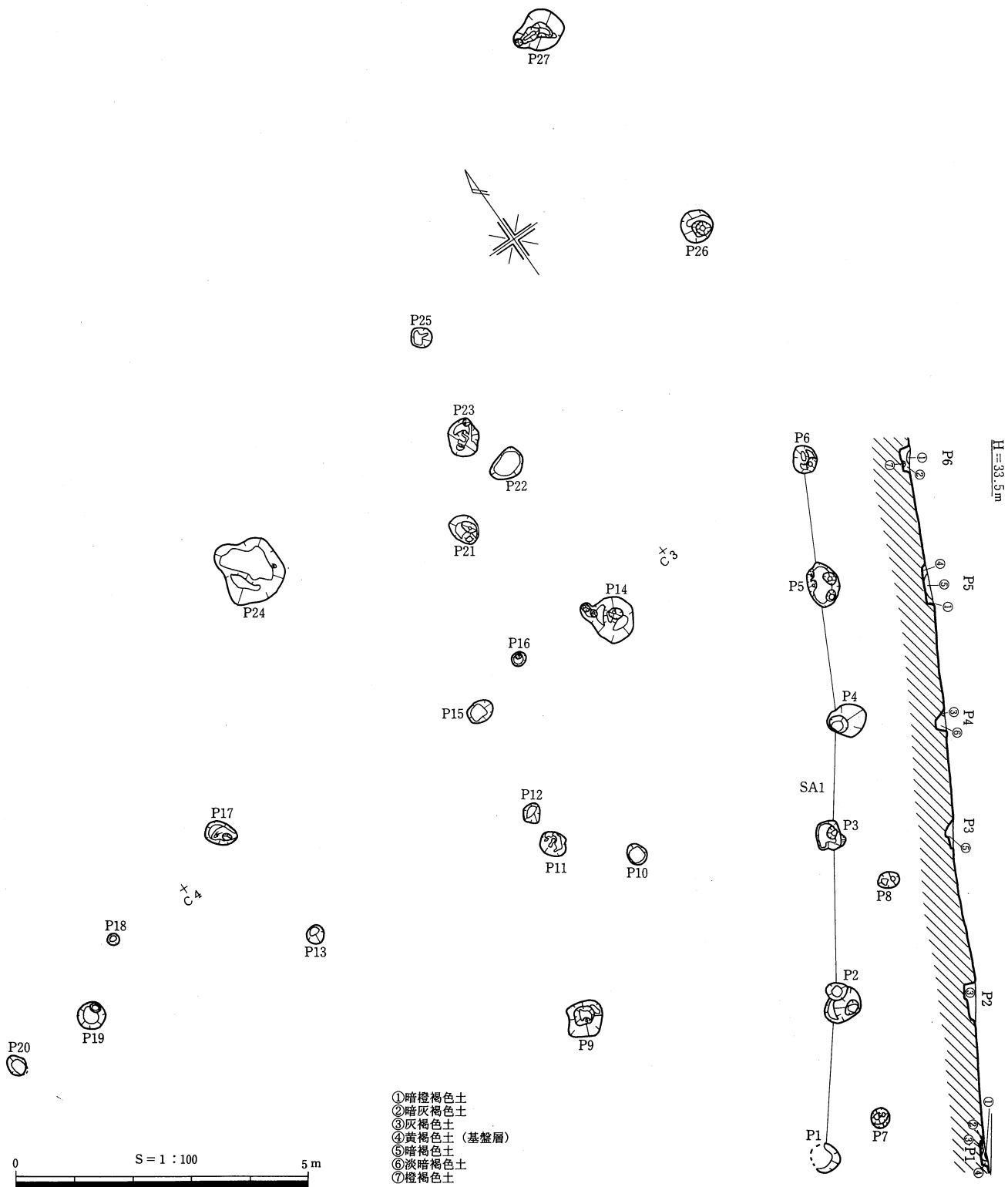
正確な時期は不明であるが、周辺の遺構の状態から、およそ古墳時代後期ごろのものと考えられる。性格は不明である。

(牧本)

SD 2 (挿図187、図版73)

調査区南東側のC1グリッドにあり、南北方向にのびる標高31.3~31.5mの尾根の東側斜面に位置する。SK3と切り合い関係にある。

遺存状態は悪く、斜面下部ではほとんど残らない部分もある。直線状を呈し、斜面に直交するようにほぼ南北



挿図188 園第6遺跡SA1、ピット群遺構図

ピット 番号	規模 (cm)	備考	ピット 番号	規模 (cm)	備考	ピット 番号	規模 (cm)	備考
P 7	32×32-10		P14	76×70-26		P21	52×46-32	
P 8	36×26-8		P15	44×34-12		P22	60×45-20	
P 9	71×63-28		P16	23×22-12		P23	62×50-38	
P10	46×30-37	土器	P17	54×34-71	土器	P24	123×122-50	土器
P11	46×39-6	土器	P18	19×18-16		P25	34×32-17	
P12	32×27-22		P19	47×45-45		P26	55×53-38	土器
P13	33×29-46		P20	38×30-17		P27	88×67-50	

挿表16 園第6遺跡ピット群1ピット一覧表

方向に延びている。主軸はN-28°-Wをとる。長さ3.2m以上、幅0.9m前後、深さは最大で0.2mを測る。断面は浅い逆台形状を呈す。

遺物は出土しておらず、時期、性格ともに不明である。

(岩崎)

第4節 柵列・ピット群

SA1・ピット群1 (挿図188~190、図版74・75)

調査区西側の標高約28.8~33.4mの北側斜面部に立地する。ピット群1中に、柵列SA1がある。

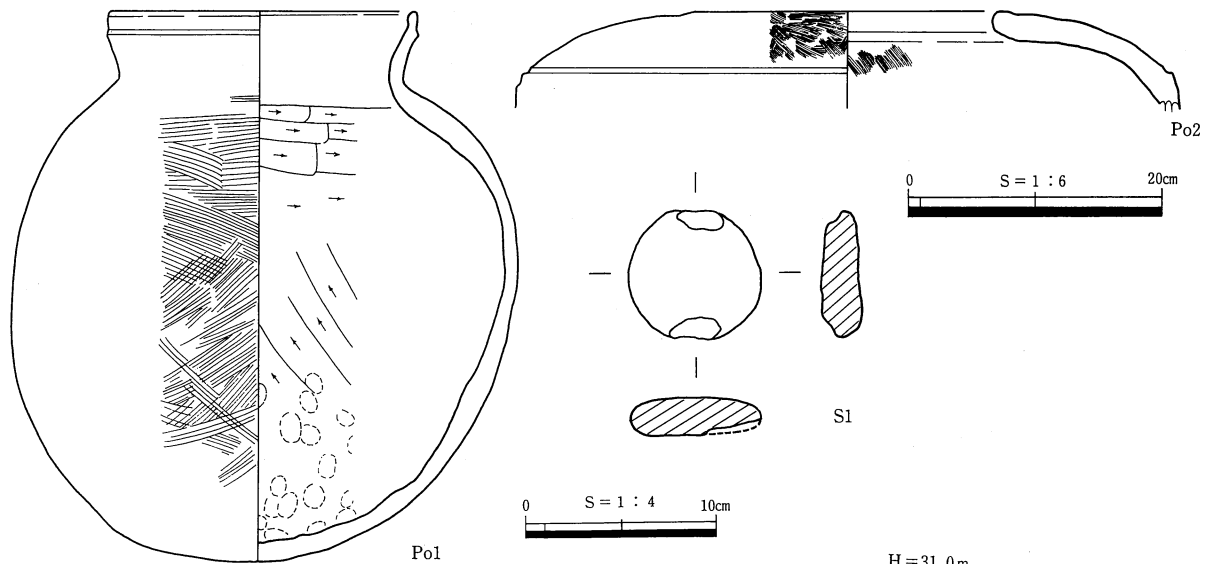
SA1は、丘陵頂部縁辺部にあり、P1~P6のピットからなり、調査区外南西側へも延びているものと考えられる。ピットの規模は、P1 (49×43-14) cm、P2 (67×50-33) cm、P3 (51×40-15) cm、P4 (68×57-31) cm、P5 (78×49-18) cm、P6 (46×39-22) cmである。埋土は、1~3層に分層できた。

P2・3・5・6埋土中から土師器小片が出土しているが、図化できなかった。

ピット群1は、P7~P27からなり、ピットの配列には規則性はない。それぞれの規模は挿表16を参照されたい。おおむね埋土は1~2層に分層できた。

P10・11・14・17・23・24・26内から、土師器および石器が出土している。このうち、P26内から、完形の土師器甕Po1が正立状態で、P10から土師器竈片Po2が、P23内で打ち欠き石錘S1が出土している。

SA1の時期は不明であるが、P10・26内出土遺物から、古墳時代後期初頭ごろと考えられる。(牧本)



挿図189 園第6遺跡ピット群1出土遺物実測図

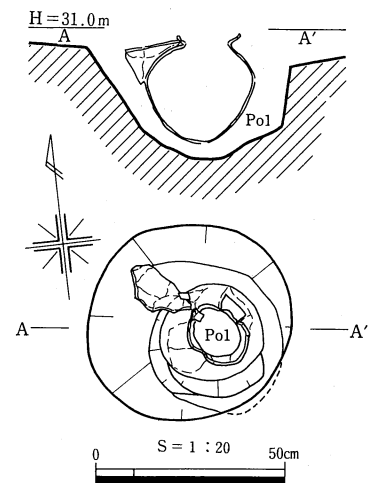
第5節 遺構外遺物 (挿図191、図版75)

遺構外、特に東側斜面部において多数の土師器、須恵器が出土した。

図化したものに、土師器甕Po3~13、胴部Po14、高杯Po15~19、椀・脚付椀Po20~29、甌把手Po30・31、円筒埴輪Po32、須恵器杯蓋Po33~36、杯身Po37、高杯Po38、甕Po39、壺Po40、甕Po41・42、椀Po43がある。

土師器甕には、複合口縁が退化したものと、くの字口縁のものが共伴しており、天神川X期、古墳時代後期初頭ごろ、土師器高杯、椀も同様の時期と考えられる。須恵器類は、MT15併行期と考えられ、土師器の年代観と合う。

埴輪片が出土していることから、調査区南側には、現在は確認されていないが、古墳が存在するものと考えられる。(牧本)



挿図190 園第6遺跡P26内遺物出土状況図

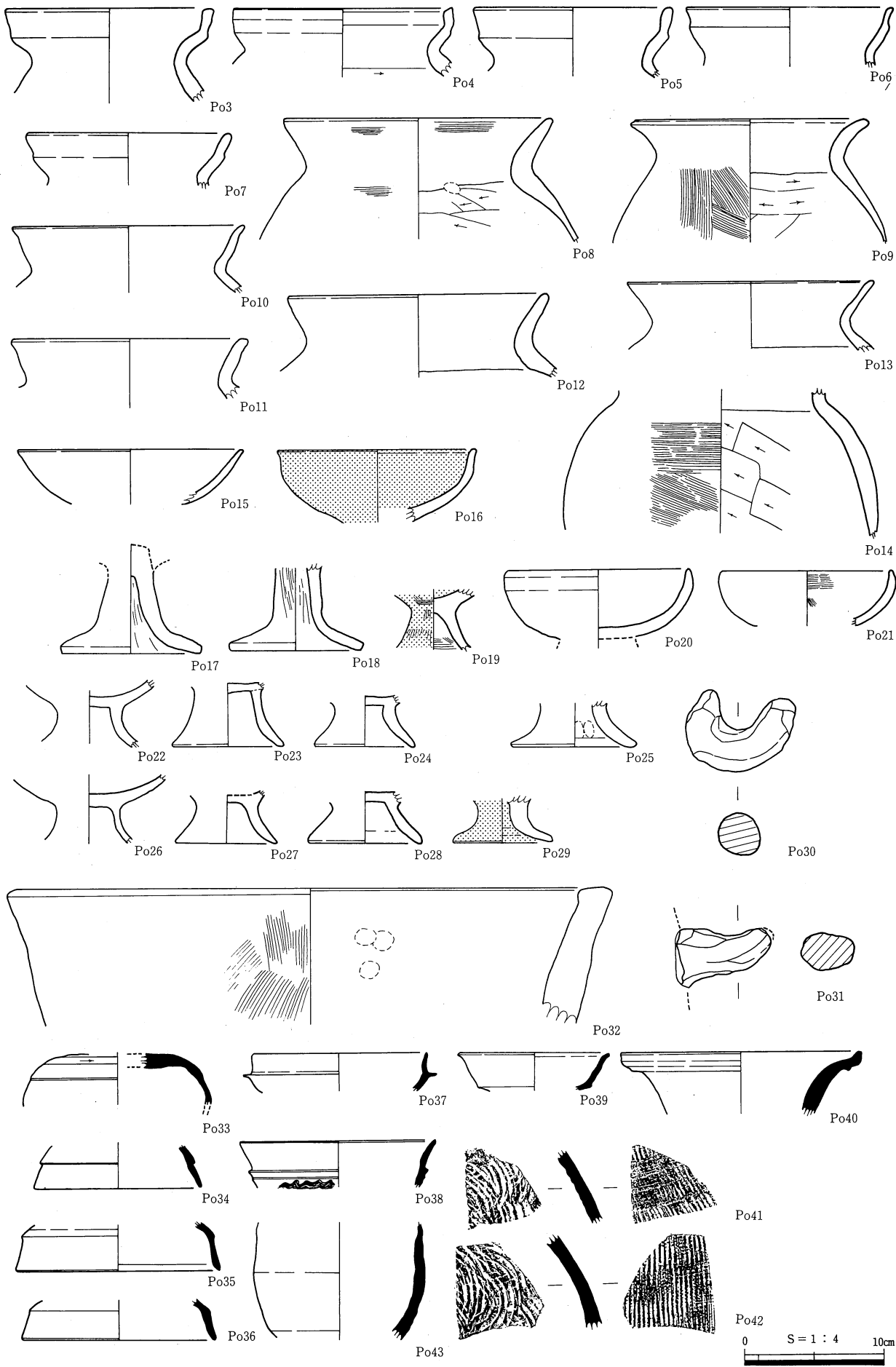


插图191 图第6 遗址遗构外出土遗物实测图

第9章 遺構、遺物の検討

第1節 古墳時代の土器について

1. はじめに

天神川下流域（羽合町、東郷町、泊村）では、近年大規模な開発工事にともない、多くの遺跡が調査されるようになった。砂丘地の長瀬高浜遺跡では、1977年～1982年・1995・1996・1998年にかけて下水処理場建設、北条バイパス、北条道路工事に伴い発掘調査が行われている（文献1～7）。東郷池周辺の丘陵地では、1990年～1993、1996～1998年にかけて羽合道路改築工事に伴い、南谷大山遺跡をはじめ9遺跡（文献8～12）、青谷羽合道路関係では石脇第1遺跡をはじめ8遺跡（文献13、14）、東郷池右岸の丘陵上で宮内第1遺跡をはじめ3遺跡（文献15）が調査された。大量の遺物が出土していることから、弥生時代後期～古墳時代後期初頭の土器編年を考える上で大変良好な地域となっている。

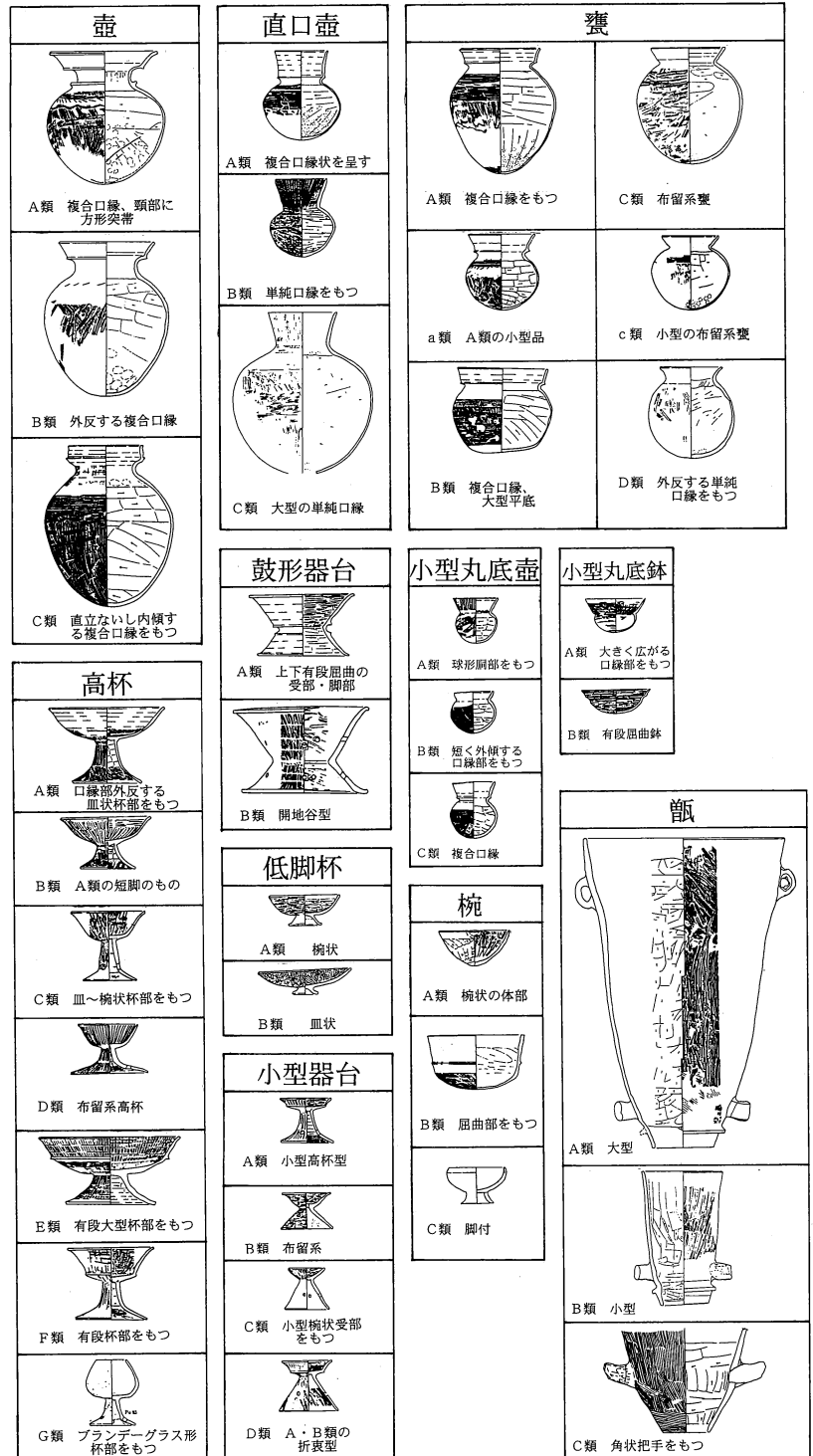
従来この地域では、遺跡ごとで編年作業が行われており、長瀬高浜遺跡では、古墳時代前期から中期初頭の大量の土師器を長瀬高浜Ⅰ期～Ⅲ期に編年され、さらに、高橋護氏は細分を試みられている（文献16）。

また、筆者は、南谷大山遺跡で長瀬高浜編年の問題点を指摘した上で、主に床面出土の土器を使って、弥生時代後期から古墳時代中期後半までの断続的な編年案を示した（文献12）。さらに、南谷大山編年の問題点を考慮し、泊村石脇、小浜地区での発掘調査結果から、南谷大山編年の細分化を試みた（文献13）。

土井珠美（文献17）、松井潔両氏（文献18）は東伯耆全体を概観し、弥生時代後期～古墳時代前期・中期を詳細に編年されている。

土器編年を取り巻く近年の状況は以上のようなものであるが、ここでは、長瀬高浜遺跡を中心に従来の調査も踏まえた上で、天神川下流域の古墳時代前期から後期にかけての一連の土師器編年案について考えてみることにする。

土器編年を取り巻く近年の状況は以上のようなものであるが、ここでは、長瀬高浜遺跡を中心に従来の調査も踏まえた上で、天神川下流域の古墳時代前期から後期にかけての一連の土師器編年案について考えてみることにする。



挿図192 長瀬高浜遺跡土師器形式分類図

2. 形式分類について

まず、それぞれの土器を形式分類することとする。分類は、調整等を考慮した細かな分類は避け、主に形態的特徴をもって、系譜が追える程度の大別分類に留めておきたい(挿図192)。

3. 編年案について

従来の編年案を参考にしながら、古墳時代前期初頭から後期初頭までを、以下の10期に細分した。

[天神川Ⅰ期]

壺B類は、シャープなつくりで口縁部が大きく外反し端部が折れる。胴部は長倒卵形を呈し、外面には、波状文・刺突文などが施されるものがある。

甕A類は器壁が肉薄でシャープな作りとなり、口縁部下端の突出度が増し、口縁端部が平坦面をもつ。口縁部はナデのみである。内面ケズリはやや下がって肩部付近になり、ケズリは右方向が主流である。胴部は長倒卵形を呈し、不明瞭な平底のものと丸底のものが併存すると考える。外面は肩部に施文されるものがあるが、タテ後ヨコハケが主流で、肩部に施されるヨコハケは、最大径付近までである。内面底部付近には指頭圧痕が明瞭に残る。B類の調整は、A類と同様である。D類も出現しているが、数は少ない。

高杯は、A類、B類、E類がある。A類は口径20cmを越える大型のもので、B類はA類を小型化したものである。E類は屈曲部が鋭く突出する。

鼓形器台A類は、口径が23cm前後と大きく、器高が11cm前後と高い。器壁が薄くシャープな作りである。低脚杯は、A類・B類があり、B類は口径20cm前後の大型品である。A類は小型のものであるが、器壁が薄く、シャープな作りである。

直口壺A類がこの時期から出現する。口縁端部は引き出され、球形の胴部をもつ。

その他、椀B類、胴部を装飾した脚付短頸壺、甌A類もこの時期から出現する。細いタガ状の突帯が巡り、狭口部は高く立ち上がる。

この時期は、資料の増加を待ってさらに2時期程度に細分できるものとする。

[天神川Ⅱ期]

この時期になって壺A類が現れる。突帯は細く、肩部に施文が施される。胴部は扁球形を呈す。壺B類は、口縁部立ち上がりが高く、頸部に施文が施されるものがある。胴部は倒卵形を呈すものと思われる。壺C類は、小型のものが現れる。調整はB類と変わりはない。

甕A類は、寸詰まりの倒卵形を呈すようになり、底部は完全に丸底となる。口縁部の形態もバラエティーが増す^(註1)。調整はI期と変化はないが、外面ヨコハケの範囲が広がる。a類は、胴部が球形を呈す。B類は、前期のものともあまり変化は見られない。この時期になってC類が出現する。胴部は長倒卵形を呈し、調整はA類と類似している。小型品のc類も出現する。

高杯A、B類は小型化する。E類はやや長脚となり、屈曲部が鈍くなる。D類、G類が出現する。

鼓形器台A類は口径は大きいですが、器高が縮約する。低脚杯A類は杯部が深くなり、B類は口径が小さくなる。

直口壺A類は、口縁端部が面をもち、B類、C類が出現する。

小型器台はA類、B類、C類、D類の全器種がそろそろ。A類は杯部屈曲部が鈍くなる。小型丸底壺もA類、B類、C類の全器種、小型丸底鉢はA類、B類が出現する。

甌A類はほとんど変化がないが、小型のB類が出現し、ペアで使用された可能性がある。

[天神川Ⅲ期]

壺A類は口縁部外反度が増し、B類も口縁端部立ち上がりが低くなり、口縁部下端の突出度も鈍くなる。胴部は依然倒卵形を呈す。C類もB類と同様の形態で、調整もほとんど変化がない。施文が施されるものもある。

甕A類は、口縁部立ち上がりが低くなり、口縁部下端の突出もさらに鈍い。胴部は丸味を帯びようになる。口縁端部が内方へ肥厚するものも現れる。a類、B類は小型化する。C類は胴部が球形を呈すようになり、口縁部の形態がA類に遅れてバラエティーが増す。外面ヨコハケの範囲が中位以下までに広がる。

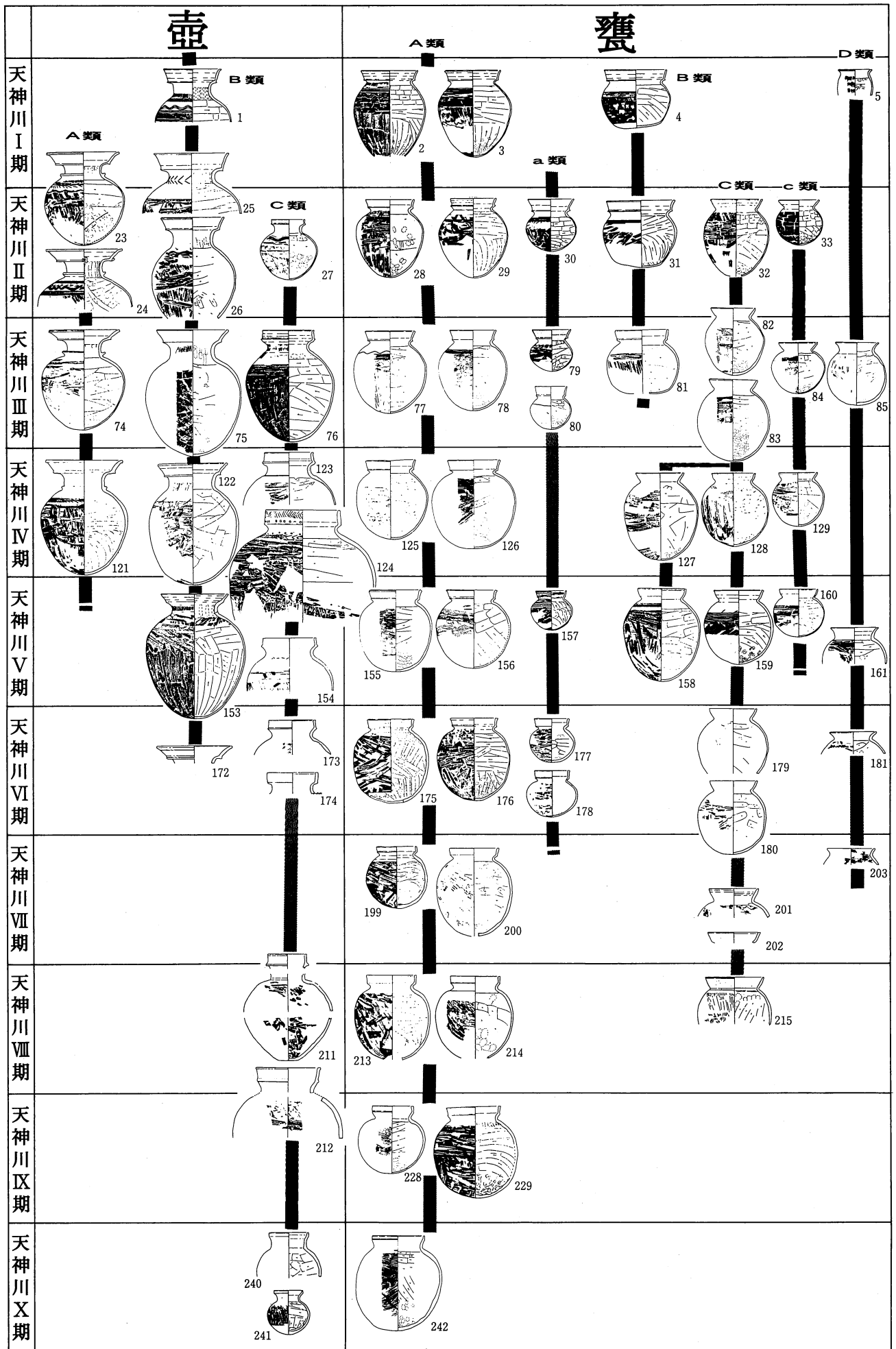


插图193 天神川下流域土器編年案(1)

高杯A類は、杯部がさらに小型化する。B類が見られなくなり、C類が出現する。この時期は、深い杯部に長脚をもつ。屈曲部が鋭いD類も出現する。D類は杯部が丸くなる。

鼓形器台A類は明瞭に小型化し、いわゆる開地谷型器台^(文献19)のB類が現れる。大小2種類が認められる。

直口壺A類は球形の胴部になり、屈曲部の稜は前時期に比べて退化している。

低脚杯A類・B類は明瞭に小型化し始めるが、椀、甌は前時期と変化はない。

[天神川Ⅳ期]

壺A類は、口縁部が退化傾向を示し、口縁部の高さが低くなり、さらに口縁部下端の稜が鈍くなる。突帯は厚く低くなり、胴部は長胴化する。この時期を最後に途絶える。B類も口縁部の外反度が増し、器壁が厚くなり長胴化する。C類は口縁部下端が鈍くなる。大型のものが現れる。

甕A類は口縁部立ち上がりがさらに低くなり、胴部は球形化し、全体的に器壁が厚くなる。外面上半部にタテハケがほとんど見られず、やや粗いヨコハケのみとなる。C類は、長胴のもの、球形のものが現れる。調整は、A類に類似する。

高杯はA類が見られなくなり、C類は杯部がやや浅く、F類は屈曲部が鈍くなる。鼓形器台A類、B類は器壁が厚くなる。低脚杯は小型のまま、この時期を最後に見られなくなる。

直口壺はA類が消滅し、B類は口縁部が高くなる。

小型器台は、いずれも退化傾向を示している。小型丸底壺A類は、前時期に比べて口径が小さくなる。

甌A・B類とも、器壁が厚くなり、突帯も厚く低く、狭口部も立ち上がりが低くなる。

[天神川Ⅴ期]

壺B、C類は口縁部がさらに退化傾向を示す。B類はこの時期を最後に、見られなくなる。

甕A類は、口縁部の退化傾向が進み、器壁が厚くなる。胴部は長胴化傾向となり、外面肩部に三個の刺突文が施されるものがある。胴部外面粗いヨコハケが施され、内面底部以外に肩部にも指頭圧痕が明瞭に残るようになる。C類は、前時期同様、胴部球形のもの、長胴のものがああり、外面のヨコハケは粗くなる。内面は肩部に指頭圧痕が明瞭に残る。肩部外面にA類同様の刺突文が施されるものがあり、内面ケズリの範囲が下がる。

高杯C類は、おおむね浅い皿状杯部をもつようになる。E類も再び現れるが、系譜的につながるものか不明である。鼓形器台はほとんど見られなくなり、厚手のものとなる。小型丸底壺A類は、口縁部径が胴部最大径を上回るものはなくなり、椀は小型化する。直口壺B類は、この時期で最も口縁部が高くなる。

この時期、器種が大幅に減少する。

[天神川Ⅵ期]

壺B類、C類は退化傾向が加速する。

甕Aは口縁端部が外方へ肥厚して平坦面をもち、口縁部下端は鈍く突出するもの、凹線を巡らすことで強調するものがある。胴部は球形からやや長胴を呈し、外面は粗いヨコ～斜方向ハケ目、内面は肩部指頭圧痕が残る。C類は前時期とほとんど変化はないが、器壁がさらに厚くなる。口縁端部は依然として内方へ肥厚する。

高杯C類は、浅い椀状杯部をもつものが現れる。脚部は7.0cm前後と高いままである。F類も再び現れるが、屈曲部はさらに鈍くなる。G類は屈曲部には稜がつく。

小型丸底壺A類は、口縁部径がさらに小さくなり、胴部は球形になる。小型の直口壺とでも言える形態である。この時期をもって、小型丸底壺は姿を消す。椀A類は、前時期同様体部は深く、内外面ハケ目調整である。

甌は、角状把手をもつ小型のC類が現れる。A類と系譜的にはつながらない、外来の要素をもつものと考えられる。その他の器形として、須恵器模倣甕形土器がある。

また、この時期になって須恵器が現れる。石脇第1遺跡の無蓋高杯、長瀬高浜遺跡の大型高杯形器台などがある。これらは大庭寺併行期～TK73併行期と考えられるもので、県内では最も古い須恵器の一群である。

[天神川Ⅶ期]

壺は良好なものはない。

	高杯	鼓形器台	低脚杯	直口壺
天神川I期	A類 6 B類 8 E類 10 7 9	A類 11 12	A類 13 B類 15 14 16	A類 17 18
天神川II期	34 35 36 D類 37 38	39 40 41	42 43 44 45	B類 46 47 C類 48 49
天神川III期	C類 86 F類 88 90 92 93 87 89 91	B類 94 95 96	97 98	99 100 101
天神川IV期	130 131 132 133	134 135 136 137	138 139	140 141
天神川V期	162 163 164	165 166		167 168
天神川VI期	182 183 184 185 186			187
天神川VII期	204 205 206			207
天神川VIII期	216 217 218 219			220
天神川IX期	230 231			232
天神川X期				

插图194 天神川下流域土器編年案(2)

甕A類は口縁部の退化傾向がさらに進み、口縁部下端は突出がほとんどなくなる。胴部は球形丸底のものがほとんどであるが、長胴丸底で外面平行叩き後ハケ目調整の(200)もある。C類は口縁外面にアクセントをもつ(201)、内面肥厚する(202)がある。内面肥厚するものは、この時期までと思われる。

高杯C類は、椀状杯部が変わり、脚高5.5cm前後と低くなる。G類は、屈曲部が鈍くなる。直口壺は口縁部が短くなり、扁球形の胴部をもつ。椀A類は、形態的に前時期のものと変化がないが、橙色胎土に変わる。

須恵器には甕がある。扁球形の胴部に細い頸部がつく。定型化以前のTK216~ON46併行期と考えられる。

[天神川Ⅷ期]

極めて大型の壺が見られる。口縁部は複合口縁状を呈し、胴部は球形を呈すが、平底をもつものである。内外面共に粗いハケ目調整である。長瀬高浜86号墳第3埋葬施設のもの土器棺として使用されている。

甕A類は、複合口縁が顕著に退化傾向を示し、口縁部下端が下膨らみになる。器壁が肉厚で、口縁部はほぼ直立し、口縁部の立ち上がりも3cm以下と低くなる。胴部は球形を呈し、外面肩部はヨコハケが残るが、粗い斜方向ハケが主流となる。C類は、端部が内方へ肥厚するものから丸く収められるものに変化し、胴部の調整も粗いタテ~斜方向ハケに変わる。

高杯C類は、ほとんど椀状杯部をもつものとなる。脚部もさらに短くなる。E類はやや小型化する。

直口壺B類は、やや高い頸部をもち、やや扁球形の胴部をもつ。

椀A類は端部が内湾し、同様の体部に太く短い脚部をもつC類が現れる。

TK208併行期の須恵器が共存する。杯蓋は天井部が低く、回転カキ目調整されるものがある。口縁端部は鑿歯状を呈し、全体にシャープな作りである。杯身は、底部が扁平で、口縁部立ち上がりが高い。端部は鑿歯状を呈す。脚付壺は、頸部に2条の凸帯が巡りその間に波状文が施される。脚部に円形・方形の透かしがある。

無蓋高杯は、杯部が深く、口縁部外面には凸線が2条巡り、その下に波状文が施される。脚部には長台形の透かしが4方に入り、把手がつくものがある。その他、樽形甕、小型甕、大型甕もある。

[天神川Ⅸ期]

壺は良好な資料がない。直口壺B類は、Ⅷ期に比べて口縁部の立ち上がりが低くなり、体部が扁平になる。

甕A類は、口縁部下端部が丸みを帯び屈曲するだけになる段階である。胴部はやや長球形を呈し、外面は粗い横~斜方向ハケ目、内面は肩部・底部に指頭圧痕が明瞭に残る。

高杯C類は、前時期より深い椀状杯部をもつ。E類は屈曲部がさらに鈍くなる。

椀A類は、Ⅷ期に比べて器高が低くなり、大きく内湾する傾向がある。

須恵器はTK23~TK47併行のものが共存している。杯蓋は、天井部が高くなり全体的に丸みを帯びる。天井部との境には明瞭な稜をもつ。口縁端部は鑿歯状を呈す。杯身も全体的に丸みを帯び、高い立ち上がりをもつ。

無蓋高杯は、外反する口縁部をもつもので、脚部は短脚で3方に透かしが施される。

[天神川Ⅹ期]

壺、甕とも器壁が厚く、複合口縁の名残をとどめる最終段階のものである。この時期に、くの字の甕が共存すると考えられる。

須恵器は、MT15併行期と考えられる。

4. 器種構成の変化と絶対年代

以上のように編年できたが、時期ごとに様式の変化が見受けられる。

天神川Ⅰ期の土師器は、基本的に弥生土器から系譜が追えるもので、検出された遺構も少ないことから、器種にバラエティーがない。同時期としたSI120のものは、SI112と比べてやや古相を示していると考えられ、資料の増加を待つて細分できる可能性がある。小型器台A類のような器種は外来系のものと考えられるが、布留系甕の出現は、今のところⅡ期以降を待たなければならない。

天神川Ⅱ期が確実に布留併行期で、極端に器種が増えて画期を迎え、Ⅳ期までは同様の傾向が続く。

ところが、Ⅴ期になると山陰地方特有の低脚杯、甕および外来系の小型器台、小型丸底鉢が姿を消し、器種が

	小型器台	小型丸底壺	小型丸底鉢	椀	甌	須惠器他
天神川 I 期	A類 19 20			B類 21	A類 22	
天神川 II 期	B類 C類 D類 50 51 52 53 54 55	A類 B類 C類 56 57 58 59 60	A類 B類 61 62 63	A類 64 65	B類 66 67	70 71 72 73 68 69
天神川 III 期	102 103 104 105 106 107 108	109 110 111 112	113 114 115 116	117 118	119 120	
天神川 IV 期	142 143 144 145	146 147	148 149	150	151 152	
天神川 V 期		169 170		171		
天神川 VI 期		188 189		190	C類 191	192 193 194 195 196 197 198
天神川 VII 期				208	209 210	
天神川 VIII 期				C類 221 222 223	224 225 226 227	
天神川 IX 期				233	234 235 236 237 238 239	
天神川 X 期				243	244 245 246 247 248 249	

挿図195 天神川下流域土器編年案(3)

大幅に減少している。その後Ⅶ～Ⅷ期においても器種が減少しており、それぞれに画期を設けることができる。

さて、形式ごとにみると、甕A類は、弥生時代後期から系譜的に一貫して存在し続けるものであるが、天神川V期前後に器壁が厚くなり、肩部まで指頭圧痕が明瞭に残る特徴がある。おそらく、「型造り」による大量生産と、煮炊きの熱効率化が進んだ結果と考えられる^(文献20)。

さて、甕A類のうち天神川Ⅱ～Ⅲ期のものに胴部に叩き痕が認められるものが5点(SI246Po44・61、SI254Po580、土器溜1 Po721、土器溜2 Po810)確認された。いずれも左上りの叩きである。これまで、叩き技法は山陰系土器にはほとんど確認されていなかったが^(註2)、この技法は本来整形技法であることから、二次調整のハケ目等で完全に消されてしまうと考えられる。この技法は外来のものと考えられるが、山陰地方で定着していた可能性もある。

布留系の甕C類は、今のところ天神川Ⅱ期からⅧ期まで、同地域内において時期が下るにつれて退化傾向を示していることから、外来要因で出現したものが、当該地域で定着した形式であるといえる。

甕D類も、断続的ではあるが存在している。畿内V様式系甕が祖形となった可能性がある。

甕は、I期までは小型のB類は認められないが、Ⅱ期以降A・B類ペアで出土した遺構もSI148・220・245などがある。形態的には大きな変化は認められないが、Ⅳ期になると突帯が太く短くなり、狭口部の立ち上がりも低くなり、明かに退化傾向を示している。使用法については明確にできないが、A類の把手は、広口側のものの方が器壁に突き刺すかたちでつけられており、仮に吊して使うとすれば、広口側の把手を使用したと思われる。B類のSI247Po131は、突帯が狭口側把手部分だけ焼成前に挟られており、棒状のもので支えられた可能性も考えられ、今後使用法を考える上で重要なものとなる。

さて、県内では¹⁴C年代測定、年輪年代測定の資料が増加しつつある。しかし、どの遺構も複数資料を測定しても同じ結果は得られておらず、即座に測定結果を用いることは慎重にならざるを得ない。あえて触れると、土器型式と従来の年代観と比較的符合すると思われるものに、天神川Ⅲ期の長瀬高浜遺跡SI246の 1720 ± 50 、天神川V期の長瀬高浜遺跡SI259の 1670 ± 50 、天神川Ⅵ期の石脇第1遺跡SI01の $1630 \pm 50 \sim 1590 \pm 60$ (いずれもB.P.)などがある。この値を信用すると、天神川Ⅲ期が4世紀中葉ごろ、天神川V期が5世紀初頭ごろ、天神川Ⅵ期が5世紀中葉ごろになる可能性があり、今後絶対年代を考える上での指標となると思われる。

5. 外来系土器との併行関係について

長瀬高浜遺跡には、各地の土器がもち込まれている。最も多い畿内系土器は、V様式系甕(SI253Po556、SI260Po694)、庄内系甕(SI69Po89、SI138Po29、SI253Po557)、布留系甕(SI69Po88、SI253Po555)で、東山陰系土器(SE12Po1、SI238Po6)、吉備系甕(SI126Po30、SI195Po44)、近江系受口状口縁甕(土器溜1 Po758)も出土している。これらは、長瀬高浜遺跡の性格を物語るものとして注目される。

庄内系甕のうちSI69出土のものは、外面に細かい叩きが施され、胎土も茶褐色で庄内河内型甕と考えられる。また、SI253出土のものは、叩きが粗く、頸部がなだらかになっており、庄内大和型甕の可能性もある^(文献21)。

布留系甕は、甕C類に比べ口縁部のつくりが非常にシャープで、胎土も異なることから、搬入されたものと考えられ、これらが甕C類の祖形となった可能性が考えられよう。

これら、庄内系甕、布留系甕は、層位的に遺構埋砂上層からの出土であり、さらに、SI69では庄内・布留系甕が同時に出土しており、形式的には分類できるものの良好な併行関係を示すものではない。数量的にも少なく、畿内との併行関係を考えるには、依然大きな課題として残る。

吉備系甕は10—c期^(文献16)、また、近江系甕は植田分類A₄かA₅類^(文献22)と考えられる。これらは、おおむね布留併行期のもので、出土遺構と併行するものと考えてよいであろう。

その後は、明確な外来系土器は見られないが、Ⅵ期に入ると、長瀬高浜遺跡で初期須恵器が出現している。遺構に伴うものとしては、SI93の大型高杯形器台などがあり、TK73併行期と考えられる。その他、石脇第1遺跡では朝鮮半島系の陶質土器高杯が出土しており、彼地との交易関係を知る手懸かりとなっている。また、この時期に、須恵器が出現していないと現れないであろう須恵器模倣の甕形土器も石脇第1遺跡から出土している。

さらに、園第6遺跡では、移動式竈も出土している。時期的にMT15併行期でかなり下るものであるが、形態的には陶邑・伏尾遺跡、寝屋川市長保寺遺跡から出土したものと類似しており^(註3)、朝鮮半島系遺物の可能性がある。

1. NTSI120Po 1	37. NTSI32Po10	73. NTSE12Po 1	109. NTSI246Po110	145. NTSI88Po52	181. IW 1 SI02Po94	217. NTSX01Po 3
2. NTSI120Po 3	38. NTSI253Po566	74. NTSI06Po 1	110. NTSI127Po11	146. NTSI85Po 5	182. NTSX04Po 7	218. NTSX01Po 1
3. NTSI112Po 7	39. NTSI195Po54	75. NTSI246Po29	111. NTSI244Po27	147. NTSI85Po 1	183. NTSI117Po41	219. MOBSI09Po116
4. NTSI112Po12	40. NTSI241Po44	76. NTSI186Po 2	112. NTSI249Po369	148. NTSI85Po 7	184. IW 1 SI01Po36	220. NTSX97Po861
5. NTSE12Po 5	41. NTSI43Po16	77. NTSI249Po164	113. NTSI220Po19	149. NTSI101Po14	185. NTSX04Po 8	221. KWSI06Po34
6. NTSI118Po19	42. NTSI241Po51	78. NTSI249Po163	114. NTSI194Po48	150. NTSI85Po39	186. IW 1 SI02Po107	222. KWSI06Po35
7. NTSE12Po 7	43. NTSI69Po120	79. NTSI183Po11	115. NTSI127Po 9	151. NTSI88Po57	187. IW 1 SI02Po98	223. MOBSI22Po23
8. NTSI112Po15	44. NTSI241Po52	80. NTSI249Po229	116. NTSI47Po12	152. NTSI163Po 9	188. IW 1 SI01Po54	224. NTSX10Po17
9. NTSI118Po22	45. NTSI69Po122	81. NTSI186Po28	117. NTSI249Po378	153. NTSI123Po 1	189. IW 1 SI01Po52	225. NTSX10Po19
10. NTSI112Po13	46. NTSI32Po 2	82. NTSI249Po239	118. NTSE03Po123	154. NTSI108Po 1	190. IW 1 SI02Po151	226. MOBSI09Po124
11. NTSI120Po14	47. NTSI43Po 4	83. NTSI249Po230	119. NTSI220Po21	155. NTSI259Po686	191. NTSI149Po13	227. NTSX10Po16
12. NTSI112Po22	48. NTSI69Po15	84. NTSI49Po281	120. NTSI220Po20	156. NTSI108Po21	192. IW 1 SI13Po316	228. NTSX98Po867
13. MOCSI02Po30	49. NTSI195Po 3	85. NTSI186Po16	121. NTSI12Po 1	157. NT10HSK01Po 7	193. IW 1 SI01Po69	229. NTSX03Po 6
14. MOCSI02Po29	50. NTSI69Po129	86. NTSI221Po21	122. NTSI181Po 1	158. NTSI108Po 1	194. NTSI93Po 9	230. NTSX98Po868
15. TD 2 SI09Po161	51. NTSI69Po124	87. NTSI183Po17	123. NTSI181Po 2	159. NTSI123Po 1	195. NTSI93Po10	231. NTSX03Po 1
16. TD 2 SK09Po210	52. NTSI32Po16	88. NTSI249Po305	124. NTSE11Po62	160. NTSI108Po 6	196. NTSX04Po10	232. NTSD22Po881
17. NTSI120Po 2	53. NTSI32Po15	89. NTSI249Po307	125. NTSI180Po 1	161. NTSE08Po11	197. IW 1 SI02Po148	233. MOBSI30Po38
18. NTSI112Po 4	54. NTSI217Po 3	90. NTSI249Po299	126. NTSI247Po114	162. NTSI108Po26	198. IW 1 SI02Po149	234. NTSX98Po863
19. NTSI112Po17	55. NTSI69Po125	91. NTSI249Po296	127. NTSI181Po 5	163. NTSI108Po28	199. NTSX10Po 6	235. NTSX98Po864
20. NTSI112Po18	56. NTSI32Po 4	92. NTSI34Po14	128. NTSI108Po 7	164. UT 1 SI03Po148	200. KWSI07Po38	236. NTSX03Po26
21. MOCSS04Po48	57. NTSI241Po55	93. NTSE03Po93	129. NTSI181Po16	165. NTSI231Po10	201. KWSI05Po13	237. NTSX03Po25
22. MOBSI20Po31	58. NTSI195Po62	94. NTSI249Po332	130. NTSI181Po19	166. NTSI231Po11	202. KWSI05Po15	238. NTSX27Po 1
23. NTSI195Po 1	59. NTSI241Po24	95. NTSI246Po97	131. NTSI181Po20	167. NTSI123Po 3	203. KWSI05Po14	239. NTSX03Po24
24. NTSI69Po 5	60. NTSI195Po61	96. NTSI249Po335	132. NTSI88Po37	168. UT 1 SI03Po143	204. NTSX09Po 1	240. 南谷19号墳Po183
25. NTSI43Po 2	61. NTSI241Po56	97. NTSI249Po349	133. NTSI19Po 6	169. NTSI108Po 2	205. NTSX09Po 3	241. 南谷19号墳Po185
26. NTSI195Po 2	62. NTSI32Po19	98. NTSI249Po348	134. NTSI85Po36	170. UT 1 SI03Po240	206. KWSI07Po48	242. SN 6 P26内Po 1
27. NTSI241Po 4	63. NTSI253Po575	99. TD 2 SI03Po35	135. NTSI85Po37	171. NTSI22Po28	207. KWSI05Po22	243. 南谷19号墳Po184
28. NTSI195Po 9	64. NTSI69Po145	100. NTSI249Po288	136. NTSI88Po47	172. IW 1 SI02Po72	208. KWSI07Po66	244. 南谷19号墳Po195
29. NTSI69Po16	65. NTSI40Po12	101. NTSI206Po 2	137. NTSI12Po21	173. IW 1 SI13Po287	209. NTSI92Po 1	245. 南谷19号墳Po196
30. NTSI43Po 8	66. NTSI126Po48	102. NTSI198Po11	138. NTSI12Po18	174. IW 1 SI02Po74	210. KWSI07Po67	246. 南谷19号墳Po190
31. NTSI114Po13	67. NTSI149Po17	103. NTSI246Po104	139. NTSI12Po13	175. NTSI112Po15	211. MOBSI16Po 1・2	247. 南谷19号墳Po191
32. NTSI45Po 4	68. NTSI195Po44	104. NTSI249Po338	140. NTSI88Po 3	176. NTSI117Po16	212. MOCSI20Po51	248. 南谷19号墳Po202
33. NTSI152Po 3	69. NT土器溜 1 Po758	105. NTSI246Po102	141. 南谷29号墳Po 1	177. IW 1 SI01Po16	213. NTSX10Po 6	249. SN 6 P10内Po 2
34. NTSI35Po 5	70. NTSI69Po89	106. NTSI249Po345	142. NTSI88Po54	178. IW 1 SI02Po95	214. MOBSI09Po 1	瓶、211、212はS =
35. NTSI253Po561	71. NTSI253Po557	107. NTSI246Po107	143. NTSI85Po38	179. IW 1 SI13Po301	215. MOBSI09Po84	1/32
36. NTSI241Po34	72. NTSI69Po88	108. NTSI101Po13	144. NTSI88Po53	180. IW 1 SI02Po91	216. NTSX01Po 2	その他S = 1/16

NT：長瀬高浜遺跡 MO：南谷大山遺跡 UT 1：宇谷第1遺跡 TD 2：寺戸第2遺跡 IW 1：石脇第1遺跡 KW：小浜ワラ畑遺跡 SN 6：園第6遺跡

挿表17 天神川下流編年案土師器対照表

天神川下流編年	長瀬高浜編年	南谷大山編年	小浜ワラ畑編年	土井編年	松井編年	岩吉編年 ^(文献24)	青木編年 ^(文献25)
天神川Ⅰ期	長瀬Ⅰ期	大山Ⅴ期		宮ノ下4・6号住居址段階	XI 期	V (新) 期	V・Ⅵ期新相
天神川Ⅱ期		大山Ⅵ期(古)		宮ノ下3B・7号住居址段階	XII 期	Ⅵ(古) 期	Ⅶ期(古)
天神川Ⅲ期	長瀬Ⅱ期	大山Ⅵ期(新)		擲塚5号住居址	XIII 期	Ⅵ(新) 期	Ⅶ期(新)
天神川Ⅳ期		大山Ⅶ期		上神猫山方形周溝基 佐美4号墳周溝底部	XIV 期	Ⅶ(古) 期	Ⅷ期(古)
天神川Ⅴ期	長瀬Ⅲ期	空白期	小浜ワラ畑Ⅰ期	後谷B21・2号住		Ⅶ(新) 期	Ⅷ期(新)
天神川Ⅵ期		大山Ⅷ期	小浜ワラ畑Ⅱ期			Ⅷ(古) 期	Ⅸ期(古)
天神川Ⅶ期			小浜ワラ畑Ⅲ期	服部Ⅲ期		Ⅷ(新) 期	Ⅸ期(新)
天神川Ⅷ期						Ⅸ期	X 期(古)
天神川Ⅸ期		大山Ⅸ期					X 期(新)

挿表18 古墳時代土師器編年案対応表

6. 在地土器と布留系土器の胎土分析について

長瀬高浜遺跡では、在地産の甕A類、鼓形器台、甌などの他に、布留系の甕C類、小型器台、小型丸底壺、小型丸底鉢などが大量に出土している。

これまで、胎土分析を行ってきたが、三辻利一氏によってA、B 2種類の胎土が認められることが指摘されていた^(文献7)。この2種類の胎土は、いずれも在地のものと考えられ、時期ごとでの出現率をみると、天神川Ⅲ期からⅣ期に移るころに、当遺跡でA類胎土を使用する土器が多く用いられるようになったと考えることができた。

しかし、今回の解析結果では、在地系、外来系を問わず大半の器種は在地産の胎土を使用しているが、中には異なる地域の胎土が使用されたと指摘された。しかも、表面観察では明らかに外来系と思われたものが、在地産胎土を使用していたり、在地系器種であるにもかかわらず、他地域の胎土が使用された可能性も指摘されたことから、今後の土器研究を進める上で大幅な転換を求められる結果となった。

その解釈については、今後の資料の蓄積に待つところが多いため、多くは述べられない。今後の課題として残しておきたい。(牧本)

註

1. 甕A類には、内面肥厚するもの、内傾するもの、端部が強くナデられ凹線が巡るものなどが見られ、甕C類には、直線的に開くもの、内湾気味に立ち上がるもの、口縁端部外面にアクセントをもつものなどがある。
八峠興・岩崎康子「長瀬高浜遺跡出土土器の分類」『長瀬高浜遺跡Ⅷ』鳥取県教育文化財団1997
2. 岩吉遺跡で弥生時代中期後半、後期後半ごろのものに叩きが認められている。
谷口恭子「土器」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市教育委員会1991
3. 亀田修一氏のご教示による

参考文献

1. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1978
2. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1981
3. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ』1981
4. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ』1982
5. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』1983
6. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』1983
7. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅶ』1997
8. 鳥取県教育文化財団『南谷ヒジリ遺跡 南谷夫婦塚遺跡 南谷19～23号墳 乳母ヶ谷第2遺跡 宇野3～9号墳』1991
9. 鳥取県教育文化財団『宇谷第1遺跡 南谷大ナル遺跡』1992
10. 鳥取県教育文化財団『南谷大山遺跡 南谷ヒジリ遺跡 南谷22・24～28号墳』1993
11. 鳥取県教育文化財団『園西川遺跡 園7号墳 原第2遺跡』1993
12. 鳥取県教育文化財団『南谷大山遺跡Ⅱ 南谷29号墳』1994
13. 鳥取県教育文化財団『石脇第3遺跡—森末地区・操り地区—石脇8・9号墳 寺戸第1遺跡 寺戸第2遺跡 石脇第1遺跡』1998
14. 鳥取県教育文化財団『小浜ワラ畑遺跡 小浜小谷遺跡 池ノ谷第2遺跡』1998
15. 鳥取県教育文化財団『宮内第1遺跡 宮内第4遺跡 宮内第5遺跡 宮内2・63～65号墳』1996
16. 高橋護『土師器の編年 3 中国・四国』『古墳時代の研究 6 土師器と須恵器』雄山閣1991
17. 土井珠美「鳥取県の状況」『弥生時代後期から古墳時代初頭のいわゆる山陰系土器について』
第18回埋蔵文化財研究会事務局 1986
18. 松井潔「東の土器、南の土器—山陰東部における弥生時代中期後半～古墳時代初頭の非在地系土器の動態—」『古代吉備 第19集』1997
19. 山本清「山陰の鼓形器台と当代の墓制」『出雲の古代文化』六興出版 1989
20. 井上和人「布留式土器の再検討」『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 文化財論叢』1983
21. 青木勘時「大和・河内の庄内土器—その出現から盛行期を中心として—」『庄内式土器研究Ⅺ』庄内式土器研究会1996
22. 植田文雄「近江湖東地域の庄内～布留併行期土器編年」『庄内式土器研究Ⅷ』庄内式土器研究会1994
23. 財大阪府埋蔵文化財協会『陶邑・伏尾遺跡—A地区—』1990
24. 谷口恭子「土器」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市教育委員会1991
25. 鳥取県教育委員会『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ A・B・E・H地区』1978

第2節 古墳時代集落について

長瀬高浜遺跡は、古墳時代においては前期に盛行する天神川下流域の拠点集落遺跡である。現在までに、集落関連の遺構として、竪穴住居跡262棟、掘立柱建物跡63棟、井戸跡12か所などが検出されている。

以下、天神川編年をもとに、集落の変遷を概観し⁽¹⁾、続いて集落構造について検討を行う。各調査区は、A～D区の4地区に区分した。A区からC区は地形により区分し、D区については遺構の分布上、B区とは分離できるものと判断した。

1. 集落の変遷

長瀬高浜の地に初めて集落が形成されるのは、弥生時代前期である。住居跡5棟で形成され、B区の南側を中心とする。1棟を除いて玉作り工房跡とされている。継続性はないが、朝鮮半島の無文土器と考え得る土器片が出土するなど、拠点集落の一角をなすと推察される。以後、古墳時代前期まで生活関連遺構は確認されていない。

I期は、古墳時代の集落が形成され始める時期である。古墳時代前期前葉であろう。住居跡は、A区で4棟がみられるほかは、散在的な分布を示す。B区には、大型住居⁽²⁾SI142(床面積44.2㎡、平面六角形?)があり、井戸SE04が設けられる。D区では、布堀の掘り方、独立棟持柱を有する大型掘立柱建物SB30のほか、SB29が造営される。両者は、主軸が平行することから、併存した可能性が高い。これらは、集落の中核を構成する施設であったと考え得る。以後、V期に至るまで、B区は集落の中心的なエリアとなる。

II期は、集落規模が急速に拡大し、中核施設が複数形成される時期である。古墳時代前期前葉である。土器には、畿内の布留式土器群の影響がみられるようになり、器種が増加する。

住居跡は、A、D区で引き続き小規模に営まれる一方、B、C区においては急速に増加する。井戸は、C区でSE12が掘削される。埋砂中から、丹後地方からの搬入と考え得る壺の破片が出土している。B区では、SB04の周辺に密集する住居跡群と、その西側を弧状に囲む一群の合計二群に分けられ、空地(以下広場と呼ぶ)を隔てて北東側には、柵に圍繞された大型掘立柱建物を中心とする一群がある。

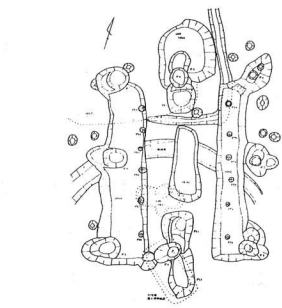
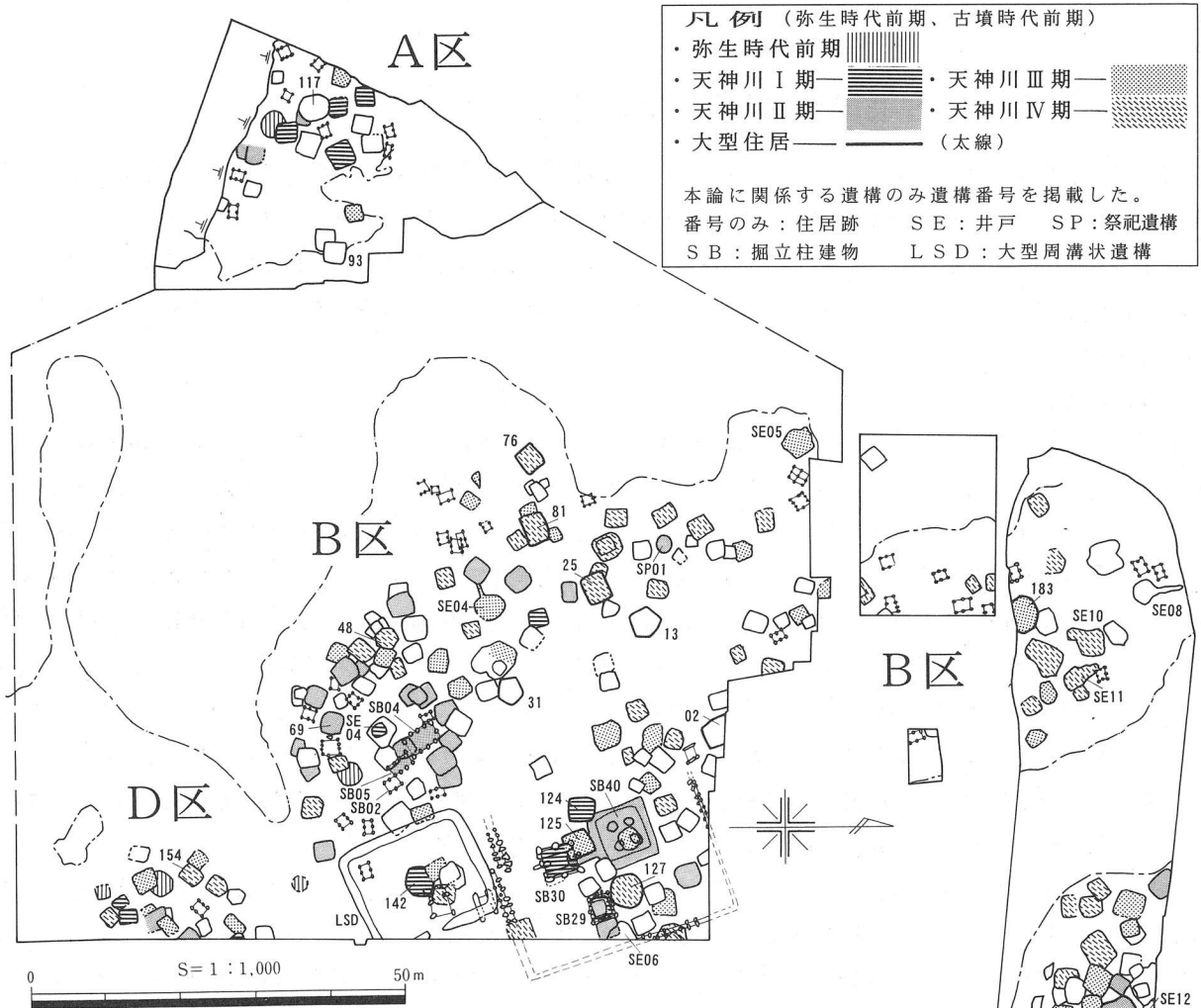
前時代のSB29の北側に、新たに大型掘立柱建物SB40が築造される。周囲は、平面前方後方形を呈する柵(板壁か)で圍繞される。さらに二重の柵により外部と隔絶されており、内部は、一般の居住地とは異質な空間を形成していたであろう。

これとは別に、南西側において、大型掘立柱建物SB04を中心とする4棟が検出されている。南東側に接するSB05も、主軸が同じであり併存する可能性がある。SB04の周囲は、住居跡群で囲まれており、中には大型住居SI31(床面積43㎡、五角形)が含まれる。ただし、遺構は重複することから、同時併存は3棟前後となろうか。

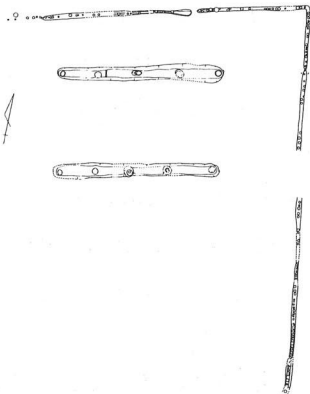
SB04周辺に密集する住居跡の周囲には、これをさらに取り巻くように数棟の住居跡が弧状を描いて分布する。このような弧状を呈する住居配置は、広場を中心とする形態としてIV期まで継続する。さらに、この住居跡群の約20m北側のSP01では、同時期の土器、剣先形鉄製品、素文鏡などが集中して出土し、祭祀の場と想定される。遺構埋砂中から多量の土器が出土した住居跡⁽³⁾には、SI69があり、138個体以上が出土している。

III期には、集落規模はさらに拡大し、IV期にかけて集落の最盛期を迎える。古墳時代前期中葉である。B、C区が主体をなす。C区は遺構密度が最も高まる。B区の住居跡は、広場を中心に数群が散在する。大型住居SI125(床面積40.3㎡)を含む南側の二群、SE02を囲むように分布する二群、SE05西側の一群、さらに北側の大型住居SI183(床面積41.5㎡?)を含む一群、の合計六群程度に分けられる。弧状の住居配置は明確さを欠くが、中心に広場を設けることには変化がない。広場の中央付近にはSI14があり注目されるが、時期不明である。大量の土器を投棄した遺構に、井戸SE03(115個体以上)がある。住居群の北側には、SE05、さらにC区にSE12の井戸が設けられる。SE05からは、畿内の庄内式の特徴を持つ甕片が出土している、C区では、土器が多数廃棄された遺構SI249(280個体以上)を含む、多数の住居が重複しつつ展開する。

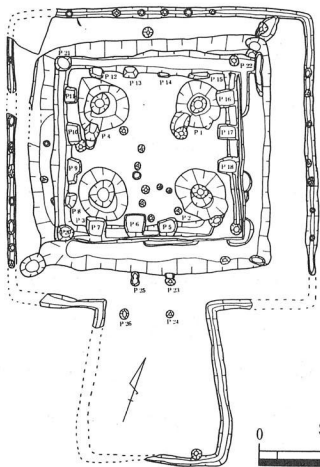
また、A、D区では引き続き数棟程度の小規模な集団が継続する。III期以降、集落全体の中核をなす施設は検出されていない。



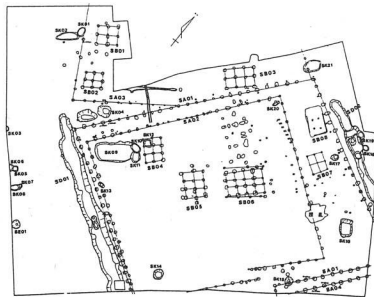
1. 長瀬高浜遺跡 SB 30 (天神川 I 期)



3. 岡山市津寺遺跡 掘立柱建物 54 (古墳時代前期後半)



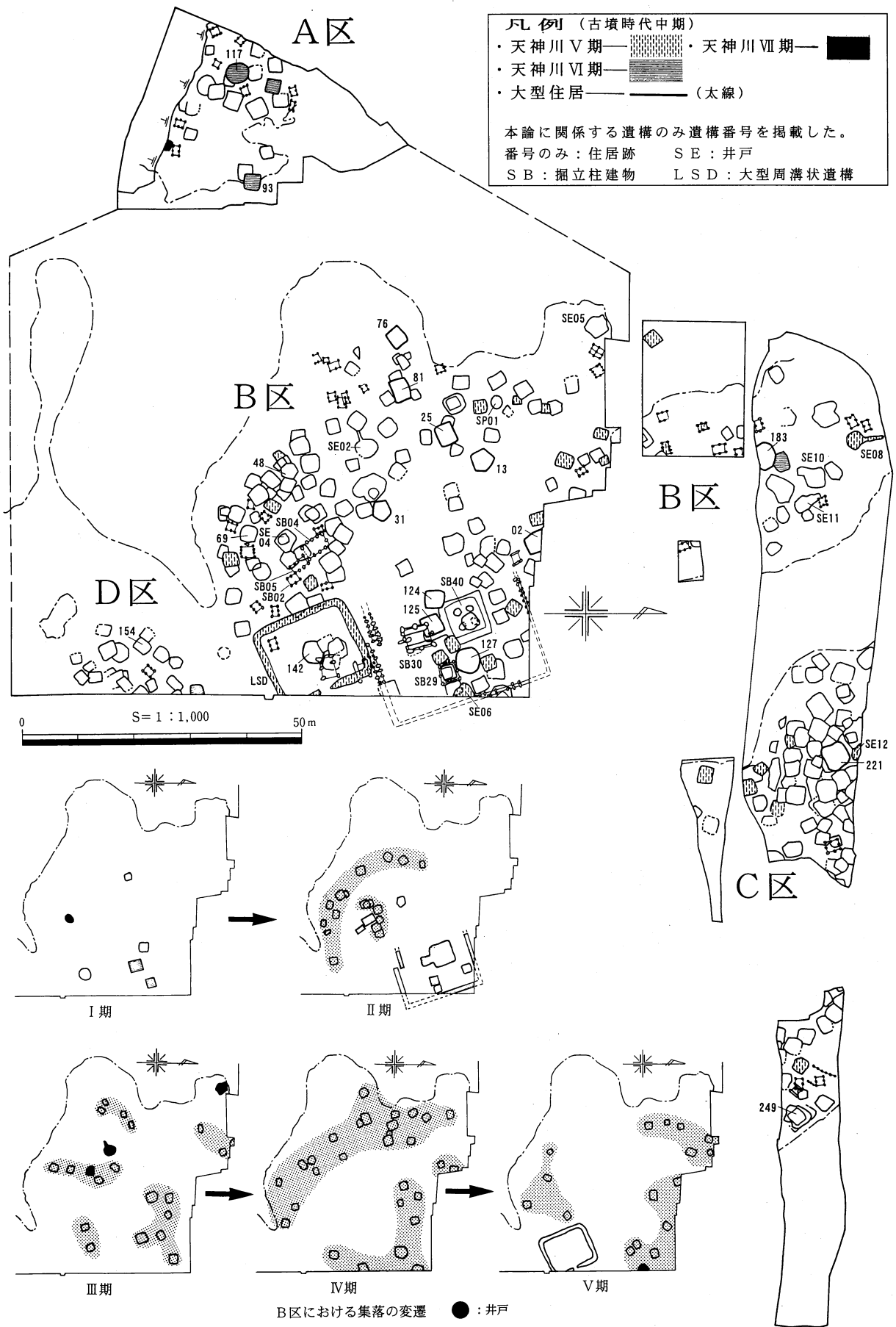
2. 長瀬高浜遺跡 SB 40 (天神川 II 期)



4. 神戸市松野遺跡 (5 世紀後半) (S=1/1500)

出典：1・2. 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書V』1983 鳥取県教育文化財団
 3. 『津寺遺跡 5』1988 岡山県教育委員会
 4. 『松野遺跡発掘調査概報』1983 神戸市教育委員会

挿図196 長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代前期 (I~IV期)



挿図197 長瀬高浜遺跡集落変遷図古墳時代中期 (V・VI期)

Ⅳ期は、Ⅲ期に続き集落の最盛期であり、古墳時代前期後葉にあたる。B区の広場を囲む住居跡群は継続されるが、Ⅲ期よりも外側に配置され、広場は拡大する。同時に全体を構成する住居数が増大し、北側にも分布が拡大する。C、D区でも継続して集落が営まれる一方、Ⅰ期以来継続していたA区では廃絶する。井戸は、Ⅴ期にかけてB区北側を中心に掘削されるが、Ⅳ期ではSE10、11がある。大型住居はB区のみで確認された。SI81（床面積44.6㎡）、25（47.9㎡）、127（49.7㎡）の3棟である。SI81からは、備讃瀬戸内系とされる製塩土器が出土している。平面形が五角形という点では、SI48も特徴的であろう。

Ⅴ期は、住居数が減少し、集落が衰退し始める時期である。古墳時代中期前葉である。土器も、器種が減少するなど画期を迎える。B区の広場を取り囲んでいた住居群のうち、南西側の一群は急速に減少する。C区でも減少傾向にあり、D区に至ってはⅠ期以来継続していた住居群が廃絶する。井戸は、B区北東端にSE06が設けられ、周囲に住居が築かれる。一方、B区東側には、方形に巡る大規模な溝LSDが存在する。内部には、LSDと併存しうる遺構は確認されていない。溝埋砂上層から100個体以上の土器が出土しており、祭祀など特殊な性格を有したとも考え得る。大型住居、大量の土器が廃棄された遺構は、確認できない。

Ⅵ期は、住居跡数は急速に減少し、数棟の住居跡が分布する寒村的な状況となる。古墳時代中期中葉であろう。C区では全く分布せず、B、D区でも各1棟のみである。一方、Ⅳ、Ⅴ期と断絶していたA区に再び3棟の住居跡が確認できる。平面形が、円形または六角形の住居跡SI117（床面積30㎡）は特徴的である。なお、A区のSI93からは、TK73型式に比定される初期須恵器が出土している。

Ⅶ期は、集落自体はほぼ廃絶し、住居はA区で1棟のみになる。古墳時代中期後葉にあたる。SI92から、TK216型式に比定される須恵器の腿が出土している。

本遺跡では、Ⅶ期を最後に集落は形成されなくなり、以後墓域として利用され、多数の古墳が築造される。Ⅶ期には、すでにA区で5基の古墳が築造されている。

2. 集落の構造

集落の変遷を概観したが、古墳時代における一つの土器型式がもつ時間幅は、三、四十年程度と想定されており、同一時期に比定した遺構全てが共存するとは考え難い。従来、集落論が、とくに西日本において活発でない原因の一つは、分析段階におけるこうした不確定要因の多さに求められる。和島誠一氏に始まる集落研究の過程において、併存遺構の抽出方法についても模索が行われたが⁽⁴⁾、客観的な方法論の策定には至っていない。

本項では、厳密な併存住居の抽出は行わない。そこで、平面的な遺構分布状況の検討、および、大型住居、土器が大量廃棄された住居跡、大型掘立柱建物など特徴的な遺構の分析から、集落構造の解明の手がかりを得たい。

なお、C区については調査区の関係上、周囲の状況が不明瞭なため、B区を中心に分析する。

集落は、B、C区を中心に展開したと考えられるが、A区ではⅠからⅢ期まで、D区ではⅠからⅣ期まで、未調査区にかかるものの、それぞれ2～5棟程度を有する小集団が継続する。これらとB区とは、地形的または分布的なまとまりとして区分できる。A、D区の集団は、拠点集落を形成する一集団であるとしても、継続性の点からみても、B区の集団と同一とは認めがたい。また、C区とB区の間は尾根上の高まりにより分離できることから、この両者も一集落内での異なる集団と考えられる。ただ、井戸のように、各地区の集団が占有するのではなく、集落全体の共用施設は存在したと考えられる。

B区では、集落が盛行するⅡ期からⅣ期にかけて、広場を中心に弧状を呈する住居配置が行われる。配列に厳密さはなく、遺構は重複しており、併存の住居は確定できない。しかし、土器型式上の二時期以上にわたり一定の住居配置が認められる場合、その分布状況が数十年にわたる時間的な集積の結果であるとしても、少なくともある程度の期間は、その住居配置がとられたであろうことは認めてよい。広場や掘立柱建物、溝などの周囲を弧状（半円状）を呈する住居群で囲む配置形態は、早くから和島誠一氏が埼玉県五領遺跡の分析でも指摘しており、関東地方の集落跡ではよく指摘される。近畿では、兵庫県長越遺跡などで指摘されている。これは、集落がある程度の企画性を有することの傍証であり、B区がいわゆる単位集団を基礎とする集合体であったとしても、個々の集団は共同体的な関係によって結ばれていたことの表れであろう。集落構成の基礎単位が単位集団であること

は各地で検討されているが、山陰地域でこれが証明された例はみられない。しかし、I期のA、B区では3棟程度、A、D区では、各時期とも2—4棟程度の住居跡で構成されており、掘立柱建物の保有形態は不明だが、集落の基礎単位としての小集団が存在したことは考え得る。

こうした住居群の中に、少数の大型住居跡が存在する。I期から2棟が存在し、IV期の4棟でピークを迎える。集落が衰退するV期以降には確認できない。平面形が、多角形や円形のものもある。特徴的な例として、SI13からは、土器は器台1個体のみ、時期は不明であるが、SI02でも、甕1個体のほかはすべて鉄鏃、ヤリガンナなどの鉄製品であり、17点が図化されている。遺物の残存はあくまで偶然的な結果であるが、一般の住居とは異なる可能性がある。大型の竪穴住居は、弥生時代中期以降において各地で検出されており、東郷池東岸丘陵上の南谷大山遺跡においても、弥生時代後期から天神川I期にかけて、継続的に築かれている。住居の規模がいかなる社会構造の反映かは分からないが、大型住居は一般的に、多人数世帯の住居、集落内での有力世帯の住居、もしくは共同家屋として評価されている。弥生時代のものとは本質的に異なることもあり得るが、継続して築かれていること、通常の数倍近い規模を有すること、さらには集落が衰退するV期以降に見られないことを考慮して、現状では住居群内における有力世帯の住居として理解したい。また、床面積10㎡以下のものも21棟出土しており、「住居跡」とされている遺構全てが住居としての機能を有したか疑わしい。集落内には、平地式住居、納屋、小屋、垣根、道など多様な施設が存在したことは、すでに群馬県黒井峯遺跡において証明されている。こうした施設の確認は困難だが、意識する必要はあろう。

また、土器が大量に投棄される住居跡や井戸がある。II期のSI69、III期のSI249、SE03である。二型式にわたる土器が出土する例があることから、土器の処分方法の一つとして、特定の住居跡の窪みが選択され、長期間に利用された結果とも考え得る。しかし、SI249では、280個体を越える土器、素文鏡、剣先形鉄製品が出土し、祭祀の過程で投棄された可能性がある。

長瀬高浜遺跡の集落構造の要をなすのが、大型掘立柱建物群である。東側が未調査地であるため、集落全体のいかなる位置にあたるのかは不明である。独立棟持柱を有する大型掘立柱建物は、近畿では、弥生時代IV期以降に増加する。鳥取県内でも、弥生中期後半から後期の例として、淀江町茶畑山道遺跡、百塚第7遺跡など、古墳時代前期には青木遺跡で確認できる。前期後半のものに、岡山県津寺遺跡の掘立柱建物54がある。布掘りの掘り方をもつ大型掘立柱建物で、周囲16×20m以上を布掘りの柵によって圍繞されている。この点、当遺跡のSB40に類似する。平面前方後円形を呈するものは他に類例をみない。また、時期不明であるが、当遺跡で布掘りの掘り方を有する掘立柱建物3棟がある。SB40を圍繞する柵の南側は、鉤状を呈し、出入口と理解されている。類例として、神戸市兵庫区の松野遺跡がある。五世紀後半の所産であるが、柵の内部に総柱の建物が3棟配置され、豪族居館として評価されている。

SB29、30、40の上部構造は不明であるが、高床建物が想定されており、「神殿」とする見解もある⁶⁾。掘り方の規模からみても、大がかりな建物構造が想定され、集落全体のシンボリックな存在であったことは間違いない。注目すべきは、これらが神殿であれ首長の居館であれ、集落形成当初から完成された形態として導入されていることである。集落の形成過程を経て生み出されたものではなく、技術的にも外部から導入されたと考えられる。集落形成直前の弥生時代末に、天神川下流域においてこのような特異な建物は、確認できない。

また、II期には、SB40の一群と、この南西側に位置するSB04の一群が併存していた可能性がある。SB04周辺にはこれを囲むように住居跡が分布するが、SB40周辺には稀である。両者は、建物構造の違いを含めて対照的であり、性格の違いを窺わせる。埼玉県五領遺跡では、倉と想定される掘立柱建物の周囲を囲むかたちで住居跡が配置されており、こうした一例とも理解できる。大型建物群は、III期以降継続せず、集落の最盛期を目前に突然姿を消す。

大型掘立柱建物群の性格を推察する上で示唆的な資料として、遺跡の東側丘陵上の橋津（馬ノ山）4号墳がある。長大な竪穴式石室、三角縁神獸鏡、豊富な玉類をもち、古墳時代前期後半の所産と考え得る。集落との地理的な位置関係や、集落の最盛期に築かれることからみて、被葬者が集落内に居住していたと考えるのが自然であ

ろう。遺跡内でこの時期の大型建物は確認されないが、集落の形成当初から、首長によって統率されていた蓋然性は高い。Ⅰ～Ⅱ期に築造された大型建物群を「神殿」と評価するなら、その祭祀は、もはや集落内の共同祭祀ではなく、首長によって掌握された多分に政治的な性格を帯びたものであったとみることができる。

このように、集落内には、大型竪穴住居を含む竪穴住居が広場を中心に配置されており、こうした集団が複数存在したと考えられる。個々の集団は数棟程度の小集団によって構成されていた可能性がある。そして、集落全体は、首長を頂点として一つの共同体を形成していた。大型住居が有力者世帯の住居であるなら、集落内では、少なくとも首長—有力世帯—一般世帯という階層構造が存在したことになる。

集落は、砂丘の腐植砂層（クロスナ）を基盤として形成される。クロスナ層に遺跡が形成されていることは最近になって知られつつあり、県内では鳥取市身干山遺跡がある。上下二層のクロスナ層のうち、下層から弥生時代前期の土器が、上層から古墳時代前期の箱式石棺が出土したという。北条砂丘の西側の東園でもクロスナの存在が確認されており、今後日本海沿岸においてクロスナ層に立地する遺跡が確認される可能性は高い。

集落立地は、その生業基盤と不可分の関係にある。遺跡の南側では、グライ土壌が検出されており、東郷池へ至る平野部分で当該期の水田が検出される可能性が高い。また、住居跡内から、多数の鉄製農耕具とともに、釣針や土錘、鉄鏝などが出土しており、農耕の他に、地の利を生かした漁撈、狩猟を行っていたと考えられる。福岡県御床松原遺跡は、海岸砂丘上に立地する弥生時代から古墳時代中期にかけての大集落遺跡であるが、多量の漁具、魚貝類が出土し、半農半漁民の集落と理解されている⁽⁶⁾。砂丘地ではあるが、砂丘形成が停滞していた当時においては、居住には適当な地であったといえる。

長瀬高浜遺跡が、古墳時代前期から中期前半における拠点集落であったことは間違いない。このことは、集落の規模、継続性、中枢施設の存在、吉備、丹後、畿内など、多方面からの搬入土器の存在などに表徴される。大型掘立柱建物群についても、各地に類似する属性が見受けられる。山陰地方の古墳時代集落において、これほど大規模かつ広範なネットワークをもつ集落は、希有であろう。また、山陰で最も早く畿内系の前方後円墳（馬ノ山4号墳）を築造し、畿内の布留式系の土器様式をいち早く取り入れるなど、畿内とのつながりの強さも窺える。天神川下流域は、三角縁神獸鏡の保有率においても他の山陰地域を凌駕しており、畿内政権が、この地域を山陰の拠点として重視したものと推察される。また、竪穴住居262棟のうち、100棟以上から何らかの鉄製品が出土している。Ⅰ期からⅡ期にかけての住居跡52棟のうち、16棟以上において鉄製品が出土しており、前期でも早い段階から、ある程度鉄器が普及していたものと推察される。Ⅳ期の住居跡SI163では、床面近くから轆が出土したとされており、集落内に鍛冶炉が存在した可能性もある。長瀬高浜遺跡は、古墳時代前期の西伯耆における物流および情報の一大拠点であったと位置づけられる。

今後は、集落の形成、突然の廃絶の要因をいかなる点に求めるのか、廃絶後は分散したのか移動したのか、さらには、周辺の集落遺跡との間に母村—分村関係などが成立しうるのか、など周辺の遺跡を含めた広範囲な検討が必要となろう。

（岡野）

（脚註）

- (1) 遺構の時期比定は、基本的に床面、および埋砂下層出土の遺物を基準とした。出土層位が報告書に記載されていない遺構については、出土した土器のうち、主体をしめる時期を遺構の時期と判断した。
 - (2) 長瀬高浜遺跡においては、床面積15～25㎡未満の住居が最も多く、床面積が判明または想定できる住居跡164例のうち79例と全体の48%、30㎡以下のものは75%を占める。大型とする基準は各遺跡において流動的であるべきだが、本項では、一般的な住居の約2倍の面積である40㎡以上の床面積を持つものを一律に大型住居とした。集落内で13例検出されている。
 - (3) 一つの遺構内から100個体を越える土器が出土した場合、これを大量に投棄された遺構と判断した。ただし、過去の調査において個体数が明示されないものについては、報告書に掲載される実測図の個体数を下限とした。
 - (4) 関東地方では住居同士の距離の分析から併存住居を抽出する方法なども試みられている。いずれも土器型式を基本とした上での分析であるが、研究者による個人差や、応用できる地域性的の問題などがあり、試論の域を出ない。
 - (5) 広瀬和雄「神殿と農耕祭祀」『弥生の環濠都市と巨大神殿』1996
 - (6) 志摩町教育委員会『御床松原遺跡』1983
甲元真之「農耕集落」『岩波講座 日本考古学』第4巻 1986
- ※参考文献は割愛させていただいた。

第3節 長瀬高浜古墳群の検討

1. 長瀬高浜古墳群の変遷

今年度調査において、3基の古墳(SX97、SX98、SX99)を検出した。この結果、長瀬高浜古墳群は計44基以上の古墳から成ることが判明した。さらに、無墳丘の箱式石棺墓、土壙墓、円筒埴輪棺などを含めると、101基の埋葬施設が検出されたことになる。

これまでに、埋葬施設、土器枕、頭位方向による詳細な検討がなされていたが^(文献1)、今回時期を細分できたことから、時期ごとの構成変化を中心に考えてみることにする。

古墳を概観すると、大きく2地区に分布していることがわかる。中央丘陵を挟んで西側をA区、東側をB区とする。これらは、おおむね古墳時代中期前葉から古墳時代後期後半にかけて造営された古墳群であるが、詳細にみると、挿表19ようになる。

時期が判明するものを見ると、まず、天神川V期に1辺10mの小型方墳の29号墳が造られている。29号墳は丘陵頂部付近にあり、当古墳群中では最高位にある。同様の立地の唯一の前方後方墳である26号墳も、当古墳群では古相のものと考えられる。

次の時期になると前時期に比べて大型のものが現れ、VI期には径14mの4号墳を中心に4基、VII期には径14mの58号墳を筆頭に5基確認できる。副葬品の状況を見ると、VI期では大小を問わずほとんどの古墳に鉄刀・鉄剣・鉄鏃等の武器類が副葬されている。また、古墳以外の埋葬施設のうち、SX100・101のように非常に大きな土壙墓、木棺墓も造られている。

VIII期には、A区に径22mを測る最大規模の1号墳が現れ、その他の4基は径10m程度の小円墳で構成されるようになる。副葬品は、1号墳、28号墳、97号墳に武器類が見られる。

大型の古墳と小規模の古墳が共存する傾向はIX期においても同様で、径20mの3号墳を中心に径10m前後の小円墳6基が造られ、数量的にピークを迎える。副葬品は鉞、刀子等の工具類に変化している。

後期にはいり、X期では極端に縮小傾向になり、確実に径16mの2号墳、径18mの89号墳の2基であるが、小円墳が付随するものと考えられる。副葬品は、2号墳で鉄鏃、刀子がみられる程度である。

その後一時期断絶期があり、TK43併行期に再び出現する。数は少なく径13mの中規模円墳8号墳1基のみである。TK209併行期になると、径14mの24号墳を中心にして小規模のものが3基造られている。

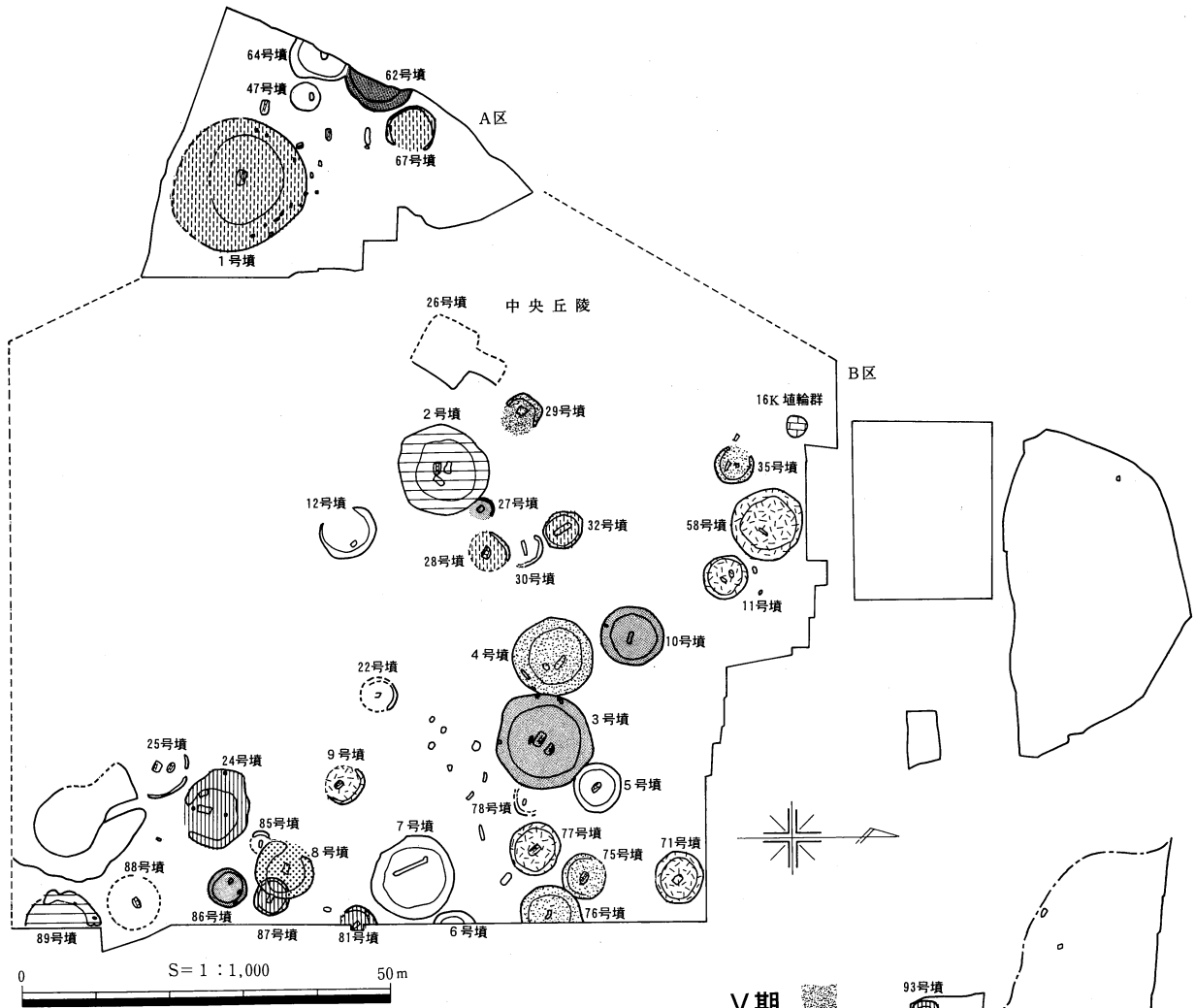
以上、全体を通してみると基数が徐々に増し、IX期でピークを迎える。古墳群形成当初、古墳の規模に差がなく、比較的均質な被葬者層が想定できるが、時期が下るにつれて、規模に著しい格差が生じている。

また、副葬品の状況を見ると、VI～VIII期では鉄剣、直刀、鉄鏃などの武器類、刀子などの工具類他、玉類が見られるが、IX期に入ると武器類の副葬は少なくなり、工具類が多くなる傾向にある。また、遺存状態が悪いため

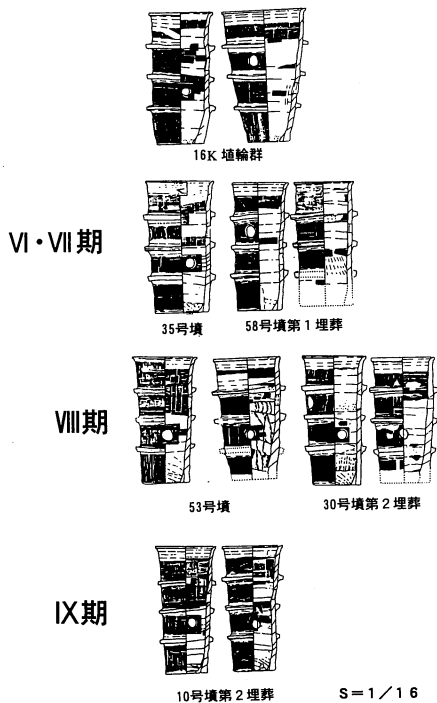
遺構名	墳形	規模m	時期	主体部頭位	副葬品	人骨	遺構名	墳形	規模m	時期	主体部頭位	副葬品	人骨
1号墳	円墳	径22	TK208 VIII期	S-73°-E	鉄刀、堅櫛	熟・女	35号墳	円墳	径8.8	VI期	S-70°-E	鉄鏃、刀子	?
2号墳	円墳	径15.8	MT15 X期	?	鉄鏃、刀子	—	47号墳	円墳	径10	?	—	—	—
3号墳	円墳	径20	TK47 IX期	S-70°-E	①鉞	壮	58号墳	円墳	径14.4	VII期	S-23°-E	—	—
					②ガラス小玉	—	62号墳	円墳	径10	IX期	S-52°-E	—	—
					③水晶勾玉	—	64号墳	円墳	径12.8	?	S-87°-E	—	—
4号墳	円墳	径15	VI期	S-66°-E	鹿角装刀子	?	67号墳	円墳	?	TK208 VIII期	—	—	—
					鉞	—	71号墳	円墳	径10.4	VII期	S-40°-E	—	—
5号墳	円墳	径10.2	?	S-36°-E	滑石小玉	女	75号墳	円墳	径10.2	VI期	S-50°-E	鉄剣、滑石小玉	—
6号墳	円墳	?	?	S-36°-E	—	—	76号墳	円墳	径11.6	VI期	S-50°-E	—	—
7号墳	円墳	径17	?	—	—	—	77号墳	円墳	径11.9	VII期	S-49°-E	鉄斧、玉類	壮年
8号墳	円墳	径13.4	TK43	S-74°-E	—	—	78号墳	円墳	径10	?	S-60°-E	—	壮・男
9号墳	円墳	径10	?	S-38°-E	鹿角装刀子	熟・男	81号墳	円墳	径8	TK209	S-44°-E	—	壮・男
10号墳	円墳	径12	VII~IX期	S-68°-E	—	—	85号墳	円墳	径5.4	?	S-72°-E	—	—
11号墳	円墳	径10	VII期	—	—	—	86号墳	円墳	径8.8	IX期	S-55°-E	②刀子	壮・男
12号墳	円墳	径12	?	—	—	—	87号墳	円墳	径8.5	TK209	S-60°-E	—	—
22号墳	円墳	径8	?	S-88°-E	—	—	88号墳	円墳	径12?	?	S-120°-E	—	—
24号墳	円墳	径14	TK209	S-19°-E	—	—	89号墳	円墳	径18	X期	?	—	—
25号墳	円墳	径14.8	?	S-70°-E	刀子	①壮男	91号墳	円墳	径17.8	?	—	鉄刀、玉類	—
					—	②女	92号墳	円墳	径6.0	IX期	S-90°-E	—	—
					—	③少年	93号墳	円墳	?	TK209	横穴式石室	—	—
26号墳	方・方	長30	?	—	—	—	97号墳	円墳	径10.5	TK208 VIII期	S-60°-E	鉄器	成・男
27号墳	円墳	径6	TK47 IX期	S-41°-E	管玉	?	98号墳	円墳	径11.2	TK23 IX期	—	—	—
28号墳	円墳	径9.2	TK208 VIII期	S-58°-E	鹿角装鉄剣	20代	99号墳	円墳	径19	?	—	—	—
29号墳	方墳	辺9.8	V期	S-58°-E	—	—	10BSD03	05・06方・円?	長30	TK43-209	—	—	—
30号墳	円墳	径8.4	VIII期	S-106°-E	—	—							
32号墳	円墳	径8.8	?	S-32°-E	—	—							

挿表19 長瀬高浜古墳群一覧(古墳に限る)

注) 方・方は前方後方墳
方・円は前方後円墳

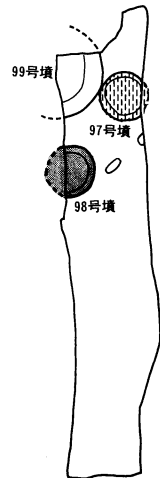
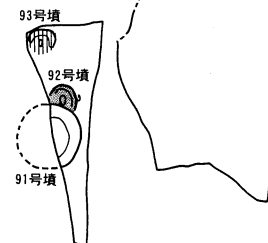


挿図198 長瀬高浜古墳群変遷図



挿図199 長瀬高浜遺跡の円筒埴輪

- V期
- VI期
- VII期
- VIII期
- IX期
- X期
- T K 43
- T K 209



に一概には言えないが、大型墳には武器類、小型墳には玉類が副葬されることが多いようである。

このように、墳丘規模と副葬品の状況を見ると、時期が下るにつれて有力者層と中堅被葬者層との格差が広がっていき、集落内でのヒエラルヒーが生じていたと考えられるが、時期が下るにつれて、被葬者の性格も変質していったものと思われる。

さらに、近接しながら順次築造されるグループが数か所認められる。このグループは、時期不明のものがあるために確実ではないが、75～77号墳、3・4・5・10号墳のように3～4基がひとまとまりになっている。この単位が、おそらく血縁集団の単位^(文献2)と考えられ、氏族の墓域を形成していたものと考えられる。

当遺跡は、集落が縮小するにつれて墓地として変化しているが、古墳群が形成される時期には、24基以上の集落が同時併存しており、集落と墓域が全く切り離されてはいない。VI期以降集落は急激に縮小しているが、古墳群はX期までは連綿と造営されており、おそらく、かなりの規模の集落本体は周辺に移動しているものと考えられ、集落と墓域は近接した状態であったものと考えられる。

2. 埴輪群について

さて、古墳群を分析する上で、避けて通れないものに夥しい数の家形・器財埴輪等からなる16K埴輪群の存在がある^(文献3)。ここから出土している土師器は、天神川V期の特徴をもっているが、混入したものと考えられる。

その他の遺構から出土している埴輪と比較すると、埴輪転用棺は土師器が共伴しているものは、天神川VII～IX期併行と考えられる。埴輪自体は、他の埋葬施設に用いられたものと形態的に大きな差は認められないが、タガの突出度が若干高くやや廻る可能性があり、天神川VI期前後、古墳時代中期中葉ごろのものと考えられる。

その性格については、樹立されるはずの古墳が築かれなくなってしまったという説、出土位置が井戸跡の直上に当たることから水に関わる祭祀説、集落から墓域に替る時期であることから地鎮祭説などが考えられている^(文献4)。

出土状況では、完形のもものが樹立されていたと推定されていることから、廃棄されたものでもなく、単に集積したものでもないと考えられる。また、水に関わる祭祀説についても、SE05が完全に埋没していることから、直接結びつけることはできないと思われる。

また、時期的には天神川VI期前後と、古墳群が形成される時期にあるものの、集落は存在しており、全くの墓地として変容している時期ではなく、地鎮祭説と考えることも困難であると思われる。

状況としては、窪地になっていた場所を利用して、何らかの目的のために樹立されたものと考えられる。

その他の遺構の埴輪は、周溝内埋葬か、古墳に伴わない単独の埋葬施設に限って使用され、副次埋葬施設として利用されたものである。なお、使用されたものはすべて普通円筒埴輪で、大半のものには最上段部に「V」字の記号が施されているのが特徴である。

しかし、埴輪群には普通円筒以外に、大量の器財形埴輪があり、構成としては一般の古墳に並べられるものと同様で、また、埴輪群の円筒埴輪には上記の記号がなく、埋葬用とは異なるものと考えられ、本来古墳に樹立されるべくつくられたものが不要になり樹立されたと考えた方が、より合理的に理解できると思われる。

埴輪が圍繞する古墳は、伯耆地方においては馬ノ山4号墳、北山古墳などの大型前方後円墳に限られており、埴輪群の埴輪が本来古墳に樹立されるとなると、かなり大型の古墳が築造予定であったものといえるのではないか。

(牧本)

参考文献

1. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書VI』1983
2. 近藤義郎『前方後円墳の時代』岩波書店1983
3. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書IV(埴輪編)』1982
4. 坂本敬司「長瀬高浜遺跡出土埴輪群の意味」『郷土と博物館』第32巻第1号 鳥取県立博物館 1986

第4節 古代の遺構について

長瀬高浜遺跡は、全国でも砂丘下にある巨大複合集落として有名な遺跡であるが、奈良から平安時代にかけての遺構・遺物が出土している点についてはあまり注目がなされていない。このことは、これまでの調査で検出された、当該期の遺構・遺物の出土数が、他の時期のそれと比べ、あまりにもわずかであるがゆえと考えることができる。しかし今回の調査で当遺跡の調査に一つの区切りがつくことから、この機会を利用し、この時期の遺構・遺物について、まとめの意味も込めながらここで少し触れてみることにする。

今回みつかったこの時期の主な遺構は、庇付きの総柱建物跡 (SB58) を含む、計3基の掘立柱建物跡 (SB58・59・60)、柵列3基 (SA5・6・7)、整地遺構3基 (整地遺構1・2・3)、溝状遺構3基 (SD18・19・20)、総計87個のピットからなるピット群1か所 (ピット群1) などである。

まずは、掘立柱建物跡・柵列についてから記すことにする。これらはピット群1を構成する総計87個からなるピットの一部から構成されており、主軸はそれぞれN—9°—W (SB58)、N—87°—E (SB59)、N—84°—E (SB60) と、いずれの建物軸も方位からわずかに振れる程度の庇を南北両側に配置するSB58、SA6を伴うSB59、SA5・7を伴うSB60であり、SA5の主軸が若干違うものの、SA6と7のそれは全く同一であった。またこれからは主軸のみならず、配列自体も北側を除く西から南方向にかけての2～3方向に配列しているなど、いくつかの類似点が指摘できる。さらに出土遺物の観点からみると、この遺構検出面付近から赤色塗彩土師器片が多数出土している。これらは山陰地方、特に伯耆地方での出土が多いとされ、伯耆国庁第2様式にあたるもので、茶色味を帯びた色調で薄く塗られ、ハケの痕跡を留める第2様式・SD37形式からSD35形式にかけての、ほぼ9世紀代ごろのものと考えられるものがほとんどであった。

当遺跡外にも伯耆地方では、上福万遺跡、貝田原遺跡、向野遺跡、森藤遺跡、矢戸遺跡等からの出土例があるが、全国一律に分布せず、非分布圏も多数存在していることは、赤色塗彩土師器の出現が中央からの文化伝播ではなく、地方の選択による結果を示すとされる。このことから、長瀬高浜の地を含む伯耆地方でも伝統的な勢力に依拠し、律令体制を消化しながら在地の統制に乗り出す地方政権の姿相を窺うことはできないだろうか。

さらに以前の調査でもSB37・41・42等^(註1)が出土しており、そこからは10点あまりの墨書土器、土師器、鉄製品、帯金具等が出土している。さらに、昭和55年度調査地内 (14Kグリッド南西区・11号墳周溝上) からも帯金具が1点出土している。これらの遺構・遺物が「飛鳥時代の墳墓^(註2)、石蓋土壇、石槨状遺構^(註3)を含んで、調査区Eライン以南に集中して出土することは、この時期の遺跡の様子を語るうえで大変重要な資料になる」とされている。また、平成7・8年度調査でも、この時代に該当する遺構として、南側に庇を持つSB55 (梁行2間以上、桁行3間を測る総柱の掘立柱建物跡) などが検出されている。直接の出土遺物はないものの、周囲 (7Pグリッド) で8世紀後半から10世紀代にかけてのものと考えられる遺物^(註4)が出土している。この建物の主軸方向は、N—28°—Wで、今回検出できたSB58・59・60のそれとは異なるものの、比較的Pライン付近に位置することから、この時期の掘立柱建物跡がPライン以北にかけて、さらにひろがって存在している可能性も十分に考えられ、今後の調査が大いに期待される。

このように今回検出できた各建物跡は、建物跡自体が規模・形態など類似点が多いのみならず、南側から西側にかけてを意識した構造の柵列にも類似点がみうけられる。このような状況から判断すれば、今回検出した建物跡群は、Hライン以南にあったと考える建物跡群とはっきり区画の意図をもって建てられたもので、しかもこの2つの建物群は少なくともほぼ同時期に併存していたと考えることができようか。直線距離にして約300m程離れたこの2地点で、わずかであるものの同様の遺構・遺物が出土していることから判断すると考えられないでもない。ちなみに、これまでの本遺跡調査で検出された長瀬高浜遺跡出土の古代遺構一覧を挿表20としてまとめたので参照していただきたい。

次に、その他の遺構について記す。整地遺構1・2・3があげられる。調査の結果、整地遺構1・3は、古墳時代前期から中期にかけ集落廃絶後に築造された、中期後半ごろの古墳 (SX98・99) 周溝部分の、また整地遺

構2は、中期ごろの竪穴住居跡の、それぞれ窪地部分をいずれもしっかりと整えるように褐色粘質土をかたくしきつめ、大規模かつ丁寧に、整地作業をおこなってできていたものである。なお、ここで使用された褐色粘質土が何処から運ばれてきたものかは今回の調査では特定するに至っていない。さらに、この整地遺構1・2検出面のやや上層にあたる場所からは、3基の溝状遺構(SD18・19・20)も検出している。これらSDについての性格等は不明であるが、整地遺構と切り合い関係にあったSD18検出面から2点の銅製帯金具の一部(丸軋裏金具)が出土している。この裏金具は、当時の官人が用いた腰帯にとりつけられていたとされるもので、位階を示す飾り部分(丸軋)の裏留金具であったとされる。これらの丸軋裏金具は、丸軋分類^(註5)から判断するとA—Ⅲ・A—Ⅳにあたりとされ、これから官位の比定をするとA—Ⅲ=八位、A—Ⅳ=大初位ということになる^(註6)。以前の調査でも、帯の先端に用いる飾りの部分(鈍尾)2点が出土しており、これらの大きさ・特徴等から判断しても今回のそれとほぼ同じ結果が得られるようである。なお、袴帯の制は慶雲4年(707年)から延暦15年(796年)及び、大同2年(807年)から弘仁(810年)の間に限定されることが文献資料から明らかとなっている。さらに、今回の調査では墨書土器も多数出土している。これらは整地遺構上面から出土した2点を含めて計11点で、すべてSB58・59・60検出面の3O・Pグリッド周辺から出土したものである。前述のとおり、このうち5点は「長」という文字もはっきりと確認できるもので、この時期の遺構の性格を判断する上で大変興味深い。この遺物は以前調査された11・12A・Bグリッド周辺でも多数出土しており、12BSD03からは緑釉陶器片1点も出土している。

このような状況から判断すると、前述に本遺跡調査地を含む長瀬高浜の地に、ほぼ同時期の生活拠点²が2地点

遺構名	グリッド	規模	報告書頁	備考
SB37	10C	桁行1間×梁行1間 主軸N-19°-W	IV-98	P3より墨書土器「大」2点出土・当遺構検出面で銅製帯金具(鈍尾)B1出土
SB41	16H	桁行3間×梁行1間 主軸N-52°-E	IV-102	
SB42	10B	桁行1間×梁行不明 主軸N-10°-E	IV-104	柱穴内角石・砂利を敷き詰める
SB55	7P	桁行3間6.9m×梁行2間5.4m以上 主軸N-28°-W	VII-197	南東側に庇をもつ
SB58	3O	桁行2間5.6m×梁行2間4.6m 主軸N-9°-W	VIII-106	南北両側に庇をもつ
SB59	3P	桁行3間約6.4m×梁行1間以上約2.2m 主軸N-87°-E	VIII-107・108	SA6を伴う
SB60	3・4O	桁行2間約5.7m×梁行1間約3.9m 主軸N-83°-E	VIII-109	P2内土師器皿出土 SA5・7を伴う
SI197	6N・O	東西4.0m×南北5.3m 床面積16.5m以上	VII-65	
SD02	10B	幅1m、長さ3.5m	IV-213	8世紀前後の椀・甕等が出土
SD03・05・06	10B~ 10・11A	不明	IV-221	須恵器片多数出土
SD01	12B	幅0.4~0.8m、長さ15m以上	III-278	
SD03	12B	2.29×0.44~0.35m	III-271	緑釉陶器片出土
石蓋土壇	15B	1×1-0.05~0.06m	II-18	
石櫛状遺構	12A	0.6×0.5m	II-18	
SXA01	14E	1.84×1.0-0.37m 主軸N-32°-W	III-214	
SXA02	13E	1.37×0.56-0.15m 主軸N-65°-W	III-215	
SXA03	13E	2.24×0.86-0.29m 主軸N-61°-W	III-215	
SXA04	13D	2.3×0.82-0.25m 主軸N-62°-W	III-215	
SXA05	13D	2.2×0.67-0.17m 主軸N-83°-W	III-215	
SXA06	13D	1.9×1.25-0.31m墓壇内に1.3×0.81mの木棺部をもつ。 主軸N-78°-W	III-215	
SXA07	12D	2.2×1.0mの墓壇内に1.48×0.5-0.15mの木棺部をもつ。 主軸N-89°-W	III-218	
SXA08	12D	1.87×0.82mの墓壇内に1.6×0.48-0.15mの木棺部をもつ。 主軸N-83°-W	III-219	
SXA09	13E	2.65×0.6-0.2m 主軸N-52°-W	III-220	

挿表20 長瀬高浜遺跡出土・古代の遺構一覧表

存在する可能性を指摘したが、出土遺物の観点からみるとさらに、さらに官衙関連施設を担う建物と役人の存在が十分に考えられてくる。つまり当時の役人、役所にとって、どれほどこの地が重要な場所であったかを端的に示唆していると考ええる。奇しくも、『この地の近くに生活し、この時代で官位七位程度の者の存在ということを考えれば、倉吉伯耆国庁の役人の内、七位の位をもつ「掾」が相当する。^(註7)』とされる説があることは大変興味深い。

さて、これまで鳥取県内で発掘調査された遺跡の中で、官衙関連の遺跡であるとはっきり位置づけられているものとして、次の遺跡が挙げられる。伯耆国においては西から岸本町・長者屋敷遺跡^(註8)（会見郡衙推定地とされる）、東伯町・大高野遺跡^(註9)（八橋郡衙の正倉とされる）、東伯町・伊勢野遺跡^(註10)（豪族の邸宅か、八橋郡衙に關係する機関とされる）、北条町・殿屋敷遺跡^(註11)（久米郡下神郷の郷倉の可能性が高いとされる）、東郷町・久見地区（寺院跡か官衙跡ではないかとされる）、さらには近年調査がおこなわれた倉吉市・不入岡遺跡^(註12)などがある。一方、因幡国においては気高町・上原遺跡群^(註13)（気多郡衙推定地とされる）、戸島・馬場遺跡^(註14)（布掘りの建物が出土し、上郡衙坂本郷の郷庁・正倉ではないかとされる）、船岡町・西ノ岡遺跡^(註15)（掘立柱建物跡が土器や硯とともに出土）、郡家町・万代寺遺跡^(註16)（八上郡衙推定地とされる）、岩美町・上ミツエ遺跡^(註17)（円面硯、硯として使用した須恵器の皿出土）などがある。このうち戸島・馬場遺跡の調査は、郡衙の下部機関にあたとみられる官衙施設が正倉別院以外にも存在することが確認できた遺跡として極めて重要な意味をもたらし、また地方支配が国衙・郡衙以外の官衙施設をも動員して遂行されていた実態が明らかになった。

このように、出土遺物により遺跡の性格がはっきりする遺跡がある一方で、近年、古墳時代後期以降の掘立柱建物跡で構成される集落遺跡等の遺跡が多数調査されている。鳥取県内でも、挿表22に示すとおり、該当する遺跡が多数見受けられる。これらの遺跡では、壺・甕などよりも供膳用に規格化される杯・皿類がよく見られるが、墨書土器のような遺跡の特徴を表す資料でも出土しない限り、軽率に官衙関連遺跡と判断することはできない遺跡とされている^(註18)。ならばここで新たな問題が生じてくる。すなわち、帯金具の出土があった長瀬高浜遺跡の場合はともかく、表中に示した大栄町・向野遺跡^(註19)、東伯町・森藤第1・2・3遺跡^(註20)、水溜り・駕籠据場遺跡^(註21)、倉吉市・不入岡遺跡などの場合のように、狭義の国衙・郡衙とは異なる豪族居宅・庄所などの施設を検出している遺跡の性格をどう理解するのか、どのような特徴があれば官衙施設と認定できるか、より厳しく問われなければならない^(註22)。その点では、個々の遺跡の綿密な分析や、その地域におけるその遺跡の位置づけを踏まえた官衙遺跡の指標抽出作業が今後の大きな課題になってくると考えられ、この問題を解決するべく、今後、更に踏み込んだ研究がすすむことを願ってやまない。

いずれにしても今回、この長瀬高浜の地で官衙関連のものと考えられる遺構が検出できたことは、今後調査される周辺の遺跡の性格を判断する上で、優良な資料になると考えられ、大変有意義な調査であったといえる。最後になったが、この報告内容が今後おこなわれるであろう調査の一助となれば幸いであると、発掘調査を担当した者の一人として強く願う次第である。

(井上)

遺 跡 名	遺 構 名	種 類	大きさ (cm) 長さ×幅×厚さ	位 階
1. 因幡国庁	SB105	石帯巡方表	3.5×3.3-0.5	八位 (A-Ⅲ)
	SB107	石帯丸軛表	最大幅2.2、厚さ0.6	八位 (A-Ⅲ)
2. 岩吉遺跡	遺構外	石帯 (丸軛)	2.2×1.8-0.35	不 明
3. 伯耆国庁	SD18近辺包含層	銅製鉸具	不 明	不 明
	南門推定地	銅製鉸具	不 明	不 明
	SD08北側土坑	石帯丸軛表	4.2×3.7-0.57	七位 (A-Ⅱ)
4. 東郷町宮内	不明	石帯	不 明	不 明
5. 諏訪遺跡	SI03	石带状石製品	欠損6.0×4.0-0.2	不 明
6. 青木遺跡	HSI36	銅製鉸具	4.6×2.5-1.0	七・八位 (A-Ⅲ)
7. 長瀬高浜遺跡	遺構外14K南区	銅製蛇尾	3.9×3.5-0.4	七位 (A-Ⅱ)
	遺構外10B粘土面上面	銅製蛇尾	3.4×4.2-0.6	七位 (A-Ⅱ)
	SD18上面	銅製丸軛裏	欠損2.2×2.55-0.1	大初位 (A-Ⅳ)
	SD18上面	銅製丸軛裏	1.9×2.5-0.1	八位 (A-Ⅲ)

挿表21 鳥取県内出土帯金具・石帯一覧表

註・参考文献

1. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅳ』1982
2. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅲ』1981
3. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告Ⅱ』1981
4. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅶ』1997
5. 奈良国立文化財研究所「考察・金属器—巡方・丸柄分類表—」『平城京発掘調査報告Ⅵ』1975
6. 奈良国立文化財研究所「考察・金属器—官位の比定—」『平城京発掘調査報告Ⅵ』1975
7. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅳ』
—天神川流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(3)—1981
8. 岸本町教育委員会『長者原遺跡群発掘調査報告書』1982
9. 東伯町教育委員会『東伯町内遺跡発掘調査報告（大高野遺跡）』1993
10. 東伯町教育委員会『伊勢野遺跡群予備調査報告』1978
11. 北条町教育委員会『殿屋敷遺跡』1988
12. 倉吉市教育委員会『不入岡遺跡群発掘調査報告書』1995
13. 気高町教育委員会『上原遺跡発掘調査概報』1979・1982
14. 気高町教育委員会『馬場遺跡発掘調査報告書』1993
15. 船岡町教育委員会『西ノ岡遺跡遺跡発掘調査報告書』1981
16. 郡家町教育委員会『万代寺遺跡発掘調査報告書』1983
17. 岩美町教育委員会『上ミツエ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1987
18. 鳥取県埋蔵文化財センター『鳥取埋文ニュースNo.18』—特集・鳥取県の官衙遺跡—1987
19. 大栄町教育委員会『向野遺跡・後ろ谷遺跡発掘調査報告書』1984
20. 東伯町教育委員会『森藤第1・第2遺跡発掘調査報告書』1987
21. 東伯町教育委員会『水溜り・駕籠据場遺跡・森藤第3遺跡発掘調査報告書』1988
22. 山中敏史「国府・郡衙跡調査研究の成果と課題」『奈良国立文化財研究所文化財論叢Ⅱ』同朋舎出版1990

遺 跡 名	市町村名	墨書土器	備 考
1. 秋里遺跡	鳥取市	×	生活用具、円面硯、土馬など出土
2. 広庭遺跡	岩美町	×	
3. 郷原遺跡	河原町	×	ほぼ小型、単弁7葉蓮華文軒丸瓦出土
4. 大井聖坂遺跡	佐治村	×	
5. 陸逢遺跡	気高町	×	大型建物跡2棟出土、有力首長の邸宅か？
6. 山宮茶山畑遺跡	気高町	○	小規模建物跡出土
7. 三王尻遺跡	気高町	×	小規模建物跡出土
8. 柄杓目遺跡	鹿野町	×	大型の建物跡、総柱建物跡出土
9. 森藤第1・2・3遺跡	東伯町	○	庇付き建物跡出土
10. 水溜り・駕籠据場遺跡	東伯町	○	大高野遺跡の近くに位置し、関連があるのでは？
11. 由良遺跡	大栄町	×	大型のもの多数出土、集会所の建物・役所跡・有力者の建物か？
12. 向野遺跡	大栄町	○	小型の建物跡が多数の礎とともに出土
13. 長瀬高浜遺跡	羽合町	○	整地面上に建物跡、銅製帯金具が出土
14. ウナ谷遺跡地区	関金町	×	
15. 観音堂遺跡	倉吉市	×	時期が建物跡の方向により4期に分かれる
16. 西前遺跡	倉吉市	×	24棟の内2棟は布掘りをもつもの
17. 宮ノ下遺跡	倉吉市	×	
18. 不入岡遺跡	倉吉市	○	墨書他、8世紀代（伯耆国庁1期）を中心に10世紀代の土師器出土
19. 青木遺跡	米子市	×	奈良期56棟、総柱建物跡も出土
20. 福市遺跡	米子市	×	青木遺跡出土のものより規模大きい
21. 樋ノ口遺跡群	米子市	×	規模のわりに柱穴大きい、有力者の家か？
22. 西山ノ後遺跡	米子市	×	建物跡より、胞衣埋納に関わる遺構発見
23. 東宗像遺跡	米子市	×	
24. 陰田遺跡	米子市	×	
25. 上福万遺跡	米子市	○	建物跡規模小さい
26. 石州府第4遺跡	米子市	×	竈形土器、ミニチュア土器出土
27. 浜ノ坂遺跡	名和町	×	奈良・平安時代の鍛冶場跡ではないか？
28. 小松谷遺跡	中山町	×	製鉄に関する遺構か？
29. 宮尾遺跡	会見町	×	
30. 下山南通遺跡	溝口町	×	平安時代の鍛冶人が営む作業場か？
31. 陰田小犬田遺跡	米子市	○	伯耆国と出雲国の国境にあたり、駅家や宿泊施設の役割を果たす官衙的機関を配置か。
32. 下山遺跡	米子市	×	裾斜面に立地。作業的なものか

挿表22 鳥取県内の古代・掘立柱建物跡で構成される集落遺跡一覧表

第5節 畠跡の検討

長瀬高浜遺跡では、平成7年度2404㎡、平成10年度722㎡、合計3126㎡の畠跡が調査された。調査区の南北両側にも畠が続き、両調査区間にも畠が広がると考えられることから、畠の範囲はさらに広がり4500㎡以上になる。また、平成7年度以前の調査でも畠状の起伏が検出されており、昭和53年度調査のものと思われる写真に確認できる（文中写真⑤）。一方、米子市錦町第1遺跡でも、13世紀代の砂丘地で営まれた畠跡が検出されており（文献15）、当時の自然環境、土地利用状況などを考えるうえで興味深い。

平成7年度に調査された畠と、今年度調査された畠とは形態がやや異なる。また畠の営まれた時期が前者は古代と報告されているのに対し、今回のものは13世紀以降になることから、その位置づけについても検討の必要がある。ここでは、本年度までの調査結果をまとめ、長瀬高浜遺跡で畠が検出されたことの意味を考えてみたい。

(1) 畠の形態

溝・道などの区画が明確に残っている畠は、1・3～5・9・11号畠である。1・3～5号畠は畦と道によって区画され、一部柵列がみられる。この柵列は、南側に位置する、昭和58年度に調査された地区にまで延びている（SA01）。一方、9・11号畠では大規模な畦・道は検出されず、浅く細い溝により区画される。区画された一枚ごとの畠の平面形は、条里水田にみられるような規格的なものではない。面積は、最も広い1号畠で729㎡以上ある。全体を検出できたものはないため明確ではないが、本年度調査した9～14号畠はやや小規模なものであったようである。

1号畠は斜度おおよそ16°の比較的急な斜面部に営まれており、畠方向は等高線に直行する。このことから、大規模なかけ流し灌漑が行われていた可能性が指摘されている。その他の畠は緩斜面から平坦面にあり、畠方向はあまり意識する必要はなかったと思われる。

各畠の畠幅、畠間幅はおおよそ50～70cmであるが、9号畠は畠幅が1m前後と広く、他の畠とは大きく異なる。その理由としては、栽培植物が異なる、同一植物でも栽培方法が違うなどが考えられる。本年度調査した9～14号畠の土壌分析の結果、10・11・13号畠では畠・畠間ともにイネのプラント・オパールが2000～2500個/gあるのに対し、9号畠畠間の密度は800個/g程度と低く、畠でもやや少ない傾向にある。このことから、陸稲以外の作物を栽培していた可能性が強いが、花粉分析では栽培植物の花粉は検出されておらず、断定はできない。

平成7年度の調査では、さまざまな理化学分析の結果から、栽培作物は陸稲と雑穀（キビ・ムギ等）の輪作と考えられている。今回の分析結果も、基本的には陸稲が栽培されていたことを示しているが、後述するように、イネのみの連作は行われなかったようである。

(2) 畠の時期

平成7年度に調査された畠は、出土遺物などから9世紀後半から12世紀頃までのものと判断された。この間区画の変更を伴う畠の切り合い関係がみられ、また、9世紀代には畠と掘立柱建物（SB55）が共存していたと考えられている。一方、本年度の調査では12世紀末から13世紀代にかけての土師質土器や白磁が出土した。大半の遺物は包含層中の出土であり、中世下層の遺構に伴うものと考えられ、畠の営まれた時期は13世紀以降になる。なお、9世紀代には官衙関係と思われる施設があり、畠はこの上層で検出されている。

前述したように二度の調査で検出された畠は形態がやや異なり、また出土遺物からも両者の間には時期差があるように思われる。しかし、いずれの畠跡ともシロスナ除去後に検出されており、同時期にシロスナで埋没したと考える方が自然である。また、出土遺物の時期から考えて、SB55が検出された面が本年度調査の古代の検出面につながる可能性が強い。層位的な連続をみることができないため確定できないが、12世紀末から15世紀ごろまでの間は、両方の畠が耕作されていたものと考えたい。平成7年度調査分の畠については、13世紀以前には耕作されていないと断定できないため、時期幅がある可能性がある。

(3) 調査結果にみる農業技術

当遺跡で検出された畠跡は、飛砂によりバックされていたため、畠立てが明確に残っている。そのため畠ごと

の畝の残り具合が違っているのが観察できる。また、切り合い関係もみられることから、すべての畝が同時に耕作されたものではないといえる。理化学分析の結果も、このことを裏付けるものである。プラント・オパール分析の結果、雑草であるシバが、9号畝で600個/g程度、他の畝ではその4倍以上の密度で検出された。このことから、9号畝が耕作されていた時期には、その周囲は雑草の茂る休耕地になっていたといえる。一般に畝で陸稲を栽培した場合、検出されるイネのプラント・オパールの密度は低い傾向にあり^(註1)、イネのみの連作はできなかったものと考えられている。当遺跡でも主な栽培植物は陸稲であると思われるが、そのプラント・オパール量は少なく、休耕することで地力を回復させるという工夫がなされていたと考えられる。

11号畝とその北側のスペースには、牛と思われる偶蹄目の足跡が多数検出された。錦町第1遺跡でも牛の足跡が検出されており、当時牛馬が飼育されていたことが窺われる。耕作に牛馬を使用する例は古くからあると考えられ、鹿児島県橋牟礼川遺跡では古墳時代の畝跡(?)で、馬鍬による耕作痕が検出されている。倭名類聚抄には、「墾田之器」として犁があげられている。中世には、名主階級程度の百姓が犁・馬鍬および牛馬を所持していることは、追捕物注文などの文献資料からも明らかである^(註2)。

当遺跡で検出した牛の歩行はランダムで、11号畝の耕作面は足跡により荒らされている。一方、最終段階に耕作されていたと思われる9号畝では検出されず、これらは耕作によるものではなく、刈跡放牧または休耕地での放牧の結果と思われる。また、耕作地と休耕地が隣接しており、輪換農法に伴う休閒放牧を認めることができる。島根県隠岐では、近代まで牧畑経営がおこなわれており、その原形は古代にまで遡る^(文献9)。また、群馬県白井大宮遺跡では古墳時代の畝跡で多数の牛馬の足跡が検出され、牧畑の初現形態であるとされている^(文献16)。これらの例をみると、輪換農法に伴う休閒放牧を認める場合、柵跡などの「垣」が伴うことが必要となる。本年度調査分の畝跡では遺構として確認できなかったが、足跡の検出範囲が限られているため、板塀や生け垣など何らかの施設があったのであろう。中世農法における牛馬の飼育・利用の意義は、①耕起・代かきなどの労働手段、②苗草・刈敷・収穫物などを運搬する手段、③糞畜としての利用などがあげられる。また、農具は出土していないが、文献でみる限り、中世段階には犁、馬鍬、鍬、鋤、鎌、臼などを当然使用していたと思われる^(文献5-7)。

施肥は平安末期には文献資料に確認され、肥培技術は既に一定レベルに達していたと考えられている。中世の肥料の種類は厩肥、刈敷、草木灰(肥灰)であり、そのなかでも刈敷が主要肥料であったようである。特に肥灰は、地力不足の田地の地力回復に効果のある肥料とされていた^(註3)。

畝土壌の分析を行った結果、リン酸成分の多い物質、つまり緑肥などの施肥により土壌を富化させていたことがわかった。この「緑肥」が、刈敷なのか、肥灰なのかはわからない。一方、耕作土であるクロスナは有機物の腐植により形成されたものであり、長瀬高浜遺跡では、弥生時代からこの腐植砂が累積されてきたとされている。しかし、耕作土は基本層序と比べて腐植が進んでおり、植物性の肥料が施肥されていた可能性が高い。プラント・オパール分析ではススキ・チガヤなどのウシクサ族、ササ類などのタケ亜科植物が検出された。これらの植物は、肥料としてだけでなく、畝の保湿・保温のための被覆材として使われていたと考えられる。pHは作物の生育に適した中性範囲内で、畝に適した土壌であったようである。一方、寄生虫などは検出されておらず、厩肥の利用を理化学的に証明することができなかった。

当遺跡は砂丘地に立地するため、畝を営むに際し水の確保が重要であったと思われる。旧天神川は氾濫を繰り返し、中世ごろには長瀬の集落の北側を東流して橋津川に流れ込んでいた。調査区の東側の粘土層は、氾濫原または後背湿地と考えられ、遺跡の南端も河川の氾濫により何度か侵食されている。遺跡近辺には、旧天神川などの川が流れており、農業用水はある程度確保できたと思われる。土壌分析の結果、耕作土は他の砂層と比べると泥分が多く、保水力があったようである。また本年度調査した畝の下層には粘土による古代の整地層が広がっており、保水力はさらに高く、牛の足跡が残るほどに湿気を多く含んだ粘質砂だったのであろう。

(4) 自然環境について

花粉分析の結果、ほとんどすべての畝でヨモギ属が極めて優先し、それにイネ科、タンポポ亜科が伴う。ヨモギ属やタンポポ亜科は、乾燥した改変地または畑地を好む畑作雑草である。またスギ、ニヨウマツ類、ナラ類の

花粉も検出されており、周辺には二次林が広がっていたと推定されている。これらの植生から、長瀬高浜遺跡一帯は陽当たりがよく、排水の良い環境であったことがわかる。

畠が営まれたと考えられる13～15世紀ごろは、14世紀代に一時寒冷な時期があるが、温暖期にあたる。高橋氏によると、小温暖期にはさまざまな理由から砂丘の形成がストップすると考えられ、飛砂が比較的少なく、長瀬高浜遺跡でも畠を営むことができたのであろう^(文献12)。中世末ごろには、天神川上流域でもカンナ流しや燃料確保のため森林伐採が行われ、自然破壊が進んでいった。そのため河口に運ばれる土砂の量が増え、同時に気候が寒冷になるのに伴い飛砂の量が急激に増え、長瀬高浜遺跡はシロスナの下に埋没したものと思われる。

正嘉2（1258）年に成立した「伯耆国河村郡東郷荘和与中分絵図」（以下絵図）は、地頭の荘園侵略を伝えるものとしてだけでなく、当時の土地利用状況や土地支配体制などを考えるうえでも有効な史料である。現地調査などから、この絵図の湖岸線や海岸線は当時の状況をかなり正確に示していると考えられている。気候が温暖であったため、東郷湖は現在より湖面が高く、南西側が大きくはりだしている^(文献2)。このことから、砂丘地に畠が営まれた理由として、海面上昇のため使用不可能となった東郷湖周辺の水田の代替地などが考えられている^(文献12)。

(5) 歴史的背景

当該地で畠が営まれ始めるのは、出土遺物などから13世紀ごろと考えられる。一般に平安後期から鎌倉初期は、開墾技術の発達などを背景とした大開墾時代であるとされている。開墾の形態は、荒廃荒地の再開墾および水田化、水田不可耕地である未開山林原野、氾濫原、旧流路、自然堤防上の畠地化が主であると考えられる^(文献5-6)。長瀬高浜遺跡内は古代に一度開発され、官衛的な性格の施設が存在しているが、10世紀以降12世紀末ごろまで、人の動きは一時断絶する。13世紀になって自然堤防上ともいえる当該地は、畠地として再び使用され始める。この開発は、領主的な大規模開発ではなく、村落共同体的な焼畑などによる小規模な畠地開発であったと思われる。また、遺跡の辺縁部では後背湿地、旧流路と考えられる粘土層が確認され、イネ科のプラント・オパールが検出された。明確な遺構は検出できていないが、これらの土地も耕作地として開発されていた可能性がある。

一般的に、中世の畠地は、その社会のなかでどのような位置にあったのかをみてきたい。古代にはすでに飢饉対策のための陸田（≒水田の代替地）、多様な雑穀の栽培がたびたび奨励され、多くの水田が畠地化している。また、1069年の延久荘園整理令の発令により、畠地が本格的に収奪対象に組み込まれていくが、その背景には畠地の安定的な経営と生産力の向上があるといわれる。鎌倉幕府は全国的に畠支配を認可し、国衙による強い畠地支配があったとされている。鎌倉後期には「瀬町」、「山田」、「棚田」などの面積一段歩未満の小田地でも収奪の対象となり得るほどに安定的な経営が行われていた。後述するように、当該地の畠跡も「和与中分図」に描かれており、税の収奪対象となり得る、安定的な収穫のある畠地であったと考えられる。

長瀬高浜遺跡が立地すると思われる東郷荘は、河村郷、埴見郷、東郷が、13世紀初頭に地頭の原田氏から京都の松尾神社に寄進されて立荘した寄進地系荘園と考えられている。1258年には領家と地頭との間で和与中分が行われ、その際「伯耆国河村郡東郷荘和与中分絵図」が作成された^(文献8-18-19)。この中で、旧天神川の西岸、北條内長瀬村の北を東流する河川の北岸に、田畠を示す井桁マークがみられ、これを今回検出された畠跡に比定したい。また、遺跡の南側は河川の氾濫原または後背湿地となり、粘土層が検出されている。この湿地を、北條内長瀬村の北を西流する河川に関係するものと考えたい。また、検出されたのは畠跡であることから、絵図の井桁マークは水田のみでなく畠地をも含んでいる可能性のあることが指摘できる。

この耕作地を営んでいた集団は、荘域を越えた村の人とは考え難いため、長瀬村の人ではなく東郷荘の人々であったと思われる。この場合、地頭分、領家分どちらの集団でも不都合はなく、最も近い浅津か、水路を利用して入ってくる橋津または南谷の人々であろう。この絵図の時期の集落遺跡として、橋津川左岸で南谷貝塚遺跡が調査されている。これは、現在の南谷集落に比定される対岸集落の人々のゴミ捨て場と考えられている。東郷荘は、長瀬高浜遺跡が飛砂により埋没したと思われる15世紀ごろ、南条・山名氏などの守護勢力に侵略され、事実上解体していく。

最後に、長瀬高浜遺跡で畠が検出されたことによどのような意義があるのか考えてみたい。従来、長瀬高浜遺跡は、中世には墓地になるとされてきた。実際、遺跡の南側には中世墓が多数あり、斜面下では五輪塔も多く出土している。また黒田日出男氏は、西小垣の小山にたつ朱色の榜示に着目し、墓域である長瀬高浜遺跡を神領域に取り込むのを避けたものであるとしている。遺跡南側の中世墓は比較的標高の高い部分を選んでつくられており、今回検出された畠跡よりやや新しい時期の遺物が出土している。10B地区ではクロスナ地表面でコの字状（長方形）の高まりが確認されており、土塁状遺構と報告されている。この遺構の範囲内の黒褐色砂表面の層を除去した段階で、多数の浅いピットが検出されている。本年度の調査結果を考えあわせると、ピットは牛の足跡、コの字状の高まりは畦であった可能性がある。土塁状遺構内では中世墓が検出され、中世墓→土塁状遺構→中世墓の順でつくられていると報告されている。また下層には、8～9世紀代の生活面と考えられている粘土層が広がっており、今回の調査とほぼ同じ状況を示している。土塁状遺構の時期は、出土遺物から15世紀ごろとされており、畠跡とはほぼ同時期になる^(文献11)。現在の長瀬の集落との関連が考えられているが、この時期ではむしろ東郷荘との関係を考えて方がよいだろう。また、耕作地や屋敷地内に墓をつくる例は民俗例に多く、畿内では、11～13世紀初頭の発掘例にみられる。当時の人々にとって、墓地と畠地は切り離して考える必要のないものだったようである。

今回検出された畠跡・中世墓と、土塁状遺構とその周辺の中世墓との間には、その出土遺物にやや時期差がみられる。中世になって使用された土地は、遺跡北側の旧天神川沿いと、そこから西流する小河川沿いの遺跡縁辺部で、明らかに耕作の痕跡が認められる部分は河川沿いである、このことから、水を確保しやすい場所に徐々に耕地を広げていったと考えられる。

現在我々は近代以降の砂丘開発の苦勞を知っているため、中世当時は砂丘地にまで畠をつくらなければならないほど、耕作地の確保に苦心していたと考えがちである。しかし、古代にはすでに、畠は安定的な収穫を期待することができるほど農業技術・肥培技術が発達していた。また、当該地は基本的に砂質土壌であるため開墾も楽で、近辺には河川があるため水も比較的容易に手に入ったものと思われる。当遺跡は弥生時代前期からすでに有機物を多く含むクロスナが形成されており、さらに部分的ではあるが古代に行われた粘土による整地作業により保水性が高められることで、泥分を含む、ある程度耕作に適した土地として認識されていたのではないかと。昨今、鳥取砂丘の草原化が問題になっているが、飛砂などの砂丘の形成活動が止まると、砂丘地にも自然に豊かな植生が広がるのが証明された。以上、さまざまな要因を考えあわせると、砂丘地である当遺跡内で畠が営まれていたことは不思議なことではない。またここで行われた開発は、その規模から考えても、荒廃田の再開発などの領主クラスの開発ではなく、農民レベルの小規模開発であったと考える。このような小規模な畠地開発は領主的開発の下地となり、なおかつ絵図にみられるように収奪対象に組み込まれていったのである。

中世の畠跡および遺跡の東側にひろがる後背湿地が検出されたことで、今まで絵図からしか考えることのできなかった中世社会の様相が、徐々に具体化され明白になってきた。そして気候の寒冷化、15世紀ごろからの天神川上流域での自然破壊により砂丘の形成活動が再開され、長瀬高浜遺跡は廃絶する。クロスナという自然環境をうまく利用してきた人々の営みは、この後の山陰地方を支える製鉄という産業の発達とともに消えていくのである。

(岩崎)

註

1. 水田では、1gの土の中に、5000個以上のプラント・オパールがあれば、イネが作られていた可能性が高いとされている。(文献1)
2. 嘉応2年11月28日付桜住人等注進状(京都大学所蔵一乗院文書)に、名主クラスの農民の追捕された資材が書きあげられており、そのなかに馬一疋、からすき一具などがみられる。(文献6)
3. 「無名抄」：「・・田つくるに、はぐさかりいれたるが、よくいでくる・・」
「延喜内膳司式」耕種園圃の耕作法：大麦・小麦は施肥対象外、浅耕の穀物は即効性の肥料(人肥?)、蒔・蒔は左右馬寮の畜糞がよいとされている。
「永昌記」1129年紙背文書：肥灰は「御供田に入れて肥やしむる」もので、施肥しなければ「浅薄の田地」はいよいよ荒廃してしまうとする。

参考文献

1. 藤原宏「中国・草鞋山遺跡における古代水田址調査—遺跡土壌におけるプラント・オパール分析」『考古学と自然科学』第30号
2. 日下雅義編『古代の環境と考古学』1995 古今書院
3. 大塚初重/白石太一郎/西谷正/町田章編『考古学による日本歴史16 産業・狩猟・漁業・農業』1996 雄山閣
4. 『古墳時代の研究4 生産と流通I』1991 雄山閣
5. 黒田日出男『日本中世開発史の研究』1984 校倉書房
6. 木村茂光『日本古代・中世畠作史の研究』1992 校倉書房
7. 木村茂光『ハタケと日本人 もう一つの農耕文化』1996 中公新書
8. 太田順三「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」『絵引荘園絵図』1991 東京堂出版
9. 田中豊治「焼畑・牧・牧畑と日本畑作農業展開問題」『山地高原の歴史地理』歴史地理学紀要23 1981
10. 鳥取県教育委員会「鳥取県生産遺跡分布調査報告書」1984
11. 鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書I～VI」1978・1980～1983
12. 鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡VII」1997
13. 羽合町教育委員会「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書」1984
14. 羽合町教育委員会「南谷貝塚発掘調査報告書」1990
15. 米子市教育文化財団「錦町第1遺跡」1996
16. 群馬県埋蔵文化財調査事業団「白井大宮遺跡」1993
17. 「鳥取県史」2 中世 1972
18. 東郷町「東郷町史」1987
19. 羽合町「羽合町史」1967・「新修羽合町史」



文中写真⑤ 長瀬高浜遺跡浄化センター調査区畠検出写真

第6節 長瀬高浜遺跡出土の古墳時代前期の鉄器

長瀬高浜遺跡では、古墳時代前期の集落跡から農具、工具、漁撈具など多数の鉄製品が出土している。また鉄滓・棒状鉄器や鞆羽口なども検出され、集落内に鍛冶工房が存在した可能性がある。一方、祭祀遺物である雛形鉄器も多数出土しており、当時の鉄器生産や鉄との関わりを考えるうえで興味深い遺跡である。ここでは古墳時代前期の集落遺構内出土の鉄製品の集成を行い、特に雛形鉄器などの祭祀具について若干の考察を加えたい。

今までの調査で報告されているものは、農具では鎌18個体、鋏先2個体、鉄斧5個体、刀子42個体、鉈19個体、漁具では釣り針29個体、武器・武具として鉄鏃62個体ある。これらの鉄器は大部分、実用品として捉えることができるが、鎌のなかには柄に装着する前のももあり、儀器的な性格をもつものも若干含まれる可能性がある。また、SI02からは折り曲げられたと思われる鉈が2個体出土しており、特にF9はほぼ直角に曲がっている。前方後円墳成立期には、北部九州から西部瀬戸内地方にかけて、折り曲げられた剣、鉈、刀子などが副葬される例がみられ、葬送儀礼に伴う行為として捉えられている。その背景には首長に従属する特定工人層の出現、鉄と権力との関係が考えられている。SI02からは鉄製品が大量に出土し、土器は胴部穿孔された甕一個体があるのみであり、特殊な性格をもつ堅穴住居であるといえる。このように、同時期の他遺構と比較して多量の鉄製品を所持しているものに、SI47、SI69、SI127、SI132、SI122、SI126などがある。このうちSI69、SI127については、不要になった生活用具の一括廃棄である。その他、不整形の棒状・板状鉄器と報告されているものがあり、これらのなかには、鉄鋌の切断片や鉄板の端切れなどの鉄器製作に関するものが含まれているものと思われる。

雛形鉄器は剣先形、刀子形、鎌形、鋏先形があり、挿表23に出土遺構の一覧を示す。このような鉄製雛形品は、長瀬高浜遺跡では、天神川Ⅰ期、古墳時代前期初頭ごろからみられ、天神川Ⅴ期の集落が衰退しはじめるころまでである。今回実見できたのは、本年度出土分のみだが、他の鉄製品と比較して極端に厚さの薄いものはSI250出土のF11のみであるが、全体に比較的簡単に作られている印象をうけるものが多い。一方土器溜2出土の鋏先形F25は、実用品に忠実な作りで木質が残る部分もある。以下、雛形鉄器の様相を時期ごとにみていきたい。

天神川Ⅰ期は、SI124、SI142から出土している。SI124は、次段階に出現する大型掘立柱建物SB40の横に位置する。SI142は大型の円形住居で、他の鉄製品も比較的多く出土しているが、土器の個体数は非常に少ない。この時期、集落の中心住居といえるようなSI142から、多数の実用品と思われる鉄製品とともに出土していることが注目される。

天神川Ⅱ期になると、集落が拡大するのに伴い雛形鉄器が出土する遺構も増加する。SI69からは多量の土器類が出土しており、前述したように、土器の廃棄を行う際に鉄製品も一緒に捨てられたものと思われる。またSI132では銅鏃、SI138では素文鏡や土玉とともに比較的多数の鉄製品が出土している。15I-SP01もこの時期の遺構で、素文鏡3枚、鉄鏃1点、剣先形鉄製品42点が集中して出土している。これに伴う上屋構造はみられない。

天神川Ⅲ期にも、雛形鉄器が出土する遺構は多い。土器が大量に出土しているのはSI249で、重圏文鏡も共伴している。このSI249に関しては、単なる一括廃棄ではないとされている。

天神川Ⅳ期には、青銅製品ではなく石製模造品のような扁平で雑なつくりの勾玉、ミニチュア土器などが伴出する例がみられ始める。ミニチュア土器は前段階のⅢ期から出現するもので、天神川Ⅰ～Ⅱ期にはみられない。SI04は小型丸底壺、高杯、胴部穿孔壺のみが共伴しており、祭祀遺構的な性格の強い住居跡である。多量の土器類とともに出土しているのはSE11のみである。

天神川Ⅴ期になると、雛形鉄器出土遺構は減少する。SI131では滑石製の管玉や小玉（＝石製模造品）、手捏ね土器、勾玉に似た有溝軽石などが共伴し、土器類も高杯が多い。

天神川Ⅵ期以降、長瀬高浜遺跡では集落は後退し、雛形鉄器の消長も捉えにくくなる。当遺跡から2.5kmほど離れた南谷大山遺跡ではこれに続く時期の集落跡が調査されているが、雛形鉄器と思われる鉄製品は報告されていない。中部地域の主な遺跡で、雛形鉄器の出土は、現在までに報告されていないようである。米子市の青木遺跡では、古墳時代後期、青木Ⅸ期ごろの堅穴住居跡から、雛形鉄器と考えられる遺物が数点出土している。^(註1)

一般に、雛形鉄器などの鉄製仮器が集落周辺で出土する例は、5世紀後半以降に増加するといわれている。その前段階、古墳時代前期末には石製模造品が出現する。この石製品は新しい時期には作りが簡素化し、この段階で鉄製の仮器が作られる。雛形鉄器はおもに祭祀遺構で出土し、愛媛県出作遺跡、千葉県マミヤク・俵ヶ谷遺跡などがよく知られている。両遺跡とも、5世紀後半の土器の廃棄場で、多量の石製模造品とともに鉄製の仮器が出土している。一方、長瀬高浜遺跡では天神川Ⅰ期、古墳時代前期初頭の段階にはすでに雛形鉄器がつくられており、天神川Ⅱ～Ⅲ期にその全盛期をむかえるものと思われる。これは出作遺跡、マミヤク遺跡などに先行しており、雛形鉄器の出土する早い例であると思われる。また、祭祀遺構や土器の廃棄場だけでなく普通の住居跡からも出土し、剣先形が主体を占めること、石製模造品が少ないことも当遺跡の特徴といえる。

鉄製模造品の種類は、出作遺跡は斧、マミヤク遺跡は鎌などの農工具を模したものが多く、剣などの武器形、鏡などの青銅製品は石製品である。一方長瀬高浜遺跡では剣先形鉄製品が多く、天神川Ⅳ期ごろまで青銅製品が共伴する例がみられ、Ⅵ期ごろには集落自体衰退する。出作、マミヤク両遺跡の祭祀遺構の時期は5世紀後半代で、天神川Ⅵ期～Ⅶ期ごろに相当する。この時期差が青銅製品の有無と石製模造品の多少に関係するのであろう。剣先形の雛形鉄器が多い理由については、剣は当時の威信具であると同時に、武器形祭器は弥生時代からあり「依り代」的な役割も持っていたと考えられることがあげられるだろう。遺跡によって主な種類が違う理由は現段階では不明確で、ここでは単に地域的な違いということしかできない。古墳時代中期ごろの水辺の祭祀遺構が確認された六大A遺跡の井泉1からは、木製刀形と滑石製勾玉が出土しており、紀記神話「天の安の河の誓約」との対応関係が認められ、井泉で行われた祭祀内容を考えるうえで興味深いとしている。また、群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡でも「天の安の河の誓約」^(註2)に類似した祭儀が行われ、それが服属儀礼を意味するという解釈がなされている。長瀬高浜遺跡SE11でも玉と剣先形の雛形鉄器が出土しており、これらの例を簡単にあてはめて考えることはできないが、興味深い遺構である。

村上恭通氏は、出作遺跡SX01出土の鉄製品を①実用に耐え得る鉄製品、②斧を主とする雛形鉄器、③鉄鋌あるいは切り取られた小型鉄板、④三角形鉄片・不整形鉄片・棒状鉄片などの鉄器製作時の副産物の4つに分類し、鉄鋌やその端切れ、鍛冶に関連する遺物が大量に出土していることから、祭祀の場に鍛冶工人が参加していたと推測している。どのような種類の雛形品が作られるかではなく、祭祀の場で鍛冶的な行為が行われたことを重視しているようである。祭祀の内容は、鍛冶工房に近接して行われた祭祀については、近世のたたらで銑鉄を金屋子神に奉るのと類似した行為であるとするが、それ以外のものについては明言されない。長瀬高浜遺跡でも鍛冶関連遺物が多く出土しており、鍛冶工人の祭祀への参加を考えることができる。しかし明確な鍛冶炉などの遺構はみられず、その検出が今後の調査に期待される。また、他の遺跡に先駆けて雛形鉄器がつくられ始める理由、特に威信具である剣先形を多くつくる理由は不明確であるが、前者については越敷山遺跡や妻木晩田山遺跡群では弥生時代から多くの鉄製品がみられることから、当時の山陰地方には十分な鉄器生産技術があったと考えられている。後者については古墳時代の鉄器生産の2つの流れ、つまり武器・武具生産主体の政治的色彩の濃いものと、日常生活に関する農耕具類の生産・修理を主体とする社会的色彩の濃い生産体制が関係していた可能性がある。これらのことが、長瀬高浜遺跡で早くから雛形鉄器をつくり始めた理由の一つになるのではないかと思う。

(岩崎)

遺構名	農工具	漁具	武器・武具	錐形鉄製品	その他	備考	時期
SI124				剣先形F3	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ
SI142	刀子F5,6,9 鎌F8 鈍F1			剣先形F4,7	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ
SI49				剣先形F1		手あぶり型土器	天神川Ⅰ～Ⅱ
SI45				剣先形F1,2	管玉		天神川Ⅱ
SI58				剣先形F1 刀子形F3			天神川Ⅱ
SI61				刀子形F2	棒状・柱状鉄製品		天神川Ⅱ
SI69	刀子F3	釣り針F1,2	鉄鎌F10,13	剣先形F4～7	棒状・板状鉄製品	土器138個体以上 管玉・小玉	天神川Ⅱ
SI126	刀子F2,5	釣り針F1		剣先形F4	棒状鉄製品		天神川Ⅱ
SI132	刀子F7	釣り針F9～11	鉄鎌F1～4	剣先形F1	棒状鉄製品	銅鎌	天神川Ⅱ
SI138	鈍F7		鉄鎌F2～5	刀子形F1	針状・板状鉄製品	素文鏡・土玉	天神川Ⅱ
SI250	刀子F9			剣先形F11,12	不明鉄製品		天神川Ⅱ
SI252				剣先形F8			天神川Ⅱ
15ISP01			鉄鎌F39	剣先形42点		素文鏡3	天神川Ⅱ
SI43				剣先形F1,2			天神川Ⅱ～Ⅲ
SE01				剣先形F1			天神川Ⅱ～Ⅲ
土器溜2	鎌F23		鉄鎌F24	鎌先形F25			天神川Ⅱ～Ⅲ
SI90			鉄鎌F1,4	剣先形F8	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI133	鎌F1	釣り針F2		鎌形F4	爪状鉄器?		天神川Ⅲ
SI146				剣先形F1,3	板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI154				剣先形F1	棒状鉄製品		天神川Ⅲ
SI238	刀子F1 鎌F4			鎌形F5	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅲ
SI249			鉄鎌F4	剣先形F5	不明鉄製品	土器280個体以上 重圏文鏡	天神川Ⅲ
SI253				剣先形F14	不明鉄製品		天神川Ⅲ
SI127	刀子F3～6 鎌F1,8 鈍F7～9	釣り針F15	鉄鎌F18	剣先形F16,17,19 鎌先形F22	棒状・板状鉄製品	土器62個体以上	天神川Ⅲ～Ⅳ
SI194				剣先形F1			天神川Ⅲ～Ⅳ
SI04	刀子F1			剣先形F3	棒状・板状鉄製品	勾玉(模造品?)	天神川Ⅳ
SI41				剣先形F1	板状鉄製品	ミニチュア土器 管玉	天神川Ⅳ
SI48			鉄鎌F4	剣先形F1～3			天神川Ⅳ
SE11				剣先形F1		土器56個体以上	天神川Ⅳ
SI73	刀子F4			刀子形F1	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅴ
SI131	刀子F1		鉄鎌F2	剣先形F4	針状鉄製品	ミニチュア土器	天神川Ⅴ
SI136			鉄鎌F2	剣先形F1			天神川Ⅴ～Ⅵ
SI42				剣先形F2	棒状・板状鉄製品		天神川Ⅰ～Ⅳ
SI57	刀子F4 鎌先F1			剣先形F5	板状鉄製品	勾玉(模造品?) 管玉未製品 土器類出土せず	不明
SI246				刀子形F2	不明鉄製品		不明
整地遺構2				鎌形F36			9世紀代

挿表23 長瀬高浜遺跡古墳時代前期出土錐形鉄器一覧表

(註1) CSI08刀子状鉄器、CSI10小型の鎌先(3cm程度)など

(註2) アマテラスとスサノオが天眞名井の水に剣と玉を割濯いで嘯んで息を吹き出すと、その中から神々が現れるというもの。

参考文献

- 村上恭通『倭人と鉄の考古学』1998 青木書店
 小野真一『祭祀遺跡』1982 ニュー・サイエンス社
 『古墳時代の研究5 生産と流通Ⅱ』1991 雄山閣
 鳥取県教育委員会「青木遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅲ」1976～1978
 鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅵ」1980～1983
 鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡Ⅶ」1997
 奈良国立文化財研究所『信仰関連遺跡調査課程』1997

第7節 長瀬高浜遺跡の古環境の変化

はじめに

長瀬高浜遺跡は、標高3～11mの砂丘上に立地する複合遺跡である。これまでの調査によって、考古学的な成果を得るとともに地質学的にも貴重な成果が得られた。遺跡の性格を考える上でも、古環境の復元は重要な作業であると考えられる。ここでは、時期ごとの地形的变化を中心に、これまでの成果をまとめ、長瀬高浜遺跡での環境変化を考えてみたい。

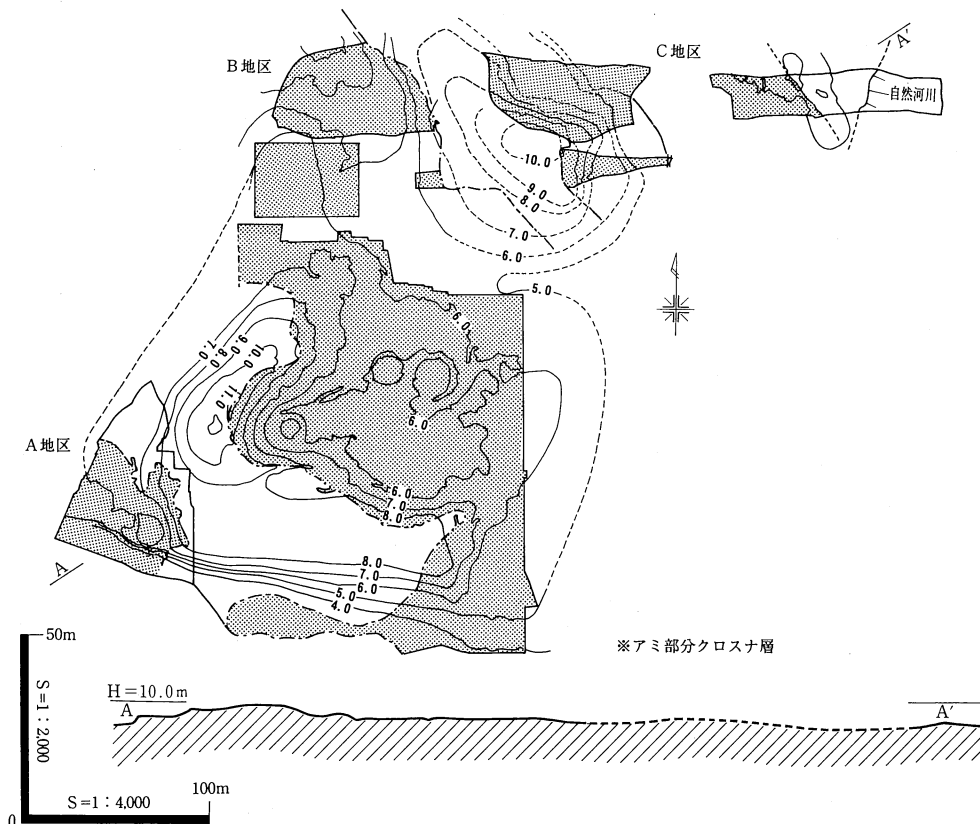
1. クロスナ面の地形

クロスナ層は、標高4～9m前後に分布しているが、その形成は、検出された遺構の時期から、弥生時代前期以前と考えられる。クロスナ層は今回の調査で計3面検出され、上層のものから「第1クロスナ層」、「第2クロスナ層」、「第3クロスナ層」と仮称するが(第3章参照)、従来確認されていたもの(文献¹⁾)とは対応しない。標高約2.5mの「第2クロスナ層」は、ほぼ水平方向に広がっているが、標高約1.7mの「第3クロスナ層」は、西側へ傾斜している。

さて、遺構が営まれている基盤は、厚さ1～1.5mの「第1クロスナ層」である。単色の層位ではなく、上層は黒褐色であるが、下層になるにつれて茶褐色となっており、漸移層的なあり方を示す。下層ほど炭化物の分解が進んでいると考えられる。クロスナが形成された弥生時代前期から中世にかけての約1800年間は、年平均1mm前後の砂が堆積していることになり、砂地であるにも関わらず、ほぼ安定した立地状況であったものといえる。

クロスナ面は起伏に富み、シロスナ丘陵部分で大きく分断される。最も南西側をA地区、中央低地から平成7年度調査区西側までの分布域をB地区、平成7年度調査区東側から今年度調査区までの遺跡北東側部分をC地区とする。なお、B地区とC地区はつながる可能性もあるが、一応地区を分けておくことにする。

さて、クロスナは大半が標高約4～6m前後に分布しているが、丘陵斜面においても標高9m前後まで形成されている。標高10m程度の丘陵部分は、少なくともA—B地区間、B—C地区間の2か所確認され、クロスナ



挿図200 長瀬高浜遺跡クロスナ分布図

が消滅する3か所を見ると、シロスナとの境界が、N—22°—W、～N—37°—Wとほぼ北西方向となることから、丘陵頂部は、季節風によって消滅したものと考えられる。

2. 弥生時代から古代の環境

「第1クロスナ層」中で検出された遺構は、弥生時代前期ではA・B地区南側で玉作工房などを含む小規模な集落、弥生時代中期では主に丘陵斜面において土壌墓群、古墳時代前期から中期ではクロスナ全面で大集落、古墳時代中期～後期で古墳群、古代でも官衙関連施設が営まれている。各時期を通してクロスナ面に大きな変化は認められないが、周辺では大きな変化が認められる。今年度調査区東側で古墳時代以前の自然河川が検出されたのである。形成時期は不明であるが、「第2クロスナ層」を切っていることから、この層堆積以後であることは確実である。また、幅40m以上の大規模なものであることから、旧天神川の本流であった可能性が考えられる。

この河川は、古墳時代前期から後期にかけて埋没していたが、初期の埋砂には、ほとんど摩滅していない土師器が包含されていたことから、クロスナ面は河川の際付近まで広がっていた可能性がある。奈良から平安時代ごろには完全に埋没していたものと考えられ、この時期さらに東側に流路を移動していたと考えられる。

A地区南側は、クロスナが急激に落ち込んで低湿地となっていたが、これは、遺跡のすぐ南側を旧天神川が走っていたためと考えられ、遺跡の南側周辺で大きく蛇行していた可能性が考えられる。

さらに、A地区西側も等高線を復元すると西側に傾斜し、低地部分を形成していたものと考えられ、近年まで旧今津川が流れていたことから、遺跡の西側には、旧天神川の支流が存在していた可能性もある。

このように考えると、長瀬高浜遺跡は、東・南・西を河川に囲まれた微高地上に展開していたものと考えられ、河川流路の変化に大きく左右された立地であったことが推察される。

3. 中世の環境

中世にはB地区北側、C地区において畠が営まれているが、本来は、A・B地区においても存在し、かなり広大な面積で営まれていたものと推察される。

畠跡上面、1号墳南側低湿地部分において、花粉およびプラント・オパール分析が行われており、この結果を見ると、この時期、クロスナ上面（畠跡）において、草本類では乾燥した改変地を好むヨモギ属が極めて優占し、イネ科、タンポポ亜科が伴っていた。また、イネのプラントオパールが検出されていることから、畠では陸稲が栽培された可能性も指摘されている他、シバ属のプラントオパールが卓越する箇所もあり、畠と休閑地が併存していたと考えられる。休閑地では、偶蹄目の足跡が多数検出されており、放し飼いされていた可能性がある。花粉分析では、木本類のマツ属、スギ属、ツガ属、コナラ属、ブナ属、クリーシイ属、カバノキ属などが確認されている。マツ属は、高密度に検出されており遺跡周辺に繁茂していたものと推察され、それ以外のものは、中国山地から飛来したものと考えられている^(文献2-3)。

また、今年度調査区東端部の標高3m前後の地点で、粘土層が広がっていた。粘土層中で、淡水産の珪藻化石が検出されていることから、この部分が旧天神川の後背湿地部分または氾濫原にあたるものと考えられる。

比較的安定していた長瀬高浜遺跡の環境が一変するのは、中世後半期、15世紀以後のことである。一面6～10mのシロスナに覆われてしまうのである。この環境変化は、当時寒冷期にあったこと、何よりもこの時期は、上流域でタタラ製鉄に関わる「鉄穴流し」が頻繁に行われていたと考えられ、土砂流失がその背景にあったと考えられる。しかし、今回得られた知見は従来考えられている時期^(文献4)よりかなり遡ることから、天神川上流域のタタラ調査および地形改変の状況を調べ、総合的に環境変化の歴史を明かにしていかなければならない。(牧本)

参考文献

1. 豊島吉則「A. 長瀬高浜遺跡の自然環境」『長瀬高浜遺跡Ⅱ. 天神川下流域下水道事業に伴う砂丘遺跡の発掘調査概報(1)』鳥取県教育文化財団1979
2. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡Ⅶ』1997
3. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』1983
4. 貞方昇『中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌』溪水社 1996

S I 2 4 6	Po37	1479	埋砂下層	土師器	甕	※14.5	△9.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス 附着。	福田や 76
S I 2 4 6	Po38	1243	埋砂上層	土師器	甕	※14.3	△8.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 附着。	野崎66
S I 2 4 6	Po39	1417	床 面	土師器	甕	※15.9	△17.8	※21.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。中位以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 附着。	山本ひ 60
S I 2 4 6	Po40	1119	埋砂上層	土師器	甕	※15.3	△19.5	※21.5		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部刺突文。肩部以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下斜〜上方向ケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面 スス附着。	福田の 41
S I 2 4 6	Po41	1319 1410 1454	床 面	土師器	甕	14.9	△18.1	※21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条波状文。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 附着。	米山68
S I 2 4 6	Po42	1497	床 面	土師器	甕	※17.7	31.5	25.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位ヨコハケ。以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面 黒斑有り。 胴部外面 スス附着。	厨子38
S I 2 4 6	Po43	1564	床 面	土師器	甕	16.1	29.9	24.6		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	底部外面 スス附着。	山本ひ 70
S I 2 4 6	Po44	1454	埋砂中	土師器	甕	16.4	28.7	23.5		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。中位左上がり叩き後斜〜ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス 附着。	山本ひ 57
S I 2 4 6	Po45	1531 1563	埋砂下層	土師器	甕	※18.9	△24.9	※25.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。一部刺突文あり。胴部上半おもに横、下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙〜暗 灰黄色	灰黄褐 色	外面胴部 の一部に 薄くスス 附着。	山本く 44
S I 2 4 6	Po46	1561 1625	床 面	土師器	甕	※17.1	26.6	※23.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜肩部右方向ケズリ。中位以下横方向ケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	灰黄褐 〜褐色	灰黄褐 〜褐色	外面スス 附着。	福田の 46
S I 2 4 6	Po47	1318 1415 1418 1452 1453 1574	埋砂下層	土師器	甕	※15.9	27.3	※22.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。刺突文がまわる。胴部おもに横〜斜め方向のハケ目。底部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ。底部ナデ、指頭圧痕が残る。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	明褐色	明赤褐 色	外面胴部 下半に多 量にスス 附着。	山本く 49
S I 2 4 6	Po48	1123 1383	埋砂上層	土師器	甕	※17.0	△27.5	※23.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面 スス附着。	野崎73
S I 2 4 6	Po49	3289	床 面	土師器	甕	※16.7	△19.1	※25.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。8条平行沈線。中位ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙〜灰 褐色	橙〜灰 褐色	外面スス 附着。	福田の 44
S I 2 4 6	Po50	1303 1574	埋砂下層	土師器	甕	※16.9	△13.4	※25.4		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	灰黄褐 色	灰黄褐 色	外面スス 附着。	山本ひ 55
S I 2 4 6	Po51	1111 1124 1419 1423 1966	埋砂下層	土師器	甕	※16.7	△20.8	※24.3		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部4条平行沈線。中位以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス 附着。	福田や 65
S I 2 4 6	Po52	1568	床 面	土師器	甕	14.4	23.9	23.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面 スス附着。 一部赤変。	山本ひ 3
S I 2 4 6	Po53	1318 1494	床 面	土師器	甕	※16.3	△25.5	22.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部15条平行沈線。中位タテ後ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	明黄褐 色	明黄褐 色	外面スス 附着。胎 土分析。	松本38
S I 2 4 6	Po54	1453 1454 1456 1575	埋砂下層	土師器	甕	※14.4	△23.6	22.5		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。一部指頭圧痕。底部付近上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	明赤褐 色	明赤褐 色	内外面ス ス附着。	野崎72
S I 2 4 6	Po55	1124 1491	床 面	土師器	甕	※15.6	25.3	21.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位ヨコハケ。中位ヨコハケ。以下斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位左方向ケズリ。以下指頭圧痕後左方向ケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	赤褐色	赤褐色	胴部外面 スス附着	山本ひ 58
S I 2 4 6	Po56	1453 1574 1575	埋砂中	土師器	甕	15.0	22.5	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位粗いヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位指押さえ後右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐 色	黄褐色	外面スス 附着。胎 土分析。	松本36
S I 2 4 6	Po57	1558	床 面	土師器	甕	14.7	23.6	20.6		外面口縁部端部ヨコナデ。中央ヨコハケ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコハケ後ナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス 附着。	福田や 3
S I 2 4 6	Po58	1318 1495	埋砂下層	土師器	甕	※15.4	22.7	19.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、2〜4条の沈線による波状文がまわる。胴部不定方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向のケズリ、下半ケズリ後ナデ、指頭圧痕が残る。	密(砂粒を含む)	良好	明褐色	明褐色	外面胴部 中位以下 スス附着。	山本く 43
S I 2 4 6	Po59	1123 1566	床 面	土師器	甕	※14.2	△20.6	※19.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面 スス附着。	福田や 61
S I 2 4 6	Po60	1319 1387	床 面	土師器	甕	※15.4	△16.1	※18.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後1条沈線。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	胴部外面 スス附着。	山本ひ 54
S I 2 4 6	Po61	1408	床 面	土師器	甕	※13.8	△13.3	※19.8		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位左上がり叩き後タテ〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位横方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スス 附着。	松本32
S I 2 4 6	Po62	1407	床 面	土師器	甕	※14.0	△11.3	※19.7		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。中位斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指押さえ後右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面黒斑 有り。	福田や 64
S I 2 4 6	Po63	1374 1375	P 6 内	土師器	甕	※12.2	△16.0	※18.4		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ後刺突文。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位左方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スス 附着。胴 部外面一 部布目痕。 胎土分析。	山本ひ 56
S I 2 4 6	Po64	1379	埋砂下層	土師器	甕	※14.6	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条乱れた波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 附着。	福田や 68

挿表25 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

S I 2 4 6	Po65	1456	埋砂中	土師器	甕	※14.4	△7.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス付着。	福田や66
S I 2 4 6	Po66	1124	埋砂中	土師器	甕	※15.2	△10.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		中原40
S I 2 4 6	Po67	1490	埋砂下層	土師器	甕	13.2	△11.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下斜上方ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	福田や72
S I 2 4 6	Po68	1389 1431 1483 1574	埋砂下層	土師器	甕	※12.0	△16.0	※16.6	外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下指押さえ後上方ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。	松本33
S I 2 4 6	Po69	1575	埋砂中	土師器	甕	※10.9	△9.4	※13.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	福田や74
S I 2 4 6	Po70	1375 1376	埋砂下層	土師器	甕	12.7	△9.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後棒状工具による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	福田や75
S I 2 4 6	Po71	324 390	埋砂上層	土師器	甕	※14.5	18.7	※19.1	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～下半右方向ケズリ。底部上方ケズリ。指頭圧痕。	密(1～4mmの砂粒を含む)	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	底部外面黒斑有り。	福田の88
S I 2 4 6	Po72	1454	埋砂中	土師器	甕	※11.4	△18.0	※17.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	山本ひ59
S I 2 4 6	Po73	1453 1489 1575	埋砂下層	土師器	直口壺	※16.8	△10.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂含む)	良好	褐色	褐色		野崎70
S I 2 4 6	Po74	1559	埋砂下層	土師器	直口壺	12.2	16.0	14.2	外面口縁部刺突文。ナデか。肩部ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部指押さえ後ナデ。肩部以下横方向ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	野崎1
S I 2 4 6	Po75	1110 1404 1452 1570 1574 1966	埋砂上層	土師器	高杯	※17.7	13.5	※14.2	外面口縁部ミガキ後ナデ。杯底部ミガキ。筒部ハケ目後ナデ。ミガキ。裾部ナデ。内面杯部ミガキ後一部ナデ。筒部右方向ケズリ。裾部ハケ目。端部ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	二次的に一部赤変。	米山63
S I 2 4 6	Po76	1569	床 面	土師器	高杯	16.1	14.3	13.0	外面口縁部後縦方向ミガキ。筒部横方向ミガキ。裾部ハケ目後横方向ミガキ後縦方向ミガキ。内面杯部横後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	内外面黒斑有り。内面スス付着。	山本ひ4
S I 2 4 6	Po77	2118	床 面	土師器	高杯杯部	※17.8	△5.8		外面縦方向細かい縦方向ミガキ。内面横方向ミガキ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	福田や77
S I 2 4 6	Po78	1128	埋砂上層	土師器	高杯	※16.1	11.2	※10.1	外面杯部ナデ。接合部付近ハケ目がみられる。筒部ナデ後ミガキ。裾部ナデか。内面杯部ナデか。筒部絞り目後ナデ。裾部ナデ、ヘラ記号有り。	密	良好	褐色	褐色	全体的に風化著しく、調整不明瞭。	米山62
S I 2 4 6	Po79	1417 1452 1555	床 面	土師器	高杯	※15.7	15.0	12.6	外面杯部口縁部ヨコナデ。以下ミガキ。筒部縦方向ミガキ。裾部ハケ目。内面杯部口縁部ヨコナデ。以下縦方向ミガキ。筒部ケズリ後ナデ。裾部ハケ目。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	筒部3方円形透かし。	野崎75
S I 2 4 6	Po80	1123 1378 1384 1575	埋砂下層	土師器	高杯	※16.1	13.1	※11.1	外面ハケ目後粗い横方向のミガキ。筒部は縦ミガキもみられる。内面杯部ハケ目。ナデ後粗いミガキ。筒部右方向のケズリ後ナデ。裾部ハケ目。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒斑あり。筒部3方円形透かし。	米山61
S I 2 4 6	Po81	1123 1575	埋砂中	土師器	高杯杯部	※15.8	△10.8		外面杯部横後縦方向ミガキ。筒部ケズリ後ミガキ。内面杯部縦方向ミガキ。筒部ケズリ。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	筒部3方円形透かし。	山本ひ66
S I 2 4 6	Po82	1102 1319 1123 1574	埋砂中	土師器	高杯	※15.9	△9.8		外面杯部横方向ナデやや複雑なミガキ。筒部ミガキ。接合部付近にハケ目が残る。内面杯部ミガキ。筒部工痕ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色		米山60
S I 2 4 6	Po83	1319 1362	埋砂下層	土師器	高杯杯部	15.1	△5.6		外面タテハケ後縦方向ミガキ。内面端部横方向ミガキ。以下縦方向ミガキ。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色		野子37
S I 2 4 6	Po84	1123 1380	埋砂下層	土師器	高杯杯部	14.9	△4.9		外面ヨコハケ後縦方向ミガキ。内面縦方向ミガキ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本34
S I 2 4 6	Po85	1114	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※16.8	△5.5		外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目後ミガキ。内面ハケ目後ナデ。風化している。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		野崎76
S I 2 4 6	Po86	1306	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※15.0	△5.3		外面横方向のナデ。一部ハケ目が残る。内面口縁部ハケ目後複雑なナデ。粗いミガキ。杯底部ナデ。	密(1～3mm程度の石英・砂粒を含む)	良好	明黄褐色	赤褐色		山本く47
S I 2 4 6	Po87	2119	床 面	土師器	高杯脚部		△8.4	15.6	外面筒部縦方向ミガキ。裾部ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部螺旋状ハケ目。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	筒部3方円形透かし。外面スス付着。	中原41
S I 2 4 6	Po88	1533	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△8.9	※11.6	外面筒部ケズリ後横方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ後ナデ。裾部ミガキ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	筒部3方円形透かし。	野崎74
S I 2 4 6	Po89	1480	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△8.6	10.9	外面筒部縦方向のミガキ。裾部ミガキ後ナデ。内面筒部ケズリ。裾部細かいハケ目。端部ヨコナデ。	密	良好	明褐色	明褐色	外面、内面端部赤色塗彩。筒部3方円形透かし。	米山54
S I 2 4 6	Po90	1562	床 面	土師器	高杯脚部		△8.1	※11.8	外面筒部ナデ後おもに縦方向ミガキ。裾部ミガキ後ナデ。内面筒部右方向ケズリ後ナデ。裾部ハケ目後ナデ。端部ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	筒部3方円形透かし。	米山53
S I 2 4 6	Po91	1363	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△7.6	※12.5	外面筒部面取り後ナデ。裾部ハケ目後複雑なナデ。内面筒部ケズリ。裾部ナデ、ハケ目残る。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	筒部3方円形透かし。	米山56
S I 2 4 6	Po92	1486	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△8.8	※12.7	外面筒部上半縦方向ミガキ。下半列点状ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		山本ひ62
S I 2 4 6	Po93	1493	床 面	土師器	高杯脚部		△9.2	※11.4	外面横方向ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	裾部内面ヘラ記号有り。	山本ひ63
S I 2 4 6	Po94	1116	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△7.6	※11.1	外面筒部ケズリ後横方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本ひ64
S I 2 4 6	Po95	1415	床 面	土師器	高杯脚部		△7.5	※11.4	外面筒部上端タテハケ後横方向ミガキ。下半タテハケ後一部ナデ消し後ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本ひ61
S I 2 4 6	Po96	1416	床 面	土師器	高杯脚部		△6.5	※12.2	外面筒部ケズリ後タテハケ後横方向ミガキ。裾部ハケ目。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		山本ひ65
S I 2 4 6	Po97	1565	床 面	土師器	鼓形器台	29.2	18.4	27.1	外面受部縦方向ミガキ。屈曲部列点状ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面受部ケズリ後横方向ミガキ。脚部ケズリ。端部ナデ。	密	良好	褐色	褐色	受部・脚部5方円形透かし。	野子5
S I 2 4 6	Po98	1123	埋砂中	土師器	鼓形器台脚部		△4.3	※14.6	外面ヨコナデ。内面左方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		福田や69

挿表26 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(3)

S I 2 4 6	Po99	1496	床面	土師器	鼓形器台	22.1	12.1		※22.7	外面受部縦方向ミガキ。屈曲部ナデ。脚部縦方向ミガキ。 内面受部ケズリ後横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	脚部一部剥離。	米山5
S I 2 4 6	Po100	2064	床面	土師器	鼓形器台受部	※18.4	△7.7			外面ヨコナデ。 内面横方向ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	淡黄色		福田や71
S I 2 4 6	Po101	1123	埋砂中	土師器	鼓形器台脚部		△5.5		※15.9	外面ヨコナデ。 内面受部ミガキ。脚部右上方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		福田や70
S I 2 4 6	Po102	1125 1481 1574 1575	埋砂下層	土師器	小型器台	※9.5	9.4		※12.1	外面縦方向のミガキ後ナデ。 内面受部やや丁寧なミガキ。脚部ナデ、指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胎土分析。	米山59
S I 2 4 6	Po103	1406 1422	床面	土師器	小型器台	8.6	9.2		11.3	外面受部ヨコナデ後縦方向ミガキ。脚部縦方向ミガキ。 内面受部横方向ミガキ。脚部上半指頭圧痕。下半ハケ目。	密(微砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		松本37
S I 2 4 6	Po104	1411	埋砂下層	土師器	小型器台	※10.7	9.2		※12.2	外面ナデ後横方向の粗いミガキ、接合部など一部にハケ目が残る。 内面受部横方向ナデ後粗いミガキ。接合部ケズリ。脚部ハケ目後ナデ、指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	二次的に一部剥離。	米山57
S I 2 4 6	Po105	1124 1452 1556	床面	土師器	小型器台	※9.2	8.2		※11.6	外面ミガキ後やや丁寧なナデ。 内面受部ナデ後粗いミガキ、接合部付近工具痕が残る。接合部ケズリ。脚部上半右方向ケズリ、下半ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		米山58
S I 2 4 6	Po106	1124 1447	埋砂下層	土師器	小型器台	※9.5	7.7		※11.5	外面横方向のナデ、接合部ハケ目後ミガキ。内面受部ナデ後ミガキ。接合部ナデ。脚部上半ナデ、下半ハケ目後ナデ、指頭圧痕が残る。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色		山本く48
S I 2 4 6	Po107	1100 1245	埋砂上層	土師器	小型器台	※10.2	△8.3			外面受部横方向のナデ後粗いミガキ。脚部細かいハケ目後粗いミガキ。内形透かしあり。 内面口縁部ミガキ、受部底部剥離。脚部上半ケズリ、下半ハケ目後ナデ。	密(1mm程度の砂粒を多く含む)	良好	橙色	橙色	胎土分析。	山本く46
S I 2 4 6	Po108	1124	埋砂中	土師器	低脚杯	※15.0	4.7		4.5	外面杯部ハケ目後ミガキ、ナデ。脚部ナデ。 内面杯部ミガキ後丁寧なナデ。脚部横方向の工具によるナデ。	密(0.5~1mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		山本く45
S I 2 4 6	Po109	1554	床面	土師器	小型九底壺	9.9	9.5	9.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。中位左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス附着。	福田の42
S I 2 4 6	Po110	1413 1574	床面	土師器	小型九底壺	※8.7	8.4	※8.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	橙色	胎土分析。	松本35
S I 2 4 6	Po111	1318	埋砂中	土師器	小型九底壺	※9.6	△9.7	※9.4		外面口縁部~肩部ヨコナデ。胴部下半斜~ヨコハケ。 内面口縁部~肩部ヨコナデ。中位左方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス附着。	福田や73
S I 2 4 6	Po112	2528	埋砂中	土師器	甗	※21.0	△22.7			口縁部ヨコナデ。体部タテハケ。 内面口縁部工具によるヨコナデ。以下斜上方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス附着。	野崎69
S I 2 4 7	Po113	1131	埋砂中	土師器	壺	※20.4	△5.6			内外面ヨコナデ。	密	良好	灰黄褐色	灰黄褐色		福田や110
S I 2 4 7	Po114	989 1395 1626	埋砂下層	土師器	甗	※16.4	27.2	※25.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下ヨコ後斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面スス附着。 胎土分析。	野崎119
S I 2 4 7	Po115	1396	埋砂下層	土師器	甗	※17.4	△13.2	※20.5		外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部横方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	胴部外面スス附着。	山本ひ101
S I 2 4 7	Po116	1395	埋砂下層	土師器	甗	※15.2	△13.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部不定方向のナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、中位以下左斜め上方向のケズリ後不定なナデ。	密(4mmの石英有り。1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色 黒褐色	明褐色	外面胴部薄くスス附着。 内外面黒斑有り。	山本く78
S I 2 4 7	Po117	1320 1427	埋砂下層	土師器	甗	※15.6	△17.1	※20.0		外面口縁部~肩部ヨコナデ。肩部1条沈線。 内面口縁部ヨコナデ。肩部~中位右方向ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	胴部外面スス附着。 胎土分析。	野崎118
S I 2 4 7	Po118	1499	埋砂上層	土師器	甗	※15.9	△22.7	※23.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。貝殻腹縁による刺突文。中位以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部~中位右方向ケズリ。中位以下指頭圧痕。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス附着。胴部外面黒斑有り。胎土分析。	野崎56
S I 2 4 7	Po119	1400	埋砂下層	土師器	甗	※14.2	△5.8			外面口縁部~肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス附着。	福田や111
S I 2 4 7	Po120	1307	埋砂下層	土師器	甗	※13.5	△6.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部横方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス附着。胎土分析。	福田や112
S I 2 4 7	Po121	1394	埋砂下層	土師器	高杯	16.5	12.5	10.8		外面杯部横方向ミガキ。筒部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。裾部横方向ミガキ。 内面杯部ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mm大の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	杯部内外面、脚部スス附着。	山本ひ102
S I 2 4 7	Po122	1425	埋砂下層	土師器	高杯杯部	16.6	△5.0			外面ナデ。風化している。 内面縦方向ミガキ。	密	良好	灰褐色 にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス附着。口縁部内面黒斑有り。	野崎77
S I 2 4 7	Po123	1305 1320	埋砂下層	土師器	高杯杯部	※15.0	△4.5			外面ヨコナデ。 内面ハケ目後ヨコナデ。	密	良好	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色		野崎120
S I 2 4 7	Po124	1403	埋砂下層	土師器	高杯杯部	17.1	△5.3			外面口縁部横方向ミガキ。底部ハケ目。 内面縦方向ミガキ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面黒斑有り。	福田や114
S I 2 4 7	Po125	1428	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△8.9		11.7	外面細かい横方向ミガキ。 内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。ヘラ記号有り。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	黄褐色	裾部外面スス附着。	福田や113
S I 2 4 7	Po126	1399	埋砂下層	土師器	鼓形器台脚部		△3.4		※14.6	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密	良好	にぶい 褐色	褐色	外面黒斑有り。胎土分析。	山本ひ100
S I 2 4 7	Po127	1131	埋砂下層	土師器	低脚杯	※13.0	4.4	4.8		外面杯部ナデ。脚部ヨコナデ、接合部に工具痕有り。内外面とも杯端部ヨコナデ。 内面杯部ミガキ。脚部ヨコナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	明褐色	明褐色	内面杯部黒斑有り。	山本く79
S I 2 4 7	Po128	1424	埋砂下層	土師器	小型九底壺	※7.8	7.8	9.0		外面口縁部~肩部横方向ミガキ。肩部刺突痕2カ所。中位以下ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	褐色	胴部外面黒斑有り。	野崎2
S I 2 4 7	Po129	1320	埋砂下層	土師器	小型九底壺	※8.2	△6.5	※8.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部横ハケ目。 内面口縁部ナデ。胴部右方向ケズリ。肩部指頭圧痕が残る。	密(0.5~1mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面胴部スス附着。 胎土分析。	山本く99
S I 2 4 7	Po130	1320	埋砂下層	土師器	小型九底壺		△5.3	※6.9		外面口縁部ナデ。肩部横方向ミガキ。以下ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。底部ナデ。爪痕有り。	密	良好	にぶい 黄色	褐色	胎土分析。	山本く77
S I 2 4 7	Po131	1392	埋砂下層	土師器	甗		△22.7	狭口 12.1		外面狭口ヨコナデ。体部タテハケ。把手ナデ。 内面狭口部ケズリ後ナデ。体部ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	体部外面黒斑有り。	野崎121
S I 2 4 8	Po132	1108	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△6.3			外面縦方向のハケ目。 内面左方向のやや丁寧なケズリ。	密(0.5~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面一部スス附着。	山本ひ98
S I 2 4 8	Po133	1106	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△3.5			外面筒部縦方向のミガキ。裾部ミガキ後ナデ。 内面筒部左のケズリ。裾部ナデ、ハケ目。	密(1mmの砂粒まばらに含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	筒部3方円形透かし。	山本ひ97

挿表27 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(4)

S I 2 4 9	Po134	2518 2821 2822 2833 2819 2945 3416 3664	床 面	土師器	壺	※27.9	△39.4	※31.7	外面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ後横方向ナデ。胴部不正方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。ハケ目残る。胴部上半おもに右方向ケズリ。一部指頭圧痕が残る。底部指ナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	赤褐色	赤褐色	内面口縁部スス付着。頭部黒斑有り。胴部に黒斑有り。	野崎26
S I 2 4 9	Po135	2583 2652 2653	埋砂上層	土師器	壺	※20.5	36.9	※27.8	外面口縁部ヨコナデ。頸部ヘラ状工具による刺突文。肩部~上半部タテ後ヨコハケ。下半部タテハケ。内面口縁部~頸部ヨコナデ。肩部~中位右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2~3mm程度の砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		野崎61
S I 2 4 9	Po136	3415 3652	床 面	土師器	壺	※22.8	△19.6		外面口縁部ヨコナデ。頸部以下ナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部胴部おもに右方向ケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	淡赤褐~赤灰色	淡赤褐~赤灰色	外面一部スス付着。	野崎29
S I 2 4 9	Po137	2624 2706 2862 2866 2886	埋砂上層	土師器	壺	※19.5	△18.0	28.2	外面口縁部ヨコナデ。頸部以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横方向のナデ。粘土つき痕がみられる。肩部ナデ。指頭圧痕が残る。胴部右方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を多く含む)	良好	にぶい赤褐~褐色	にぶい赤褐~褐色	外面胴部スス付着。一部黒斑有り。	福田や35
S I 2 4 9	Po138	3436	床 面	土師器	壺	※26.0	△7.4		外面口縁部ヨコナデ。頸部以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。指頭圧痕が残る。	密(わずかに砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		野崎12
S I 2 4 9	Po139	2623 2625	埋砂上層	土師器	壺	※21.2	△7.7		外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。	密(砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		厨子6
S I 2 4 9	Po140	3661	床 面	土師器	壺	※15.0	△21.0	※21.0	外面口縁部・頸部ヨコナデ。胴部上半おもにヨコハケ。下半ナデ。内面口縁部ナデ。頸部指ナデ。胴部上半左右方向ケズリ。下半左斜め上方向ケズリ。一部指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面全体に多量にスス付着。内面胴部下にスス付着。	米山30
S I 2 4 9	Po141	2774	埋砂上層	土師器	壺		△11.4		外面頸部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。5条波状文。以下タテハケ。内面頸部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		米山38
S I 2 4 9	Po142	3425	床 面	土師器	壺		△8.9		外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目後ヨコハケ。胴部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向の指ナデ後ナデ。胴部左方向ケズリ。	やや密(3mm以下の砂粒、石英を多く含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田や29
S I 2 4 9	Po143	2945 3657 3664	床 面	土師器	甕	※26.5	43.0	※33.9	外面口縁部ヨコナデ。肩部斜め・ヨコハケ後ナデ。連続刺突文。胴部上半おもに横、下半おもに縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右、下半上方向へのケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密(1~5mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面口縁部~肩部、内面風化気味。	福田の22
S I 2 4 9	Po144	2937 3565	床 面	土師器	甕	26.8	37.0	33.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位ヨコハケ。下半タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	赤褐色	赤褐色	外面黒斑有り。内面スス付着。	野崎32
S I 2 4 9	Po145	3539 3547	床 面	土師器	甕	21.0	△27.0	※28.5	外面口縁部ヨコナデ。肩部10条平行沈線。以下斜めヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。一部指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	山本ひ23
S I 2 4 9	Po146	3535	床 面	土師器	甕	※19.6	△24.2	※26.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部上半おもにヨコハケ。下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右~右斜め上方向ケズリ。下半ケズリ後ナデ。	密(1~3mm程度の砂粒をわずかに含む)	良好	赤褐色	赤褐色	外面口縁部~胴部下半スス付着。	野崎7
S I 2 4 9	Po147	3565 3568 3593	床 面	土師器	甕	※20.6	△30.4	※27.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半斜め方向のハケ目。下半横・斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右、下半左斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい橙~ぶい黄褐色	にぶい橙~ぶい黄褐色	胴部黒斑有り。口縁部および外面風化気味。	米山24
S I 2 4 9	Po148	3571	床 面	土師器	甕	※14.8	26.3	※21.0	外面口縁部~肩部ヨコナデ。口縁部一部風化。肩部ヨコハケ以下斜~ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	胴部外面スス付着。口縁部外面黒斑有り。	中原15
S I 2 4 9	Po149	3406	床 面	土師器	甕	16.6	26.6	22.0	外面口縁部~肩部ヨコナデ。最大径付近以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2~6mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	口縁部~外面黒斑有り。胴部外面スス付着。	山本ひ25
S I 2 4 9	Po150	2776 2780 2795 2853	埋砂上層	土師器	甕	※16.8	△27.8	※22.6	外面口縁部ヨコナデ。一部3条平行沈線。肩部~中位ヨコナデ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部中位付近焼成後穿孔外面スス付着。	米山20
S I 2 4 9	Po151	3580	床 面	土師器	甕	※15.6	26.6	※21.6	外面口縁部~肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下細かいタテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下斜~上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	内外面スス付着。	中原13
S I 2 4 9	Po152	3566	床 面	土師器	甕	※14.6	26.0	※20.7	外面口縁部ヨコナデ。口縁部沈線。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜~ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	胴部外面スス付着。口縁部外面黒斑有り。	山本ひ28
S I 2 4 9	Po153	3440 3448	床 面	土師器	甕	※17.0	△25.7	※23.1	外面口縁部ヨコナデ。肩部~中位ヨコハケ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位左方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	明褐~明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑有り。胴部外面スス付着。	山本く17
S I 2 4 9	Po154	3655	床 面	土師器	甕	14.4	26.2	21.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。3条波状文。中位以下斜~タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑有り。胴部外面スス付着。	山本く16
S I 2 4 9	Po155	3402	埋砂上層	土師器	甕	15.3	26.0	21.7	外面口縁部~肩部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部~中位右方向ケズリ。以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2mm程度の石英、砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面黒斑有り。スス付着。内面底部スス付着。	松本7
S I 2 4 9	Po156	3614	床 面	土師器	甕	※13.8	25.0	※20.8	外面口縁部~肩部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。	松本21
S I 2 4 9	Po157	3647	床 面	土師器	甕	17.6	△25.1	※24.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後3条波状文。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	内外面スス付着。	中原12
S I 2 4 9	Po158	3656	床 面	土師器	甕	14.6	△25.0	※21.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	松本13
S I 2 4 9	Po159	3619 3620 3652 3653 3656 3659 3661 3664 3688	床 面	土師器	甕	※14.6	△24.0	△22.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。中位タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ後ナデ。底部付近指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	米山15

挿表28 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(5)

S I 2 4 9	Po160	3537	床 面	土師器	甕	15.6	27.2	22.9	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1mm程度を 含む)	良好	橙～黄 褐色	橙～黄 褐色	外面ス ス付着。	中原16
S I 2 4 9	Po161	3534 3535	床 面	土師器	甕	※17.0	27.8	※22.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後肩部・底部一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ、指頭圧痕が少量に残る。	密	良好	褐色	褐色	外面胴部・ 口縁部の 一部に ス付着。	米山9
S I 2 4 9	Po162	3607	床 面	土師器	甕	※14.5	25.1	20.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部5条平行沈線。肩部～中位ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜～上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2 mm程度 の砂粒 を含む)	良好	ぶい 赤褐色	ぶい 赤褐色	外面ス ス付着。	山本ひ 27
S I 2 4 9	Po163	3460	床 面	土師器	甕	14.4	24.8	21.0	外面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ナデ後5条の平行沈線。胴部不定方向のやや粗いハケ目後部分的にナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ。下半左上方のケズリ後ナデ。底部及び頸部に指頭圧痕が残る。	密(1～3 mm程度 の砂粒 を含む)	良好	褐色	褐色	外面底部 を除きほ は全面に ス付着。	福田の 21
S I 2 4 9	Po164	2944 3654 3656 3688	床 面	土師器	甕	15.5	25.4	22.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部1条波状文。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。	密(1～2 mm程度 の砂粒 を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	内外面ス ス付着。 胴部外面 黒斑有り。	野崎33
S I 2 4 9	Po165	3579 3580 3586 3587	床 面	土師器	甕	※16.4	27.1	23.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻縁線による羽状文2か所。最大径付近タテ後ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位指押しえ後上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒 含む)	良好	明黄褐 色	明黄褐 色	外面ス ス付着。	山本く 18
S I 2 4 9	Po166	3579 3587 3593 3668	床 面	土師器	甕	※15.4	25.9	22.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部7条平行沈線。中位ヨコハケ。中位以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位横方向ケズリ。以下斜～上方向ケズリ。	密(1mm以 下の砂粒 を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	底部外面 ス付着。 胴部外面 黒斑有り。	山本ひ 29
S I 2 4 9	Po167	2944 3652 3656 3661	床 面	土師器	甕	※15.6	△25.2	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ、刺突文がまわる。胴部中位以下不定方向のハケ目後ナデ、工具痕が一部みられる。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右斜め上、胴部おもに左斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕が残る。	密	良好	ぶい 橙～ ぶい 黄褐色	ぶい 橙～ ぶい 赤褐色	外面全体 にス付着。 外面一部 刺離。	福田や 57
S I 2 4 9	Po168	3459	床 面	土師器	甕	※15.4	△25.3	21.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部おもにヨコハケ、下半ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。胴部左斜め上方向のケズリ後ナデ、指頭圧痕が大量に残る。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	外面胴内 面底部に ス付着。	米山8
S I 2 4 9	Po169	3429	床 面	土師器	甕	14.9	23.3	20.4	外面口縁部～肩部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。ヘラ状工具による刺突文前面4か所。中位以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒 を含む)	良好	浅黄色	淡黄色	胴部外面 ス付着。 内面焦け 痕。	松本9
S I 2 4 9	Po170	3648	床 面	土師器	甕	※16.0	△21.0	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、刺突文がまわる。胴部横～斜め方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右斜め上方向、下半左斜め上方向のケズリ後一部ナデ。指頭圧痕が残る。	密(砂粒を わずかに 含む)	良好	黄褐色	ぶい 黄褐色	外面全体 ス付着。	野崎30
S I 2 4 9	Po171	3552	床 面	土師器	甕	※14.1	△20.6	※20.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部上半おもに横方向の細かいハケ目、下半剥離のための調整不明。コナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左斜め上方向のケズリ。	密(1～2 mm程度 の砂粒を 多く含む)	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	外面口縁 部～肩部 一部ス ス付着。	野崎5
S I 2 4 9	Po172	2900	埋砂上層	土師器	甕	※16.7	△16.9	※28.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後7条平行沈線。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm程度 の砂粒を 含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面黒斑 有り。	野崎16
S I 2 4 9	Po173	3434	床 面	土師器	甕	※16.9	△19.5	※24.3	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後7条平行沈線。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。	密(1～3 mm程度 の砂粒を 含む)	良好	赤褐色	赤褐色	外面口縁 部、胴部 黒斑有り。 胴部外面 ス付着。	野崎20
S I 2 4 9	Po174	3649	床 面	土師器	甕	※16.9	△16.6	※25.7	外面口縁部ヨコナデ。肩部横方向のナデ。胴部横～縦方向のハケ目後ナデ、工具痕有り。内面ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後丁寧なナデ。	密(1～2 mm程度 の砂粒を 多く含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面胴部 一部にス ス付着。 黒斑有り。	野崎28
S I 2 4 9	Po175	2607	埋砂上層	土師器	甕	※21.2	△10.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部刺突文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄色		厨子24
S I 2 4 9	Po176	3401	埋砂上層	土師器	甕	15.7	△19.4	※21.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2 mm程度 の砂粒を 含む)	良好	灰黄色	灰黄色	外面ス ス付着。 部亦突。	野崎17
S I 2 4 9	Po177	2706 2843 2916	埋砂上層	土師器	甕	15.1	△18.0	※21.0	外面ヨコナデ。肩部ヨコハケ後棒状工具による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以 下の砂粒 を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	胴部外面 黒斑有り。	山本ひ 5
S I 2 4 9	Po178	3648	床 面	土師器	甕	※15.0	△16.4	※22.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻縁線による刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左右方向ケズリ。	密(2mm以 下の砂粒 を含む)	良好	明黄褐 色	ぶい 黄褐色	胴部内外 面ス付着。 胴部外面 黒斑有り。	松本17
S I 2 4 9	Po179	2880	埋砂上層	土師器	甕	※15.6	△15.0	※24.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(微砂粒 含む)	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	外面ス ス付着。	山本ひ 15
S I 2 4 9	Po180	2691	埋砂上層	土師器	甕	※15.2	△14.3	※23.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻縁線による刺突文。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	黄褐色	黄褐色	外面ス ス付着。	米山37
S I 2 4 9	Po181	3405	床 面	土師器	甕	※16.6	△16.5	※24.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部不定方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ケズリ後非常に丁寧なナデ。	密(4mm以 下の砂粒 を含む)	良好	褐色	ぶい 橙～灰 黄褐色	外面胴部 一部にス ス付着。 黒斑有り。	福田や 32
S I 2 4 9	Po182	3696	P 2内	土師器	甕	15.9	△15.0	※22.5	外面口縁部～肩部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(2～3 mm程度 の砂粒を 含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面ス ス付着。	山本ひ 17
S I 2 4 9	Po183	2778	埋砂上層	土師器	甕	※19.2	△14.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を 含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	胴部外面 ス付着。	厨子13
S I 2 4 9	Po184	3422	床 面	土師器	甕	※14.3	△14.0	※22.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。一部粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密(5mm以 下の砂粒・ 石英を 含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	外面全体 にス付着。	福田や 28
S I 2 4 9	Po185	2836	埋砂上層	土師器	甕	※16.9	△10.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜め方向ハケ目後ナデ。胴部縦～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	ぶい 黄色	ぶい 黄色	内面胴部 一部刺離 全体的に 黒斑有り。	米山31

挿表29 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(6)

S I 2 4 9	Po186	2605 2612 3457	床 面	土師器	甕	※17.3	△15.5	※24.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜め～横～斜め方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右斜め上、下半不定方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 黄橙～ にぶい 褐色	外面全体 ・口縁部 にぶい くス付着。	福田や 33
S I 2 4 9	Po187	2795	埋砂上層	土師器	甕	※16.6	△12.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部不定方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		福田や 41
S I 2 4 9	Po188	3586 3587	床 面	土師器	甕	※15.5	△10.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部おもにヨコハケ後ナデ。一条の沈線による波状文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄～ にぶい 褐色	浅黄～ にぶい 褐色	外面一部 にス付着。	福田や 39
S I 2 4 9	Po189	3451	床 面	土師器	甕	※14.2	△18.0	※20.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部クテ後ヨコハケ。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面ス付着。	野崎14
S I 2 4 9	Po190	2676	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△14.3	※20.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横・斜め方向の細かいハケ目。肩部刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ後ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面全体 にス付着。	米山28
S I 2 4 9	Po191	2582	埋砂下層	土師器	甕	※19.0	△19.0	※22.6	※14.4	外面口縁部ヨコナデ。口縁部下に一条の凹線がめぐる。胴部主にヨコハケ。底部端ハケ目有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向、下半上方向へのケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面口縁部 ・胴部 にス付着。	福田の 3
S I 2 4 9	Po192	3611	床 面	土師器	甕	※14.3	△14.7	※21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部横・斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の比較的丁寧なケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面胴部 下半にス付着。	福田や 43
S I 2 4 9	Po193	3555	床 面	土師器	甕	※14.4	△14.0	※17.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横方向、下半縦方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄～ 灰褐色	浅黄～ 灰褐色	外面全体 内面胴部 にス付着。	福田や 20
S I 2 4 9	Po194	3601	床 面	土師器	甕	※13.6	△12.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部クテ後ヨコハケ後ヘラ状工具による刺突文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。以下斜～縦方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面ス付着。	山本ひ 31
S I 2 4 9	Po195	3403	埋砂上層	土師器	甕	※18.5	△11.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ、ナデ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面一部 にス付着。 外面風化 気味。	福田や 31
S I 2 4 9	Po196	3597 3659 3668	床 面	土師器	甕	※16.1	△9.85			外面口縁部ヨコナデ。肩部以下ハケ目後ナデ。肩部刺突文がまわる。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後一部ナデ。	密(1.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄～ 灰黄色	浅黄～ 灰黄色	外面一部 にス付着。	福田や 44
S I 2 4 9	Po197	2630	埋砂上層	土師器	甕	※15.5	△11.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、刺突文有り。胴部おもにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向の丁寧なケズリ。	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙～に ぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	口縁部内 外面に薄 くス付着。	福田や 19
S I 2 4 9	Po198	2945 3444 3448	床 面	土師器	甕	※16.1	△11.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。肩部に刺突文がまわる。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ後一部ナデ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面一部 にス付着。	野崎11
S I 2 4 9	Po199	3416	床 面	土師器	甕	※15.8	△10.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面 にス付着。	米山35
S I 2 4 9	Po200	3443	床 面	土師器	甕	※14.4	△10.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後刺突痕。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄橙 色	浅黄橙 色	胴部内面 にス付着。	野子19
S I 2 4 9	Po201	3543	床 面	土師器	甕	※15.7	△9.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部横・斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右・左斜め上方向のケズリ。	密(0.7mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	外面胴部、 内面口縁部 にス付着。	福田や 10
S I 2 4 9	Po202	2708 2944 3552	床 面	土師器	甕	※16.9	△8.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向の丁寧なケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	内外面と 破損後 にス付着。	米山36
S I 2 4 9	Po203	3451	床 面	土師器	甕	※16.6	△8.3			外面口縁部工具によるヨコナデ。肩部おもにヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向の丁寧なケズリ。	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	外面全体 にス付着。	福田や 21
S I 2 4 9	Po204	2440 2532	埋砂上層	土師器	甕	※15.8	△10.3			外面口縁部工具によるナデ後ヨコナデ。頸部ハケ目後ナデ、刺突文有り。胴部横ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部左右両方向のケズリ後やや丁寧なナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面全体 ・内面 一部にス 付着。一部 剥離。	福田や 34
S I 2 4 9	Po205	3414	床 面	土師器	甕	15.6	△9.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ヘラ状工具による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面ス付着。	山本ひ 32
S I 2 4 9	Po206	3552	床 面	土師器	甕	※16.6	△8.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向の丁寧なケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	口縁部内 外面に薄 くス付着。	福田や 16
S I 2 4 9	Po207	2944 2945	埋砂中	土師器	甕	※14.3	△11.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密(1.5mm以下の砂粒・石英を含む)	良好	にぶい 橙～に ぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面胴部 わずかに ス付着。	福田や 23
S I 2 4 9	Po208	2440 2441	埋砂上層	土師器	甕	※17.0	△6.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向の比較的丁寧なケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		福田や 12
S I 2 4 9	Po209	2426	埋砂上層	土師器	甕	※13.0	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部おもにヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。肩部右方向の丁寧なケズリ。	密	良好	にぶい 橙～橙 色	にぶい 橙～橙 色	外面全体 にス付着。	福田や 9
S I 2 4 9	Po210	3667 3668	床 面	土師器	甕	※13.6	△6.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部4条波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面ス付着。	山本ひ 30
S I 2 4 9	Po211	2810	埋砂上層	土師器	甕	※15.8	△14.5			外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部1条波状文。中位ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下左右方向ケズリ。	密(微砂粒含む)	良好	黄褐色	淡黄色		松本11
S I 2 4 9	Po212	2610	埋砂上層	土師器	甕	※15.2	△12.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による羽状文。以下クテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂粒含む)	良好	褐色	灰オリーブ 色	外面ス付着。	松本20
S I 2 4 9	Po213	2354 2581	埋砂下層	土師器	甕	※14.0	△16.1	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部主にヨコハケ後不定方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右斜め上方向、下半左斜め上方向のケズリ。	密(1～2mmの石英・砂粒を多く含む)	良好	明赤褐 色	灰オリーブ 色	外面ス付着。 一部厚みをも って炭 化物付着。 内面口縁部 スス痕。	山本く 2
S I 2 4 9	Po214	3647	床 面	土師器	甕	※14.8	△10.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	外面ス付着。	野子16

挿表30 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(7)

S I 2 4 9	Po215	3548	床 面	土師器	甕	※15.7	△9.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	橙～にぶい褐色	橙～にぶい褐色	外面口縁部に薄くスス付着。	福田や11
S I 2 4 9	Po216	2817	埋砂上層	土師器	甕	※15.6	△6.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデか。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部・肩部ナデ、右方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色～にぶい褐色	にぶい黄褐色	外面口縁部スス付着。	福田や36
S I 2 4 9	Po217	2930	埋砂下層	土師器	甕	※13.6	△14.4	※22.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向のケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面胴部スス付着。	野崎27
S I 2 4 9	Po218	3552	床 面	土師器	甕	※15.4	△14.7	※21.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ、刺突文有り。胴部横・縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ、下半丁寧なナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色～褐色	橙～褐色	外面口縁部に多量にスス付着。	福田や30
S I 2 4 9	Po219	3583	床 面	土師器	甕	13.8	△10.9			外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部1条波状文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	山本ひ18
S I 2 4 9	Po220	2774	埋砂上層	土師器	甕	※16.4	△10.5			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目後ナデ。刺突文有り。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面全体にスス付着。	福田や40
S I 2 4 9	Po221	3587	床 面	土師器	甕	※15.1	△8.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部横ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面口縁部に薄くスス付着。	福田や14
S I 2 4 9	Po222	3619	床 面	土師器	甕	※14.0	△11.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	野崎25
S I 2 4 9	Po223	2812	埋砂上層	土師器	甕	※15.4	△9.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	浅黄褐色	外面スス付着。	野崎9
S I 2 4 9	Po224	2903	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△8.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	灰白色		野崎19
S I 2 4 9	Po225	2688	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。一部タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ後ハケ目。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑有り。	米山25
S I 2 4 9	Po226	2901	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	△7.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部おもに右方向のケズリ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面全体にスス付着。	野崎25
S I 2 4 9	Po227	3423	床 面	土師器	甕	※14.4	△7.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面全体に薄くスス付着。	福田や6
S I 2 4 9	Po228	3656	床 面	土師器	甕	※13.9	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		野崎22
S I 2 4 9	Po229	3412	床 面	土師器	甕	※10.0	13.2	12.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横方向、中位縦方向の非常に粗いハケ目後ナデ。中位に工具痕・成型時のゆがみがみられる。肩部に1条の雑な沈線。胴部下半ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向、下半斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕、ナデ。	密	良好	褐色	褐色	胴部中位に黒斑有り。	米山34
S I 2 4 9	Po230	2934 3530 3532 3534	床 面	土師器	甕	※15.0	25.0	※22.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横・斜め方向の細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の比較的丁寧なケズリ、下半ナデ、指頭圧痕が多量に残る。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面口縁部多量にスス付着。内面底部スス付着。	米山49
S I 2 4 9	Po231	3567	床 面	土師器	甕	14.7	23.5	20.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに横方向、中位以下おもに斜方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向、中位左斜め上方向のケズリ、以下ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密(1～5mmの砂粒を含む)	良好	明褐色～褐色	明褐色～褐色	外面口縁部上半にスス付着。	福田の10
S I 2 4 9	Po232	3553	床 面	土師器	甕	14.3	△23.5	20.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後粗いヨコハケ。中位以下粗いタテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコケズリ。以下縦方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。胎土分析。	山本ひ53
S I 2 4 9	Po233	3654 3656 3668	床 面	土師器	甕	15.6	24.0	20.9		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	口縁部外面黒斑有り。胴部外面スス付着。	山本ひ22
S I 2 4 9	Po234	3427	床 面	土師器	甕	14.0	21.9	19.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部粗いタテ後ヨコハケ。貝殻腹縁による刺突文6か所。下半以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スス付着。内面焦げ痕。	松本19
S I 2 4 9	Po235	3585	床 面	土師器	甕	14.2	21.9	19.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ、刺突文約1/3周(6個)。胴部中位縦方向、以下おもに横・斜め方向ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左上方のケズリ、指頭圧痕あり。底部指頭圧痕。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	橙～にぶい褐色	橙～にぶい褐色	胴部および口縁部少量スス付着。	福田の13
S I 2 4 9	Po236	2583 3549	床 面	土師器	甕	13.7	22.0	19.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面黒斑有り。	米山14
S I 2 4 9	Po237	3614 3641 3651	床 面	土師器	甕	※13.6	21.2	18.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヘラ状工具による刺突文。最大径付近以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。下半上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	黄褐色～赤褐色	黄褐色～赤褐色	内外面スス付着。	野崎31
S I 2 4 9	Po238	3566 3574 3576 3583 3616 3617	床 面	土師器	甕	13.6	21.0	18.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後3条波状文。最大径付近以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。最大径以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2～4mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい黄褐色	底部焼成後穿孔孔。胴部外面スス付着。	野崎34
S I 2 4 9	Po239	3449	床 面	土師器	甕	13.8	20.7	18.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部～中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。内面焦げ痕。	山本ひ20
S I 2 4 9	Po240	2794	埋砂上層	土師器	甕	15.7	20.4	17.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部棒状工具による刺突文6か所。胴部最大径付近ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。下半指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面スス付着。胎土分析。	山本ひ26
S I 2 4 9	Po241	2583 3614 3620	床 面	土師器	甕	※14.3	23.1	※20.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに斜め方向、下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向、下半左斜め上方向のケズリ後ナデ、指頭圧痕が残る。底部指頭圧痕。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	赤褐色	赤褐色	内面底部～外面スス付着。底部に焼成前外面から穿孔。	野崎21

挿表31 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(8)

S I 2 4 9	Po242	2876	埋砂上層	土師器	甕	14.2	△21.5	※19.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横、下半おもに縦方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ、下半左斜め上方向のケズリ後丁寧なナデ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	外面胴部中位以下薄くスス付着。	米山11
S I 2 4 9	Po243	3695	P1内	土師器	甕	※15.0	△22.6	※19.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス付着。胴部内面一部赤変。胎土分析。	米山17
S I 2 4 9	Po244	2683	埋砂上層	土師器	甕	※15.0	△19.5	※19.5	外面口縁部ヨコナデ。肩部縦方向のハケ目後ナデ。胴部上半おもにヨコハケ、下半縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部上半右方向のケズリ、下半ナデ・指頭圧痕。	密(2～3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	口縁部黒変有り。外面底部スス付着。胎土分析。	野崎4
S I 2 4 9	Po245	3577	床面	土師器	甕	※15.2	△22.0	※20.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部不定方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向、下半左斜め上方向のケズリ後ナデ。肩部一部指ナデ痕がみられる。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面全体的にスス付着。底部は薄。	中原14
S I 2 4 9	Po246	2669 2707 2708 2944 2945 3383 3540	床面～埋砂上層	土師器	甕	※15.6	22.9	22.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。底部付近上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	明橙色	明橙色		野崎18
S I 2 4 9	Po247	3570	床面	土師器	甕	14.2	21.9	20.0	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに横、下半おもに縦方向ハケ目。底部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ、中位以下右～左斜め上方向ケズリ後丁寧なナデ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面胴部中位にスス付着。	米山18
S I 2 4 9	Po248	2617 2848	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△20.0	※20.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部縦方向のハケ目後ナデ。約1/4周に刺突文4。胴部上半おもにヨコハケ、下半ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左斜め上方向のケズリ後ナデ、指頭圧痕が残る。	密(2～3mmの砂粒を多く含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面口縁部上半スス付着。内面底部付近一部スス付着。胎土分析。	野崎6
S I 2 4 9	Po249	2613 2614 2855	埋砂上層	土師器	甕	※13.0	21.4	※19.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。6条平行沈線。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	橙色		米山16
S I 2 4 9	Po250	3579	床面	土師器	甕	※13.4	△19.6	18.3	外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部棒状工具による刺突文7か所。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下横方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	浅黄褐色	外面スス付着。	松本18
S I 2 4 9	Po251	2583 2640 2831	埋砂上層	土師器	甕	※15.6	△17.0	※21.9	外面口縁部～肩部ヨコナデ。最大径付近ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(砂粒含む)	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス付着。	山本ひ8
S I 2 4 9	Po252	3407	床面	土師器	甕	※15.4	△16.0	※20.9	外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ後ナデ。以下不定方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のやや丁寧なケズリ後ナデ。	密(2.5mm以下の石英を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面全体にスス付着。	福田や18
S I 2 4 9	Po253	2660	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△13.0	※21.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ、刺突文有り。胴部おもにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のやや丁寧なケズリ。	やや密(4mm以下の石英を多く含む)	良好	灰黄色	にぶい 黄褐色	外面胴部にスス付着。	福田や22
S I 2 4 9	Po254	3603	床面	土師器	甕	※14.0	△15.9	※20.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。棒状工具による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	明黄褐色	黄褐色	外面スス付着。	松本15
S I 2 4 9	Po255	2781	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△14.4	※18.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス付着。	米山26
S I 2 4 9	Po256	2656 2888 2943	埋砂中	土師器	甕	※15.0	△13.2	※15.5	外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	外面全体的にスス付着。	野崎9
S I 2 4 9	Po257	3448	床面	土師器	甕	※13.5	△12.9	※18.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後雑なナデ。胴部不定方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。粘土つなぎ痕がみられる。胴部上半右方向、下半左斜め上方向への丁寧なケズリ、工具痕有り。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面胴部にスス痕有り。	福田や17
S I 2 4 9	Po258	3533	床面	土師器	甕	※14.3	△12.1	※20.6	外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 褐色	外面一部スス付着。	福田や7
S I 2 4 9	Po259	2928	埋砂下層	土師器	甕	※14.7	△10.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス付着。	野崎15
S I 2 4 9	Po260	3643	床面	土師器	甕	※13.0	△11.9	※19.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後一部刺突痕。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面スス付着。	米山27
S I 2 4 9	Po261	3643	床面	土師器	甕	※14.0	△11.5	※19.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁線による刺突文。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(砂粒含む)	良好	赤褐色	赤褐色	外面スス付着。	山本ひ14
S I 2 4 9	Po262	2884	埋砂下層	土師器	甕	※14.6	△11.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ。	密(わずかに砂粒を含む)	良好	淡褐色	淡褐色	外面一部にスス付着。	野崎13
S I 2 4 9	Po263	2708 2798	埋砂上層	土師器	甕	※14.6	△10.6		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	米山21
S I 2 4 9	Po264	3441	床面	土師器	甕	※13.3	△9.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面口縁部の一部に厚くスス付着。	福田や15
S I 2 4 9	Po265	2440	埋砂上層	土師器	甕	※16.1	△9.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後一部ナデ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面全体的にスス付着。	野崎10
S I 2 4 9	Po266	2943	埋砂中	土師器	甕	※15.1	△8.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、指頭圧痕が残る。肩部おもに右方向のケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面全体にスス付着。	野崎23
S I 2 4 9	Po267	2819	埋砂上層	土師器	甕	※14.2	△9.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁線による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面スス付着。	米山29
S I 2 4 9	Po268	2943 3555 3565 3568	床面	土師器	甕	12.7	△18.3	※17.3	外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面スス付着。	山本ひ19
S I 2 4 9	Po269	2890	床面	土師器	甕	13.5	△7.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後1条波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(微砂粒含む)	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	松本14

挿表32 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(9)

S I 2 4 9	Po270	3641	床 面	土師器	甕	※11.0	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。肩部に全周しない1条の沈線有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	浅黄～ にぶい 橙色	浅黄～ にぶい 橙色	外面口縁部～頸部 の一部ス ス付着。	福田や 38
S I 2 4 9	Po271	2945	埋砂中	土師器	甕	※11.9	△7.05			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密(1mm以下 の石英を 含む)	良好	にぶい 橙色	黄褐色	外面全体 にスス付 着。	福田や 13
S I 2 4 9	Po272	3597	床 面	土師器	甕	※13.3	△9.5			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部・肩部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部右方向のケズリ。	密(2mm程 度の砂粒 を含む)	良好	明赤褐 色	明赤褐 色	外面口縁 部かすか にスス付 着。	野崎8
S I 2 4 9	Po273	2603	埋砂上層	土師器	甕	※11.6	△11.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2 mm程 度の砂粒 を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス 付着。	厨子18
S I 2 4 9	Po274	2917	埋砂下層	土師器	甕	※13.1	△7.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、一条の沈線有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(微砂粒 を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面全体 にスス付 着。	野崎22
S I 2 4 9	Po275	2944	埋砂中	土師器	甕	※13.1	△5.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、指頭圧痕・粘土つなぎ痕有り。肩部右方向のケズリ。	密(0.5mm 以下の砂粒 を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面全体 にスス付 着。	福田や 8
S I 2 4 9	Po276	3614	床 面	土師器	甕	※12.8	△5.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm程 度の砂粒 を含む)	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス 付着。	厨子7
S I 2 4 9	Po277	3665	床 面	土師器	甕	※13.8	△6.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	浅黄橙 色	浅黄橙 色		厨子14
S I 2 4 9	Po278	2935	埋砂下層	土師器	甕	※13.9	△4.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(微砂粒 をわずかに 含む)	良好	灰褐色	灰褐色	外面口縁 部スス付 着。	野崎24
S I 2 4 9	Po279	3581	床 面	土師器	甕	12.4	17.3	17.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部刺突文がまわる。胴部上半おもにヨコハケ、下半斜め・縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半おもに右方向、下半上方向のケズリおよび指頭圧痕。底部指頭圧痕。	密(1～2 mmの砂粒 を含む)	良好	橙～灰 黄褐色	橙～灰 黄褐色	口縁部上 半スス付 着。底部 4か所焼 成後穿孔 。内2か 所は貫通 しない。	福田の 11
S I 2 4 9	Po280	3695	P1内	土師器	甕	※12.4	15.4	15.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ1条の沈線による波状文。胴部不定方向のハケ目後一部ナデ、工具痕有り。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右、下半斜め上方向の丁寧なケズリ後ナデ。底部ナデ、指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面胴部 にスス付 着。胎土 分析。	米山32
S I 2 4 9	Po281	3579	床 面	土師器	小型甕	※12.0	15.8	※16.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒 を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 付着。	山本ひ 16
S I 2 4 9	Po282	3545	床 面	土師器	小型甕	11.8	15.0	14.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2mm以 下の砂粒 を含む)	良好	橙色	橙色	内外面外 面スス付 着。	松本12
S I 2 4 9	Po283	3433	床 面	土師器	甕	11.5	15.0	14.9		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2 mm程 度の砂粒 を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス 付着。	福田の 18
S I 2 4 9	Po284	3590	床 面	土師器	小型甕	10.0	13.5	12.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文3か所。最大径付近ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下ケズリ。最大径付近、底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	橙色	胴部外面 スス付着。	米山22
S I 2 4 9	Po285	3569	床 面	土師器	小型甕	※10.7	△13.9	※13.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。貝殻腹縁による刺突文6か所。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。下半縦方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(砂粒含 む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 付着。	山本ひ 13
S I 2 4 9	Po286	2872 3441	埋砂上層 ～床面	土師器	小型甕	※12.1	△13.8	※14.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。	密(砂粒含 む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 付着。	山本ひ 11
S I 2 4 9	Po287	2943 2944 3552	床 面	土師器	小型甕	※12.3	△8.9	※13.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。胴部外面剝離。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒含 む)	良好	明赤褐 色	明赤褐 色	外面スス 付着。	山本ひ 10
S I 2 4 9	Po288	3442	床 面	土師器	直口壺	12.1	16.8	15.2		外面口縁部二段のヨコナデ。肩部ナデ、全周しない1条の沈線による波状文。胴部中位おもに横方向、下半縦方向の細かいハケ目。内面口縁部二段のヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ、指頭圧痕が残る。下半左上方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密(1～3 mmの砂粒 を含む)	良好	淡橙色	淡橙色	胴部中位 以下スス 付着。底 部1か所 外面から 、胴部下 位2か所 内面から 焼成後 穿孔。	福田の 19
S I 2 4 9	Po289	3429 3544	床 面	土師器	直口壺	※11.8	16.0	14.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部横方向ミガキ。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス 付着。	厨子35
S I 2 4 9	Po290	3430	床 面	土師器	直口壺	13.7	14.9	13.8		外面口縁部縦方向ミガキ。胴部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス 付着。	米山12
S I 2 4 9	Po291	3424	床 面	土師器	直口壺	※12.1	15.5	14.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、工具による刺突文がほぼ全周する。胴部中位おもにヨコハケ。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ、下半左方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙色	橙色	肩部焼成 後内側よ り穿孔。	米山33
S I 2 4 9	Po292	2620 2621 2651 2904 2944	埋砂上層	土師器	直口壺	※12.4	△9.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。胴部剝離。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2 mm程 度の砂粒 を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス 付着。	厨子12
S I 2 4 9	Po293	3532	床 面	土師器	直口壺胴部		△11.4	14.0		外面肩部ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面右方向ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕。	密(1～3 mm程 度の砂粒 を含む)	良好	橙色	橙色	底部焼成 後穿孔。 外面スス 付着。	山本ひ 21
S I 2 4 9	Po294	3662	床 面	土師器	直口壺	10.2	12.1	11.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもにヨコハケ。中位以下おもに斜め方向のハケ目後ナデ。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右～右斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～3 mmの砂粒 を含む)	良好	橙～明 赤褐色	橙～明 赤褐色	外面口縁 部～胴部 上半一部 スス付着。 内面胴部 はほぼ全 体に黒斑 有り。	福田の 12
S I 2 4 9	Po295	3560	床 面	土師器	直口壺	10.2	11.7	12.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	橙～灰 黄褐色	橙～灰 黄褐色	外面スス 付着。	中原10

挿表33 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(10)

S I 2 4 9	Po296	3650 3652	床 面	土師器	高杯	17.8	13.3	14.2	外面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。筒部粗いたテハケ後縦方向ミガキ。裾部ナデ。内面杯部縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部細かいハケ目。	密	良好	橙色	橙色	筒部3方 向円形透 かし。杯 内外面 スス付着。	米山10
S I 2 4 9	Po297	2905 3531	床 面	土師器	高杯	※17.3	13.8	※14.5	外面杯部横方向ミガキ。筒部横方向ミガキ後一部縦方向ミガキ。裾部横方向ミガキ。内面杯部横方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	筒部3方 向円形透 かし。	山本ひ 6
S I 2 4 9	Po298	3542	床 面	土師器	高杯	17.7	13.4	13.6	外面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。筒部ハケ目後縦方向ミガキ。裾部ナデ。内面杯部横方向ミガキ。筒部ケズリ後ナデ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	筒部3方 向円形透 かし。	山本ひ 24
S I 2 4 9	Po299	2696 2706 2905 2943 2945	埋砂上層	土師器	高杯	※18.6	15.3	15.5	外面杯部横後縦方向ミガキ。筒部縦方向ミガキ。裾部ヨコナデ。内面杯部ヨコハケ後横方向ミガキ後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ケモの異状ハケ目。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	杯部内外 面黒斑有 り。	山本ひ 7
S I 2 4 9	Po300	3642 3661	床 面	土師器	高杯	※17.6	14.2	※12.0	外面口縁端部ナデ。杯部~筒部ナデ後おもに縦方向のミガキ。一部ハケ目が残る。裾部ハケ目後ナデ。内面杯部ナデ後丁寧なミガキ。筒部左右両方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙~明 赤褐色	橙~明 赤褐色	内面杯部 剥離が著 しい。	福田の 20
S I 2 4 9	Po301	2944 3558	床 面	土師器	高杯	※16.9	13.7	※11.2	外面杯部横・縦方向のミガキ。脚部非常に細かいハケ目。内面横・縦方向のミガキ。筒部右方向の丁寧なケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	橙~ぶ い褐色	橙~ぶ い褐色	外面杯部 スス付着 内面杯部 付近剥離。	米山86
S I 2 4 9	Po302	3455 3458	床 面	土師器	高杯	※15.8	14.7	※11.4	外面杯部~筒部縦方向ミガキ。裾部丁寧なナデ。内面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	筒部3方 向円形透 かし。	福田の 16
S I 2 4 9	Po303	3572 3575 3610	床 面	土師器	高杯	※15.8	13.8	※11.8	外面口縁端部ナデ。杯部~筒部ヨコナデ後縦方向のミガキ。杯底部・接合部にハケ目が残る。裾部丁寧なナデ。内面杯部ナデ後丁寧な暗文状ミガキ。筒部指ナデ。左方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を多く含む)	良好	橙色	橙色	内面杯部 底化粧ハ ケ目がみ られる。	福田の 17
S I 2 4 9	Po304	2886	埋砂下層	土師器	高杯	※15.9	13.9	※11.4	外面杯部~筒部ヨコナデ後縦方向の暗文状ミガキ。筒部にハケ目がわずかに残る。裾部丁寧なナデ。内面杯部ハケ目後ヨコナデ後暗文状ミガキ。一部ハケ目が残る。筒部左方向の丁寧なケズリ。裾部ハケ目。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	杯部内面 に成型時 の段がみ られる。	福田の 15
S I 2 4 9	Po305	2609 2909	埋砂上層	土師器	高杯	※15.6	15.3	11.3	外面杯部ヨコナデ後縦方向ミガキ。筒部縦方向ミガキ。裾部縦方向ミガキ。内面杯部ヨコナデ後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	明黄褐 色	明黄褐 色	筒部2方 向円形透 かし。杯 部内外面 黒斑有り。	山本く 15
S I 2 4 9	Po306	2796 3414	床 面	土師器	高杯	16.1	13.7	※12.2	外面杯部ヨコハケ後横方向ミガキ。筒部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。裾部ナデ。内面杯部ヨコハケ後横方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	明赤褐 色	明赤褐 色		山本く 14
S I 2 4 9	Po307	3461	床 面	土師器	高杯	※11.3	10.2	13.1	外面杯部ハケ目。筒部縦方向ケズリ後ナデ。裾部ナデ。内面杯部ハケ目。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	杯底部穿 孔有り。 筒部3方 向円形透 かし。	山本く 12
S I 2 4 9	Po308	2780 2793	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※18.3	△5.3		外面横方向ミガキ。内面縦方向ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	ぶい 黄褐色		福田や 94
S I 2 4 9	Po309	2797 2944 3459 3529	床 面	土師器	高杯杯部	※16.0	△5.1		外面口縁端部ヨコナデ。以下横方向のミガキ。接合部ハケ目がみられる。内面ナデ後暗文状のミガキ。	密(1mm大の石英、砂粒を多く含む)	良好	明黄褐 色	明黄褐 色	内面口縁 部剥離臭 味。	山本く 65
S I 2 4 9	Po310	3602	床 面	土師器	高杯杯部	※17.1	△7.2		外面横後縦方向ミガキ。底部ハケ目。内面横後縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	杯部内面 スス付着。	中原70
S I 2 4 9	Po311	2913	埋砂上層	土師器	高杯	※14.8	△10.7		外面杯口縁部ミガキ。杯底部ハケ目。筒部縦後横方向ミガキ。内面杯口縁部縦方向ミガキ。端部横方向ミガキ。底部ナデ。筒部ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄色	杯内外面 スス付着。	野崎95
S I 2 4 9	Po312	3456	床 面	土師器	高杯杯部	15.9	△5.6		内外面ともナデ後縦方向のミガキ。口縁部と杯底部の接合部にかすかに有段、成型時のハケ目が残る。	密	良好	ぶい 橙色	ぶい 赤褐~ ぶい 橙色		福田や 95
S I 2 4 9	Po313	2533 2661	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※15.6	△5.4		外面口縁端部ヨコナデ。以下横方向のやや雑なミガキ。内面ナデ後暗文状のミガキ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色		米山84
S I 2 4 9	Po314	2672	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※13.5	△6.1		外面口縁端部ヨコナデ。以下横方向ミガキ。風化している。内面口縁部斜方向ハケ目。底部放射状ハケ目。	密	良好	ぶい 橙色	ぶい 橙色		野崎99
S I 2 4 9	Po315	2877	埋砂上層	土師器	高杯杯部	16.4	△5.3		外面ハケ目後ナデ。口縁部と底部の接合部左右両方向のケズリ後ナデ。杯底部ハケ目。内面横・縦方向のミガキ。杯底部風化のため調整不明瞭、ミガキか。	密(1~3mm大の石英、砂粒を含む)	良好	ぶい 橙色	ぶい 橙色		山本く 64
S I 2 4 9	Po316	3591	床 面	土師器	高杯杯部	15.4	△4.8		内外面ともに雑で細かいヨコミガキ。成型時の指頭圧痕がみられる。外面杯底部ハケ目後横方向のミガキ。	密(砂粒を含む)	良好	明黄褐 色	橙色		山本く 62
S I 2 4 9	Po317	2798 3648	床面~埋砂上層	土師器	高杯杯部	※13.8	△4.5		外面斜方向ハケ目後横方向ミガキ。内面口縁端部横方向ミガキ。口縁部縦方向ミガキ。	密(微砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		松本59
S I 2 4 9	Po318	3573 3615	床 面	土師器	高杯杯部	17.7	△9.1		外面ナデ後縦方向ミガキ。口縁部と杯底部の接合部に段が残る。杯底部ハケ目後ナデ。内面ヨコハケ後ナデ、縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	外面全体 に二次的 にスス付 着。	野子48
S I 2 4 9	Po319	3646	床 面	土師器	高杯脚部		△9.2	※13.4	外面縦方向のハケ目。内面筒部接合部付近工具によるナデか。上半シボリ目後ナデ、下半左方向のケズリ。裾部上半ハケ目、下半ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	明黄褐 色	明黄褐 色	黒斑有り。	山本く 63
S I 2 4 9	Po320	3583	床 面	土師器	高杯脚部		△10.7	12.5	外面杯底部~筒部ナデ後横方向のミガキ。かすかにハケ目が残る。裾部丁寧なナデ。内面杯底部ミガキ。筒部シボリ目後上半右方向ケズリ、下半ナデ。裾部ハケ目後ナデ。ヘラ記号有り。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	内外面と も裾部の 一部にス ス痕有り。 筒部3方 向円形透 かし。	米山83
S I 2 4 9	Po321	3446	床 面	土師器	高杯脚部	△8.6	※11.5		外面筒部横方向ミガキ。裾部横方向ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	外面黒斑 有り。	野崎 100
S I 2 4 9	Po322	2671	埋砂上層	土師器	高杯脚部	△8.2		11.8	外面縦方向ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。一部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	外面スス 付着。	松本60
S I 2 4 9	Po323	2684	埋砂上層	土師器	高杯脚部	△7.7		11.3	外面筒部横方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		中原69
S I 2 4 9	Po324	2533 2793 3582	床 面	土師器	高杯脚部	△10.8		11.9	外面筒部縦後横方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	筒部・裾 部外表面 スス付着。	福田の 62
S I 2 4 9	Po325	2207 2353	埋砂下層	土師器	高杯	△8.1		10.9	外面筒部上半横方向ミガキ。下半面取り後丁寧なナデ。裾部ナデ。内面筒部左方向の丁寧なケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	内面裾部 ヘラ記号 有り。	福田の 30

挿表34 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(11)

S I 2 4 9	Po360	2912	埋砂下層	土師器	小型丸底壺	※8.6	△8.3			外面口縁部ヨコナデ後縦方向ミガキ。肩部ナデ。胴部横・斜めの細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向の丁寧なケズリ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面胴部 スス付着。	米山85
S I 2 4 9	Po361	2633	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	8.4	7.5	8.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部粗いタテ〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		野子20
S I 2 4 9	Po362	2915	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	10.4	9.7	11.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部半周する5条の平行沈線・刺突文4つ。工具痕多数。胴部不定方向のハケ目。底部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。工具痕多数みられる。頭部ナデ。胴部おもに左方向の雑なケズリ。底部ナデ。指頭圧痕が残る。	密(3mm以下の石英を多く含む)	良好	明黄褐色	黄褐色 灰褐色	外面胴部 下半黒斑 ・スス痕 有り。	松本10
S I 2 4 9	Po363	2783	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※9.6	9.4	10.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部棒状工具による刺突文7か所。以下斜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部外面 一部スス 付着。	野子23
S I 2 4 9	Po364	3458	床 面	土師器	小型丸底鉢	9.0	8.3	7.8		外面口縁部横方向ミガキ。胴部ハケ目。剥離著しい。内面口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	底部外面 スス付着。	野子10
S I 2 4 9	Po365	2093 2532	埋砂上層	土師器	小型丸底鉢	※9.2	△8.0	※6.0		外面口縁部〜胴部上半ヨコナデ後横方向細かいミガキ。胴部下半不定方向ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ後ナデ。工具痕が多数みられる。底部ナデ。	密(0.5mmの砂粒をまばらに含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		山本ひ 82
S I 2 4 9	Po366	2879	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	7.6	8.2	9.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下タテ斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		野子15
S I 2 4 9	Po367	3552	床 面	土師器	小型丸底壺	※6.7	△5.5			外面口縁部〜肩部ナデ。胴部斜め・横方向の細かいハケ目。内面口縁部〜肩部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密(0.5〜1mmの砂粒をまばらに含む)	良好	にぶい 黄色	にぶい 黄色	外面肩部 を除去ス ス付着。 胴部黒斑 有り。	山本ひ 80
S I 2 4 9	Po368	2529	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※9.2	△6.7	※9.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部横方向ミガキ。肩部左方向ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		野子47
S I 2 4 9	Po369	2892 2908	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※7.9	8.5	9.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部上半右、下半左斜め上方向のケズリ。底部ナデ、指頭圧痕が残る。	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面胴部 中位以下 スス付着。	米山13
S I 2 4 9	Po370	2852	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※9.0	△5.0	※9.0		外面ナデ、ハケ目がかすかに残る。口縁部ミガキあり。内面口縁部ナデ。胴部左斜め上方向ケズリ。	密(1〜3mmの砂粒を多く含む)	良好	にぶい 黄色	にぶい 黄色		山本ひ 84
S I 2 4 9	Po371	3584	床 面	土師器	小型丸底壺		△5.9	※9.3		外面肩部ヨコナデ。以下斜方向ハケ目。内面肩部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	胎土分析。	野崎98
S I 2 4 9	Po372	2680	埋砂上層	土師器	椀	14.1	4.7			外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。内面ナデ。口縁部雑な鋸歯文。中位断続的な沈線。	密	良好	橙色	橙色	底部外面 スス付着。	米山23
S I 2 4 9	Po373	3660	床 面	土師器	椀	※14.4	5.3			外面ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。	密(2〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		野崎38
S I 2 4 9	Po374	3538	床 面	土師器	椀	12.7	4.1			外面口縁部細かいタテハケ。底部不整方向ハケ目。内面細かいミガキ。	密	良好	橙色	橙色		中原11
S I 2 4 9	Po375	2855	埋砂上層	土師器	椀	※13.8	△4.1			外面粗いハケ目。内面口縁部横方向ミガキ。底部ケズリ。	密	良好	にぶい 黄褐色	淡褐色	外面黒斑 有り。	野崎39
S I 2 4 9	Po376	2690	埋砂上層	土師器	椀	※14.4	△5.5			外面粗いケズリ。内面ハケ目。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面黒斑 有り。	野崎40
S I 2 4 9	Po377	2855 2944	埋砂上層	土師器	椀	※13.0	4.4			外面口縁部ヨコナデ。底部指押さえ後ナデ。内面ケズリ後ナデ。	密(1〜2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	明赤褐色	口縁部内 面黒斑有 り。	野崎42
S I 2 4 9	Po378	3604	床 面	土師器	椀	※13.2	4.3			外面口縁部ヨコナデ。底部粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。	密(2〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		野崎41
S I 2 4 9	Po379	2583 2879	埋砂上層	土師器	椀	※13.1	△4.5			外面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。底部ケズリ後ナデ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	橙色	橙色	底部外面 黒斑有り。	野崎36
S I 2 4 9	Po380	2670	埋砂上層	土製品	土玉	最大径 2.3	穴径 0.5	重さ 12.6g	※29.2	手捏ね成形後ナデ。	密	良好		オレンジ ・黒色	黒斑有り。	牧本4
S I 2 4 9	Po381	2689 2844 2891 2892 2906 3589 3594	埋砂上層 〜床面	土師器	甗		△28.8			外面体部縦方向のハケ目。把手・突帯ナデ。把手以下〜狭口部ヨコナデ。内面体部右・左方向のケズリ、指頭圧痕が残る。狭口部ヨコナデ。	密(2〜3mmの砂粒を含む)	良好	赤褐色	赤褐色	粘土を巻 き付けて 把手を接 合。 突帯2/3 以上欠損。	野崎37
2 O S K 6	Po382	2826 2827 2860	埋砂中	土師器	甗	※16.8	△18.6	※24.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ヨコナデ。胴部横・斜め方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部上半右・下半左斜め上方向のケズリ。	密(1〜3mm程度の砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面胴部 多量にス ス付着。	福田の 8
2 O S K 6	Po383	2850	埋砂中	土師器	甗	※17.6	△11.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコナデ、一部ハケ目が残る。内面口縁部ヨコナデ。頭部〜肩部指ナデ。胴部右・左斜め上方向のケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面一部 少量スス 付着。 口縁部黒 斑有り。	中原7
2 O S K 6	Po384	2859	埋砂中	土師器	甗	※15.6	△11.4			外面口縁部ヨコナデ。胴部細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。肩部指頭圧痕が残る。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	明黄褐色	外面一部 にスス付 着。	山本く 5
2 O S K 6	Po385	2860	埋砂中	土師器	甗	※15.2	△11.1	※19.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部横・斜め方向の粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部おもに右方向のやや丁寧なケズリ。	密(3mm程度の石英・砂粒を含む)	良好	浅黄色	灰褐色	外面全体 に多量に スス付着。	松本2
2 O S K 6	Po386	2860	埋砂中	土師器	甗	※19.2	△5.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。肩部右方向のやや丁寧なケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色		山本く 4
2 O S K 6	Po387	2858	埋砂中	土師器	甗	※14.0	△16.2	※19.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部おもに縦・ヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、指頭圧痕。胴部右方向の雑なケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	明黄褐色	口縁部黒 斑有り。 外面胴部 薄くスス 付着。	山本く 8
2 O S K 6	Po388	2828	埋砂中	土師器	甗	※14.0	△17.7	※19.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、指頭圧痕。胴部おもに右方向ケズリ後ナデ、指頭圧痕。	密(1〜3mmの石英を多量に含む5mm大の石英あり)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面一部 に厚くス ス付着。	山本く 9
2 O S K 6	Po389	2895	埋砂中	土師器	甗	※15.3	△17.7	※17.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後肩部・胴部下半はナデ。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部上半右方向、下半左斜め上方向の雑なケズリ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面胴部 中位にス ス付着。	山本く 7
2 O S K 6	Po390	2791 2860	埋砂中	土師器	甗	※15.8	△10.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め方向のやや粗いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。胴部上半右、下半上方向の雑なケズリ。	密(1〜3mm大の石英・砂粒を多量に含む)	良好	赤褐色 〜褐色	赤褐色 〜褐色	外面全体 にスス付 着。	山本く 10

挿表36 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(13)

2 O S K 6	Po391	2702 2849	埋砂中	土師器	甕	※14.0	△9.2			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・ヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ、粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。胴部おもに右方向のケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面口縁部、胴部の一部にスス付着。	山本く6
2 O S K 6	Po392	2898	埋砂中	土師器	高杯	16.4	12.3	11.3		外面口縁部横方向ナデ後粗いミガキ。杯底部~筒部ハケ目後ミガキ。裾部ナデ。内面口縁部ミガキ、ハケ目がわずかに残る。杯底部ミガキ。筒部左方向の丁寧なケズリ。裾部ハケ目後ナデ。3方向円形透かし。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の5
2 O S K 6	Po393	2860	埋砂中	土師器	高杯	※16.8	△5.7			内外面ともナデ後横・縦方向のミガキ。一部ハケ目がわずかに残る。	密	良好	橙色	橙色		中原9
2 O S K 6	Po394	2790	埋砂中	土師器	高杯	※16.3	△5.7			外面口縁部上半ハケ目後横方向ナデ。以下ハケ目後横方向の雑なミガキ。内面口縁部ハケ目後暗文状の雑なミガキ。杯底部ミガキ・ナデガ。	密	良好	橙色	橙色	一部黒斑有り。内面杯底部磨耗のため調整不明瞭。	中原8
2 O S K 6	Po395	2859 2860	埋砂中	土師器	高杯	※12.7	△5.0			外面口縁部ハケ目後ナデ。杯底部ミガキ。内面ナデ後ミガキ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の7
2 O S K 6	Po396	2858	埋砂中	土師器	高杯		△6.2	※18.7		外面筒部ハケ目後横方向のミガキ。裾部風化のため調整不明瞭。ナデガ。内面筒部右方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。3方向円形透かし。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	淡橙色	淡橙色		福田の9
2 O S K 6	Po397	3453	床面	土師器	甕	11.0	11.0	11.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ハケ目後ナデ、下半比較的丁寧なナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部ハケ目後ナデ。中位には右方向のケズリがみられる。底部付近に指頭圧痕が残る。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面全体にスス付着。	松本8
2 O S K 6	Po398	2858	埋砂中	土師器	小型九底壺	※8.3	△7.4	※9.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半左方向ケズリ、下半ケズリ後ナデ・指頭圧痕。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	内外面とも、胴部全体的にスス付着。	山本く11
2 O S K 6	Po399	2897	埋砂中	土師器	鼓形器台	※15.6	△7.8			外面横方向ナデ後縦方向ミガキ。筒部ナデ。内面受部横方向のミガキ。筒部ナデ。脚部右方向のやや丁寧なケズリ。	密(2mm程度の石英・砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面受部一部赤変。	松本3
2 O S K 6	Po400	2835	埋砂中	土師器	鼓形器台		△9.2	※18.4		外面ヨコナデ。内面受部丁寧なナデ。筒部ナデ。脚部上半右方向のケズリ、下半横方向のナデ。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	淡橙色	淡橙色	外面一部赤変。	福田の6
S I 2 5 1	Po401	2534	埋砂下層	土師器	甕	※24.2	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後横方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ後ハケ目。	密(砂粒を含む)	良好	明褐色	黄褐色	内外面ともスス痕有り。内面に黒色付着物有り。	山本く30
S I 2 5 1	Po402	1743	埋砂中	土師器	甕	※16.8	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部やや雑な右方向のケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	内外面とも胴部一部にスス付着。	山本く19
S I 2 5 1	Po403	1743	埋砂中	土師器	甕	※15.8	△10.6			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・ヨコハケ後おもに横方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部~肩部工具によるナデ。胴部右方向のケズリ。	密(1~2mm程度の石英・砂粒を多く含む)	良好	明黄褐色	にぶい褐色	外面胴部口縁部一部にスス付着。	山本く28
S I 2 5 1	Po404	1743	埋砂中	土師器	甕	※18.3	△6.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のやや丁寧なケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部一部黒斑。	山本く23
S I 2 5 1	Po405	1633	埋砂中	土師器	甕	※14.8	△5.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向の丁寧なケズリ。	密(0.5~1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙~暗褐色	にぶい橙~暗褐色	外面口縁部にスス付着。	山本く24
S I 2 5 1	Po406	1743	埋砂中	土師器	甕	※15.2	△5.0			外面口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ、粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内面にスス痕有り。	山本く29
S I 2 5 1	Po407	1743	埋砂中	土師器	甕	※15.8	△4.5			内外面とも口縁部ヨコナデ。内面頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		山本く22
S I 2 5 1	Po408	2336	埋砂上層	土師器	甕	※17.4	△12.7	※22.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、刺突あり。胴部おもにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右・右斜め上方向のケズリ。	密(1~4mmの石英、1~2mmの砂粒を多く含む)	良好	黄褐色	褐~黄褐色	外面肩部に多量にスス付着。内面一部にスス痕有り。	山本く26
S I 2 5 1	Po409	2332	埋砂下層	土師器	甕	※14.6	△7.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもに横方向のナデ、工具痕あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のケズリ。	密(0.5~1mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部・胴部一部に黒斑有り。	山本く27
S I 2 5 1	Po410	2331	埋砂下層	土師器	甕	※13.8	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部縦・横方向の細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部おもに右方向のやや雑なケズリ。	密(1~2mm程度の石英、3mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄~黒褐色	浅黄色	外面全体に多量にスス付着。内面黒斑有り。	山本く20
S I 2 5 1	Po411	1743	埋砂中	土師器	甕	※14.2	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部工具によるナデ。胴部おもに右方向のケズリ。	密	良好	明褐色	明褐色	外面全体にスス付着。	山本く25
S I 2 5 1	Po412	1633	埋砂中	土師器	甕	※13.4	△5.2			外面口縁部ヨコナデ、粘土つなぎ痕がみられる。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部指頭圧痕、右方向のケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	明褐色	明褐色	内外面とも口縁部一部にスス付着。	山本く31
S I 2 5 1	Po413	2800	埋砂中	土師器	甕	※14.8	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部やや雑な右方向のケズリ後一部ナデ。	密	良好	暗褐~黒褐色	明黄褐色	外面全体。内面口縁部にスス付着。胴部黒斑。	山本く21
S I 2 5 1	Po414	2335	埋砂上層	土師器	高杯	※16.7	△4.8			外面横方向のナデ、杯底部にハケ目が残る。接合部付近左右両方向のケズリ後ミガキ。内面口縁部ハケ目後ナデ、粗いミガキ。杯底部剥離のため不明瞭、ミガキがみられる。	密(1~3mmの石英・砂粒を多く含む。4mmの砂礫あり)	良好	明赤褐色	明赤褐色	杯底部剥離。	山本く34
S I 2 5 1	Po415	1743	埋砂中	土師器	直口壺	※11.0	△8.0			外面口縁部ナデ後粗いミガキ。胴部ハケ目後おもに横方向のナデ。内面口縁部横方向のナデ。胴部左右両方向からの雑なケズリ。	密	良好	黄褐~褐色	黄褐~褐色	口縁部黒斑有り。	山本く32
S I 2 5 1	Po416	1743 1745	埋砂中	土師器	低脚杯	△3.4		※7.0		外面杯部ハケ目後ナデ。脚部ナデ。内面杯部ハケ目後ナデ、ミガキ。脚部ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色		山本く33
S I 2 5 1	Po417	1633 2800	埋砂中	土師器	低脚杯	△4.7		※5.3		外面杯部ハケ目後雑なナデ。脚部ナデ、指頭圧痕が残る。内面杯部ナデ後ミガキ、杯底部指頭圧痕有り。脚部ナデ、接地部分風化のため不明瞭。	密	良好	明赤褐~黄褐色	褐色	脚部内面へラ記号有り。脚部接地部分風化著しい。	山本く35
S I 2 5 2	Po418	2342 2541	埋砂上層	土師器	壺	※20.0	△19.4	※26.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部主にヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部以下右斜め上方向のケズリ。	密	良好	橙色	橙色	外面口縁部一部スス痕有り。	中原1

挿表37 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(14)

S I 2 5 2	Po419	617 2345 2352 SI249-2821 SI249-3608	埋砂上層	土師器	甕	※32.7	△10.6			口縁部ヨコナデ。肩部横～縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。一部ハケ目・指頭圧痕が残る。頸部左右両方向のケズリ。	密(1～3mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	口縁部黒斑有り。	福田の4
S I 2 5 2	Po420	2802	埋砂中	土師器	甕	※13.4	△13.7	※19.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、工具による刻み目。胴部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	ぶい 橙色	ぶい 橙色	外面胴部スス付着。	福田の33
S I 2 5 2	Po421	2772	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	△10.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部主にヨコハケ後ナデ。肩部工具による刻み目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向の丁寧なケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	外面全体にスス付着。	福田の24
S I 2 5 2	Po422	2370 2857	埋砂下層	土師器	甕	※21.6	△9.3			外面口縁部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部左右両方向のケズリ。	密(5mm程度のカクセ石、1～2mmの砂粒を含む)	良好	暗灰黄	灰黄色		松本1
S I 2 5 2	Po423	2857	埋砂下層	土師器	甕	※14.1	△9.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部横・斜め方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目状工具による左斜め上方向へのケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	明黄褐	明黄褐色	外面全体にスス付着。	福田の28
S I 2 5 2	Po424	2588	埋砂下層	土師器	甕	※17.4	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ、ハケ目状工具による波状文。内面口縁部ヨコナデ。粘土つなぎ痕がみられる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	淡橙色	ぶい 橙色	外面胴部スス付着。	中原22
S I 2 5 2	Po425	3621	床 面	土師器	甕	※12.4	15.1	※14.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後横方向ナデ。胴部上半粗いヨコハケ。下半粗い縦方向ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向のケズリ。下半左斜め上方向のケズリ。指頭圧痕。	密(砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面口縁部スス付着。胎土分析。	山本く3
S I 2 5 2	Po426	3621	床 面	土師器	甕	※12.4	14.2	※14.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部上半主にヨコハケ。下半不定方向のナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部横方向のナデ。胴部上半右方向、下半左斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面全体にスス付着。内面胴部に一部スス痕有り。胎土分析。	中原2
S I 2 5 2	Po427	2371 2539	埋砂下層	土師器	甕	※14.6	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。工具痕有り。肩部斜め～ヨコハケ後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。指頭圧痕が残る。	密(1mm以下の細かい砂粒を含む)	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	外面全体にスス付着。	中原17
S I 2 5 2	Po428	1702	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△5.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	口縁部スス痕有り。	中原25
S I 2 5 2	Po429	1710	埋砂上層	土師器	甕	※17.0	△22.0	※25.4		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横～縦方向の粗いハケ目。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向、下半左斜め上方向のケズリ。肩部・底部に成形時の指頭圧痕が残る。	密(4mm大の石英、2mm以下の砂粒を多く含む)	良好	灰オリーブ	黄褐色	外面全体にスス付着。内面口縁部に粘土つなぎ痕がみられる。	松本5
S I 2 5 2	Po430	1699	埋砂上層	土師器	甕	※15.4	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。胴部おもにヨコハケ後ナデ。肩部に刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。指頭圧痕が残る。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	ぶい 黄色	ぶい 黄色		米山7
S I 2 5 2	Po431	1704	埋砂下層	土師器	甕	※14.0	△9.9			外面口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目後ナデか。肩部1条の沈線による波状文あり。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	外面全体に多量のスス付着のため、調整不明瞭。	中原24
S I 2 5 2	Po432	2458	埋砂上層	土師器	甕	※11.6	△11.1	※15.6		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ後ナデ。以下細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のやや丁寧なケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面胴部下半にスス付着。	福田の25
S I 2 5 2	Po433	2450	埋砂上層	土師器	甕	※12.3	△8.7			外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ナデ。肩部に工具による刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部ケズリ後ナデ。胴部右方向のケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		福田の27
S I 2 5 2	Po434	2461	埋砂上層	土師器	甕	※15.3	△5.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(1～3mmの砂粒を多量に含む)	良好	橙色	橙色	外面全体にスス付着。	福田の23
S I 2 5 2	Po435	1700	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	△7.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部横・縦ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	肩部黒斑有り。	福田の29
S I 2 5 2	Po436	2455 2857	埋砂下層	土師器	甕	※11.9	△10.9	※14.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦、胴部横・斜め方向の粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右方向、下半左斜め上方向のケズリ。胴部下半に指頭圧痕がみられる。	密(1mm程度の砂粒を含む)	やや良	ぶい 黄褐～ 灰褐色	ぶい 黄褐～ 灰褐色	外面全体にスス付着。内面胴部黒斑。	福田の31
S I 2 5 2	Po437	2451 2541 2802	埋砂下層	土師器	高杯	※14.6	12.4	※10.6		外面杯部～筒部横方向の細かいミガキ。杯底部～筒部上半にハケ目が残る。裾部丁寧なナデ。内面杯部丁寧なナデ後放射状ミガキ。筒部左方向の丁寧なケズリ後ナデ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面杯部ヘラ記号有り。	福田の1
S I 2 5 2	Po438	2344	埋砂上層	土師器	高杯	15.0	13.4	11.2		外面杯部縦方向のハケ目後横方向のナデ。雑なミガキ。筒部面取り後ハケ目後横方向の雑なミガキ。裾部ナデ。内面ヨコハケ後ナデ。後放射状のミガキ。指頭圧痕が残る。筒部左方向ケズリ。裾部ハケ目後ヨコナデ。指頭圧痕が残る。	密	良好	橙色	橙色	杯部内面部分的に剥離。	中原3
S I 2 5 2	Po439	2856 2857	埋砂下層	土師器	高杯	※16.9	△5.8			外面横方向のナデ後縦方向のミガキ。内面丁寧なナデ後縦方向のミガキ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の32
S I 2 5 2	Po440	2857	埋砂下層	土師器	高杯	※16.4	△5.3			外面口縁部ハケ目後横方向のナデ。以下横方向の雑なミガキ。内面横方向のナデ後縦方向のミガキ。	密(1mm以下の細かい砂粒を多く含む)	良好	橙色	灰黄褐色	黒斑有り。	中原18
S I 2 5 2	Po441	2343	埋砂上層	土師器	高杯		△9.4	11.8		外面横方向ナデ。内面筒部左方向ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	灰白色	灰白色		中原23
S I 2 5 2	Po442	2351	埋砂上層	土師器	鼓形器台		△8.2	※18.7		外面ヨコナデ。内面受部丁寧なナデ。脚部左方向のケズリ。端部ヨコナデ。	密(微砂粒を多く含む)	良好	淡黄色	淡黄色		山本く1
S I 2 5 2	Po443	2348	埋砂上層	土師器	鼓形器台		△7.6	※15.2		外面ヨコナデ。内面受部ケズリ後やや丁寧なナデ。脚部右斜め下方向ケズリ後ナデ。端部ヨコナデ。	密(1mm大の砂粒を稀に含む)	良好	橙色	橙色		中原20
S I 2 5 2	Po444	2789	埋砂上層	土師器	小型器台	※9.4	△3.2			外面横方向の細かいミガキ。内面横方向の丁寧なミガキ。ハケ目がわずかに残る。	密	良好	橙色	橙色	胎土分析。	中原19
S I 2 5 2	Po445	2537	埋砂下層	土師器	低脚杯		△2.4	※5.8		外面杯部横方向のミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部丁寧なミガキ。脚部ナデ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	淡橙色	淡橙色		福田の2

挿表38 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(15)

S I 2 5 2	Po446	2350	埋砂上層	土師器	小型丸底鉢	9.8	7.9	8.3		外面口縁部ヨコナデ後縦方向粗いミガキ。胴部上半細かいハケ目。下半不定方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。一部ハケ目状工具痕が残る。胴部左方向の丁寧なケズリ。底部指頭圧痕後ナデ。	密	やや良	橙色	橙色	外面黒斑、スス痕有り。内面と外部に黒斑有り。内面口縁部付着。	中原21
S I 2 5 2	Po447	2207 2366 2802	埋砂中	土師器	小型丸底壺	※8.6	8.3	※10.1		外面口縁部ナデ。胴部上半縦方向のハケ目。中位主にヨコハケ。以下ハケ目後ナデ。内面口縁部～肩部ナデ。胴部右方向ケズリ。底部ナデ、指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面全体スス付着。内面胴部中位付着。	福田の34
S I 2 5 2	Po448	2457 2540	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※8.1	△7.2	※9.8		外面口縁部ナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部不定方向ハケ目。内面口縁部～頸部ナデ。胴部右方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	胴部下位に黒斑有り。	福田の26
S I 2 5 2	Po449	2465 2540	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※7.8	△10.8	※10.0		外面口縁部～肩部ナデ後横方向の粗いミガキ。胴部ハケ目。内面口縁部横方向のミガキ。肩部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部上半左方向のケズリ。以下やや丁寧なナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面全体および内面口縁部赤色塗彩。	松本4
S I 2 5 0	Po450	2172 2173	埋砂下層	土師器	壺	※19.7	△20.4	※28.3		外面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。肩部以下右方向ケズリ。	やや粗(砂粒を多く含む)	不良	淡黄色	淡黄色		野崎55
S I 2 5 0	Po451	2181	埋砂中	土師器	壺	※19.7	△10.4			外面口縁部ヨコナデ。頸部沈線を挟んでハケ目状工具による綾彩文。内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		野崎44
S I 2 5 0	Po452	2157	埋砂下層	土師器	壺	※18.4	△9.3			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。肩部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		山本ひ35
S I 2 5 0	Po453	2202	埋砂下層	土師器	壺	※17.0	△7.4			内外面とも口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。内面頸部指頭痕が残る。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		米山40
S I 2 5 0	Po454	2196	埋砂下層	土師器	壺	※16.7	△7.6			内外面ヨコナデ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		福田や52
S I 2 5 0	Po455	1632 1820	埋砂中	土師器	壺		△10.0			外面頸部ヨコナデ。肩部羽状文。以下細かいヨコハケ。内面頸部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1~5mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。	山本ひ46
S I 2 5 0	Po456	2299	P1内	土師器	壺	※20.3	△8.5			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。肩部以下左方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		山本ひ36
S I 2 5 0	Po457	2065	埋砂中	土師器	小型壺	※12.9	△6.0			外面ヨコナデ。内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部以下ケズリ。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		福田の35
S I 2 5 0	Po458	2199	埋砂下層	土師器	壺	※25.0	△7.0			内外面ともにヨコナデ。口唇部凹線。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		山本ひ50
S I 2 5 0	Po459	2171	埋砂下層	土師器	甕	※22.3	△29.6	※28.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部一部タテ後ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	赤褐色	赤褐色	外面スス付着。	野崎62
S I 2 5 0	Po460	2171	埋砂下層	土師器	甕	※22.0	△13.0	※26.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部細かいヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部指頭圧痕有り。以下右方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面口縁部・胴部黒斑有り。外面肩部スス付着。	野崎45
S I 2 5 0	Po461	1869 2179 2193	埋砂下層	土師器	甕	15.6	△19.7	21.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部4条平行沈線後貝殻縁による刺突文。胴部中位タテ後ヨコハケ。下半以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～胴部中位右方向ケズリ。以下縦方向ケズリ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。胎土分析。	野崎50
S I 2 5 0	Po462	1631	埋砂中	土師器	甕	※15.2	△11.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面スス付着。	山本ひ47
S I 2 5 0	Po463	1680	埋砂上層	土師器	甕	※19.6	△8.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部乱れた波状文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	口縁部外面スス付着。	福田や55
S I 2 5 0	Po464	2131	埋砂下層	土師器	甕	※19.3	△7.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		福田や46
S I 2 5 0	Po465	1651	埋砂中	土師器	中型甕	※14.7	△18.0	※19.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。最大径付近細かいタテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。胴部中位以下縦方向ケズリ。指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面黒斑有り。胎土分析。	山本ひ38
S I 2 5 0	Po466	2133	埋砂下層	土師器	甕	※19.1	△10.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後ナデ、5条の沈線による波状文有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後雑なナデ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		米山44
S I 2 5 0	Po467	2180	埋砂下層	土師器	甕	※14.1	△11.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部以下タテ後ヨコハケ。貝殻縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	胴部外面スス付着。	山本ひ37
S I 2 5 0	Po468	2036 2067 2170	埋砂下層	土師器	甕	※12.1	△11.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部6条平行沈線。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面肩部黒斑有り。胎土分析。	野崎47
S I 2 5 0	Po469	2185	埋砂下層	土師器	甕	※13.9	△10.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(微砂含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。胎土分析。	野崎52
S I 2 5 0	Po470	1627 2017	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部以下粗いタテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	山本ひ40
S I 2 5 0	Po471	2204	埋砂下層	土師器	甕	※13.8	△9.9			外面口縁部ヨコナデ。工具痕が残る。胴部粗いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面胴部に薄くスス付着。	米山43
S I 2 5 0	Po472	2140	埋砂下層	土師器	甕	※15.3	△9.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密(2~3mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	胎土分析。	野崎54
S I 2 5 0	Po473	1632 1824	埋砂中	土師器	甕	※15.6	△9.1			外面口唇部凹線。口縁部ヨコナデ。肩部以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		山本ひ48
S I 2 5 0	Po474	2156	埋砂下層	土師器	甕	※15.9	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。波状文が施される。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		山本ひ44
S I 2 5 0	Po475	2183	埋砂下層	土師器	甕	※18.0	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部綾彩ハケ目後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		野崎30
S I 2 5 0	Po476	1807	埋砂上層	土師器	甕	※16.1	△6.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部工具による横方向のナデ、ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ後ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面一部内面頸部スス付着。	米山41

挿表39 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(16)

SI250	Po514	2192	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△7.7	※11.7	外面筒部タテハケ。杯接続部ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(わずかに砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野崎59
SI250	Po515	2043	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△7.6	11.5	外面筒部タテハケ後横方向ミガキ。裾部ハケ目。内面筒部ケズリ。裾部斜方向ハケ目。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色	筒~裾部円形透かし4方二つ施されたわだかまっている。	福田の40
SI250	Po516	2015	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△8.0	12.8	外面縦方向ミガキ。一部横方向ミガキ。内面筒部右方向ケズリ。裾部ケズリ後ナデ。	密(微砂多く含む)	良好	灰黄色	浅黄色	筒部4方向円形透かし有り。	松本27
SI250	Po517	2136 2147 2154	埋砂下層	土師器	鼓形器台	20.7	12.3	19.7	外面ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	淡黄色	淡黄色	胎土分析。	野崎68
SI250	Po518	2137	埋砂下層	土師器	鼓形器台	19.6	11.7	※18.8	外面ヨコナデ。内面口縁部横方向ミガキ。受部ケズリ後ミガキ。脚部ケズリ。	密(3mm以下の石英・砂粒を含む)	良好	明黄褐色	黄褐色	胎土分析。	松本22
SI250	Po519	2169	埋砂下層	土師器	鼓形器台受部	※19.4	△7.6		外面ヨコナデ。内面左方向ケズリ後ナデ。脚部ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		山本ひ39
SI250	Po520	1823 2067	埋砂上層	土師器	鼓形器台	※20.0	△8.0		外面受部ヨコナデ。内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	黄褐色	黄褐色		厨子32
SI250	Po521	1885	埋砂中	土師器	鼓形器台受部	※20.4	△6.7		外面受部ヨコナデ。内面受部丁寧なミガキ。	密(1~2mm程度の石英を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		厨子31
SI250	Po522	1810	埋砂上層	土師器	鼓形器台		△5.3	18.2	外面脚部ナデ。内面脚部ケズリ。受部ケズリ後ミガキ。	密(2mm程度の石英を多く含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		厨子34
SI250	Po523	1838 2004	埋砂上層	土師器	鼓形器台		△5.1	※20.2	外面脚部ナデ。内面脚部ケズリ。	密(2mm程度の石英を多く含む)	良好	浅黄色	浅黄色		厨子33
SI250	Po524	2005	埋砂上層	土師器	鼓形器台		△5.0	※17.6	外面ヨコナデ。内面受部ナデ。脚部右方向の雑なケズリ。脚端部ヨコナデ。	密	良好	浅黄色	淡黄~浅黄色		米山46
SI250	Po525	1632 2065 2141	埋砂下層	土師器	低脚杯	※18.2	5.7	5.8	外面杯口縁部ヨコナデ。中位ヨコナデ後縦方向ミガキ。底部タテハケ後ミガキ。内面口縁部縦方向ミガキ。底部剥離のため調整不明。	密(5mm以下の砂粒を含む)	良好	鈍い黄色	鈍い黄色	杯底部内面黒斑有り。	松本24
SI250	Po526	1627 1657	埋砂中	土師器	低脚杯	18.1	5.1	※5.5	外面杯口縁部ハケ目後ミガキ。脚部ヨコナデ。内面丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	口縁部内外面黒斑有り。	野崎65
SI250	Po527	1828	埋砂上層	土師器	低脚杯	※19.3	4.8	※5.5	外面杯口縁部ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯口丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密(1~5mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		福田の37
SI250	Po528	2065 2138	埋砂下層	土師器	低脚杯	※19.4	△5.5	6.4	外面杯口タテハケ。脚部ナデ。内面杯口風化のため調整不明。ミガキか。脚部ナデ。	密(微砂含む)	良好	黄褐色	黄褐色		松本30
SI250	Po529	2298	P1内	土師器	小型器台	※9.6	△9.6		外面受部ヨコナデ。脚部縦方向ケズリ後タテハケ。内面受部ヨコナデ。風化著しい。脚部ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		野崎56
SI250	Po530	1804	埋砂上層	土師器	小型器台受部	※12.1	△2.9		外面口縁部縦方向ミガキ。底部ハケ目。内面斜方向ハケ目後横方向ミガキ。底部ハケ目。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野崎64
SI250	Po531	1627	埋砂中	土師器	小型器台受部	※10.3	△2.1		外面受部横方向ミガキ。内面口縁部横方向ミガキ。底部風化著しい。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	褐色	にぶい黄褐色		野崎63
SI250	Po532	2065	埋砂中	土師器	小型丸底鉢	※14.0	△4.3		外面風化のため調整不明。内面横方向ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	浅黄褐色	外面黒斑有り。	福田や59
SI250	Po533	2042	埋砂上層	土師器	小型丸底壺	※7.2	△5.2		外面口縁部~胴部横方向ミガキ。内面口縁部横方向ミガキ。胴部ナデ。	密(2mm以下の砂粒を多く含む)	良好	浅黄褐色	明黄褐色		松本26
SI250	Po534	1627	埋砂中	土師器	小型丸底鉢	※9.2	△6.8		外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密(微砂含む)	良好	にぶい浅黄色	にぶい浅黄色	胎土分析。	松本29
SI250	Po535	680	埋砂上層	土師器	小型丸底鉢		△8.2	※6.1	外面口縁部縦方向のハケ目。頸部ナデ。胴部不定方向のハケ目後一部ナデ。内面右方向のケズリ後やや丁寧ナデ。底部指頭圧痕が残る。	密	良好	灰褐色	灰褐色	外面全体にスス付着。	米山55
SI250	Po536	1673 1883 2067	埋砂中	土師器	碗	※12.6	4.6		外面ケズリ後ナデ。底部指頭圧痕有り。内面口縁部ヨコナデ。底部ハケ目。	密	良好	明褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑有り。	松本25
SI253	Po537	2994 3019	埋砂中	土師器	壺	※19.2	△8.8		外面口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁部~頸部ヨコナデ。頸部シボ目残る。肩部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	口縁部外面にスス付着。	中原78
SI253	Po538	3020	埋砂中	土師器	壺	※16.4	△7.2		外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部指ナデ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい橙~黄色	外面口縁部黒斑有り。	中原73
SI253	Po539	3011 3262 3381 3622	床面	土師器	甕	※19.0	31.5	※28.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部縦~ヨコハケ後ナデ。刺突文がまわる。胴部上半および底部ハケ目、下半はナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、下半左斜め上方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~4mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	橙~浅黄色	外面胴部多量にスス付着。胎土分析。	福田の65
SI253	Po540	3631	床面	土師器	甕	※22.4	△16.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指押さえ後右方向ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部内面に粘土つなぎ痕。	中原77
SI253	Po541	3011 3068 3082 3093	埋砂下層	土師器	甕	※19.5	△23.5	※27.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ目後ナデ。胴部おもにヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右方向の丁寧なケズリ、下半左斜め上方向のケズリ、境に段がある。底部指頭圧痕。	密(1~3mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	内外面ともに一部スス痕有り。	福田の64
SI253	Po542	3627 3632 3635	床面	土師器	甕	※14.2	24.0	21.4	外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後5条の平行沈線がまわる。胴部ハケ目。底部付着ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右~右斜め上方向、下半左斜め上方向の丁寧なケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~2mm程度の砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面胴部上部風化のため調整不明。胴部全体にスス付着。	福田の63
SI253	Po543	3727	床面	土師器	甕	※13.0	△11.4	※16.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、刺突文・工具痕有り。胴部おもにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部右方向のやや丁寧なケズリ後一部ナデ。	密(1mm程度、稀に2mm程度の砂粒を多く含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	外面肩部を除きスス付着。	中原46
SI253	Po544	3703	埋砂中	土師器	甕	※16.6	△12.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部おもにヨコハケ後ナデ。貝殻腹縁による刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下おもに右方向の丁寧なケズリ。	密(石英・砂粒を含む)	良好	浅黄色	淡黄色		松本58
SI253	Po545	3066	埋砂中	土師器	甕	※14.6	△10.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜~ヨコハケ後ナデ。以下斜め方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右・右斜め上方向のケズリ後一部ナデ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	灰黄色	黄色	外面胴部スス付着。	松本54
SI253	Po546	2975 3734	埋砂中	土師器	甕	※16.1	△10.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜~ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	松本70
SI253	Po547	3021	埋砂中	土師器	甕	※16.0	△6.7		外面口縁部ヨコナデ。口縁部下端工具痕、頸部ハケ目状工具痕が残る。肩部ハケ目有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	赤褐色	赤褐色	外面一部薄くスス付着。口縁部黒斑有り。	中原47

挿表41 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(10)

S I 2 5 3	Po548	3021	埋砂中	土師器	甕	※18.0	△6.15		外面口縁部ヨコナデ。頸部工具痕有り。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(1~2mm程度の砂粒・石英を含む)	良好	灰白色	灰白色	外面少量スス附着。	中原45
S I 2 5 3	Po549	3631	床 面	土師器	甕	※16.2	△9.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ、刺突文有り。内面口縁部ヨコナデ。肩部右・右斜め上方向のケズリ。	密(石英・砂粒を多く含む)	良好	浅黄色	淡黄色	外面全体にスス附着。内面胴部スス附着。	松本56
S I 2 5 3	Po550	3159	埋砂下層	土師器	甕	※13.0	△7.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜め方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密(3mm以下の砂粒を多く含む)	良好	橙色	橙色	外面スス附着。	松本52
S I 2 5 3	Po551	3072	埋砂下層	土師器	甕	※13.8	△7.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後雑な6条の平行沈線、ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄褐色	外面スス附着。内面口縁部薄くスス附着。	松本63
S I 2 5 3	Po552	3011	埋砂中	土師器	甕	※11.2	△6.1		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。ハケ目状工具痕がみられる。頸部ナデ。胴部右方向のケズリ。	密	良好	ぶい赤褐色	ぶい赤褐色		中原43
S I 2 5 3	Po553	3269	埋砂下層	土師器	甕	※12.0	△4.2		外面口縁部ヨコナデ、沈線状に工具痕がまわる。肩部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	灰白色褐灰色	灰白色赤褐色	口縁部黒斑。	中原48
S I 2 5 3	Po554	3058	埋砂上層	土師器	甕	※14.2	△8.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部横・縦方向のハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	ぶい黄褐色	ぶい黄褐色	外面胴部スス附着。	松本68
S I 2 5 3	Po555	3734	埋砂中	土師器	甕	※12.0	△1.8		内外面ともに口縁部ヨコナデ。	緻密	良好	赤褐色	赤褐色		中原81
S I 2 5 3	Po556	3620	埋砂中	土師器	甕胴部				外面肩部1単位7条のタタキ。内面ナデ。	やや密(1~3mm砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面少量スス附着。	福田の70
S I 2 5 3	Po557	3734	埋砂中	土師器	甕	※11.7	△7.1		外面口縁部~肩部おもに横方向の雑なナデ。胴部粗いハケ目後ナデ。内面口縁部~肩部雑なナデ、ハケ目状工具痕がかすかに残る。胴部左方向の雑なケズリ。	密(1~3mmの砂粒・石英を含む)	良好	ぶい黄褐色	ぶい黄褐色	外面スス痕。	中原74
S I 2 5 3	Po558	3134	埋砂中	土師器	甕	※11.0	△7.9	※11.0	外面口縁部ヨコナデ後縦方向ミガキ。胴部ナデ、斜方向ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。胴部左右両方向からのケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	明褐色	明褐色	胴部スス附着。	松本61
S I 2 5 3	Po559	2975	埋砂中	土師器	高杯	※17.6	13.2	※9.6	外面口縁部ナデ。杯底部粗いハケ目後ナデ。筒部縦方向ミガキ後ナデ、裾部ナデ。内面杯部丁寧なナデ。筒部上半シボリ目、下半左方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		中原71
S I 2 5 3	Po560	3623 3629	床 面	土師器	高杯		△11.8	11.4	外面杯部縦方向ミガキ。筒部細かいタテハケ。裾部細かい斜方向ハケ目。内面杯部縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密	良好	ぶい橙色	ぶい橙色	筒部3方向円形透かし。	中原79
S I 2 5 3	Po561	2971	埋砂中	土師器	高杯	※15.9	10.1	※12.0	外面杯部横方向の細かいミガキ。脚部縦方向のハケ目後粗い横方向のミガキ。内面口縁部ナデ後縦方向のミガキ。杯底部剥離。筒部ケズリ後ナデ。裾部ハケ目。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	ぶい橙色	ぶい橙色	筒部3方向円形透かし有り。	福田の67
S I 2 5 3	Po562	3110	埋砂中	土師器	高杯杯部	※16.4	△5.7		内外面ともに横方向のナデ後放射状ミガキ。口縁部と杯底部の接合部に段をもつ。	密(砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	一部スス附着。	松本64
S I 2 5 3	Po563	3734	埋砂中	土師器	高杯杯部	※21.5	△6.3		外面口縁部縦方向のミガキ。杯底部細かいミガキ。接合部付近タテハケがかすかに残る。内面口縁部ナデ後縦方向ミガキ。杯底部風化・剥離のため調整不明瞭、ナデか。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	褐色	内面被熱スス痕か。	福田の71
S I 2 5 3	Po564	3093 3259 3633	床 面	土師器	高杯杯部	※17.5	△5.7		外面口縁部上半ナデ、下半横方向ミガキ。杯底部ハケ目がみられる。内面ナデ、ハケ目がわずかに残る。杯底部風化・剥離。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面接合部付近風化。	松本53
S I 2 5 3	Po565	3080 3112 3156 3633	床 面	土師器	高杯杯部	※20.4	△5.9		外面口縁部横の細かいミガキ。杯底部ハケ目後粗い横のミガキ。口縁部と杯底部の接合部に顕著な粘土つなぎ痕(粘土かぶせ)。内面口縁部端部横、以下縦方向のミガキ。	密	良好	灰白色	灰白色		中原80
S I 2 5 3	Po566	3011	埋砂中	土師器	高杯	※10.0	△7.45		外面口縁部おもに縦・斜め方向のミガキ。杯底部細かいハケ目後ナデ。内面口縁部おもに横方向のナデ、指頭圧痕が残る。杯底部細かいハケ目。	密	良好	赤褐色	赤褐色	内外面とも一部スス附着。	中原44
S I 2 5 3	Po567	2972 2975	埋砂中	土師器	高杯杯部	※22.0	△6.1		外面ナデ後粗雑なミガキ。内面口縁部ナデ。接合部ミガキがみられる。杯底部ナデか。	密(2mm大の石英を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	内面杯底部風化。	松本67
S I 2 5 3	Po568	2975 2976 3077	埋砂中	土師器	高杯		△7.5	※10.8	外面杯底部ハケ目後縦方向ミガキ。筒部縦方向ミガキ。裾部ナデ。円形透かしあり。内面杯底部ナデか。筒部上・左方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	ぶい橙色	ぶい橙色	筒部円形透かし有り。化粧土。	福田の66
S I 2 5 3	Po569	3634	床 面	土師器	高杯脚部		△7.5	※11.8	外面筒部タテハケ。裾部ハケ目後ナデ。内面筒部左の丁寧なケズリ。裾部ナデ。	密(微砂粒を含む)	良好	ぶい黄褐色	ぶい黄褐色		松本62
S I 2 5 3	Po570	3059 3261	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△3.3	※19.0	外面ハケ目後雑なナデ。横方向粗いミガキ。内面筒部左のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(微砂粒を多く含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	筒部円形透かし有り。	松本69
S I 2 5 3	Po571	3059	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△3.0	※19.4	外面放射状ハケ目後横方向の粗いミガキ。内面筒部左方向ケズリ。裾部ハケ目。裾部ヨコナデ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	浅黄色	浅黄色	筒部円形透かし有り。	松本65
S I 2 5 3	Po572	2993	埋砂中	土師器	鼓形器台	※18.8	9.9	17.0	外面ヨコナデ。内面受部丁寧なミガキ。筒部~脚部右方向・斜め方向のケズリ。脚部ヨコナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	受部・脚部対角線2箇所ずつ円形透かし有り。	福田の69
S I 2 5 3	Po573	2994 2995	埋砂上層	土師器	鼓形器台	※15.5	9.0	※13.9	外面ヨコナデ。内面受部端部横のミガキ、以下筒部までケズリ後雑なナデ。脚部雑なケズリ、端部ナデ。	密(3mm以下の石英・微砂粒を多く含む)	良好	ぶい黄褐色	ぶい黄褐色		松本55
S I 2 5 3	Po574	3065	埋砂上層	土師器	低脚杯	9.0	4.0	3.7	外面杯部細かいハケ目後ナデ、暗文状の縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部放射状ハケ目後ナデ、縦方向のミガキ。杯底部ナデ。脚部ナデ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本57
S I 2 5 3	Po575	467 3019 3734 SI254-3324	埋砂中	土師器	小型丸底鉢	※13.6	△4.1		外面口縁部ヨコナデ後粗いヨコミガキ。以下ヨコミガキ、タテハケがわずかに残る。内面ナデ後横方向の細かいミガキ。	緻密(1mm程度の砂粒をわずかに含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色		中原72
S I 2 5 3	Po576	2975 2976 3021 3011	埋砂中	土師器	小型丸底鉢	※10.6	△5.2	※6.9	外面横方向の細かいミガキ。内面口縁部横方向ミガキ後暗文状の斜め方向のミガキ。胴部丁寧なナデ。	緻密(1mm程度の砂粒をわずかに含む)	良好	褐色	褐色	No. 2976 同一個体か。	福田の68
S I 2 5 3	Po577	3630	床 面	土師器	低脚杯		△2.6	※6.4	内外面とも杯部やや丁寧なミガキ。脚部ヨコナデ。	密(微砂粒を多く含む)	良好	黄褐色	黄褐色	内面風化気味。	松本66
S I 2 5 4	Po578	3521 3522	埋砂上層	土師器	甕	18.0	32.8	27.6	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ハケ目状工具による刺突文4か所。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部~中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	ぶい黄褐色	ぶい黄褐色	外面スス附着。口縁部外面黒斑有り。	野崎117

挿表42 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(19)

S I 2 5 4	Po579	3025 3095	埋砂上層	土師器	甕	14.9	26.4	22.2		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部刺突文。最大径付近ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。胎土分析。	米山100
S I 2 5 4	Po580	3326 3357 3470 3502	埋砂上層	土師器	甕	※14.3	△25.4	※21.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下叩き後タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位左方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	米山102
S I 2 5 4	Po581	3024 3025 3095	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	△23.4	※19.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密	良好	橙色	にぶい褐色	外面スス付着。	米山99
S I 2 5 4	Po582	3638	埋砂中	土師器	甕	※14.2	△22.3	※20.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密	良好	浅黄色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	厨子55
S I 2 5 4	Po583	3327 3509	埋砂中	土師器	甕	13.2	△19.2	※19.5		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部波状文。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密(2～3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	胴部外面スス付着。	野崎104
S I 2 5 4	Po584	3115	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	21.9	※20.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部細かいヨコハケ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	山本ひ88
S I 2 5 4	Po585	3095 3104 3168	埋砂上層	土師器	甕	※14.8	22.4	※20.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	灰白色	灰白色	外面スス付着。	野崎113
S I 2 5 4	Po586	3111 3521	埋砂上層	土師器	甕	15.8	△17.1	※22.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(4mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や108
S I 2 5 4	Po587	3328 3514	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△15.7	※24.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部へら状工具による刺突文。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面スス付着。口縁部外面黒斑有り。	山本ひ94
S I 2 5 4	Po588	3469	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△15.1	※21.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。	野崎107
S I 2 5 4	Po589	3687	埋砂中	土師器	甕	※15.5	△16.7	※22.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	野崎112
S I 2 5 4	Po590	3524	埋砂上層	土師器	甕	※16.2	△12.0	※24.1		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。中位ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	胴部外面スス付着。	野崎110
S I 2 5 4	Po591	3116	埋砂上層	土師器	甕	※13.6	△14.0	※19.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面スス付着。	野崎109
S I 2 5 4	Po592	3521 3525	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	18.2	※17.7		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部5条乱れた平行沈線。中位斜方向ハケ目。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	口縁部外面スス付着。	山本ひ96
S I 2 5 4	Po593	3353	埋砂上層	土師器	甕	※13.8	△13.0	※18.8		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	野崎105
S I 2 5 4	Po594	3085	埋砂中	土師器	甕	※17.0	△9.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。1条波状文。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	内外面スス付着。	野崎103
S I 2 5 4	Po595	3083 3094	埋砂中	土師器	甕	※15.0	△9.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(2～3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス付着。	野崎101
S I 2 5 4	Po596	3239 3328	埋砂中	土師器	甕	※14.1	△10.2	※18.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	淡黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。	野崎108
S I 2 5 4	Po597	3083 3094	埋砂上層	土師器	甕	※15.6	△10.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	外面スス付着。	野崎102
S I 2 5 4	Po598	3327 2250 3496	埋砂中	土師器	甕	※13.8	△16.4	※20.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下細かいタテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。胴部外面黒斑有り。胎土分析。	山本ひ95
S I 2 5 4	Po599	1164 1163 3094 3095 3237 3324	埋砂中	土師器	甕	※14.4	△13.0	※21.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(4mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄～灰黄色	浅黄～灰黄色	口縁部外面スス付着。	福田や115
S I 2 5 4	Po600	3122	埋砂上層	土師器	甕	※14.8	△9.2			外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	灰白色	浅黄褐色	外面スス付着。	山本ひ93
S I 2 5 4	Po601	3162 3169 3510	埋砂上層	土師器	甕	11.7	△12.8	※17.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面スス付着。胎土分析。	福田や107
S I 2 5 4	Po602	3036 3094 3363	埋砂上層	土師器	甕	※12.0	△9.6	※17.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部棒状工具による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	山本ひ92
S I 2 5 4	Po603	3514	埋砂上層	土師器	甕	※10.9	△9.4	※16.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	灰白色	灰白色	外面スス付着。	野崎111
S I 2 5 4	Po604	3508	埋砂下層	土師器	甕	12.1	15.2	14.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。口縁部剥離。中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下ケズリ後ナデ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	山本ひ75
S I 2 5 4	Po605	3030	埋砂上層	土師器	甕	10.8	14.0	※12.6		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	橙～にぶい黄褐色	橙～にぶい黄褐色	外面スス付着。	福田や109
S I 2 5 4	Po606	3526	埋砂中	土師器	甕	※14.1	△11.0	※22.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(細砂含む)	良好	褐色	褐色	口縁部外面スス付着。胴部外面黒斑有り。	野崎106
S I 2 5 4	Po607	3090	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△6.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	山本ひ89
S I 2 5 4	Po608	3501	埋砂中	土師器	高杯	17.2	13.8	※11.3		外面杯部縦方向ミガキ。筒部横方向ミガキ。裾部ミガキ。内面杯部縦方向ミガキ。底部風化のため調整不明。筒部ケズリ。裾部クモの巣状ハケ目。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本ひ76
S I 2 5 4	Po609	3234	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※18.0	△6.4			外面口縁部縦方向ミガキ。底部ナデ。内面口縁部縦方向ミガキ後横方向ミガキ。底部放射状ミガキ。	密	良好	褐色	褐色		米山104
S I 2 5 4	Po610	3219 3723	埋砂中	土師器	高杯杯部	※12.6	△5.8			内外面縦方向ミガキ。	密(4mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		福田や99

挿表43 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(20)

S I 2 5 4	Po611	3246	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※12.1	△5.8		外面部分的ミガキ。 内面口縁部縦方向ミガキ。底部放射状ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	外面スス 付着。内 外面黒斑 有り。	山本ひ 90
S I 2 5 4	Po612	2973 3033 3105 3107 3115	埋砂上層	土師器	高杯杯部	15.7	△5.1		内外面縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色		福田や 106
S I 2 5 4	Po613	3359	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△5.2	※15.5	外面縦方向ミガキ。 内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色	裾部外面 黒斑有り。	福田や 105
S I 2 5 4	Po614	3356	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△5.4	10.1	外面筒部ハケ目後縦方向ミガキ。裾部ハケ目後一部ナデ。 内面筒部ケズリ。裾部ケモの巣状ハケ目。	密	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色		山本ひ 87
S I 2 5 4	Po615	3504	床 面	土師器	高杯脚部		△7.5	10.7	外面筒部タテハケ。裾部ハケ目。 内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	筒部3方 向円形透 かし。	福田や 104
S I 2 5 4	Po616	3329	埋砂中	土師器	高杯脚部		△8.2	※11.5	外面筒部縦方向ミガキ。裾部ナデ。 内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	筒部3方 向円形透 かし。	福田や 103
S I 2 5 4	Po617	3164	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△7.7	※11.7	外面筒部タテハケ後横方向ミガキ。裾部ヨコナ デ。 内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	筒部3方 向円形透 かし。	福田や 100
S I 2 5 4	Po618	3519	埋砂中	土師器	低脚杯	15.5	6.1	※6.5	外面杯部口縁部ナデ。底部ハケ目。脚部ナデ。 内面杯部ナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		野崎 114
S I 2 5 4	Po619	3220 3325 3462	埋砂上層	土師器	鼓形器台	※19.4	10.2	※16.2	外面ヨコナデ。 内面杯部ミガキ。脚部ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色		野崎 116
S I 2 5 4	Po620	3031	埋砂上層	土師器	鼓形器台	18.2	10.3	16.2	外面ヨコナデ。 内面杯部ミガキ。脚部ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色	受部外面 スス付着。	野崎 115
S I 2 5 4	Po621	3084 3086 3219	埋砂中	土師器	鼓形器台 受部	※17.3	△7.7		外面ヨコナデ。 内面横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色		山本ひ 91
S I 2 5 4	Po622	3221 3639	埋砂下層	土師器	鼓形器台 脚部		△4.3	※17.1	外面ヨコナデ。 内面ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色		福田や 97
S I 2 5 4	Po623	3240	埋砂中	土師器	鼓形器台	※12.1	6.3	11.0	外面ヨコナデ。 内面受部ヨコナデ。脚部ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		福田や 98
S I 2 5 4	Po624	3169 3325 3466	埋砂上層	土師器	小型器台 脚部		△7.4	※11.2	外面縦方向ミガキ。 内面上半ケズリ。下半ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	筒部2方 向円形透 かし。	福田や 101
S I 2 5 4	Po625	3169	埋砂中	土師器	小型器台	※10.2	△2.4		内外面横方向ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色		福田や 96
S I 2 5 4	Po626	3095	埋砂中	土師器	小型器台 脚部		△6.5	※11.1	外面縦方向ミガキ。 内面ハケ目。	密	良好	橙色	橙色		福田や 102
S I 2 5 4	Po627	3328	埋砂中	土師器	小型丸底 壺	※10.2	△8.3	※9.0	外面口縁部縦方向ミガキ。胴部タテハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色		米山 101
S I 2 5 4	Po628	3618	埋砂中	土師器	小型丸底 壺	※8.9	△8.8	※8.7	外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	外面スス 付着。	米山 103
S I 2 5 4	Po629	3351	埋砂中	土師器	小型丸底 壺	9.7	10.0	9.8	口縁部縦方向ミガキ。胴部斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。中位左方向 ケズリ。以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面スス 付着。	山本ひ 103
S I 2 5 5	Po630	3477	埋砂下層	土師器	壺	20.7	△18.2		外面口縁部ヨコナデ。頸部ハケ状工具による羽状 文。肩部ヨコハケ。 内面口縁部～頸部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズ リ。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	口縁部焼 成前穿孔 1か所。 口縁部端 部黒斑有 り。胴部 内面スス 付着。	福田の 57
S I 2 5 5	Po631	3041	埋砂上層	土師器	壺	※25.6	△7.8		内外面ヨコナデ。	密	良好	淡黄色	淡黄色		中原35
S I 2 5 5	Po632	2599 3012 3044 3471 3472 3473	床 面	土師器	甕	※18.7	△19.1	※27.8	外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ後ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐 ～褐色	明赤褐 ～褐色	口縁部・ 胴部外面 黒斑有り。 外面スス 付着。	福田の 61
S I 2 5 5	Po633	3248	埋砂中	土師器	甕	※25.3	△9.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部二段にわたって棒状工 具による刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の 58
S I 2 5 5	Po634	3096	埋砂中	土師器	甕	※15.6	△17.7	※24.0	外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による 刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。 以下斜上方向ケズリ。	密	良好	黄褐色	黄褐色	胴部内面 スス付着。	中原38
S I 2 5 5	Po635	3052 3053 3096 3253	埋砂上層	土師器	甕	※16.0	△14.1		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による 刺突文。以下斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケ ズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スス 付着。	中原32
S I 2 5 5	Po636	3485	埋砂下層	土師器	甕	※15.6	△11.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密(1mm程度以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		中原30
S I 2 5 5	Po637	2483	埋砂上層	土師器	甕	※18.4	△10.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜～ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密	良好	黄褐色	黄褐色	胴部外面 スス付着。	中原27
S I 2 5 5	Po638	3487	埋砂下層	土師器	甕	14.9	23.8	21.0	外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位ヨコハケ。以下 ヨコ～タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～下半部右方向 ケズリ。以下左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	胴部外面 スス付着。	福田の 59
S I 2 5 5	Po639	3046	埋砂上層	土師器	甕	※14.0	△12.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下 タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部外 面・胴部 内面スス 付着。	中原26
S I 2 5 5	Po640	3055 3096	埋砂上層	土師器	甕	※15.2	△15.1	※19.0	外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位ヨコハケ。以下 タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	内外面ス ス付着。	中原34
S I 2 5 5	Po641	3096 3251 3484	埋砂下層	土師器	甕	13.9	△12.5	※20.0	外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻 腹縁による刺突文。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい 橙～黄 褐色	にぶい 橙～黄 褐色	胴部外面 スス付着。	福田の 60
S I 2 5 5	Po642	2481	埋砂上層	土師器	甕	※14.8	△9.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス 付着。	中原29
S I 2 5 5	Po643	3047	埋砂上層	土師器	甕	※14.2	△7.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による 刺突文。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズ リ。	密	良好	灰黄色	灰黄色	外面スス 付着。	中原28
S I 2 5 5	Po644	3096 3483	埋砂下層	土師器	甕	※14.2	△22.1	※19.8	外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部～中位ヨコハ ケ。下半タテ後ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケ ズリ。下半斜上方向ケズリ。指頭圧痕。	密	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	外面スス 付着。胎 土分析。	中原68
S I 2 5 5	Po645	2485	埋砂上層	土師器	高杯	※18.6	14.0	※15.2	外面杯口縁部横方向ミガキ。杯底部ハケ目。筒部 縦方向ケズリ後横方向ミガキ。裾部横方向ミガキ。 内面杯部縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部指押さ え後ハケ目。	密	良好	淡褐色	淡褐色		中原42

挿表44 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(21)

SI 255	Po646	3475	埋砂下層	土師器	高杯杯部	※18.4	△8.3			外面杯部ヨコナデ。筒部タテハケ。内面杯部横後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	杯部内面スス付着。	中原36
SI 255	Po647	2480	埋砂上層	土師器	高杯脚部		△8.2		※14.2	外面縦方向ケズリ後タテハケ。裾部ナデ。内面筒部左方向ケズリ。裾部ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	筒部3方向凹形透かし。	中原37
SI 255	Po648	3482	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△8.3		※13.6	外面筒部縦方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	筒部3方向凹形透かし。外面黒斑有り。	中原33
SI 255	Po649	3012	埋砂中	土師器	高杯脚部		△7.4		※10.6	外面縦方向ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	外面スス付着。	福田の56
SI 255	Po650	3039	埋砂上層	土師器	鼓形器台	※16.6	7.6		13.4	外面受部縦方向ミガキ。屈曲部ナデ。脚部縦方向ミガキ。内面受部ケズリ後ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	胎土分析。	中原39
SI 255	Po651	2599	埋砂中	土師器	小型器台脚部		△6.2		※12.3	外面タテハケ。内面上半ケズリ後ナデ。下半ハケ目。	密	良好	橙色	橙色	内外面黒斑有り。内面スス付着。	中原31
SI 256	Po652	3303 3332 3349 3350	埋砂中	土師器	壺	※21.6	△25.1	※25.2		外面口縁部~頸部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。11条の平行沈線および刺突文がまわる。胴部細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右、中位以下左斜め上方向のケズリ。頸部・胴部中位指頭圧痕が残る。	密	良好	にぶい黄橙色	淡黄色	外面胴部わずかにスス付着。	山本く70
SI 256	Po653	3038	埋砂中	土師器	壺	※22.0	△5.6			内外面ヨコナデ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	口縁部内面スス付着。	山本く41
SI 256	Po654	3490	床面	土師器	甕	14.6	20.2	18.1		外面口縁部~肩部ヨコナデ。肩部~中位斜方向ハケ目。以下ヨコハケ。裾部斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部内面スス付着。胎土分析。	山本く74
SI 256	Po655	3311	埋砂中	土師器	甕	※14.6	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹線による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm大の砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	山本く72
SI 256	Po656	3201	埋砂中	土師器	甕	※15.6	△8.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	淡黄色		山本く68
SI 256	Po657	3494	床面	土師器	高杯	17.3	11.4		11.9	外面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。底部タテハケ。筒部タテハケ。裾部斜方向ハケ目。内面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		山本く71
SI 256	Po658	3308	埋砂中	土師器	高杯杯部	※17.6	△6.1			外面口縁部ヨコナデ。底部タテハケ後ヨコナデ。内面口縁部ヨコハケ後縦方向ミガキ。底部ヨコナデ後ミガキ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		山本く67
SI 256	Po659	3202	埋砂中	土師器	高杯杯部	※13.0	△5.7			外面口縁部ヨコナデ後一部横方向ミガキ。底部ハケ目。内面ヨコハケ後縦方向ミガキ。底部ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	浅黄褐色		山本く73
SI 256	Po660	3491	床面	土師器	鼓形器台	19.4	10.7		17.2	外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密(微砂を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	脚部内面黒斑有り。	野崎60
SI 256	Po661	3335	埋砂中	土師器	鼓形器台脚部		△5.3		※17.6	外面ヨコナデ。内面ケズリ。端部ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		山本く69
SI 261	Po662	3735	埋砂中	土師器	甕	※17.9	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	口縁部外面スス付着。	米山88
SI 261	Po663	3735	埋砂中	土師器	高杯杯部	※15.0	△4.9			外面口縁部横方向ミガキ。底部ハケ目。内面縦方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	口縁部外面スス付着。	米山89
SI 261	Po664	3735	埋砂中	土師器	高杯杯部		△8.7		※10.7	外面筒部横方向ミガキ。裾部横方向ミガキ。内面筒部ケズリ後一部縦方向ミガキ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	橙色	橙色		米山90
SI 261	Po665	3728	床面	土師器	鼓形器台受部	※20.0	△5.6			外面ヨコナデ。内面横方向ミガキ。	密	良好	橙色	橙色	内外面スス付着。胎土分析。	米山91
SI 257	Po666	3097	埋砂下層	土師器	甕	※15.8	△4.7			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部外面スス付着。	山本く39
SI 257	Po667	3671	床面	土師器	甕	※13.8	△5.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色	胴部内面スス付着。	山本く38
SI 257	Po668	3097	埋砂下層	土師器	甕	※12.2	△3.8			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		山本く37
SI 257	Po669	3685	埋砂上層	土師器	甕	※13.0	△4.6			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		山本く40
SI 257	Po670	3097	埋砂下層	土師器	椀	※14.2	△4.5			外面ナデ。内面ハケ目。	密(1~3mm程度の石灰を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		山本く42
SI 257	Po671	3670 3672 3684 3687	床面	土師器	甕		△51.9		13.9	外面体部タテハケ。狭口部ナデ。把手手捏ね成形。内面体部縦~横方向ケズリ。狭口部ナデ。	密(4~6mm程度の石灰を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		山本く36
SI 258	Po672	3014 3170	埋砂中	土師器	壺	※18.0	△7.3			内外面ともに横方向のナデ。外面頸部に縦方向のハケ目がかすかに残る。	密(細砂粒、稀に2mm程度の砂粒を含む)	良好	灰白色	灰白色	口縁部、頸部、一部に黒斑、風化気味。	中原53
SI 258	Po673	3014 3171 3292	埋砂上層	土師器	甕	※23.4	△33.9	※29.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横方向、下半不定方向の粗いハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右方向ケズリ、下半左斜め上方向ケズリ後おもに縦方向ハケ目。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面とも部分的にスス付着。	米山76
SI 258	Po674	3183	埋砂下層	土師器	甕	※18.8	△8.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部やや雑な右方向のケズリ。	密	良好	橙色	橙~灰褐色		中原50
SI 258	Po675	3184	埋砂下層	土師器	甕	※20.0	△6.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。以下右方向のケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面全体に薄くスス付着。	米山78
SI 258	Po676	3189	埋砂下層	土師器	甕	※14.6	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。工具痕がまわる。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面とも口縁部の一部にスス付着。	中原51
SI 258	Po677	3170	埋砂中	土師器	甕	※15.0	△7.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部縦・横方向の粗いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。肩部右方向のケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面全体にスス付着。	中原49
SI 258	Po678	3099	埋砂中	土師器	甕	※16.6	△5.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。以下右方向のケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内面頸部スス付着。	米山74
SI 258	Po679	3100 3171	埋砂上層	土師器	甕	※14.1	△12.8	※19.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後7~8条の沈線。胴部横・縦方向のハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。胴部上半右斜め上、下半左斜め上方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面全体に薄くスス付着。	米山81

挿表45 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

土器溜1	Po718	1292		土師器	甕	※13.9	24.4	※24.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテ～ヨコハケ。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～底部右方向ケズリ。底部上方向ケズリ。指頭圧痕。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	底部外面スス付着。	福田51
土器溜1	Po719	1358		土師器	壺	※14.2	△5.5			内外面ヨコナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	口縁部外面黒斑有り。	福田や82
土器溜1	Po720	1181 1188 1190 1198 1200		土師器	甕	※27.4	△21.0	※35.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ後8条波状文。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部内面剥離。	野崎86
土器溜1	Po721	1172 1192 1193 1316		土師器	甕	※23.6	△21.8	※29.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下左上がり叩き後斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面スス付着。	山本く60
土器溜1	Po722	1188 1189 1190		土師器	甕	22.2	△18.2	※29.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	やや粗	良好	浅黄色	黄褐色	胴部外面スス付着。	山本く61
土器溜1	Po723	1931		土師器	甕	※14.4	△8.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部5条平行沈線。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		山本く58
土器溜1	Po724	1199		土師器	甕	17.0	27.0	※24.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後4条波状文。以下斜～ヨコハケ。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部～中位右方向ケズリ。以下左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～8mmの砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	胴部外面スス付着。	福田50
土器溜1	Po725	1033 1051 1055 1220 1224 1225 1242 1938		土師器	甕	※15.8	△25.1	※21.9		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコハケ、下半タテハケ。ハケ状工具痕あり。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半おもに右方向ケズリ、下半左斜め上方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面胴部中位以下一部に蓮くさスス付着。黒斑有り。	米山73
土器溜1	Po726	1198 1200 1201		土師器	甕	※14.6	△21.6	※20.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後3条平行沈線。以下斜～タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	胴部外面スス付着。	山本く57
土器溜1	Po727	1013 1014 1205		土師器	甕	※14.8	△18.3	※21.0		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	野崎83
土器溜1	Po728	869		土師器	甕	※14.5	△18.0	※21.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部1条波状文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下斜上方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	山本ひ69
土器溜1	Po729	1928 1938		土師器	甕	※16.2	△12.0	※22.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜・ヨコハケ後刺突文。以下ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。胴部中位左斜め上方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	胴部外面スス付着。	福田や79
土器溜1	Po730	2727		土師器	甕	※15.8	△10.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス付着。	松本43
土器溜1	Po731	954		土師器	甕	※12.9	△15.2	※18.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位タテ後ヨコハケ。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指押さえ後右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密(2～3mmの砂粒を含む)	良好	赤褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	野崎78
土器溜1	Po732	1203		土師器	甕	※13.7	△14.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテ後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	野崎79
土器溜1	Po733	877		土師器	甕	※15.8	△21.5	※23.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	野崎87
土器溜1	Po734	1343		土師器	甕	※14.8	△18.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部～中位ヨコハケ。以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下ケズリ。底部付近指頭圧痕。	密	やや不良	淡黄色	淡黄色	胴部外面スス付着。	野崎42
土器溜1	Po735	1341		土師器	甕	※13.6	△17.5	※19.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	野崎40
土器溜1	Po736	1931		土師器	甕	※15.4	△8.1			外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		松本44
土器溜1	Po737	1945		土師器	甕	※15.4	△7.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本39
土器溜1	Po738	1933		土師器	甕	※13.4	△12.5	※16.9		外面口縁部～肩部ヨコナデ。肩部貝殻腹縁による刺突文。以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	胴部外面スス付着。	山本ひ70
土器溜1	Po739	1179		土師器	甕	13.2	△11.7			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面スス付着。	山本ひ73
土器溜1	Po740	1919		土師器	甕	※14.1	△12.2	※18.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部8条の乱れた平行沈線。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	胴部外面スス付着。	福田や92
土器溜1	Po741	1449 1451		土師器	甕	※15.2	△7.0			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑有り。松本51と同一個体か。	松本46
土器溜1	Po742	1949		土師器	甕	※14.8	△8.6			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(2mm以下の石英を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本41
土器溜1	Po743	1902		土師器	甕	※15.4	△6.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本40
土器溜1	Po744	1939 1940		土師器	甕	※15.8	△4.9			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。	密(2mm大の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	中原54
土器溜1	Po745	2117		土師器	甕	※15.6	△6.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	山本く51
土器溜1	Po746	1963		土師器	甕	※13.6	△6.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		福田や80
土器溜1	Po747	2116		土師器	甕	※16.8	△5.9			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	山本く55
土器溜1	Po748	2113		土師器	甕	※16.2	△6.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部かすかにヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		松本49
土器溜1	Po749	1922		土師器	甕	※14.2	△6.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下左方向ケズリ。	密	良好	明黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	山本く54
土器溜1	Po750	1342		土師器	甕	※12.4	△6.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	口縁部外面黒斑有り。	松本51
土器溜1	Po751	1232		土師器	小型甕	※10.7	△10.8	※13.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	野崎82

挿表47 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(24)

土器溜1	Po752	1345		土師器	甕	※17.6	△25.5	※23.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頭部屈曲部〜中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	中原57
土器溜1	Po753	1349		土師器	甕	※14.6	△16.2	※21.2	外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や93
土器溜1	Po754	886		土師器	甕	※15.4	△21.3	※18.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。頭部屈曲部〜中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	にぶい黄色	外面スス付着。	松本48
土器溜1	Po755	1920		土師器	甕	※14.2	△6.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部内面スス付着。	福田や81
土器溜1	Po756	919		土師器	小型甕	12.0	16.1	12.5	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下左方向ケズリ。底部指痕残。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の48
土器溜1	Po757	2083		土師器	小型甕	11.3	△8.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後刺突文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部外面スス付着。	福田や84
土器溜1	Po758	377 457		土師器	甕	※13.0	△1.7		内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	中原98
土器溜1	Po759	2078		土師器	高杯杯部	※29.0	△7.3		外面口縁部縦方向ミガキ。底部ハケ目後ミガキ。内面縦方向ミガキ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		福田の54
土器溜1	Po760	1168		土師器	高杯杯部	※18.9	△6.3		外面口縁部ヨコナデ。底部横方向ミガキ。内面口縁部縦方向ミガキ。底部ヨコナデ。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	橙色	褐色〜赤褐色	外面スス付着。	野崎85
土器溜1	Po761	1911 1912		土師器	高杯杯部	※17.8	△4.9		外面横方向ミガキ。内面ミガキ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田や85
土器溜1	Po762	437 456 572 734 911 951 966		土師器	高杯	※17.6	13.2	※11.0	外面杯口縁部横後縦方向ミガキ。筒部縦方向ケズリ後横方向ミガキ。裾部ミガキ。内面杯部横方向ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		山本ひ75
土器溜1	Po763	1064		土師器	高杯杯部	※17.6	△5.6		外面ナデ後縦方向のミガキ。内面口縁部剥離気味、丁寧なナデ。杯底部剥離のため調整不明。	密	良好	橙色	褐色		米山67
土器溜1	Po764	1901 1096		土師器	高杯杯部	※16.0	△5.4		外面口縁部ヨコナデ。底部タテハケ。内面口縁部縦方向ミガキ。底部ミガキ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐色	赤褐色	外面スス付着。	山本く59
土器溜1	Po765	1906		土師器	高杯脚部	△6.0		※12.8	外面筒部縦方向ミガキ。裾部ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ナデ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	褐色	裾部4方向円形透かし。	松本47
土器溜1	Po766	923		土師器	高杯脚部	△7.5		10.6	内外面とも杯底部剥離のため調整不明。外面ハケ目後ナデ。内面ナデか。外面筒部縦ハケ目後ナデ。横方向ミガキ。裾部ハケ目。内面筒部右のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	裾部3方向円形透かし。	米山64
土器溜1	Po767	1958		土師器	高杯脚部	△6.2		※9.7	外面筒部上半横方向ミガキ。裾部ナデ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	裾部内面アラ記号有り。	福田や88
土器溜1	Po768	2111		土師器	高杯脚部	△7.0		※10.5	外面杯底部ミガキ。脚部縦方向ミガキ。内面杯底部ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田の52
土器溜1	Po769	1696		土師器	鼓形器台受部	※19.8	△7.2		外面ヨコナデ。内面ケズリ後横方向ミガキ。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本く53
土器溜1	Po770	1191		土師器	鼓形器台受部	※18.0	△7.9		外面ヨコナデ。内面ミガキ。	密	やや不良	浅黄褐色	浅黄褐色	円形透かし有り。	野子41
土器溜1	Po771	1950		土師器	鼓形器台受部	※20.5	△6.7		外面ヨコナデ。内面ミガキ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田や89
土器溜1	Po772	1107 1031		土師器	鼓形器台受部	※19.0	△6.5		外面ヨコナデ。内面横方向ミガキ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	円形透かし有り。	野子39
土器溜1	Po773	950		土師器	鼓形器台受部	※19.0	△7.2		外面ヨコナデ。内面受部右方向ケズリ後横方向ミガキ。筒部ナデ。脚部左方向ケズリ。工具痕多数あり。	密(砂粒を少量含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		米山65
土器溜1	Po774	1451		土師器	鼓形器台受部	※18.8	△5.5		外面ヨコナデ。内面ケズリ後横方向ミガキ。	密(微砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本く52
土器溜1	Po775	1930		土師器	鼓形器台脚部	△3.4		※16.0	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	脚部円形透かし。	福田や91
土器溜1	Po776	1990		土師器	鼓形器台脚部	△7.7		※17.2	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		福田や90
土器溜1	Po777	2208		土師器	鼓形器台脚部	△4.7		※18.4	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		松本50
土器溜1	Po778	1696 1918		土師器	鼓形器台脚部	△4.0		※14.4	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本42
土器溜1	Po779	925		土師器	鼓形器台	※12.2	6.3	※11.8	外面おもに横方向のナデ。内面受部端部ヨコナデ。上半左方向ケズリ。下半ケズリ後ナデ。筒部ケズリ。脚部左方向のやや雑なケズリ。	密(砂粒を多く含む)	良好	にぶい黄褐色〜褐色	にぶい黄褐色〜褐色	内面黒斑あり。	米山66
土器溜1	Po780	1316		土師器	鼓形器台	※9.6	4.6	※9.3	外面縦方向のミガキ後ナデ。筒部ナデ。内面受部左方向ケズリ後ナデ。脚部ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	灰白色〜浅黄褐色	灰白色〜浅黄褐色	脚部円形透かし有り。	米山72
土器溜1	Po781	438 897		土師器	鼓形器台脚部	△3.7		※11.3	外面ヨコナデ。内面ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		福田や87
土器溜1	Po782	887		土師器	鼓形器台	18.0	8.6	16.9	外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本68
土器溜1	Po783	909		土師器	小型器台脚部	△6.8		15.1	外面横後縦方向ミガキ。内面ハケ目。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	脚部4方向円形透かし。	福田の47
土器溜1	Po784	1298		土師器	低脚杯	※18.2	5.6	5.5	外面杯部縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。内面杯部ヨコハケ後縦方向ミガキ。脚部ヨコナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		山本ひ67
土器溜1	Po785	1947		土師器	低脚杯	18.1	4.8	5.7	外面杯部ハケ目後縦方向ミガキ。脚部ナデ。内面杯部ミガキ。脚部ナデ。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田の55
土器溜1	Po786	1057		土師器	低脚杯	※15.6	4.5	3.8	外面杯部おもに縦・横方向のミガキ。接合部ハケ目状工具痕あり。脚部ヨコナデ。内面口縁部丁寧なミガキ。杯底部剥離のため調整不明。脚部ヨコナデ。	密(砂粒を少量含む)	良好	褐色	褐色	内面杯底部剥離。	米山69
土器溜1	Po787	2114		土師器	低脚杯杯部	※17.4	△3.9		外面杯部縦方向のやや丁寧なミガキ。一部縦ハケ目がかすかに残る。内面丁寧なナデ。	密	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	接合部工具による刺突が施される。	米山71
土器溜1	Po788	456 982		土師器	低脚杯	※15.2	6.1	7.0	外面杯部工具によるヨコナデ。脚部ヨコナデ。内面杯部横方向ミガキ。脚部ナデ。	密(微砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色		松本45

挿表48 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(2)

土器溜 1	Po789	920		土師器	小型丸底壺	9.3	8.8	8.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の49
土器溜 1	Po790	456 571 1040		土師器	小型丸底壺	※9.7	10.0	11.1		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。中位以下斜〜ヨコハケ。内面口縁部ヨコハケ。肩部〜中位左方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中原59
土器溜 1	Po791	896		土師器	ミニチュア土器	4.4	4.1	4.8		外面口縁部ナデ。底部粗いハケ目。内面ナデ。	密	良好	橙色	橙色		中原56
土器溜 2	Po792	1523 1524 2110 2736		土師器	壺	※25.8	△17.6			外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部5〜6条の平行沈線、刺突文。胴部細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。以下右方向のやや丁寧ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	口縁部黒斑あり。	福田の83
土器溜 2	Po793	1746 1995		土師器	壺	※22.0	△18.5			外面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。貝殻腹縁による刺突文。以下斜方向ハケ目。内面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部〜中位右方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	口縁部内面黒斑有り。	松本77
土器溜 2	Po794	2110 2568		土師器	壺	※18.6	△10.9			外面口縁部ヨコナデ。頸部〜肩部タテハケ。肩部貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		中原82
土器溜 2	Po795	1745 2209 2542 2758		土師器	壺	※20.6	△8.9			外面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部ケズリ。	密	良好	黄橙色	黄橙色		中原87
土器溜 2	Po796	2545		土師器	壺	※22.2	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。頸部貝殻腹縁による刺突文。内面ヨコナデ。	密	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	内面スス付着。	松本76
土器溜 2	Po797	2571 2572 2573		土師器	甕	※14.85	△17.6	※21.4		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。液状文がまわる。胴部おもにヨコ〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右、下半左方向の丁寧ケズリ。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面胴部一部薄くスス付着。	福田の81
土器溜 2	Po798	1506		土師器	甕	※16.2	△15.9			外面口縁部〜肩部ヨコナデ。中位以下斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位右方向ケズリ。以下斜上方向ケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	中原89
土器溜 2	Po799	2755		土師器	甕	※13.2	△14.8	※22.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下横方向ケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	松本75
土器溜 2	Po800	1506 2753		土師器	甕	※14.2	△12.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、刺突文がまわる。以下細かいヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向のケズリ後一部ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面口縁部・胴部スス付着。	福田の72
土器溜 2	Po801	2755 3173		土師器	甕	※13.3	△9.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部細かいヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ後ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田の78
土器溜 2	Po802	1450 1500		土師器	甕	※18.2	△9.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部以下右方向ケズリ。	密(微砂粒を含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	口縁部外面黒斑有り。	松本71
土器溜 2	Po803	2110		土師器	甕	※15.6	△7.6			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色	口縁部外面スス付着。	中原60
土器溜 2	Po804	2744		土師器	甕	※13.6	19.7	※20.7		外面口縁部〜肩部ヨコナデ。胴部上半タテ〜ヨコハケ後ナデ。ヨコナデ。胴部上半右、下半左方向のケズリ。底部ナデ、指頭圧痕。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	淡黄〜浅黄色	淡黄〜浅黄色	外面口縁部・胴部スス付着。	福田の82
土器溜 2	Po805	1519		土師器	甕	※11.4	△6.4			外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部羽状文。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	浅黄色	浅黄色		中原85
土器溜 2	Po806	2110 2209 2749 2807		土師器	壺	※13.0	△4.5			外面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部タテハケ。内面口縁部〜頸部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	ぶい橙色	ぶい橙色	口縁部外面黒斑有り。口縁部内面スス付着。	中原67
土器溜 2	Po807	1995 2110		土師器	甕	※11.8	△7.8	※12.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後工具による刻み目。胴部横方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部両方向のケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄〜淡黄色	浅黄〜淡黄色		福田の76
土器溜 2	Po808	1500 1995 2502		土師器	小型甕	※11.0	11.4	17.7		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部〜中位右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	淡黄色	淡黄色	底部外面スス付着。	中原88
土器溜 2	Po809	1995		土師器	甕	※16.4	△11.8			外面口縁部〜肩部ヨコナデ。肩部〜中位タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1mm大の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面スス付着。	中原64
土器溜 2	Po810	2110		土師器	甕	※14.2	△13.3	※18.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。中位以下左上がり叩き後斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左方向ケズリ。	密	良好	ぶい橙色	ぶい橙色	外面スス付着。	中原66
土器溜 2	Po811	1500 1573 1995		土師器	高杯	※16.4	△13.0	※11.1		外面杯部ハケ目後おもに横方向ナデ。筒部タテハケ目後タテミガキ。裾部ナデ。内面杯部風化のため調整不明瞭、ナデか。筒部左方向のケズリ。裾部ハケ目。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	明黄褐色〜浅黄褐色	杯部内外面赤色塗彩。	福田の74
土器溜 2	Po812	2110 2564		土師器	高杯杯部	※22.0	△6.1			外面口縁部横方向ミガキ。脚接合部ハケ目。内面口縁部横方向ミガキ。以下縦方向ミガキ。	密	良好	黄橙色	黄橙色	口縁部外面スス付着。	中原91
土器溜 2	Po813	2556		土師器	高杯杯部	※18.1	△6.9			外面縦方向ハケ目後タテミガキ、ヨコナデ。内面ナデ後縦方向の粗いミガキ、ハケ目が残る。筒部左方向のケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色		福田の77
土器溜 2	Po814	1995 2110 2498		土師器	高杯杯部	※16.8	△5.1			外面口縁部上半ヨコナデ、以下タテハケ後横方向の細かいミガキ。裾部ナデ。内面ナデ後ミガキ、ハケ目がかすかに残る。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙〜淡黄色	橙〜淡黄色	スス痕あり。	福田の80
土器溜 2	Po815	1519		土師器	高杯		△10.2	※13.3		外面杯底部ハケ目後ナデ。筒部タテハケ後タテミガキ。裾部ハケ目後ナデ。内面杯底部丁寧ナデ、一部ミガキ。筒部左方向のケズリ。裾部放射状ハケ目。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	筒部3方向内面透かし。	福田の73
土器溜 2	Po816	1947 2209		土師器	高杯脚部		△6.3	※18.2		外面筒部タテハケ後横方向ミガキ。裾部ハケ目後ミガキ。内面筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密	良好	ぶい黄橙色	黄橙色		山本く56
土器溜 2	Po817	2487		土師器	高杯脚部		△6.5	※11.5		外面筒部ハケ目後タテミガキ、弱い刺突文がまわる。裾部ナデ。内面筒部左のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色〜灰白色	淡黄色〜灰白色	黒斑あり。	福田の75
土器溜 2	Po818	1504 2110 2559 2563 2567 2570		土師器	鼓形器台	※20.2	11.1	※20.0		外面丁寧なヨコナデ。内面受部横後縦方向ミガキ。脚部ケズリ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	黄橙色	黄橙色		中原92
土器溜 2	Po819	1450		土師器	鼓形器台	※13.4	△4.6			外面受部ヨコナデ後粗い縦方向のミガキ。筒部ナデ。脚部ミガキがみられる。内面受部右方向のケズリ後ナデ。筒部ナデ。脚部左方向のケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田の79
土器溜 2	Po820	2490		土師器	鼓形器台		△7.9	※19.0		外面ヨコナデ。内面受部横方向ミガキ。脚部ケズリ。	密	良好	橙色	黄褐色		中原83
土器溜 2	Po821	2734		土師器	小型器台	※10.8	△2.9			外面ミガキ。内面風化の為調整不明。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		松本72
土器溜 2	Po822	1573 1745 1995 2209 2377		土師器	直口壺	※13.2	△14.9	※15.4		外面口縁部縦方向ミガキ。肩部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中原90
土器溜 2	Po823	459 2758		土師器	直口壺	※10.6	△7.2			内外面ヨコナデ。	密	良好	黄橙色	黄褐色		中原84

挿表49 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(26)

土器溜 2	Po824	2750		土師器	小型丸底壺	10.7	10.5	10.6		外面口縁部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部横方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面スス付着。	松本73
土器溜 2	Po825	1524		土師器	小型丸底壺	※8.4	△6.4	※9.4		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。中位以下左方向ケズリ。	密	良好	橙色	橙色		中原61
土器溜 2	Po826	2754		土師器	小型丸底壺	※10.0	△6.6	※10.2		外面口縁部～肩部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	胴部外面スス付着。	中原63
土器溜 2	Po827	1573		土師器	小型丸底壺	※10.2	△6.6			外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下横方向ミガキ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左方向ケズリ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	胴部内面黒斑?	中原62
土器溜 2	Po828	1746		土師器	低脚杯	※10.0	5.8		5.1	外面杯部口縁部ヨコナデ。底部ミガキ。脚部ナデ。内面杯部ミガキ。脚部ナデ。	密(微砂粒をわずかに含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		松本74
土器溜 2	Po829	2554		土師器	低脚杯脚部		△3.1		11.7	内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい橙色	にぶい橙色		中原86
土器溜 2	Po830	3149		土師器	甌		△12.5		狭口部※13.4	外面体部タテハケ。狭口部ヨコナデ。内面体部ケズリ。狭口部ヨコナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	狭口部外面スス付着。	中原93
土器溜 3	Po831	1152		土師器	甕	※16.7	26.4	23.3		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜め・ヨコハケ後ナデ。胴部おもに斜めの粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右・左斜め上方向ケズリ。下半ケズリ後ナデ。指頭圧痕。	密(砂粒を含む)	良好	浅黄褐色～にぶい黄色	浅黄褐色	外面胴部スス付着。	米山70
土器溜 3	Po832	1151		土師器	小型丸底壺	8.6	8.9	9.2		口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ、ミガキあり。刺突文3つ。胴部ハケ目。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部右・斜め上方向のケズリ。底部ナデ、指頭圧痕。	密	良好	にぶい橙～にぶい黄褐色	にぶい橙～にぶい黄褐色		米山111
土器溜 4	Po833	1149		土師器	甕	※13.4	△13.7	※10.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後ナデ。胴部横・斜め方向ハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。以下おもに右方向のケズリ後ナデ、指頭圧痕が残る。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	米山112
土器溜 4	Po834	1145 1146 1149		土師器	甕	※14.5	△14.5	※20.0		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコナデ、工具痕あり。胴部おもにヨコハケ後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、指頭圧痕が残る。胴部右・斜め方向のケズリ。	密(石英・砂粒を多く含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面多量にスス付着。	米山109
土器溜 4	Po835	1140		土師器	甕		△23.4	※11.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後ヨコハケ。以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、右方向ケズリ。胴部左斜め上のケズリ後ナデ、指頭圧痕。	密(石英・砂粒を多く含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色～淡黄色	外面・内面胴部下半スス付着。口縁部意図的に割りそえる。	米山116
土器溜 4	Po836	1139		土師器	甕	12.7	18.2	16.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦方向ミガキ。胴部ナデ、ミガキがわずかにみられる。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部上半左方向、下半斜め上方向のケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面胴部多量にスス付着。粘土つつなぎ痕がみられる。	米山108
土器溜 4	Po837	1141		土師器	小型丸底壺	※9.5	10.5	11.0		外面口縁部横方向のミガキ。肩部斜めハケ目後ナデ。胴部ハケ目後ナデ、一部横ミガキ。内面口縁部ナデ後横方向ミガキ。肩部ナデ、胴部左・斜め方向のケズリ。底部指頭圧痕。	密(砂粒をわずかに含む)	良好	灰黄色	灰黄色	外面口縁部～肩部赤色塗彩。以下スス付着。内面口縁部赤彩。	米山115
土器溜 4	Po838	1144		土師器	小型丸底壺	※8.1	8.5	9.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。以下ナデ、ハケ目がわずかに残る。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。胴部左方向の雑なケズリ。指頭圧痕が残る。	密	良好	褐色	褐色		米山113
土器溜 4	Po839	1147		土師器	椀	※13.6	5.9			外面口縁部ナデ。下半ミガキ。内面口縁部斜め方向ハケ目。底部ナデ、指頭圧痕がわずかに残る。	密	良好	黄褐色	黄褐色	内外面とも剝離気味。	米山114
土器溜 5	Po840	1624		土師器	壺	※25.2	△7.7			内外面ともにヨコナデ。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい黄褐色		山本く85
土器溜 5	Po841	1592 1603 1606		土師器	甕	※16.6	△14.5	※26.5		外面口縁部ヨコナデ。以下粗雑なハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右、以下左方向のケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1～3mm大の石英・砂粒を多く含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面少量スス付着。	山本く86
土器溜 5	Po842	1596 1603		土師器	甕	※15.1	△22.4	※20.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後ナデ。胴部横・斜め方向の粗いハケ目。底部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部上半右・右斜め上、下半左斜め上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～3mm大の石英・砂粒を多量に含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面胴部下半スス多量に付着。	山本く92
土器溜 5	Po843	1600		土師器	甕	※15.2	△10.2			外面口縁部ヨコナデ。肩部横・斜め方向ハケ目後ナデ、貝殻腹縁による刺突文あり。内面口縁部ヨコナデ。肩部横・斜め上方向のケズリ、ナデがみられる。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	明黄褐色	外面全体にスス付着。	山本く91
土器溜 5	Po844	1604		土師器	甕	※13.6	△13.1	※20.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下横・斜め方向のハケ目後一部ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、以下右・左斜め上方向ケズリ、指頭圧痕が残る。	密(1～3mm大の石英・砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	明黄褐色	外面全体にスス付着。	山本く89
土器溜 5	Po845	1588		土師器	甕	※13.5	△13.9	※17.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下横・斜め方向の粗いハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右・左斜め上方向ケズリ後ナデ、指頭圧痕が残る。	密(1～3mm大の石英・砂粒を多く含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面胴部スス付着。	山本く83
土器溜 5	Po846	1592 1595		土師器	甕	※14.9	△8.0			外面ヨコナデ。肩部ハケ目がみられる。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	にぶい黄褐色	口縁部黒斑あり。	山本く84
土器溜 5	Po847	1590		土師器	甕	※13.8	△7.4			外面口縁部ヨコナデ。肩部横・斜め方向の細かいハケ目、貝殻腹縁による刺突文あり。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、指頭圧痕が残る。工具痕あり。	密(3mm大の石英・砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面胴部内面頭部スス付着。	山本く87
土器溜 5	Po848	1592 1593 1601		土師器	高杯	※16.3	11.25		※9.8	外面杯部横方向ミガキ後ナデ。筒部縦方向の大きなミガキ後横方向ミガキ。裾部ナデ。内面杯部丁寧なナデ。筒部シボリ目後左方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(1～2mm大の石英・砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	裾部内面へ記号。	山本く88
土器溜 5	Po849	1598		土師器	小型丸底壺	8.6	8.7	9.9		外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部おもに斜め方向の細かいハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部左右両方向のケズリ後ナデ。底部指頭圧痕あり。	密(1～3mm大の石英・砂粒を含む)	良好	明黄褐色	褐色	全体的に風化・剝離著しい。	山本く90
土器溜 6	Po850	317		土師器	甕	13.2	21.6	19.4		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下中位までタテハケ。中位以下斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。以下指押さへ後上方向ケズリ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	や不良	浅黄色	浅黄色	胴部外面スス付着。	山本ひ76
土器溜 6	Po851	250	2 ONE	土師器	甕	16.7	△10.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下縦方向ケズリ。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	胴部外面スス付着。	山本ひ122
土器溜 6	Po852	249	2 ONE	土師器	高杯	16	△11.2			外面杯部～筒部横方向ミガキ。内面杯部縦方向ミガキ。筒部ケズリ。	密(1～5mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本ひ117
土器溜 6	Po853	316	2 ONE	土師器	小型丸底壺	10.3	9.7	9.2		外面口縁部ヨコナデ。胴部斜～ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着。	中原96

挿表50 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(27)

古墳時代 包含層	Po854	2393 2394	2 O	土師器	甕	17.2	30.6	27.0		外面口縁部ヨコナデ。胴部上半横・斜め方向のハケ目後ナデ。下半ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、指頭圧痕残る。 胴部上半右、下半左方向のケズリ。底部ナデ、指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面胴部上半多量、下半少量スス付着。 内面胴部下半・底部スス付着。	松本85
古墳時代 包含層	Po855	2705	1 OSW	土師器	小型甕	6.7	△7.1	10.3		外面口縁部～肩部ヨコナデ。沈線巡る。中位タテハケ。以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部指頭圧痕。中位左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	明赤褐色	明赤褐色		福田の87
古墳時代 包含層	Po856	602	2 P	土師器	高杯杯部	※17.4	△5.3			外面横方向ミガキ。 内面横後縦方向ミガキ。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		山本ひ119
古墳時代 包含層	Po857	2477	1 O	土師器	鼓形器台	※20.6	11.9		18.8	外面受部ヨコナデ後ミガキ。脚部ヨコナデ後ミガキ。ヘラ状工具による記号。 内面受部ミガキ。脚部ケズリ。	密(1～3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		山本ひ121
古墳時代 包含層	Po858	1767	3 OSW	土師器	小型器台	9.4	8.2		※11.9	外面受部ヨコナデ後一部横方向ミガキ。脚部ヨコナデ後ミガキ。 内面ヨコナデ。脚部ハケ目。	密	良好	褐色	褐色	脚部内面ヘラ記号。	中原95
古墳時代 包含層	Po859	1249	2 O	土師器	底部		△3.2		3.1	外面ナデ。 内面粗いハケ目。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面黒斑有り。	福田の89
古墳時代 包含層	Po860	1996	2 ONE	土師器	ミニチュア土器	※6.0	4.5			内外面手捏成形。	密	良好	灰白色	灰白色	外面黒斑有り。	中原105
S X 9 7	Po861	1622	周溝	土師器	直口壺	9.8	16.3	15.5		外面口縁部～肩部ヨコナデ。中位以下斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位左方向ケズリ。 底部指頭圧痕。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		松本84
S X 9 7	Po862	1621	周溝	須恵器	杯身	10.8	4.9			外面立ち上がり部回転ナデ。底部約1/2回転ヘラケズリ。 内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		オカノ31
S X 9 8	Po863	2316	周溝底面	須恵器	杯蓋	11.8	5.0			外面天井部約1/2回転ヘラケズリ。以下回転ナデ。 内面天井部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	灰色	灰色		松本80
S X 9 8	Po864	2317	周溝底面	須恵器	杯身	9.5	5.2			外面立ち上がり部回転ナデ。底部約1/2回転ヘラケズリ。 内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	灰色	灰色		松本79
S X 9 8	Po865	2315	周溝底面	須恵器	杯身	9.9	5.1			外面立ち上がり部回転ナデ。底部約2/3回転ヘラケズリ。 内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	灰色	灰色		松本82
S X 9 8	Po866	2318	周溝底面	須恵器	杯身	9.2	4.4			外面立ち上がり部回転ナデ。底部約2/3回転ヘラケズリ。 内面底部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密(4mm以下の砂粒を含む)	良好	灰色	灰色		松本81
S X 9 8	Po867	2313 2314 2319	周溝底面	土師器	甕	※12.7	26.0	※20.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下粗い斜方向ハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	にぶい黄褐色	黄褐色	外面スス付着。	松本78
S X 9 8	Po868	2243	周溝底面	土師器	高杯	14.1	10.0		※10.6	外面杯口縁部ヨコナデ。以下粗いナデ。脚部縦方向ミガキ。 内面杯口縁部ヨコナデ。底部ミガキ。筒部ケズリ。裾部ハケ目。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	内外面スス付着。	松本83
S X 9 8	Po869	2097 2215 2217	周溝埋砂中	土師器	高杯	※15.1	△5.2			内外面とも横方向のナデ後、縦方向の粗く雑なミガキ。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色		松本6
S X 1 0 0	Po870	1779	埋砂上層	土師器	甕	※18.2	△7.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ後平行沈線。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田や124
S X 1 0 0	Po871	2108	埋砂中	土師器	甕	※13.6	△7.1			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部おもに右斜め下方向のケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面胴部薄くスス付着。 内面胴部黒斑。	福田や126
S X 1 0 0	Po872	1874 2108 2312	底面	土師器	甕	※15.9	△7.3			外面ヨコナデ、肩部工具使用ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頭部以下ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい橙～褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	福田や125
S X 1 0 0	Po873	2311	埋砂下層	土師器	甕	※13.9	△8.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部粗いタテ・ヨコハケ後ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着。	福田や127
S X 1 0 0	Po874	2040	埋砂下層	土師器	高杯杯部	※23.1	△5.85			外面口縁部ヨコナデ後タテミガキ。杯底部ナデ後一部ミガキ、ハケ目がかすかに残る。 内面口縁部ナデ後タテミガキ、成型時の指頭圧痕・ハケ目が残る。底部ハケ目後ミガキ。	密(3mm以下の石英、砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒斑、スス痕あり。	福田や130
S X 1 0 0	Po875	1871	埋砂上層	土師器	高杯杯部	※20.1	△5.5			内外面ともおもに横方向の細かいミガキ。 外面一部化粧土剥離。	密	良好	橙～にぶい褐色	にぶい褐色		福田や131
S X 1 0 0	Po876	2035 2068	埋砂上層	土師器	高杯		△8.0		※10.6	外面杯底部風化のため調整不明瞭。筒部タテハケ目後一部ナデ。裾部ナデ。 内面杯底部ミガキ。筒部左右両方向のケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	筒部2方向円形透かし。内面筒部黒斑。	福田や132
S X 1 0 0	Po877	2068	埋砂中	土師器	直口壺	※11.3	△8.2			外面口縁部ヨコナデ後雑なタテミガキ。 内面口縁部ヨコナデ。頭部ナデ。	密(0.5mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色～にぶい褐色		福田や128
S X 1 0 0	Po878	1793	埋砂上層	土師器	鼓形器台	※20.5	△6.2			外面ヨコナデ。 内面受部端部横方向のミガキ。以下ミガキ後丁寧ナデ。	密(3mm以下の石英、砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		福田や129
S X 1 0 1	Po879	691	埋砂上層	土師器	甕	※14.4	△4.2			内外面ともに口縁部ヨコナデ。 内面肩部左方向のケズリ。	密(1mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい褐色	外面スス付着。	山本ひ108
S X 1 0 1	Po880	733	埋砂上層	土師器	甕	※13.5	△4.2			外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ。頭部屈曲部以下右方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄褐色	褐色	外面スス付着。	野崎130
S D 2 2	Po881	1546	埋砂下層	土師器	直口壺	9.0	13.4	14.1		外面口縁部～肩部ヨコナデ。胴部おもに横方向の粗いハケ目後一部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部・底部指頭圧痕、ナデ。胴部左方向ケズリ。指頭圧痕が残る。	密(0.5～1mm大の砂粒をまばらに含む)	良好	褐色	褐色	外面胴部以下スス付着。	山本ひ113
S D 2 2	Po882	1549	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△7.0	12.0		外面筒部斜めハケ目後ナデ、ヨコミガキ。裾部ナデ、ミガキがみられる。 内面筒部左方向ケズリ。裾部ハケ目後ナデ。	密(0.5～1mm大の砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色		山本ひ116
S D 2 2	Po883	1550	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△7.2	※11.0		外面筒部タテハケ後ナデ、ヨコミガキ。裾部丁寧ナデ。 内面筒部左方向ケズリ、中位シボリ目残る。裾部ハケ目後ナデ。	密(0.5mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄色	にぶい黄色		山本ひ115
S D 2 2	Po884	679 1547	埋砂下層	土師器	高杯脚部		△7.3	11.8		外面縦方向の粗いハケ目。脚端部ナデ。 内面筒部左方向ケズリ。裾部ナデ、指頭圧痕が明瞭に残る。	密(0.5～1mm大の砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色		山本ひ114
S B 5 8	Po885	1436	P35内	土師器	杯		△1.1	※10.3		外面口縁部ヨコナデ。底部ナデ調整。 内面ヨコナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スス付着。内外面とも赤色塗彩。	山本ひ112

挿表51 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(28)

整地遺構 1	Po886	969 1258 1327 1473	3 OSE 3 ONE	土師器	杯	※17.0	※4.9		※12.0	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目状の凸凹あり。外面底部周縁ヘラ切り後ナデ、以下ナデ。内面底部ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面とも赤色塗彩、塗り跡が残る。	山本く96
整地遺構 1	Po887	1718	3 OSW	土師器	杯	※13.6	△4.0		※8.0	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。スラスラ付着。	松本88
整地遺構 1	Po888	684 1576	3 ONW	土師器	杯	※11.1	△3.6		※7.0	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目状の凸凹あり。底部ヘラおこし後ナデ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	松本89
整地遺構 1	Po889	726	3 OSE	土師器	杯	※12.0	3.1		※7.6	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外口縁部、内面赤色塗彩。	山本く99
整地遺構 1	Po890	739	3 OSE	土師器	高台杯		△1.2		※8.6	高台部ヨコナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。	密	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	内面底部スラスラ付着。	松本91
整地遺構 1	Po891	739 969 1878	3 OSE	土師器	皿	※23.8	△1.7		※19.2	外面口縁部ヨコナデ。底部周縁ヘラ切り後ナデ。以下ナデ。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	浅黄褐色	内外面とも赤色塗彩。	野子61
整地遺構 1	Po892	739 1878	3 OSE	土師器	皿	※18.0	△2.0		※15.1	内外面とも口縁部ヨコナデ。外面口縁部下ヨコミガキ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面とも赤色塗彩。	山本く98
整地遺構 1	Po893	1137 1640	3 ONE	土師器	皿	※14.2	△2.1		※12.8	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。	密	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩風化気味。	松本90
整地遺構 1	Po894	969 1271 1725 1971	3 OSE	土師器	高台皿	※18.1	3.55		※9.8	外面口縁部ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデか。高台部ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	高台内赤色塗彩。一部スラスラ付着。	山本く100
整地遺構 1	Po895	1878	3 OSE	土師器	高台皿?		△6.0			内外面とも高台部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	明黄褐色 ~淡黄褐色	浅黄褐色	外面・内面赤色塗彩。外面スラスラ付着。	山本く97
整地遺構 1	Po896	739 969	3 OSE	土師器	高台皿?		△2.0		※6.35	内外面とも底部ナデ。高台部ヨコナデ。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	赤色塗彩痕有り。	野子60
整地遺構 1	Po897	1639	3 ONW	土師器	墨書土器杯底部		△1.3		※7.9	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ、墨書「口」。内面ナデ。	密	良好	浅黄褐色 ~淡黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	米山127
整地遺構 1	Po898	1971	3 OSW	土師器	墨書土器底部					底部内外面ともナデ。外面墨書「長」。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	米山128
整地遺構 1	Po899	969	3 OSE	土師器	墨書土器杯		△1.6			内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。外面口縁部墨書、はらいが。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	野子62
整地遺構 1	Po900	1252 1326	3 OSW	土師器	甕	※26.3	△6.7			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左方向ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	外面スラスラ付着。	野崎155
整地遺構 1	Po901	2055	3 OSE	土師器	甕	※28.0	△4.9			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左方向ケズリ。	密(砂粒を多く含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スラスラ付着。	野崎156
整地遺構 1	Po902	1639	3 ONW	土師器	甕	※24.0	△3.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(砂粒を多く含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	野崎158	
整地遺構 1	Po903	687	3 OSE	土師器	甕	※23.4	△5.3			外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下ヨコハケ。	密(砂粒を多く含む)	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スラスラ付着。	野崎157
整地遺構 1	Po904	1881	3 ONW	須恵器	杯		△2.5		※11.3	外面口縁部回転ナデ。底部回転糸切り。内面口縁部回転ナデ。底部ナデ。	密	やや良好	浅黄褐色	浅黄褐色	野崎160	
整地遺構 1	Po905	717 1971	3 OSE	須恵器	高台杯		△3.0		※11.1	外面口縁部回転ナデ。底部ヘラ切り。内面口縁部回転ナデ。底部不整方向ナデ。	密	良好	灰色	灰色	野崎161	
整地遺構 1	Po906	1613 1614 1615	3 ONW	須恵器	高台杯		△2.4		※9.4	外面口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り。内面底部不整方向ナデ。	密	良好	灰色	灰色	野崎162	
整地遺構 1	Po907	969	3 OSE	土師器	製塩土器	※9.4	△4.2			外面二次的に火を受け風化。内面ナデ。	密	良好	褐色	褐色	鹿蔵山式か。	山本く102
整地遺構 1	Po908	1892	3 OSE	土師器	土鍾	最大長5.1	最大径2.9	重さ49g		手裡ね成形。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	野崎164	
整地遺構 1	Po909	1971	3 O	土師器	甕	※12.5	△1.7			内外面ともヨコナデ。外面2条の平行沈線。	密	良好	褐色	褐色	野崎173	
整地遺構 1	Po910	2104	3 ONW	土師器	高杯杯部	※17.8	△6.8			外面縦方向のミガキ。内面口縁部横、杯底部縦方向のミガキ。	密(0.5mmの砂粒を含む)	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	外面スラスラ付着。	山本く118
整地遺構 2	Po911	2051	3 OSE	土師器	甕	※42.6	△7.3			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部以下左方向ケズリ。	密	良好	明褐色	明褐色	内外面スラスラ付着。	山本く95
整地遺構 2	Po912	1728	3 OSE	土師器	墨書土器杯底部		△0.6			底部外面周縁ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。墨書外面「長」か、内面不明。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	米山131
整地遺構 3	Po913	2222	直上	土師器	杯	※15.6	△4.4		※11.2	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部内面ナデ。外面風化のため調整不明瞭、ナデか。	密	良好	明黄褐色	明黄褐色	内外面赤色塗彩。外面底部スラスラ付着。	松本87
整地遺構 3	Po914	93 144 210 263 374 680 1161 1986	2 O	須恵器	壺		△24.5	※25.9		外面平行叩き。底部後カキ目。内面向心内文叩き。	密	良好	灰色	灰色	外面肩部自然釉かかる。	野崎169
整地遺構 3	Po915	1988 1994	直上	須恵器	平瓶		△11.4			外面口縁部回転ナデ。体部カキ目。肩部形骸化した浮文。内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		山本く93
整地遺構 3	Po916	1998	直上	土師器	ミニチュア土器		△3.0	※4.6		手裡ね成形。	密	良好	黄褐色	黄褐色		山本く94
ビット群 1 P 5 4	Po917	1444	埋砂中	土師器	墨書土器底部					内外面ともナデ。外面墨書「月」か。	密	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面赤色塗彩。	野子63
ビット群 1 P 8 3	Po918	2966	埋砂中	土師器	高杯杯部	※11.3	△4.8			外面杯部縦方向ミガキ。筒部ハケ目。内面口縁部横、杯底部縦方向のミガキ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	山本く111	
古代包含層	Po919	1269	3 O	土師器	甕	※32.2	△9.5			外面ナデ。内面口縁部ナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	外面スラスラ付着。	野崎139
古代包含層	Po920	1136 1137	3 ONE	土師器	甕	※29.9	△6.4			外面ナデ。内面口縁部ナデ。肩部右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面スラスラ付着。	野崎141
古代包含層	Po921	1266	3 ONW	土師器	甕	※22.4	△4.7			外面ナデ。内面口縁部ナデ。肩部右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	黄褐色	黄褐色	内面スラスラ付着。	野崎142
古代包含層	Po922	439	2 ONW	土師器	甕	※11.4	△4.5			外面タテハケ。内面口縁部ヨコハケ。肩部右方向ケズリ。	密	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面スラスラ付着。	野子43
古代包含層	Po923	573	3 OSE	土師器	杯	※14.0	4.1		※10.2	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面赤色塗彩。	中原55
古代包含層	Po924	1136 1533	3 O	須恵器	杯	※12.3	4.0		※7.8	外面口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り未調整。内面回転ナデ。	密(砂粒を多く含む)	良好	灰色	灰色	野崎143	
古代包含層	Po925	1136 1137	3 ONW	土師器	杯	※12.0	△4.2		6.2	内外面ヨコナデ。外面底部回転ヘラ切り。	密	良好	褐色	褐色	内外面スラスラ付着。	中原117
古代包含層	Po926	176 736	2 OSE 3 PSE	土師器	杯	※12.3	3.6		※7.3	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	内外面赤色塗彩。	福田の110
古代包含層	Po927	1316	2 OSW	土師器	杯	※12.8	△3.1		※8.8	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面赤色塗彩。	中原111
古代包含層	Po928	1137 1254	3 ONE	土師器	杯	※12.8	△4.0		※7.6	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	褐色	褐色	内外面赤色塗彩。	福田の111
古代包含層	Po929	441	2 OSW	土師器	杯		△2.7		※7.8	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面赤色塗彩。	中原112

挿表52 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(29)

古代包含層	Po930	441 570	2 OSW	土師器	杯		△2.1		※9.6	外面口縁部ヨコナデ。底部ヘラ切り。内面ヨコナデ。	密	良好	ぶい 橙色	ぶい 褐色	内面赤 色塗彩。	中原 109
古代包含層	Po931	1714	3 ONW	土師器	杯	※12.6	3.4		※7.6	内外面とも口縁部ヨコナデ、ロクロ目状の凹凸あり。底部押圧技法か。底部外面ヘラ切り後雑なナデ、内面ナデ。	密	良好	浅黄 褐色	明黄褐 褐色	内面赤 色塗彩。外 面スエ、赤 彩か。	松本86
古代包含層	Po932	1240 1316	2 OSW	土師器	皿	※20.8	△1.7		※16.0	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密 (2mm以 下の砂粒を 含む)	良好	橙色	褐色	内外面赤 色塗彩。	松本93
古代包含層	Po933	441	2 OSW	土師器	皿	※16.8	△1.7			内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	内面赤 色塗彩。	中原 113
古代包含層	Po934	1244	2 ONW	土師器	皿	※12.6	△2.4			内外面ヨコナデ。	密	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	内外面赤 色塗彩。	中原 110
古代包含層	Po935	379	2 OSW	土師器	皿	※12.6	△2.1			外面二次的に火を受けている。内面ナデ。	密	良好	褐色	褐色		野崎 154
古代包含層	Po936	684 1136	3 ONW	土師器	高台杯		△3.0		※11.7	内外面ヨコナデ。	密 (1mm程 度の砂粒を 含む)	良好	褐色	褐色		福田の 109
古代包含層	Po937	130 675	3 ONE	土師器	高台杯		△2.2		※9.4	内外面とも底部ナデ。高台部ヨコナデ。	密 (砂粒を 含む)	良好	ぶい 黄褐色	暗灰黄 褐色	高台内底 部を除き 赤色塗彩。	山本く 101
古代包含層	Po938	1327	3 OSE	土師器	高台杯		△2.3		※8.8	内外面ヨコナデ。	密 (微砂粒 を含む)	良好	褐色	褐色	内外面赤 色塗彩。	松本92
古代包含層	Po939	573	3 OSE	土師器	高台杯		△2.0		※8.4	内外面ヨコナデ。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	外面赤 色塗彩。	中原 108
古代包含層	Po940	739 1471	3 OSE	土師器	墨書土器 杯		△1.8		※6.2	底部内外面ともナデ。外面墨書「加和」。	密	良好	淡黄 灰白色	淡黄 灰白色	内外面赤 色塗彩。	米山 130
古代包含層	Po941	1137	3 ONE	土師器	墨書土器 杯底部		△1.0		※15.6	口縁部内外面ともヨコナデ。底部外面周縁ヘラケズリ、ナデ。墨書不明。	密	良好	浅黄 褐色	ぶい 黄褐色	内面、外 面口縁部 赤色塗彩。	米山 133
古代包含層	Po942	1256	3 OSW	土師器	墨書土器 皿底部					底部内面ヨコナデ、ロクロ目状の凸凹あり。外面ヘラ切り後ナデか、墨書不明。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	内外面赤 色塗彩。	米山 132
古代包含層	Po943	1136 1530	3 OSW	土師器	高杯脚部		△8.3			外面縦方向ケズリ。内面ケズリ。	密	良好	褐色	褐色	外面赤 色塗彩。	野崎 170
古代包含層	Po944	1476	3 ONW	土師器	製塩土器	※8.8	△4.4			外面ナデ。内面指押さえ。	密	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	鹿蔵山式 か。	山本く 103
古代包含層	Po945	1466	2 ONW	土師器	製塩土器	※5.6	△2.3			内外面ナデ。	密 (1mm程 度の砂粒を 含む)	良好	褐色	褐色	六連鳥式 か。	福田の 92
古代包含層	Po946	427 1166	2 OSW	須恵器	甕		△8.0			外面平行叩き。内面向心凹文叩き。	密	良好	灰色	灰色	胴部外面 自然釉。	野崎 44
古代包含層	Po947	98 173 579 739 1136 1137 1471 1697	3 OSE	須恵器	蓋	※18.0	3.2			外面天井部ナデ。他回転ナデ。内面天井部不整方向ナデ。他回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎 153
古代包含層	Po948	1096	3 OSE	須恵器	高台杯	※13.2	5.5		※9.6	内外面回転ナデ。	密	良好	黒色	灰黄色	内面黒色 処理。	野崎 146
古代包含層	Po949	1690	4 PSE	須恵器	瓶頸部		△8.7			内外面回転ナデ。外面3条沈線。	密	良好	灰オ リーブ 色	灰色		山本ひ 74
古代包含層	Po950	170 435 438 1072 1317	3 O	須恵器	壺		△12.5		※8.0	外面回転ナデ。中位・底部沈線が巡る。内面回転ナデ。	密	良好	灰黄色	青灰色		野崎 149
古代包含層	Po951	1462	2 OSE	須恵器	長頸壺	※5.6	△5.9			内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		中原 106
古代包含層	Po952	1612	3 OSW	土師器	高杯杯部	※15.0	△5.5			外面横方向ミガキ。内面横後縦方向ミガキ。	密 (1~2 mmの砂粒を 含む)	良好	褐色	褐色	外面ス ス付着。	山本ひ 123
古代包含層	Po953	1609	3 OSW	土師器	小型丸底 壺	※8.4	△9.0	9.7		外面口縁部ヨコナデ。胴部工具によるナデ。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密 (1mm程 度の砂粒を 含む)	良好	浅黄色	浅黄色		中原 101
古代包含層	Po954	625	2 ONE	土師器	小型丸底 壺	8.5	8.8	10.3		外面口縁部ヨコナデ。胴部粗い斜〜タテハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密 (1~2 mmの砂粒を 含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色	胴部外面 黒斑有り。	福田の 91
古代包含層	Po955	1612	3 OSW	土師器	小型丸底 壺		△6.2	9.0		外面肩部ケテ後ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面左方向ケズリ。	密	良好	褐色	褐色		中原 102
古代包含層	Po956	1582	3 OSW	土師器	小型器台 受部	9.4	△2.5			外面口縁部ミガキ。脚接統部ハケ目。内面横方向ミガキ。	密	良好	褐色	褐色		中原94
古代包含層	Po957	576	2 ONE	土師器	碗	※14.0	△3.8			外面ナデ。内面粗いハケ目。	密	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色		中原 104
古代包含層	Po958	1579	3 OSW	土師器	手握ね土 器		△6.2			内外面手握ね成形。	密 (1~2 mmの砂粒を 含む)	良好	ぶい 黄褐色	ぶい 黄褐色		福田の 86
古代包含層	Po959	1610	3 OSW	土師器	ミニチュ ア土器	2.8	4.1	4.8		内外面手握ね成形。	密	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色		中原 100
古代包含層	Po960	552	3 ONW	埴輪	円筒埴輪			※38.2		外面ナデ。内面ケズリ。	密	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色		牧本29
9号畠	Po961	10 71	畝間9	須恵器	片口鉢	※24.8	△5.4			内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎 168
9号畠	Po962	24		土師器	手握ね土 器	※9.2	4.3		※7.8	手握ね成形。	密 (1~2 mmの砂粒を 含む)	良好	灰黄褐 褐色	灰黄褐 褐色	外面黒斑 有り。	福田の 107
S D 1 3	Po963	418 419	埋砂中	土師器	甕	※13.2	△7.5	※16.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密 (砂粒を わずかに含 む)	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色		野崎 129
S D 1 5	Po964	450	埋砂上層	土師器	小皿	※9.2	1.3		※6.4	外面口縁部回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	褐色	褐色		野崎 167
S D 1 5	Po965	424	埋砂上層	土師器	甕	※21.8	△7.5			外面ナデ。内面口縁部ナデ。頸部以下ケズリ。	密 (1~3 mmの砂粒を 含む)	良好	黄褐色	黄褐色		野崎 136
S D 1 5	Po966	423 795	埋砂上層	土師器	壺	※19.8	△7.7			内外面ヨコナデ。	密 (砂粒を わずかに含 む)	良好	ぶい 褐色	ぶい 褐色	外面ス ス付着。	野崎 135
S D 1 5	Po967	423 424 776 777	埋砂上層	土師器	甕	※12.1	△16.8	※16.9		外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ後貝殻腹縁による刺突文。中位タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。頸部屈曲部〜中位右方向ケズリ。	密 (砂粒を わずかに含 む)	良好	褐色	褐色	外面ス ス付着。	野崎 137
S D 1 5	Po968	791	埋砂上層	土師器	低脚杯	※13.9	4.8	4.5		外面杯部縦方向ミガキ。脚部ナデ。内面杯部縦方向ミガキ。脚部ナデ。	密	良好	褐色	褐色	外面ス ス付着。	野崎 138
S D 2 1	Po969	1281	埋砂中	土師器	杯		△2.1		※10.6	外面口縁部ヨコナデ。底部ナデ調整。内面口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	密	良好	褐色	褐色	内外面 ともにス ス付着。内 面赤色塗 彩。	山本ひ 110
S D 2 1	Po970	732	埋砂中	土師器	甕	※14.4	△5.8			外面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、ハケ目がかすかに残る。内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向のケズリ。	密 (0.5~ 1mm大の砂 粒を含む)	良好	浅黄色	浅黄色	外面口縁 部スス付 着。	山本ひ 109
S D 2 3	Po971	1856	埋砂中	須恵器	高杯杯部	※18.1	△5.2			内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎 133

挿表53 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(30)

SD 23	Po972	1761	埋砂中	土師器	甕	※21.7	△20.0	※29.2		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。中位以下タテ後ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。肩部～中位右方向ケズリ。以下上方向ケズリ。	密	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		野崎132
3OSK 2	Po973	476 SD21-677	埋砂中	土師器	甕	※21.0	△5.5			内外面ともに口縁部ヨコナデ。内面粘土つなぎ痕あり。	密(微砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や133
3OSK 2	Po974	491	埋砂中	土師器	甕	※11.9	△8.4	※13.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部縦ハケ目後ナデ、6条の平行沈線。胴部細かいヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。胴部両方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面口縁部～頸部スス付着。	福田や135
3OSK 2	Po975	489	埋砂中	土師器	甕	※15.4	△11.5			外面口縁部ヨコナデ。肩部横方向の細かいハケ目後ナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ナデ、右ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着。	福田や136
3OSK 2	Po976	469	埋砂中	土師器	甕	※14.0	△11.1	※18.5		外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、ハケ目がかすかにみられる。内面口縁部ヨコナデ。胴部左方向ケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面全体・内面口縁部スス付着。	福田や134
3OSK 2	Po977	494	埋砂中	土師器	高杯杯部	※17.0	△5.7			外面縦方向ミガキ。内面横方向ミガキ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や138
3OSK 2	Po978	495	埋砂中	土師器	高杯杯部	※16.1	△5.8			外面ナデ後縦方向ミガキ。内面口縁部ミガキか、ヨコナデがみられる。杯底部風化・剥離のため調整不明。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や137
3OSK 2	Po979	501	埋砂中	土師器	小型丸底壺	10.8	10.0	10.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテハケ。以下斜方向ハケ目。内面口縁部ヨコナデ。胴部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や140
3OSK 2	Po980	481	埋砂中	土師器	小型丸底壺	8.5	7.5	7.4		外面口縁部～肩部縦方向ミガキ。中位以下横方向ミガキ。内面口縁部ハケ目。肩部左方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面黒斑有り。	福田や139
3OSK 6	Po981	1331 3O-110	埋砂中	白磁	椀	※16.0	△2.8			内面体部上位に1条の沈線。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄く貫入みられる。Ⅶ類。	米山122
3OSK 6	Po982	1332	埋砂中	白磁	椀		△1.7	※7.8		削り出し高台。高台部幅広、削り出し浅い。	粗(黒い細粒を若干含む)	良好	灰白色	灰白～黄灰色	外面露部。内面施釉。灰色強いⅣ-1・a類。	米山120
中世包含層	Po983	218	3OSE	土師器	小皿	※8.1	1.5	5.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の93
中世包含層	Po984	169	2ONE	土師器	小皿	※7.9	1.7	※5.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の100
中世包含層	Po985	1326	3OSW	土師器	小皿	※8.8	1.9	※5.1		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の101
中世包含層	Po986	348	3PSE	土師器	小皿	※9.2	1.7	※7.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。沈線巡る。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の102
中世包含層	Po987	9	調査区南西側	土師器	小皿	※9.6	1.65	※6.2		口縁部二段ナデ。底部回転糸切り。	密(砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田や1
中世包含層	Po988	15	2O	土師器	小皿	※8.2	1.6	※5.7		内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。	密(1～3mmの石英・長石を少量含む)	良好	淡黄灰色	淡黄灰色		山本ひ2
中世包含層	Po989	16 17	3O	土師器	小皿	※7.2	1.5	※5.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄灰色	淡黄灰色		福田の94
中世包含層	Po990	1327	3OSE	土師器	小皿	※7.9	1.9	※5.3		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の99
中世包含層	Po991	1137	3O	土師器	小皿	※8.3	1.7	※5.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の103
中世包含層	Po992	130	4ONE	土師器	小皿	※7.3	1.5	※5.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の98
中世包含層	Po993	349	3PSE	土師器	杯		△2.4	※7.5		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の97
中世包含層	Po994	1536	3ONW	土師器	杯		△2.0	※7.4		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の95
中世包含層	Po995	1255	3OSW	土師器	杯		△1.8	※6.7		内外面回転ナデ。外面底部回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の96
中世包含層	Po996	1	4O	土師器	柱状高台皿?		△2.5	※7.0		内外面風化著しい。底部外面回転糸切り。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	淡黄灰色	淡黄灰色		福田の104
中世包含層	Po997	426	2ONE	土師器	柱状高台杯?		△3.2	※8.7		内外面風化著しい。回転ナデか。	密(1～2mmの砂粒を含む)	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		福田の105
中世包含層	Po998	129	3PSW	土師器	甕?					外面ヨコナデ。内面ハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	灰色	にぶい黄橙色		福田の90
中世包含層	Po999	107 554	3OSE	白磁	椀	※14.0	△4.8				やや粗	良好	灰白色	灰白色～明黄褐色	釉やや厚く黄色が貫入みられる。Ⅶ類。	米山125
中世包含層	Po1000	401	3OSE	白磁	椀	※16.6	△3.5				やや粗	良好	乳白色	乳白色	釉薄い。Ⅶ類か。	米山126
中世包含層	Po1001	17	3O	白磁	椀	※13.0	△2.5			外面ハラケズリ。内面体部上位1条の沈線、櫛目文。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄く灰色強い。Ⅵ-1・b類。	米山121
中世包含層	Po1002	1719	3OSW	白磁	椀	※18.0	△1.8			外面ハラケズリ。内面体部上位1条の沈線。	密(黒い細粒を若干含む)	良好	灰白色	灰白色	釉薄く灰色強いⅦ類。	米山121
中世包含層	Po1003	406	2ONW	白磁	椀	※14.0	△2.5				密	良好	灰白色	灰白色	釉やや厚く灰色強い。Ⅶ類。	米山123
中世包含層	Po1004	255	2ONW	白磁	皿	※17.0	△2.2			内面見込み近くに1条の沈線がまわると思われる。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄い。Ⅶ類に近い。	米山119
中世包含層	Po1005	137	2ONW	白磁	皿	※15.0	△2.0			内面見込み近くに1条の沈線。	密	良好	灰白色	灰白色	釉薄い。Ⅶ類に近い。	米山118

挿表54 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(31)

中世包含層	Po1006	16 120 215	3 PSW 3 O	白磁	皿	※10.7	※2.9	※3.2	内面体部中位に段をもつ。 底部やや上げ底状。	やや粗	良好	灰白色	灰白色	釉薄く黄色味強い。外面体部下半露胎。VI類。	米山124	
中世包含層	Po1007	1642	3 OSE	白磁	皿		△1.6	※3.2	内外面回転ナデ。底部ケズリ。 内面全面、外面口縁部に釉薬。	密	良好	明オリ ープ灰色	明オリ ープ灰色	白磁皿VI類。	野崎163	
中世包含層	Po1008	77	2 O	白磁	皿	※10.0	△1.9		内面見込み近くに一条の沈線。 口縁端部丸くする。	密(黒い細粒を若干含む)	良好	灰白色	灰白色	釉薄く、底部付近露胎。IV類。	米山117	
中世包含層	Po1009	171	2 PSW	土師器	皿	※15.1	△2.4	※11.7	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 橙色	内面赤色塗彩。外面「長」墨書。	野崎174	
中世包含層	Po1010	171	2 PSW	土師器	墨書土器 皿	※14.0	1.9	※10.7	内面ヨコナデ、底部口縁部目状の凸凹あり。外面口縁部ヨコナデ。底部ナデ、墨書「長」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	米山129	
中世包含層	Po1011	10	調査区北 西側4P	土師器	墨書土器 底部				外面周縁ヘラケズリ、ナデ。墨書「長」。	密	良好	にぶい 黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	福田や2	
中世包含層	Po1012	444	3 OSE	土師器	墨書土器 底部				内外面ともナデ。 外面墨書「長」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	野崎64	
中世包含層	Po1013	684	3 ONW	土師器	墨書土器 杯		△2.6	※7.8	内外面とも口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 外面口縁部墨書「井」。	密	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面赤色塗彩。	野崎65	
中世包含層	Po1014	1255	3 OSW	土師器	皿	※13.8	△2.0		内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原114	
中世包含層	Po1015	383	2 OSE	土師器	皿	※13.4	△2.3		内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原115	
中世包含層	Po1016	171	2 PSW	土師器	皿	※12.0	△2.1		内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	橙色	橙色	内外面赤色塗彩。	中原116	
中世包含層	Po1017	129	3 PSW	土師器	杯		△1.8	※7.4	内外面ヨコナデ。外面底部ヘラ切り後ナデ。	密(1~2mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	底部外面スス付着。	福田の112	
中世包含層	Po1018	91	3 O	土製品	土鉢	最大長 4.4	最大径 1.6	重さ 8.8g	手捏ね成形後ナデ。	密	良好		にぶい 橙色	黒斑有り。	いわさき10	
中世包含層	Po1019	1275	3 ONW		土鉢	最大長 4.2	最大径 1.15	重さ 5.5g	手捏ね成形。	密	良好		黄橙色		中原97	
中世包含層	Po1020	1137	3 ONE	土師器	甕	※31.9	△8.2		外面ナデ。 内面口縁部ナデ。肩部右方向ケズリ。	密(砂粒を含む)	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	外面スス付着。	野崎140	
中世包含層	Po1021	132 334	4 PSE	須恵器	甕	※21.4	△7.5		外面口縁部ナデ。肩部平行叩き。 内面口縁部ナデ。肩部同心円文叩き。	密	良好	青灰色	灰黄色	外面自然釉かかる。 口縁部内外面黒斑有り。	野崎166	
中世包含層	Po1022	426	2 ONE	須恵器	蓋	※17.6	△3.2		内外面回転ナデ。	密	良好	灰黄色	灰黄色		野崎147	
中世包含層	Po1023	426	2 ONE	須恵器	蓋		△1.4		外面天井部回転ナデ。 内面不整形ナデ。	密	良好	灰色	灰色		野崎148	
中世包含層	Po1024	10 79 168 169	2 ONW	須恵器	杯		△1.5	※8.1	外面口縁部回転ナデ。底部板目。 内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎145	
中世包含層	Po1025	162 167	2 ONE	須恵器	杯	※13.3	△3.5		内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎150	
中世包含層	Po1026	12	3 OSW	須恵器	杯	※12.7	△3.2		内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎151	
中世包含層	Po1027	380	2 ONE	須恵器	杯	※12.0	△2.4		内外面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎152	
中世包含層	Po1028	128 173 212	3 OSE	須恵器	高台杯		△3.2	※9.7	外面口縁部回転ナデ。底部静止糸切り。 内面回転ナデ。	密	良好	青灰色	青灰色		野崎144	
中世包含層	Po1029	100 704	4 PSE	須恵器	壺	※21.5	△3.2		内外面回転ナデ。	密	良好	灰色	青灰色		野崎165	
中世包含層	Po1030	171 308 361	2 PSW	土師器	甕	※13.1	△11.8		外面口縁部ヨコナデ。肩部以下粗いハケ目。 内面口縁部ヨコナデ。肩部以下右方向ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田の84	
中世包含層	Po1031	294	2 ONE	土師器	甕	※13.6	△19.0	※15.8	外面口縁部ヨコナデ。肩部ヨコハケ。以下タテハケ。 内面口縁部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	山本ひ120	
中世包含層	Po1032	272 273 296	4 ONE	土師器	甕	28.1	26.4	※29.5	※16.7	外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、ハケ目がかすかにみられる。底部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部下から上へのケズリ。 底部ナデ、指頭圧痕。	密(砂粒を多く含む)	良好	にぶい 橙色	にぶい 淡黄色	内面肩部剥離。内面口縁部一部胴部に赤色塗彩か?	野崎134
中世包含層	Po1033	277	4 ONE	土師器	甕	※30.5	△15.5		外面口縁部ヨコナデ。肩部斜〜タテハケ。 内面口縁部ヨコハケ。肩部左方向ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む)	良好	明黄褐色	明黄褐色	外面、口縁部内面スス付着。	福田の85	
中世包含層	Po1034	465	3 OSW	土師器	甕?	※10.9	△2.4		内外面ヨコナデ。	密	良好	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	外面スス付着。	野崎172	
中世包含層	Po1035	462	2 ONW	土師器	底部		△1.2	3.0	外面叩き。 内面ケズリ。	密	良好	にぶい 橙色	にぶい 黄褐色		中原103	
中世包含層	Po1036	1133	3 O	土師器	小型甕	※9.6	△3.5		外面ナデ。 内面ミガキ。	密	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色	内外面スス付着。	野崎171	
中世包含層	Po1037	1260	3 OSW	土師器	ミニチュア土器	※4.2	△2.9		手捏ね成形。	密	良好	にぶい 褐色	にぶい 褐色		野崎177	
中世包含層	Po1038	142	2 OSW	弥生土器	高杯脚部		△6.2	10.6	外面筒部ナデ。裾部3条凹線。 内面ケズリ。	密	良好	黄褐色	黄褐色		中原99	
中世包含層	Po1039	11	4 O	須恵器	杯蓋	※12.8	△4.3		外面天井部回転ケズリ。以下回転ナデか。 内面回転ナデ。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	灰白色	灰白色		福田の106	
中世包含層	Po1040	1	4 O	埴輪	円筒埴輪				内外面風化のため調整不明。	密(1~4mmの砂粒を含む)	良好	褐色	褐色		福田の108	

挿表55 長瀬高浜遺跡出土土器観察表(32)

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
S I 2 4 6	F 1	1557	床面	不明鉄製品	10.4	0.80	0.30	8.8	断面長方形。木質付着。両端を欠損。		オカノ27
S I 2 4 6	F 2	1429	埋砂下層	鐮形鉄製品 (刀子形)	6.0	1.30	0.30	7.7	刃部先端部欠損。断面三角形。カマス切先。片閃。基部断面長方形。		オカノ26
S I 2 4 9	F 3	2655	埋砂上層	鉄 鎌	10.2	3.00	0.20	29.8	直刃鎌。刃部先端部直線。断面三角形。使い込まれてやや湾曲。柄装着部欠損。		牧本15
S I 2 4 9	F 4	2622	埋砂上層	鉄 鎌	3.4	2.00	0.24	4	柳葉鎌か。刃部下欠損。断面平造。		牧本16
S I 2 4 9	F 5	2433	埋砂上層	鐮形鉄製品 (剣先形)	5.8	刃部1.79 頸部1.2	0.28	9.5	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。片閃。基部断面長方形。		牧本18
S I 2 4 9	F 6	2687	埋砂上層	不明鉄製品	5.0	1.17	0.45	5.5	先端部欠損。中央部分錆膨れか。		牧本24
S I 2 4 9	F 7	2902	埋砂下層	不明鉄製品	4.7	1.64	0.80	22.4	端部欠損。断面方形のもの2個体付着。		牧本25
S I 2 4 9	B 1	2244	埋砂上層	重圈文鏡	径4.3		0.60	14.0	小型仿製鏡。平縁の内側に3条重圈巡る。紐方形孔。鏡面錆掛けの痕跡有り。		米山 6
S I 2 5 2	F 8	2454	埋砂上層	鐮形鉄製品 (剣先形)	6.7	1.60	0.23	6.4	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。斜閃。基部先端欠損。断面長方形。		オカノ23
S I 2 5 0	F 9	2177	埋砂下層	刀 子	7.1	刃部1.45 基部0.96	0.27	9.6	刃部先端部、基部先端部欠損。断面三角形。片閃。基部断面長方形。		牧本20
S I 2 5 0	F10	1664	埋砂上層	不明鉄製品	6.2	1.02	0.63	9.2	鑿状工具か。刃部先端欠損。断面長方形。		牧本21
S I 2 5 0	F11	2128	埋砂下層	鐮形鉄製品 (剣先形)	6.9	1.31	0.15	9.1	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。片閃。基部断面長方形。		牧本19
S I 2 5 0	F12	2161	埋砂下層	鐮形鉄製品 (剣先形)	3.8	刃部1.55	0.24	4.9	剣先形鉄製品。基部欠損。刃部断面長方形。	木質付着。	牧本26
S I 2 5 0	F13	2201	埋砂下層	不明鉄製品	7.9	0.80	0.35	8.6	先端部欠損。断面長方形。		牧本17
S I 2 5 3	F14	3056	埋砂下層	鐮形鉄製品 (剣先形)	5.2	1.00	0.30	3.1	剣先形鉄製品。刃部断面長方形。斜閃。基部断面長方形。		オカノ13
S I 2 5 3	F15	3152	埋砂上層	不明鉄製品	3.1	0.49	0.32	0.7	端部尖る。先端部欠損。断面長方形。		オカノ17
S I 2 5 4	F16	3511	埋砂下層	刀 子	5.4	1.30	0.30	5.9	切先、茎尻欠損。刃部断面三角形。片閃。基部断面長方形。		オカノ16
S I 2 5 4	F17	3528	埋砂下層	釣針軸部	3.2	0.4	0.4	0.6	釣り針軸部片。カエシ部尖る。断面円形。	カエシ部糸付着。	オカノ20
S I 2 5 5	F18	3045	埋砂中	鉄 鎌	4.9	1.50	0.58	7.5	圭頭鎌A I類。刃部断面両鑄造。頸部断面長方形。斜閃。基部断面方形。 ⁽¹⁾		オカノ21
S I 2 5 6	F19	3492	床 面	鉄 鎌	14.3	4.10	0.45	127	大型の直刃鎌。刃部長方形。断面長方形。先端部直線。柄装着部折り返し。柄は鈍角に付くと考えられる。	表裏網代状の付着物有り。	オカノ25
S I 2 6 0	F20	3128	埋砂上層	鉄 鎌	5.0	1.54	刃部0.22 基部0.45	7	柳葉鎌 I 形式。刃部断面両丸造。無閃。基部断面長方形。 ⁽¹⁾		いわさき17
土器溜 1	F21	1984		鉄 鎌	5.6	1.98	刃部0.2 基部0.4	7.1	柳葉鎌 I 形式。刃部断面平造。無閃。基部断面長方形。 ⁽¹⁾		いわさき19
土器溜 1	F22	1904		不明鉄製品	6.0	7.40	0.81	132	やや湾曲し、撥形に開く。		いわさき24
土器溜 2	F23	2723		鉄 鎌	13.2	2.78	0.30	60.5	直刃鎌。刃部先端部直線。断面三角形。柄装着部折り返し。柄は直角に付く。		いわさき27
土器溜 2	F24	2722		鉄 鎌	11.1	2.46	刃部0.3 基部0.63	29.2	柳葉鎌 I 形式。刃部断面両丸造。無閃。基部断面長方形。 ⁽¹⁾		いわさき16
土器溜 2	F25	2757		鐮形鉄製品 (鎌先形)	2.6	3.93	0.24	10.6	鉄製鎌先の鐮形品。刃部やや撥形に開く。装着部は折り返し。	木質付着。	いわさき25
古墳時代包 含層	F26	2466	1 O	鉄 鎌	10.3	2.30	0.30	26.4	直刃鎌。刃部先端部直線。断面三角形。柄装着部欠損。		オカノ28
古墳時代包 含層	F27	2305	2 ONW区	釣針軸部	5.0	0.50	0.50	2.6	釣り針軸部片。カエシ部尖る。断面方形。	カエシ部糸付着。	オカノ18
S X 9 7	F28	1623	周溝内	刀 子	12.5	1.70	0.40	15	刃部湾曲。先端部欠損。片閃。基部断面長方形。基部木質付着。		オカノ15
S X 9 9	F29	2359	周溝内	鉄 鎌	4.4	1.10	0.60	7.9	刃部欠損。圭頭鎌か。頸部断面長方形。両閃。基部断面円形。		オカノ12
S X 1 0 0	F30	2034	埋砂中	鉄 釘	6.5	0.37	0.36	1.9	頸部欠損。断面方形。		牧本22
S X 1 0 0	B 2	1792	埋砂中	不明銅製品	1.5	1.10	0.29	1.7	楕円形状を呈す。やや湾曲。		牧本27
整地遺構 1	F31	1270		小 刀	13.9	1.22	0.36	13	刃部先細る。カマス切先。断面三角形。両閃。基部断面長方形。		いわさき20
整地遺構 1	F32	853		鉄 鎌	4.3	2.80	0.22	10.8	直刃鎌。刃部先端部欠損。刃部使い込めで湾曲。断面三角形。柄装着部折り返し。柄は直角に付く。		いわさき26
整地遺構 1	F33	1896		鉄 鎌	10.0	0.71	0.55	12.2	長頸鎌。鎌身部欠損。頸部断面方形。台形閃。基部断面方形。		いわさき18
整地遺構 1	F34	2000		鉄 釘	2.6	0.60	0.38	1	鉄釘先端部片。断面長方形。		いわさき22
整地遺構 1	F35	2001		不明鉄器	3.3	1.0	0.2	3.3	端部折れ曲がる。		いわさき32
整地遺構 2	F36	2107		鐮形鉄製品 (鎌形)	4.3	1.4	0.3	5.0	鉄鎌の鐮形品。先端部フクラ状。断面三角形。		いわさき31
S D 1 8	B 3	543	埋砂中	丸柄裏金具	2.2	2.55	0.11	1.9	半楕円形を呈す。一部欠損。中央長方形孔。端部3方に留孔があると思われる。	銅鈔帯A—Ⅲ ⁽²⁾	福田や 5
S D 1 8	B 4	409	埋砂中	丸柄裏金具	1.9	2.50	0.12	2.7	半楕円形を呈す。端部3方に留孔。	銅鈔帯A—Ⅳ ⁽²⁾	野崎 3
古代包舎層	F37	1611	3 OSW区	鉄 鎌	16.8	3.64	0.48	125	直刃鎌。刃部先端部丸。断面三角形。使い込まれて湾曲。柄装着部折り返し。柄は鈍角に付く。		いわさき28

挿表56 長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表(1)

古代包含層	F38	729	4 ONE区	鉈	5.70	刃部1.1 茎部0.7	刃部0.5 茎部0.55		刃部平・断面三角形。やや反る。先端部欠損。茎部断面方形。		牧本28
古代包含層	F39	554	3 ONW区	鈎針	5.0	最大径 0.45		5.2	針先部欠損。軸部断面円形。カエシ部尖る。	カエシ部糸附着。	牧本11
古代包含層	F40	413	4 ONE区	不明鉄製品	9.4	1.00	0.70	20.8	両端尖る。断面長方形。		オカノ30
9号冪	F41	57		鉄釘	5.9	0.70	0.58	9	頭部欠損。断面長方形。		いわさき21
3 OSK 7	F42	1338	埋砂中	鉄製鋏	13.9	刃部1.22	0.5	11.0	握り鋏。一方を欠損。刃部先端部欠損。握り部断面方形。		オカノ24
中世包含層	F43	221	3 OSE区	鉄製紡錘車	18.6	円盤径 4.8	軸径0.52	28.2	軸部断面円形。先端部欠損。糸巻き付け部糸の痕跡有り。円盤部湾曲している。		いわさき23
中世包含層	F44	95	4 O	鉄製紡錘車 円盤部	最大径 4.1		0.28	48.6	鉄製紡錘車円盤部と思われる。中央盛り上がり、穴があくと考えられる。		牧本14
中世包含層	F45	301	3 OSW区	刀子	7.0	1.76	0.35	8.5	茎部欠損。刃部フクラ切先。断面三角形。		牧本13
中世包含層	F46	118	3 P	鉄釘	12.5	0.63	0.50	14.4	断面長方形。端部折れ曲がる。	木質附着。	牧本10
中世包含層	F47	68	2 O	鉄釘	6.2	0.75	0.5	8.6	断面方形。端部L頭。先端部折れ曲がる。		井上12
中世包含層	F48	155	3 ONW区	鉄釘	4.1	0.6	0.6	4.1	断面方形。端部L頭。先端部欠損。		オカノ19
中世包含層	F49	217	3 OSE区	鉄釘	6.0	0.51	0.49	4.7	断面方形。端部L頭。先端部欠損。		オカノ22
中世包含層	F50	177	3 PSE区	鉄釘	6.0	1.6	0.5	20.8	断面扁平。端部L頭。先端部欠損。		オカノ29
中世包含層	F51	550	3 OSE区	鉄釘	5.4	0.60	0.46	5.1	断面方形。頭部欠損。		牧本23
中世包含層	F52	547	3 OSE区	不明鉄製品	5.8	0.55	0.54	5.8	軸部断面方形。先端部尖る。円形留め部有り。茎部断面長方形。ロウソク立てか。		いわさき30
中世包含層	F53	70	3 O	不明鉄製品	6.2	0.76	0.46	7.2	軸部断面方形。先端部尖る。円形留め部有り。茎部断面長方形。先端部欠損。ロウソク立てか。		いわさき29
中世包含層	F54	304	3 OSE区	不明鉄製品	14.6	0.42	0.38	7.5	細長い釘状鉄製品。断面方形。両端尖る。		牧本12
中世包含層	F55	149	3 PSW区	鉄釘?	8.2	0.90	0.40	5.6	鉄釘か。端部扁平。		オカノ14

挿表57 長瀬高浜遺跡出土金属製品観察表(2)

註

- 鉄鍔の分類は、杉山分類に依った。
杉山秀宏「古墳時代の鉄鍔について」『橿原考古学研究所論集 8』1989
- 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告 IV』1975

遺構名	遺物 番号	取上 番号	出土位置	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
S I 2 4 7	S1	1301	埋砂上層	敲石	閃緑岩	9.7	6.8	5.5	520	楕円形を呈す。敲打面を6面もつ。	長石の大きな結晶を含む。	井上5
S I 2 4 9	S2	2939	埋砂上層	砥石	細粒花崗岩	5.4	5.8	3.9	200	両端部・表面を欠く。砥面は2面ある。		牧本2
S I 2 4 9	S3	2650	埋砂上層	磨石	安山岩	10.1	8.0	3.2	355	扁平で楕円形を呈す。全体を磨き、側面・平面に1カ所ずつ敲打面をもつ。一部剥離。	一部被熱黒変。側面赤色塗彩。	牧本3
S I 2 5 2	S4	2387	埋砂上層	砥石	流紋岩	8.4	6.7	2.5	215	おもな砥面は5面、うち2面にスジ状使用痕あり。本来断面六角形、全面砥面と思われる。剥離後使用痕あり。		牧本1
S I 2 5 0	S5	1844	埋砂中	敲石	安山岩	7.3	4.7	4.9	270	楕円形を呈す。敲打面を1面もつ。		牧本9
S I 2 5 3	S6	3075	埋砂中	石皿	閃緑岩	15.3	12.1	8.5	1120	片面を砥面として使用、スジ状使用痕あり。	石英の大きな結晶を含む。	オカノ32
S I 2 5 3	S7	3151	埋砂上層	敲石	安山岩	14.0	6.6	3.5	390	楕円形を呈す。敲打面は3面ある。全体に磨かれている。		オカノ2
S I 2 5 3	S8	3076	埋砂下層	敲石	安山岩	5.4	4.9	2.4	75	扁平な円形を呈す。両面中央に敲打面。		オカノ10
S I 2 5 4	S9	3023	埋砂中	砥石	流紋岩	4.9	5.0	3.6	110	断面不正方形を呈す。おもな砥面は4面、1面風化。		オカノ7
S I 2 5 5	S10	3474	床面	敲石	安山岩	9.2	5.8	4.0	320	楕円形を呈す。6面に敲打痕あり。全体に磨かれている。	石英の大きな結晶を含む。	オカノ4
S I 2 5 5	S11	3486	床面	石皿	流紋岩	16.3	14.8	6.6	2170	扁平な不整楕円形を呈す。表面中央部に敲打面がある。	裏面被熱変色、黒色付着物。	オカノ3
S I 2 5 7	S12	3682	埋砂下層	不明石製品	安山岩質凝灰岩	6.0	5.5	5.2	75	ほぼ球状を呈す。一部に研磨痕と考えられるスジ状使用痕あり。		オカノ9
S I 2 5 9	S13	2765	埋砂上層	石皿	安山岩	10.8	12.9	3.9	720	1面に敲打痕あり。両面とも磨かれている。		いわさき5
土器溜2	S14	2566		砥石	流紋岩	10.3	9.1	6.2	530	砥面は2面確認できる。他は欠損。1面には擦痕状の使用痕あり。		いわさき4
土器溜2	S15	2847		磨製柱状片刃石斧	砂岩?	5.3	3.8	3.1	80	柱状片刃石斧刃部。		いわさき11
土器溜2	S16	705		不明石製品	砂岩?	9.9	2.5	0.5	14	磨製石製品の一部。表面に擦痕あり、1mm程度の窪みを穿つ。側面に稜線あり。	側面・窪みに赤色塗彩が残る。	いわさき15
古墳時代包含層	S17	2395		敲石	安山岩	9.1	2.0	2.4	100	断面ほぼ円形の棒状を呈す。両端に敲打痕あり。全体によく磨かれる。	スス薄く付着。	井上2
古墳時代包含層	S18	2473	10	浮子?	軽石	3.8	2.5	2.4		断面ほぼ円形を呈す。中央溝が巡る。		野崎185
S X 9 9	S19	2863	溝溝埋砂中	石剣	蛇紋岩	4.5	2.7	0.8	16.6	断面菱形を呈す。両端欠損。摩滅著しく、稜・刃部ともに不明瞭。		オカノ5
S B 6 0	S20	2969	P86内	砥石	流紋岩	8.9	4.9	5.8	240	砥面は2面ある。他は欠損。1面には擦痕状の使用痕あり。		オカノ6
整地遺構1	S21	1620	暗茶褐色砂2 ONW	磨石	石英安山岩	6.6	6.4	3.2	190	扁平でほぼ円形を呈す。全体が磨かれる。	風化気味。	井上1
整地遺構1	S22	1637	暗茶褐色粘質砂	砥石	花崗岩	△6.2	△4.0	△4.9	110	砥面は1面、他は欠損。		いわさき3
整地遺構1	S23	577	黒褐色粘質砂	砥石	流紋岩	△3.3	△2.6	1.6	20	砥面は3面ある。断面長方形を呈するものと思われる。		井上8
整地遺構2	S24	2052	暗茶褐色粘質砂下	石皿	安山岩	△10.0	△10.6	11.2	1940	石皿の一部、断面扁平な楕円形を呈すと思われる。全体によく磨かれる。敲打痕あり。	黒色付着物。欠損後被熱、スス付着。	いわさき6
整地遺構3	S25	1998	直上	砥石	安山岩質凝灰岩	△9.8	3.5	1.9	60	砥面は3面、1面はよく使い込まれている。2面にスジ状使用痕あり。		いわさき2
古代包含層	S26	591	暗茶褐色砂3 ONE	砥石	細粒花崗岩	△4.2	△5.2	△3.8	140	砥面は2面あるが、角がとれている。欠損後工具痕が2カ所みられる。		井上9
古代包含層	S27	654	2 OSW	砥石	花崗岩質アブライト	△12.3	5.9	5.5	600	おもな砥面は6面、うち1面はあまり使用していない。使用痕が多数みられる。		井上11
古代包含層	S28	1099	暗茶褐色砂3 ONE	敲石	石英安山岩	11.8	6.2	5.0	490	楕円形を呈す。おもな敲打痕は8カ所あり、よく使い込まれている。	スス付着か。	井上6
古代包含層	S29	1098	暗茶褐色砂3 PSE	敲石	石英安山岩	13.1	6.4	3.6	490	扁平な小判形を呈す。敲打面は6面あり、よく使い込まれている。全体に磨かれる。	風化気味。	井上3
中世包含層	S30	158	3 PSW	砥石	流紋岩	△8.9	4.5	4.1	280	方柱形を呈す。おもな砥面は4面あり、3面は良く使い込まれ内湾する。	細粒花崗岩か。	いわさき1
中世包含層	S31	427	2 OSW	砥石	アブライト	△4.4	2.8	1.9	30	方柱形の手持ち砥石。砥面は4面あり、よく使い込まれ内湾する。スジ状使用痕あり。		オカノ1
中世包含層	S32	653	2 ONW	砥石	流紋岩	△6.2	3.6	△3.3	85	断面五角形を呈するものと思われる。おもな砥面は4～5面あり、よく使われている。		牧本7

挿表58 長瀬高浜遺跡出土土製品観察表(1)

中世包含層	S33	179	3 ONW	砥石	流紋岩	△9.3	△6.9	△6.7	470	おもな砥面は4面ある。断面多角形を呈す。各砥面にはスジ状使用痕が多数みられる。		井上10
中世包含層	S34	596	3 ONW	敲石	安山岩	13.9	7.8	3.6	560	扁平でややいびつな楕円形を呈す。敲打面は5カ所、側面のはよく使われている。		牧本6
中世包含層	S35	344	3 PSE	敲石	石英安山岩	7.9	4.2	4.1	210	いびつな楕円形を呈す。敲打痕は6面にあり、よく使われている。		井上4
中世包含層	S36	342	3 ONE	敲石	安山岩	7.2	4.0	3.8	160	角のとれた三角柱状の長楕円形を呈す。両端に敲打面。全体に磨かれている。		オカノ8
中世包含層	S37	111	3 O	有溝石錘	角閃安山岩	12.4	7.6	7.0	440	いびつな砲弾形を呈す。下半に溝をきる。上半は紐ずれ痕がかすかにみられる。	長石の大きな結晶を含む。	牧本8
調査区一括	S38	101		砥石	安山岩質凝灰岩	12.0	3.6	△6.1	270	おもな砥面は1面、よく使い込まれスジ状使用痕が多数みられる。	スス薄く付着。大きな石英含む	井上7

挿表59 長瀬高浜遺跡出土石製品観察表(2)

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
S I 2 5 2	J1	1698	埋砂上層	ガラス小玉	ガラス	長径0.46	短径0.4	0.29	0.076	断面楕円形。	穴径0.16~0.23	牧本5
土器溜1	J2	1277		管玉	緑色凝灰岩	1.43	径0.33	穴径0.11~0.16	0.258	片側穿孔か。		いわさき8
古墳時代包含層	J3	3091	2 OSW区	管玉	緑色凝灰岩	1.130	径0.44	穴径0.09~0.2	0.319	片側穿孔。		いわさき7
整地遺構2	J4	2054		ガラス小玉	ガラス	長径0.44	短径0.39	0.35~0.39	0.084	断面不定形。	穴径0.35~0.39	いわさき14
S D 2 1	J5	585	3 ONW区	管玉	蠟石化した蛇紋岩	2.3	径0.6	穴径0.28~0.19	1.732	片側穿孔。		オカノ11
中世包含層	J6	553	2 OSE区	土製勾玉		4.8	1.9	穴径3.8~4.0	17.400	手捏ね成形後ミガキ。両側穿孔。	黒斑有り。	いわさき12
中世包含層	J7	366	2 ONW区	管玉	緑色凝灰岩	2.0	径0.56	穴径0.18~0.24	0.608	片側穿孔。		いわさき9
中世包含層	J8	402	2 OSW区	ガラス小玉	ガラス	長径0.53	短径0.46	0.29~0.37	0.095	断面不定形。	穴径0.18~0.23	いわさき13

挿表60 長瀬高浜遺跡出土玉製品観察表

遺構名	遺物番号	取上番号	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調内面	色調外面	備考	実測番号
ピット群1	Po1	73	P26	土師器	甕	16.3	29.3	26.6		外面口縁部ヨコナデ。肩部タテ後粗いヨコハケ。以下粗い斜〜ヨコハケ。内面口縁部〜頭部ヨコナデ。肩部右方向ケズリ。中位以下上方向ケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	外面スス付着。底部外面赤塗。	米山135
ピット群1	Po2	96	P10	土師器	移動式甕	※23.4	△7.7			外面天井部粗いハケ目。凹線巡る。内面粗いハケ目。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	黄橙色	天井部外面黒塗有り。	山本ひ132
遺構外	Po3	43		土師器	甕	※15.1	△6.0			内外面とも風化のため調整不明瞭。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色		福田や149
遺構外	Po4	53		土師器	甕	※15.8	△4.0			口縁部内外面ともヨコナデ。内面肩部右方向ケズリ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面一部スス付着。	福田や147
遺構外	Po5	49	B3	土師器	甕	※14.4	△4.6			口縁部内外面ともヨコナデ。内面肩部風化のため調整不明瞭、ケズリか。	密(砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田や148
遺構外	Po6	53		土師器	甕	※15.0	△5.2			内外面ともにヨコナデ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		山本ひ128
遺構外	Po7	5	A1	土師器	甕	※14.8	△3.8			内外面ともにヨコナデ。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色		山本ひ124
遺構外	Po8	22 50	B3 B4	土師器	甕	※19.6	△8.8			外面ナデ。ハケ目がかすかにみられる。内面口縁部横方向のハケ目後ナデ。胴部左方向のケズリ、指頭圧痕あり。	やや粗(1〜6mmの石英・砂粒多く含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面一部スス付着。	野崎179
遺構外	Po9	95		土師器	甕	※17.2	△9.0			外面口縁部ヨコナデ。肩部おもに縦方向のやや粗いハケ目。内面口縁部ヨコナデ。肩部両方向のケズリ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面全体・内面胴部スス付着。	野崎178
遺構外	Po10	38 42		土師器	甕	※16.8	△4.4			内外面ともにヨコナデ。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色		山本ひ131
遺構外	Po11	42	A1	土師器	甕	※17.2	△3.5			口縁部内外面ともヨコナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色	外面スス付着。	福田や146
遺構外	Po12	72		土師器	甕	※19.0	△5.5			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ケズリ。	密(2〜3mmの砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	外面スス付着。	山本ひ129
遺構外	Po13	80		土師器	甕	※17.9	△4.9			外面ヨコナデ。内面口縁部ヨコナデ。肩部ケズリ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色		山本ひ125
遺構外	Po14	40	A1	土師器	胴部		△10.0	※22.8		外面胴部横・斜め方向のハケ目。内面頭部ナデ。胴部左斜め上方向のケズリ。	密(3mm以下の石英・砂粒を含む)	良好	ぶい黄橙色	橙色		福田や152
遺構外	Po15	95		土師器	高杯杯部	※16.4	△4.0			内外面ともにヨコナデ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色		山本ひ127
遺構外	Po16	82 95		土師器	高杯杯部	※14.5	△5.3			内外面ともにヨコナデ。	密(1mm程度の砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色	内外面赤色塗彩。	山本ひ126
遺構外	Po17	77		土師器	高杯脚部		△7.9	10.2		外面ナデ。内面筒部シボリ目残る。裾部ナデ。	密	良好	橙色	橙色		米山134
遺構外	Po18	92		土師器	高杯脚部		△6.1	9.7		外面筒部縦方向ハケ目。裾部ナデ。内面筒部シボリ目後ナデ。裾部ナデ。	やや粗(砂粒を含む)	良好	浅黄橙色	浅黄橙色		野崎176
遺構外	Po19	21	B1	土師器	高杯		△3.9			外面杯部・脚部縦・横方向の粗いハケ目後一部ナデ。内面杯部ナデ。筒部ナデ。裾部ハケ目。	密(2mm以下の石英・砂粒を多く含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	外面・内面杯部赤色塗彩。	福田や150
遺構外	Po20	86		土師器	脚付腕腕部	※13.0	△5.0			外面風化のため調整不明瞭、ヨコナデか。内面ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田や153
遺構外	Po21	42	A1	土師器	腕	※12.3	△4.05	※12.8		内外面ともナデ。内面ハケ目がかすかにみられる。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	橙色	橙色		福田や151
遺構外	Po22	24	B1	土師器	脚付腕		△4.0			外面腕部ナデ。脚部ヨコナデ。内面ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	橙〜黄橙色	橙〜黄橙色		野崎182
遺構外	Po23	9	A2	土師器	脚付腕脚部		△4.3	※8.1		腕部風化のため調整不明。脚部内外面ともナデ。	やや密(2mm以下の砂粒を多く含む)	良好	浅黄〜ぶい橙色	浅黄〜ぶい橙色		福田や142
遺構外	Po24	16	B3 B4	土師器	脚付腕脚部		△3.2	※7.3		内外面ともナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	橙〜黄橙色	橙〜黄橙色		福田や143
遺構外	Po25	87 88 95		土師器	脚付腕脚部		△3.1	※9.2		内外面ともにヨコナデ。	密	良好	黄橙色	黄橙色		山本ひ130
遺構外	Po26	87		土師器	脚付腕		△4.4			風化のため調整不明瞭、ナデか。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	橙〜黄橙色	橙〜黄橙色		福田や145
遺構外	Po27	85		土師器	脚付腕脚部		△3.5	※7.4		外面風化のため調整不明瞭、ナデか。内面ナデ。	密(砂粒を含む)	良好	橙〜浅黄橙色	橙〜浅黄橙色		野崎175
遺構外	Po28	92		土師器	脚付腕脚部		△3.0	8.3		腕部ナデ。脚部内外面ともナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色		福田や144
遺構外	Po29	51	C1	土師器	脚付腕脚部		△3.1	※7.2		内外面ともナデ。	密	良好	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	内外面赤色塗彩。	福田や141
遺構外	Po30	6	B2	土師器	把手					手握ね整形後ナデ。	密(2〜3mmの砂粒を含む)	良好	黄橙色	黄橙色		野崎181
遺構外	Po31	46	B1	土師器	把手					手握ね整形後ナデ。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好		橙色		野崎184
遺構外	Po32	49	B3	土師器	埴輪片	※43.8	△9.5			外面ナデ、縦方向の粗いハケ目がかすかにみられる。内面ナデ、成型時の指頭圧痕・工具痕あり。	密(1〜3mmの砂粒を含む)	良好	淡黄色	淡黄色		野崎183
遺構外	Po33	10	B2 B3 C4	須恵器	杯蓋		△3.7			外面天井部上左右方向回転ケズリ。以下回転ナデ。口縁部回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	灰〜褐灰色	灰赤色		野子71
遺構外	Po34	20	B1	須恵器	杯蓋	※12.2	△3.05			内外面とも回転ナデ。	密	良好	青灰色	灰〜青灰色		野子70
遺構外	Po35	50	B4	須恵器	杯蓋	※14.8	△3.45			内外面とも回転ナデ。	密(2mm程度の砂粒を含む)	良好	灰色	灰〜青灰色		野子69
遺構外	Po36	53		須恵器	杯蓋	※14.0	△2.85			内外面とも回転ナデ。	密(1〜2mmの砂粒を含む)	良好	青灰色	灰色		野子66
遺構外	Po37	50	B4	須恵器	杯身	※12.6	△2.8			内外面とも回転ナデ。	密	良好	明オリ〜灰色	灰色		野子67
遺構外	Po38	108	A1 B1	須恵器	高杯	※14.2	△3.4			内外面とも回転ナデ。外面口縁部波状文。	密	良好	灰色	灰色		野子74

挿表G1 図第6遺跡出土土器観察表(1)

遺構外	Po39	11	C 2	須恵器	口縁部	※11.0				内外面とも回転ナデ。	密	良好	灰色	暗青灰 ~灰色		厨子72
遺構外	Po40	16	B 3 B 4	須恵器	甕	※17.4	△4.5			内外面とも回転ナデ。	密	良好	灰オリーブ ~青黒	灰オリーブ ~青黒	内外面一 部自然釉 がみられる。	厨子68
遺構外	Po41	10	B 2 B 3 C 4	須恵器	甕					外面平行叩き後ナデ。 内面同心円文叩き。	密 (2mm以下 の砂粒を 含む)	良好	暗青灰 色	灰色		福田や 153
遺構外	Po42	15	A 1 B 1	須恵器	甕					外面平行叩き。 内面同心円文叩き。	密 (2mm以下 の砂粒を 含む)	良好	灰黄色	灰白~ 灰黄色		福田や 154
遺構外	Po43	2	調査区 一括	須恵器	椀		△8.4	※12.4		外面口縁部回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面口縁部回転ナデ。底部ナデ。	密	良好	赤灰~ 灰赤色	黄灰~ 褐灰色		厨子73

挿表62 園第6遺跡出土土器観察表(2)

遺構名	遺物 番号	取上 番号	出土位置	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	形態上の特徴	備考	実測者番号
ピット群1	S1	31	P25	石錘	安山岩	6.8	7.0	1.9	140	扁平ではほぼ円形を呈す。両端を打ち欠く。		野崎180

挿表63 園第6遺跡出土石製品観察表